創立75周年記念

長野県スポーツ協会史

創立75周年記念

長野県スポーツ協会史

公益財団法人 長野県スポーツ協会

目　　次

あいさつ　　公益財団法人長野県スポーツ協会会長（長野県知事）阿部 守一 …… 5
祝　　辞　　長野県議会議長　　宮本 衡司 …… 6
　　長野県教育委員会教育長　原山 隆一 …… 7
発刊の挨拶　公益財団法人長野県スポーツ協会理事長　林　泰章 …… 8
東京五輪出場長野県選手からのメッセージ …… 9
北京冬季五輪出場長野県選手からのメッセージ …… 11

第１章　長野県スポーツ協会の歴史

1　長野県スポーツ協会の沿革（昭和21年～令和３年度） …… 18
2　国民体育大会長野県開催状況 …… 22
3　「財団法人」から「公益財団法人」へ移行 …… 23
4　「長野県体育協会」から「長野県スポーツ協会」への名称変更 …… 25
5　スポーツ団体ガバナンスコードの取組 …… 27
6　長野県スポーツ協会中長期計画の制定 …… 28
7　パートナー企業・団体制度の創設 …… 30
8　オリンピック長野県選手の活躍（メダリスト） …… 31

第２章　長野県スポーツ協会の活動

1　長野県スポーツ協会事業実施状況（決算額） …… 34
2　長野県スポーツ少年団の活動 …… 38
3　スポーツ振興功績者表彰 歴代受賞者（昭和61年度以降） …… 41
4　冬季アスリート発掘・育成事業（SWAN プロジェクト）の歩み …… 70
5　賛助会員加入状況 …… 74
6　第82回国民スポーツ大会について …… 76

第３章　加盟団体の歴史

Ⅰ　競技団体 …… 80
　1　長野県スケート連盟 …… 80
　2　長野県アイスホッケー連盟 …… 81
　3　公益財団法人　長野県スキー連盟 …… 83
　4　一般社団法人　長野県水泳連盟 …… 85
　5　長野県ボート協会 …… 86
　6　長野県セーリング連盟 …… 88
　7　長野県カヌー協会 …… 88
　8　一般財団法人　長野陸上競技協会 …… 90

9　一般社団法人　長野県サッカー協会 …… 92
10　長野県テニス協会 …… 94
11　長野県ホッケー協会 …… 95
12　長野県ボクシング連盟 …… 96
13　一般財団法人　長野県バレーボール協会 …… 97
14　長野県体操協会 …… 100
15　一般社団法人　長野県バスケットボール協会 …… 101
16　長野県レスリング協会 …… 102
17　長野県ウエイトリフティング協会 …… 104
18　長野県ハンドボール協会 …… 105
19　長野県自転車競技連盟 …… 107
20　長野県ソフトテニス連盟 …… 108
21　長野県卓球連盟 …… 110
22　長野県軟式野球連盟 …… 112
23　長野県相撲連盟 …… 115
24　長野県馬術連盟 …… 116
25　長野県フェンシング協会 …… 118
26　長野県柔道連盟 …… 120
27　長野県ソフトボール協会 …… 122
28　長野県バドミントン協会 …… 124
29　長野県弓道連盟 …… 126
30　長野県ライフル射撃協会 …… 127
31　一般財団法人　長野県剣道連盟 …… 128
32　一般社団法人　長野県ラグビーフットボール協会 …… 130
33　長野県山岳協会 …… 131
34　長野県アーチェリー協会 …… 133
35　長野県銃剣道連盟 …… 134
36　特定非営利活動法人　長野県クレー射撃協会 …… 136
37　長野県なぎなた連盟 …… 137
38　長野県空手道連盟 …… 139
39　長野県ボウリング連盟 …… 140
40　長野県少林寺拳法連盟 …… 142
41　長野県綱引連盟 …… 144
42　長野県バイアスロン連盟 …… 145
43　長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟 …… 146
44　長野県ゲートボール連盟 …… 147
45　長野県カーリング協会 …… 148

46　長野県バウンドテニス協会 …… 150
47　特定非営利活動法人　長野県武術太極拳連盟 …… 152
48　長野県トライアスロン協会 …… 153
49　JABA 長野県野球連盟 …… 155
50　長野県マレットゴルフ連盟 …… 156
51　長野県ゴルフ協会 …… 157
52　長野県合気道連盟 …… 159
53　長野県ダンススポーツ連盟 …… 161
54　長野県エアロビック連盟 …… 163
55　長野県スポーツチャンバラ協会 …… 164
56　長野県グラウンド・ゴルフ協会 …… 166
Ⅱ　学校体育団体
57　長野県中学校体育連盟 …… 167
58　長野県高等学校体育連盟 …… 169
59　一般財団法人 長野県高等学校野球連盟 …… 171
Ⅲ　郡市体育団体
60　南佐久郡体育協会 …… 172
61　北佐久郡スポーツ協会 …… 173
62　小県郡体育協会 …… 174
63　諏訪郡スポーツ協会 …… 175
64　上伊那郡体育協会 …… 176
65　下伊那郡体育協会 …… 177
66　木曽郡体育協会 …… 179
67　北安曇郡スポーツ協会 …… 180
68　坂城町体育協会 …… 182
69　上高井郡体育協会 …… 183
70　下高井郡スポーツ協会 …… 185
71　上水内郡スポーツ協会 …… 187
72　公益財団法人　長野市スポーツ協会 …… 188
73　一般財団法人　松本市スポーツ協会 …… 190
74　一般財団法人　上田市体育協会 …… 191
75　公益財団法人　岡谷市スポーツ協会 …… 194
76　公益財団法人　飯田市スポーツ協会 …… 196
77　諏訪市スポーツ協会 …… 197
78　一般社団法人　須坂市スポーツ協会 …… 199
79　一般財団法人　小諸市体育協会 …… 201
80　伊那市スポーツ協会 …… 202

81　駒ヶ根市スポーツ協会 …… 204
82　中野市体育協会 …… 205
83　大町市体育協会 …… 207
84　飯水スポーツ協会 …… 208
85　特定非営利活動法人　茅野市スポーツ協会 …… 210
86　特定非営利活動法人　塩尻市体育協会 …… 213
87　特定非営利活動法人　佐久市体育協会 …… 215
88　特定非営利活動法人　千曲市スポーツ協会 …… 216
89　特定非営利活動法人　東御市スポーツ協会 …… 218
90　特定非営利活動法人　安曇野市スポーツ協会 …… 220

第４章　国民体育大会の記録

1　国民体育大会参加の歩み（総合成績一覧） …… 224
2　国民体育大会入賞者一覧 …… 226
3　北信越国民体育大会の成績 …… 354

第５章　資　　料

1　長野県スポーツ協会歴代役員一覧 …… 356
2　公益財団法人長野県スポーツ協会定款 …… 363
3　公益財団法人長野県スポーツ協会倫理規程 …… 369
4　加盟団体及び会員に関する規程 …… 370
5　長野県スポーツ協会中長期計画 …… 373

編集後記

あいさつ

公益財団法人長野県スポーツ協会
会　長　　**阿　部　守　一**
（長野県知事）

このたび、公益財団法人長野県スポーツ協会が創立75周年を迎えるにあたり、これまでの本会の歩みをまとめ記念誌として発刊することといたしました。本会としては前身の長野県体育協会創立40周年にあわせて制作した「長野県体育協会史」以来の編纂となりますが、本会の歴史や国民体育大会をはじめとする数々の輝かしい偉業を記録にとどめることは、これらを長く後世に伝えるとともに、更なる本会の発展と本県スポーツの振興に資する意義深い取組であります。

さて、本会は1946年（昭和21年）の創立以来、県民の体力向上並びにスポーツの普及発展に努めてまいりました。現在、本会の加盟団体は90を数えるに至り、それぞれの立場で本県スポーツの振興にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

本県では、1978年（昭和53年）に「やまびこ国体」「やまびこ大会」が、1998年（平成10年）には「長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会」が開催され、本県におけるスポーツへの関心・理解を飛躍的に高める契機となりました。

両大会から50年後、30年後の節目となる2028年（令和10年）には、「信州やまなみ国スポ・全障スポ」（第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会）の開催が内定しています。愛称の「信州やまなみ国スポ･全障スポ」､スローガンの「行こう。それぞれの頂 (いただき) へ。」には、大会に関わる全ての人が信州の山々のようにつらなり、手を取り合いながら、自分の想い描くゴールを目指し、未来へとつながる大会にしたいとの思いが込められています。今後、関係団体の皆様と連携・協力し、天皇杯・皇后杯獲得という目標実現に向けた選手強化に取り組むとともに、大会を契機としてスポーツ振興への気運がより一層高まるよう取り組んでまいります。

現在､本県ではより多くの県民の皆様が気軽にスポーツに親しめる環境整備を進めるとともに、障がいの有無にかかわらずスポーツを通じて交流できる場の確保など、県民の皆様の関心や適性に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造を目指しています。皆様には、引き続き、本県の目指す「スポーツによる元気な長野県づくり」にご協力いただきますようお願いいたします。

結びに、本誌の編纂にあたりご協力いただきました関係各位に、深い感謝の意を表しますとともに、先人の足跡を後世に伝えるために集約した本誌が、本県スポーツの振興と普及の一助となりますことを祈念し、あいさつといたします。

祝　　辞

長野県議会議長　　**宮　本　衡　司**

公益財団法人長野県スポーツ協会が記念すべき創立75周年を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。

貴協会におかれましては、昭和21年の創立以来、本県スポーツの振興や競技力の向上等を通じて、県民の活力と健康づくりの増進に多大な御貢献をいただいております。幾多の困難を乗り越え、ここに75年の節目を迎えられましたことは、誠に喜ばしい限りであり、今日までの確固たる礎を築いて来られた歴代会長をはじめ、関係各位の皆様方のこれまでの御尽力に対し、深甚なる敬意と感謝を表する次第でございます。

さて、令和３年度は、東京2020オリンピック・パラリンピックや2022北京オリンピック・パラリンピックが相次いで開催され、本県ゆかりの選手たちの活躍は県民に勇気と感動を与えてくれました。そして現在も本県ゆかりの競技者は各分野で活躍され、また令和10年には、第82回国民スポーツ大会･第27回全国障害者スポーツ大会の長野県開催が予定されるなど､今後も本県スポーツを取り巻く環境は、益々盛り上がっていくことが期待されます。

一方で、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大は、「３密の回避」や「新しい生活様式」の導入など、私たちを取り巻く生活環境を一変させるとともに、様々な活動の自粛が余儀なくされるなど、深刻な影響を及ぼしております。

御承知のとおり、スポーツは、心身の健康の保持増進や体力向上はもとより、豊かな人間性を育む上で大きな役割を果たしております。また、本県出身選手の活躍する姿は、地域の一体感や活力の醸成、明るい未来の創造・発展にもつながっております。

コロナ禍のこのような時期であるからこそ、どうか皆様におかれましては、スポーツの素晴らしさを広げるとともに、これまで培ってこられた豊富な知識と経験を生かしながら、本県スポーツの一層の振興のため、今後ともお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

県議会といたしましても、県民の皆様が健康で明るく活力に満ちた生活を送れるよう、引き続きスポーツの振興に取り組んで参る所存でございますので、御支援・御協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、長野県スポーツ協会の今後益々の御発展、並びに御関係の皆様の御健勝・御活躍を心より祈念申し上げまして、お祝いの言葉といたします。

祝　　辞

長野県教育委員会
教育長　　**原　山　隆　一**

このたび、公益財団法人長野県スポーツ協会が、創立75周年の記念誌を刊行される運びとなりましたことに、心からお喜び申し上げます。

貴協会は、1946年（昭和21年）の創立以来、75年の長きにわたり、本県スポーツの普及・振興の先頭に立ってご尽力いただいており、ここに改めて深い敬意と感謝の意を申し上げます。

2020年（令和２年）から世界的な猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症は、多くの人々の暮らしに様々な影響を与えました。スポーツ界も例外ではなく、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が１年延期となったほか、国民体育大会は、２年連続で開催できない事態となっています。一日も早い収束と、誰もが安心してスポーツを楽しむことができる日常が戻ってくることを強く願っております。

さて、本県では、1978年（昭和53年）のやまびこ国体・やまびこ大会及び1998年（平成10年）の長野冬季オリンピック・パラリンピックでの有形無形の財産を活かし、次世代への継承を推進しながら、2028年（令和10年）には、２巡目となる国民スポーツ大会を迎えようとしています。

この間、スポーツを取り巻く情勢も変化を続け、スポーツの果たす役割や意義が重要さを増してきています。県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加し、ライフスタイルに応じたスポーツ活動は、生活に潤いを与え、県民の健康づくりを促進しています。

こうした中、長野冬季オリンピックを契機に開始した、長野県冬季アスリート発掘・育成事業（ＳＷＡＮプロジェクト）の修了生の中から、2022年北京冬季オリンピックに初めて３名の選手が出場を果たしました。３選手の努力を讃えるとともに、ＳＷＡＮプロジェクト初のオリンピアン誕生を契機に、目標であるメダリストの育成を目指し、更に取組みを進めてまいります。

「信州やまなみ国スポ・全障スポ」（第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会）においては、貴協会加盟の競技団体をはじめ関係団体の皆様と緊密に連携しながら、計画的な選手強化策を着実に推進してまいります。そして、この両大会を契機に、目標である天皇杯・皇后杯の獲得と大会終了後も持続可能な本県の競技スポーツの振興を目指し、本県にスポーツ文化がしっかりと定着するように繋げたいと考えております。

結びに、公益財団法人長野県スポーツ協会におかれましては、本県が目指す「スポーツによる元気な長野県づくり」に、今後ともご支援とご協力を賜りますとともに、貴協会の益々のご発展を祈念いたしまして、創立75周年のお祝いのことばといたします。

発刊のあいさつ

公益財団法人長野県スポーツ協会
理事長　**林　　泰　章**

公益財団法人長野県スポーツ協会が創立75周年を迎え、『長野県スポーツ協会創立75周記念誌』を発刊できますことは、誠に喜ばしい限りであります。

本会は、昭和21年９月に創立以来、県民の体力の向上とスポーツの振興に寄与することを目的として、加盟する競技団体、郡市体育・スポーツ協会と協力して、国民体育大会参加支援、生涯スポーツの普及などの事業等を通じ、県内スポーツの向上・推進に取り組んでまいりました。

この間、本会は、長野県をはじめ、加盟団体、市町村、経済団体等関係団体の皆様からご支援、ご協力を賜り、今日まで発展するに至ることができました。深く感謝を申し上げます。

平成18年度には、賛助会員制度を導入いたしまして、これまで多くの法人・団体、個人の皆様から本会のスポーツ推進事業にご支援をいただいております。ご寄附いただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

本会は、国の公益法人制度改革に伴い、平成24年４月には、公益財団法人に移行し、県民の体力向上とスポーツ振興に関する公益目的事業を行う公益法人として、新たなスタートを切りました。

また、「スポーツ」ということばが、社会に広く浸透してきたことから、平成30年４月に、本会の名称を「公益財団法人長野県体育協会」から「公益財団法人長野県スポーツ協会」に変更し、本会は、名実ともにスポーツ振興事業を行う公益財団法人となりました。

本会は、令和２年度から導入したスポーツ団体ガバナンスコードの取組の一環とし、今年度、令和４年度から５年間を計画期間とする中長期計画を策定し、目指すべき基本方針、「10年後の目指す姿」、「今後５年間に取り組むべき施策」を定めました。

この中長期計画では、令和10年に本県で開催される第82回国民スポーツ大会において、天皇杯、皇后杯を獲得するために、長野県と連携して、国民スポーツ大会参加支援、競技力向上事業に取り組むこととしております。

本会としましては、これまでの75年の礎に、本県スポーツの総括団体として、スポーツの社会的役割の重要性を認識し、加盟団体の皆様と協力して、本県のスポーツ振興に取り組んでまいりたいと存じます。関係の皆様の一層のご理解、ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

終わりに、永年にわたり本会及び本県スポーツの発展に多大のご理解、ご支援をいただいた多くの方々をはじめ、本誌編纂にあたり、ご協力をいただきました加盟団体の皆様に深く感謝を申し上げるとともに、本誌が本県スポーツ振興に資することを祈念申し上げ、発刊のごあいさつとさせていただきます。

東京五輪出場長野県選手からのメッセージ

長野県スポーツ協会では、2020東京オリンピックに出場する長野県出身選手の皆様に激励金を贈呈いたしました。本会創立75周年記念誌に寄せて、長野県出身の出場選手の皆さんからメッセージをいただきました。

萩谷　楓（はぎたに　かえで）㈱エディオン　◆陸上　女子5000m

長野県スポーツ協会創立75周年、おめでとうございます。長年にわたる県内スポーツ発展へのご尽力に心から感謝申し上げます。

今年は、東京2020オリンピックに出場させていただき、私自身学びの多い１年でした。初めての国際大会ということで、不安、緊張もありましたが、地元の方々の応援の力で自己ベストを更新することができました。

2028年には、長野県で国民スポーツ大会が開催されるので地元に恩返しができるよう、頑張ります。

デーデー・ブルーノ　東海大学　◆陸上　男子４×100mリレー

創立75周年おめでとうございます。今回はリザーバーでしたが、現地でしか体験できないことや海外選手の実態に接し、自分に不足している点や今後の指標を明確にできました。何より、出場できた場合の結果を現実的に想像できる様になりました。2022年は世界陸上やアジア選手権出場、リレーでも未到の金メダルを目標にし、そして最大目標である３年後のパリ五輪では100m決勝進出、記録は９秒７～８を達成できるよう精一杯努力する所存です。

佐藤　英賢（さとう　えいけん）　ポールショッケメーレ厩舎

◆馬術　障害馬術

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

僕が初めて国体の少年の部で優勝して、県に報告に行った時、知事さん（田中康夫さん)、そして当時の体育協会の皆さん方に祝福していただいたことをよく覚えています。

個人戦は、決勝まで進むことはできましたが、決勝の走行がよくなかったことは課題だと思っています。団体戦はチームのメンバーの馬が故障してしまい、結局棄権することになりましたが、団体戦だからこそこういうことも起こりうるということで前向きに考えています。

今回は、チームのモチベーションを上げることや、監督、コーチとのコミュニケーションをしっかりとるという意味では役に立てたのかなと思います。確かに結果は残念でしたが、今後につながる内容だったと思います。メンタルの強化やフィジカルについてもしっかりトレーニングをして選手として活動を続けていきます。2028年には「長野国スポ」が開催されますが、これまでの僕の経験を是非お役に立てたいと思っています。

西藤　俊哉（さいとう　としや）　セプテーニホールディングス㈱

◆フェンシング　男子フルーレ（個人・団体）

県スポーツ協会創立75周年本当におめでとうございます。今回東京オリンピックの代表として初めて出場できたことは本当に嬉しかったです。結果はとても悔しいものとなりましたが、オリンピックという舞台に立たなければ感じることのできない経験だったと思います。

今回の悔しさを、次に繋げて、今回の悔しさがあって良かったと思えるような未来に変えて行きたいです。３年後のパリオリンピックで金メダルを獲得できる様日々精進していきます。

奥原　希望（おくはら　のぞみ）　太陽ホールディングス㈱

◆バドミントン　女子シングルス

長野県スポーツ協会創立75周年、誠におめでとうございます。今までのご功績に敬意を表すとともに、心からお喜びを申し上げます。

今年は東京2020オリンピックがあり、改めてスポーツの素晴らしさを感じることが出来たきっかけになったのではないでしょうか。私は結果として皆様に報告することはできませんでしたが、前回よりも自信を持ってコートに立ちプレーすることができました。

沢山の人に支えられながら、そのエネルギーを今後もパフォーマンスとして皆様にお届けできるように、パリに向けて精進していきたいと思っています。

矢澤　亜季（やざわ　あき）　昭和飛行機都市開発㈱

◆カヌー　スラローム　女子カヤック

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

小さい頃から長野県の皆さんに応援して頂きありがとうございます。また、2020年東京オリンピックの際も沢山の方々から声援を頂きとっても嬉しかったです。

東京オリンピックでは思うような結果が残せず悔しいですが、次の目標に向けて頑張っております。

これからも長野県の皆さんに応援して頂き良い結果報告が出来る様に頑張りますので、今後も応援よろしくお願い致します。

北京冬季五輪出場長野県選手からのメッセージ

長野県スポーツ協会から北京オリンピックに出場する長野県選手の皆様に激励金を贈呈いたしました。本会創立75周年記念誌に寄せて、長野県関係の出場選手の皆さんからメッセージをいただきました。

小平　奈緒（こだいら　なお）　社会医療法人財団慈泉会相澤病院

◆スピードスケート

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

北京オリンピックでは、成し遂げることはできずとも、自分なりにやり遂げることはできたと思っています。

この４年間、どこまで行けるんだろうと信じてくださった方々や、立ち止まりそうになるたびに温かい言葉をかけてくださった皆さんに何度も救われてきました。

この舞台のスタートラインに着くことができるように支えてくださった皆さん、ゴールまで一緒に歩みを進めてくださった皆さん、ありがとうございます。

この経験を成長に変えられるよう、次へ進みたいと思います。

髙木　菜那（たかぎ　なな）　日本電産サンキョー㈱　◆スピードスケート

75周年を迎えられた長野県スポーツ協会関係者の皆様、誠におめでとうございます。

北京オリンピックでは連覇を狙ったチームパシュート、マススタートで転倒してしまいすごく辛かったのですが、たくさんの方から応援、励ましのメッセージを頂きました。

その皆さんの声が私を支えてくれました。悔しい銀メダルになってしまいましたがチームメイトや支えてくださった方の大切さをすごく感じられる五輪になりました。

皆様に心から感謝したいと思います。本当にありがとうございました。

小島　良太（こじま　りょうた）㈱エムウェーブ　◆スピードスケート

この度は、長野県スポーツ協会創立75周年を迎えられたこと、心よりお祝い申し上げます。

この冬に開催されました北京五輪、これまでの挑戦を支援、応援していただき誠にありがとうございました。本番では、自分の思うようなパフォーマンスができず、悔しい想いをしましたが、世界のトップ選手のスケーティング技術や、競技力の高さを改めて痛感し、一段の自己研鑽を積む覚悟を持ちました。４年後に向け精進しますので、今後とも応援よろしくお願い致します。

菊池　悠希（きくち　ゆうき）　全日本空輸㈱　　◆ショートトラック

北京でのメダル獲得を目指して努力したこの４年間、確かに積み上げてきた自信がゼロになり、絶望感を味わいました。それでも、遠くから私の挑戦を見守ってくださる方々、私以上に私を信じて直前までサポートしてくれたみなさんのおかげで、「ここで私が折れるわけにいかない」と、最後まで奮闘することができました。人々に活力を与え、自身を成長させてくれたスポーツの力に感謝します。益々の長野県スポーツ協会の更なるご発展をお祈り申し上げます。

菊池　純礼（きくち　すみれ）　富士急行㈱　　◆ショートトラック

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

2022北京オリンピックではスポーツ協会をはじめとする多くの長野県の皆様のご支援、ご声援いただき本当にありがとうございました。

500m では日本記録樹立、また1500m では８位入賞を果たしました。リレー種目でのメダル獲得は叶いませんでしたが自身の力を発揮することができました。

今後もスケートの魅力やスポーツの力を皆さんに届けられるよう精進してまいります。

神長　汐音（かみなが　しおね）全日空商事㈱　　◆ショートトラック

この度は、北京オリンピックの応援ありがとうございました。私はメダルを獲得することは出来ませんでした。しかしながら、オリンピックを通して他競技から勇気と感動をもらい、スポーツの力を改めて実感しました。県スポーツ協会創立75周年ということでこれからも微力ながら長野県のスポーツを盛り上げるため尽力したいと思います。

４年後のミラノ大会では必ずメダルを獲得し、さらなるスポーツの発展に貢献できたらと思います。

菊池　耕太（きくち　こうた）社会医療法人恵仁会　　◆ショートトラック

この度は、創立75周年おめでとうございます。

私が今日まで長野県でスポーツを続けてこられたのもスポーツ協会あっての事だと思います。

北京オリンピックでは個人、リレー共に成績が出せず世界の厳しさを見せつけられました。

今後も競技を続け４年後のミラノ・コルティナ五輪に向けて練習に励みます。

小池　克典（こいけ　かつのり）全日空商事㈱　　◆ショートトラック

創立75周年おめでとうございます。これからもスポーツの競技力向上やスポーツ振興事業、スポーツ振興功労者表彰等、長野県スポーツ発展のためにお力添えいただきますようお願いいたします。

今回のオリンピックは初出場だったため「挑戦」をテーマに掲げて挑みました。結果は男子5000mリレーで８位入賞でした。メダルを目標に４年間トレーニングを行ってきたので満足のいく結果とはなりませんでしたが、４年後に向けて

は収穫のあった大会だったと思います。今回悔しかった経験を忘れず、これからもトレーニングに励んでいこうと思います。

SAJ 令和４承認第00346号

渡部　暁斗（わたべ　あきと）　北野建設㈱スキークラブ

◆スキー・ノルディック複合

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。各競技における県勢の活躍も関係各位のご尽力の賜物と思います。

私自身も北京オリンピックにて２つの銅メダルを獲得することができました。掲げた目標には届きませんでしたが、競技の面白さは十分に日本の皆様にご覧頂けたと思っております。

長野県の皆様より頂く特別大きなご声援には、日頃より大変感謝しております。今後の長野県のスポーツ文化の益々の発展をご祈念申し上げます。

SAJ 令和４承認第00347号

渡部　善斗（わたべ　よしと）　北野建設㈱スキークラブ

◆スキー・ノルディック複合

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。スポーツ振興の歴史の深い長野県を拠点に競技活動ができていることを、誇りに思います。

先日行われた北京オリンピックでは、団体戦で銅メダルを獲得することができました。日々背中を押し、支え続けてくださった皆様に心から感謝しております。今後も競技者としてさらに向上していけるよう、立ち止まることなく精進してまいります。

SAJ 令和４承認第00348号

岩渕　香里（いわぶち　かおり）北野建設㈱スキークラブ

◆スキー・ジャンプ

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。私が競技中心の人生を送ることができているのは、スポーツ協会様あっての事だと思います。夢に向かって突き進む事ができる環境に感謝しております。

北京オリンピックでは改めて応援の力を感じる事ができました。オリンピックという大舞台で表彰台に上ることは叶いませんでしたが、残りのW杯でも最後までチャレンジしたいと思います。

SAJ 令和４承認第00349号

山本　涼太（やまもと　りょうた）　長野日野自動車㈱スキークラブ

◆スキー・ノルディック複合

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

北京オリンピック成績：団体　銅メダル

個人　ＬＨ：12位、ＮＨ：14位

北京オリンピック団体戦で銅メダル獲得の一員として戦うことで、多くの支えがあって私は自分の目標を追いかけられている事を実感しました。

私の目標はオリンピック金メダル獲得です。

今後も目標に向かって競技人生を楽しみたいと思います。

SAJ 令和４承認第00350号

馬場　直人（ばば　なおと）　中野土建㈱スキークラブ

◆クロスカントリースキー

県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

伝統ある長野県スポーツ協会の記念誌に載せていただきありがとうございます。

北京オリンピックでは目標とする入賞には到底及びませんでしたが、初めてのオリンピックはとても楽しく、そして夢のような時間でした。

この北京オリンピックでの経験を活かし、更に競技力向上を目指し、次のオリンピックの舞台では最高の笑顔で終われるように４年間頑張りたいと思います。

これからも応援よろしくお願いします！

SAJ 令和４承認第00351号

小林　千佳（こばやし　ちか）長野日野自動車㈱スキークラブ

◆クロスカントリースキー

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

歴史ある長野県の一員としてスキー競技ができていること誇りに思います。北京オリンピックでは長野の方々のたくさんの温かい応援が励みになりました。結果としては、まだまだ世界に通用しているとは言えませんが、大きな舞台に挑戦できたからこそ得たものがたくさんありました。

これからも世界での活躍を目指し、日々努力していきます。

SAJ 令和４承認第00352号

杉本　幸祐（すぎもと　こうすけ）㈱デイリーはやしや

◆フリースタイルスキー　モーグル

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

この度北京オリンピックへ向け、多大なる応援と心強いサポート本当にありがとうございました。

お陰様で本番も最後まで諦めず攻め切ることができました。

北京オリンピックで一区切りする予定で進めてきましたが、次の2026年のイタリア・ミラノまでもう一度挑戦したいという気持ちになりました。

これからの４年でモーグルもとても変化していき、４年後自分がどの位置にいるかわかりませんが感謝の気持ちを忘れず精一杯やれることを頑張っていきたいと思っています。引き続きどうぞ応援よろしくお願いします。

この度は、ありがとうございました。

SAJ 令和４承認第00353号

原　大智（はら　だいち）　日本スキー場開発㈱スキークラブ

◆フリースタイルスキー・モーグル

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

長野県スポーツ協会様からの激励金大変嬉しく思います。ありがとうございます。

北京オリンピックでは７位入賞と２大会連続メダル獲得にはなりませんでしたが、自分らしく滑り楽しくやれたと思っています。そして、プロ競輪選手として異種競技のモーグルでオリンピックに出場できたことは光栄であり誇りに思っております。

モーグルは、北京オリンピックにて引退をします。

次は競輪選手として更なる高みにいけるよう頑張ります。

SAJ 令和４承認第00354号

近藤　心音（こんどう　ここね）　オリエンタルバイオ㈱

◆フリースタイルスキー・スロープスタイル・ビッグエア

長野県スポーツ協会創立75周年おめでとうございます。

今回初出場だった北京オリンピックは、トレーニング中の転倒による足の怪我で欠場という結果で終わってしまいました。

ここまでサポートと応援をして下さった皆様に私の滑りを見せられず、感謝や感動を届けられなかったこと、悔しくて申し訳ない気持ちでいっぱいです。

ですが、この経験はこれから自分が更に強くなり、大きな目標を達成する為の新たなきっかけだと思いました。諦めず４年後のオリンピックでリベンジ出来るよう頑張っていきたいと思います！応援ありがとうございました。

SAJ 令和４承認第00355号

今井　胡桃（いまい　くるみ）　プリオホールディングス㈱

◆スノーボード　ハーフパイプ

創立75周年おめでとうございます。長年あらゆるスポーツ事業にご尽力されてこられました事感謝申し上げます。

北京オリンピック出場で感じた事はコーチやトレーナーさん、資金面では両親、スポンサーさん沢山の方々の支えがなければ１人では成り立たないと感じました。それと同時に沢山の人々に感動と勇気を与えるものだと感じました。

今後のオリンピックを目指すかは決まっておりませんが、多くの方にスポーツの魅力が伝わりこれからの子供たちが頑張って行けるようスポーツの普及に取り組んで参りたいと思います。

長野県スポーツ協会様が80年、100年と続きます事、益々のご発展をご祈念申し上げます。

小林　誠也（こばやし　せいや）　信州スポーツ医療福祉専門学校２年

◆リュージュ　男子一人乗り

創立75周年おめでとうございます。県内でますますスポーツが行われ、多くの方に親しんでほしいと願っております。

初出場の北京オリンピックでは、32位で競技を終えました。

スタート前にすごく緊張して、大きな失敗をしてしまいました。悔いの残るレースになりましたが、次のオリンピックに向けて、とても良い経験になりました。

私は、今シーズンからシニアデビューし、ワールドカップを転戦していましたが、世界の壁を痛感しました。まずは、今年のオフシーズンでスタートタイムを上げ、体重も増やし、今シーズン出場することができなかったワールドカップの本戦に出場したいと考えています。また、リュージュは、まだまだ競技人口が少なく、多くの人に知られていない競技なので、自分が競技を続けることでより多くの方に知ってもらい、リュージュを始める方が増えてくれることを願っています。

第1章

長野県スポーツ協会の歴史

1 ｜ スポーツ協会の沿革（昭和21年度～令和３年度）

2 ｜ 国民体育大会長野県開催状況

3 ｜ 公益財団法人へ移行

4 ｜ スポーツ協会へ名称変更

5 ｜ スポーツ団体ガバナンスコードの取組

6 ｜ 中長期計画の制定

7 ｜ パートナー企業・団体制度の創設

8 ｜ オリンピック長野県選手の活躍（メダリスト）

1　長野県スポーツ協会の沿革(昭和21年～令和３年度)

西暦 (年号)	概　　要	会長
1946年 (昭和21年)	長野県体育協会加盟団体15団体により発足（S21.9.1設立）	物部薫郎 （知事）
1947年 (昭和22年)		林　虎雄 （知事）
1948年 (昭和23年)	第３回国体冬季大会スキー競技会開催（野沢温泉村）	
1949年 (昭和24年)	第４回国体冬季大会スケート競技会開催（諏訪市）	
1950年 (昭和25年)		片桐知従 （県議会議長）
1951年 (昭和26年)		
1952年 (昭和27年)	第１回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（茅野市）	
1953年 (昭和28年)		
1954年 (昭和29年)	第９回国体冬季大会スキー競技会開催（野沢温泉村）	
1955年 (昭和30年)	第４回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（本郷村） 第10回国体冬季大会スケート競技会開催（諏訪市）	
1956年 (昭和31年)		風間和夫 （県議･県陸協会長）
1957年 (昭和32年)		
1958年 (昭和33年)	文部省体育デー昭和34年から実施を決定（５月第３日曜日） 長野県体育協会編《長野県体育史》発刊	
1959年 (昭和34年)		
1960年 (昭和35年)	第15回国体冬季大会スケート・スキー競技会開催（本郷村・山ノ内町） 第９回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（茅野市）	
1961年 (昭和36年)	第10回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（軽井沢町） 第16回国体冬季大会スケート競技会開催（軽井沢町）	
1962年 (昭和37年)		
1963年 (昭和38年)	第26回国体招致にのりだす	
1964年 (昭和39年)	スポーツ少年団発足（54団、1,800人）	
1965年 (昭和40年)	第14回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（茅野市） 第20回国体冬季大会スケート競技会開催（茅野市） 第26回国体招致を決議	
1966年 (昭和41年)	第１回「体育の日」実施	
1967年 (昭和42年)	第26回国体招致成らず（和歌山県に決定）	
1968年 (昭和43年)	財団法人化に向けて募金活動開始 第23回国体冬季大会スキー競技会開催（白馬村）	
1969年 (昭和44年)		西澤権一郎 （知事）

西暦 （年号）	概　　要	会長
1970年 （昭和45年）	法人化の設立を申請 第19回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（本郷村） 第25回国体冬季大会スケート競技会開催（本郷村）	西澤権一郎 （知事）
1971年 （昭和46年）	「財団法人長野県体育協会」発足 「第33回国体の招致並びに県民体育振興に関する決議」を県議会で可決	
1972年 （昭和47年）		
1973年 （昭和48年）	専門委員会（総務・体力向上・競技力向上）を設置 第１回県民運動競技会が松本市で開催	
1974年 （昭和49年）	日体協による日独スポーツ少年団同時交流始まる 本県から３名参加、ドイツから16名受入れる	
1975年 （昭和50年）	第33回国体の長野開催を日体協決定	
1976年 （昭和51年）	県スポーツ会館の建設を決議 全国高等学校総合体育大会開催	
1977年 （昭和52年）	県スポーツ会館の建設着工	
1978年 （昭和53年）	県スポーツ会館竣工 第33回国体「やまびこ国体」開催　天皇杯・皇后杯獲得	
1979年 （昭和54年）	第28回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（軽井沢町） スポーツ振興基金専門委員会を設置 スポーツ振興基金（目標額５億円、期間５年間）を設置	
1980年 （昭和55年）	第１回北信越国体が富山県で開催	吉村午良 （知事）
1981年 （昭和56年）	第２回北信越国体を初めて長野県で開催	
1982年 （昭和57年）		
1983年 （昭和58年）		
1984年 （昭和59年）	スポーツ科学専門委員会を設置	
1985年 （昭和60年）	冬季オリンピック招致を決議 オリンピック冬季競技大会招致準備委員会を設立 オリンピック招致推進本部設置	
1986年 （昭和61年）	第７回北信越国体開催	
1987年 （昭和62年）	オリンピック冬季競技大会の開催都市・競技会場を招致準備委員会で決定（長野市・山ノ内町・白馬村） 第42回国体冬季大会スケート・アイスホッケー・スキー競技会開催（軽井沢町・白馬村）	
1988年 （昭和63年）	県体育協会創立40周年記念事業実施　協会史発刊 第18回オリンピック冬季競技大会国内候補都市に「長野」が決定	
1989年 （平成元年）	第38回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（軽井沢町）	
1990年 （平成２年）	第18回オリンピック冬季競技大会開催立候補	
1991年 （平成３年）	第18回オリンピック冬季競技大会「長野」開催決定 第12回北信越国体開催 第46回国体冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催（軽井沢町） オリンピック特別専門委員会を設ける	
1992年 （平成４年）		
1993年 （平成５年）		

西暦 （年号）	概　　要	会長
1994年 （平成６年）		吉村午良 （知事）
1995年 （平成７年）		
1996年 （平成８年）	第17回北信越国体開催	
1997年 （平成９年）	オリンピック特別専門委員会を廃止 県体育協会創立50周年記念行事開催 第54回国体冬季大会スケート・アイスホッケー競技会開催を決議	
1998年 （平成10年）	第18回オリンピック冬季競技大会開催	
1999年 （平成11年）	第48回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（長野市・軽井沢町） 第54回国体スケート・アイスホッケー競技会開催（長野市・軽井沢町） 長野マラソン始まる	
2000年 （平成12年）	第21回北信越国体開催	
2001年 （平成13年）	第56回国体冬季大会スキー競技会開催（飯山市）	田中康夫 （知事）
2002年 （平成14年）	スポーツ振興基金専門委員会を廃止	
2003年 （平成15年）	体力向上・スポーツ少年団育成委員会とスポーツ科学委員会を合わせ体力向上･スポーツ科学専門委員会に改める	
2004年 （平成16年）	県外郭団体見直しにより県関与の抜本的見直し 総合型地域スポーツクラブ育成推進事業始まる	
2005年 （平成17年）	第２回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会開催	
2006年 （平成18年）	賛助会員制度創設 第27回北信越国体開催 村井仁長野県知事が会長就任（H18.9.1) 第63回国体冬季大会スケート競技会開催決定 「公益法人制度改革関連３法」公布（H18.6.2)	
2007年 （平成19年）	第63回国体冬季大会アイスホッケー・スキー競技会開催決定 県体育協会60周年記念事業開催	村井　仁 （知事）
2008年 （平成20年）	第63回国体冬季大会「長野かがやき国体」開催　スケート・アイスホッケー（長野市、軽井沢町）スキー（野沢温泉村） 長野県スポーツ振興計画策定（長野県教育委員会） 「ＳＷＡＮプロジェクト」始まる 総務専門委員会に「公益法人制度改革検討部会」設置（H20.9.8）	
2009年 （平成21年）	第58回全国高等学校スキー大会開催（白馬村）	
2010年 （平成22年）	阿部守一長野県知事が会長就任（H22.9.1）	阿部守一 （知事）
2011年 （平成23年）	第60回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（長野市、岡谷市、軽井沢町） 加藤久雄氏が理事長就任（H23.5.16） 第32回北信越国体開催	
2012年 （平成24年）	「公益財団法人長野県体育協会」発足（H24.4.1） 公益財団法人移行祝賀会挙行（H24.4.26） 全国高等学校総合体育大会開催　卓球･サッカー･相撲･弓道（長野市、松本市、大町市、塩尻市、千曲市）	
2013年 （平成25年）	長野県スポーツ推進計画（H25～29年度）策定（長野県教育委員会） 林泰章氏が理事長就任（H25.11.23）	
2014年 （平成26年）	県民スポーツイベント「信州チャレンジスポーツＤＡＹ（第１回)」始まる	
2015年 （平成27年）	日韓青少年冬季スポーツ交流事業（受入）	

西暦 （年号）	概　　要	会長
2016年 （平成28年）	第82回国民体育大会招致を理事会決議 第82回国民体育大会招致要望書を知事へ提出 第37回北信越国民体育大会開催	阿部守一 （知事）
2017年 （平成29年）	第72回国体冬季大会「ながの銀嶺国体」開催　スケート・アイスホッケー（長野市、岡谷市、軽井沢町）スキー（白馬村） 第82回国民体育大会開催要望書を文部科学大臣へ提出 第82回国民体育大会開催内々定（日本体育協会） 第82回国民体育大会長野県準備委員会設立総会開催	
2018年 （平成30年）	第２次長野県スポーツ推進計画（H30～令和４年度）策定（長野県教育委員会） 第82回国民体育大会に向けた「長野県競技力向上対策本部」設立	
2019年 （令和元年）	「公益財団法人長野県スポーツ協会」に名称変更 名称プレートの除幕式挙行 全国スポーツ少年団剣道交流大会が新型コロナウイルス感染拡大により中止	
2020年 （令和２年）	県立武道館開館 スポーツ団体ガバナンスコードに関する取組始まる 国民体育大会における長野県代表選手の選考に関する指針の決定（理事会） 新型コロナウイルス感染防止対策を行う加盟競技団体を支援するため「競技団体公益的機能維持支援金」交付	
2021年 （令和３年）	長野県スポーツ協会新型コロナウイルス感染症対策室設置 第70回全国高等学校スケート・アイスホッケー大会開催（長野市・岡谷市・軽井沢町） 第70回全国高等学校スキー大会開催（飯山市） 事務局組織改正　課制の導入（総務課、競技課）R3.4.1 第42回北信越国民体育大会開催 全国高等学校総合体育大会開催　水泳（競泳・飛込・水球）・柔道・テニス・少林寺拳法（長野市、松本市、佐久市） パートナー企業・団体制度創設 創立75周年記念式典が新型コロナウイルス感染拡大のため中止 加盟競技団体ガバナンスコード適合性審査始まる 中長期計画の策定（Ｒ４年度～）	
2022年 （令和４年）	創立75周年記念表彰式挙行（R4.3.24） パートナー企業等協定書調印式（R4.3.24） 創立75周年記念誌を発刊	

2　国民体育大会長野県開催状況

年度	会期	開催大会・会場市町村
昭和23年	3.11 ～ 3.14	第３回国体冬季大会スキー競技会（野沢温泉村）
昭和24年	1.27 ～ 1.30	第４回国体冬季大会スケート競技会（諏訪市）
昭和29年	2.24 ～ 2.28	第９回国体冬季大会スキー競技会（野沢温泉村）
昭和30年	1.27 ～ 1.30	第10回国体冬季大会スケート競技会（諏訪市）
昭和35年	1.21 ～ 1.24 2.19 ～ 2.22	第15回国体冬季大会スケート・スキー競技会（本郷村・山ノ内町）
昭和36年	1.22 ～ 1.25	第16回国体冬季大会スケート競技会（軽井沢町）
昭和40年	1.26 ～ 1.29	第20回国体冬季大会スケート競技会（茅野市）
昭和43年	2.15 ～ 2.18	第23回国体冬季大会スキー競技会（白馬村）
昭和45年	1.24 ～ 1.27	第25回国体冬季大会スケート競技会（本郷村）
昭和53年	1.22 ～ 1.25 2.19 ～ 2.22 9.10 ～ 9.13 10.15～10.20	第33回国民体育大会「やまびこ国体」 冬季大会スケート競技会（松本市・軽井沢町） 冬季大会スキー競技会（野沢温泉村） 夏季大会（長野市・諏訪市・下諏訪町） 秋季大会（31市町村）
昭和62年	1.27 ～ 1.30 2.19 ～ 2.22	第42回国体冬季大会スケート・アイスホッケー・スキー競技会 （軽井沢町・白馬村）
平成３年	1.27 ～ 1.30	第46回国民体育大会冬季大会　スケート・アイスホッケー（軽井沢町）
平成11年	1.27 ～ 1.31	第54回国民体育大会冬季大会　スケート･アイスホッケー（長野市、軽井沢町）
平成13年	2.18 ～ 2.21	第56回国民体育大会冬季大会　スキー（飯山市）
平成20年	1.26～1.30 1.28～2.1 2.19～2.22	第63回国民体育大会冬季大会 スケート（長野市） アイスホッケー（軽井沢町） スキー（野沢温泉村）
平成29年	1.27～1.31 2.14～2.17	第72回国民体育大会冬季大会 スケート・アイスホッケー（長野市、岡谷市、軽井沢町） スキー（白馬村）

3　「財団法人」から「公益財団法人」へ移行

公益法人制度改革に伴い、従来の財団法人は、新制度（一般財団法人又は公益財団法人）に移行することとされたため、本会は、平成24年４月１日「公益財団法人」へ移行しました。

1　公益法人制度改革の概要

平成18年５月「公益法人制度改革関連３法（公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律等）」が成立し、同年12月から施行され、新公益法人制度に移行している。

新制度は、「法人格取得」と「公益認定」の切り離し、準則主義による非営利法人の登記での設立、主務官庁制廃止と民間有識者からなる合議制機関による公益認定、公益認定要件の実定化、既存の公益法人の移行・解散などである。

2　新公益法人制度のポイント

⑴　現行の公益法人の設立に係る許可主義を改め、「法人格の取得」と「公益性の認定」を分離することとし、公益性の有無に関わらず、準則主義（登記）により簡便に設立できる一般的な非営利法人制度を創設すること

⑵　各官庁が裁量により公益法人の設立許可等を行う主務官庁制を抜本的に見直し、民間有識者からなる委員会の意見に基づき、一般的な非営利法人について目的、事業等の公益性を判断する仕組みを創設すること

3　新公益法人への移行

平成20年11月30日までの従前の公益法人は、「特例民法法人」とし、平成20年12月１日の法律施行日から５年以内に、次のいずれかの新制度に移行することとされた。

⑴　「公益社団法人」・「公益財団法人」

新制度上の公益法人への移行認定を申請し、認定を受けた場合は、公益認定を受けた一般社団・財団法人（「公益社団法人」・「公益財団法人」）へ移行（移行の登記が必要）

⑵　「一般社団法人」・「一般財団法人」

通常の一般社団法人・一般財団法人（公益認定を受けない一般社団法人・一般財団法人）への移行認可を申請し、認可を受けた場合は、一般社団法人・一般財団法人へ移行（移行の登記が必要）

4　公益財団法人への移行決議

本会は、公益法人制度改革３法の制定に伴い、本会の公益法人制度改革への対応の方向性を出すため

に、平成20年９月８日、総務専門委員会に「公益法人制度改革検討部会」を設置し、公益法人への移行、公益認定に向けてどのような組織とするかについて、１年半にわたり検討を行った。

平成22年３月23日開催の理事会、評議員会において、当部会の検討結果について報告された。同日開催の理事会、評議員会において「公益財団法人への移行を目指す」ことが決議された。

5　公益財団法人への移行経緯

体育協会の発足　　昭和21年９月１日
財団法人認可　　昭和46年１月９日
公益財団法人への移行　　平成24年４月１日（設立登記）

年度	期日	会　議　等	摘　　要
H20	９月８日	総務専門委員会	総務専門委員会に「公益法人制度検討部会」（７名）設置を決定
	11月 １月	第１回検討部会 第２回検討部会	制度改革の概要、公益認定基準の確認等
H21	５月～２月	第３回～第７回検討部会	新制度上の最初の評議員の選任方法 チェックリストによる項目別検討 定款変更案の論点整理 機関設計等の検討
	１月19日	理事会	最初の評議員の選任方法を決議
	２月５日	事務局	最初の評議員決定方法認可申請　2/8認可
	３月24日	理事会・評議員会	公益財団法人への移行決議
H22	６月８日	理事会・評議員会	寄付行為の変更決議（定数、附則）
	10月15日	第８回検討部会	定款変更の案 諸規程の承認
	１月19日	理事会	・定款変更の案の承認（附則を除く） ・諸規程の承認 ・評議員選定委員会委員の選任 ・評議員選定委員会に理事会が推薦する評議員候補者の決定
	２月23日	評議員選定委員会	最初の評議員の選任
	３月24日	理事会・評議員会	・評議員選定委員会の審議結果報告 ・定款変更の案の一部改正の承認 ・寄付行為の一部改正の承認 ・新理事・監事の承認（評議員会）
H23	５月16日	理事予定者会	・理事互選による理事長、専務理事及び常務理事の決定
	６月８日	理事会・評議員会	・新役員の欠格要件非該当報告 ・新理事互選結果の報告 ・定款変更案の附則（理事長、業務執行理事）の承認 ・会長、副会長及び参与の推挙
	９月１日	公益認定申請	
	３月22日	県知事、公益移行認定	
H24	４月１日	公益財団法人の設立登記	

4　「長野県体育協会」から「長野県スポーツ協会」への名称変更

平成31年２月20日の臨時評議員会において、平成31年４月１日付けで本会の名称を「長野県体育協会」から「長野県スポーツ協会」へ変更することを決定しました。

１　変更の理由

「スポーツ」という言葉が「体育」という概念をも包括した広義の言葉として、広く浸透してきたことから、県民の体力向上とスポーツの振興に寄与することを目的とする本会の名称には、「スポーツ」を使用することがふさわしいため。

２　変更の趣旨

⑴　「体育」及び「スポーツ」ということばの概念・使用方法の変化への対応

「体育」という言葉は、「スポーツ」を含む広義の意味を含むものとして理解・使用されてきたが、1964年の東京オリンピックを契機としてスポーツが社会に広がりを見せ、発展していく中で、「スポーツ」という言葉が多用される時代となった。こうして「スポーツ」の概念が拡大し、「体育」包含して使用される状況が一般的になるとともに、「体育」からは、「学校体育」が想起される場合が多くなっている。

こうした状況を踏まえると、幅広い分野の競技団体や郡市体育協会を加盟団体とし、今後新たな役割を担うことが期待される本会の名称には、「体育」より広義に使われるようなった「スポーツ」を用いることがふさわしいと考えられる。

⑵　定款における目的の記載との整合性を図ること

これまで本会は「体育」を名称に使用してきたが、定款では、本会の目的を「スポーツに関する事業を行い、県民の体力の向上とスポーツの振興に寄与する」としている。

本会は、スポーツ指導者の育成、スポーツ少年団の育成、総合型地域スポーツクラブの育成支援、スポーツを通じた国際交流によりスポーツの振興や競技力の向上を図る事業などを通じて「スポーツ」振興を進めていることからも、名称に「スポーツ」を使用することがふさわしい。

３　「体育」から「スポーツ」へ名称を変更する流れの拡大

平成30年４月に日本体育協会が日本スポーツ協会へ名称を変更したほか、宮城県、新潟県、福井県、滋賀県、香川県、愛媛県の各体育協会も同様に変更し、先行していた群馬県を含め、すでに７県でスポーツ協会を名乗るようになっている。

また、その他の都道府県体育協会も、８団体が2019年４月からスポーツ協会に変更する予定としているほか、17の団体で名称変更について検討を行っている。

なお、長野県教育委員会事務局体育課も、平成17年４月に名称をスポーツ課に変更済の他、本会加盟郡市体育協会においても、４体育協会（長野市・千曲市・軽井沢町・上水内郡）が、スポーツ協会へ名称を変更済である。

さらに「国民体育大会」についても、2023年の第78回大会から、国民スポーツ大会に名称が変更されることが決定している。

（参考）2011年「スポーツ基本法」施行、2015年「スポーツ庁」発足
2020年「体育の日」を「スポーツの日」に変更

4　経緯

⑴　平成29年９月４日の理事会で、公益財団法人日本体育協会が平成30年４月１日から名称変更することを受け、本会の名称を「公益財団法人長野県スポーツ協会」とすることについて検討することとされた。

⑵　平成29年10月18日付けで、加盟91団体あてに変更の可否などについてアンケートを実施（アンケート結果：回答団体の89.2%が変更に賛成（83団体回答（回答率91.2%））

⑶　平成30年１月22日の理事会で、上記アンケート結果及び各県体育協会の状況報告

⑷　平成30年３月26日の理事会で、平成30年度事業計画を審議、平成30年度に名称変更を検討することを決定。

⑸　平成30年６月12日に郡市体協連絡会議を開催し、郡市体協と意見交換を実施。特段の反対意見がなかったことから、県体協として変更に向けた準備を進めることとした。

⑹　平成30年９月４日の理事会において、平成31年４月１日から本会の名称を「長野県スポーツ協会」へ変更することが了承された。

5　その他留意事項

⑴　「体育」を否定するものではない

一般的に「スポーツ」が広く使われる状況になってきたとはいえ、「体育」及び「スポーツ」は、社会的・時代的背景により概念が変化していることに留意する必要がある。

また、スポーツを含む広義の体育があるという捉え方もあれば、法律上の「スポーツの中に体育を含む」という捉え方、あるいは、目に見える実態概念であるスポーツと、教師から生徒への働きかけなどを指す機能、概念である体育とは全くの別物、という様々な捉え方があることにも留意が必要である。

当然のことながら今回の名称変更は、特定の考え方を否定しようとするものではない。

⑵　武道系団体の違和感

本会が実施したアンケートでも武道系の団体の中には、変更に違和感を覚えるところがあった。武道は、武術から発展した日本古来の伝統文化であり、心技体を一体として鍛える人間形成の道であり学校教育にも導入されてきたところではあるが、一方で現代では世界的に普及し、オリンピック競技に採用されている状況もあることから、「スポーツ」ということばに対する違和感は、逓減されていくものと思われる。

⑶　スポーツ基本法改正（H30.6.13）にあたっての留意事項

「今回の法改正後も、「体育」の教育的な意義に変わる点はなく、学校の教科としての「体育」や「体育館」などの名称変更を求めるものではない。」と示されている。

6　「体育」と「スポーツ」の概念の変遷（参考）

⑴　「体育」の概念の変遷

・「体育」は、イギリスの哲学者・社会学者であるHerbert Spencer が唱えた「知育・徳育・体育」の三育思想が明治初期の日本に紹介され、“Physical　education”の概念が導入された際の訳語である「身体教育」等から発祥したとされている。

・当初は、身体の教育という大きな営みを指し示すものであったが、学校における体操科という教科の中で身体運動を手段とした教育と考えられるようになり、体育の方がスポーツよりも大きな概念として捉えられるようになっていった。
・かつて「体育」の概念は、国民の身体形成とそれぞれの人生の目的への適合を目指しつつ、力の充実や融和協調という当時の深刻化する時局が求める精神を涵養し、究極的には人格の感性を目指す教育的営為であったとされる。
・戦後、教科名称として「体育」が採用されて以降、身体活動によって身体や人格の形式を目的とする教育の一領域・機能として考えられるようになった。

⑵ 「スポーツ」の概念の変遷

・語源的には、気晴らしや気分転換を意味する中世英語の“deport”から変化したものと考えられている。
・主に狩猟を意味する時代を経て、18世紀以降競争やプレイ、激しい肉体活動を意味するようになった。
・かつて英米で社会的ステータスが低位に置かれていた時期があり、スポーツという言葉が日本に移入された明治初期にも遊びに関係した意味が付与されていたことにより、スポーツより体育･競技･運動という表現が広く使われた。
・1920～70年代にかけてスポーツという言葉は社会に浸透し広い意味でとらえられるようになった。オリンピック競技種目となった国際スポーツから伝統スポーツやニュースポーツを含み、体操、ウォーキング等も含めて広くこれらをスポーツと考えるようになってきた。

5　スポーツ団体ガバナンスコードの取組

1　ガバナンスコードの制定

スポーツ庁は、スポーツ団体における適正なガバナンスの確保を図ることを目的として、「スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞」（令和元年６月）、「スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞」（令和元年８月）を制定し、各スポーツ団体に対してスポーツ団体ガバナンスコードを遵守した組織運営を行うよう求めた。

なお、一般スポーツ団体向けコードの対象である団体であっても、高いレベルのガバナンスの確保が求められると自ら判断する場合、できる限り積極的に、中央競技団体向けコードへの適合を目指し、その遵守状況について自己説明及び公表を行うことが望ましいとした。

2　ＪＳＰＯ加盟団体規程の改正

日本スポーツ協会（ＪＳＰＯ）は、スポーツ団体ガバナンスコード制定を受けて、令和２年４月、加盟団体規程を改正し、ＪＳＰＯに正加盟する都道府県体育・スポーツ協会に対して、スポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞の遵守状況について年１回の自己説明及び公表を義務付けた。

3　ガバナンスコード適合状況の自己説明及び公表

本会は、ＪＳＰＯ加盟団体規程に基づき、令和２年度からスポーツ団体ガバナンスコード＜中央競技団体向け＞の適合状況について、具体的かつ合理的な自己説明を行い、ホームページで公表することとし、令和３年３月、理事会において適合状況について自己説明を行うとともに、ホームページ上で公表した。

4　倫理規程の改正（令和２年７月１日）

本会の役職員等の関係者に関する基本的責務、遵守事項を規定

⑴　役職員等は、暴力、ハラスメント等の違法行為、不適切な行為は絶対禁止であること
⑵　役職員等は、「倫理に関するガイドライン」を十分に理解し、実践すること

5　加盟団体における適正な組織運営の確保のための指導・支援

ＪＳＰＯ加盟団体規程に準じて、加盟団体及び会員に関する規程を改正し、次のとおり加盟団体における適正な組織運営の確保について指導・支援することとした。（令和２年７月１日施行）

⑴　加盟団体の使命の規定

加盟団体は、スポーツ団体としての公正性、公平性、透明性を確保した組織運営を行い、ガバナンスの強化・充実及びコンプライアンスを徹底し、スポーツ・インテグリティの向上を図ること。

⑵　加盟団体が遵守すべき事項

①　加盟団体は、スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞の適合状況について自己説明及び公表を年１回実施しなければならない。

②　加盟競技団体は、本会が実施する適合性審査を４年毎に受けること。

③　加盟団体は、本会「倫理に関するガイドライン」に則り、倫理規程、倫理委員会、不祥事予防意識啓発活動など必要な諸規程・体制を整備すること

6　加盟競技団体ガバナンスコード適合性審査の実施

加盟競技団体に対して、スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞の適合性審査を実施するため、ＪＳＰＯ制度に準じて、加盟競技団体ガバナンスコード適合性審査実施要項を制定するとともに、適合性審査委員会を設置し、令和３年度から適合性審査を行った。（令和３年度は、14団体を対象に実施）

6　長野県スポーツ協会中長期計画の制定

令和４年３月、組織運営に関する中長期基本計画である「長野県スポーツ協会中長期計画」を策定しました。

1　策定の趣旨

長野県においては、「長野県スポーツ推進計画」を策定し、県民一人一人がその自発性のもとに、日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えるべく、様々な施策に取り組んできました。

本会としても、本県のスポーツ振興に寄与すべく同計画と整合した「事業実施計画」を毎年度策定し、スポーツ振興事業・施策を推進してまいりました。

また、2028年に第82回国民スポーツ大会の本県開催が予定されている中、長野県選手の競技力の向上対策は、喫緊の課題となっています。

このような状況の中、本会に適用される「スポーツ団体ガバナンスコード」において、組織運営に関する中長期計画の策定が義務づけられたことから、本会の重要な業務分野である競技力向上、競技者育成、加盟団体の支援、組織運営等に関する中長期基本計画を策定することとしました。

2　計画期間

10年後の「目指す姿」を見据えた前半５年間の計画とし、計画期間を令和４年度から令和８年度までとする。なお、長野県スポーツ推進計画が令和４年度までの計画となっていることから、同計画が改定された場合は、中長期計計画の見直しを行うものとする。

３　計画概要（骨子）

第１章　はじめに
１　当協会の目的と役割
２　計画趣旨・位置づけ
３　計画期間
４　協会の理念・行動指針
第２章　10年後の目指す姿、現状と課題及び今後５年間に取り組むべき施策
１　競技スポーツの推進　【10年後の目指す姿】【現状と課題】
【今後５年間に取り組むべき施策】
⑴　国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援
⑵　全国や世界で活躍する選手の育成・競技力の向上
⑶　第82回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上
２　生涯スポーツの推進　【10年後の目指す姿】【現状と課題】
【今後５年間に取り組むべき施策】
⑴　ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
⑵　地域のスポーツ環境の充実
⑶スポーツ功績者表彰
３　組織運営体制の整備・充実　【10年後の目指す姿】【現状と課題】
【今後５年間に取り組むべき施策】
⑴　加盟団体への支援及び連携の強化
⑵　安定した財務基盤の確立
⑶　組織体制・ガバナンスの強化
ア　ガバナンスコードの遵守に向けた支援
イ　加盟団体のコンプライアンス教育への支援

４　策定の経過

〇令和３年１月　理事会　中長期計画の策定方針について決議
〇令和３年２月～計画素案の作成
９月　理事会・総務専門委員会で計画素案（骨子）審議・決定
〇令和４年１月　理事会・総務専門委員会で計画案の審議
３月　理事会・総務専門委員会で計画案の審議・決定・公表
４月　中長期計画の施行

7　パートナー企業・団体制度の創設

県内アスリート及び加盟競技団体等に対する支援事業予算に係る独自財源を確保するため、令和３年７月、当協会の活動をスポンサーとして支援いただくパートナー企業・団体制度を創設しました。

【パートナー企業・団体制度】

１　パートナーの種類

⑴　プラチナパートナー
　単年300万円以上または単年60万円以上を５年間継続して本会に寄附する法人及び団体

⑵　ゴールドパートナー
　単年100万円以上または単年20万円以上を５年間継続して本会に寄附する法人及び団体

⑶　シルバーパートナー
　単年50万円以上または単年10万円以上を５年間継続して本会に寄附する法人及び団体

２　パートナー特典

特典内容	プラチナパートナー	ゴールドパートナー	シルバーパートナー
①本会ホームページにバナー広告掲載	○	○	○
②広報誌（県スポだより等）の提供	○	○	○
③県スポだよりへの企業名、広告の掲載	○	○	―
県スポながのへの企業名、広告の掲載	○	○	○
④企業名等をスポーツ会館内に掲示	○	○	○
⑤各種式典・行事等への招待	○	○	○
⑥本会が使用する封筒への広告の掲載	○	○	―
⑦税制上の優遇措置（寄附金控除）	○	○	○

３　パートナー期間

本会に申込し、最初に寄附があった日の翌年度から５年間

４　パートナー申込方法

本会に寄附申込書を本会事務局に提出していただきます。

５　本制度の詳細

本会ホームページ「長野県スポーツ協会パートナー企業等募集要綱」参照

【制度創設の経緯】

○令和３年３月～　法令・税制等の調査・検討、制度設計
　　６月　　理事会において寄附金取扱規程改正案の決議
　　７月　　パートナー企業等募集要綱制定、募集開始
○令和４年３月　　パートナー企業等協定書調印式（パートナー第１号誕生）

【パートナー企業・団体　第１号の皆様】（敬称略）

プラチナパートナー　　ホクト株式会社
ゴールドパートナー　　株式会社マナテック　　ライオンズクラブ国際協会334－Ｅ地区
シルバーパートナー　　株式会社信光社

8　オリンピック長野県選手の活躍（メダリスト）

夏・冬	開催年	開催地	氏名	出身地	所属（当時）	出場種目	成績
夏	1964	東京	八重樫綾乃 （旧姓：渋木）	岡谷市	ヤシカ	バレーボール	金メダル
夏	1984	ロサンゼルス	野口　京子 （旧姓：石田）	大阪市	日立	バレーボール	銅メダル
冬	1992	アルベールビル	宮部　行範	東京都	三協精機	スピードスケート 1000m	銅メダル
			河野　孝典	野沢温泉村	野沢温泉SC	スキー 複合団体	金メダル
			荻原　健司	群馬県	早稲田大学	スキー 複合団体	金メダル
冬	1994	リレハンメル	河野　孝典	野沢温泉村	野沢温泉SC	スキー 複合個人 スキー 複合団体	銀メダル 金メダル
			荻原　健司	群馬県	北野建設SC	スキー 複合団体	金メダル
			西方　仁也	野沢温泉村	雪印乳業	スキー ジャンプ団体	銀メダル
冬	1998	長野	清水　宏保	北海道	三協精機	スピードスケート 500m スピードスケート 1000m	金メダル 銀メダル
夏	2008	北京	塚原　直貴	岡谷市	富士通	陸上競技 4×100mリレー	銀メダル
冬	2010	バンクーバー	小平　奈緒	茅野市	社会医療法人財団 慈泉会相澤病院	スピードスケート チームパシュート	銀メダル
			長島圭一郎	北海道	日本電産サンキョー	スピードスケート 500m	銀メダル
			加藤　条治	山形県	日本電産サンキョー	スピードスケート 500m	銅メダル
冬	2014	ソチ	渡部　暁斗	白馬村	北野建設SC	スキー ノルディック複合 ノーマルヒル個人	銀メダル
			竹内　択	飯山市	北野建設SC	スキー ジャンプ ラージヒル団体	銅メダル
夏	2016	リオ	箱山　愛香	長野市	栗田病院	水泳 女子シンクロナイズドスイミングチーム	銅メダル
			荒井　広宙	小布施町	自衛隊体育学校	陸上 男子50km競歩	銅メダル
			奥原　希望	大町市	日本ユニシス	バドミントン 女子シングルス	銅メダル
冬	2018	平昌	小平　奈緒	茅野市	社会医療法人財団 慈泉会相澤病院	スピードスケート 女子500m スピードスケート 女子1000m	金メダル 銀メダル
			菊池　彩花	南相木村	富士急行	スピードスケート 団体追い抜き	金メダル
			髙木　菜那	北海道	日本電産サンキョー	スピードスケート マススタート スピードスケート 団体追い抜き	金メダル 金メダル
			渡部　暁斗	白馬村	北野建設SC	スキー ノルディック複合 ノーマルヒル個人	銀メダル
冬	2022	北京	髙木　菜那	北海道	日本電産サンキョー	スピードスケート 団体追い抜き	銀メダル

夏・冬	開催年	開催地	氏名	出身地	所属（当時）	出場種目	成績
冬	2022	北京	渡部　暁斗	白馬村	北野建設SC	スキー ノルディック複合 ラージヒル個人 スキー ノルディック複合 男子団体	銅メダル 銅メダル
			渡部　善斗	白馬村	北野建設SC	スキー ノルディック複合 男子団体	銅メダル
			山本　涼太	木島平村	長野日野自動車SC	スキー ノルディック複合 男子団体	銅メダル

第2章

長野県スポーツ協会の活動

1 長野県スポーツ協会事業実施状況（決算額）

2 長野県スポーツ少年団の活動

3 スポーツ振興功績者表彰歴代受賞者

4 ＳＷＡＮプロジェクトの歩み

5 賛助会員加入状況

6 第82回国民スポーツ大会（信州やまなみ国スポ）

1　長野県スポーツ協会事業実施状況（決算額）

年度	事業内容	決算額（円）			
		一般会計	スポーツ振興基金	寄附金募集事業	賛助会事業
S 61	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　県民運動競技大会の開催（第14回） 4　スポーツの振興 5　スポーツ少年団の育成	187,876,409	33,028,903		－
S 62	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　県民運動競技大会の開催（第15回） 4　スポーツの振興 5　スポーツ少年団の育成	247,939,778	27,654,036		－
S 63	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツの振興 4　長野冬季オリンピック招致の推進 5　県民運動競技大会の開催（第16回） 6　スポーツ少年団の育成	264,857,305	123,790,655		－
H 1	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツの振興 4　長野冬季オリンピック招致の推進 5　スポーツ少年団の育成 6　県民運動競技大会の開催（第17回）	295,766,712	28,538,710	15,760,000	－
H 2	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツの振興 4　長野冬季オリンピック招致の推進 5　スポーツ少年団の育成 6　県民運動競技大会の開催（第18回）	295,445,198	34,609,539		－
H 3	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツの振興 4　長野冬季オリンピック招致の推進 5　スポーツ少年団の育成 6　県民運動競技大会の開催（第19回） 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（熊本県）	340,987,225	46,572,845		－
H 4	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　県民さわやかスポーツ祭の開催（第20回） 6　スポーツ少年団の育成 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（島根県）	423,469,047	40,338,944		－
H 5	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　県民さわやかスポーツ祭の開催（第21回） 6　スポーツ少年団の育成 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（千葉県）	446,095,024	37,141,285	7,584,500	－
H 6	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　スポーツ少年団の育成 6　県民さわやかスポーツ祭の開催（第22回） 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（福岡県）	465,020,830	32,978,237		－
H 7	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　スポーツ少年団の育成 6　県民さわやかスポーツ祭の開催（第23回） 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（奈良県）	494,426,143	30,364,471		－
H 8	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　スポーツ少年団の育成 6　県民さわやかスポーツ祭の開催（第24回） 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（群馬県） 8　オリンピックデーランの開催	480,456,278	30,696,173	9,968,329	－
H 9	1　競技力向上事業 2　オリンピック冬季競技特別強化事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツの振興 5　創立50周年記念事業 6　スポーツ少年団の育成 7　県民さわやかスポーツ祭の開催（第25回） 8　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（沖縄県） 9　オリンピックデーランの開催 10　オリンピック・パラリンピックへの協力	503,850,493	30,704,939	12,549,133	－

年度	事業内容	決算額（円）			
		一般会計	スポーツ振興基金	寄附金募集事業	賛助会事業
H10	1　競技力向上事業 2　国際競技力向上事業 3　競技力向上スタッフの人的配置 4　国民体育大会への参加 5　スポーツの振興 6　スポーツ少年団の育成 7　県民さわやかスポーツ祭の開催（第26回） 8　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（岐阜県） 9　オリンピックデーランの開催	467,002,081	29,241,089		－
H11	1　国体競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国際競技力向上事業 4　スポーツクラブ育成事業 5　国民体育大会への参加 6　スポーツの振興 7　スポーツ少年団の育成 8　県民さわやかスポーツ祭の開催（第27回） 9　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（山形県） 10　オリンピックデーランの開催	508,711,360	29,717,669		－
H12	1　国体競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国際競技力向上事業 4　国民体育大会への参加 5　スポーツ環境の整備 6　スポーツ少年団の育成 7　スポーツクラブの育成 8　県民さわやかスポーツ祭の開催（第28回） 9　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（石川県） 10　オリンピックデーランの開催 11　市町村体育団体の育成強化	472,896,531	26,573,510		－
H13	1　国体競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国際競技力向上事業 4　国民体育大会への参加 5　スポーツ環境の整備 6　スポーツ少年団の育成 7　スポーツクラブの育成 8　県民さわやかスポーツ祭の開催（第29回） 9　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（三重県） 10　オリンピックデーランの開催 11　市町村体育団体の育成強化	495,396,752	26,972,619		－
H14	1　競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国際競技力向上事業 4　国民体育大会への参加 5　スポーツ環境の整備 6　スポーツ少年団の育成 7　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（広島県） 8　オリンピックデーランの開催 9　市町村体育団体の育成強化	407,229,089	23,976,404	4,925,002	－
H15	1　競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツ環境の整備 5　スポーツ少年団の育成 6　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（香川県） 7　オリンピックデーランの開催 8　日韓スポーツ交流事業（スケート、スキー） 9　市町村体育団体の育成強化	316,421,828	25,013,216	7,800,006	－
H16	1　競技力向上事業 2　ジュニア競技力向上事業 3　国民体育大会への参加 4　スポーツ環境の整備 5　スポーツ少年団の育成 6　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（福井県） 7　オリンピックデーランの開催 8　市町村体育団体の育成強化	220,064,424	24,505,158	7,880,003	－
H17	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツ環境の整備 4　スポーツ少年団の育成 5　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（岩手県） 6　日韓スポーツ交流事業（スキー） 7　市町村体育団体の育成強化	181,849,664	17,110,000	2,955,000	－
H18	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツ環境の整備 4　スポーツ少年団の育成 5　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（鳥取県） 6　日韓スポーツ交流事業（スキー） 7　市町村体育団体の育成強化	174,475,663	21,596,000		－
H19	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツ環境の整備 4　スポーツ少年団の育成 5　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（青森県） 6　日韓スポーツ交流事業（スキー） 7　市町村体育団体の育成強化 8　賛助会事業の推進 9　創立60周年記念事業	252,564,048	26,199,000	1,970,007	1,720,955

年度	事業内容	決算額（円）			
		一般会計	スポーツ振興基金	寄附金募集事業	賛助会事業
H20	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツ環境の整備 4　スポーツ少年団の育成 5　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（滋賀県） 6　日韓スポーツ交流事業（スキー） 7　賛助会事業の推進	221,857,104	20,976,000	6,895,044	2,092,125
H21	1　競技力向上事業 2　国民体育大会への参加 3　スポーツ環境の整備 4　スポーツ少年団の育成 5　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（宮崎県） 6　賛助会事業の推進 7　公益法人制度改革に向けた取組	210,814,205	13,427,773	3,940,065	3,127,000

【特別会計の廃止、計算書類の変更】

年度	事業内容	支出額（円）			
		事業活動支出	投資活動支出	財務活動支出	計
H22	1　国民体育大会への参加 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　スポーツ活動の普及啓発 5　スポーツ少年団の育成 6　指導者の育成 7　社会体育振興事業 8　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（富山県） 9　総合型地域スポーツクラブの育成支援 10　スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保 11　公益法人制度改革に向けた取組	204,741,033	718,830	0	205,459,863
H23	1　国民体育大会への参加 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　指導者の育成 7　社会体育振興事業 8　全国スポーツ・レクリエーション祭への参加（栃木県） 9　総合型地域スポーツクラブの育成支援 10　機関誌の発行、スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保 11　公益法人制度改革に向けた取組	166,921,759	714,110	0	167,635,869
H24	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　機関誌の発行、スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保	183,122,268	714,330	0	183,836,598
H25	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　機関誌の発行、スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保	201,844,181	153,926,116	0	355,770,297
H26	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　第13回日韓青少年冬季スポーツ交流事業（スキー） 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　機関誌の発行、スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保	206,267,572	300,559,691	0	506,827,263
H27	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　第14回日韓青少年冬季スポーツ交流事業（スキー） 　日韓スポ―ツ交流事業（テニス） 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　機関誌の発行、スポーツ振興功労者の表彰、賛助会員の確保	205,542,684	270,556,165	0	476,098,849

年度	事業内容	支出額（円）			
		事業活動支出	投資活動支出	財務活動支出	計
H28	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰、賛助会員の確保 9　二巡目国体招致に向けた活動	171,606,266	102,434,713	0	274,040,979
H29	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰、賛助会員の確保 9　第16回日韓青少年冬季スポーツ交流 10　二巡目国体招致に向けた活動	242,630,738	210,169,061	0	452,799,799
H30	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰、賛助会員の確保 9　第17回日韓青少年冬季スポーツ交流	256,087,654	352,179,691	0	608,267,345
R 1	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰、寄附者の確保 9　第18回日韓青少年冬季スポーツ交流	223,623,068	101,463,378	0	325,086,446
R 2	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰、寄附者の確保 9　ガバナンスの確保 10　支援金の交付（新型コロナウイルス対応）	87,980,205	55,439,654	178,200	143,598,059
R 3 （計画） （予算）	1　国民体育大会への参加支援 2　競技力向上事業 3　SWANプロジェクトの推進 4　競技者等サポート事業 5　スポーツ少年団の育成 6　スポーツ普及・交流事業の推進 7　総合型地域スポーツクラブの育成支援 8　スポーツに関する情報提供、振興功労者の表彰 9　中長期計画の策定、独自財源の確保、適合性審査 10　創立75周年記念事業の実施 11　新型コロナウイルスに対する取組	223,768,000	820,000	1,070,000	225,658,000

2　長野県スポーツ少年団の活動

長野県スポーツ少年団は、昭和39年11月の創設以来、県教育委員会や市町村スポーツ少年団等と連携した各種事業を通じて、スポーツによる青少年の健全育成に努めてきた。

とりわけ、昭和60年から開催する「長野県スポーツ少年団競技別交流大会」は、組織の発展とともにその競技数を増やし、現在12競技で実施。毎年3,000人以上の参加を得て盛大に開催している。

また、平成３年には、県下４地区に地区連絡協議会を立ち上げ、各種事業の輪番制や地域単位での交流大会、指導者・母集団育成研修会などを積極的に展開。こうした地区連絡協議会や市町村スポーツ少年団の地域に根付いた活動が、今日の長野県スポーツ少年団発展の礎を築いた。

一方、少子化の加速や子どもたちを取り巻く生活・スポーツ環境の変化等を受け、近年の登録団員数は減少傾向にあり、ピーク時の19,500名（平成19年度）と比べて令和３年度は12,889名と約30％減少。一人でも多くの子どもたちに多様な運動機会と歓びを提供するため、従来のスポーツ少年団理念に基づく活動を継承しつつ、地域スポーツや学校部活動との連携も視野に入れた新たなスポーツ少年団組織の構築が課題となっている。

■昭和61年以降の主な事業

○第37回全国スポーツ少年団大会

「はぐくもう　あふれる友情　信州の地で」を大会スローガンに掲げ、第37回全国スポーツ少年大会が平成11年７月28日～８月１日、伊那市の国立信州高遠青少年自然の家を主会場に開催された。全国の都道府県スポーツ少年団から約340名の団員・指導者が集結。前年の長野冬季オリンピック（ノルディック複合）に出場した荻原次晴選手の記念講演や蕎麦打ち体験、守屋山登山など多岐にわたるプログラムを通じて団員同士の交流を深めた。

○第２回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会

長野市の真島総合スポーツアリーナ（ホワイトリング）を舞台に、第２回全国スポーツ少年団バレーボール交流大会が平成17年３月26日に開幕。全国から男子10チーム、女子48チームを迎え、４日間にわたり熱戦を繰り広げた。

結果は地元の長野県勢が大活躍。男子の松川町スポーツ少年団は、予選２組を３勝１敗と勝ち越し２位に入った。女子は小布施スポーツ少年団が持ち前の粘り強さで予選リーグ、決勝トーナメントを勝ち進み、見事準優勝を果たした。

○創設50周年記念式典

長野県スポーツ少年団創設50周年記念式典が平成26年12月７日、長野市内のホテルで開かれた。県教育委員会や少年団関係者ら約100名が出席。多年にわたり長野県スポーツ少年団の発展に寄与した405名の功労指導者、286団の優秀単位団を表彰し、これまでの活動実績を振り返るとともに、今後のさらなる発展に向けて決意を新たにした。

この日は、ほかに北野建設スキー部（当時）の荻原健司氏による「スポーツ少年団から世界へ」と題した記念講演や祝賀会が開かれた。

■歴代本部長・副本部長（昭和61年度以降）

年度	本部長	副本部長		
S 61～62	竹内　隆夫	宮澤　宏昌	大西雄太郎	渡辺　文雄
S 63	宮澤　宏昌	大西雄太郎	渡辺　文雄	林　　侃
H１～H２	宮澤　宏昌	大西雄太郎	林　　侃	平林　源治
H３～H４	宮澤　宏昌	大西雄太郎 黒澤　正憲	林　　侃	平林　源治
H５～H６	宮澤　宏昌	大西雄太郎 小林　公喜	林　　侃	黒澤　正憲
H７～H８	宮澤　宏昌	大西雄太郎 葛城　嘉光	黒澤　正憲 小林　計正	猿谷　壮二
H９～H10	宮澤　宏昌	大西雄太郎 葛城　嘉光	黒澤　正憲 小林　計正	猿谷　壮二 柴　満喜夫
H11～H12	大西　雄太郎	黒澤　正憲 柴　満喜夫	猿谷　壮二 古林恒太郎	葛城　嘉光 荒井　英彦
H13～H14	大西　雄太郎	柴　満喜夫 菊池　　渡	古林恒太郎 山﨑　藤雄	清水　一人
H15～H16	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 山﨑　藤雄	菊池　　渡
H17～H18	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 三村　　保	菊池　　渡
H19～H20	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 宮本　正之	菊池　　渡
H21～H22	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 飛沢　文人	菊池　　渡
H23～H24	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 原　　一樹	菊池　　渡
H25～H26	大西　雄太郎	柴　満喜夫 野田　正彦	清水　一人 茅野　繁巳	菊池　　渡
H27～H28	柴　満喜夫	清水　一人 小野沢弘夫	菊池　　渡 丸山　隆義	谷道　七郎
H29～H30	柴　満喜夫	清水　一人 内山　充栄	谷道　七郎 丸山　隆義	宮下　省二
H31～R２	清水　一人	宮下　省二 内山　充栄	保坂　正雄 茅野　繁巳	加々美浩一
R３～	清水　一人	宮下　省二 北島　隆英	保坂　正雄 茅野　繁巳	加々美浩一

■登録団数・団員数・指導者数（昭和61年度以降）

年度	団数	団員数	指導者数
S 61	328	13,563	2,274
S 62	343	13,885	2,403
S 63	391	14,804	2,689
H 1	427	16,071	2,745
H 2	421	15,916	2,664
H 3	416	15,635	2,635
H 4	434	16,140	2,693
H 5	447	15,800	2,820
H 6	470	16,382	2,863
H 7	473	15,871	2,813
H 8	478	15,553	2,774
H 9	482	14,732	2,824
H10	488	15,033	2,840
H11	486	15,131	2,787
H12	503	15,927	2,805
H13	513	16,490	2,887
H14	515	17,525	3,106
H15	519	17,921	3,194

年度	団数	団員数	指導者数
H16	535	18,223	3,393
H17	557	19,154	3,681
H18	558	18,813	3,793
H19	597	19,500	4,008
H20	588	19,198	4,073
H21	581	18,710	4,075
H22	585	18,537	4,129
H23	596	17,977	4,196
H24	586	17,303	4,098
H25	584	16,811	3,977
H26	583	16,139	3,958
H27	565	15,993	3,857
H28	554	15,471	3,681
H29	545	15,287	3,602
H30	547	14,651	3,540
R 1	531	14,053	3,439
R 2	509	12,419	2,283
R 3	514	12,889	2,088

3　スポーツ振興功績者表彰 歴代受賞者(昭和61年度以降)

有功章

年度	氏名	住所	備考
S 61	伊　藤　義　民	松本市	県スケート連盟
S 61	竹　節　元千代	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
S 61	猪　股　直　衛	北安曇郡小谷村	㈶県スキー連盟
S 61	吉　沢　睦　美	飯田市	県水泳連盟
S 61	松　原　一　三	木曽郡南木曽町	長野陸上競技協会
S 61	青　島　正　利	上田市	県アマチュアボクシング連盟
S 61	小　口　泰　良	岡谷市	県軟式庭球連盟
S 61	太　田　信　男	諏訪市	県卓球連盟
S 61	小　林　正　廣	長野市	県相撲連盟
S 61	原　　幸　宣	上伊那郡辰野町	県柔道連盟
S 61	長　浦　音　吉	更埴市	県バドミントン協会
S 61	古　澤　　博	飯山市	県弓道連盟
S 61	小　松　茂　喜	岡谷市	県剣道連盟
S 61	大　石　　治	上田市	県高等学校体育連盟
S 61	平　出　美保一	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
S 61	立　花　　茂	南安曇郡安曇村	南安曇郡体育協会
S 61	小　口　茂　和	松本市	松本体育協会
S 61	川　上　武　男	飯田市	飯田市体育協会
S 61	岩　波　啓　富	諏訪市	諏訪市体育協会
S 61	柳　田　幸　雄	小諸市	小諸市体育協会
S 61	古　林　恒太郎	塩尻市	塩尻市体育協会
S 61	楜　澤　　仁	佐久市	佐久市体育協会
S 62	五　味　竹　雄	諏訪市	県スケート連盟
S 62	小　出　辰　猪	長野市	㈶県スキー連盟
S 62	高　橋　恒　和	長野市	県陸上競技協会
S 62	山　田　忠　宏	松本市	県テニス協会
S 62	原　　敏	岡谷市	県バレーボール協会
S 62	松　本　忠　太	松本市	県軟式庭球連盟
S 62	田　中　友　道	上田市	県卓球連盟
S 62	石　井　春　男	岡谷市	県相撲連盟
S 62	赤　羽　幸　雄	諏訪市	県バドミントン協会
S 62	宮　沢　　廣	長野市	県弓道連盟
S 62	小　平　初　郎	佐久市	県剣道連盟
S 62	町　田　和　信	長野市	県山岳協会
S 62	川　上　喜増男	松本市	県銃剣道連盟
S 62	松　岡　信　雄	小県郡真田町	小県郡体育協会
S 62	藤　沢　光　嗣	松本市	松本市体育協会
S 62	小　林　軍　治	上田市	上田市体育協会
S 62	栗　林　　實	小諸市	小諸市体育協会
S 62	松　崎　隆　道	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
S 62	猿　谷　壮　二	佐久市	佐久市体育協会
S 62	平　松　　剛	上田市	高等学校体育連盟
S 62	渡　邊　伊　八	長野市	高等学校体育連盟
S 63	鈴　木　忠　彦	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
S 63	松　沢　国　夫	諏訪市	県アイスホッケー連盟
S 63	松　沢　徳　雄	松本市	㈶県スキー連盟
S 63	五　明　幸　夫	長野市	県水泳連盟
S 63	依　田　良　春	長野市	県陸上競技協会
S 63	斉　藤　吉　栄	上田市	県アマチュアボクシング連盟
S 63	立　石　　厳	諏訪市	県バレーボール協会・県高等学校体育連盟
S 63	中　島　良　夫	長野市	県バスケットボール協会
S 63	穂　刈　　勇	松本市	県自転車競技連盟
S 63	芳　賀　長　治	松本市	県軟式庭球連盟

年度	氏名	住所	備考
S 63	杉　田　仲　治	伊那市	県卓球連盟
S 63	松　林　繁　雄	松本市	県軟式野球連盟
S 63	竹　花　繁　典	小県郡丸子町	県相撲連盟・小県郡体育協会
S 63	塚　田　和　男	長野市	県柔道連盟
S 63	宮　本　金　作	長野市	県ソフトボール協会
S 63	飯　島　勇　三	上田市	県バドミントン協会
S 63	今　井　喜治郎	上田市	県弓道連盟
S 63	上　松　陽之助	飯田市	県ラグビーフットボール協会
S 63	武　田　　武	北安曇郡松川村	県山岳協会
S 63	秋　山　治　男	松本市	県銃剣道連盟
S 63	稲　葉　恒　幸	上田市	県空手道連盟
S 63	長　井　勘　爾	小県郡和田村	県ゲートボール連盟
S 63	堀　内　正　美	南佐久郡小海町	南佐久郡体育協会
S 63	鈴　木　将　敏	下伊那郡松川町	下伊那郡体育協会
S 63	飯　田　悦　雄	上水内郡豊野町	上水内郡体育協会
S 63	金　井　　悟	松本市	松本体育協会
S 63	今　井　孝　二	飯田市	飯田市体育協会
S 63	高　橋　博　文	小諸市	小諸市体育協会
S 63	戸　田　保　利	伊那市	伊那市体育協会
S 63	森　　仙　次	茅野市	茅野市体育協会
S 63	清　水　洋太郎	佐久市	佐久市体育協会
H01	浜　　岩　二	諏訪市	県スケート連盟
H01	鈴　木　直　明	飯山市	㈶県スキー連盟
H01	清　水　　一	駒ヶ根市	県陸上競技協会
H01	遠　山　善　助	上田市	県サッカー協会
H01	滝沢　助右之門	上田市	県テニス協会
H01	濱　　美　郎	茅野市	県バスケット協会・茅野市体育連盟
H01	村　上　金　明	塩尻市	県軟式庭球連盟
H01	原　　史　朗	松本市	県卓球連盟
H01	高　木　憲　男	塩尻市	県相撲連盟
H01	瀧　沢　　汎	上田市	県柔道連盟
H01	松　澤　文　平	上田市	県ソフトボール協会
H01	遠　山　　肇	飯田市	県弓道連盟
H01	上　嶋　治　雄	南安曇郡梓川村	県銃剣道連盟
H01	児　玉　恒　春	下高井郡山ノ内町	県ゲートボール協会
H01	北　沢　忠　義	諏訪市	県高校体育連盟
H01	原　田　　泰	北佐久郡御代田町	北佐久郡体育協会
H01	細　川　三　夫	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H01	石　谷　　喬	長野市	長野市体育協会
H01	小　林　武　義	松本市	松本体育協会
H01	下　村　三　郎	飯田市	飯田市体育協会
H01	唐　木　　勉	伊那市	伊那市体育協会
H01	中　牧　豊　光	大町市	大町市体育協会
H01	高　橋　次　男	佐久市	佐久市体育協会
H02	井　出　宗　雄	南佐久郡小海町	県スケート連盟
H02	宮　島　　久	大町市	㈶県スキー連盟
H02	木　村　紋　七	松本市	県水泳連盟
H02	小　山　義　雄	佐久市	県陸上競技協会
H02	横　内　　岡	松本市	県サッカー協会
H02	飯　田　庄　吉	岡谷市	県テニス協会
H02	真　嶋　昌　弘	岡谷市	県バレーボール協会
H02	大　友　民　雄	上田市	県アマチュアボクシング連盟
H02	小　林　信　夫	長野市	県バスケットボール協会
H02	深　沢　　茂	松本市	県自転車競技連盟
H02	金　井　久　美	塩尻市	県軟式庭球連盟
H02	原　　稔	須坂市	県卓球連盟
H02	小　林　茂　一	木曽郡木曽福島町	県相撲連盟
H02	船渡　吉左之門	小県郡丸子町	県柔道連盟

年度	氏名	住所	備考
H02	大工原　留　雄	小県郡丸子町	県ソフトボール協会
H02	花　岡　重　行	長野市	県弓道連盟
H02	柿　沢　隆　喜	茅野市	県剣道連盟
H02	小笠原　一　義	南安曇郡三郷村	県銃剣道連盟
H02	金　井　忠　良	北佐久郡北御牧村	県ゲートボール連盟
H02	赤　松　光　雄	長野市	県高体連
H02	宮　崎　弘　行	南佐久郡佐久町	南佐久郡体育協会
H02	橋　詰　義　一	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H02	福　澤　修　二	下伊那郡豊丘村	下伊那郡体育協会
H02	酒　井　侊　喜	長野市	長野市体育協会
H02	斉　藤　　傅	松本市	松本体育協会
H02	遠　藤　利　治	上田市	上田市体育協会
H02	荻　原　由　雄	諏訪市	諏訪市体育協会
H02	小　林　禎　仁	小諸市	小諸市体育協会
H02	高　橋　泰　男	大町市	大町市体育協会
H02	丸　山　修　三	飯山市	飯水体育協会
H02	宮　森　伊八郎	佐久市	佐久市体育協会
H03	千　野　潤　男	長野市	県スケート連盟
H03	黒　鳥　　哲	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H03	佐々木　重　音	南佐久郡臼田町	県水泳連盟
H03	小　林　繁　人	松本市	県陸上競技協会
H03	荒　井　　威	上田市	県アマチュアボクシング連盟
H03	中　澤　正　巳	埴科郡戸倉町	県ハンドボール協会
H03	太　田　　勇	松本市	県自転車競技連盟
H03	小　林　喜運治	長野市	県軟式庭球連盟
H03	大　瀧　昭　吉	岡谷市	県卓球連盟
H03	岡　本　　章	埴科郡坂城町月見区	県軟式野球連盟
H03	高　川　秀　雄	長野市	県相撲連盟
H03	竹　内　敬　業	松本市	県柔道連盟
H03	桑　澤　英　晴	塩尻市	県バドミントン協会
H03	斎　藤　節　朗	長野市	県弓道連盟
H03	五　味　孝　重	茅野市	県銃剣道連盟
H03	百　瀬　常　雄	松本市	県ゲートボール連盟
H03	小　林　　仁	松本市	県高等学校体育連盟
H03	塩　澤　　潔	下伊那郡上郷町	下伊那郡体育協会
H03	斎　藤　芳　則	南安曇郡堀金村	南安曇郡体育協会
H03	西　澤　靖　二	北安曇郡池田町	北安曇郡体育協会
H03	手　塚　正　二	長野市	長野市体育協会
H03	増　沢　正　男	松本市	松本体育協会
H03	岩　草　　満	上田市	上田市体育協会
H03	松　尾　　豊	飯田市	飯田市体育協会
H03	竹　田　三　郎	諏訪市	諏訪市体育連盟
H03	市　村　治　雄	小諸市	小諸市体育協会
H03	東　城　大　典	茅野市	茅野市体育連盟
H04	鈴　木　国　雄	上伊那郡飯島町	県スケート連盟
H04	松　村　佐太郎	中野市	㈶県スキー連盟
H04	秦　　叡	長野市	県水泳連盟
H04	宮　尾　豊　美	長野市	県陸上競技協会
H04	保　坂　憲　男	上田市	県バスケットボール協会
H04	小　林　　靖	小諸市	県アマチュアボクシング協会
H04	中　島　恒　夫	小県郡東部町	県ハンドボール協会
H04	斉　藤　　博	松本市	県自転車競技連盟
H04	酒　井　平　一	長野市	県ソフトテニス連盟
H04	野　本　道　夫	松本市	県卓球連盟
H04	林　　史　郎	松本市	県軟式野球連盟
H04	松　尾　博　喜	埴科郡坂城町	県相撲連盟
H04	宮　原　三　治	佐久市	県柔道連盟
H04	下　村　幸　雄	松本市	県ソフトボール協会

年度	氏名	住所	備考
H04	高　橋　邦　夫	上田市	県バドミントン協会
H04	平　林　久　男	北安曇郡池田町	県弓道連盟
H04	今　村　義　久	松本市	県銃剣道連盟
H04	春　原　新之亟	上田市	県ゲートボール連盟
H04	伴　野　愼一郎	南佐久郡臼田町	南佐久郡体育協会
H04	岩　崎　由　一	上水内郡中条村	上水内郡体育協会
H04	岩　崎　茂　夫	長野市	長野市体育協会
H04	百　瀬　澄　江	松本市	松本体育協会
H04	土　屋　芳　則	上田市	上田市体育協会
H04	松　澤　一　夫	諏訪市	諏訪市体育協会
H04	坂　口　康　雄	小諸市	小諸市体育協会
H04	松　本　茂　樹	佐久市	佐久市体育協会
H05	片　倉　眞　平	岡谷市	県スケート連盟
H05	小　林　昭　一	小県郡真田町	㈶県スキー連盟
H05	吉　川　七三衛	飯田市	県水泳連盟
H05	大　和　孝　司	塩尻市	長野陸上競技協会
H05	原　　敏	須坂市	県バスケットボール協会・県中学校体育連盟
H05	望　月　　豊	佐久市	県ハンドボール協会
H05	池　田　　博	大町市	県ソフトテニス連盟
H05	湯　本　　誠	下高井郡山ノ内町	県卓球連盟
H05	町　田　幸　雄	中野市	県軟式野球連盟
H05	山　瀬　　了	木曽郡上松町	県相撲連盟
H05	山　田　正　俊	長野市	県ソフトボール協会
H05	長　橋　秋　男	長野市	県弓道連盟
H05	中　村　茂　雄	上田市	県クレー射撃協会
H05	伊　藤　昭　治	南安曇郡豊科町	県高等学校体育連盟
H05	小　原　新　市	松本市	東筑摩郡体育協会
H05	中　田　精一郎	南安曇郡三郷村	南安曇郡体育協会
H05	小　林　　貞	長野市	長野市体育協会
H05	久保田　敏　雄	松本市	松本体育協会
H05	櫻　井　重　治	上田市	上田市体育協会
H05	原　　佳　明	飯田市	飯田市体育協会・県ラグビーフットボール協会
H05	土　屋　榮三郎	諏訪市	諏訪市体育連盟
H05	大　塚　禮　三	小諸市	小諸市体育協会
H05	堀　　晃	茅野市	茅野市体育連盟
H06	花　岡　和　秀	岡谷市	県スケート連盟
H06	郷　津　　勝	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H06	河　西　　勇	諏訪市	県漕艇協会
H06	赤　羽　福次郎	上田市	長野陸上競技協会
H06	若　尾　勝　美	上伊那郡辰野町	県バレーボール協会
H06	金　澤　良　平	長野市	県ソフトテニス連盟
H06	萱　津　俶　浩	諏訪郡下諏訪町	県軟式野球連盟
H06	三　村　喜一郎	木曽郡木曽福島町	県相撲連盟
H06	上　松　正　巳	飯山市	県柔道連盟
H06	松　崎　博　司	伊那市	県ソフトボール協会
H06	井　堀　孝　雄	長野市	県弓道連盟
H06	小　林　英次郎	上田市	県銃剣道連盟
H06	内　山　喜　六	上水内郡豊野町	県クレー射撃協会
H06	原　　甲　一	長野市	県綱引連盟
H06	葛　城　嘉　光	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H06	佐々木　武　司	下伊那郡阿智村	下伊那郡体育協会
H06	上　原　十三蔵	松本市	松本体育協会
H06	横　山　二　男	上田市	上田市体育協会
H06	原　田　俊　雄	飯田市	飯田市体育協会
H06	有　賀　　裕	諏訪市	諏訪市体育連盟
H06	井　出　重　郎	小諸市	小諸市体育協会
H06	林　　孟　彦	北安曇郡池田町	県高等学校体育連盟
H07	八　田　達　男	長野市	県スケート連盟

年度	氏名	住所	備考
H07	宮　原　喜和太	小県郡真田町	㈶県スキー連盟
H07	河　西　孝　雄	諏訪郡下諏訪町	県漕艇協会
H07	深　澤　幸　雄	諏訪市	県水泳連盟
H07	小　松　勇　一	諏訪市	県ヨット連盟
H07	牛　越　喜重郎	東筑摩郡生坂村	長野陸上競技協会
H07	北　村　喜　男	大町市	㈶県バレーボール協会
H07	柳　沢　民　弥	佐久市	県ハンドボール協会
H07	岩　井　秀　晃	岡谷市	県ソフトテニス連盟
H07	谷　道　七　郎	下伊那郡高森町	県卓球連盟
H07	水　野　康　太	佐久市	県軟式野球連盟
H07	森　島　久　利	松本市	県柔道連盟
H07	向　山　明　夫	伊那市	県ソフトボール協会
H07	井　口　喜　八	塩尻市	県銃剣道連盟
H07	村　松　康　尾	飯田市	県弓道連盟
H07	布　施　芳　子	松本市	県なぎなた連盟
H07	竹　林　敏　博	塩尻市	県ゲートボール連盟
H07	市　川　猶　男	下伊那郡豊丘村	下伊那郡体育協会
H07	井　出　裕　通	長野市	㈶長野市体育協会
H07	赤　羽　正　久	松本市	㈶松本体育協会
H07	翠　川　和　雄	小県郡長門町	㈶上田市体育協会
H07	小　口　悦　司	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H07	藤　井　　篤	飯田市	㈶飯田市体育協会
H07	小　山　千　春	諏訪市	諏訪市体育連盟
H07	中　里　正　昭	小諸市	小諸市体育協会
H07	中　島　　享	佐久市	佐久市体育協会
H07	山　崎　正　治	松本市	県高等学校体育連盟・県バスケットボール協会
H08	松　本　充　雄	諏訪市	県スケート連盟
H08	塩　島　澄　博	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H08	大久保　日出男	諏訪郡原村	県水泳連盟
H08	宮　坂　祐　次	諏訪市	県漕艇協会
H08	清　水　峯　雄	長野市	㈶県バレーボール協会
H08	小　林　哲　三	上田市	県ソフトテニス連盟
H08	美齊津　昌　夫	小諸市	県卓球連盟
H08	佐　藤　文　一	長野市	県軟式野球連盟
H08	岡　本　栄八郎	長野市	県柔道連盟
H08	徳　嵩　　清	松本市	県ソフトボール協会
H08	小　林　義　行	長野市	県弓道連盟
H08	田　村　宣　紀	長野市	県山岳協会
H08	安　藤　　至	塩尻市	県銃剣道連盟
H08	荻　原　邦　雄	上水内郡豊野町	県ゲートボール連盟
H08	滝　沢　保　男	木曽郡大桑村	木曽郡体育協会
H08	豊　城　麟太郎	埴科郡戸倉町	埴科体育協会
H08	成　澤　秀　敏	上田市	㈶上田市体育協会
H08	千　代　馨　脩	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H08	大　島　俶　子	飯田市	㈶飯田市体育協会
H08	増　澤　　哲	諏訪市	諏訪市体育連盟
H08	菊　池　　渡	飯山市	飯水体育協会
H08	栗　山　秀　雄	茅野市	茅野市体育連盟
H08	藤　澤　愛　僖	長野市	県高等学校体育連盟
H09	大　竹　義　雄	長野市	長野陸上競技協会
H09	山　田　英　男	小諸市	㈶県バレーボール協会
H09	山　嵜　喜　弘	長野市	県ソフトテニス連盟
H09	田　中　　稔	北佐久郡望月町	県卓球連盟
H09	下　林　信　義	東筑摩郡波田町	県軟式野球連盟
H09	吉　岡　茂　夫	上田市	県相撲連盟
H09	儀　藤　健　治	松本市	県柔道連盟
H09	野　溝　和　男	伊那市	県ソフトボール協会
H09	山　川　茂　樹	伊那市	県弓道連盟

年度	氏名	住所	備考
H09	小　池　和　幸	長野市	県剣道連盟
H09	塚　田　喜久男	長野市	県銃剣道連盟
H09	市　川　安　芳	長野市	県綱引連盟
H09	久保田　信　栄	長野市	県ゲートボール連盟
H09	大　野　重　治	長野市	県バウンドテニス協会
H09	小　林　　逸	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H09	井　口　　陽	下伊那郡松川町	下伊那郡体育協会
H09	上　沼　保　夫	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H09	所　沢　千　秀	伊那市	伊那市体育協会
H09	小　林　宣　夫	佐久市	佐久市体育協会
H09	山　浦　正　孝	上田市	県高等学校体育連盟
H09	内　田　靖　男	長野市	県高等学校体育連盟
H10	鷹　野　　隆	長野市	県スケート連盟
H10	浅　川　孝　典	茅野市	県アイスホッケー連盟
H10	大　川　良　雄	長野市	県水泳連盟
H10	福　島　康　人	飯田市	長野陸上競技協会
H10	矢　島　秀　次	飯田市	㈶県バレーボール協会
H10	大宮司　洋　一	東筑摩郡波田町	県アマチュアボクシング連盟
H10	岡　庭　　巴	飯田市	県体操協会
H10	小　林　和　夫	長野市	県バスケットボール協会
H10	加　藤　雅　之	佐久市	県ハンドボール協会
H10	長　田　　功	上田市	県ソフトテニス連盟
H10	吉　越　良三郎	諏訪市	県軟式野球連盟
H10	柿　崎　庫之助	木曽郡木曽福島町	県相撲連盟
H10	大　森　素　久	諏訪郡下諏訪町	県柔道連盟
H10	土　川　俊　市	木曽郡楢川村	県弓道連盟
H10	北　原　正　友	松本市	県銃剣道連盟
H10	生　島　長　宏	上田市	県綱引連盟
H10	大工原　忠太郎	南佐久郡臼田町	県ゲートボール連盟
H10	櫻　井　　眞	南佐久郡八千穂村	南佐久郡体育協会
H10	五　味　勇　吉	諏訪郡原村	諏訪郡体育協会
H10	小　林　謙　三	下伊那郡阿南町	下伊那郡体育協会
H10	安　田　良　一	木曽郡木曽福島町	木曽郡体育協会
H10	田　邉　昭　夫	上田市	㈶上田市体育協会
H10	大　槻　智恵子	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H10	佐々木　治　夫	小諸市	小諸市体育協会
H10	大　井　初　巳	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H10	古　牧　　勲	塩尻市	塩尻市体育協会
H10	浦　野　　智	飯田市	県高等学校体育連盟
H11	牛　山　雅　弘	茅野市	県スケート連盟
H11	監　物　鉱　三	軽井沢町	県アイスホッケー連盟
H11	丸　山　庄　司	白馬町	㈶県スキー連盟
H11	藤　本　勝　彦	長野市	長野陸上競技協会
H11	三ツ井　　晋	長野市	県バレーボール協会
H11	茅　野　禎　男	松本市	県バスケットボール協会
H11	青　木　　崇	更埴市	県ハンドボール協会
H11	斉　藤　甲子夫	松本市	県自転車競技連盟
H11	三　沢　貞　一	伊那市	県ソフトテニス連盟
H11	岩　崎　忠　三	須坂市	県卓球連盟
H11	大　森　袈裟董	上田市	県軟式野球連盟
H11	植　原　延　夫	木曽福島町	県相撲連盟
H11	松　島　　隆	松本市	県柔道連盟
H11	小岩井　八重子	松本市	県弓道連盟
H11	遠　山　　稔	飯山市	県綱引連盟
H11	赤　地　史　郎	戸倉町	県ゲートボール連盟
H11	峯　村　寿　一	豊野町	県バウンドテニス協会
H11	関　　美喜男	長野市	県野球連盟
H11	原　　徳　則	坂城町	県マレットゴルフ連盟

年度	氏名	住所	備考
H11	小林悦雄	下諏訪町	諏訪郡体育協会
H11	福沢　誠	豊丘村	下伊那郡体育協会
H11	山口文彦	堀金村	南安曇郡体育協会
H11	堂野忠司	上田市	上田市体育協会
H11	金子昭次	岡谷市	岡谷市体育協会
H11	中沢一夫	小諸市	小諸市体育協会
H11	中村信一	伊那市	伊那市体育協会
H11	白沢寛人	長野市	県高等学校体育連盟
H12	吉田末廣	北佐久郡御代田町	県スケート連盟
H12	矢口　賢	須坂市	㈶県スキー連盟
H12	柏木喜雄	佐久市	長野陸上競技協会
H12	草間　茂	長野市	県バレーボール協会
H12	松木則好	諏訪市	県バスケットボール協会
H12	塩川睦弘	小諸市	県ハンドボール協会
H12	岩崎直章	南安曇郡穂高町	県ソフトテニス連盟
H12	山崎次良	上高井郡小布施町	県卓球連盟
H12	宮崎　啓	飯田市	県軟式野球連盟
H12	百瀬上人	木曽郡木曽福島町	県相撲連盟
H12	清水　浩	佐久市	県柔道連盟
H12	市川茂太	長野市	県弓道連盟
H12	山内輝子	上田市	県なぎなた連盟
H12	木榑　喬	佐久市	県綱引連盟
H12	原　壽男	木曽郡木曽福島町	県ゲートボール連盟
H12	島田高子	長野市	県バウンドテニス協会
H12	小平庸中	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H12	中澤正美	長野市	長野市体育協会
H12	橋本末光	松本市	松本体育協会
H12	川口雅司	飯山市	飯水体育協会
H12	柳澤照明	更埴市	更埴体育協会
H12	遠藤六郎	更埴市	県高体連
H13	降籏教彦	南安曇郡三郷村	県スケート連盟
H13	児玉幹夫	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H13	佐藤俊平	飯山市	㈶県スキー連盟
H13	中澤正治	長野市	県水泳連盟
H13	唐澤君雄	駒ヶ根市	長野陸上競技協会
H13	関　武紀	佐久市	県バレーボール協会
H13	若林　裕	飯田市	県バスケットボール協会
H13	山田隆稔	松本市	県ソフトテニス連盟
H13	小泉隆信	諏訪市	県卓球連盟
H13	石井　實	塩尻市	県軟式野球連盟
H13	磯尾宗一	木曽郡日義村	県相撲連盟
H13	石田和増	長野市	県柔道連盟
H13	宇都宮　保	長野市	県ラグビーフットボール協会
H13	笠原房子	南安曇郡三郷村	県なぎなた連盟
H13	小池靖彦	伊那市	県少林寺拳法連盟
H13	村上貞男	茅野市	県ゲートボール連盟
H13	伊藤雄二	諏訪郡原村	諏訪郡体育協会
H13	鈴木康夫	長野市	長野市体育協会
H13	甲斐忠孝	松本市	松本体育協会
H13	福沢　正	伊那市	伊那市体育協会
H13	武田貞四	中野市	中野市体育協会
H13	三沢光広	塩尻市	塩尻市体育協会
H13	布施紀彦	更埴市	県高等学校体育連盟
H14	林　泰章	岡谷市	県スケート連盟
H14	山田六一	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H14	上原欽次	小県郡真田町	㈶県スキー連盟
H14	矢澤章弘	飯田市	県水泳連盟
H14	齋藤　治	松本市	県バレーボール協会

年度	氏名	住所	備考
H14	山　崎　良　二	須坂市	県ソフトテニス連盟
H14	峯　村　威　男	長野市	県卓球連盟
H14	森　下　　清	上伊那郡宮田村	県軟式野球連盟
H14	中　村　一　幸	長野市	県柔道連盟
H14	柳　澤　守　彦	上田市	県ソフトボール協会
H14	清　水　克　也	上田市	県弓道連盟
H14	竹　内　重　雄	長野市	県綱引連盟
H14	井　上　忠　男	松本市	県ゲートボール連盟
H14	小　山　一　泰	長野市	県バウンドテニス協会
H14	藤　森　宗　清	松本市	県マレットゴルフ連盟
H14	石　澤　正　憲	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H14	布施谷　利　治	下高井郡山ノ内町	下高井郡体育協会
H14	塚　田　　佐	長野市	㈶長野市体育協会
H14	武　田　良　男	小諸市	小諸市体育協会
H14	清　水　博　人	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H14	小　口　久　人	茅野市	茅野市体育連盟
H14	米　山　　廣	塩尻市	塩尻市体育協会
H14	田　嶋　義　忠	佐久市	佐久市体育協会
H15	笠　原　勝　司	山ノ内町	㈶県スキー連盟
H15	行　田　秀　美	諏訪市	県水泳連盟
H15	細　田　紀　一	東部町	長野陸上競技協会
H15	小　池　嘉　紀	諏訪市	県バレーボール協会
H15	田　島　春　男	飯田市	県レスリング協会
H15	成　田　　詮	飯山市	県ソフトテニス連盟
H15	塩　沢　堅　吉	長野市	県卓球連盟
H15	堀　内　正　樹	上田市	県軟式野球連盟
H15	竹　鼻　　要	上田市	県柔道連盟
H15	田　中　軍　次	長野市	県相撲連盟
H15	桐　野　正　勝	伊那市	県ソフトボール協会
H15	山　越　須　往	本城村	県クレー射撃協会
H15	春　日　利　夫	千曲市	県ゲートボール協会
H15	千　野　　昭	長野市	県綱引連盟
H15	細　江　幸　俊	軽井沢町	北佐久郡体育協会
H15	秋　山　長　雄	原村	諏訪郡体育協会
H15	田　上　　望	木祖村	木曽郡体育協会
H15	林　　良　一	岡谷市	岡谷市体育協会
H15	三　澤　剛　上	伊那市	伊那市体育協会
H15	北　村　四　郎	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H15	湯　澤　寿　一	茅野市	茅野市体育連盟
H15	水　間　益　江	佐久市	佐久市体育協会
H16	丸　山　仁　也	白馬村	㈶県スキー連盟
H16	小　泉　直　躬	上田市	県水泳連盟
H16	久保田　一　司	下諏訪町	県ボート協会
H16	酒　井　　譽	飯田市	長野陸上競技協会
H16	斉　藤　明　人	茅野市	県バレーボール協会
H16	船　木　政　明	小布施町	県体操協会
H16	竹　内　喜久夫	小諸市	県レスリング協会
H16	伊　藤　仲　三	長野市	県軟式野球連盟
H16	奥　村　修　吉	南木曽町	県相撲連盟
H16	笹　井　計　知	長野市	県柔道連盟
H16	柳　澤　源　市	松本市	県ソフトボール協会
H16	武　田　清　美	飯田市	県クレー射撃協会
H16	片　桐　　守	上伊那郡箕輪町	県マレットゴルフ連盟
H16	布　施　元　弘	臼田町	南佐久郡体育協会
H16	北　原　公　人	富士見町	諏訪郡体育協会
H16	阿　部　凱　人	伊那市	伊那市体育協会
H16	大　峡　榮　治	須坂市	須坂市体育協会
H16	木　下　貞　治	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会

年度	氏名	住所	備考
H16	両角喜人	茅野市	茅野市体育連盟
H17	清水　伸	上田市	県水泳連盟
H17	下川泰秀	安曇野市	長野陸上競技協会
H17	一ノ瀬守司	塩尻市	県ソフトテニス連盟
H17	田村佳紀	中野市	県軟式野球連盟
H17	箱山量一	上田市	県相撲連盟
H17	小林昭平	茅野市	県柔道連盟
H17	増澤寛伍	安曇野市	県ソフトボール協会
H17	山田一六	諏訪市	県バドミントン協会
H17	鵜飼鍵一	飯田市	県クレー射撃協会
H17	山本　弘	長野市	県バウンドテニス協会
H17	古畑公幸	松本市	県合気道連合会
H17	依田和武	埴科郡坂城町	県高等学校体育連盟
H17	大野栄作	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H17	田中秀典	飯田市	飯田市体育協会
H17	中村理一	須坂市	須坂市体育協会
H17	降旗　正	大町市	大町市体育協会
H17	倉沢恒雄	塩尻市	塩尻市体育協会
H18	飯田和正	佐久市	佐久市体育協会
H18	赤羽八洲男	上伊那郡辰野町	㈶県バレーボール協会
H18	伊藤次夫	北安曇郡池田町	北安曇郡体育協会
H18	小池權衛	南佐久郡小海町	県柔道連盟
H18	青木周一	須坂市	須坂市体育協会
H18	松井　勝	中野市	県ソフトテニス連盟
H18	飯島えい子	上田市	㈶上田市体育協会
H18	櫻井耕三	長野市	県弓道連盟
H18	後藤幸雄	長野市	県バウンドテニス協会
H18	堀内今朝男	上田市	県アマチュアボクシング連盟
H18	山下善廣	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H18	武井貞文	岡谷市	県水泳連盟
H18	今井良雄	長野市	㈶長野市体育協会
H18	荻原幹雄	松本市	県高等学校体育連盟
H18	浅井英登	上田市	県バスケットボール協会
H18	古條正行	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H18	白沢　潔	安曇野市	県テニス協会
H18	平林良治	安曇野市	県バドミントン協会
H18	横山元佳	松本市	県相撲連盟
H18	富松健夫	上田市	県陸上競技協会
H18	市川　弘	長野市	県ソフトボール協会
H18	土屋建治	東御市	小諸市体育協会
H18	高木　功	中野市	中野市体育協会
H18	宮下宗盛	東筑摩郡波田町	㈳県サッカー協会
H18	内川重利	上田市	県軟式野球連盟
H18	河西元太郎	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H19	湶　勉	上田市	上田市体育協会
H19	伊坂倉一	佐久市	佐久市体育協会
H19	岩下清水	飯田市	県サッカー協会
H19	浦野義忠	長野市	長野陸上競技協会
H19	荻原　勉	中野市	中野市体育協会
H19	加藤邦人	南佐久郡小海町	県スケート連盟
H19	後藤正行	長野市	県バウンドテニス協会
H19	小林安廣	須坂市	県水泳連盟
H19	五味秀彦	松本市	県バスケットボール協会
H19	塩沢清治	下伊那郡下條村	下伊那郡体育協会
H19	下﨑　保	千曲市	千曲市体育協会
H19	城田忠承	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H19	杉村彰則	岡谷市	県バレーボール協会
H19	高井忠史	上田市	県弓道連盟

年度	氏名	住所	備考
H19	田中　浩	諏訪郡原村	諏訪郡体育協会
H19	土屋　篤衛	上田市	県ソフトボール協会
H19	中村　協和	木曽郡木曽町	県相撲連盟
H19	松本　守博	伊那市	伊那市体育協会
H19	三浦　智之	小諸市	小諸市体育協会
H19	森山　茂勝	須坂市	須坂市体育協会
H19	吉崎　鶴代	松本市	県テニス協会
H19	渡辺　展猛	安曇野市	県柔道連盟
H20	山岸　文典	茅野市	県スケート連盟
H20	濱野　満千雄	長野市	県水泳連盟
H20	伊東　道善	長野市	長野陸上競技協会
H20	片桐　武夫	長野市	㈳県サッカー協会
H20	羽田　孜	東京都千代田区	㈶県バレーボール協会
H20	中島　輝夫	須坂市	県バスケットボール協会
H20	甲田　保雄	上田市	県レスリング協会
H20	浅原　昭一	北安曇郡池田町	県自転車競技連盟
H20	細川　久	諏訪郡富士見町	県軟式野球連盟
H20	小牧　文敏	伊那市	県ソフトボール協会
H20	平野　英孝	飯山市	県弓道連盟
H20	二木　茂光	安曇野市	県剣道連盟
H20	下﨑　慶一	千曲市	県クレー射撃協会
H20	根橋　寛	上田市	県空手道連盟
H20	降旗　茂孝	安曇野市	県ゲートボール連盟
H20	立岩　之博	長野市	県バウンドテニス協会
H20	平林　平治	諏訪市	県ゴルフ協会
H20	宮腰　祐吉	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H20	大家　幸雄	木曽郡王滝村	木曽郡体育協会
H20	堀内　昭	松本市	㈶松本体育協会
H20	増澤　延男	上田市	㈶上田市体育協会
H20	林　裕藏	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H20	齋藤　吉登	小諸市	小諸市体育協会
H20	高山　喬樹	安曇野市	安曇野市体育協会
H20	中野　隆夫	木曽郡上松町	県中学校体育連盟
H21	篠原　邦彦	長野市	県水泳連盟
H21	小山　利男	長野市	県セーリングヨット連盟
H21	石黒　勝美	大町市	長野陸上競技協会
H21	北沢　利夫	大町市	㈳県サッカー協会
H21	三村　功	松本市	県テニス協会
H21	髙橋　慈夫	松本市	㈶県バレーボール協会
H21	石坂　喜久雄	長野市	県バスケットボール協会
H21	小林　哲夫	上田市	県レスリング協会
H21	宮嵜　邦男	長野市	県卓球連盟
H21	田村　久美	諏訪市	県軟式野球連盟
H21	勝野　誠吾	木曽郡大桑村	県相撲連盟
H21	木内　義雄	長野市	県柔道連盟
H21	小林　丈夫	茅野市	県ソフトボール協会
H21	北村　彌昌	駒ヶ根市	県弓道連盟
H21	伊藤　仁	長野市	県空手道連盟
H21	西原　友昭	松本市	県ゲートボール連盟
H21	髙木　重由	諏訪郡下諏訪町	県バウンドテニス協会
H21	髙山　久男	諏訪市	県野球連盟
H21	中島　睦	北安曇郡池田町	県マレットゴルフ連盟
H21	小林　明子	長野市	県ゴルフ協会
H21	花岡　豪	松本市	県中学校体育連盟
H21	奈良井　宏美	塩尻市	県高等学校野球連盟
H21	長田　皓	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H21	花岡　増夫	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H21	北沢　豊治	飯田市	㈶飯田市体育協会

年度	氏名	住所	備考
H21	小　山　典　男	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H21	宮　坂　　章	茅野市	NPO法人茅野市体育協会
H21	丸　山　俊　雄	佐久市	佐久市体育協会
H22	野　口　行　敏	岡谷市	長野県スケート連盟
H22	吉　澤　邦　雄	下諏訪町	長野県水泳連盟
H22	小　山　健　英	長野市	長野県カヌー協会
H22	細　田　完　二	東御市	長野陸上競技協会
H22	上　條　恒　嗣	松本市	㈳長野県サッカー協会
H22	太　田　　衛	長野市	長野県テニス協会
H22	佐　藤　錬　二	安曇野市	㈶長野県バレーボール協会
H22	赤　羽　喜　郎	箕輪町	長野県バスケットボール協会
H22	柏　木　景　岳	小諸市	長野県レスリング協会
H22	桒　田　重　門	松本市	長野県ソフトテニス連盟
H22	柳　沢　光　男	佐久市	長野県卓球連盟
H22	西　澤　茂　芳	長野市	長野県軟式野球連盟
H22	清　水　建　夫	松本市	長野県相撲連盟
H22	村　山　良　治	塩尻市	長野県柔道連盟
H22	須　沢　貞　夫	松川村	長野県ソフトボール協会
H22	倉　科　儀　男	池田町	長野県バドミントン協会
H22	外　薗　公　毅	駒ケ根市	長野県弓道連盟
H22	中　平　　勝	飯田市	長野県ラグビーフットボール協会
H22	後　上　　隆	松本市	長野県銃剣道連盟
H22	滝　沢　公　営	須坂市	長野県空手道連盟
H22	徳　嵩　　進	長野市	長野県綱引連盟
H22	関　　初　男	諏訪市	長野県ゲートボール連盟
H22	市　村　英　之	飯山市	長野県トライアスロン協会
H22	中　沢　伊久男	岡谷市	長野県ゴルフ協会
H22	小　林　公　賢	原村	諏訪郡体育協会
H22	野　神　善　造	松川町	下伊那郡体育協会
H22	淺　香　英　二	松本市	㈶松本体育協会
H22	松　山　武　雄	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H22	酒　井　健　治	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H22	久保田　　博	須坂市	長野県中学校体育連盟
H22	山　際　荘　一	須坂市	須坂市体育協会
H23	中　村　郷　見	千曲市	長野県水泳連盟
H23	増　田　喜代志	塩尻市	長野陸上競技協会
H23	唐　澤　陽　司	伊那市	㈳長野県サッカー協会
H23	吉　澤　之　榮	飯田市	長野県テニス協会
H23	江　村　惠　一	岡谷市	（一財）長野県バレーボール協会
H23	長谷川　孟　三	茅野市	長野県バスケットボール協会
H23	荻　原　謙　一	御代田町	長野県レスリング協会
H23	芳　賀　敬　博	松本市	長野県軟式野球連盟
H23	杉　本　秀　芳	木曽町	長野県相撲連盟
H23	井　出　英　孝	小諸市	長野県柔道連盟
H23	宮　入　正　純	長野市	長野県ソフトボール協会
H23	降　旗　昭　雄	岡谷市	長野県弓道連盟
H23	渡　　正　博	長野市	長野県バウンドテニス協会
H23	松　村　祐　治	安曇野市	長野県ゴルフ協会
H23	堀　江　啓　夫	岡谷市	諏訪郡体育協会
H23	栗　生　勝　由	阿南町	下伊那郡体育協会
H23	久　保　忠　夫	上田市	㈶上田市体育協会
H23	林　　裕　彦	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H23	有　賀　文　夫	諏訪市	諏訪市体育連盟
H23	赤　須　和　彦	駒ケ根市	駒ケ根市体育協会
H23	武　井　　深	塩尻市	ＮＰＯ法人塩尻市体育協会
H23	土　屋　敏　子	佐久市	佐久市体育協会
H23	畠　山　義　人	佐久市	長野県中学校体育連盟
H23	古　澤　金　藏	長野市	長野県高等学校体育連盟

年度	氏名	住所	備考
H24	町　田　元　司	長野市	長野県水泳連盟
H24	森　泉　智　夫	佐久市	（一財）長野陸上競技協会
H24	小田川　　昇	佐久市	長野県テニス協会
H24	竹　淵　光　雄	辰野町	（一財）長野県バレーボール協会
H24	佐　藤　敏　通	小諸市	長野県レスリング協会
H24	中　村　徳　雄	千曲市	長野県卓球連盟
H24	内　田　直　治	長野市	長野県軟式野球連盟
H24	笠　原　明　夫	塩尻市	長野県相撲連盟
H24	塚　田　修　三	長野市	長野県柔道連盟
H24	三　浦　啓　史	上田市	長野県ソフトボール協会
H24	勝　又　仁　志	阿南町	長野県ラグビーフットボール協会
H24	佐　藤　浩　市	松本市	長野県なぎなた連盟
H24	吉　原　心　月	長野市	長野県空手道連盟
H24	八　木　元　樹	安曇野市	長野県綱引連盟
H24	小　林　重　之	千曲市	長野県ゲートボール連盟
H24	林　　貞　治	坂城町	長野県トライアスロン協会
H24	古　田　　力	長野市	長野県ゴルフ協会
H24	柳見澤　　宏	長野市	長野県中学校体育連盟
H24	小　池　一　夫	富士見町	諏訪郡体育協会
H24	宮　下　　保	松川町	下伊那郡体育協会
H24	相　澤　英　伸	松本市	㈶松本体育協会
H24	丸　山　俊　治	上田市	㈶上田市体育協会
H24	小　林　征　功	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H24	山　内　義　冨	小諸市	小諸市体育協会
H24	氣賀澤　徳　義	駒ヶ根市	駒ケ根市体育協会
H24	田　中　　稔	大町市	大町市体育協会
H24	小田川　利　男	佐久市	佐久市体育協会
H25	石　田　治一郎	長野市	長野県スケート連盟
H25	古　川　年　正	野沢温泉村	（公財）長野県スキー連盟
H25	石　井　孝　男	千曲市	長野県水泳連盟
H25	遠　山　正　洋	箕輪町	（一財）長野陸上競技協会
H25	丹　羽　洋　介	長野市	（一社）長野県サッカー協会
H25	西　村　武　博	塩尻市	（一社）長野県サッカー協会
H25	大　浦　敏　孝	諏訪市	長野県テニス協会
H25	松　村　満　久	中川村	長野県ホッケー協会
H25	小　平　富　久	佐久市	一般財団法人長野県バレーボール協会
H25	小　平　　学	佐久市	長野県レスリング協会
H25	陸　川　和　弘	岡谷市	長野県ソフトテニス連盟
H25	西　村　義　夫	安曇野市	長野県卓球連盟
H25	宮　坂　　進	諏訪市	長野県軟式野球連盟
H25	内　山　　清	長野市	長野県柔道連盟
H25	油　井　周　二	佐久市	長野県空手道連盟
H25	小　山　幸　夫	長野市	長野県ローラースポーツ連盟
H25	小　林　　清	安曇野市	長野県ゴルフ協会
H25	鷲　澤　正　一	長野市	（公財）長野市体育協会
H25	宮　坂　健　一	岡谷市	（公財）岡谷市体育協会
H25	笹　沢　幹　雄	小諸市	小諸市体育協会
H25	林　　憲　明	駒ヶ根市	駒ケ根市体育協会
H25	竹　村　武　人	大町市	大町市体育協会
H25	小　平　智　司	茅野市	（特非）茅野市体育協会
H25	滝　沢　　弘	千曲市	（特非）千曲市体育協会
H25	土　屋　東一郎	佐久市	佐久市体育協会
H25	小　松　茂　美	松本市	長野県高等学校体育連盟
H25	古　川　善　行	飯田市	（公財）長野県体育協会
H25	吉　松　俊　一	千曲市	（公財）長野県体育協会
H26	太　谷　陽　一	北安曇郡白馬村	（公財）長野県スキー連盟
H26	柄　澤　秀　樹	飯田市	長野県水泳連盟
H26	伊　藤　利　博	長野市	（一財）長野陸上競技協会

年度	氏名	住所	備考
H26	岡　田　隆　安	塩尻市	（一財）長野県バレーボール協会
H26	大　池　　毅	小諸市	長野県レスリング協会
H26	岡　野　　久	松本市	長野県卓球連盟
H26	長　崎　　仁	松本市	長野県軟式野球連盟
H26	荒　井　　清	長野市	長野県相撲連盟
H26	岩　下　富　夫	佐久市	長野県柔道連盟
H26	下　里　安　生	安曇野市	長野県ソフトボール協会
H26	西　澤　賢　治	千曲市	長野県バドミントン協会
H26	森　本　美佐子	伊那市	長野県なぎなた連盟
H26	三ツ井　　盈	飯山市	長野県ゲートボール連盟
H26	小　山　由紀子	長野市	長野県バウンドテニス協会
H26	宮　坂　久　臣	岡谷市	長野県ゴルフ協会
H26	原　野　隆　行	松本市	長野県合気道連盟
H26	菊　池　利　治	諏訪郡原村	諏訪郡体育協会
H26	金　田　忠　雄	松本市	（一財）松本体育協会
H26	三　澤　岩　視	伊那市	伊那市体育協会
H26	小　平　洋　子	茅野市	特定非営利活動法人茅野市体育協会
H26	倉　根　彦二郎	佐久市	佐久市体育協会
H26	酒　井　正　浩	下伊那郡阿智村	長野県中学校体育連盟
H26	金　物　壽　久	長野市	（公財）長野県体育協会
H27	畠　山　睦　夫	佐久市	長野県スケート連盟
H27	成　澤　勝　人	大町市	公益財団法人長野県スキー連盟
H27	浅　地　　敏	長野市	長野県水泳連盟
H27	杉　﨑　憲　雄	上田市	一般財団法人長野陸上競技協会
H27	石　田　義　雄	松本市	一般社団法人長野県サッカー協会
H27	三　溝　裕　五	松本市	一般財団法人長野県バレーボール協会
H27	荒　井　邦　夫	上田市	長野県バスケットボール協会
H27	前　田　　豊	小諸市	長野県レスリング協会
H27	榊　原　進　哉	松本市	長野県ウエイトリフティング協会
H27	中　野　和　茂	松本市	長野県卓球連盟
H27	岩　井　　均	長野市	長野県軟式野球連盟
H27	内　山　富　之	上田市	長野県柔道連盟
H27	大　槻　眞　一	箕輪町	長野県ソフトボール協会
H27	北　澤　幸　尚	長野市	長野県バドミントン協会
H27	熊　谷　繁　松	長野市	長野県中学校体育連盟
H27	牛　山　成　剛	松本市	長野県高等学校体育連盟
H27	中　平　知　里	下諏訪町	諏訪郡体育協会
H27	後　藤　正　一	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H27	種　山　良　治	大町市	大町市体育協会
H28	両　角　　勝	諏訪市	長野県スケート連盟
H28	西　村　博　守	松本市	長野県水泳連盟
H28	青　山　陸　生	安曇野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H28	白　澤　省　吾	山形村	一般社団法人長野県サッカー協会
H28	齋　藤　信　明	長野市	一般財団法人長野県バレーボール協会
H28	下　平　富士雄	長野市	長野県レスリング協会
H28	田　中　　昭	中野市	長野県卓球連盟
H28	赤　尾　正　雄	小諸市	長野県軟式野球連盟
H28	町　田　明　彦	長野市	長野県相撲連盟
H28	小　林　淑　希	軽井沢町	長野県柔道連盟
H28	竹　村　武　宣	東御市	長野県ソフトボール協会
H28	柳　澤　喜美子	上田市	長野県なぎなた連盟
H28	酒　井　順　一	佐久市	長野県綱引連盟
H28	柄　沢　洋　一	長野市	長野県ゴルフ協会
H28	宮野内　光　明	長野市	長野県中学校体育連盟
H28	長谷川　浩　一	宮田村	長野県高等学校体育連盟
H28	平　出　富　雄	富士見町	諏訪郡体育協会
H28	土　屋　章　尋	飯田市	公益財団法人飯田市体育協会
H28	柏　木　君　雄	小諸市	一般財団法人小諸市体育協会

年度	氏名	住所	備考
H28	中　村　　愼	長野市	長野県アイスホッケー連盟
H29	小　林　正　樹	松本市	長野県水泳連盟
H29	藤　森　茂　幸	松本市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	小　澤　　潔	松本市	一般社団法人長野県サッカー協会
H29	田　澤　久　幸	小諸市	長野県レスリング協会
H29	飯　島　久　雄	上田市	長野県ウエイトリフティング協会
H29	武　藤　文　明	駒ヶ根市	長野県卓球連盟
H29	奈　良　重　秋	中野市	長野県相撲連盟
H29	勝　見　藤　一	上田市	長野県柔道連盟
H29	伊　藤　易　明	伊那市	長野県ソフトボール協会
H29	百　瀬　　正	松本市	長野県弓道連盟
H29	勝　岡　　充	阿南町	長野県空手道連盟
H29	小　林　躋　造	御代田町	長野県ゴルフ協会
H29	小　山　幸　彦	佐久市	長野県中学校体育連盟
H29	矢　島　富士雄	上田市	長野県高等学校体育連盟
H29	鎌　倉　市　男	原村	諏訪郡体育協会
H29	吉　田　　裕	豊丘村	下伊那郡体育協会
H29	宮　嵜　嘉津夫	長野市	公益財団法人長野市スポーツ協会
H29	清　水　勝　彦	小諸市	一般財団法人小諸市体育協会
H29	石　原　　學	大町市	大町市体育協会
H30	上　原　健　治	軽井沢町	長野県アイスホッケー連盟
H30	畔　上　恵美子	長野市	長野県水泳連盟
H30	三　條　俊　彦	長野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H30	飯　島　秀　明	上田市	一般社団法人長野県サッカー協会
H30	菅　沼　義　宣	須坂市	長野県テニス協会
H30	渡　邉　幹　雄	飯山市	一般財団法人長野県バレーボール協会
H30	飯　島　真　一	伊那市	一般社団法人長野県バスケットボール協会
H30	小　沢　　治	小諸市	長野県レスリング協会
H30	宮　下　忠　興	松本市	長野県卓球連盟　一般財団法人松本体育協会
H30	太　田　直　重	長野市	長野県軟式野球連盟
H30	津　金　武　寿	松本市	長野県柔道連盟
H30	茅　原　徳　子	伊那市	長野県ソフトボール協会
H30	山　浦　　博	佐久市	長野県弓道連盟
H30	酒　井　　清	須坂市	長野県空手道連盟
H30	橋　本　　清	松本市	長野県マレットゴルフ連盟
H30	宮　森　武　久	佐久市	長野県ゴルフ協会
H30	登　内　俊　秀	茅野市	長野県中学校体育連盟
H30	井　出　敏　彦	長野市	長野県高等学校体育連盟
H30	髙　木　常　吉	下諏訪町	諏訪郡体育協会
H30	宮　坂　　伸	岡谷市	公益財団法人岡谷市体育協会
H30	望　月　春　雄	小諸市	一般財団法人小諸市体育協会
H30	中　嶋　元　三	中野市	中野市体育協会
R１	金　子　廣　史	長野市	長野県アイスホッケー連盟
R１	齊　藤　弘　幸	上田市	一般社団法人長野県水泳連盟
R１	熊　谷　賢　二	下條村	一般財団法人長野陸上競技協会
R１	内　山　了　治	安曇野市	一般財団法人長野陸上競技協会
R１	千　國　　靖	松本市	一般社団法人長野県サッカー協会
R１	小　尾　富　勇	茅野市	長野県テニス協会
R１	内　山　政　則	箕輪町	一般財団法人長野県バレーボール協会
R１	中　嶋　則　行	佐久市	長野県レスリング協会
R１	市　川　秀　俊	佐久市	長野県ウエイトリフティング協会
R１	田　中　寛　人	諏訪市	長野県ウエイトリフティング協会
R１	小　林　秀　一	松川村	長野県自転車競技連盟
R１	高　沢　　明	須坂市	長野県卓球連盟
R１	田　中　保　信	千曲市	長野県軟式野球連盟
R１	村　上　　淳	上松町	長野県相撲連盟
R１	宮　原　一　治	千曲市	長野県柔道連盟
R１	山　村　耕　児	松本市	長野県ソフトボール協会

年度	氏名	住所	備考
R 1	長　岡　彰　夫	軽井沢町	長野県ソフトボール協会
R 1	奥　山　誠　治	長野市	長野県弓道連盟
R 1	古　田　芙　士	飯田市	長野県アーチェリー協会
R 1	村　上　正　之	上田市	長野県アーチェリー協会
R 1	布　野　兼　一	松本市	特定非営利活動法人長野県クレー射撃協会
R 1	島　　幸　知	長野市	長野県バウンドテニス協会
R 1	髙　橋　泰　充	小諸市	長野県トライアスロン協会
R 1	吉　田　英　登	諏訪市	長野県ゴルフ協会
R 1	奥　田　孝　志	長野市	長野県中学校体育連盟
R 1	佐　藤　厚　彦	安曇野市	長野県中学校体育連盟
R 1	鈴　木　秀　典	佐久市	長野県高等学校体育連盟
R 1	新　井　　悟	松本市	長野県高等学校体育連盟
R 1	森　山　高　志	富士見町	諏訪郡スポーツ協会
R 1	塩　沢　　悟	下條村	下伊那郡体育協会
R 1	宮　澤　怜　子	上田市	一般財団法人上田市体育協会
R 1	鮎　澤　憲　通	岡谷市	公益財団法人岡谷市体育協会
R 1	髙　林　順　三	岡谷市	公益財団法人岡谷市体育協会
R 2	釜　田　秀　明	長野市	長野県アイスホッケー連盟
R 2	岡　部　美恵子	須坂市	一般社団法人長野県水泳連盟
R 2	江　橋　邦　男	塩尻市	一般財団法人長野陸上競技協会
R 2	小　林　邦　敏	茅野市	一般財団法人長野陸上競技協会
R 2	丸　山　　朗	長野市	一般社団法人長野県サッカー協会
R 2	前　田　敏　明	松本市	一般社団法人長野県サッカー協会
R 2	宮　坂　俊　樹	上田市	一般財団法人長野県バレーボール協会
R 2	山　浦　利　光	小諸市	長野県レスリング協会
R 2	土　屋　州　平	飯田市	長野県卓球連盟
R 2	下　川　初　雄	大町市	長野県軟式野球連盟
R 2	西　澤　憲　幸	上田市	長野県相撲連盟
R 2	和　田　　久	千曲市	長野県柔道連盟
R 2	矢　島　　宏	伊那市	長野県ソフトボール協会
R 2	木　下　貞　昭	伊那市	長野県ソフトボール協会
R 2	荒　井　和　人	長野市	長野県バドミントン協会
R 2	松　島　貞　治	泰阜村	長野県弓道連盟
R 2	宮　坂　博　之	岡谷市	長野県弓道連盟
R 2	唐　木　眞　澄	伊那市	長野県山岳協会
R 2	安　田　良　親	安曇野市	長野県空手道連盟
R 2	田　中　新　一	小諸市	長野県トライアスロン協会
R 2	木　内　一　夫	上田市	長野県ゴルフ協会
R 2	原　　正　彦	南箕輪村	長野県高等学校体育連盟
R 2	牧　野　光　朗	飯田市	公益財団法人飯田市スポーツ協会
R 2	三　石　邦　英	高森町	公益財団法人飯田市スポーツ協会
R 2	荻　原　　博	小諸市	一般財団法人小諸市体育協会
R 2	鶴　田　武　夫	東御市	特定非営利活動法人東御市スポーツ協会
R 2	宮　島　義　征	安曇野市	特定非営利活動法人安曇野市体育協会
R 3	宮　下　富　夫	長野市	長野県アイスホッケー連盟
R 3	湯　原　憲　造	千曲市	一般社団法人長野県水泳連盟
R 3	竹　内　秀　樹	諏訪市	一般財団法人長野陸上競技協会
R 3	丸　山　正　樹	安曇野市	一般社団法人長野県サッカー協会
R 3	飽　田　　敏	長野市	一般社団法人長野県サッカー協会
R 3	大宮司　洋　一	松本市	長野県ボクシング連盟
R 3	坂　田　秀　男	池田町	一般財団法人長野県バレーボール協会
R 3	真　田　　功	塩尻市	一般社団法人長野県バスケットボール協会
R 3	廣　田　信　一	長野市	一般社団法人長野県バスケットボール協会
R 3	白　鳥　昭　夫	佐久市	長野県軟式野球連盟
R 3	中　澤　俊　明	長野市	長野県柔道連盟
R 3	平　林　友　一	原村	長野県柔道連盟
R 3	小　市　宏　幸	飯田市	長野県ソフトボール協会
R 3	竹　松　美　好	伊那市	長野県ソフトボール協会

年度	氏名	住所	備考
Ｒ３	大　橋　良　重	塩尻市	長野県ゲートボール連盟
Ｒ３	矢　口　和　宏	池田町	長野県ゴルフ協会
Ｒ３	北　原　昭　夫	松川町	下伊那郡体育協会
Ｒ３	森　　大　和	上田市	一般財団法人上田市体育協会
Ｒ３	北　原　誠　治	飯田市	公益財団法人飯田市スポーツ協会
Ｒ３	塩　川　和　夫	小諸市	一般財団法人小諸市体育協会
Ｒ３	渡　辺　政　義	飯山市	飯水スポーツ協会
Ｒ３	木　川　　仁	茅野市	特定非営利活動法人茅野市スポーツ協会

有功章（団体）

年度	氏名	住所	備考
Ｓ61	長野県スケートセンター	長野市	県スケート連盟
Ｓ61	志賀高原スキークラブ	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
Ｓ61	白馬高等学校スキー部	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
Ｓ61	松本陸上競技協会	松本市	県陸上競技協会
Ｓ61	丸子町相撲連盟	小県郡丸子町	県相撲連盟
Ｓ62	茅野市スケート協会	茅野市	県スケート連盟
Ｓ62	小諸市体育協会　スキー部	小諸市	県スキー連盟
Ｓ62	諏訪地区水泳連盟	岡谷市	県水泳連盟
Ｓ62	飯伊陸上競技協会	飯田市	県陸上競技協会
Ｓ62	茅野市バスケットボール協会	茅野市	県バスケットボール協会
Ｓ62	塩尻市軟式庭球クラブ	塩尻市	県軟式庭球連盟
Ｓ62	上田市軟式野球連盟	上田市	県軟式野球連盟
Ｓ63	大町市スキークラブ	大町市	県スキー連盟
Ｓ63	佐久陸上競技協会	佐久市	長野陸上競技協会
Ｓ63	松本テニス協会	松本市	県テニス協会
Ｓ63	松本蟻ヶ崎クラブ	松本市	県バスケットボール協会
Ｓ63	飯田庭球協会	飯田市	県軟式庭球連盟
H01	大北スケート協会	大町市	県スケート連盟
H01	乗鞍スキークラブ	南安曇郡安曇村	㈶県スキー連盟
H01	須坂市水泳協会	須坂市	県水泳連盟
H01	南安曇郡陸上競技協会	南安曇郡堀金村	県陸上競技協会
H01	上田テニス協会	上田市	県テニス協会
H01	長野県教員Ａチーム	東筑摩郡明科町	県バスケットボール協会
H01	伊那庭球協会	伊那市	県軟式庭球連盟
H02	木曽福島スキークラブ	木曽郡木曽福島町	㈶県スキー連盟
H02	須坂陸上競技協会	須坂市	県陸上競技協会
H02	岡谷テニス協会	岡谷市	県テニス協会
H02	伊那卓球連盟	伊那市	県卓球連盟
H02	下伊那郡体育協会ソフトボール部	飯田市	下伊那郡体育協会
H03	諏訪市スキー協会	諏訪市	㈶県スキー連盟
H03	東筑陸上競技協会	東筑摩郡波田町	県陸上競技協会
H03	長野クラブ	長野市	県バスケットボール協会
H03	大町市軟式庭球協会	大町市	県軟式庭球連盟
H03	長野市軟式野球連盟	長野市	県軟式野球連盟
H03	長野市弓道連盟	長野市	長野市体育協会
H04	信濃町スキークラブ	上水内郡信濃町	㈶県スキー連盟
H04	塩尻陸上競技協会	塩尻市	長野陸上競技協会
H04	小諸市庭球協会	小諸市	県ソフトテニス連盟
H04	長野県軟式野球連盟　塩尻支部	塩尻市	県軟式野球連盟
H04	長野市バレーボール連盟	長野市	長野市体育協会
H05	御岳スキークラブ	木曽郡王滝村	県スキー連盟
H05	木曽陸上競技協会	木曽郡上松町	長野陸上競技協会
H05	須坂クラブ	須坂市	県バスケットボール協会
H05	下諏訪町体育協会　ソフトテニス部	諏訪郡下諏訪町	県ソフトテニス連盟
H05	長野県教職員卓球連盟	長野松代町	県卓球連盟

年度	氏名	住所	備考
H05	長野県軟式野球連盟　茅野支部	茅野市	県軟式野球連盟
H06	戸隠スキークラブ	上水内郡戸隠村	㈶県スキー連盟
H06	飯水陸上競技協会	飯山市	長野陸上競技協会
H06	諏訪ソフトテニス協会	諏訪市	県ソフトテニス連盟
H06	長野市柔道協会	長野市	長野市体育協会
H07	伊那スキークラブ	伊那市	㈶県スキー連盟
H07	更埴陸上競技協会	埴科郡戸倉町	長野陸上競技協会
H07	佐久市ソフトテニス協会	佐久市	県ソフトテニス連盟
H07	長野市テニス協会	長野市	長野市体育協会
H07	須坂やまびこ卓球連盟	須坂市	須坂市体育協会
H08	伊那スケートクラブ	伊那市	県スケート連盟
H08	軽井沢スキークラブ	北佐久郡軽井沢町	㈶県スキー連盟
H08	上水内陸上競技協会	上水内郡信濃町	長野陸上競技協会
H08	松本バレーボール協会	松本市	県バレーボール協会
H08	木曽郡体育協会ソフトテニス部	木曽郡木曽福島町	県ソフトテニス連盟
H08	高社卓球連盟	中野市	県卓球連盟
H08	長野県軟式野球連盟高水支部	中野市	県軟式野球連盟
H08	長野市体操協会	長野市	長野市体育協会
H08	飯田愛球会	飯田市	飯田市体育協会
H08	茅野市陸上競技協会	茅野市	茅野市体育連盟
H09	岡谷スケート協会	岡谷市	県スケート連盟
H09	茅野市スキー協会	茅野市	㈶県スキー連盟
H09	下諏訪町漕艇協会	諏訪郡下諏訪町	県漕艇協会
H09	長野県家庭婦人バレーボール連盟	松本市	県バレーボール協会
H09	ケイジャー	上田市	県バスケットボール協会
H09	須坂市ソフトテニス協会	須坂市	県ソフトテニス連盟
H09	埴科卓球協会	埴科郡坂城町	県卓球連盟
H09	長野県軟式野球連盟　松本支部	松本市	県軟式野球連盟
H09	長野市馬術連盟	長野市	長野市体育協会　県馬術連盟
H09	飯田下伊那弓友会	飯田市	飯田市体育協会　県弓道連盟
H09	茅野市ソフトボール協会	茅野市	茅野市体育連盟
H10	原村体育協会スケート部	諏訪郡原村	県スケート連盟
H10	長野県実業団陸上競技連盟	長野市	長野陸上競技協会
H10	中野市ソフトテニス協会	中野市	県ソフトテニス連盟
H10	長野県軟式野球連盟上伊那支部	上伊那郡宮田村	県軟式野球連盟
H10	長野市相撲連盟	長野市	長野市体育協会　県相撲連盟
H10	上田市柔道協会	上田市	上田市体育協会　県柔道連盟
H10	岡谷市剣道協会	岡谷市	岡谷市体育協会　県剣道連盟
H11	株式会社　帝産ロッジ	南牧村	県スケート連盟
H11	小賀坂スキークラブ	長野市	㈶県スキー連盟
H11	長野市カヌー協会	長野市	長野市体育協会　県カヌー協会
H11	松本市ソフトボール協会	松本市	松本体育協会　県ソフトボール協会
H11	岡谷陸上競技協会	岡谷市	岡谷市体育協会　長野陸上競技協会
H11	長野県軟式野球連盟　佐久市支部	佐久市	県軟式野球連盟
H11	石川島芝浦機械バドミントン部	松本市	県バドミントン協会
H11	飯山市ソフトテニス協会	飯山市	県ソフトテニス連盟
H12	塩尻市体育協会　スケート部	塩尻市	県スケート連盟
H12	佐久市ソフトテニス部	佐久市	県ソフトテニス連盟
H12	長野県軟式野球連盟　更埴支部	埴科郡戸倉町	県軟式野球連盟
H12	岡谷市エースドッジボール協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H13	佐久市体育協会佐久市スケート連盟	佐久市	県スケート連盟
H13	木曽郡体育協会ソフトテニス部	木曽郡日義村	県ソフトテニス連盟
H13	長野県軟式野球連盟南安支部	南安曇郡豊科町	県軟式野球連盟
H13	松本ゲートボール協会	松本市	県ゲートボール連盟
H13	岡谷市バレーボール協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H14	松本クラブ	松本市	県バスケットボール協会
H14	小諸少年レスリングクラブ	小諸市	県レスリング協会
H14	茅野市ソフトテニス協会	茅野市	県ソフトテニス連盟

年度	氏名	住所	備考
H14	長野県軟式野球連盟諏訪郡支部	諏訪郡富士見町	県軟式野球連盟
H14	塩尻市ゲートボール連盟	塩尻市	県ゲートボール連盟
H14	岡谷市バスケットボール協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H14	駒ヶ根クラブ	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H14	軽井沢町体育協会アイスホッケー部	軽井沢町	県アイスホッケー連盟
H15	豊科町体育協会ソフトテニス部	豊科町	県ソフトテニス連盟
H15	諏訪市ゲートボール協会	諏訪市	県ゲートボール連盟
H15	岡谷市卓球連盟	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H15	諏訪市バレーボール協会	諏訪市	諏訪市体育協会
H15	茅野市バレーボール協会	茅野市	㈱茅野市体育協会
H16	三郷村体育協会ソフトテニス部	三郷村	県ソフトテニス連盟
H16	県軟式野球連盟小諸支部	小諸市	県軟式野球連盟
H16	須坂市ゲートボール協会	須坂市	県ゲートボール連盟
H16	下伊那郡体育協会マレットゴルフ部	下伊那郡松川町	下伊那郡体育協会
H16	岡谷市柔道協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H16	飯伊家庭婦人バレーボール連盟	飯田市	㈶飯田市体育協会
H16	茅野市ゲートボール協会	茅野市	㈱茅野市体育協会
H17	千曲ソフトテニス協会	千曲市	県ソフトテニス連盟
H17	県軟式野球連盟須高支部	須坂市	県軟式野球連盟
H17	木曽柔道連盟	木曽福島町	県柔道連盟
H17	千曲市ゲートボール協会	千曲市	県ゲートボール連盟
H17	富士見町早起き野球連盟	富士見町	諏訪郡体育協会
H17	県軟式野球連盟岡谷支部	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H17	小諸市早起き野球連盟	小諸市	小諸市体育協会
H17	茅野市剣道協会	茅野市	㈱茅野市体育協会
H18	下伊那郡体育協会ソフトボール部	下伊那郡松川町	下伊那郡体育協会
H18	諏訪郡バドミントン協会	諏訪市	諏訪市体育協会
H18	県軟式野球連盟木曽支部	木曽郡木曽福島町	県軟式野球連盟
H18	茅野市卓球協会	茅野市	㈱茅野市体育協会
H18	原柔道協会	諏訪郡原村	諏訪郡体育協会
H18	岡谷市ゲートボール協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H18	松本テニス協会	松本市	県テニス協会
H18	上田市ゲートボール協会	上田市	県ゲートボール連盟
H18	須坂市サッカー協会	須坂市	㈳県サッカー協会
H19	飯島柔道クラブ	上伊那郡飯島町	県柔道連盟
H19	上田テニス協会	上田市	県テニス協会
H19	ＮＰＯ下諏訪体育協会バスケットボール部	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H19	岡谷市水泳協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H19	小諸市体育協会レスリング部	小諸市	小諸市体育協会
H19	佐久市レスリング教室クラブ	佐久市	県レスリング協会
H19	諏訪市水泳協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H19	長野市ゲートボール連盟	長野市	県ゲートボール連盟
H19	長野市サッカー協会	長野市	県サッカー協会
H19	長野県レディースバドミントン連盟	須坂市	県バドミントン協会
H20	飯田サッカー協会	飯田市	社団法人県サッカー協会
H20	東御ソフトテニス協会	東御市	県ソフトテニス連盟
H20	長野県軟式野球連盟駒ヶ根支部	駒ヶ根市	県軟式野球連盟
H20	長野県ゲートボール連盟小諸支部	小諸市	県ゲートボール連盟
H20	NPO法人富士見町体育協会陸上競技部	諏訪郡富士見町	諏訪郡体育協会
H20	長地体育協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H20	諏訪市柔道協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H20	駒ヶ根卓球クラブ	駒ヶ根市	駒ヶ根市体育協会
H20	大町市バレーボール協会	大町市	大町市体育協会
H20	茅野市柔道協会	茅野市	NPO法人茅野市体育協会
H21	茅野市サッカー協会	茅野市	㈳県サッカー協会
H21	塩尻テニス協会	塩尻市	県テニス協会
H21	丸子ソフトテニスクラブ	上田市	県ソフトテニス連盟
H21	長野県軟式野球連盟南佐久支部	小海町	県軟式野球連盟

年度	氏名	住所	備考
H21	誠心館道場	塩尻市	県柔道連盟
H21	長野県ゲートボール連盟	伊那市	県ゲートボール連盟
H21	伊那市ゲートボール協会		
H21	原村体育協会野球部	原村	諏訪郡体育協会
H21	諏訪市剣道協会	諏訪市	諏訪市体育協会
H21	駒ヶ根市ソフトボール協会	駒ケ根市	駒ケ根市体育協会
H21	茅野市空手道協会	茅野市	NPO法人茅野市体育協会
H22	中野市サッカー協会	中野市	㈳長野県サッカー協会
H22	波田ソフトテニスクラブ	松本市	長野県ソフトテニス連盟
H22	長野県軟式野球連盟坂城支部	坂城町	長野県軟式野球連盟
H22	八千穂柔道クラブ	佐久穂町	長野県柔道連盟
H22	佐久市ゲートボール連盟	佐久市	長野県ゲートボール連盟
H22	下諏訪町体育協会野球部	下諏訪町	諏訪郡体育協会
H22	上田剣道連盟	上田市	㈶上田市体育協会
H22	諏訪市弓道協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H22	茅野市弓道協会	茅野市	NPO法人茅野市体育協会
H23	安曇野市サッカー協会	安曇野市	㈳長野県サッカー協会
H23	飯田テニス協会	飯田市	長野県テニス協会
H23	長野県軟式野球連盟大北支部	池田町	長野県軟式野球連盟
H23	長野市柔道クラブ	長野市	長野県柔道連盟
H23	飯山市ゲートボール連盟	飯山市	長野県ゲートボール連盟
H23	ＮＰＯ法人富士見町体育協会バスケットボール部	富士見町	諏訪郡体育協会
H23	岡谷市バドミントン協会	岡谷市	㈶岡谷市体育協会
H23	茅野市山岳協会	茅野市	㈱茅野市体育協会
H24	大町市サッカー協会	大町市	㈳長野県サッカー協会
H24	佐久テニス協会	佐久市	長野県テニス協会
H24	長野吉田クラブ	長野市	長野県バスケットボール協会
H24	長野県軟式野球連盟岡谷支部	岡谷市	長野県軟式野球連盟
H24	辰野町柔道協会	辰野町	長野県柔道連盟
H24	飯田市ゲートボール連盟	飯田市	長野県ゲートボール連盟
H24	原村体育協会陸上部	原村	諏訪郡体育協会
H24	丸子体育協会	上田市	㈶上田市体育協会
H24	NPO法人諏訪市セーリング協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H24	茅野市バドミントン協会	茅野市	NPO法人茅野市体育協会
H25	松本市サッカー協会	松本市	一般社団法人長野県サッカー協会
H25	諏訪市テニス協会	諏訪市	長野県テニス協会
H25	御代田町体育協会テニス部	北佐久郡御代田町	長野県ソフトテニス協会
H25	長野県軟式野球連盟南長野支部	長野市	長野県軟式野球連盟
H25	本城柔道クラブ	東筑摩郡筑北村	長野県柔道連盟
H25	中野市ゲートボール連盟	中野市	長野県ゲートボール連盟
H25	岡谷市マレットゴルフ協会	岡谷市	公益財団法人岡谷市体育協会
H25	諏訪市空手道協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H25	飯山市硬式テニスクラブ	飯山市	飯水体育協会
H26	塩尻市サッカー協会	塩尻市	（一社）長野県サッカー協会
H26	長野県軟式野球連盟東筑支部	東筑摩郡筑北村	長野県軟式野球連盟
H26	須坂市少年柔道教室	須坂市	長野県柔道連盟
H26	東御市ゲートボール連盟	東御市	長野県ゲートボール連盟
H26	松川町体育協会	下伊那郡松川町	下伊那郡体育協会
H26	特定非営利活動法人下諏訪町体育協会バレーボール部	諏訪郡下諏訪町	諏訪郡体育協会
H26	諏訪市グライダー協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H27	木島平村ソフトテニス協会	木島平村	長野県ソフトテニス連盟
H27	長野県軟式野球連盟伊那市支部	伊那市	長野県軟式野球連盟
H27	松尾公民館柔道クラブ	飯田市	長野県柔道連盟
H27	安曇野市ゲートボール連盟	安曇野市	長野県ゲートボール連盟
H27	ＮＰＯ法人富士見町体育協会バレーボール部	富士見町	諏訪郡体育協会
H27	諏訪市ボート協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H28	長野県軟式野球連盟飯田支部	喬木村	長野県軟式野球連盟
H28	東御市柔道教室	東御市	長野県柔道連盟

年度	氏名	住所	備考
H28	進友会	岡谷市	長野県綱引連盟
H28	南箕輪村ゲートボール連盟	南箕輪村	長野県ゲートボール連盟
H28	原村体育協会女子バレーボール部	原村	諏訪郡体育協会
H28	諏訪市サッカー協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H29	上田市サッカー協会	上田市	一般社団法人長野県サッカー協会
H29	原村ゲートボール協会	原村	長野県ゲートボール連盟
H29	NPO法人下諏訪町体育協会陸上競技部	下諏訪町	諏訪郡体育協会
H29	諏訪市オリエンテーリング協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
H30	木曽郡サッカー協会	上松町	一般社団法人長野県サッカー協会
H30	須坂テニス協会	須坂市	長野県テニス協会
H30	諏訪市ソフトボール協会	諏訪市	諏訪市体育連盟
R１	佐久サッカー協会	佐久市	一般社団法人長野県サッカー協会
R１	茅野市テニス協会	茅野市	長野県テニス協会
R１	御代田町ゲートボール連盟	御代田町	長野県ゲートボール連盟
R１	原村スポーツ協会卓球部	原村	諏訪郡スポーツ協会
R１	諏訪市ゴルフ協会	諏訪市	諏訪市スポーツ協会
R２	箕輪町サッカー協会	箕輪町	一般社団法人長野県サッカー協会
R２	塩尻市相撲連盟	塩尻市	長野県相撲連盟
R２	駒ヶ根市ゲートボール支部	駒ヶ根市	長野県ゲートボール連盟
R２	特定非営利活動法人下諏訪町スポーツ協会弓道部	下諏訪町	諏訪郡スポーツ協会
R２	諏訪市ボウリング協会	諏訪市	諏訪市スポーツ協会
R２	みゆき野少年野球連盟	飯山市	飯水スポーツ協会
R３	岡谷市サッカー協会	岡谷市	一般社団法人長野県サッカー協会
R３	佐久穂町ゲートボール連盟	佐久穂町	長野県ゲートボール連盟
R３	富士見町スポーツ協会弓道部	富士見町	諏訪郡スポーツ協会
R３	諏訪市マレットゴルフ協会	諏訪市	諏訪市スポーツ協会

栄光章

年度	氏名	住所	備考
S 61	大　村　正　彦	南佐久郡臼田町	県スケート連盟
S 61	植　松　三恵子	諏訪市	県スケート連盟
S 61	浅　尾　恵　子	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
S 61	三　浦　　均	松本市	長野陸上競技協会
S 61	清　沢　利　安	松本市	県アマチュアボクシング連盟
S 61	耳　塚　善　門	南安曇郡穂高町	県自転車競技連盟
S 62	石　川　さゆり	世田谷区	県スケート連盟
S 62	関　　ナツエ	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
S 62	酒　井　浩　文	下伊那郡豊丘村	県陸上競技協会
S 63	水　野　里　美	岡谷市	県スケート連盟
S 63	戸　田　金　作	岡谷市	県スケート連盟
S 63	市　川　英　彦	世田谷区	県スケート連盟
S 63	渡　辺　一　樹	北安曇郡小谷村	㈶県スキー連盟
S 63	山　本　さち子	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
S 63	児　玉　和　興	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
S 63	酒　井　　弘	上水内郡信濃町	県陸上競技会
S 63	佐　藤　正　道	上水内郡小川村	県馬術連盟
S 63	三　村　由　紀	東筑摩郡朝日村	県空手道連盟
H01	上　原　三　枝	諏訪市	県スケート連盟
H01	堀　内　佳　子	埼玉県川越市	県スケート連盟
H01	菊　池　美千子	神奈川県川崎市	県スケート連盟
H01	依　田　智恵子	筑波市	県スケート連盟
H02	佐　藤　恒　樹	世田谷区	県スケート連盟
H02	小　平　　寛	埼玉県三郷市	県スケート連盟
H02	井　出　一　彦	川崎市	県スケート連盟
H02	田　中　稚　早	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟

年度	氏名	住所	備考
H02	津久井　哲	飯山市	㈶県スキー連盟
H02	田　原　一　正	北安曇郡小谷村	㈶県スキー連盟
H02	村　本　俊　治	小県郡真田町	㈶県スキー連盟
H02	佐々木（中島）和子	長野市	㈶県スキー連盟
H02	河野（片桐）勢津子	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H02	竹　田　彰　代	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H02	大　輪　嘉　孝	松本市	県ウエイトリフティング協会
H03	小　松　清　視	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H03	長　岡　秀　秋	北佐久郡軽井沢町	県スケート連盟
H03	島　崎　京　子	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H03	白　河　三　枝	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H03	富　井　真紀子	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	猪　又　由　美	長野市	㈶県スキー連盟
H03	富　井　弘　子	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	大　谷　妙　子	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H03	竹　田　真由巳	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H03	丸　山　直　樹	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H03	内　田　博　喜	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	片　桐　一　茂	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	佐　藤　功　一	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	畔　上　寿　次	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H03	佐々木　一　成	長野市	㈶県スキー連盟
H04	有　賀　千恵子	上伊那郡箕輪町	県スケート連盟
H04	田　中　千　景	茅野市	県スケート連盟
H04	内　藤　三　恵	南佐久郡八千穂村	県スケート連盟
H04	宮　部　行　範	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H04	今　井　博　幸	長野市	㈶県スキー連盟
H04	河　野　孝　典	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H04	富　井　　彦	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H05	今　井　裕　介	南佐久郡臼田町	県スケート連盟
H05	篠　原　淳　晃	世田谷区	県スケート連盟
H05	清　水　美　映	東筑摩郡朝日村	県スケート連盟
H05	野　明　弘　幸	世田谷区	県スケート連盟
H05	山　田　啓　子	長野市	県スケート連盟
H05	荻　原　健　司	長野市	㈶県スキー連盟
H05	堀　米　光　男	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H05	山　本　直　鋭	長野市	㈶県スキー連盟
H06	土　屋　和花子	東筑摩郡朝日村	県スケート連盟
H06	金　井　悦　子	埼玉県東松山市	県スケート連盟
H06	外ノ池　亜　希	茅野市	県スケート連盟
H06	田　中　慎　也	川崎市	県スケート連盟
H06	神　津　正　昭	川崎市	㈶県スキー連盟
H06	矢　島　正　恒	茅野市	県漕艇協会
H06	塩　原　正　長	松本市	県自転車競技連盟
H07	黒　沢　　誠	世田谷区	県スケート連盟
H07	矢　崎　文　也	千葉県流山市	県スケート連盟
H07	野　崎　千　春	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H07	佐　藤　恵美子	長野市	㈶県スキー連盟
H07	大　口　奈津美	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H08	相　澤　英　一	南佐久郡南牧村	県スケート連盟
H08	名　取　みのり	茅野市	県スケート連盟
H08	田　口　　優	南佐久郡川上村	県スケート連盟
H08	篠　原　浩一郎	世田谷区	県スケート連盟
H08	篠　原　裕太郎	神奈川県川崎市	県スケート連盟
H08	小須田　典　之	神奈川県川崎市	県スケート連盟
H08	中　嶋　昇　秀	千葉県流山市	県スケート連盟
H08	新　谷　志保美	上伊那郡宮田村	県スケート連盟
H08	宮　尾　憲　典	東京都中野区	㈶県スキー連盟

年度	氏名	住所	備考
H08	正　木　栄　二	下高井郡木島平村	㈶県スキー連盟
H08	平　井　進　悟	小諸市	県高等学校体育連盟・県アマチュアレスリング協会
H08	吉　澤　克　洋	南佐久郡南牧村	県高等学校体育連盟・県アマチュアレスリング協会
H09	大　竹　太　志	長野市	㈶県スキー連盟
H09	富　井　剛　志	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H09	平　沢　　岳	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H09	横　山　久美子	長野市	㈶県スキー連盟
H09	竹　脇　直　巳	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H09	青　戸　慎　司	愛知県豊田市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H09	山　田　映理子	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H09	柳　澤　し　の	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H09	高　橋　　敬	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H09	菊　池　裕　暁	埼玉県東松山市	県スケート連盟
H09	平　田　浩　一	東筑摩郡麻績村	県スケート連盟
H09	野　明　純　香	諏訪郡原村	県スケート連盟
H09	富　井　正　樹	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H09	森　　福　治	中野市	㈶県スキー連盟
H09	佐　藤　　威	長野市	㈶県スキー連盟
H09	田　島　大　助	木曽郡木曽福島町川西区	県相撲連盟
H09	徳　久　　瞳	諏訪郡下諏訪町	県中学校体育連盟・県柔道連盟
H10	上　原　寿　香	北佐久郡軽井沢町	県スケート連盟
H10	加　藤　将　司	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H10	篠　原　泰　洋	山梨県東八代郡石和町市部	県スケート連盟
H10	清　水　亮　平	世田谷区	県スケート連盟
H10	鈴　木　　智	埼玉県川越市	県スケート連盟
H10	高見沢　雅　彦	世田谷区	県スケート連盟
H10	竹ノ内　由　香	世田谷区	県スケート連盟
H10	中　嶋　敬　春	南佐久郡川上村	県スケート連盟
H10	那　須　功　宣	北安曇郡池田町	県スケート連盟
H10	宮　川　洋　平	神奈川県川崎市	県スケート連盟
H10	宮　嶋　若　菜	諏訪市	県スケート連盟
H10	安　田　有　希	世田谷区	県スケート連盟
H10	丹　下　智　幸	諏訪市	県水泳連盟
H10	保　坂　真理子	伊那市	県水泳連盟
H10	佐　藤　清　治	佐久市	県陸上競技連盟
H10	山　本　春　美	長野市	県陸上競技連盟
H10	岩　本　亜希子	埼玉県戸田市	県ボート協会
H10	高　橋　有紀子	神奈川県平塚市	県バレーボール協会
H10	小　林　可奈子	南安曇郡穂高町	㈶県体育協会
H10	宇田川　聡　仁	塩尻市	㈶県体育協会
H11	遠　藤　弘　恵	世田谷区	県スケート連盟
H11	大　木　房　美	埼玉県東松山市	県スケート連盟
H11	小　沢　　幸	塩尻市	県スケート連盟
H11	栗　林　美奈子	埼玉県松山市	県スケート連盟
H11	清　水　悠　紀	原村	県スケート連盟
H11	野　本　　繁	世田谷区	県スケート連盟
H11	宮　川　亮　祐	神奈川県川崎市	県スケート連盟
H11	大　井　将　憲	佐久市	県レスリング協会
H11	大　山　勝　広	世田谷区	㈶県スキー連盟
H11	高　橋　幸一郎	埼玉県所沢市	㈶県スキー連盟
H11	大日向　純　恵	神奈川県川崎市	㈶県スキー連盟
H11	越　　和　宏	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H11	宮　脇　健太郎	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H11	上　村　愛　子	長野市	㈶県スキー連盟
H12	大　菅　小百合	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H12	牛　山　貴　広	世田谷区	県スケート連盟
H12	加治木　　彩	駒ヶ根市	県スケート連盟
H12	原　　美　樹	南佐久郡川上村	県スケート連盟

年度	氏名	住所	備考
H12	飯　塚　容　子	岡谷市	県スケート連盟
H12	吉　井　小百合	茅野市	県スケート連盟
H12	有　川　未奈美	茅野市	県スケート連盟
H12	猪　又　一　之	北安曇野郡小谷村	㈶県スキー連盟
H12	畔　上　大　地	長野市	㈶県スキー連盟
H12	高　沢　公　治	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H12	佐　藤　絵里子	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
H12	駒　村　俊　介	大阪府大阪市	㈶県スキー連盟
H12	田　村　直　美	神奈川県川崎市	㈶県スキー連盟
H12	山　田　大　起	飯山市	㈶県スキー連盟
H12	柳　澤　　哲	江戸川区	長野陸上競技協会
H12	小　池　昭　彦	大阪府池田市	長野陸上競技協会
H12	藤　森　憲　秀	佐久市	長野陸上競技協会
H12	高　橋　有紀子	神奈川県平塚市	県バレーボール協会
H12	南　部　博　子	松本市	県自転車競技連盟
H12	鈴　木　雷　太	松本市	県自転車競技連盟
H13	石　黒　弘　希	埼玉県東松山市	県スケート連盟
H13	小　澤　美　夏	大阪府松原市	県スケート連盟
H13	小　平　奈　緒	茅野市	県スケート連盟
H13	酒　井　智　美	諏訪市	県スケート連盟
H13	鈴　木　　暢	南佐久郡臼田町	県スケート連盟
H13	羽　石　国　臣	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H13	大　澤　三津子	世田谷区	㈶県スキー連盟
H13	中　西　　拓	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H13	中　村　順　一	世田谷区	㈶県スキー連盟
H13	野　田　鉄　平	飯山市	㈶県スキー連盟
H13	橋　本　通　代	大阪府寝屋川市	㈶県スキー連盟
H13	丸　山　亮　子	愛知県豊田市	県水泳連盟
H13	高　田　浩　二	飯田市	長野陸上競技協会
H13	森　角　裕　介	神奈川県横浜市	県レスリング協会
H13	荒　木　久　佳	長野市	県馬術連盟
H13	佐　藤　賢　希	上水内郡小川村	県馬術連盟
H13	稲　田　　勝	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H13	小　口　貴　久	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H13	中　山　英　子	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H14	上　原　　龍	北佐久郡軽井沢町	県スケート連盟
H14	岡　谷　美由紀	諏訪市	県スケート連盟
H14	三　浦　あ　い	茅野市	県スケート連盟
H14	名　取　奈　緒	諏訪郡富士見町	県スケート連盟
H14	山　岡　聡　子	長野市	㈶県スキー連盟
H14	石　川　和　義	茨城県つくば市	長野陸上競技協会
H14	田　守　竹　夫	山梨県甲府市	県レスリング協会
H15	大　菅　淳　子	下諏訪町	㈶県スキー連盟
H15	佐　藤　克　憲	千葉県流山市	㈶県スキー連盟
H15	柏　原　暢　仁	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H15	田　島　あづみ	長野市	㈶県スキー連盟
H15	中　澤　章一郎	世田谷区	㈶県スキー連盟
H15	成　瀬　野　生	埼玉県所沢市	㈶県スキー連盟
H15	宮　下　　透	真田町	㈶県スキー連盟
H15	松　村　昌　一	下高井郡野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H15	山　室　　忠	八王子市	㈶県スキー連盟
H15	北　澤　勝　己	諏訪郡下諏訪町	県ボード協会
H15	牛　山　英　俊	諏訪郡下諏訪町	県ボード協会
H15	高　橋　龍　太	文京区	県レスリング協会
H15	前　島　信　彦	文京区	県レスリング協会
H15	佐　藤　英　賢	上水内郡小川村	県馬術連盟
H16	上　條　有　司	松本市	県スケート連盟
H16	井　出　絵理佳	東京都立川市	県スケート連盟

年度	氏名	住所	備考
H16	竹　田　征　吾	長野市	㈶県スキー連盟
H16	関　　朋　広	山ノ内町	㈶県スキー連盟
H16	中　込　由佳里	南佐久郡南牧村	県自転車競技連盟
H17	加　藤　条　治	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H17	妹　尾　栄里子	茅野市	県スケート連盟
H17	長　島　圭一郎	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
H17	酒　井　裕　唯	茅野市	県スケート連盟
H17	渡　部　暁　斗	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H17	畔　上　尚　子	中野市	㈶県スキー連盟
H17	西　森　亨　平	千曲市	㈶県スキー連盟
H17	清　川　　卓	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H17	長　岡　千　里	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H17	林　部　吾　郎	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H17	原　田　窓　香	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H17	佐　藤　　泰	小川村	県馬術連盟
H18	箱　山　愛　香	長野市	県水泳連盟
H18	塚　原　直　貴	神奈川県平塚市	県陸上競技協会
H18	宮　原　　雅	名古屋市	県アーチェリー協会
H18	浦　野　裕　之	駒ヶ根市	県アーチェリー協会
H18	名　取　英　理	甲府市	県スケート連盟
H18	松　田　富士人	北安曇郡小谷村	㈶県スキー連盟
H19	原　　宏　彰	南佐久郡川上村	県スケート連盟
H19	清　水　玲　香	茅野市	県スケート連盟
H19	小　口　絵　理	東京都世田谷区	県スケート連盟
H19	渡　部　善　斗	北安曇郡白馬村	㈶県スキー連盟
H19	斉　藤　　亮	飯山市	㈶県スキー連盟
H19	下　平　恵理華	川崎市	㈶県スキー連盟
H20	矢　澤　一　輝	東京都青梅市	県カヌー協会
H20	越　川　　優	大阪府茨木市	㈶バレーボール協会
H20	松　本　慶　彦	大阪府堺市	㈶バレーボール協会
H20	富　岡　直　希	横浜市	県レスリング協会
H20	宮　澤　崇　史	松本市	県自転車競技連盟
H20	大　森　千　草	下諏訪町	県柔道連盟
H20	湯　本　史　寿	新宿区	㈶県体育協会
H20	山　本　幸　平	松本市	㈶県体育協会
H20	大　岩　義　明	諏訪市	㈶県体育協会
H20	山　中　大　地	南佐久郡川上村	県スケート連盟
H21	小　原　唯　志	下諏訪町	県スケート連盟
H21	仁　科　有加那	下諏訪町	県スケート連盟
H21	吉　澤　純　平	東京都	県スケート連盟
H21	恩　田　祐　一	新潟県	㈶県スキー連盟
H21	柏　原　理　子	埼玉県	㈶県スキー連盟
H21	滝　沢　こずえ	山ノ内町	㈶県スキー連盟
H21	竹　内　　択	長野市	㈶県スキー連盟
H21	西　　伸　幸	神奈川県	㈶県スキー連盟
H21	福　島　のり子	白馬村	㈶県スキー連盟
H21	藤　森　由　香	長和町	㈶県スキー連盟
H21	松澤ジアン成治	伊那市	長野陸上競技協会
H21	田　山　真　輔	長野市	県ボブスレー・リュージュ連盟
H21	山　浦　麻　葉	御代田町	県カーリング協会
H22	志　村　　仁	下諏訪町	長野県弓道連盟
H22	市　川　隆　光	諏訪市	長野県弓道連盟
H22	中　村　健　斗	世田谷区	長野県スケート連盟
H22	菊　池　萌　水	南相木村	長野県スケート連盟
H22	川　浦　あすか	長野市	㈶長野県スキー連盟
H22	堀　米　翔　大	山ノ内町	㈶長野県スキー連盟
H22	栗　山　雄　大	所沢市	㈶長野県スキー連盟
H22	レンティング陽	所沢市	㈶長野県スキー連盟

年度	氏名	住所	備考
H23	藤　澤　　勇	甲府市	長野陸上競技協会
H23	柴　原　まりこ	調布市	長野県ダンススポーツ連盟
H23	小　林　拓　斗	川崎市	長野県スケート連盟
H23	菊　池　純　礼	南相木村	長野県スケート連盟
H24	佐　藤　悠　基	東京都	長野陸上競技協会
H24	瀧　澤　　彩	長野市	長野県高等学校体育連盟
H24	増　田　真七海	上田市	長野県馬術連盟
H24	新　井　　縁	富士見町	長野県スケート連盟
H24	辻　中　杏　奈	埼玉県	長野県スケート連盟
H24	大　林　昌　仁	川上村	長野県スケート連盟
H24	曽　我　こなみ	佐久市	長野県スケート連盟
H25	菊　池　彩　花	山梨県	長野県スケート連盟
H25	髙　木　菜　那	下諏訪町	長野県スケート連盟
H25	菊　原　魁　人	南相木村	長野県スケート連盟
H25	由　井　勇　矢	長野市	長野県スケート連盟
H25	松　澤　優花里	長野市	長野県スケート連盟
H25	藤　森　美　希	諏訪市	長野県スケート連盟
H25	山　田　梨　央	諏訪市	長野県スケート連盟
H25	山　田　優梨菜	白馬村	（公財）長野県スキー連盟
H25	伊　藤　み　き	長野市	（公財）長野県スキー連盟
H25	三　星　マナミ	野沢温泉村	（公財）長野県スキー連盟
H25	津　金　　恵	松本市	長野県柔道連盟　長野県高等学校体育連盟
H25	出口　クリスタ	塩尻市	長野県柔道連盟
H25	平　澤　敏　弘	豊丘村	長野県弓道連盟
H25	砥　石　真　衣	埼玉県	長野県ライフル射撃協会
H25	笠　原　大　輔	松本市	長野県山岳協会
H25	中　嶋　　徹	安曇野市	長野県山岳協会
H25	髙　橋　弘　篤	長野市	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
H25	笹　原　友　希	長野市	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
H25	加　藤　聖　五	野沢温泉村	長野県中学校体育連盟
H25	宮　崎　日香里	山ノ内町	長野県中学校体育連盟
H26	大　道　久　司	東京都	長野県相撲連盟
H26	青　木　唯　人	神奈川県	長野県スケート連盟
H26	上　地　一　馬	諏訪郡原村	長野県スケート連盟
H26	林　　莉　輝	南佐久郡川上村	長野県スケート連盟　長野県高等学校体育連盟
H26	大　塚　裕　華	北安曇郡白馬村	（公財）長野県スキー連盟
H26	栗　山　大　貴	神奈川県	（公財）長野県スキー連盟
H26	傳　田　英　郁	上田市	（公財）長野県スキー連盟
H26	内　田　亜汰瑠	下高井郡山ノ内町	（公財）長野県スキー連盟
H26	馬　場　直　人	下高井郡山ノ内町	長野県高等学校体育連盟
H26	本　間　有　次	下高井郡山ノ内町	長野県高等学校体育連盟
H26	笠　原　　陸	下高井郡山ノ内町	長野県高等学校体育連盟
H26	渡　邉　祐　佳	下高井郡木島平村	長野県高等学校体育連盟
H26	小　林　千　佳	飯山市	長野県高等学校体育連盟
H26	髙　橋　汰　門	下高井郡木島平村	長野県中学校体育連盟
H26	髙　橋　莉　那	北安曇郡白馬村	長野県中学校体育連盟
H27	佐　藤　　綾	新潟県	長野県水泳連盟　須坂市体育協会
H27	菊　池　悠　希	南相木村	長野県スケート連盟
H27	松　本　芽　依	伊那市	長野県スケート連盟
H28	荒　井　広　宙	埼玉県和光市	（一財）長野陸上競技協会
H28	川　元　　奨	東京都世田谷区	（一財）長野陸上競技協会
H28	溝　口　友己歩	埼玉県所沢市	（一財）長野陸上競技協会
H28	祢　津　利　宝	木島平村	長野県中学校体育連盟
H28	祖父江　　凛	飯山市	長野県中学校体育連盟
H28	永　峯　寿　樹	東京都中野区	（公財）長野県スキー連盟
H29	須　藤　美　紅	長野市	長野県水泳連盟
H29	藤　原　茉　那	長野市	長野県水泳連盟
H29	宮　坂　　楓	神奈川県横浜市	一般財団法人長野陸上競技協会

年度	氏名	住所	備考
H29	嶺　村　鴻　汰	東京都町田市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	和　田　有　菜	長野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	久保田　　拓	神奈川県横浜市	長野県高等学校体育連盟
H29	奥　原　希　望	東京都葛飾区	大町市体育協会
H29	一　戸　誠太郎	長野市	長野県スケート連盟
H29	ウイリアムソン師円	下諏訪町	長野県スケート連盟
H29	神　長　汐　音	南牧村	長野県スケート連盟
H29	長谷川　　翼	下諏訪町	長野県スケート連盟
H29	今　井　胡　桃	上田市	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	岩　渕　香　里	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	渡　部　由梨恵	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	小　口　貴　子	長野市	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
H30	北　澤　　彩	神奈川県	長野県スケート連盟
H30	水　野　彩　萌	山梨県	長野県スケート連盟
H30	小　池　佑　奈	茅野市	長野県スケート連盟
H30	樋　　沙　織	群馬県	長野県スケート連盟
H30	塩　川　貫　太	神奈川県	長野県レスリング協会
H30	小　柳　和　也	埼玉県	長野県レスリング協会
H30	外　谷　涼　太	信濃町	長野県高等学校体育連盟
R１	山　浦　美和子	佐久穂町	長野県スケート連盟
R１	和　田　彩　未	千曲市	一般社団法人長野県水泳連盟
R１	佐々木　風　雅	上田市	長野県レスリング協会
R１	倉　坪　克　拓	岡谷市	長野県スケート連盟　長野県高等学校体育連盟
R１	福　岡　歩　里	茅野市	長野県スケート連盟
R１	新　井　雄　貴	南牧村	長野県スケート連盟
R１	大　門　飛　路	南牧村	長野県スケート連盟
R１	岩　下　　楓	山梨県	長野県スケート連盟
R１	山　﨑　優　風	山ノ内町	長野県中学校体育連盟
R１	小　林　皓　生	飯山市	長野県高等学校体育連盟
R１	小　島　宙　輝	新潟県	長野県高等学校体育連盟
R１	沓　掛　隼　士	信濃町	長野県高等学校体育連盟
R１	今　溝　陽名子	白馬村	長野県高等学校体育連盟
R２	松　本　一　成	茅野市	長野県スケート連盟　長野県高等学校体育連盟
R２	笠　原　　将	山ノ内町	長野県高等学校体育連盟
R２	中　島　果　歩	山ノ内町	長野県高等学校体育連盟
R２	渡　邉　愛　蓮	長野市	長野県高等学校体育連盟
R３	矢　澤　亜　季	東京都	長野県カヌー協会
R３	萩　谷　　楓	大阪府	一般財団法人長野陸上競技協会
R３	デーデー　ブルーノ	神奈川県	一般財団法人長野陸上競技協会
R３	井　出　雄　斗	南牧村	長野県スケート連盟　長野県高等学校体育連盟
R３	髙見澤　匠　冴	南牧村	長野県スケート連盟
R３	小　池　克　典	茅野市	長野県スケート連盟
R３	菊　池　耕　太	南牧村	長野県スケート連盟
R３	竹　内　美　琴	飯山市	長野県高等学校体育連盟
R３	山　本　涼　太	木島平村	公益財団法人長野県スキー連盟
R３	近　藤　心　音	白馬村	公益財団法人長野県スキー連盟
R３	杉　本　幸　祐	山形村	公益財団法人長野県スキー連盟
R３	原　　大　智	白馬村	公益財団法人長野県スキー連盟
R３	小　林　誠　也	飯綱町	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

栄光章（特別）

年度	氏名	住所	備考
H09	清　水　宏　保	下諏訪町	県スケート連盟
H09	島　崎　京　子	下諏訪町	県スケート連盟
H09	野　明　弘　幸	原村	県スケート連盟
H09	田　中　千　影	茅野市	県スケート連盟

年度	氏名	住所	備考
H09	小　澤　　幸	甲府市	県スケート連盟
H09	篠　原　祐　剛	石和町	県スケート連盟
H09	荻　原　健　司	長野市	㈶県スキー連盟
H09	荻　原　次　晴	長野市	㈶県スキー連盟
H09	森　　敏	野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H09	富　井　　彦	野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H09	今　井　博　幸	長野市	㈶県スキー連盟
H09	堀　米　光　男	山ノ内町	㈶県スキー連盟
H09	上　村　愛　子	白馬村	㈶県スキー連盟
H09	佐　藤　　浩	松本市	県カーリング協会
H13	篠　原　祐　剛	原村	県スケート連盟
H13	田　中　千　影	茅野市	県スケート連盟
H13	外ノ池　亜　希	茅野市	県スケート連盟
H13	今　井　博　幸	長野市	㈶県スキー連盟
H13	上　村　愛　子	白馬村	㈶県スキー連盟
H13	荻　原　健　司	長野市	㈶県スキー連盟
H13	富　井　　彦	札幌市	㈶県スキー連盟
H13	森　　敏	野沢温泉村	㈶県スキー連盟
H13	山　田　大　起	長野市	㈶県スキー連盟
H13	越　　和　宏	長野市	県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟
H17	牛　山　貴　弘	長野市	県スケート連盟
H17	大　菅　小百合	下諏訪町	県スケート連盟
H17	田　中　千　影	岡谷市	県スケート連盟
H17	上　村　愛　子	白馬村	㈶県スキー連盟
H20	塚　原　直　貴	伊勢原市	長野陸上競技協会
H21	小　澤　美　夏	大阪府	県スケート連盟
H21	加　藤　条　治	下諏訪町	県スケート連盟
H21	小　平　奈　緒	松本市	県スケート連盟
H21	酒　井　裕　唯	東京都	県スケート連盟
H21	長　島　圭一郎	下諏訪町	県スケート連盟
H21	吉　井　小百合	下諏訪町	県スケート連盟
H21	上　村　愛　子	長野市	県スケート連盟
H21	渡　部　暁　斗	東京都	県スケート連盟
H25	箱　山　愛　香	長野市	長野県水泳連盟
H25	加　藤　条　治	長野市	長野県スケート連盟
H25	長　島　圭一郎	東京都	長野県スケート連盟
H25	小　平　奈　緒	長野市	長野県スケート連盟
H25	酒　井　裕　唯	東京都	長野県スケート連盟
H25	渡　部　暁　斗	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H25	竹　内　　択	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H25	上　村　愛　子	白馬村	公益財団法人長野県スキー連盟
H25	渡　部　善　斗	白馬村	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	菊　池　悠　希	南相木村	長野県スケート連盟
H29	小　平　奈　緒	長野市	長野県スケート連盟
H29	髙　木　菜　那	下諏訪町	長野県スケート連盟
H29	山　中　大　地	長野市	長野県スケート連盟
H29	竹　内　　択	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	藤　森　由　香	長和町	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	渡　部　暁　斗	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H29	渡　部　善　斗	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
Ｒ３	髙　木　菜　那	下諏訪町	長野県スケート連盟
Ｒ３	菊　池　純　礼	南相木村	長野県スケート連盟
Ｒ３	渡　部　暁　斗	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
Ｒ３	渡　部　善　斗	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟

栄光章（団体）

年度	氏名	住所	備考
S61	弓道連盟　成年女子チーム	岡谷市	県弓道連盟
S62	茅野クラブ（軟式野球少年男子）	茅野市	県軟式野球連盟
H01	第44回国体弓道競技成年男子チーム	伊那市	県弓道連盟
H06	中野実業高等学校　スキー部	中野市	県スキー連盟
H06	セイコーエプソンバレー部	塩尻市	県バレーボール協会
H07	佐久長聖高等学校　スケート部	佐久市	県スケート連盟・県高等学校体育連盟
H07	飯山南高等学校スキー部	飯山市	県スキー連盟・県高等学校体育連盟
H07	塩田中学校ソフトテニス部	上田市	県中学校体育連盟
H08	長野教員バレーボールクラブ	岡谷市	県バレーボール協会
H08	裾花中学校女子バレー部	長野市	県中学校体育連盟
H11	岡谷工業高等学校男子バレーボール部	岡谷市	県高体連　県バレーボール協会
H12	東海第三高校スケート部	茅野市	県高体連　県スケート連盟
H12	飯山南高校スキー部	飯山市	県高体連　県スキー連盟
H12	茅野市北部中学校スケート部	茅野市	県高体連　県スケート連盟
H12	川上中学校スケート部	南佐久郡川上村	県高体連　県スケート連盟
H15	佐久長聖高校駅伝部	佐久市	長野陸上競技協会
H15	全国都道府県対抗駅伝県男子チーム	上伊那郡箕輪町	長野陸上競技協会
H15	県選抜バレーボール少年男子	岡谷市	㈶県バレーボール協会
H17	裾花中学校女子バレー部	長野市	㈶県バレーボール協会
H17	進友会	岡谷市	県綱引連盟
H17	全国都道府県対抗駅伝県男子チーム	上伊那郡箕輪町	長野陸上競技協会
H17	飯山南高校スキー部	飯山市	㈶県スキー連盟
H20	全国都道府県対抗男子駅伝長野県チーム	上田市	長野陸上競技協会
H20	スケートスピード競技成年男子2000mリレーチーム	岡谷市	㈶県体育協会
H20	スケートスピード競技成年女子2000mリレーチーム	岡谷市	㈶県体育協会
H20	スケートスピード競技少年男子2000mリレーチーム	岡谷市	㈶県体育協会
H20	スケートスピード競技少年女子2000mリレーチーム	岡谷市	㈶県体育協会
H20	スケートショートトラック成年女子3000mリレーチーム	岡谷市	㈶県体育協会
H20	スキー　クロスカントリー成年男子４×10㎞リレーチーム	長野市	㈶県体育協会
H20	スキー　クロスカントリー少年男子４×10㎞リレーチーム	長野市	㈶県体育協会
H20	スキー　クロスカントリー女子４×５㎞リレーチーム	長野市	㈶県体育協会
H22	セイコーエプソン女子バレーボール部	塩尻市	㈶長野県バレーボール協会
H29	都道府県対抗駅伝男子長野県チーム	長野市	（一財）長野陸上競技協会
H29	国体弓道競技長野県成年男子	伊那市	長野県弓道連盟
H30	飯山高等学校スキー部	飯山市	長野県高等学校体育連盟
H30	伊那西高等学校新体操部	伊那市	長野県高等学校体育連盟
H30	クロスカントリー成年男子４×10kmリレーチーム	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H30	クロスカントリー少年男子４×10kmリレーチーム	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H30	クロスカントリー女子４×５kmリレーチーム	長野市	公益財団法人長野県スキー連盟
H30	佐久長聖高等学校駅伝部	佐久市	長野県高等学校体育連盟
R１	飯山高等学校スキー部	飯山市	長野県高等学校体育連盟
R２	全国都道府県対抗駅伝長野県男子チーム	長野市	一般財団法人長野陸上競技協会

勲功章

年度	氏名	住所	備考
S 61	牛　山　雅　弘	茅野市	県スケート連盟
S 61	千　代　馨　脩	岡谷市	長野陸上競技協会
S 62	鷹　野　　隆	岡谷市	県スケート連盟
S 62	藤　本　勝　彦	長野市	県陸上競技協会
S 63	畠　山　睦　夫	岡谷市	県スケート連盟
S 63	佐　藤　志　郎	長野市	㈶県スキー連盟
S 63	横　山　康　司	飯田市	県弓道連盟
H１	小宮山　みよ子	北佐久郡御代田町	県スケート連盟
H２	平　手　則　男	茅野市	県スケート連盟
H２	長　橋　秋　男	長野市	県弓道連盟

年度	氏名	住所	備考
Ｈ４	石　幡　忠　雄	諏訪郡下諏訪町	県スケート連盟
Ｈ５	竹　節　秀千代	下高井郡山ノ内町	㈶県スキー連盟
Ｈ６	青　木　成　雄	諏訪市	県漕艇協会
Ｈ７	井　出　敏　彦	諏訪市	県スケート連盟
Ｈ７	大　島　英　夫	飯山市	㈶県スキー連盟
Ｈ７	浦　野　義　忠	長野市	長野陸上競技協会
Ｈ７	村　上　里　志	塩尻市	県バレーボール協会
Ｈ８	岡　田　隆　安	長野市	県バレーボール協会
Ｈ８	藤　原　武　男	松本市	県空手道協会
Ｈ９	壬　生　義　文	岡谷市	県バレーボール協会
H10	柄　沢　深　志	上田市	県高等学校体育連盟・県ソフトテニス連盟
H11	降　旗　教　彦	三郷村	県スケート連盟
H11	中　嶋　則　行	佐久市	県レスリング協会
H13	畠　山　義　人	佐久市	県スケート連盟
H15	土　屋　幸　彦	軽井沢町	県スケート連盟
H16	今　村　俊　明	岡谷市	県スケート連盟
H16	青　木　　悟	下諏訪町	県ボート協会
H17	宮　坂　雅　昭	下諏訪町	県スケート連盟
H20	北　澤　忠　弘	諏訪市	長野陸上競技協会
H20	両　角　　速	佐久市	長野陸上競技協会
H21	西　澤　民　雄	千曲市	長野陸上競技協会
H21	渡　島　正　次	松川村	長野陸上競技協会
H22	遠　山　正　洋	箕輪町	長野陸上競技協会
H22	井　出　真　一	上田市	県レスリング協会
H22	北　嶋　　晋	伊那市	県弓道連盟
H25	内　田　まゆみ	長野市	県水泳連盟
H25	山　口　泰　志	松本市	県柔道連盟
H25	新　津　一　夫	長野市	県弓道連盟
H25	関　川　孝　雄	長野市	県ライフル射撃協会
H25	森　山　議　雄	長野市	県山岳協会
H25	中　嶋　岳　志	安曇野市	県山岳協会
H26	尾羽林　英　樹	長野市	長野県相撲連盟
H26	田　中　直　人	飯山市	（公財）長野県スキー連盟
H27	大　坪　章　男	飯田市	一般財団法人長野陸上競技協会
H28	新　谷　純　夫	宮田村	長野県スケート連盟
H28	玉　城　良　二	長野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	北　島　正　孝	長野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	篠　原　克　修	茅野市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	中　村　一　郎	大町市	一般財団法人長野陸上競技協会
H29	永　藤　　聡	須坂市	長野県弓道連盟
H29	黒　沢　　誠	佐久市	長野県高等学校体育連盟
H29	富　井　正　一	長野市	長野県高等学校体育連盟
H29	結　城　匡　啓	長野市	長野県スケート連盟
H30	井　出　　優	小諸市	長野県レスリング協会
H30	橋　爪　みすず	伊那市	長野県高等学校体育連盟
H30	河　野　安　雄	飯山市	長野県高等学校体育連盟
H30	髙　橋　幸一郎	飯山市	長野県高等学校体育連盟
Ｒ１	平　井　進　悟	上田市	県レスリング協会
Ｒ１	野　明　弘　幸	下諏訪町	県高等学校体育連盟
Ｒ２	牛　山　通　髙	須坂市	一般財団法人長野陸上競技協会
Ｒ２	久保田　真一郎	野沢温泉村	長野県高等学校体育連盟
Ｒ３	今　井　一　仁	塩尻市	一般財団法人長野県バレーボール協会
Ｒ３	市　川　和　彦	小海町	長野県高等学校体育連盟
Ｒ３	住　澤　祐　樹	長野市	長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

4　冬季アスリート発掘･育成事業(SWANプロジェクト)の歩み

1998年（平成10年）長野冬季オリンピックから10年目を迎えようとしている2007年（平成19年）に、文部科学省の委託事業である「国際舞台で活躍するアスリートのためのタレント発掘モデル事業」が全国展開された。

本県でも長野オリンピック開催後の冬季競技における競技成績の低下、競技者の減少等が課題となっており、２年間の調査や研究、検討会議等を経て、2009年（平成21年）に「長野県タレント発掘事業」として展開することとなった。

長野県スポーツ振興計画（現在：県スポーツ推進計画）に沿った競技力向上の視点に立ち、長野オリンピックの遺産である人的･物的･環境資源を最大限に活用しながら、世界で活躍する競技者となる夢とチャンスを与えることを目的とし、さらに現在でも最重点として掲げている「冬季オリンピックでのメダリストの輩出」をSWAN（Superb Winter Athlete NAGANO）プロジェクト（以下「SWAN」という。）の活動理念として位置づけた。

この年の４月に第１回実行委員会を開催し、翌月には、選考部会・育成部会をスタートさせた。９月に県内外から募集（小学４年生～５年生、高校生以上）を開始し、応募者173名から１次・２次の選考会を実施した結果、23名が選考され第１期生としての育成がスタートを切った。

当初、育成内容としては、３つのコースを設定し、それぞれコース別で募集を行い、育成プログラムを実施した。Ａコースは、高校生以上を対象とし、ボブスレー・スケルトン及びカーリング競技に種目特化した内容でプログラムを実施。Ｂ・Ｃコースは、小学校４年・５年生を対象に中学卒業までの育成期間で、スケート（スピード、ショート）、スキー（アルペン、クロスカントリー、ジャンプ、コンバインド、スノーボード、フリースタイル）、リュージュ、スケルトン、カーリング競技のプログラムを実施する。その後、募集種目については、競技者人口の増加及び減少、利用施設の制限などが要因となり、現在（13期生）の１コース、４種目（スケート（スピード）、スキー（アルペン、クロスカントリー、モーグル、スノーボード）、リュージュ・スケルトン、カーリングとなる。

育成プログラムの内容は、当初からフィジカルトレーニングやメンタルトレーニング、栄養学、オリンピック教育など、SWANの専門トレーナーが指導する共通プログラムと、競技団体による強化トレーニングの種目別プログラムの２本柱としている。２年目からは、それらのプログラムを融合する形で２泊３日の夏合宿を開催し、年度による会場の違いはあるが、メンバーからは大変好評であり、現在でも主要なプログラムとして位置づいている。

また、2018年（平成30年）には、種目別プログラムとして初のスピードスケート夏季合宿を計画し、SWANメンバー４名、指導者・スタッフ６名で北海道帯広市の屋内スケートリンクでのトレーニングを実施した。翌年2019年（令和元年）には、帯広合宿に加え、初の海外合宿であるリュージュのドイツ合宿（８日間）を計画し、SWANメンバー２名、スタッフ３名で現地のジュニア選手とともに氷上トレーニングを実施した。

2021年（令和３年）には､夏のスケート八戸合宿に加え､秋にスキーアルペンの日帰り２日間のミニキャンプを野沢温泉村サマーゲレンデで計画し、SWANメンバー29名、指導者４名、スタッフ３名で実施をした。コーチから熱心な指導を受け、雪上でのトレーニングに備えることができた。

共通プログラムの大きな転換期は、2019年（令和元年）からの世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症の拡大によるスポーツ環境の変化である。全国一斉に緊急事態宣言が発令され、私たちの日常生活はもちろん､スポーツ界でもオリンピックをはじめ､各種大会が延期や中止となり､メンバーの目標でもあった全国中学校体育大会も2020年には夏冬ともに中止となった。

このような状況では、通常のような一堂に会してのトレーニングは実施ができなかったため、フィジカルトレーナーや座学での講師の先生方の協力で、トレーニングや講義の動画を作成し、YouTube配信等によりメンバーに提供をした。通信機器を利用したオンラインによる遠隔指導や電話相談等も加わり、個に対応したプログラム内容の重要性に着眼するようになった。

SWANでは、「全国規模の大会等において、多くの優勝者及び入賞者を輩出する」ことを重点目標の筆頭としている。学年進行のため2011年（平成23年）から中学生メンバーの在籍者数が増えることとなるが、スケートについては、概ね８割のメンバーが全国中学校体育大会に出場を果たしている。スキーについては、５割のメンバーが出場を果たしている。2015年（平成27年）前後では、他の競技も含め優勝者及び入賞者を多く輩出し、国際大会での入賞者も輩出するまでに至ったが、それ以降は、入賞者数の減少が続いている。また、SWAN修了後、競技を継続したメンバーについては、全国高校総合体育大会、国民体育大会、全日本選手権大会、ワールドカップ等の国際大会などで活躍をしている。

特に、SWANの理念である「冬季オリンピックでのメダリストの輩出」については、2022年（令和４年）に中国北京で開催された冬季オリンピックにSWAN修了者から初のオリンピック出場者が３名誕生した。今後、オリンピックメダリストの輩出に向け、さらに高みを目指し、魅力あるSWANへと発展させていきたい。

フィジカルトレーニング

栄養学講義

2019年リュージュ　ドイツ合宿

オンラインでのトレーニング

○応募者数と合格者数の推移

期	１期生	２期生	３期生	４期生	５期生	６期生	７期生	８期生	９期生	10期生	11期生	12期生	13期生
年度	2009年（平成21年）	2010年（平成22年）	2011年（平成23年）	2012年（平成24年）	2013年（平成25年）	2014年（平成26年）	2015年（平成27年）	2016年（平成28年）	2017年（平成29年）	2018年（平成30年）	2019年（令和元年）	2020年（令和２年）	2021年（令和３年）
応募者数	173	114	86	69	60	71	76	86	57	80	43	50	44
合格者数	24	18	22	16	18	15	16	21	10	12	12	12	13

○全国中学校体育大会の入賞者数の推移

年度	中学生人数		スケート						スキー					
	スケート	スキー	優勝		入賞（２～８位）		出場		優勝		入賞（２～10位）		出場	
			総数	実人数	総数	実人数	総数	実人数	総数	実人数	総数	実人数	総数	実人数
2011(H23)	4	8	0	0	0	0	6	3	0	0	1	1	1	1
2012(H24)	14	11	0	0	0	0	21	11	0	0	1	1	6	4
2013(H25)	17	20	1	1	3	3	34	17	1	1	3	3	14	8
2014(H26)	18	23	0	0	8	4	30	16	1	1	6	5	20	12
2015(H27)	11	25	3	3	6	5	16	8	3	3	10	7	23	13
2016(H28)	8	27	0	0	5	3	14	7	1	1	6	4	20	13
2017(H29)	3	15	0	0	4	2	6	3	0	0	4	3	10	8
2018(H30)	4	20	0	0	3	2	7	4	4	3	9	4	16	9
2019(R１)	4	16	0	0	3	2	8	4	0	0	1	1	7	5
2020(R２)	3	22	新型コロナウイルス感染症の影響により開催中止											
2021(R３)	3	24	0	0	4	2	6	3	0	0	2	1	18	11

○北京冬季オリンピック出場者（SWAN修了者）

名前（年齢）	競技種目	期生	出身地・経歴等	競技結果
小林　誠也（20才） （こばやし　せいや）	リュージュ 男子１人乗り	5	飯綱町立三水第二小学校 飯綱町立飯綱中学校 長野工業高等学校建築科 信州スポーツ医療福祉専門学校２年	予選　１回目（１分00秒856）31位 ２回目（１分00秒919）32位 ３回目（59秒859） 合計タイム ３分01秒634　32位 予選敗退
近藤　心音（18才） （こんどう　ここね）	フリースタイルスキー 女子スロープスタイル 女子ビッグエア	5	白馬村立白馬北小学校 白馬中学校 白馬高校・ＮＨＫ学園 オリエンタルバイオ㈱所属	大会公式練習中の怪我により欠場
富高日向子（21才） （とみたか　ひなこ）	フリースタイルスキー 女子モーグル	2	東京都町田市立町田第５小学校 東京都町田市立金井中学校 クラーク記念国際高校（厚木キャンパス）多摩大学３年	予選　１回目（65.08点）18位 ２回目（71.93点）４位 決勝進出 決勝　１回目（69.99点）19位 敗退

○ＳＷＡＮの由来

SWANは、Superb Winter Athlete NAGANOの頭文字です。

冬季競技に特化したタレント発掘事業なので、雪の結晶をデザインし、雪の結晶を小・中・大と３つ配置することによりメンバーが大きく育っていくことをイメージしています。

また、SWANが羽ばたく、世界に羽ばたくイメージを重ねています。冬季競技で将来のメダリストを目指してもらいたいという願いを込めて金色の縁取りとしました。

SWANのWは、VictoryのVを二つ並べたデザインとしました。

5　賛助会員加入状況

年　度	加入区分	件　数	口　数	金　額（円）	前年対比（円）
平成18年	法人	9	16	160,000	
	個人	79	113	565,000	
	計	88	129	725,000	
平成19年	法人	86	136	1,355,080	1,195,080
	個人	79	97	485,000	△ 80,000
	計	165	233	1,840,080	
平成20年	法人	85	113	1,130,000	△ 225,080
	個人	184	215	1,075,000	590,000
	計	269	328	2,205,000	364,920
平成21年	法人	88	123	1,230,000	100,000
	個人	208	232	1,160,000	85,000
	計	296	355	2,390,000	185,000
平成22年	法人	88	123	1,230,000	0
	個人	189	209	1,045,000	△ 115,000
	計	277	332	2,275,000	△ 115,000
平成23年	法人	86	114	1,140,000	△ 90,000
	個人	118	137	685,000	△ 360,000
	計	204	251	1,825,000	△ 450,000
平成24年	法人	106	157	1,570,000	430,000
	個人	105	121	605,000	△ 80,000
	計	211	278	2,175,000	350,000
平成25年	法人	128	193	1,930,000	360,000
	個人	102	127	635,000	30,000
	計	230	320	2,565,000	390,000
平成26年	法人	132	219	2,190,000	260,000
	個人	100	116	580,000	△ 55,000
	計	232	335	2,770,000	205,000
平成27年	法人	137	229	2,289,892	99,892
	個人	115	149	745,000	165,000
	計	252	378	3,034,892	264,892
平成28年	法人	136	223	2,229,676	△ 60,216
	個人	115	144	720,000	△ 25,000
	計	251	367	2,949,676	△ 85,216
平成29年	法人	130	220	2,200,000	△ 29,676
	個人	119	148	740,000	20,000
	計	249	368	2,940,000	△ 9,676
平成30年	法人	126	225	2,249,892	49,892
	個人	107	130	650,000	△ 90,000
	計	233	355	2,899,892	△ 40,108
令和元年	法人	120	208	2,079,892	△ 170,000
	個人	103	128	641,000	△ 9,000
	計	223	336	2,720,892	△ 179,000
令和２年	法人	115	204	2,039,340	△ 40,552
	個人	104	122	610,000	△ 31,000
	計	219	326	2,649,340	△ 71,552
令和３年 ※R4.3.1現在	法人	111	195	1,949,890	△ 89,450
	個人	105	124	620,000	10,000
	計	216	319	2,569,890	△ 79,450

令和3年度 長野県のスポーツを応援しよう！

賛助会員募集

国民体育大会等に派遣される県内のスポーツ選手・スポーツチームの激励やスポーツの振興を目的とした当協会の事業にご賛同いただき、毎年一定額を賛助会費としてご寄附くださる方を募集します。

賛助会費
個人会員 1口… 5,000円／年
法人会員 1口…10,000円／年
※いずれも1口以上お願いします。

□表彰状と同じデザインの会員章（金写真）を発行いたします。
□年1回程度の本会広報誌（メルマガ）をお送りいたします。
□本部により、会員専用ページ（ホームページ）などにご紹介や活動を掲載いたします。

当協会に対する賛助会費には、法人、個人それぞれに税法上の優遇措置が適用されます。
詳しくはホームページをご覧ください。
http://www.nagano-sports.or.jp/
賛助の申し込み用紙に記入し、郵送またはＦＡＸにより申し込みください。郵送用紙をお送りいたします。
（協会事務局までご連絡）

加入のお申し込み・お問い合わせ先

公益財団法人長野県スポーツ協会
〒380-0872 長野市大字地長野字聖徳545-1
電話(026)235-3483 FAX(026)232-6528
E-mail:naganoken@japan-sports.or.jp

FAXでのお申し込みは 026-232-6528

賛助会加入のお願い

当協会は、加盟する競技団体や都市スポーツ協会と力を合わせて、国体などで活躍できる選手の育成や生涯スポーツの普及など様々な事業に取り組んでいます。スポーツ人口の増加とスポーツの社会的役割の多様化から、事業の充実が今まで以上に求められておりますことから、賛助会員制度を設け、スポーツの推進を目的とした事業に活用させていただいております。

皆様にはこの趣旨をご理解いただき、賛助会員として本県スポーツの推進と当協会の活動にご支援を賜りますよう心からお願いいたします。

公益財団法人長野県スポーツ協会 理事長　林　春幸

公益財団法人長野県スポーツ協会賛助会員申込書

令和　　年　　月　　日

公益財団法人長野県スポーツ協会の趣旨に賛同し、以下のとおり賛助会員として加入を申し込みます。

※印は記入必須事項です

※加入区分	1．法　人・団　体　　2．個　人（該当する番号に○をしてください）
※申込者名	氏名 又は 法人・団体名（法人格名称は省略せずに正確にお書きください） ふりがな （法人・団体の代表者名） 法人・団体はご担当者名を記入してください。 所属　　ご担当者名
※住　所（所在地）	〒　　－
※電話番号	（　　）　　－
ＦＡＸ	（　　）　　－
ホームページアドレス	http://www.
※口数・金額	（　　）口　金額（　　）円 法人・団体1口1万円以上、個人1口5千円以上をお願いします。
※会員名公表の可否	1．公表してもよい　　2．公表したくない（該当する番号に○をしてください）

※申込書の記載内容は、当協会事業にのみ使用しその目的以外には使用いたしません。

がんばれ！TEAM長野

6　第82回国民スポーツ大会について

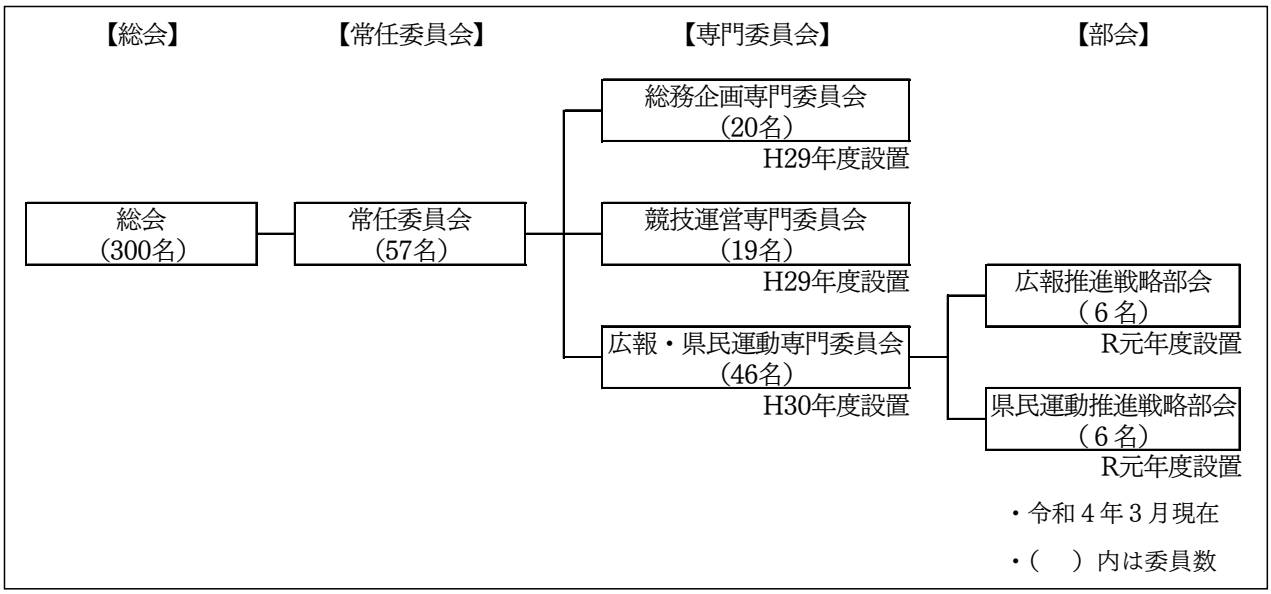
1　開催時期

⑴　冬季大会：令和10年（2028年）１月～２月（５日間以内）
⑵　本 大 会：令和10年（2028年）９月～10月（11日間以内）

2　主な招致及び準備経過

年　月　日	内　容
平成28年６月29日	（公財）長野県体育協会理事長から、２巡目国体招致要望書が提出される。
	（特非）長野県障がい者スポーツ協会理事長から、第27回全国障害者スポーツ大会招致要望書が提出される。
平成28年11月28日	長野県市長会会長から、２巡目国体招致に関する要望書が提出される。
平成28年12月12日	長野県町村会会長から、国民体育大会及び全国障害者スポーツ大会の開催招致に関する要望書が提出される。
平成29年２月２日	（一社）長野県経営者協会会長、長野県中小企業団体中央会会長、（一社）長野県商工会議所連合会会長、長野県商工会連合会会長の連名により、２巡目国民体育大会及び第27回全国障害者スポーツ大会の招致に関する要望書が提出される。
平成29年３月２日	平成29年２月長野県議会において、「第82回国民体育大会及び第27回全国障害者スポーツ大会の招致に関する決議」を全会一致で可決
平成29年５月22日	文部科学大臣あてに、第82回国民体育大会（本大会及び冬季大会）及び第27回全国障害者スポーツ大会開催要望書を提出
	（公財）日本体育協会会長あてに、第82回国民体育大会（本大会及び冬季大会）開催要望書を提出
平成29年７月18日	（公財）日本体育協会理事会において、長野県を2027年開催の第82回国民体育大会（本大会及び冬季大会）の開催申請書提出県として了解（開催内々定）
平成29年12月20日	第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会 設立総会・第１回総会及び第１回常任委員会を開催
令和２年10月19日	（公財）日本スポーツ協会から、長野県を令和10年（2028年）開催の第82回国民スポーツ大会（冬季大会及び本大会）の開催申請書提出県として決定通知（開催年変更）
令和２年12月18日	県準備委員会会則の改正により、第82回大会の名称を「国民体育大会」から「国民スポーツ大会」に、県準備委員会の名称を「第82回国民体育大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会」から「第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会」に変更

３　第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会長野県準備委員会



４　第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会 愛称、スローガン及びマスコットキャラクター

⑴　愛称
　信州やまなみ国スポ・全障スポ

⑵　スローガン
　行こう。それぞれの頂へ。

⑶　マスコットキャラクター
　長野県ＰＲキャラクター「アルクマ」

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会
マスコットキャラクター
長野県ＰＲキャラクター「アルクマ」
©長野県アルクマ

５　実施予定競技（正式競技及び特別競技）

⑴　冬季大会
　スキー、スケート、アイスホッケー

⑵　本大会
　陸上競技、水泳、サッカー、テニス、ボート、ホッケー、ボクシング、バレーボール、体操、バスケットボール、レスリング、セーリング、ウエイトリフティング、ハンドボール、自転車、ソフトテニス、卓球、軟式野球、相撲、馬術、フェンシング、柔道、ソフトボール、バドミントン、弓道、ライフル射撃、剣道、ラグビーフットボール、スポーツクライミング、カヌー、アーチェリー、空手道、銃剣道、クレー射撃、なぎなた、ボウリング、ゴルフ、トライアスロン、高等学校野球

※第78回～第81回大会の実施競技を参考。第82回大会の実施競技は、令和４年３月現在、未決定。

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会
開催基本方針

1 基本方針

第82回国民スポーツ大会及び第27回全国障害者スポーツ大会は、全ての県民の元気と力を結集して、夢、勇気、感動などスポーツの持つ限りない力と、本県の多彩な魅力を発信する大会として開催します。

大会の開催に当たっては、大会運営の簡素化・効率化を図るとともに、大会終了後を見据え、より多くの県民が各々の関心や適性等に応じて「する」「みる」「ささえる」など様々な形でスポーツに参加できる文化の創造と、地域の魅力発信による経済の活性化等を通じて、「スポーツを通じた元気な長野県づくり」の実現を目指します。

2 実施目標

⑴ “スポーツ”で長野県を元気にする大会

人生100年時代と言われる今、スポーツを健康に活かした取組を推進し、スポーツを通じた“健康長寿世界一の信州”の実現を目指すとともに、観光資源とスポーツ資源を融合させた地域活性化等にも取り組み、元気な長野県を推進する大会とします。

⑵ “スポーツ”の振興を支える好循環を創出する大会

長野県の地で選手が育ち、その選手が指導者となって次世代の選手を育成するなど、将来にわたり本県のスポーツ振興を支える好循環の形成に努めるとともに、子どもたちが夢や希望を未来へとつなぐことができる大会とします。

⑶ “スポーツ”で共生社会づくりを加速する大会

障がい者の社会参加の推進と社会の障がい理解を促進するとともに、障がいの有無に関わらず、スポーツを通じた交流を拡大するなど、誰にでも「居場所」と「出番」があり、多様性を尊重する共生社会づくりを力強く後押しする大会とします。

⑷ “スポーツ”の環境づくりを推進する大会

少子高齢化社会を迎え、地域ごとに求められるスポーツ施設に対する需要が変化していく中にあって、将来にわたり安全で、適正なスポーツ施設環境を提供するとともに、誰もが生涯を通じて気軽にスポーツに親しめる環境づくりを推進する大会とします。

⑸ “スポーツ”が長野県のファンを増やす大会

豊かな自然環境、美しい景観など数々の長野県の誇れる魅力を県民一人ひとりが見つめ直し、県内外に発信するとともに、全国から訪れる数多くの来県者を温かいおもてなしの心で迎え、一人でも多くの方に長野県のファンとなっていただける大会とします。

第3章

加盟団体の歴史

Ⅰ ‖ 競技団体

Ⅱ ‖ 学校体育団体

Ⅲ ‖ 郡市体育団体

Ⅰ　競技団体

長野県スケート連盟

⑴　長野県スケート連盟の沿革

長野県スケート連盟の沿革を語る上では、長野県におけるスケートの歴史を紐解かねばならない。

長野県の中でも「スケート発祥の地」とされる諏訪湖へスケートが入ったのは明治31年（1898年）。諏訪出身で帝国大学（現東京大学）教授の稲垣乙丙がドイツ留学を終え帰国した際に土産としてスケート用具一式を高島学校（現高島小学校）に寄贈したのが最初とされている。その後、諏訪湖を中心にスケートが盛んに行われるようになっていった。

大正時代には県下各地で大会が盛んに開かれるようになり､大正４（1915）年には大町の木崎湖でスケート大会、大正６年には南佐久で氷上運動会が開かれた。大正12（1923）年には極東氷滑競技会が玉川村と原村の青年会によって行われ、後に県スケート連盟会長となる堀忠雄、オリンピックに初めて出場する潤間留十、オリンピックにトレーナーとして参加する小池富治らが出場している。

昭和元年（1926年）、平野村に白鳥クラブが誕生する。白鳥クラブは当初、フィギュアスケートとホッケーを主体に活動していたが、後にスピードスケートクラブとなり、名選手を輩出することになる。昭和２年、白鳥クラブは長野県スケート連盟の前身となる中部スケート連盟を作り、平野村の海洋道場に事務局を置いた。その後、スケート熱が高まる中で県下各地に体育協会が設立されていった。また、全国でもインカレや全日本選手権、全国中等学校氷上大会（インターハイ）等が本格的に開かれるようになった。

終戦後の昭和21年（1946年）９月、長野県体育協会が発足した｡更に12月には長野県スケート連盟が誕生した。その後の長野県スケート界は多くの名選手を輩出し、国体での活躍はもとよりの国際大会にも出場し、日本のスピードスケートをけん引してきた。

⑵　連盟のあゆみ（昭和63年～）

①　国民体育大会冬季スケート大会の成績

【平成７年】第50回大会で天皇・皇后の両杯を獲得。
【平成13年】第56回大会皇后杯を獲得。
【平成14年】第57回大会皇后杯を獲得。
【平成15年】第58回大会で２度目の天皇・皇后の両杯を獲得。
【平成17年】第60回大会で３度目の天皇・皇后の両杯を獲得。
【平成18年】第61回大会皇后杯を獲得。
【平成20年】第63回大会皇后杯を獲得。
【平成24年】第67回大会皇后杯を獲得。
【平成28年】第71回大会で４度目の天皇・皇后の両杯を獲得。
【平成29年】第72回大会で天皇・皇后の両杯を獲得。２連覇。通算５度目。
【平成30年】第73回大会で天皇・皇后の両杯を獲得。３連覇。通算６度目。
【平成31年/令和元年】第74回大会で天皇・皇后の両杯を獲得。４連覇。通算７度目。
【令和２年】第75回大会で天皇・皇后の両杯を獲得。５連覇。通算８度目。
【令和３年】第76回大会で皇后杯を獲得。天皇杯は７点の僅差で２位となり、６連覇を逸した。

2021　岐阜国体より

②　連盟所属選手の活躍

【平成３年】
ワールドカップ女子500mで島崎京子（三協精機）が日本人初の総合優勝。

【平成４年】
第60回全日本スピードを茅野市で開催。女子総合で上原三枝（日本体育大学）が初優勝。
アルベールビルオリンピック。男子1000mで宮部が銅メダル｡長野県スケート史上で初のメダリストとなる。

【平成６年】
世界ジュニアスピードで清水美映（信州大学）が総合優勝。県関係選手の女子で史上初。

【平成８年】
ワールドカップ男子1500mで野明弘幸(日本体育大学)が総合優勝。

【平成９年】
ワールドカップ男子500mで清水宏保（三協精機）が総合優勝。
【平成10年】
長野オリンピック開幕。男子500mで清水宏保（三協精機）が金メダル獲得。日本スケート史上で初の金メダリスト誕生。
【特設　小平奈緒】
茅野北中学校時代に全国中学校記録を樹立。全日本ジュニアでは史上初の中学生王者。
伊那西高校時代、インターハイ500m・1000mの２冠。全日本ジュニアでも優勝。
信州大学時代、１年時にインカレ500m・1000mの２冠を達成。２年時には全日本距離別1000m優勝。４年時、全日本距離別1500m優勝。
平成21年相澤病院所属。
平成22年、初の冬季五輪出場となったバンクーバーオリンピックでは1000mと1500mで５位入賞。
ソチオリンピックでは、500mで５位、1000mでは13位だった。
平成30年、平昌オリンピックで女子500m金メダル獲得。
500m連勝記録はW杯23連勝/国際大会28連勝/国内外大会37連勝。

③　長野県内の施設等
【昭和63年】サンピア松本にスケートリンクが開場。
【昭和64年/平成元年】諏訪市スケート場が閉場。茅野市運動公園に国際スケートセンターが開場。
【平成２年】軽井沢風越公園アリーナがオープン。
【平成６年】岡谷市やまびこスケートの森アイスアリーナ・岡谷市やまびこ国際スケートセンターがオープン。小海町松原湖高原スケートセンター開場。
【平成10年】長野市オリンピック記念アリーナ（エムウェーブ）開場。
長野県スケート連盟事務局が岡谷市やまびこ国際スケートセンター内に移転。
【平成12年】佐久市洞源湖スケート場が閉場。
【平成23年】浅間温泉国際スケートセンター閉場。

⑶　今後の活動

長野県スケート連盟では、フィギュア・スピード・ショートの３部門でジュニア競技力の向上や国体強化を目指した合宿・選手育成事業を行っている。
また、長野県スケート連盟に係る競技会の企画・運営として県内の競技会はもとより全日本クラスの競技会や国際大会の運営にも携わっている。
昨今、競技人口の減少が問題となっている。かつてはどこの地区でも冬になると多くの小学生スケーターがスケートに親しんでいたが、最近はその数がめっきり少なくなってきている。小学生が少なくなれば、中学生や高校生の選手もおのずと少なくなっていく。原因はいくつか考えられるが、我々にできることは「スケートの楽しさを多くの皆さんに知って（再認識して）もらい、老いも若きもスケートに親しんでもらう」ことだと考えている。選手の育成と同時に、スケートの魅力を伝えていきたい。そして、スケート長野を陰ながら支えたいと思っている。

長野県アイスホッケー連盟

昭和63年度（1988年度）
長野冬季五輪招致に向け、８月に軽井沢町で長野県知事杯アイスホッケーサマーシリーズを開催、10月に長野市に高校生クラブチームの長野ゲネオスを創設。１月：国体で成年４位。
平成２年度（1990年度）
10月：風越公園アイスアリーナがオープン。12月：金井文雄会長に代わり、羽田孜衆議院議員が本連盟の会長に就任。１月：軽井沢町で開催された国体で、成年６位、少年４位入賞。
平成３年度（1991年度）
６月:1998年冬季五輪が長野に決まり、長野市内に続々とアイスホッケーチームが誕生。軽井沢町に県内初の女性チーム誕生。２月：軽井沢町で開催の全中大会で軽井沢中学４位入賞。
平成５年度（1993年度）
９月：茅野市にアイスホッケー協会（会長 浅川孝典）が設立。11月：長野五輪アイスホッケーA会場の起工式開催。２月：リレハンメル冬季五輪に本連盟関係者４名が運営視察。
平成６年度（1994年度）
４月：国際スポーツ交流員として、元ソ連五輪選手のユーリ・リャプキン氏が着任し、県内のジュニアチームを指導。７月：岡谷市にやまびこスケートの森アイスアリーナがオープン。
平成７年度（1995年度）
１月：長野市で当時世界最強のロシアスパルタークとフィンランドのEPSを招き、第１回国際ジュニアアイスホッケー大会を開催。３月：広徳中学校アイスホッケー部が発足し、軽井沢中、桜ケ岡中、更北中、広徳中の４校により第１回中学生県大会を開催。

平成８年度（1996年度）

４月：第１回全日本オールドタイマー大会が仙台市で開催され、ユーリ・リャプキン氏を擁する長野ドリームスが優勝。12月：長野五輪のテストイベントとして、長野カップ96を、３月には第64回全日本選手権をビッグハットで開催。１月：第52回国体で少年４位入賞。

平成９年度（1997年度）

10月：第１回長野県ジュニアアイスホッケー選手権を岡谷市で開催。２月：長野冬季オリンピックが開催され、多くの当連盟関係者が運営に従事。３月：パラリンピックのアイススレッジホッケーがアクアウイングで開催され、競技運営を当連盟関係者が担当。

平成10年度（1998年度）

５月：長野市長に５万１千人分の署名を提出し、五輪後もビッグハットやホワイトリングを残すよう陳情。１月：日本リーグがホワイトリングで開催され、6,000人近い観客が集まる。１月：第54回国体アイスホッケー競技会が軽井沢町で開催され、少年が３位入賞。

平成11年度（1999年度）

12月：U20男子世界選手権をビッグハットで開催、多くの当連盟関係者が運営に従事。

平成12年度（2000年度）

４月：長野五輪記念基金活用により、元日本代表選手の関川道昭氏を招聘。７月：本連盟に医事委員会とレディース委員会を新設。10月：本連盟事務局を㈱ながのアド・ビューロ内に設置。

平成13年度（2001年度）

４月：長野東高校にアイスホッケー部発足。６月：ビッグハットの冬季間の恒常的リンク利用が決まり、コクドが長野を第２本拠地とすることを表明。１月：第57回国体で総合６位。

平成14年度（2002年度）

１月：第58回国体で成年６位、少年５位入賞。２月：チェコ、カナダ、フィンランドのチームを招き、長野カップ国際アイスホッケー大会を開催、多くの当連盟関係者が運営に従事。

平成15年度（2003年度）

１月：木村拓哉がアイスホッケー選手を演じるドラマ「プライド」が放映、エキストラの派遣など本連盟が全面支援。１月：第１回アジアリーグ長野シリーズをビッグハットで開催。

平成16年度（2004年度）

２月：第72回全日本選手権を長野市と軽井沢町で開催。２月：スペシャルオリンピックス冬季世界大会が長野市で開催され、本連盟関係者がフロアーホッケー競技の運営を担当。

平成17年度（2005年度）

２月：デンマーク・ドイツを招いて長野カップ2006を開催。日本代表チームに犀陵中・長野工業高校出身の酒井大輔が選出。同じく長工出身の小林渉がラインズマンとして出場。３月：風越カップ全日本少年大会小学生の部が「スポーツ拠点づくり推進事業」承認大会に選定。

平成18年度（2006年度）

12月：長野カップ2007を開催。ともに犀陵中出身の酒井大輔と上野拓紀が日本代表に選出。

平成19年度（2007年度）

１月：「長野かがやき国体」を長野市と軽井沢町で開催。少年が５位、成年が８位入賞。２月：長野五輪10周年記念事業としてロシアとカナダのチームを招いてU16国際大会を開催。

平成21年度（2009年度）

４月：軽井沢スケートセンターが閉鎖となり、SEIBUプリンスラビッツアイスホッケー部も廃部。その一方で、長野市出身の上野拓紀と酒井大輔が相次いでアジアリーグ加盟チームとプロ契約。７月：羽田孜前会長に替わり塚田佐氏が本連盟の会長に就任。

平成22年度（2010年度）

８月：本連盟創設30周年記念誌を刊行。１月：インターハイアイスホッケー競技選手権大会が岡谷市と軽井沢町で開催され、本連盟関係者が運営に従事。

平成28年度（2016年度）

12月：第84回全日本アイスホッケー選手権大会をビッグハットで開催。１月：ながの銀嶺国体アイスホッケー競技会を軽井沢町と岡谷市で開催。

平成29年度（2017年度）

８月：塚田佐前会長に替わり宮下富夫氏が本連盟の会長に就任。12月：長野五輪20周年記念事業として、女子アイスホッケー日本代表と女子ロシア代表との国際試合を開催。１月：日韓青少年冬季スポーツ交流事業の一環として県選抜アイスホッケー選手団を韓国に派遣。

平成30年度（2018年度）

３月：全日本オールドタイマーアイスホッケー大会をビッグハットとエムウェーブで開催。

令和２年度（2020年度）

９月：本連盟に医師３名を含む「新型コロナウイルス感染症対策チーム」を設置し、「大会及び練習試合等の開催に関する指針」等を随時公表。１月：万全な新型コロナ感染防止対策の実施の下、インターハイアイスホッケー競技選手権大会が岡谷市と軽井沢町で開催。

第76回国体（愛知県）

公益財団法人 長野県スキー連盟

公益財団法人長野県スキー連盟は昭和７年（1932年）10月27日に創立致しました。

本連盟は、長野県におけるスキー界を代表する団体として、県民の正しいスキーの普及と振興をはかり、健全なスポーツ精神を養うと共に､県民の体位向上に寄与し、併せて広く体育文化の進展に貢献することを目的として活動しております。

組織は、総務本部、競技本部、教育本部の３本部から成り、選手の育成・強化（競技本部)、スノースポーツの普及・発展（教育本部）を柱に運営され長野県内に約4,000人の会員を抱えております。傘下団体として地域・職域クラブ63団体と、公認・認定スキー学校48校が加盟しており、長野県のスノースポーツを統括する団体として1932年に全日本スキー連盟に加盟しています。

競技団体としては、今日まで荻原健司氏はじめ、世界で活躍するトップアスリートを多数輩出し、現在も渡部暁斗選手（北野建設SC所属、2014ソチ五輪･2018平昌五輪銀メダリスト）などの選手を有し、世界を目指すトップ選手強化をおこなうとともに、世界で活躍を経験した指導者達によるコーチングを受けたジュニア選手は夢と希望を持ってスキー競技に取り組んでおります。競技運営においては、冬季五輪開催県として多くの国際大会を開催し、地域と連携しながら運営スタッフの充実等図っております。

また、所属公認スキー学校において年間約17万人の方々にレッスンを受講いただき、その中でもファミリースキーや修学旅行のニーズが高く、多くの子供達が長野県のスキー場ではじめてのスキー・スノーボード体験しています。そのため、長野県のスキー・スノーボードスクールは減少を続けるスノースポーツ参加人口を回復させるうえで大きな役割を担っています。

いま、当連盟は少子化・スキー離れが進む中、スノースポーツに関わる産業界、行政、さまざまな企業とも問題意識を共有し、連携しながらスノースポーツの魅力を伝える活動を行っております。スキーシーズンの幕開けを祝うオープンイベントを開催や、ファミリーや初めてのお子さんに雪を楽しんでもらうため、体験教室を開催するなど、スノースポーツの振興と業界活性化に向け取り組んでおります。

■長野県スキー連盟のあゆみ

〇昭和63年（1988）
- 中国吉林省滑雪協会と友好提携調印
- 1998冬季オリンピック招致の日本候補地として長野が決定

〇昭和64年／平成元年（1989）
- 中国吉林省長白山にてクロスカントリー合宿開催

〇平成２年（1990）
- 第45回国体スキー競技会皇后杯優勝（青森･大鰐）
- 国際ジャーナリスト長野ウインターフォーラム開催（志賀高原）
- 中国ジャンプ訓練隊合宿受入（野沢温泉）

〇平成３年（1991）
- 1995インタースキーが野沢温泉にて開催決定
- 1998第18回冬季オリンピック長野開催が決定

〇平成４年（1992）
- 北野次登会長就任
- 第16回オリンピック冬季競技大会(フランス･アルベール）にてノルディック複合団体金メダル獲得（河野孝典選手出場）

〇平成５年（1993）
- 第48回国体スキー競技会皇后杯優勝（鳥取･大山）
- IVSS国際学校スキー部会開催（車山高原）
- ノルディック世界選手権大会複合団体で優勝（河野孝典選手･荻原健司選手出場）
- 荻原健司選手がワールドカップ（ノルディック複合）個人総合優勝

〇平成６年（1994）
- 第17回オリンピック冬季競技大会（ノルウェー･リレハンメル)にてノルディック複合団体金メダル獲得(河野孝典選手･荻原健司選手出場)、ジャンプ団体銀メダル獲得（西方仁也選手出場）
- 荻原健司選手がワールドカップ個人総合２連覇

〇平成７年（1995）
- 第15回インタースキー野沢温泉大会開催
- 第50回国体スキー競技会天皇杯優勝（福島･猪苗代）
- 荻原健司選手がワールドカップ個人総合３連覇

〇平成８年（1996）
- 第１回国際スキー技術選大会開催（野沢温泉）
- 長野県スキー連盟会館起工式

〇平成９年（1997）
- オリンピック国際前大会として、クロスカントリー･ジャンプ･ノルディック複合･フリースタイル･スノーボード･アルペンのワールドカップ等がオリンピック会場にて開催される
- 長野県スキー連盟会館竣工

〇平成10年（1998）
- 第18回オリンピック冬季競技大会長野1998開催、12名の県選手が出場

〇平成11年（1999）
- 第48回全国高等学校スキー大会で飯山南高校が学校対抗男子･女子総合優勝（青森）

〇平成12年（2000）
・第49回全国高等学校スキー大会を飯山市にて開催、飯山南高校が学校対抗男子･女子総合連覇
〇平成13年（2001）
・第56回国民体育大会冬季大会を飯山市にて開催、天皇杯･皇后杯優勝
・第48回全国高等学校スキー大会で飯山南高校が学校対抗男子･女子総合３連覇（新潟･妙高）
〇平成14年（2002）
・第57回国体スキー競技会天皇杯優勝連覇（新潟･妙高）
・第19回オリンピック冬季競技大会（アメリカ･ソルトレーク）に12名の県選手が出場
〇平成16年（2004）
・山岡聡子選手がワールドカップ（スノーボードHP）個人総合優勝
〇平成17年（2005）
・第60回国体スキー競技会天皇杯優勝（岩手･安代）
・デモンストレーターによる普及イベント「スプリングキャンプ」を開催
〇平成18年（2006）
・第20回オリンピック冬季競技大会（イタリア･トリノ）に15名の県選手が出場
〇平成19年（2007）
・第56回全国高等学校スキー大会で飯山南高校が学校対抗男子･女子総合優勝（富山･南砺）
・全日本選手権アルペンスーパーGで中学生の後藤選手が優勝
・国体クロスカントリー種目で山室選手が４連覇
・友好交流のある中国吉林省（北大湖スキー場）にて、アルペン部シーズンイン強化合宿として中国遠征事業がスタート。
〇平成20年（2008）
・第63回国民体育大会冬季大会を野沢温泉にて開催、天皇杯優勝
・上村愛子選手がワールドカップ（フリースタイルモーグル）５連勝と個人総合優勝を果たす
・児玉幹夫会長就任
〇平成21年（2009）
・第58回全国高等学校スキー大会を白馬村で開催
・上村愛子選手がフリースタイル世界選手権猪苗代大会モーグル･デュアルモーグル両種目で優勝
・ノルディック世界選手権大会複合団体で14年ぶりに優勝（渡部暁斗選手出場）
・トップアスリート支援「スキースターズ長野」発足
〇平成22年（2010）
・第21回オリンピック冬季競技大会(カナダ･バンクーバー)に10名の県選手が出場、上村愛子選手が４位入賞
〇平成23年（2011）
・日本スキー発祥100周年を迎える
〇平成24年（2012）
・信州スキー発祥100周年、連盟創立80周年を迎える
・矢口公勝会長就任
・SAJナショナルデモンストレーターの丸山貴雄選手が全日本スキー技術選手権大会で史上初の３連覇を達成
〇平成25年（2013）
・ノルディック世界選手権大会ジャンプ混合団体で優勝（竹内択選手出場）
・８月１日に公益財団法人に移行
〇平成26年（2014）
・第22回オリンピック冬季競技大会（ロシア･ソチ）に12名の県選手が出場、ノルディック複合渡部暁斗選手が銀メダル、ジャンプ竹内択選手が銅メダル、モーグル上村愛子選手が４位入賞
〇平成27年（2015）
・第70回国体スキー競技会天皇杯･皇后杯優勝（群馬･片品）
・北野貴裕会長就任、全日本スキー連盟会長に長野県より初の会長として就任
〇平成28年（2016）
・全日本選手権アルペン大回転で高校生の加藤選手が優勝
〇平成29年（2017）
・第72回国民体育大会冬季大会を白馬村にて開催
・北海道･札幌市で開催の2017アジア冬季競技大会に４名の県選手が出場、クロスカントリーレンティング選手が大会三冠･宮崎選手がリレーで優勝
・国際スノースポーツ指導者連盟（IVSI）国際会議開催（白馬八方尾根）
〇平成30年（2018）
・第23回オリンピック冬季競技大会（韓国･平昌）に８名の県選手が出場、ノルディック複合渡部暁斗選手が２大会連続の銀メダル獲得
・渡部暁斗選手がワールドカップ（ノルディック複合）シーズン８勝と個人総合優勝を果たす
・第73回国体スキー競技会天皇杯･皇后杯優勝（新潟･妙高）
〇令和２年（2020）
・第57回全国中学校スキー大会を野沢温泉村で開催、以降10年間にわたり野沢温泉村で拠点化開催となる
・スイスで開催の第３回ユースオリンピック冬季競技大会に６名の県選手が出場、ジャンプ･ノルディック複合混合団体で銀メダル（宮崎･西方･久保田選手出場）
〇令和３年（2021）
・第70回全国高等学校スキー大会を飯山市で開催、飯山高校が14年ぶりに学校対抗男子･女子総合優勝

一般社団法人 長野県水泳連盟

日本水泳連盟に１県２団体で加盟していた当県が統一加盟を果たしたのが昭和45年１月であり、昭和51年全国高校総体、53年第33回国体を開催し、この会場となった長野運動公園総合市民プールを中心として県下の水泳競技の普及・強化が図られてきた。1998年長野冬季オリンピック開催決定を機に、当時の水泳関係者の英断もあり、このプール施設を平成７年に取り壊し、新たな水泳競技強化拠点となる「アクアウイング」の建設に着手、冬季五輪の競技会場としての利用後、平成11年に待望の完成をみた。以降、通年使用可能のアクアウイングを拠点とした当連盟の競技力向上事業が飛躍的な進捗をみることになる。

高い評価をいただく競技運営

同年８月には第39回全国中学校水泳競技大会を開催。国際規格の設備に加え、統制された中にも選手への思いやり溢れる競技運営に対し、閉会式を終え競技役員が退場しようとしたその瞬間、「フレー、フレー、ナガノ。有り難う、ナガノ！」と観客席総立ちのエールが上がり、役員が全員退場するまで続いた。目頭を押さえる者、観客席に向けて手を振る者など、期せずして沸き起こった「感動のエール」の中で熱い感動を共有したこの時の役員が、以降の大会運営に携わり今日に至っている。その後、全国実業団水泳選手権（H.17）、全国歯科学生水泳競技大会（H.19）、全国国公立大学水泳競技大会（H.22）など、ほぼ毎年のように全国大会が開催されている。東日本医科学生大会では、学生たちと共に大会を創り上げていく喜びを連盟役員も享受しながら学生たちの真摯な姿に学ぶことも多く、学生たちからも、大きな達成感を得ることができたと感謝の声が寄せられている。

「選手を育てる競技会運営」を合言葉として、競技役員の統一された動き、大型映像装置の活用、タイムリーなBGMや役員の入退場曲に「信濃の国」を使用するなど、役員や選手が観客と一体となり会場を盛り上げる運営に努めており、日本水泳連盟からも本県の競技会運営については高い評価をいただいている。

アクアウイングで開催される競技会

競技運営におけるシステム化が進み、競技会業務全般を支援し、記録を管理する情報システムの運用が重要な役割を占める状況となってきている中、県内ブロック委員、加盟団体及び中体連・高体連などが一体となって業務を遂行する体制構築を進めてきている。

選手の育成と強化

アクアウイングを拠点とする選手の育成及び強化は、強化委員会が中心となり競泳ほか各委員会を統括し、「長野県からのオリンピアンの輩出」を目標として取組みを進めている。強化事業の重点を国民体育大会に置き、「チーム長野の形成」と「成年種別の充実」という２つの目標を定め、高校総体や全国中学の全国大会出場者が少数である状況を踏まえ、各チーム単位で大会に臨むのではなく、県内の一つのチームとして融合・協力し合うように呼びかけ、今では、スイミング、中体連・高体連等とも一体化したチーム形成ができ、国体に向けての合同合宿等に参加する選手は、チーム長野の一員という意識の下に練習に取り組んでいる。高校卒業後の選手生活を県内で続けるという選択肢がない現状にあって、県外の大学に進学し新たな環境下で選手生活をスタートする選手に対しては、伸びしろを引き出し競技力を支える人格形成を加味した育成支援を行い、大学生スイマーがチームの一員として活躍することで、中高校生の目標となり全体レベルが底上げされ、近年の国体では天皇杯・皇后杯共にトップ10以内が狙えるまでに強化の成果が見えてきている。

本県初めてのオリンピック選手は、シンクロ（現AS）競技の箱山愛香選手であった。大学生で2012年ロンドンオリンピックに念願の初出場を果たし、卒業後も日本代表メンバーとして厳しい練習に耐え、2016年リオオリンピックに連続出場。チーム競技銅メダル獲得という偉業を成し遂げた。箱山選手と同じ長野ASクラブで練習を続けてきた選手たちの中からは、全国大会等に出場し活躍する多くの選手が育

オリンピック２大会連続出場の箱山選手

ち、藤原茉那・和田彩未選手の世界ジュニア選手権銅メダル、和田選手の日本選手権４連覇、藤原・和田選手と小林唄選手の３名による国体デュエット競技２連覇をはじめ、全国・国際大会で活躍する選手を多数輩出している。

競泳競技では、国体連続11回出場、優勝も含め10年連続入賞の佐藤 綾選手（長野東高卒）の活躍が特筆される。大学３年次のユニバーシアード大会では４×100mフリーリレーで銀メダル獲得という快挙を果たし、2019年世界選手権で女子４×100mリレー東京オリンピック出場権の獲得に貢献。競泳で初のオリンピック出場が期待されたが、最終予選会にピークを合わせ調整してきた本大会が１年延期となり、2021年のオリンピック最終予選会において残念ながら出場権獲得は叶わなかった。

次の世代を牽引する選手としては、JO春季全国通信大会（R.2）高校女子100m及び200mバタフライで優勝の山岸琴美選手（飯田女子高）、同大会中学女子100mバタフライ優勝の清水花峰選手（長野・三陽中）の活躍が著しく、今後の活躍が期待される。

飛込競技は、全国高校総体や国体での入賞を果たすも、これに続く選手の育成が進まず、委員会として初めて他県から選手兼指導者として長谷川英治選手（新潟県出身）を招聘した。高校で全国高校総体・国体での優勝経験もあり大学でも活躍、教員として長野に住所を移した後も国体・日本選手権での入賞、2019年ユニバーシアード大会に出場という活躍を果たしながら、2028年二巡目国体に向けたジュニア層の選手育成を担当している。水球競技については、昭和53年国体以降ほぼ活動休止状態が続いていたが、令和２年に長野東高水球部OBの堀水球委員長が異動で母校に赴任。水球部を復活し水球競技の普及強化の取組みを始動した。

2028年長野県開催の国民スポーツ大会に向けては、強化委員会が「チーム長野」として各員会の強化事業を統括し、中長期的な強化計画の下に進捗状況を評価しながら、全種目エントリー・入賞を目指して本連盟一丸となった取組みを推進していくことになる。

長野県ボート協会

黎明期

〇長野県ボート部の誕生

内陸地である長野県で競技ボートが始まったのは、諏訪中学（現諏訪清陵高）の生徒の熱意によるものであった。1901年、端艇部が発足し同年には第１回端艇大会が開催される。以降昭和の戦前までボート競技の地歩を固めていったが、戦争によって競技としてのスポーツが徐々に衰退していく中、諏訪中学においても1944年にはすべての運動部の活動が停止した。

復興期

〇長野県ボートの復活

終戦後、1947年に諏訪中学の端艇大会が復活。２年後には諏訪清陵高として全国高校競漕大会出場。同年、第４回国体夏季大会に長野県勢として初出場を果たす。

〇長野県漕艇協会設立

諏訪清陵高が第４回国体から連続出場するなか、県からの指導もあって国体に出場するために県漕艇協会を設立することになり、1952年４月１日に活動を開始。

協会が設立されたことによって、高校ボートが盛んになっていく。

普及期

〇社会人チーム発足

1964年の東京オリンピック以降、高校男子だけの活動だった県内ボート部は社会人にも拡大し、諏訪湖周辺の企業などで続々とクルーが生まれる。中でも諏訪清陵高ＯＢによるクラブの諏訪漕陵会は、発足と同時に国体一般男子（現成年男子）に出場。その後も社会人が活躍していく。

〇やまびこ国体開催へ向けて

1978年、第33回国体ボート競技を下諏訪町の諏訪湖で開くことが決まり、町や県漕艇協会による準備が始まる。

それ以前から、県漕艇協会強化部は国体開催を見据え、各チームが伝統的な漕ぎ方に終始していたものを統一するなど徹底的な選手強化を図っていた。

結果は早くも表れ、1974年には小嶋克人（諏訪清陵高）が世界ジュニアに出場、林秀樹（岡谷南高）が県勢初のインターハイ優勝を果たす。

黄金期

〇黄金期の幕開け

1976年、第33回国体（やまびこ国体）の漕艇会場となった下諏訪町では、県漕艇協会の事務局が同町教育委員会に移転、下諏訪町漕艇場・艇庫・錬成の家が完成。同年には岡谷南高のNF（ナックルフォア）がインターハイ、国体の高校２冠を手中にする。

〇伝説のクルー

やまびこ国体を１年後に控えた1977年、県漕艇協会では強化部が中心となって、「地元国体で勝つ成年クルー」作りに乗り出す。ここで編成されたのが、C:竹折善文、整調:青木悟、3:矢島正恒、2:小泉辰也、B:鳥塚健司の長野選抜である。実業団やクラブチームが活躍する成年の中で「国体に勝つ」を目的にしたクルーは全国的にも珍しかった。やまびこ国体のリハーサルを兼ねて諏訪湖で開かれた第27回全日本社会人実業団選手権のNFで圧勝したクルーは、青森国体に乗り込

み、予選から準決勝まですべて１位で通過し、国体初優勝を飾る。翌年やまびこ国体でも連覇を果たし、その後解散するまで、実に33連勝を記録し「負けなかったクルー」として名を残すことになる。

○やまびこ国体成功

やまびこ国体が開催される1978年は、長野県ボート史の中でもひときわ輝かしい年となる。

毎年５月に開催される信毎諏訪湖レガッタが初めて開催され、第33回国体夏季大会漕艇競技は９月10日に開幕。地元長野勢の快進撃は続き、成年男子NFで長野選抜が前年に続いて全レース１位で大会２連覇を遂げると、成年男子シェルフォアで駒草ローイングクラブが４位、成年女子NFが５位と大健闘。少年勢では男子１×（シングルスカル）で逢沢靖（岡谷南高）が２位、女子NFの岡谷東高が７位入賞を果たした。漕艇競技での長野県の得点は男女総合（天皇杯）３位、女子総合（皇后杯）５位。責任を果たし、秋季大会へと繋いだ。

発展期

○やまびこ国体の遺産を継いで

やまびこ国体の成功を受けて、長野県のボートは発展期を迎えることになる。

1979年～1981年にかけて下諏訪中学校、下諏訪向陽高校、岡谷南部中学校と次々にボート部が誕生。1980年には、岩波健児（下諏訪町役場）がモスクワ五輪の代表に選ばれるが、ソ連のアフガニスタン侵攻によって同オリンピックを西側諸国がボイコット。日本も追随し、岩波のオリンピック出場は幻となってしまう。1981年にはインターハイで諏訪清陵高が男子４＋、岡谷南高が男子NFでダブル優勝、小林広法（岡谷南高）が世界ジュニア選手権に出場するなど、県勢の活躍が目立った。

○下諏訪町民レガッタ開催

やまびこ国体の開催によって、下諏訪町はボートの町として知られるようになる。国体後の漕艇場の有効活用やボートの人口拡大を目的に1982年に下諏訪町体協漕艇部が誕生。県漕艇協会とともに下諏訪町民レガッタ（現下諏訪レガッタ）を主管することになる。開催目的は、第一線の競技者がレースをするだけでなく、多くの町民がボートの楽しみを肌で感じることだった。1984年には、レガッタ参加者から「参加するだけでなく自分たちも苦労して自前の大会にしたい。」と要望が出て、下諏訪町漕艇協会が発足。ボートは確実に町民生活の中に浸透していった。また、競技人口拡大のため、親と子のボート教室もこの年から開催される。

充実期

○低迷期打開へ

1988年（昭和63年）から平成時代の初めまで成績は低迷していた。県漕艇協会は状況を打開するために、1994年国体参加には選抜方式を採用することを決定。長野県では中学生から社会人までが早朝に諏訪湖に集まって一緒に練習する「諏訪湖方式」が定着していることもあって、比較的スムーズに受け入れられた。だが、これが実を結ぶまでには数年を要することになる。

1995年に、県漕艇協会は大幅な役員体制を変更し、組織の若返りを図った。1998年には日本漕艇協会が日本ボート協会に改称したことに伴い、長野県も長野県ボート協会に改称。

以降、2001年にも大幅な組織体制の再編。また、2005年にはかつての国体２連覇メンバーで強化部長だった青木悟が下諏訪町長就任に伴い、会長に選任され、2020年まで会長を務める。

○長野から世界へ

低迷期を打ち破る強化策が実を結び始め、1996年、岩本亜希子（岡谷南高）が県勢女子選手として始めて世界ジュニア選手権に出場。その後、早稲田大に進んで４年時に長野県出身の女子ボート選手としては初めての五輪へ出場。2013年に現役引退するまで、アジア大会４回、世界選手権７回、2000シドニー・2004アテネ・2008北京・2012ロンドンと五輪に４回出場し、日本女子ボート界の象徴といえる選手となった。

他にも、岡西正明（中央大-諏訪清陵高出）、池田竜雄（同-岡谷南高出）、金子明（明治大-岡谷南高出）もアジア選手権や世界選手権で日本代表として活躍。

2001年には今井裕介（中央大-岡谷南高出）、柿沢義紀（同大-岡谷東高出）、中村仁（同-諏訪清陵高出）が揃って23歳以下の国際大会に参加。今井裕介は、卒業後にNTT東日本漕艇部へ入部。以降、2015年世界選手権まで、数々の国際大会に出場している。

さらに未来へ

○新艇庫完成　２巡目国体へ

2017年、日本体育協会理事会において、2027年開催の第82回国体の長野県での開催が内々定を受け、ボート競技は前回同様下諏訪町が会場として選定された。

２巡目国体に向け、さらなる競技力向上が期待される。また、東京オリンピック開催で日本全体のスポーツへの関心が高まる中、国や県の多大なる理解と協力もあり、2020年に悲願であった新艇庫が諏訪湖畔につ

完成した新艇庫

いに完成した。

愛称も公募され、下諏訪町漕艇場一帯は「下諏訪ローイングパーク」、新艇庫は「AQUA未来（アクアミライ）」と名付けられた。

○東京2020五輪合宿

2021年、AQUA未来でイタリアのボートチームとアルゼンチンのボートカヌーチームが合宿することに決まった。新型コロナウイルス感染対策により十分な交流はできなかったが、オンライン上で交流会を開くなどし、世界レベルの考え方や漕ぎ方に触れることができた。

この希少な経験を活かし今後も諏訪湖から世界に羽ばたく選手を数多く輩出していきたい。

※本稿は日本ボート協会100周年記念誌をもとに編集したものである。

長野県セーリング連盟

昭和53年やまびこ国体に参加するために昭和46年結成された長野県ヨット連盟はその成果を準優勝で納め、国体を機に日本少年少女オープンヨット大会を招聘し、その後諏訪湖で平成11年第19回まで連続して開催され、その後山中湖・野尻湖・諏訪湖と会場を変えて平成19年第27回野尻湖での大会を最後に長野県では開催されなくなった。

一方、やまびこ国体で用意されたスナイプ級ヨットを利用して昭和62年に関東地方の大学を中心とした10大学OBヨットクラブ対校レースが始まった。他大学にも人気のこの大会は17大学まで膨れ上がっていった。が、艇の老朽化は進み各大学から艇の提供があって継続してきたが、平成27年第29回大会を最後に東京都に移された。

茨城国体での競技風景

諏訪湖での大会もオリンピック艇種から外れたソリング艇を江の島などから集結させて東日本ソリング級ヨット大会及び全日本ソリング級ヨット大会を開催するのみとなった。

やまびこ国体直後はインターハイで北信越の常連校として活躍してきたが、当時の高校ヨット部も現在では廃部となり、一般のジュニアヨットクラブ内での活動に変化していった。その間、日本ヨット連盟が日本セーリング連盟に改名されたのを機に長野県セーリング連盟に改名され、平成24年会長も４代目となる横山真となり、理事長も５代目笠原賢一の現在の体制になった。

２巡目長野県国民スポーツ大会に向けてもう一度復活すべく現体制を強化していきたいと努力している。

長野県カヌー協会

活動概要（昭和63年から令和２年まで）

昭和62年に活動拠点を長野市七二会の小田切ダム上流に艇庫を構え、近隣の高校生を主体としたジュニアチームを強化する活動をしてきた。

平成８年から犀峡高校にカヌー部が設立され、強化活動の主体を信州新町に移した。信州新町を拠点に犀川流域をつなげた「多夢タムらんどカヌー競技大会」を10年続け、カヌースポーツの普及振興に努めた。

平成18年から飯田市出身の矢澤一輝・亜季の兄妹が活躍し、北京五輪、ロンドン五輪、リオデジャネイロ五輪、東京五輪と出場し海外にも活動の幅を広げた。

五輪出場者の紹介

2008年北京五輪
　男子カヌースラロームＫ１　　矢澤一輝　予選18位
2012年ロンドン五輪
　男子カヌースラロームＫ１　　矢澤一輝　決勝９位
2016年リオデジャネイロ五輪
　男子カヌースラロームＫ１　　矢澤一輝　準決勝11位
　女子カヌースラロームＫ１　　矢澤亜季　予選20位

2020年東京五輪
　女子カヌースラロームＫ１　　矢澤亜季　予選20位

国体入賞者の紹介

昭和63年（1988年）第43回京都国体
　成年女子レーシングＫ１　500m
　　登玉貴子　６位入賞
　成年女子レーシングＫ１　300m
　　登玉貴子　７位入賞
　少年男子レーシングＫ４　500m
　　森山・舟坂・笹井・柳本　８位入賞
　少年男子レーシングＫ４　300m
　　森山・舟坂・笹井・柳本　８位入賞
平成元年（1989年）第44回北海道国体
　成年男子レーシングＫ１　500m
　　武江一　４位入賞
　成年男子レーシングＫ１　300m
　　武江一　６位入賞
　少年男子レーシングＫ１　500m
　　柳本正澄　８位入賞
平成２年（1990年）第45回福岡国体
　成年男子レーシングＫ１　300m
　　武江一　７位入賞
平成３年（1991年）第46回石川国体
　成年女子スラロームＫ１　15ゲート
　　佐々木元子　７位入賞
　成年男子レーシングＫ１　500m
　　武江一　７位入賞
　成年男子レーシングＫ１　300m
　　武江一　８位入賞
平成４年（1992年）第47回山形国体
　成年男子レーシングＫ１　300m
　　武江一　８位入賞
平成５年（1993年）第48回東四国国体
　少年女子レーシングＫ１　500m
　　内山美智子　４位入賞
平成６年（1994年）第49回愛知国体
　成年男子ワイルドウォーター　500m
　　武江一　３位入賞
　成年男子ワイルドウォーター　1500m
　　武江一　６位入賞
平成７年（1995年）第50回福島国体
　成年男子ワイルドウォーター　1500m
　　武江一　７位入賞
平成９年（1997年）第52回大阪国体
　成年男子ワイルドウォーター　500m
　　武江一　８位入賞
　成年男子ワイルドウォーター　1500m
　　武江一　７位入賞
平成16年（2004年）第59回埼玉国体
　成年男子レーシングＣ１　500m
　　吉澤雄一　４位入賞
平成18年（2006年）第61回兵庫国体
　成年女子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤亜季　７位位入賞
　成年女子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤亜季　７位位入賞
　成年男子ワイルドウォーター　1500m
　　内山岳佳　８位入賞
平成19年（2007年）第62回秋田国体
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　優勝
平成20年（2008年）第63回大分国体
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　３位入賞
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　７位入賞
　少年男子スプリントＫ１　500m
　　梅香正徳　８位入賞
　少年男子スプリントＫ１　200m
　　梅香正徳　８位入賞
平成21年（2009年）第64回新潟国体
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　優勝
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　優勝
　少年男子スプリントＫ１　500m
　　梅香４位入賞
　少年男子スプリントＫ１　200m
　　梅香正徳　８位入賞

平成23年（2011年）第66回山口国体
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　優勝
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　準優勝
平成25年（2013年）第68回東京国体
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　優勝
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　準優勝
平成26年（2014年）第69回長崎国体
　成年女子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤亜季　優勝
　成年女子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤亜季　優勝
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　準優勝
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　優勝
平成27年（2015年）第70回和歌山国体
　成年男子スラロームＫ１　15ゲート
　　矢澤一輝　３位入賞
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　３位入賞
　少年男子スプリントＫ１　500m
　　竹下世界　８位入賞
平成28年（2016年）第71回岩手国体
　成年男子スラロームＫ１　25ゲート
　　矢澤一輝　準優勝

一般財団法人 長野陸上競技協会　Nagano Athletics Assosiation（略称 ＮＡＡ）

１　沿革

1946年（Ｓ21）４月１日 設立
2012年（H24）２月16日
　一般財団法人登記完了
1996年（Ｈ８）12月８日 創立50周年記念式典挙行
2016年（H28）12月10日 創立70周年記念式典挙行
1981年以降の歴代会長（年度）は次のとおり
　第五代　唐沢俊二郎　1981（Ｓ56）～1994（Ｈ６）
　第六代　宮下　創平　1995（Ｈ７）～2009（H21）
　第七代　小坂　憲次　2010（H22）～2016（H28）
　第八代　萩原　　清　2017（H29）～現在に至る

新陸協旗（2016年）

1988年度と2020年度の登録状況を以下に示す。

会員登録状況（女性：内数）2020年12月31日現在

地区	支部	審判					競技者		総数	1988年度	
		S級	A級	B級	計	女性	総数	女性		審判	競技者
南信	飯伊	3	7	48	58	9	56	14	114	43	35
	上伊那	12	18	48	78	10	67	6	145	93	52
	諏訪	13	16	68	97	13	61	9	158	148	45
中信	塩尻	3	7	25	35	5	23	1	58	41	13
	木曽	4	5	14	23	5	6		29	41	15
	（東筑）									48	8
	松本	12	14	59	85	14	108	18	193	74	32
	安曇野	2	10	18	30	4	28	7	58	39	13
	大北	4	8	43	55	3	13	2	68	91	14
北信	千曲	1	1	25	27	3	23		50	26	15
	長野市	20	20	97	137	26	112	34	249	88	114
	須坂	2	2	27	31	3	24	2	55	36	24
	飯水		1	7	8	4	5		13	22	46
	中高		2	15	17	0	21	3	38	0	32
	上水内		2	7	9	0	12	1	21	9	1
東信	上田	12	11	44	67	5	50	4	117	62	50
	佐久	15	8	73	96	21	66	19	162	55	65
小計		103	132	618	853	125	835	120	1688	916	574
競技者数：中体連3614、高体連1358、学連360、マスターズ160										学連173	
合計					853		6167		7020	917	747

８回目の優勝（全国男子駅伝）2019年１月

２　1987年（Ｓ62）以降のおもな歩み

⑴　1987年（Ｓ62）～ 理事長 小口正行 長野市
　・1990年日本学生選手権大会開催（長野市）
　・1991年世界陸上参加の「オランダ・ポーランド・デンマーク」選手団が長野市で事前合宿
⑵　1995年（Ｈ５）～ 理事長 伊藤利博 長野市
　・1997年日米ジュニア長野大会開催（茅野市）
　・長野オリンピック記念マラソン大会開催確定
⑶　1999年（H11）～ 理事長 城田忠承 上伊那
　・2000年シドニーオリンピックに柳澤哲（中野実高出）、小池昭彦（長野高出）２名が出場
　・2001年第17回日本ジュニア選手権大会開催（松本）ジュニア日本新１、同タイ１、高校最高１、大会新

延べ17、同タイ２など好記録に沸いた
・2004年第９回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会で初優勝、2005年、2006年と史上初の３連覇

⑷　2007年（H19）～ 理事長 細田完二 上田市
・2008年塚原直貴（東海大三高出）が、北京オリンピック４×100m（第１走者）で銀メダル獲得
・2008年男子第59回全国高等学校駅伝競走大会で佐久長聖高校が初優勝（県勢初優勝）
・2011年第46回全国高専 代替地開催（長野市）
・2012年第96回日本選手権･混成競技、第28回日本ジュニア選手権･混成競技開催（長野市）
・2012年ロンドンオリンピックに藤澤勇（中野実業高出）、佐藤悠基（佐久長聖高出）の２名が出場

⑸　2015年（H27）～現在 理事長 内山了治 長野市
・2016年第43回全日本中学選手権開催（松本市）
・2016年リオオリンピックに荒井広宙（中野実業高出）50km競歩銅メダル、藤澤勇（同）、川元奨（北佐久農高出）、大迫傑（佐久長聖高出）が出場。
・2017年第52回全国高専大会開催（松本市）
・2021年第105回日本選手権･混成競技、第37回U20日本選手権･混成競技10年連続開催（長野市）

３　競技会運営について

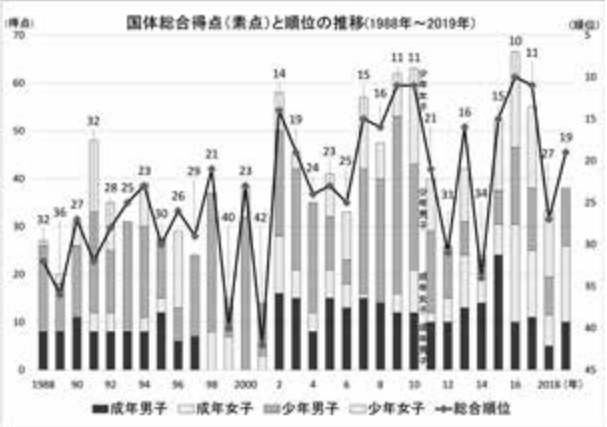
2015年度改選にあたり内山了治理事長が審判部長に青柳智之（39）、競技部長に横打史雄（38）を抜擢するなど全体的な若返りを図った。新体制で陸協が一丸となり、2016年開催の全日本中学大会に向け、日本陸連の指導を仰ぎながら日本選手権・混成競技をはじめ各種競技会の改善に取り組み、Athlete（競技者）、Spectator（観客）and Referee（審判員）Friendlyの視点を尊重し、会場が一体となり競技会を盛りあげ、競技者のパフォーマンスを引き出す運営を心掛け定着してきている。これらは、青柳審判部長が2015年に日本陸連JTOに合格し2017年に競技運営委員会委員に推薦され就任、横打競技部長はじめ７名が世界陸連NTOに合格するなど、審判員個々の意識改革や努力の賜が本協会全体の競技運営力の向上と評価に結び付いている。

競技運営の要となるIT化は、1991年度に審判委員会の中に「写真判定部」が新設され本格化した。2001年度には「情報システム委員会」が新設され、大会準備、競技運営、大会後の日本陸連への記録申請など多岐の業務を担った。特に記録処理では、松本にセイコータイムシステム社製「Mark５」とスリットビデオ（写真判定装置）が導入され、正確かつ素早い記録判定と結果発表所要時間を大幅に短縮した。また、スタンドアローン型のMark４が県下の競技場（長野･伊那･飯田･茅野）に導入され、同委員会は各地の指導とオペレーターの育成に追われた。その後、投てきや跳躍競技の距離と高さを光学的に計測する「光波測定器」が導入され、高精度な計測と大幅な時間短縮、並びに審判長が現場で即時記録承認する流れとなった。更に、短距離の不正スタート判定をサポートする「SIS：Start Information System」（反応時間が0.100秒未満の場合に自動的にリコール信号を発信するなど）が2014年長野、2016年松本にそれぞれ導入され、IT化はますます進化した。2016年に「情報システム委員会」は当初の役割が一段落したため廃止され、競技運営委員会記録部としてこれまでと同様に活動することとなった。

また、本協会ホームページは2000年に遠山正洋総務委員長が開設し、その後、㈲丸ノ内企画へ業務委託し、より見やすく機能的になり訪問者は１日平均1,400人を超え、2021年８月には延べ500万回を超えた。これらのIT化推進･充実には葛城光一副理事長並びに瀧沢佳生記録部長が重責を果たしている。

４　競技力向上、2028国スポ成功･優勝に向けて

本協会の1988年度以降の国民体育大会の成績変遷を図に示した。1978年に本県で開催された第33回国体（やまびこ国体）では、天皇杯２位、皇后杯優勝という輝かしい結果を残したが、10年後の1988年には天皇杯32位、皇后杯は成年女子０点、少年女子１点のみという結果に落ち込み、その後の10年間も天皇杯の平均順位は27.7位、1999年には40位、2001年は42位という結果に至った。2001年に就任した玉城良二普及強化委員長と掛川和彦強化部長は、記録会の開催をはじめ強化対策を充実させ、翌年の高知国体では男子リレーが初の決勝進出７位入賞他、天皇杯は14位となり飛躍への転機となった。その後も、少年で活躍した競技者：石川和義、塚原直貴、藤澤勇、今井沙緒里、宮澤有紀、原翔太、嶺村鴻汰、宮坂楓、川元奨らが力を伸ばし、日本のトップ選手としてオリンピック､世界大会及びアジア大会などへ出場し活躍した。国体にもチーム長野の大黒柱として参加し、その存在が少年や各競技者の安心感や自信に繋がり、選手団の勢いを強め2009年と2010年は天皇杯を11位まで押し上げた。2012年は、佐藤悠基、藤澤勇がロンドン五輪へ出場、2014年は川元奨、佐藤悠基、大迫傑がアジア大会出場により、総合得点は落ち込んだが、男子リレー（松下、原、樋口、塚原）が39秒89の県記録で７位入賞するなど成果を高めた。2015年からは中津敦喜委員長、藤森要強化部長に交代し、やまびこ国体以来の女子リレー入賞（2015



年）と皇后杯６位入賞（2016年）を果たした。その後、普及強化委員長は中津から藤森、横打史雄へ、強化部長は藤森から名取和訓、中津へ交代し成果を高めている。これらの背景には、2000年富山国体から選手団に帯同する県体協派遣のJATAC長野のトレーナーの存在、特に野竹接骨院野竹富士雄院長はじめ数多くのトレーナーが日頃の練習会でも競技者の特徴を捉え信頼関係を深めたコンデイショニングの成果があったと言える。

2028年国民スポーツ大会の成功・優勝に向けては課題が多く、2017年に４つのプロジェクト（デザイン、競技力向上、競技運営力向上、競技施設）を立ち上げ取り組んでいる。やまびこ国体で活躍した小松茂美副会長は、担当として本県の置かれた状況を鑑み、競技者と指導者が一体感を持ち、「少年世代の強化を充実させる」、「有望選手の獲得も視野に入れ、体制づくりに取り組む」ことを優勝の要件としてあげている。近年の国体優勝には120～150点が必要であり、少年期から世界を視野に入れ世界で活躍できる競技者の育成が必須となる。多様性のある強固な協会組織・運営とともに、競技会運営と競技力向上を目指し、総力をあげてさらなる取り組みが必要である。

一般社団法人　長野県サッカー協会

長野県サッカー協会は、サッカーを愛する先輩各位の献身的な熱意と協力により、1946年７月、協会創立の準備会がもたれ、その翌年の1947年に誕生した。

本年で設立74年を経過し、長野県スポーツ協会とほぼ同じ歩みを進めています。

日本の屋根アルプスを背にした長野県は、四季の変化に富んだ山紫水明の地であり、自然を愛し、スポーツに親しむ県民性がみられる。

日本が新しい時代を迎えた明治から令和の時代までの長野県のサッカーの動きを追ってみることにする。

本県におけるサッカーの黎明期にあげられるのは、明治44年に阿佐美昌三が松本中学に赴任し、大正３年に、蹴球部が設立されたが、１年のみで定着しないまま終わってしまった。

大正12年、松本高等学校の競争部の中に付属蹴球部が設立された後に、いち早く高技に取り入れたのは隣接の松本第二中学校（現松本県ヶ丘高等学校）で、初代校長の小松武平氏は、松本平に自由にして斬新な中学校を作りたいと高遠な理想をいだいて、自ら希望して新設校に赴任した。そして、その教育理念は、自由闊達にして、健全なる青少年を育成するために、知育、徳育と相まって重要視したのは体育即ちこの精神をくんだのがサッカーであった。そのユニークな教育方針は、イギリス流の自由教育であり、生徒に紳士的なフェアー精神と粘り強い闘争心の強い持ち主になることが理念であった。このように県サッカー界の発展の源となっていった。

同校で初代監督には松本寛次氏を大阪府立堺中学校より招き初代の教頭兼監督としての最適任者として迎えた。氏は東京高等師範時代はサッカー部のキャップテンとして活躍した人物で、氏を抜擢したのは、小松校長のサッカーに賭ける情熱とみられる。小松校長の方針は全校生徒にサッカーシューズを買わせ、通学はもちろん、校舎内もこのシューズをはかせるといった徹底ぶりであった。このサッカー学校の伝統は一時第二次世界大戦で中止されたものの、現在なお、県高校サッカー界に君臨している。

一方南信地方では飯田中学校を中心にした発祥がみられる。ここでも春日賢一校長が外遊時に本場イギリスのサッカーゲームを見て、感激した春日氏は、帰国土産に「本校でもサッカーをやろう」とみずから指導に乗り出し、校長陣頭指揮で活気づき、松本二中に続きサッカー学校の出現となった。部の創立は大正13年、塩沢幹（元日本体育協会事務局長）らが中心になって発足した。その後、昭和３年、東京師範のウイングとして活躍した平林圭介（長野県サッカー協会会長、元松本深志高校長）が飯田中学に赴任してきた。平林氏は前年、塩沢氏の依頼でコーチにきていたので、部員は偶然とは思わぬ再会に驚いた。

同年夏には東京師範チームが飯田市で合宿して、合同練習するなど、二つのサッカー部は兄弟のように親しくなった。高師仕込みのサッカーで力をつけた飯田中学は、九月に近県下中学校大会で松本二中を破って初優勝した。翌年４年も連勝を果たし、六年にも優勝するなど県下に名をなした。

北信地方では長野中学蹴球部の発足は昭和２年であるが、サッカーはすでに大正末期から導入され、そのクラスマッチは荒いことで長中名物となっていた。ラフプレーは当たり前で、今では語り草となっている。蹴球部の育ての親は樋口秀治教諭。樋口氏の努力で東大や早大からコーチが招かれ、長中の“荒いサッカー”は、近代サッカーへと急速に発展していった。そして昭和８年、長野中蹴球部にとって最良の日を迎えるのである。９月の近県下中等学校大会の初優勝、10月の県下中等学校大会でも決勝で、松本二中を１－０で破っての優勝と、県下中等学校サッカー界の王座に就いた。

東信地方では、南信地方と同じく上田中学校の蹴球部創設は昭和３年である。当時、全国Ａクラスについた暁星中学との親善試合に勝って、サッカー熱は一段と高ま

り、部の独立を果たした。その後、兄貴分の上田蚕専の胸を借りて鍛えられ、強くなっていった。ＯＢの結束力も強く、上田中学をサッカーどころに仕上げていった。戦後、復興期に他校に先駆けて国体出場（昭和27年）の一番手になったのは、このチームワークの開花とみてよい。

戦後ではやはり３強の争いであったことは事実で、途中で無くなった飯田中学を別にすれば、松本二中、長野中学、上田中学の三強の争いに尽きる。

学校体育以外の動きについては、昭和に入り、急速にサッカーが普及し、実業学校や社会人のチームもあらわれ、昭和３年から開かれた県体育会主催県下蹴球選手権大会への参加チームも急速に増加し、昭和６、７年には戦前の最盛期を迎えた。その後戦争の激化により、昭和16年以降大会は行われなくなり、各校の蹴球部も次第に活動中止の状態に陥り、昭和19年以降、県下のサッカー空白の時代を迎えた。

敗戦の混乱がやや沈静化した昭和21年から、各中学校に蹴球部が復活、また新設も始まり、松本、上田を中心に社会人チームも活動を開始するようになった。因みに、21年松本二中の復活に続き、大町中学に新設された。よく22年には、上田、飯田、長野を中心に復活している。また学制改革で旧制中学校が新制高等学校に変わり、合併、新設高等学校も盛んに創立されていった。

昭和21年の夏から当時の県体育課、長野師範学校、松本、上田、飯田などの関係者は物心両面の苦しい状況下、県蹴球連盟結成の準備を進めてきて、昭和22年７月16日に県庁で最終の会を持った。当日の出席者は体育課長宇野氏、長野から坂田氏、松本から坂野氏、福原氏、立川氏、上田から土屋敦博氏、飯島栄次氏、大日向氏、飯田からは高堂氏と、県庁の柿沢氏で、即日県蹴球連盟の結成となった。（体育史）役員構成では、会長丸山恒人氏（松本）理事長坂田明氏（長野）が選出され、事務局は県庁体育課柿沢章治氏が担当し発足した。その後昭和28年に長野県蹴球協会に名称が変わっている。

戦後、県下中等学校の蹴球部の復活にＯＢの援助や指導は献身的なものがあった。松本二中ＯＢでかつて早大蹴球部の主力選手をつとめた折井好郎氏は傷痍軍人として松本国立病院で療養中から後輩の指導に当たり、退院後昭和34年まで12年間監督をつとめた。

22年に県ヶ丘高校ＯＢを中心とする松本サッカークラブが結成され、また富士電機、宮田製作所、片倉機器、中部電力等の社会人チームが誕生し、これら松本地区のチームは学生も加えて、リーグ戦を開催し、以後数年続いた。

昭和23年の新学制施行以降は年々高校サッカーチームが増加していった。昭和41年に至り、全国高校総体に出場した松本県ヶ丘チームは、前年優勝校大阪明星高校を破り準決勝に進出し３位の座に輝いた。

当時の長野県のサッカーは、東信地区、中信地区にかたよりがみられ、実業団チームも松本地方にあるだけで、

サッカー基盤の貧弱が叫ばれていた。40年代は全国的に高まったサッカーブームで中学校にサッカー部が急増した。

昭和50年からは北信越サッカーリーグが始まり、長野県から２チームが参加し社会人サッカーの発展に努めた。

昭和60年、平成に入り、県下各地区でサッカースクール熱が盛んになり、底辺である小学校年代の意気が盛んになってきた。また、高校選手権の覇者の座も、東信から中信、南信へと年々固定しない状態が続き、実力が均等化してきた感がある。また、小学校、中学校、高校でトレセン活動が盛んになり、技術向上に拍車がかけられている。平成５年のJリーグ発足、平成14年のワールドカップ招致等で平成年代は野球を凌ぐ感があり、プロサッカークラブは多くのサポーターを従えるようになりサッカー熱が一層高まってきた。

また、長野県ではJリーグを開催できる正式施設建設も進み、平成13年県的施設として松本平広域公園総合球技場アルウィンが完成し、現在のプロサッカーチームの活躍の場となっている。

長野県サッカー協会は、平成25年６月、日本サッカー協会の指導の下、法人化を果たし一般社団法人となった。

平成29年には創立70周年を迎え、過去の功績者に感謝するとともに、これからの長野県サッカー発展を祈念した式典が盛大に開催された。

長野県には男女合わせて３つのプロサッカーチームが誕生し、また県内各地では全国を目指す育成環境の構築が進みつつある。

ここからの長野県サッカーは令和10年開催予定の長野国体に向け、競技力向上及び環境整備を進めながら更なる発展を目指して歩んでいくことになる。

長野県テニス協会

１．沿革(組織体制)

昭和30(1955)年:「長野県庭球協会」として、上田･長野･飯田・伊那・軽井沢の愛好者により発足。同時に日本庭球協会・長野県体育協会に加盟

昭和36(1961)年：長野県高体連の庭球部に男子３校(深志・松商学園・上田)女子(松商学園)が加盟、以降、高校に部活の増加

昭和50(1975)年：規約を日本庭球協会に準じて改定、創立20周年誌発刊､(常任理事13、理事39、加盟団体14、大学６、高校12)

昭和57(1982)年：日本テニス協会の改名に準じて「長野県テニス協会」に改名

昭和58(1983)年：ジュニア大会の増加に伴い、競技部から分岐したジュニア部発足

昭和61(1986)年:創立30周年記念式典、記念誌の発刊(常任理氏22、理事112、加盟団体32、大学２、高校39)

平成１(1986)年：規約を大幅改正し、加盟規定・会計規定・表彰規定・賛助会規定などを整備する

平成７(1995)年：創立40周年(常任理事20、理事61、加盟団体28、大学２、高校68、特別加盟団体２)

平成13(2001)年：長野県中学校テニス連盟が加盟、これを契機にテニス部の中体連加盟の支援を行っているが道は遠い

平成16(2004年)：創立50周年記念誌発刊(常任理事20、理事57、加盟団体24、大学２、高校76、中学３、特別加盟団体３)

平成21(2009)年：委員会とは別に部会(選手選考・公認指導員認定)を新設

平成22(2010)年：競技者のマナー向上を図るため倫理部会増設

平成24(2012)年：財政基盤の強化を図るため財務部会を設ける

２．協会の歩み

⑴　主たるトピックス

昭和42(1967)年：第57回高校総体テニス競技を松本市県営庭球場にて開催

昭和52(1977)年：国体に向けて浅間温泉庭球公園を整備

昭和53(1978)年：第33回国民体育大会「やまびこ国体」松本市浅間温泉庭球公園にて開催(役員255名、補助員226名)

昭和55(1980)年：ランキング制度を運用開始、シード選手基準の適正化を図る

昭和56(1981)年：北信越国体を松本市浅間温泉庭球公園にて開催、以後ミニ国体として５年ごと北信越５県の持ち回り開催となる

昭和57(1982)年:オール信州エプソンカップが開催され、1000名の参加を超える県内最大級の大会に発展したが1998年をもって終了する

昭和63(1988)年：「テニスのしおり」が発刊され、大会要項、申込書が統一されたものとなる。全日本テニス選手権のシングルスの予選会として長野県選手権を位置づける

平成６(1994)年：信州博覧会会場のやまびこドームに砂入り人工芝コート６面(後年８面に拡張)を整備し、冬期の大会等に活用

平成７(1995)年：協会のホームページが開設され、情報公開・伝達の円滑化を図る

平成９(1997)年:ホームページにランキングが公開され、随時更新されることとなる

平成11(1999)年：松本平広域公園のコートを砂入り人工芝８面に改修し長野県大会の主会場となる

平成12(2000)年：松本市南部屋内運動場(室内４面砂入り人工芝コート)が完成し、協会の諸事業に通年活用される

平成13(2001)年：長野オリンピックの開会式会場の長野市南長野運動公園に砂入り人工芝16面のコートが完成し、ジュニア大会などの主会場として活用される

平成15(2003)年：独自ドメインのサーバー設立、ホームページを多方面に充実したものに再整備、携帯電話からのアクセスも可能にした。会員登録制度の運用で、大会への申し込みを団体からの申し込みから個人エントリーとし、申し込みのミスが改善された

平成20(2008)年：北信越ベテランテニス大会を浅間温泉庭球公園で開催、以後毎年開催する

平成29(2017)年：長年にわたり貢献した三村功(現会長)が旭日単光賞を叙勲

令和２(2020)年：新型コロナウィルスによりほとんどの行事が中止となる中、感染防止の統一ガイドラインを設けて可能な限りの行事を行う。理事会は初の文書回覧決議となった

令和３(2021)年：引き続き無観客などの感染対策を講じつつ、全国高校総体を高体連の先生・生徒の方々の力で完遂する

＜現在の県協会のホームページ＞

⑵　選手強化の成果：主たる全国大会入賞者
昭和48(1973)年：第28回千葉国体、少年男子ベスト８
昭和49(1974)年：第29回茨城国体、成年男子ベスト８
昭和58(1983)年：第38回群馬国体、少年男子ベスト４
平成４(1992)年：第47回山形国体
平成８(1996)年：第51回広島国体
いずれも少年男子第７位
平成９(1997)年：第19回全国選抜高校大会、松商学園高校、女子団体ベスト４、第52回大阪国体、成年女子第７位
平成11(1999)年：第38回全国実業団大会（Ｂ）、シメオ精密、男子団体準優勝
平成12(2000)年：第38回全国実業団大会（Ｂ）、シメオ精密、男子団体優勝
平成13(2001)年：第23回全国選抜高校大会、松商学園高校、男女とも団体ベスト８
平成19年(2007)年：第62回秋田国体、少年男子第４位
平成21(2009)年：第64回新潟国体、少年女子第６位
平成22(2010)年：第65回千葉国体、少年男子第８位
平成23(2011)年：第66回山口国体、少年女子第６位、少年男子第７位
平成24(2012)年：第67回岐阜国体、少年男子第７位、第102回全国高校総体：松商学園高校、諱五貴・西脇一樹、男子ダブルス優勝、牧野菜摘・野崎真帆、女子ダブルス準優勝
平成27(2015)年：諱五貴：全日本学生室内男子シングルス優勝、全日本学生男子単準優勝、男子複ベスト４、西脇一樹：全日本学生男子複ベスト４、全日本学生室内男子複ベスト４
平成28(2016)年：第71回岩手国体、成年男子第３位、諱五貴：全日本学生男子複ベスト４、西脇一樹：全日本選手権男子複ベスト４、全日本学生男子単ベスト４
平成29(2017)年：第107回全国高校総体、松商学園高校、女子団体準優勝、川島和美・笠原沙那：女子複ベスト４
平成30(2018)年：第57回全国実業団大会（Ｂ）、キッセイ薬品工業、女子団体優勝
令和１(2019)年：第58回全国実業団大会（Ｂ）、キッセイ薬品工業、女子団体準優勝
⑶　普及への試み
近年は競技者の減少に歯止めがかからない中、ジュニアからテニスに馴染むため、ＰＬＡＹ＆ＳＴＡＹ、テニピンなどに力を入れている。

長野県ホッケー協会

長野県内でのホッケーは現在、駒ヶ根市のみで行われています。
ホッケーは、６人でプレーする大会と11人でプレーする大会があり小学生は６人、中学生は６人と11人、高校生からは11人の大会となります。
スポーツ少年団（小学生）、赤穂中学校、赤穂高等学校、駒ヶ根工業高等学校、成年男子・女子で活動しておりましたが、少子化に伴い赤穂高等学校男子ホッケー部が廃部となり、続いて2014年に駒ヶ根工業高等学校ホッケー部が廃部、2020年に赤穂高等学校女子ホッケー部も廃部となり、長野県内で高校ホッケー部がなくなってしまいました。現在は同好会として活動できないか検討しているところです。

（スポーツ少年団　2018年東日本大会）

2020年　小学生を対象とした体験会
キーパーは2020年Ｕ15日本代表に選ばれました。

スポーツ少年団は、毎年10～15人程度小学生が集まります。男女混合チームでの参加が可能な西日本・東日本大会に毎年参加しています。2018年には東日本大会で優勝していますが、全国交流大会は、高学年のみの男女別

で参加となるため、なかなか参加できない状態となっております。

赤穂中学校では、人数がギリギリの状態の年もありますが北信越大会に参加して、全国を目指しております。また2020年には女子ホッケー部から全日本代表選手が選ばれるなど活躍しております。

成年男子は、関東リーグに参加して、現在は１部リーグでがんばっています。

競技人口が減ってきている現状ですが、2018年頃より普及活動に力を入れており、小学生を対象とした体験教室や外部コーチを招いてのトップアスリート事業などを行っており､徐々に人が増えてきているように思えます。また、2020年からクラブチームを設立し小学生から社会人の一貫した強化に努めています。

今後も2028年の長野国体にむけて、人員の増員･強化、練習場所の確保に努めていきたいとおもっております。

2019年　日本代表選手など外部コーチによるトップアスリート事業

長野県ボクシング連盟

１　発足当初

昭和21年、上田市に新聞記者として赴任した、日大ボクシング部ＯＢの高柳博典が、戦後混乱期に青少年の非行防止と不屈の精神涵養を目指し、上小地区の青少年を集めて清明小学校の講堂を借りて練習を始めた。物資の欠乏が著しい時期であったため、進駐軍の使い古しを譲り受けた。

やがて、上田繊維専門学校（現信大繊維学部）の学生と、市内の中学生等50人程が集まり「高原拳闘倶楽部」を結成、初代会長に矢崎憲一が就任した。

22年６月、名称を「上田拳闘倶楽部」と改称し、日本アマチュアボクシング連盟に加入。練習場も上田市原町（現中央三丁目）に二階建ての土蔵を借りて開設。ここには、サンドバッグも仮設リングも設置され、軽井沢や長野方面からも入門希望者が集まり、多い時は150名の練習生が汗を流した。

２　創設期

当時、東信各地では新興スポーツのボクシングに対する住民の興味が強く、自分たちの村や町で公開試合をしてもらいたいとの依頼も多かった。しかし、正規のリングも無いため、盆踊り用の舞台に荒縄１本が張られた場所で試合をしたことも少なくなかった。また、選手のうがい用のビール瓶に本当にビールが入っていたという笑い話もあった。このような啓蒙試合をきっかけにして、松本市に「松本体育拳闘会（会長丸山恒人)」・小県郡丸子町（現上田市丸子）に「丸子拳闘倶楽部」・佐久郡岩村田町（現佐久市岩村田）に「佐久拳闘同好会」が次々につくられた。そして、これらを一本にする機運が生まれ、22年９月13日、上田商工会議所において長野県拳闘協会が発足、初代会長に矢崎憲一、副会長に丸山恒人、理事長に高柳が就任した。

３　発展期

北信越で最初に発足したせいもあり、22年10月に金沢でおこなわれた第２回国民体育大会に初めて出場した。23年４月には上田繊維専門学校と上田中学(現上田高校)にボクシング班が誕生している。また、24年５月におこなわれた第１回全日本社会人選手権大会に於いて、宮下正人がバンタム級で優勝、水上路輝がフェザー級で準優勝を果たした。同年12月､県拳闘協会は｢長野県アマチュアボクシング連盟」と改称、上田拳闘倶楽部も「上田ボクシングクラブ」へと名称を変えた。

県連盟は23年９月１日に体育協会に加盟し、これを機会に一層の普及発展を図るため神奈川大学・拓殖大学・日本大学等関東の名門を迎え強化試合を積極的におこなった。こうした機運のもと、大学へ進んだ選手は高度な技術を身に付け活躍している。宮下、水上両名の他では、土屋潔（日大）がバンタム級、友成光臣（早大）がウエルター級で優勝、大月久丸（拓大）が３位と輝かしい成績を収めた。

第６回広島国体では優勝候補の前評判が高かったが、２回戦で強豪の東京都と対戦し４－３で惜敗している。この試合はスポーツ新聞等に『ミスジャッジで優勝候補長野県敗れる』と掲載された程であった。なお、27年から29年までの２年間、県警察学校が体育にボクシングを採用、高柳理事長が指導者に委嘱されて指導をおこなった。（機動隊と長野署では講習会）

４　過渡期

35年６月、松本美須々ヶ丘高校・上田東高校・東京特殊電線会社にそれぞれボクシング部が誕生した。しかし、

個々には優秀な選手も存在したものの国体は団体戦であるため、第２回大会から36年まで通算12回の出場をはたしながらも１回戦敗退が続き、選手層も減少傾向が目立ち始めていた。このような中で、初期の練習生であった青島正利が神奈川大学を卒業後、上田市にＵターンし、上田クラブのコーチに就任して地道な努力を重ねた。また、この頃には名門明治大学ボクシング部で活躍した、大宮司洋一氏（後２代目理事長）が中心となって試合に出場し、南条、市川といった上田クラブの選手達と供にチームを支えた。

５　充実期

47年、中京大学ボクシング部出身の小宮山泰典が池田工業高校にボクシング部を創設して高校の選手育成に努め、51年の長野インターハイに初出場した。53年長野県丸子町で開催された長野国体に於いては成年・少年とも５位入賞という快挙を成し遂げ、全員が手を取り合って喜びあった。

また、北信越高校選手権大会に於いても、池田工業が計３回の学校対抗優勝を遂げている。なお、卒業生の中で特筆すべきは、清沢利安選手である。拓大ボクシング部に進学し、フェザー級に於いて全日本選手権で二連覇し、アジア大会に出場して銅メダルを獲得している。こうして高校ＯＢにより成年も充実したチームを編成することができた。

小宮山は、池田での９年間の指導の後、丸子実業高校（現丸子修学館）に転勤しボクシング部を立ち上げた。代表的な選手はＬウェルター級の手塚選手はとＬフライ級の海藤である。伴に全国高校総体で５位入賞を果たしている。また、北佐久農業高校から東京農大に進学し、大学リーグ戦、全日本で活躍した中沢剛（現更級農業高校高校教諭）がその後、監督となり、土屋・須江を擁して北信越を制している。

６　現在

日本連盟が変更したことから、県連盟もアマチュアボクシング連盟から長野県ボクシング連盟へと名称を変え現在に至っている。理事長には長年尽力された大宮司氏から、奥原亨氏が就任している。恵仁会の黒澤一也会長、紀子医事委員長の大きな支えもあり、2018年には、福井国体に少年が32年振りに出場する事が出来ました。選手の努力と役員の皆様の地道な努力の賜物だと思います。現在は野口尚宏会長をお迎えし、皆で協力して選手の育成に励んでおります。令和３年度は、選手も大幅に増え、北信越国民スポーツ大会には女子フライ級で長野県初のエントリーをする事も出来ました。

2028年やまびこ国民スポーツ大会に向けて、ボクシング競技を大発展させて参ります。

一般財団法人　長野県バレーボール協会

当協会は昭和61年10月財団法人を設立し同年創立40周年、平成28年には創立70周年を迎えるに至っています。本稿では財団法人設立以後30数年間の活動状況を10年毎に区切って報告することとします。

■昭和62年～平成８年

若尾勝美・齋藤治両専務理事などの尽力でＮＨＫ杯（Ｓ62)、国際男子ジュニア大会（Ｓ62)、全日本ジュニア男女中国対抗戦（Ｓ63)、男子日ソ対抗戦（Ｓ63)、女子全日本・キューバ戦（Ｈ１）など比較的小規模ながら精力的に国際大会を誘致、また全日本男女チームの紅白戦や多くの日本リーグ（現Ｖリーグ）など国内イベント開催での堅実な大会運営で日本バレーボール協会の信頼を勝ち取り、平成３年11月ついに'91ワールドカップ男子松本大会を開催するに至った。現在では珍しくないが当時この規模の国際試合が地方都市で開催されることは稀で松本市での開催が先鞭をきった。竣工まもない松本市総合体育館には日本チームがいないにも拘わらず２日

間で延べ14,200人のバレーボールファンが詰めかけ大成功の裡に幕を閉じた。松本市では平成７年にも'95ワールドカップ女子大会の開幕戦（３日間）が開催され延べ14,000人が来場した。県内では以後世界選手権やワールドリーグ、グランドチャンピオンズカップなど多くの国際ビッグ大会が開催されるようになった。

国体においてはＨ２年福岡国体で天皇杯（男女総合）３位（115点）皇后杯（女子総合）４位（60点）Ｈ４年山形国体天皇杯３位（95点）平成６年愛知国体皇后杯２位（60点）など、上位常連都道府県に楔を打ち込み「バレー長野」の存在を示した。その間常に上位入賞し得点源となったのは少年男子（岡谷工高など）成年女子９人制（セイコーエプソン）で、両種別の安定的な活躍に他の種別が上乗せされるスタイルが確立された。また９人制２部において往年の名選手達が県選抜のもとに集結貢献すると共に県協会結束の原動力となり、また加盟団体などの飛躍にも貢献したことは特筆すべきことである。

その他長野教員男子チームが全日本教員選手権大会で４連覇（Ｈ６～Ｈ９）、女子チームも連続準優勝など常に上位入賞し、またクラブカップなどでも大いに活躍した。この世代の教員の多くがやがて県内ジュニア世代の指導者としても大いに力を発揮し、その後の中学高校大会での県内選手・チームの大活躍に繋がっていく。岡谷工高男子は春の高校バレー（高校選手権）にて準優勝（Ｈ２）国体での活躍も含めて期待が高まっていく。中学生はさわやか杯全国都道府県対抗大会（現JOC杯）において女子が準優勝（Ｈ２）しＨ７年大会では念願の初優勝を飾る。また全日本中学選手権大会では岡田隆安監督率いる裾花中女子が優勝（Ｈ８）男子も小布施中が準優勝（Ｈ７）するなど男女ともに全国の強豪に数えられるに至った。小学生バレーにおいては社会貢献のもと協賛企業も多く連盟において多くの大会が企画され登録チームも増加し盛況となる。ビーチバレージャパン女子大会で長野レディース（永井・勝野ペア）が準優勝（Ｈ２）し山国長野においてビーチの芽吹きの時となった。高橋由紀子（県出身）のアトランタ五輪ビーチバレー５位も話題となった。

Ｈ３年原敏会長が退任、替わって羽田孜氏（衆議院議員）が会長に就任した。この年生涯スポーツとして愛好家を増やし長野県ソフトバレー連盟が設立、初代会長に原敏氏が就任し組織化が図られた。Ｈ８年には設立50周年を迎え「全日本対ロシア」の国際親善マッチを記念事業として開催した。

■平成９年～平成18年

５期10年にわたり専務理事として法人化や組織・財政基盤の確立などに尽力された齋藤治氏が退任、替わって杉村彰則氏が専務理事に就任し協会事務所も松本市から岡谷市に移転した。

松本市において'91-'95ワールドカップに続き世界選手権女子大会（H10）を開催、長野市においては冬季長野五輪の余韻が残る長野市ホワイトリングで'99ワールドカップ男子大会（H11）を開催、３日間で50,700人（Bサイト史上最高）の観客を動員し国際バレーボール連盟（FIVB）より高い評価をいただいた。両市においてはそれ以後もワールドリーグ男子（H13-H16松本市）、ワールドカップ男子（H15長野市）、ワールドグランドチャンピオンズカップ（H17長野市）、世界選手権男子大会（H18長野市　５日間）など毎年の様に国際ビックイベントが開催された。また日・ロ、日・米対抗戦など国際親善試合やVリーグは地区連盟・地区協会の主管で運営開催されるようになり協会組織の底上げが図られていった。またこの頃より国際試合やVリーグの試合・セット間においてマーチングバンド、チアダンスなどが行われ次第にエンターテイメント化が進んでいく。しかしながら、Jリーグなどスポーツのプロ化や多様化が進行する中でバレーボール人気に陰りが見えはじめビックイベントの観客動員数も次第に減少傾向となっていく。

国体においてはＨ９年大阪国体で皇后杯４位（52.5点成年女子２部準優勝）と健闘、H11年以降は得点源の９人制女子セイコーエプソンが復活し少年男子の大活躍をベースにH12年富山国体天皇杯７位（少年男子優勝）、H14年高知国体（少年男子優勝）、H15年静岡国体天皇杯４位（88点　少年男子優勝　成年女子９人制第３位）、H16年埼玉国体天皇杯８位（64.5点）、H18年兵庫天皇杯４位（97.5点　少年男子優勝　成年女子９人制第３位）と好成績を残した。

高校においては壬生義文監督の下、全国屈指の強豪に成長した岡谷工業高校が史上２校目となる春の高校バレー全国高等学校選抜優勝大会３連覇（Ｈ９～H11）、３冠達成（H12春高バレー・高校総体・国体）、国体少

年男子県選抜の主力としてこの十年で優勝４回、その他春高バレー・高校総体では優勝６回・準優勝３回等々、その名を全国に知らしめた。中学においてはアクエリアス杯（現JOC杯）全国都道府県対抗中学生大会（H12）において男子が念願の初優勝、女子も第３位と大活躍、女子はH17年に２回目の優勝を飾る（男子第３位）など常に上位を狙う強豪県の一つとなった。その中心となったのが裾花中学であり自身もH16年-17年と全日本中学選手権大会を連覇（優勝３回）した。またこの時期県下小学生バレーも活躍し全日本小学生大会において小布施スポーツ少年団女子優勝（H14）準優勝（H15）し、若穂ジュニア男子も優勝（H18）を飾った。この世代からは後にオリンピアンや日本代表、またＶリーグで活躍する多くの選手が輩出されたが一方で有望選手が県外高校へ進学してしまうケースが多くなり後の県下高校バレーのレベル低下の一因となっていった。

H13年には杉村専務理事が退任、替わって江村恵一氏が就任した。H12年には長野県クラブ連盟が設立、初代会長には北村嘉男氏（県協会名誉副会長）が就任した。長野県クラブ連盟はその後北村会長指揮の下で多くの全国・ブロック大会などを誘致し組織力を充実させる中で後の県協会を担う多くの人材を輩出していく。駒ケ根市にビーチバレー普及強化の拠点となる県下唯一のサンドグランドが整備（H14）された。H17年には長野県ビーチバレー連盟が設立され初代会長に若尾勝美氏（県名誉副会長）、理事長には現役プレーヤーの三島英徳氏が就任した。H16年には江村専務理事の下で県協会ホームページを開設し県協会ニュースもデータ配信化するなど情報化時代への対応を図った。

■平成19年～令和２年

H18年羽田会長が退任（８期16年）、替わって瀬木 潔氏（㈱長野放送取締役副社長）が会長に就任した。また県協会は設立60周年を迎え松本市ホテルヴエナビスタにて記念式典と祝賀会が盛大に開催された。H18年６月公益法人をめぐる各種の不祥事や天下りの弊害、現行制度の制度疲労からの脱却等を目指して社団・財団法人制度改革の法律が公布され。これを受けて江村専務理事が中心となり当協会は一般財団法人への移行に向け準備が進められた。H22年３月理事会・評議員会にて移行が決議され「一般財団法人長野県バレーボール協会」として新たな船出をすることとなった。H25年には竹淵光雄氏が専務理事に就任し一般財団法人としての基盤固めが進んだ。H27年瀬木会長が退任（４期８年）され、替わって船木正也氏（㈱長野放送常務取締役）が就任し、Ｒ１年には竹淵氏に替わって村上里志氏が専務理事に就任、新たな体制の下で現在に至っている。

H19年2007ワールドカップ男子大会、H22年には世界選手権女子大会が松本市にて相次いで開催された。とくに世界選手権大会では米国・キューバなど世界の強豪６ヶ国が松本市に集結、５日間に亘って熱戦が繰り広げられ観客数はBサイトながら延べ34,600人を動員、主催者である国際バレーボール連盟（FIVB）より「日本の各会場が松本のようにやってくれたら世界バレーは必ず成功するでしょう！」と絶賛された。国際大会については長野市においてもワールドリーグ男子（H22)、2011

ワールドカップ女子大会（H23)、2019ワールドカップ男子（H30)、松本市では2015ワールドカップ女子大会（H27）が開催され、FIVB並びに日本バレーボール協会（ＪＶＡ）の厚い信頼の下で何れも成功の裡に終了した。

バルセロナ五輪（H20）には県出身の松本慶彦と岡谷工高出身の越川 優が日本代表チームの主力選手として出場し健闘した。H27年にはＶＣ長野トライデンツがＶリーグに参戦し県バレー界にとって念願のVチームが誕生した。ＶＣ長野はCL２を制覇してCL１に昇格、翌年には長野ガロンズもCL２リーグに参戦、また女子についてもルートインホテルズブリリアントアリーズが誕生しＶ２リーグ参戦（R01）を果たした。ＶＣ長野はその後H30年シーズンに国内最高峰のＶ１リーグ昇格を果たし飛躍を続けている。しかしながらＶリーグはH30年よりプロ化を目指して新リーグとなりホームゲームの主催もチーム側となったため、協会の関りは「協力」の立場となった。そのため多くの試合（Ｒ２年：51試合）が開催されても直接の収益源にはならないというジレンマを抱え財政難の当協会にとって今後Vリーグとの共存共栄を図る上で大きな課題となっている。

国体はH23年山口国体より９人制が廃止となり９人制女子を安定的な得点源としてきた本県には大きな痛手となった。H19年秋田は少年男子が準優勝、H20年大分は少年女子（東海大第三高主体）と成年女子９人制（セイコーエプソン）の健闘で天皇杯６位･皇后杯２位を獲得、翌年の新潟国体皇后杯３位､H22年千葉では少年男子(創造学園）の健闘で天皇杯７位皇后杯５位となった。H23年以降は９人制廃止の煽りを受け低迷するが、その中でもH25年東京国体ビーチバレー（公開競技）男女の初出場は明るい話題となった。またH27年和歌山では成年男子（VC長野トライデンツ主体）と少年男子（創造学園）で天皇杯７位と５年振りに入賞、H30年福井でも成年男子（VC長野）と少年男子（松本国際）で天皇杯７位を獲得し、男子種別中心に復活の兆しが見えた。今後は2028長野国民スポーツ大会に向け女子種別強化が課題となっている。

高校男子は名門岡谷工高に替わって壬生義文氏率いる創造学園（現松本国際）が台頭、女子は県中学女子強化の相乗効果で徐々にレベルアップが図られた。中でも東海大三は後にVリーガーとなる多くの選手を輩出した。また、中学から高校バレー界に転身した岡田隆安氏率いる東京都市大塩尻が頭角を現すことになる。創造学園はH23年高校総体に初優勝、同年の春の高校バレーでもおいても準優勝しその後も国体少年男子の主力として多くの入賞を果たし、Ｒ１年には松本国際高（H30校名変更）として再び高校総体の優勝を飾る。女子は東海大三・松商学園・都市大塩尻・長野日大など私立がしのぎを削り、指導者の世代交代なども相まって戦国時代が続いている。その中から安定的に全国上位に顔を連ねるチームの出現が期待される。中学では岡田氏の後継者である今井一仁氏率いる裾花中学女子が全日本中学選手権大会でH22年・25年・27年（６回目：史上最多）と全国優勝を飾り、裾花中を主力として臨んだJOC杯全国都道府県対抗中学大会においてもH20年･23年･27年と優勝し「バレー長野」の力を示した。この結果は中体連関係者が全県的に選手発掘の網を張り巡らす組織的な強化活動の賜物でもあり関係者の努力は賞賛に値するものである。一方男子はサッカー・バスケットなどへの人材流出が顕著に現れジュニア期の競技人口が急減し低迷を余儀なくされている。またH28年以降は女子もこの傾向が顕著となり2028国民スポーツ大会に向けてジュニア期の競技人口拡大・国体世代の選手発掘強化体制の抜本的見直しに迫られている。

H29年設立70周年を迎えＪＶＡ嶋岡会長はじめ多数の来賓と諸先輩方とともに松本市のホテルヴエナビスタにおいて記念式典と祝賀会を開催し関係者一同で更なる発展を誓い合った。加盟団体においては県大学連盟設立（H23）県小学生連盟30周年（H24）県ソフトバレー連盟10周年（H27）県ママさん連盟設立40周年（Ｒ１）県ソフトバレー連盟30周年（Ｒ２）県クラブ連盟20周年（Ｒ２）など組織の成熟と基盤が拡大されている。

最後に設立以来多くの諸先輩方が情熱を傾け発展を続けてきた歴史を心に刻み、更なる発展を目指していくことを宣言して結びとする。

長野県体操協会

平成、令和の初めにかけての活動・活躍をまとめてみました。

◎新体操女子選手の活躍

新体操は、やまびこ国体で少年女子新体操３位入賞以降全国規模での入賞が全くなかった。昭和55年に松本にジュニア新体操クラブwingまつもとR.S.Gができ、その後平成になってから橋爪みすず（旧姓笠井）氏を中心とし、伊那弥生ヶ丘高校を基盤としたジュニアの選手育成を図る。このジュニアの選手育成の動きが全県中に広がり、多くのチームができて、切磋琢磨して長野県の新体操のレベルを上げることとなった。最近では平成21年新潟国体新体操女子６位、22年千葉国体新体操女子６位、24年岐阜国体新体操女子３位などの輝かしい成績を収めている。

◎平成20年全国中学体操競技総体誘致

全国中学体操競技総体が長野市ホワイトリングにて開催される。約20年ぶりの全国大会の誘致、また初めてホワイトリングでの開催ということで中体連を中心に３年ほど前から実行委員会を作って大会運営にあたってきた。多くの競技役員、ボランティアのもとで大会は成功裏に終わった。

◎平成25年東日本ジュニア体操競技選手権大会誘致

28年ぶりに東日本ジュニア体操競技選手権大会が長野市ホワイトリングにて開催される。全日本ジュニアの予選会を兼ねたこの大会は、東日本各地より男女選手590名、５日間に渡って行われ、熱戦が繰り広げられてきた。県内からも多くの選手が参加し、そんな中、ジムネット体操教室所属松村朱里選手がAクラス２位に入賞。そして全日本ジュニア選手権で優勝という快挙を成し遂げた。

◎平成26年全国選抜新体操大会伊那西高校、個人総合猪俣涼子初優勝

新体操においての活躍は先ほど述べたとおりだが、ジュニアで育ってきた選手がさらに力をつけて、ついに全国大会において伊那西高校が選抜大会で優勝。個人でも伊那西高校猪俣涼子が優勝した。新体操界で全国優勝は初めての快挙となる。

◎平成27年全国高校総体伊那西高校、個人総合猪俣涼子優勝

昨年に続き伊那西高校（猪又、北原、塩澤、児玉、河野、小宮山）が全国高校総体で優勝。個人でも伊那西高校猪俣涼子が優勝した。

◎平成27、28年全国中学校体操選手権大会大町第一中学校３位、29年２位入賞

ジムネット体操教室で育ってきた松村、坂口、原田、斉藤、國府方を擁し２年連続大町第一中学校３位入賞、

29年には２位入賞を果たした。

◎平成29年トランポリン協会との合併

日本体操協会とトランポリン協会の合併に絡み、長野県でもトランポリン協会が体操協会の一員となり合併を行う。それに伴い、トランポリンも強化、普及、審判委員会が設置される。

◎体操、新体操女子選手の大活躍

平成30年全国高校総体大町岳陽高校、伊那西高校ともに３位入賞。

国民体育大会少年女子３位、全日本体操競技種目別選手権において坂口さんは跳馬１位、 段違い平行棒にて松村さん２位。全国規模での活躍が目立つようになってきた。そして日本代表メンバーとして選出され、種目別ワールドカップで坂口選手跳馬５位。

カナダ国際体操で、國府方さん個人３位入賞。世界でも活躍する選手が育ってくる。

◎世界で活躍する選手の排出

令和元年全国高校総体伊那西高校３位入賞、国民体育大会少年女子（器械）が２位入賞。

そしてついに世界体操競技選手権大会、日本代表メンバーに松村朱里さんが選ばれる。オリンピック代表選考に県内選手が複数人残り、様々な場面で注目をあびる。その他種目別ワールドカップに坂口選手跳馬４位入賞。全日本体操競技団体選手権大会女子においてジムネット体操教室が団体総合２位入賞。この大会は実業団、大学なども出場するいわゆる日本一のチームを決める大会でこの２位も大変すばらしいものである。

第74回茨城国体

◎コロナ禍での大会実施

コロナ禍で多くの大会が中止となった中、インターハイ代替大会の令和２年2020全国高等学校体操競技選抜鯖江大会にて大町岳陽高校２位入賞、令和２年度全国選抜新体操大会伊那西高校３位入賞。今後も女子選手を中心に活躍が期待される。

一般社団法人 長野県バスケットボール協会

昭和３年長野商業（長商）OBによって設立されていた「長野県バスケットボール協会」は､「大日本バスケットボール協会長野支部」として再出発した。大東亜戦争への足音が高まる中、昭和16年（1941年）２月には「大日本籠球会」と名称が変わり、昭和17年（1942年）９月大日本体育協会が「大日本体育会」と改組され「大日本体育会籠球部会」として吸収されていった。

そんな中、昭和20年（1945年）12月「日本バスケットボール協会」の発足に呼応して、松本市において「長野県バスケットボール協会」が設立された。この年開催された第１回国民体育大会北信越予選会では、ことごとく敗れたが、翌年は岡谷高女と松本中が北信越を抜いて出場し、岡谷高女は準々決勝まで駒を進め女子の活躍を暗示させた。

上田染谷丘高校は、昭和23年（1948年）福岡インターハイ、昭和24年（1949年）東京インターハイ、昭和26年（1951年）名古屋インターハイにおいて準優勝、名古屋大会では岡谷東高校も第４位に入賞している。

昭和27年（1952年）酒田インターハイでは岡谷東高校が優勝、昭和29年（1954年）の秋田インターハイでは飯田風越高校が準優勝、同じく神戸インターハイでも第４位の成績を残す。

昭和26年（1951年）第６回国民体育大会で上田染谷高校女子が優勝、昭和25年（1950年）から昭和27年（1952年）まで全日本総合選手権大会において３連覇した上田染谷丘クラブなど戦後の10年は、日本の頂点に燦然と君臨した。

その後、男２、女２の実業団チームが誕生し本格的な活動を開始した。短い期間ではあったが、10年近く一般の部の競技力向上に貢献した。協会の恒常的な活動として､日本協会から一流の講師を招き技術講習会の開催や、昭和37年に第１回全国教員選手権大会を開催、幾多の国際試合の招致、ラジオ放送やTV放映（NHKの協力）にも力をいれ「普及」「強化」の為に県民へ情報を流し、関心を高める活動を行ってきた。

このような中、30年代、40年代の低迷期を脱する機会が､昭和51年全国高等学校総合体育大会（インターハイ）が本県での開催となり、女子松本蟻ケ崎高がベスト８、男子松本県ケ丘高がベスト16と頑張りを見せた。

昭和53年の本県開催の「やまびこ国体」では見事「総合優勝」を勝ち取ることが出来た。

それ以後は、協会として中長期の強化計画「ドリーム

プラン（計画）」を策定し、その実現に向けて力を合わせ、現実目標として、北信越国体を勝ち抜き、本国体において上位を目指せるようなチーム作りに邁進した。全国教員選手権大会では、２回の全国制覇、国民体育大会では、

成年男子が平成６年（1994年）第49回愛知国体・平成７年（1995年）第50回福島国体・平成８年（1996年）第51回広島国体において３年連続５位入賞を果たした。その後、平成30年（2018年）第73回福井国体において第３位、令和１年（2019年）第74回茨城国体において第５位の成績を収める。少年男子においては、平成22年（2010年）の第65回千葉開催において第５位入賞、平成24年（2012年）第67回岐阜開催では、念願の決勝進出し京都府との対戦でしたが、及ばず第２位の成績を収めてくれた。そ

の後、成年女子は、平成27年（2015年）に北信越国体を全勝で勝ち抜き、第70回和歌山国体において第５位の成績を収める。全国高校総合体育大会（インターハイ）においては、東海大学付属第三（現諏訪）高校が平成22年（2010年）の沖縄開催において第３位の栄冠に輝いた。

その後もインターハイでは上位の進出を重ねている。（公財）日本バスケットボール協会も公益法人化に改変するとともに、各都道府県協会のガバナンス改革に着手することになり、当協会も今までは任意団体の協会であったが、平成28年（2026年）に法人格を取得、一般社団法人長野県バスケットボール協会と改称した。2028年の二巡目になる「長野国体」に向け、役員一丸となって強化に取り組む所存です。

長野県レスリング協会

昭和41年、３代目会長（故）小林靖氏の念願であった長野県レスリング協会が創設され、競技普及への試行錯誤がはじまった。昭和53年長野国体（小諸市開催）の成功に向け日本レスリング協会や大学にアドバイザーを依頼し小諸市及び小諸市民とタイアップしながら見事に成功へと導いた。国体以後、競技力も飛躍的に向上し全国大会上位入賞や日本代表として海外へ渡る選手も数多く誕生する。２巡目長野国体に向け協会の念願である総合優勝実現に向け「一致団結」し普及･強化に邁進している。

役員歴任者

会　長　　柏木譲　油井孝一郎　小林靖
　　小林哲夫　中嶋則行（現）
理事長　　油井孝一郎　小林靖　竹内喜久
　　柏木景岳　中嶋則行　小沢治
　　井出優（現）
事務局長　竹内喜久夫　田沢久幸　小沢治
　　中嶋則行　小林俊一　黒岩孝幸（現）
事務局所在地　小諸市役所　小諸青年の家　小諸高校
　　小諸商業高校（現）

【昭和60年代以降の足跡】

組織　支部組織発足は昭和61年に佐久市レスリング協会・平成元年小諸市レスリング協会・平成17年上田市レスリング協会がそれぞれスタートし３市の協会が出揃った。県少年少女レスリング大会も３市を順回りでの開催となる。

当協会も定期総会に向け三役会・常任理事会の開催や各委員会を構成し組織の充実と普及、強化に努めている。

高校　昭和63年に北佐久農業高校にレスリング部が創部、その４年後の平成４年には上田西高校にもレスリング部が誕生した。両校が切磋琢磨し競技力が飛躍的に向上し全国レベルへと引き上げた。

女子は現在まで北佐久農業高校５名､小諸高校５名、上田西高校２名が在籍している。

歴代長野県大会参加校

小諸商業高校　箕輪工業高校　佐久高校　軽井沢高校
阿南高校　小諸高校
下伊那農業高校　松代高校　長野南高校　飯田長姫高校
丸子実業高校
北佐久農業高校　上田西高校　佐久平総合技術高校

大学・社会人　平成７年から高校で活躍した選手が強豪大学（日本体育大学・拓殖大学・専修大学・山梨学院大学等）に入学し多数の学生チャンピオンが誕生する。更にその選手が大学卒業後にオリンピックを目指し自衛隊体育学校・クリナップ・アルソック・新日本プロレス等に入り日本代表として世界選手権大会・アジア大会・アジア選手権に出場している。

女子も優秀選手が中京女子大学（現至学館大学）・大東文化大学・早稲田大学・法政大学・育英大学に入学し活躍している。

国体にも女子の部が新設され、現在２階級で実施されている。女子の普及、強化も２巡目長野国体に向け大きな課題である。

中学・キッズ　現在、長野県には小諸キッズレスリングクラブ、佐久市レスリング教室クラブ、上田レスリングスポーツ少年団の３クラブが活動しており情熱のある指導者のもと幼年から小中学生まで指導を行なっている。各クラブ共に全国レベルであり全国大会優勝者や入賞者を多数輩出している。

クラブ卒業生の活躍も目覚ましいものがあり2018年世界選手権の日本代表として小柳和也選手（小諸キッズレスリングクラブ出身）がフリースタイル61kg級に出場し７位入賞を果たして長野県レスリングに大きな希望と勇気を与えた。

今、活動をしている子供達が2028年の２巡目長野国体の主力選手になることから、協会が一丸となって育成に努め中長期の強化計画を実施していく事が重要になる。

日米交流　日米親善高校レスリング大会が長野県では昭和51年から始まり、今まで15回15チームが来県し対抗試合を行った。長野県からも日本代表として過去に役員４名、選手30名がアメリカに渡っている。

栄章

【叙勲】

柏木　　譲　Ｓ52 藍綬褒章　Ｓ63 勲三等瑞宝章
油井孝一郎　Ｈ９ 勲五等瑞宝章
（Ｈ７文部大臣表彰・Ｈ３知事表彰）
小林　　靖　H14 勲五等双光旭日章
（H11 文部大臣表彰・Ｈ９ 知事表彰）
小林　哲夫　H29 勲旭日双光章　（H25 知事表彰）

【国体功労者表彰（選手、監督で合計30回以上参加）】

平成30年度　井出真一

【日本レスリング協会表彰】

《長野国体功労賞》Ｓ53柏木譲・小林靖、Ｓ57油井孝一郎、Ｓ63小林靖、H24小林哲夫・竹内喜久夫、H29柏木景岳

【長野県スポーツ振興功績者表彰者】

《有功章》Ｓ51柏木譲、Ｈ４小林靖、H15田島春男、H16竹内喜久夫、H20甲田保雄、H21小林哲夫、H22柏木景岳、H23荻原謙一、H24佐藤敏通、H25小平学、H26大池毅、H27前田豊、H28下平富士雄、H29田沢久幸、H30小沢治、Ｒ１中嶋則行、Ｒ２山浦利光

第74回茨城国体

《栄光章》Ｓ54曽根哲郎、Ｓ58中嶋則行、Ｓ60高橋成敏Ｈ８平井進悟・吉澤克洋、H11大井将憲、H13森角裕介、H14田守竹夫、H15高橋龍太・前島信彦、H20富岡直希、H30小柳和也・塩川貫太、Ｒ１佐々木風雅

《勲功章》Ｓ58小林靖、Ｓ60小林哲夫、H11中嶋則行、H22井出真一、H30井出優、Ｒ１平井進悟

【県体協記念表彰者】

40周年　Ｓ63柏木譲・油井孝一郎
50周年　Ｈ９竹内喜久夫　　60周年　H19小嶋国彦

【文部科学大臣表彰】

H18小諸キッズレスリングクラブ
H21佐久市レスリング教室クラブ

特記事項　全日本チームの支援役員としてレスリング世界大会に参加
柏木景岳　2016年リオデジャネイロオリンピック
世界選手権大会（2014・2015・2017・2018・2019）

式典　平成21年２月21日 長野県レスリング協会40周年式典（小諸グランドキャッスルホテル）40周年記念誌同時発行

平成28年２月20日長野県レスリング協会50周年式典（小諸グランドキャッスルホテル）50周年記念誌同時発行

記録

全日本選手権優勝者　H12グレコ97kg森角裕介、H13フリー58kg平井進悟・グレコ97kg森角裕介、H16グレコ55kg平井進悟・グレコ96kg森角裕介、H29フリー61kg小柳和也

全日本選抜選手権優勝者　H12グレコ69kg大井将憲、H13グレコ97kg森角裕介、H18グレコ55kg平井進悟、H23フリー74kg高橋龍太、H30フリー61kg小柳和也

国民体育大会優勝者F（フリースタイル）G（グレコローマンスタイル）

成年　H11熊本国体G69kg大井将憲、H18兵庫国体F74kg桜井浩二・兵庫国体G66kg村瀬洸介、H22千葉国体F55kg富岡直希

少年　Ｓ53長野国体F87kg曽根哲郎、Ｓ54宮崎国体F87kg曽根哲郎、Ｈ６愛知国体F63kg石田亮一G58kg竹花良二G68kg大井将憲、Ｈ７福島国体F54kg平井進悟、

Ｈ８広島国体F50kg高橋利典G54kg平井進悟、Ｈ９大阪国体G88kg丸山真太郎、H12富山国体G97kg前島信彦、H15静岡国体F50kg富岡直希、H17岡山国体G50kg富岡達也G55kg重松賢G74kg矢口護、H27和歌山国体G96kg白鳥慶樹、H30福井国体G51kg佐々木風雅

全国高校総体優勝者（インターハイ）

Ｈ６富山総体F58kg竹花良二、Ｈ８山梨総体F46kg吉澤克洋･F50kg高橋利典、H16岡山総体F84kg小林敏雄、H27京都総体F96kg白鳥慶樹、Ｒ１熊本総体F51kg佐々木風雅

全国高校選抜大会優勝者（新潟市）

Ｈ８・F46kg吉澤克洋、H16・F84kg小林敏雄

長野県ウエイトリフティング協会

＜沿革＞

長野県ウエイトリフティング協会は、昭和53年長野国体を契機に1966年（Ｓ41年）に設立され、約半世紀が過ぎた。これまでの関係者のご尽力により県内での競技の普及が進み、全国大会での活躍も増えてきた。これからは普及と強化にさらに拍車をかけ、来る2028年２巡目の長野国体に向け、さらに少年・成年・女子選手の強化を進め、天皇杯皇后杯の獲得に向け邁進していきたい。

また、少数精鋭の協会であるが、今後は審判等競技役員の育成にも注力し組織力の強化も図っていきたい。

＜年次別概況＞

1980年（Ｓ55年）～1988年（Ｓ63年）

成年は江波博司（松商学園・中京大）ベテラン市川秀俊（佐久消防署）・大輪嘉孝（松本市役所）を中心に、少年は松商学園高校が中心に強化が進められた。江波は奈良国体で５位､続く鳥取国体は６位と２年連続で入賞、さらに60年度全日本学生選手権大会で210kgを挙げ優勝し､ソウルオリンピックの有力候補選手にのし上がった。大輪も全日本社会人で３位入賞を果たした。

松商学園高校は､それまでは陸上部が兼任していたが、1985年（Ｓ60年）に正式にウエイトリフティング部として独立した。1984年（Ｓ59年）篠ノ井高校で陸上部顧問中沢次生先生の指導により投擲の和田直がインターハイへ出場し篠ノ井高校のウエイトリフティングの歴史がスタートした。1986年（Ｓ61年）には、山梨県で競技を学んだ土屋嘉裕先生が岡谷工業高校にクラブを作り、松商学園、篠ノ井、岡谷工業の３校が切磋琢磨するようになり、選手のレベルが向上した。

1989年（H元年）～1993年（Ｈ５年）

1989年（H元年）永田真樹（篠ノ井）清沢英彦（松商学園）が北信越大会で優勝した。全国高校選抜大会で清沢が６位、全国高校総体では、平成元年に永田が３位、平成３年に清沢が７位、国体では、清沢がＳ４位Ｔ７位入賞をした。永田、清沢はその後中央大学へ進学し活躍した。

このような先輩達に刺激され､その後内山正(篠ノ井)、伊藤賢一・深澤悟（松商学園）が北信越大会を優勝し、松商学園は田中宏樹・籠田浩明・倉科勝啓などが入賞し、初めて北信越学校対抗で準優勝をした。

また、1992年（Ｈ４年）からは北信越大会に女子が参加するようになり、篠ノ井高校・松本松南高校の選手が参加した。

1994年（Ｈ６年）～1998年（H10年）

1994年北信越総体で岩井純徳（篠ノ井）が優勝し、塚田和弘・竹田哲章・寺沢哲也らも入賞し、学校対抗３位となった。国体記念杯では、河合咲子（篠ノ井）が３位入賞をした。この頃、女子選手の活躍が見られ、松澤美保子、宮澤瞳、大須賀樹里、山越美鈴（篠ノ井）が北信越総体で優勝している。

男子では、村田卓弥、久保田浩、丸山純和（松商学園）が国体で入賞している。滝沢健太（篠ノ井）も２年生の３月、膝の怪我により長期リハビリを強いられたが、国体で復活し７位入賞を果たした。

1999年（H11年）～2004年（H16年）

清沢英彦は全日本社会人で２度の３位と優勝を経験している。1999年日本人初のプロリフターとして、ドイツブンデスリーグで活躍しその後、自営でTraumSportを立ち上げ、ウエイトリフティングの競技用品の開発・販売などを手掛け、北京オリンピック、リオデジャネイロオリンピック、2020東京オリンピックでは公式用具として採用されている。

2001年には、古賀弘が世界マスターズで殿堂入りを果たした。同年、滝沢祥太（松商学園）が２年で北信越大会優勝、全国高校選抜大会３位、翌年北信越大会２連覇、全国高校総体６位、国体Ｓ６Ｊ３Ｔ４位と好成績を収めた。滝沢兄弟は中京大学へ進学し、成年でも国体で入賞し長野県に貢献した。

2005年（H17年）～2010年（H22年）

2005年岡谷工業高校で長年顧問を務めた田中寛人先生が転出、中沢先生が2006年長野西を定年退職され、松商学園が１校となった。

2006年から松商学園女子選手の活躍が目立った。特に松山洋香、手塚香奈は北信越選抜大会２連覇、北信越高校総体でも優勝、松山は、国体記念杯で入賞しアジアジュニア選手権大会に参加した。また、高校生で全日本選手権

６位入賞し、その後早稲田大学へ進学し、全日本女子選手権大会で３位、全日本学生選手権大会準優勝と活躍した。

2011年（H23年）～2015年（H27年）（以降全て松商学園の選手）

2013年には、松商学園総合トレーニングセンターが設立され、練習環境が格段に良くなり、部員数が増加、また、合宿を頻繁に行い、県外から強豪校、強豪県が年間を通して合宿に訪れ、本県の競技力も向上した。

2014年には、河尻隆之介・小松幸佑が２年生で初めて国体入賞をし、小松は全国高校選抜大会で、長野県初の優勝という快挙を成し遂げた。また、河西勇介４位、河尻８位となった。翌年の全国高校総体では、小松が準優勝、河尻６位、河西７位と３名同時入賞し、学校対抗で５位入賞をした。国体でも３名同時入賞を果たした。

2016年（平成28年）～現在

2015年協会設立50周年記念式典を多くの参加者のもと盛大に開催され、前年の高校生の活躍も式典に華を添える形となった。

2017年全国高校選抜大会で太田至が６位入賞、全国高校総体では、原圭史郎が７位入賞、国体では、原がＳ６Ｊ６Ｔ７位、太田がＳ７位入賞を果たした。2018年国体では、安保充樹Ｊ８位、稗田琉玖Ｓ８位、河尻隆之介（法政大学）Ｊ８位と３名入賞を果たした。

2019年全国高校女子選手権大会を松本市総合体育館で開催し、松商学園から５名が出場し、長野県開催を盛り上げた。大会運営も一丸となって臨み、200名を超える選手を迎える中無事大会を終えることができた。当協会にとって全国大会を運営できたことは大きな財産となった。また、全国高校総体で、稗田琉玖７位入賞、国体では、稗田琉玖Ｓ５Ｊ８Ｔ７位、横山幸次郎Ｓ４Ｊ７Ｔ４位、良波快陸Ｓ７位と少年３名が入賞をした。

2020年は新型コロナ感染症により、各種大会が中止となる中、高校総体の代替大会TraumCUPを開催し、高校生の舞台を協会一丸となって盛り上げた。

2021年全国高校選抜に女子選手５名、男子選手２名の選手が出場、出場選手数は全国２番目であり、今溝龍生４位、竹内悠姫３位となった。全国高校総体へ出場すると、松商学園は40年連続41回目の出場を果たす事となる。

審判活動においては、牛山成剛が国際審判となり、2016年リオデジャネイロオリンピックや各種国際大会へ派遣され活躍の場を広げている、東京オリンピックでも審判としての活躍が期待される。

歴代会長

初代　吉田末男（昭和41年～）、２代　村上裕史（平成３年～）、３代　榊原進哉（平成22年～）、４代　飯島久雄（平成28年～）、５代　牛山成剛（令和２年～）

長野県ハンドボール協会

１　平成の時代に入り

この30年間、「競技力向上」と「普及」を中心に取り組みをしてきている。競技力は長野教員（男子）が、1988年（昭63）全日本教職員大会において準優勝、同年の全日本総合選手権大会初出場を果たした。国体に関しては、長野教員を中心とした成年男子が1987年（昭62）沖縄国体でベスト16、1989年（平元）北海道国体ベスト８（二部）、1991年（平３）石川国体ベスト16という戦績を残したが、その後本国体出場は1993年（平５）東四国国体の成年男子二部、2012年（平24）岐阜国体の成年女子（後述）のみとなっている。

２　競技力向上に向けて

県全体の競技力の向上に向け長期計画を立案し、ジュニア層（中学）からの強化をスタートさせた。1999年（平11）の全国中学校総合体育大会ハンドボール競技（以下全中）の開催に向け、運営と競技力の向上を両輪と位置づけ、全国のトップ指導者や日本中体連の皆様にご協力をいただき、男子屋代中学校（監督：鳥谷越洋）、女子茅野東部中学校（監督：宮澤好一）ともにベスト８という成果を示した。高校生においても翌2001年（平13）度、屋代高校男子が初めて北信越選抜予選を勝ち抜き、全国高等学校ハンドボール選抜大会への出場を果たし、2004年（平16）度には屋代高校男子（監督：佐藤純也）が、北信越予選において、本県の最高成績の２位となり、同大会へ出場した。

中学生のJOCジュニアオリンピックカップ（以下JOC）強化では、中沢徹（故人）・清水健太郎（故人）・宮澤好一・行田潤らの中学の指導者と協会が連携し長期的な計画で競技力の向上を図ってきた。2000年（平12）には、男子（監督：中沢徹）が北信越ブロックで優勝し、全国大会出場を果たした。

普及と県全体の競技力向上を目的に、県協会オリジナルの「NTS長野」を2004年（平16）より現在まで継続している。「NTS長野」は底辺拡大の役割を果たすとともに、茅野東部中女子（監督：行田潤）が2008年（平20）度の「春の全国中学生ハンドボール大会」ベスト８の成果をみせた。この「JOC・NTS世代」から橋本寛子（東京女子体育大～シャトレーゼ～三重バイオレットアイリス）が日本代表に、また高野一樹（北陸高校：U-19日本代表）、村山絵理奈（早稲田大～広島メイプルレッズ）、朝倉由貴（東海大：U19日本代表）など多くの選手がトップチームでプレーしてきた。

現在の成年男女県代表の大半が「JOC・NTS長野」を経験しており、北信越ブロックにおいて本国体出場を争えるレベルに達し、成果として現れたのが、2012年（平24）岐阜清流国体である。成年女子（キャプテン：清水浩子、太田彩・小林美早紀・多田仁美・重信あかね・朝倉由貴・濱恵利香・田中雪葉他）が初めて北信越国体を勝ち抜いて出場し、36年ぶりの勝利を挙げた。メンバー12人の内、10人が「JOC・NTS世代」である。

また、「JOC・NTS世代」の選手が関東・東海や関西の学生リーグで活躍するようになり、須坂啓佑（中部大～北陸電力）、多田仁美（日本体育大～三重バイオレット）、牛山悠衣（国士舘大～アランマーレ2019引退）は、日本ハンドボールリーグ（以下日本リーグ）で活躍している。須坂は2013年（平25）に第１回U-22東アジア選手権の日本代表に選ばれ、その後日本リーグ北陸電力でキャプテンを務めている。多田は2019年女子世界選手権日本代表として活躍し、「2020東京オリンピック」日本代表候補として、日本を代表する選手となっている。また、笠井千香子（大阪体育大学～ソニー）は2018年（平30）クロアチアで行われた世界学生選手権大会の日本初優勝のメンバーであり、インカレ４連覇にも貢献した。

ジュニアに目を転じると、日本ハンドボール協会が主催するNTS（ナショナル チームまでの一貫指導強化システム）センタートレーニングに県内選手も数多く推薦され、その中より、2019年（令２）U-16 のメンバーに緑川智也（戸倉上山田中～北陸高校）、六川歩美（屋代高校附属中学校～屋代高校）が選出され、今後の活躍が期待されている。

３　普及面での活動

身近でトッププレーを観て、ハンドボールの魅力を味わってもらおうと2007年（平19）より日本リーグの開催を実施している。毎回700人超の観客動員があり、一般の方々にもハンドボールの魅力に触れてもらう機会となっている。また、本協会の最大事業の１つである「長野県総合選手権大会」は2011年（平23）で第50回の記念大会を迎え、男女あわせ50チームを超える出場があり、県内や県出身者の愛好者の交流の場ともなっている。

高校生への普及でみると、全国的に生徒数の減少、価値観の多様化による運動部活動離れが進むなか、ここ10年間登録チーム数は、同等数を維持している（北信越ブロックの最多チーム登録数）。ひとえにハンドボールの魅力を伝え、情熱をもち指導してこられた先生方のご尽力、それをバックアップしている協会の取り組みが実を結んでいる結果である。

2012年岐阜清流国体成年女子

４　指導者の育成

指導者育成に目を向けると、この10年間で高体連・中体連を中心に指導者が増加しており、協会として上級指導者資格取得の支援を積極的に行っている。その中、日本協会NTS指導者として山本臣也（U16担当）、朝倉由貴（U13担当）が選出され、上級指導者の育成の成果と言える。協会として指導者育成の環境作りに、今後も尽力していきたい。一方、小学生年代への普及・強化も教育現場からも取り組んでいる。日本ハンドボール協会主催で、2010年（平22）に小岩井浩明が第13回ハンドボール研究集会（佐久市立中佐都小学校）、翌2011年に山﨑由美が第14回ハンドボール研究集会（千曲市立埴生小学校）での実践発表を行い、全国から小学校教員を中心に多くの教育関係者に参加いただき、ハンドボールの教材化や指導体系の構築を目指した授業提供、文部科学省教科調査官による講演、日本協会からの派遣講師による実技指導が行われた。

近年の取り組みとして、2021年（令３）３月、長野県教育委員会より依頼を受け、千曲市教育委員会主催で信州チャレンジスポーツDAY2020 地域イベント「ハンドボール体験教室」を企画した。地域分散型、地域のスポーツ団体が協力するイベントのモデル事業としての先駆けとなる取り組みとなった。

５　審判員の育成

強化と審判は、自動車の車輪と例えられている。理事長・会長を歴任した加藤雅之（故人）が日本ハンドボール協会審判審査員長として、全国だけでなく県内の審判員育成に尽力し、その成果として1999年（平11）の全国中学校総合体育大会ハンドボール選手権の女子決勝を塩川亮広・服部博幸の長野県ペアが担当し、地元開催の大会を締めくくった。その後、服部が県審判長任期中に2013年（平25）土橋邦彦・清水啓佑ペアが日本リーグ新人賞を受賞し、全日本総合選手権大会をはじめ、中学校・高校の全国大会決勝を担当し、トップレフェリーとして

活躍した。さらに、清水が審判長を引き継ぎ、2016年（平28）の全国小学生大会決勝を担当する上原一人・高村一を育成し、また、高橋ひかりが県女性審判員として初めて2019年（令２）より日本リーグの試合を担当するなど、後進育成の努力を続けている。

６　表彰者

長野県ハンドボール協会へ2000年（平12）文部省より社会体育優良団体表彰

柳沢民弥氏（故人）が2007年（平19）に旭日双光章を受章

青木崇氏が2016年（平28）に旭日双光章を受章

７　長野県ハンドボール協会の沿革

会長

平元4.1～平11.3.31	井出　正一
平11.4.1～平15.3.31	柳沢　民弥
平15.4.1～平21.3.31	加藤　雅之
平21.4.1～平29.3.31	青木　　崇
平29.4.1～現在	竹内　佳明

理事長

昭60.4.1～平3.3.31	加藤　雅之
平3.4.1～平7.3.31	青木　　崇
平7.4.1～平15.3.31	岩下　道範
平15.4.1～平25.3.31	竹内　佳明
平25.4.1～現在	行田　　潤

長野県自転車競技連盟

長野県自転車競技連盟は、昭和25年10月に現在の傘下団体『松本自転車競技連盟』を発展させ、県内組織の競技団体として発足しました。当時は、松本市宮田に１周400ｍの競輪場が造成されおり、多くの人々が競輪選手へ志望していきました。

昭和53年の長野国体が決定すると、昭和51年に県営として『松本自転車競技場』（周長333.33ｍ）が松本市美須々に新設され、同年には全国高等学校体育大会、昭和52年には都道府県対抗自転車競技大会が開催される等、全国規模の大会が多く開催されました。

昭和62年には、松本市美須々一帯の体育施設に県文化施設の建設候補地になったことから、松本市が単独事業として松本市惣社に『松本市かりがね自転車競技場』（周長333.33ｍ）が建設され、中野浩一をはじめ多くの競輪選手がお披露目に参加しました。

閉場前の松本市かりがね自転車競技場（平成25年９月撮影）

この競技場は、日本有数の『高速バンク』として、平成17年公益財団法人日本自転車競技連盟主催の『全日本自転車競技選手権トラックレース』をはじめ、一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟主催の『全日本実業団自転車競技選手権大会トラックレース』、日本学生自転車競技連盟主催の『全日本大学対抗自転車競技選手権大会トラックレース』等各種大会が開催され、日本新記録・大会新記録を更新する『トラックレース』のメッカとなりました。

平成14年頃からは上水内郡小川村をはじめ、県内各地で一般社団法人全日本実業団自転車競技連盟が主催するロードレースが開催され、全国各地のロードレースファンが自慢の脚力を競い合いました。その中でも、経済産業大臣旗をかけた全日本実業団自転車競技選手権大会ロードレースは大いに盛り上がりました。現在では、飯山市長峰スポーツ公園周回のクリテリウムレースや木曽郡木祖村味噌川ダム湖周回のロードレース、大町市美麻地区周回のロードレース等で日本学生自転車競技連盟主催のレースが開催されています。

大町市美麻地区で開催のロードレース

平成27年には、『松本市かりがね自転車競技場』の老朽化と松本山雅FCの練習場確保もあり、スケートの聖

地であった松本市三才山の旧浅間国際スケートセンターの地に、日本一標高の高い場所にある自転車競技場『天空のバンク・松本市美鈴湖自転車競技場』(周長333.33m)が移転建設されました。

スケート場も高速リンクとして有名であったこともあり、開場早々に開催された全日本学生選手権トラックレースでは、数々の大学新記録・大会新記録が生まれ、その後は、JOCジュニアオリンピックカップ自転車トラックをはじめ、2019年には寛仁親王記念ワールドグランプリ国際自転車競技大会を開催し、来賓として彬子殿下がおいでになりました。

移転した松本市美鈴湖自転車競技場

日本サイクルスポーツセンターにあるベロドローム（室内競技場：周長250m）に匹敵する好記録が生まれる競技場として、当連盟がゴールデンウィーク中に開催している『松本サイクルトラックレース』では、毎回150名を超える選手が全国各地から来場される様な大会に成長してきております。

開催中の松本サイクルトラックレース

又、本年は東京2020パラリンピック参加のフランスチームが事前合宿を松本市美鈴湖自転車競技場と松本市四賀地区で行い、トラック競技で金２個・銀１個・銅３個、ロード競技で金３個・銀３個・銅６個を獲得致しました。

パラリンピックフランスチームの練習風景

そんな大会を誘致することで、自転車競技に興味を持った方々が、実際に競技を始める良い機会になっていることもあって、昭和63年以降の国民体育大会（以下国体）では優勝５回、準優勝５回、３位７回を含め37回入賞を実現しています。

しかし、近年ではスポーツ志向の変化や自転車競技がマイナー競技であることもあり、競技人口が横ばい（県内競技登録者が約200人）で推移しており、選手層の年齢が上がって来ています。又一時期では高校生の選手が殆どいない状況もあり、入賞も数年間遠ざかっていたため、昨年からは2028年国スポの長野県開催も視野に男女問わず小学生から自転車競技場に親しんで貰える機会（自転車教室やベロクラブ設立）を増やす試みを開始し、将来の国体（国スポ）の選手育成にも力を注ぎ始めたところです。これを継続的に実施して競技人口を増やしていきたいと考えております。

自転車教室に参加する子供たち

長野県ソフトテニス連盟

沿革

昭和61年、前年急逝された塩島会長の後を受けて村井仁代議士が新会長に就任。全日本社会人で菅田・曲淵組（長野庭協）は３位、第41回国体でも成年女子が久しぶりのベスト８となる。

昭和62年はおよそ10年前に第一線から退かれた丸山まき美先生のご芳志などにより一般女子振興策の一環として、第１回長野県高等学校OG大会を開催し長期的視野で振興に力を入れる。第42回国体で成年女子が３位入賞。

昭和63年は木島平村軟式庭球協会の加入承認により加

盟支部数が31支部となり組織の一層の強化のため四地区連絡協議会を結成発足。全国中学校大会で林･依田組(塩田）が３位入賞、町田･塚原組（塩尻西部）が５位入賞。また全日本レディース大会で長野県チームが準優勝、第43回国体成年２部が３位入賞。平成となり２年に全国的傾向としてミックス大会が開催されるようになり、本県でも諏訪庭協主催の諏訪湖ミックス大会を県連盟大会とすることを承認。

また高齢化社会の進行に伴い壮年男子の選手数も増加、クラブ･実業団対抗リーグ戦大会の壮年男子を１部、２部の２種別とし参加選手の促進を図る。全日本社会人壮年男子３部で林・麻和組（長野・塩尻）が３位、第45回国体で成年２部が２位入賞。平成３年は朝日村軟式庭球協会の加入承認、加盟支部が32支部となる。全国中学校大会で塩田中が団体女子１位、上沢・田中組（塩田）が２位。

平成４年には、日庭連は世界軟式庭球選手権大会が国際的規模の大会となってきたことにより、さらに国際化を進め近い将来にオリンピック競技種目にとの思いから軟式庭球の名称を「ソフトテニス」と改め、この決定により昭和22年より発足した長野県軟式庭球連盟も平成５年より「長野県ソフトテニス連盟」とすることを決定。都道府県対抗全日本中学生大会個人男子で弓田・仲平組（高森）が１位、全国中学校大会個人男子でも１位。また全日本小学生大会個人男子で藤原･来野組（穂高西小）が３位となりジュニアの活躍が目立つ。

平成５年は上田庭球クラブの会長として尽力されてきた若林正五県連副会長が逝去。明科町ソフトテニス協会が加入承認され33支部となる。第48回国体で成年２部が４位入賞。平成６年は塩田中学女子が全国中学校大会団体女子で１位。平成７年は県連盟理事長、総務委員長、副会長などの要職を歴任された小林和夫県連盟副会長（長野市）が逝去。都道府県対抗全日本中学生大会団体女子で塩田中単独の長野県チームが優勝し全国中学校大会団体女子でも塩田中は２連覇という偉業を成し遂げる。また個人女子でも成沢・松沢組が２位、竹内・望月組が３位となり塩田中の活躍が際立つ。

平成８年は都道府県対抗全日本中学生大会団体男子で１位。第51回国体で少年男子がベスト８となる。平成９年は全国的傾向として「壮年」を「シニア」と改め大会を行う。また昭和57年、60年に「法人化」を検討し課題となっていたが当面見送ることとなった。第52回国体少年女子で上田西単独チームが３位と健闘。平成10年は松田謙治理事長が文部大臣スポーツ功労賞を受賞。ハイスクールジャパンカップ個人女子で成沢・竹内組が２位、全国高校総体で団体女子１位、第53回国体で上田西女子単独チームが１位となり上田西高が素晴らしい結果を残す。

平成11年は小学校団体を小学校体育連盟支部として承認。34支部となる。また長野県ソフトテニス連盟史の発刊を承認。全日本高等学校選抜インドアで上田西が１位。

第42回北信越国体（長野県）

ハイスクールジャパンカップ個人女子で松田・関組（上田西）が２位。全国高校総体団体女子で上田西が２位、個人女子で若林・寺本組（上田西）が３位、第54回国体少年女子で上田西単独チームが２位と上田西高が活躍。全日本シニア選手権シニア女子70で深沢･太田組（松本）が見事１位。

平成12年は､ハイスクールジャパンカップ個人女子で、寺崎・山本組（上田西）が１位。全国高校総体団体女子で上田西がベスト８。全日本シニア選手権シニア女子70で深沢・太田組（松本）が２連覇と素晴らしい結果を残す。平成13年は全日本シニア選手権シニア女子70で堀・清水組（長野）が３位。

平成14年は全日本シニア選手権シニア女子75で深沢・太田組（松本）が１位。第57回国体で成年男子が６位入賞。平成15年より長年ご尽力いただいた松田理事長（松本）が副会長となり宮澤新理事長（岡谷）の新体制となる。全日本シニア選手権シニア女子75で深沢･太田組(松本）が１位と２連覇。平成16年は前年の市町合併により戸上支部と更埴支部を併せて千曲支部となり33支部となり、東部支部が東御支部となる。全日本シニア選手権シニア女子75で深沢･太田組（松本）が１位と見事３連覇。平成17年は、全日本シニア選手権シニア女子75で深沢・太田組（松本）が１位。第60回国体で少年男子が７位入賞。平成18年は前年の市町村合併にともない豊科･穂高･三郷･明科支部が合併し安曇野支部となり30支部となる。中学選手権大会が中体連主催となる。日本ソフトテニス連盟の競技者育成プログラムを県でも推進委員会を設置し進める。全日本シニア選手権シニア女子75で深沢・太田組（松本)、シニア男子75で大川･小口組（千葉･岡谷）がそれぞれ１位。全国小学生大会４年生以下で吉沢・山口組（長野）が１位。平成19年より堀内理事長（松本）が就任。競技者育成プログラム委員会を立ち上げ、育成プログラムをこの年より推進。平成20年は全日本クラブ選手権で飯田市ソフトテニス協会Ａチームが２位、全国市町村職員大会で松本市役所が３位となる。平成21年は全国市町村職員大会で松本市役所が２位。平成23年は県連盟が一丸となって天皇賜杯・皇后賜杯全日本選手権を松本で無事開催。全日本シニア選手権シニア女子45で皆瀬・宮寺組（上田・埼玉）が２位。平成25年より吉田博

美参議院議員が会長となる。平成26年は全日本シニア選手権シニア女子45で太田・池上組（飯田・伊那）が３位。平成27年は太田・池上組（飯田・伊那）が全日本シニア選手権シニア女子45で２位、全日本レディース大会ばらブロックで１位。平成29年は原雅幸理事長の新体制がスタート。富士見・小布施・木島平支部がなくなり新たにみのわソフトテニス協会が加入承認され28支部となる。全日本クラブ選手権の男子の部でHIN-HIN（御代田）が１位、全日本シニア選手権混合50で片桐・依田組（佐久・長野）が３位。平成30年は長野国体に向けて準備・運営・強化を目的として準備委員会を設立。全日本シニア選手権混合50で片桐・依田組（佐久・長野）が１位シニア女子45で太田・芦部組（飯田）が２位。令和元年は吉田博美連盟会長が逝去。全日本シニア選手権ミックス50で太田・堀越組（飯田・東京）が２位、全国高等専門学校体育大会男子個人で赤羽・宮嶋組（長野高専）が１位。令和２年は新型コロナウィルスにより全国大会はじめ多くの大会が中止となる中どうしても県選手権だけは開きたいという理事長の思いを汲み延期をして万全なコロナ対策を行い開催する運びとなる。また国スポに向け戦略チームが発足される。

課題と展望

令和10年に延期となった長野県開催の国民スポーツ大会に向け平成30年に準備委員会が立上げられ開催準備に入ってきているが最近の国スポの結果が出されない現状を打破するため計画的な強化を行い結果につなげていきたい。またソフトテニス人口が多い中学から高校、社会人とソフトテニス人口が極端に減少してしまっている。生涯スポーツとしてとなり得るソフトテニスという種目の特性を生かし各地区で門戸を広く経験者を集め活動できるような体制作りを行う必要がある。そして昭和57年に法人化に向けて検討委員会を立上げ動き出したのだが、その後同意を得られず一度は立ち消えとなっていたが連盟の公益性を求められる昨今、再度法人化を進めていく事が必要であると考える。

長野県卓球連盟

１　連盟の設立

「長野懸卓球聯盟」は、大正15年（1926年）11月１日に、長野市懸町の懸農會内に設立された。

初代会長は柏原厚平氏、初代理事長は宮崎吉則氏であった。（長野県卓球連盟創立70周年記念誌より）

２　公益財団法人日本卓球協会への加盟

昭和６年（1931年）７月12日「日本卓球会」誕生と同時に加盟した。（財団法人日本卓球協会創立八十周年記念誌より）

３　中国との国際交流

日中国交正常化を記念して、中国卓球代表団が示した「友好第一、試合第二」の精神により、昭和47年（1972年）11月13日に長野県営体育館（松本市）において「日中交歓卓球大会長野県大会」が開催された。

中国選手団は荘則棟団長（1961・1963・1965年世界チャンピオン）以下28名、日本側は野本登（長野県卓球連盟副会長）以下23名で行われた。

試合は、21本、３ゲームスマッチによる９シングルスによる団体戦を４試合行った。

男子（第一団体）日本　５－４　中国
　　（第二団体）日本　２―７　中国
女子（第一団体）日本　６―３　中国
　　（第二団体）日本　５―４　中国

（長野県卓球連盟創立70周年記念誌より）

日中国交正常化10周年を記念して、昭和57年（1982年）９月25日に中国友好都市卓球代表団が来県し、友好試合を行った。

以降、平成10年（1998年）９月、平成15年（2003年）11月、平成20年（2008年）10月、平成30年（2018年）８月と日中友好都市中国卓球選手団が来県し、友好試合を行った。

平成２年（1990年）11月26日～12月３日まで北京市で行われた、「日中友好卓球カーニバル」に長野県選手団が参加した。

以降、平成４年（1992年）11月、平成９年（1997年）８月、平成14年（2002年）８月、平成19年（2007年）７月、平成24年（2012年）８月、平成29年（2017年）８月と、日中友好都市長野県選手団を、北京市に派遣した。（長野県日中友好の歩みⅣより）

４　全日本クラブ卓球選手権大会

第１回の大会を、昭和57年（1982年）戸倉町総合体育館で開催したのを皮切りに、昭和61年（1986年）まで５年連続、そして、平成２年（1990年）、平成３年（1991年）、平成10年（1998年）～平成13年（2001年）と、計11回を長野県内で開催した。

特に、平成10年～13年の大会は、長野市のオリンピック記念アリーナ「エムウェーブ」において、卓球台約80台、約2,000人を超える選手により開催された。（財団法人日本卓球協会創立八十周年記念誌より）

５　ＩＯＣ会長杯第２回国際卓球大会

平成３年（1991年）８月31日～９月２日まで、新装の松本市総合体育館において、10ケ国の世界トップ選手男女各８名による個人戦が行われた。

昭和63年（1988年）のソウルオリンピックから卓球が、オリンピック種目に採用されたのを契機に、平成元年（1989年）に第１回大会が、ソウルで開催された。

荻村伊智朗・国際卓球連盟（ITTF）会長（当時）が開催に尽力をつくし、IOCサマランチ会長（当時）が臨席のもと、開催された。

（財団法人日本卓球協会創立八十周年記念誌および長野県卓球連盟創立70周年記念誌より）

６　楢川荻村杯卓球大会

平成７年（1995年）11月23日に、楢川村（現在の塩尻市）にある「楢川インターナショナル　テーブルテニストレーニングセンター」において、第１回大会が開催された。

荻村伊智朗ITTF会長が、生前「楢川トレーニングセンター」を利用して　何か企画してほしいという話があり、実現できない内に亡くなられました。

長野県卓球連盟は彼の功績を讃え、その遺志を実現するために、彼の名を冠とした大会を開催した。

卓球の普及と健康を増進するためのラージボール卓球と、競技力の向上を目指した小学生（ホープス・カブ・バンビの部）の競技会を、現在まで開催している。

特に、2020東京オリンピック代表選手の、伊藤美誠選手・平野美宇選手は、小学生時代に出場し優勝を飾っている。

令和２年（2020年）は、新型コロナウイルス感染症対策のため、開催以来初めて、中止になった。（長野県卓球連盟創立70周年記念誌より）

７　映画『温泉卓球』

山川元監督、松坂慶子主演の映画『温泉卓球』は、上田市別所温泉を中心に　ロケが行われた。上小・佐久地方の高校・中学の卓球部員、協会会員や上田市民など、約300人以上がエキストラとしてロケに協力した。

平成10年（1998年）５月16日から全国東宝系で上映された。（長野県卓球連盟創立70周年記念誌より）

８　記念誌の発行

昭和63年（1988年）２月に「長野県卓球連盟60年史」を発行した。

平成12年（2000年）４月に「創立70周年記念誌『長野県卓球20世紀』を発行した。

９　ホームページの開設

平成21年（2009年）長野県卓球連盟のホームページを開設した。平成29年（2017年）５月にリニューアルした。

10　連盟旗作成

平成27年（2015年）４月11日に長野県卓球連盟定期理事会において、瀧澤いくみ氏デザインによる。連盟旗が披露された。

11　加盟団体

支部名	会　長	理事長
長野市卓球協会	峯村　威男	小林　健一
松本卓球連盟	齋藤　豊美	小松　　浩
上小卓球協会	塩川　正樹	召田　祐治
岡谷卓球連盟	松浦　盛明	山田　和男
飯伊卓球連盟	小椋　吉範	竹村　信之
諏訪市卓球協会	塩原　晴彦	牛山　　正
須坂市卓球協会	市村　忠彦	石月　英夫
小諸市体育協会卓球部	田中　常夫	三井　利幸
上伊那卓球連盟	阿部　凱人	下平　　諭
高社卓球連盟	田中　　昭	森山　直明
大北卓球連盟	百瀬　　清	平林　俊彦
茅野市卓球協会	横内　秀光	原　　吉彦
塩尻卓球連盟	上平　　昇	百瀬　章広
佐久市卓球協会	柳沢　光男	大工原真一
木曽郡体育協会卓球部	渡辺　　孝	横山　久男
安曇野卓球連盟	小野　樹佳	古川　節雄
千曲坂城卓球連盟	嘉生　正司	小林　英樹
南佐久郡卓球連盟	黒澤　信夫	友野　宣夫
東御市卓球連盟	西貝　茂夫	花岡　　髙
長野県高等学校体育連盟卓球専門部	高嶋　邦夫	井出　史憲
長野県教職員卓球連盟	齋藤　豊美	倉田　慎司
長野県中学校体育連盟卓球専門部	小林　　真	小松原　拓
長野県レディース卓球連盟	増澤　広子	－
長野県学生卓球連盟	五十嵐健二	百瀬　雄哉

12　歴代会長

柏原　厚平	大正15年（1926年）11月～（不明）
伊藤　淑太	昭和21年（1946年）３月～昭和22年２月
増沢　　武	昭和22年（1947年）３月～昭和24年３月
三沢卓三郎	昭和24年（1946年）４月～昭和32年４月
山田　正彦	昭和32年（1957年）５月～昭和35年２月
牛山治三郎	昭和35年（1960年）３月～昭和37年２月
原　　茂	昭和37年（1962年）３月～昭和63年３月
宮澤　宏昌	昭和63年（1988年）４月～平成４年１月
岩崎　忠三	平成４年（1992年）２月～平成10年３月
石田治一郎	平成10年（1998年）４月～平成26年10月
峯村　威男	平成26年（2014年）11月～平成28年３月
小松　　裕	平成28年（2016年）４月～令和２年３月
今井　竜五	令和２年（2020年）４月～

13　歴代理事長

宮崎　吉則	大正15年（1926年）６月～昭和９年
尾崎　盛信	（不明）
前田　亀次	昭和９年（1934年）３月～昭和18年
前田　亀次	昭和21年（1946年）３月～昭和24年３月
田島　一良	昭和24年（1949年）３月～昭和37年２月
矢島　修造	昭和37年（1962年）３月～昭和40年２月
村田　良造	昭和40年（1965年）３月～昭和51年２月
野本　道夫	昭和52年（1977年）３月～平成４年１月
峯村　威男	平成４年（1992年）２月～平成14年３月
鈴木　精一	平成14年（2002年）２月～平成16年３月
小泉　隆信	平成16年（2004年）４月～平成18年３月
大沢　正行	平成18年（2006年）４月～平成22年３月
武井富美男	平成22年（2010年）４月～平成30年３月
小原　秀元	平成30年（2018年）４月～

14　登録人数の推移

単位：人

和暦	西暦	社会人（教職員）	大学生	高校生	中学生	小学生	役職員（役員）	計
昭和54年	1979	1,703	11	188	102			2,004
昭和55年	1980	1,876	28	1,696	27			3,627
昭和60年	1985	2,012		797	210			3,019
平成２年	1990	1,600		2,069	1,019	141		4,829
平成７年	1995	1,341	47	1,783	1,951	198		5,320
平成12年	2000	1,560	48	1,440	3,582	266		6,896
平成17年	2005	1,532	81	1,739	3,975	253		7,580
平成22年	2010	1,599	72	1,647	3,875	277		7,470
平成27年	2015	1,414	100	1,491	3,937	257	404	7,603
令和２年	2020	1,128	81	1,221	3,147	275	342	6,194

15　審判員・コーチ人数の推移

単位：人

和暦	西暦	公認審判員（３級審判員）	上級公認審判員（２級審判員）	公認レフェリー（１級審判員）	国際審判員	コーチ３（公認コーチ）	コーチ４（上級公認コーチ）
平成22年	2010	265	32	19	5	7	1
平成27年	2015	377	31	16	3	19	3
令和２年	2020	378	39	17	3	28	2

長野県軟式野球連盟

長野県軟式野球連盟は、昭和21年９月に長野県体育協会（現長野県スポーツ協会）に加盟し、同じく75周年を迎える事になりました。

常に体育、スポーツの発展の為活動を続けて参りました。

前回昭和63年に「長野県体育協会史」を発刊されており、今回は63年以降について、我々長野県軟式野球連盟のあゆみについて記述を致します。

長野県スポーツ協会にとっての基本方針は、スポーツに対する意欲の高揚とスポーツ活動の普及・振興に好ましい影響をもたらすと共に、明るく活力ある社会の形成に寄与するものであり、生涯スポーツの振興を図る上での大きな影響を及ぼすものであります。

少子化、競技の多様化、分散化、野球離れとの影響等により競技人口が年々減少しておりチームの存続が危ぶまれている現状です。

対策とし、当時の県体育協会が音頭をとり長野県青少年野球協議会を発足させましたが、今後は、令和４年４月に設立予定の県内野球団体を統括する長野県野球協会へと引き継がれます。

小学生・中学生・高校生・大学生・一般・生涯野球・女子野球等の競技力向上、指導者の資質向上、審判技術向上、医科学サポート等各野球団体との緊密な連携を図り運営の円滑化や相互理解をすすめていくうえで、今後野球協会が重要な役割を果たすものと思います。

競技力向上は、長野県スポーツ協会の最重要課題である事から、一層の創意・工夫と努力を重ね盤石の強化体制を確立し、広く県民の期待に応える競技者の発掘・育成、そして国民体育大会等において成果を上げるものと考えます。

・国民体育大会の位置づけを徹底し、選手強化の一層の充実を図るとともに、（獲得得点・順位）を設定し、その目標を達成するための強化計画に基づき、トップレベルの選手を厳選し、徹底した強化を図る。
・指導者と審判員の高年齢化を打破すべき、指導者養成と審判養成事業の強化を図る。

2028年、長野県開催の第82回国民スポーツ大会に向け、万全な体制で臨みたい。

《国民体育大会軟式野球競技成績》

国体２巡目となり国体改革で「少年の部」の種別が無くなり、代わりに「成年２部一般」の種別が追加され「成年１部一般」・「成年２部一般」の２種別となり全国大会は、16枠となる。

昭和63年京都国体

成年１部一般　　佐久総合病院　２回戦敗退
成年２部一般　　信英通信工業　１回戦敗退

国体改革により「成年１部壮年」の種別が追加３種別となり、「成年１部一般・成年２部一般」16枠「成年１部壮年」12枠

平成元年北海道国体
成年１部一般　佐久総合病院　ブロック敗退
成年１部壮年　全諏訪　４位入賞
成年２部一般　エプソン諏訪　２回戦敗退

平成２年福岡国体
成年１部一般　エプソン諏訪　ブロック敗退
成年１部壮年　坂城町体協　ブロック敗退
成年２部一般　エプソン松本　ブロック敗退

平成３年石川国体
成年１部一般　ルビコン㈱　８位入賞
成年１部壮年　全諏訪　２位入賞
成年２部一般　岡谷市役所　７位入賞

平成４年山形国体
成年１部一般　ルビコン㈱　１回戦敗退
成年１部壮年　全駒ヶ根　１位入賞
成年２部一般　セイコーエプソン松本　１回戦敗退

平成５年徳島・香川国体
成年１部一般　佐久総合病院　１回戦敗退
成年１部壮年　全長野　ブロック敗退
成年２部一般　セイコーエプソン塩尻　ブロック敗退

平成６年愛知国体
成年１部一般　佐久総合病院　５位入賞
成年１部壮年　全長野　ブロック敗退
成年２部一般　帝国通信赤穂工場　ブロック敗退

平成７年福島国体
成年１部一般　ルビコン㈱　ブロック敗退
成年１部壮年　東信クラブ　ブロック敗退
成年２部一般　帝国通信赤穂工場　ブロック敗退

平成８年広島国体
成年１部一般　ルビコン　４位入賞
成年１部壮年　オール長野　ブロック敗退
成年２部一般　小諸厚生病院　５位入賞

平成９年大阪国体
成年１部一般　セイコーエプソン松本　１回戦敗退
成年１部壮年　東信クラブ　ブロック敗退
成年２部一般　隼クラブ　８位入賞

平成10年神奈川国体
成年１部一般　セイコーエプソン松本　ブロック敗退
成年１部壮年　オール諏訪　８位入賞
成年２部一般　クリエート中央ホーム　１回戦敗退

国体改革により種別が「一般Ａ」「一般Ｂ」「成年」に変更

平成11年熊本国体
一般Ａ　岡谷市役所　１回戦敗退
成年　オール諏訪　ブロック敗退
一般Ｂ　北信総合病院　１回戦敗退

平成12年富山国体
一般Ａ　ルビコン㈱　１回戦敗退
成年　オール松本　７位入賞
一般Ｂ　帝国通信赤穂工場　ブロック敗退

平成13年宮城国体
一般Ａ　佐久総合病院　１回戦敗退
成年　オール長野　ブロック敗退
一般Ｂ　帝国通信赤穂工場　８位入賞

平成14年高知国体
一般Ａ　セイコーエプソン松本　１回戦敗退
成年　オール諏訪　ブロック敗退
一般Ｂ　長野松代総合病院　７位入賞

平成15年静岡国体
一般Ａ　セイコーエプソン松本　ブロック敗退
成年　オール長野　ブロック敗退
一般Ｂ　ＭＢＣカザ　ブロック敗退

平成16年埼玉国体
一般Ａ　セイコーエプソン松本　ブロック敗退
成年　オール諏訪　７位入賞
一般Ｂ　ＭＢＣカザ　ブロック敗退

平成17年岡山国体
一般Ａ　佐久総合病院　ブロック敗退
成年　オール諏訪　ブロック敗退
一般Ｂ　ＭＢＣカザ　ブロック敗退

平成18年兵庫国体
一般Ａ　セイコーエプソン　ブロック敗退
成年　東信クラブ　ブロック敗退
一般Ｂ　佐久市役所　ブロック敗退

平成19年秋田国体
一般Ａ　佐久総合病院　ブロック敗退
成年　中信選抜　ブロック敗退
一般Ｂ　佐久市役所　７位入賞

国体改革により「一般Ａ」１種別　32枠

平成20年大分国体
一般Ａ　佐久総合病院　ブロック敗退

平成21年新潟国体
一般Ａ　佐久総合病院　ブロック敗退

平成22年千葉国体
一般Ａ　セイコーエプソン　ブロック敗退

※連盟対策として「一般Ａ」が８年連続ブロック大会で敗れており、このような結果を重く受け止め、国体県大会を「国民体育大会選手選考大会」に改め８チームから選手選考をし「チームながの」を結成することとする。

平成23年山口国体　１回戦　神奈川県　０－３
平成24年岐阜国体　１回戦　山口県　０－２
平成25年東京国体　１回戦　東京都　１－２（延長12回）
平成26年長崎国体　１回戦　栃木県　３－２

２回戦　宮崎県　０－１
平成27年和歌山国体　１回戦　三重県　２－１
２回戦　京都府　０－１（延長22回）
平成28年岩手国体　ブロック敗退
平成29年愛媛国体　ブロック敗退
平成30年福井国体　１回戦　鹿児島県　２－４
令和元年茨城国体　１回戦　京都府　５－１
２回戦　山口県　１－０
３回戦　愛知県　１－２
５～８位決定戦　東京都　５－１
５・６位決定戦　大阪府　１－４
６位人賞
令和２年鹿児島国体　新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止
令和３年三重国体　新型コロナウイルス感染症拡大防止の為中止

《連盟主催各種全国大会主な成績》

平成３年第35回高松宮賜杯軟式野球大会（第１部）準優勝
セイコーエプソン塩尻
平成４年第36回高松宮賜杯軟式野球大会（第２部）優勝
キッセイ薬品工業㈱
平成５年第37回高松宮賜杯軟式野球大会（第２部）優勝
帝国通信赤穂工場
平成７年第39回高松宮賜杯軟式野球大会（第１部）優勝
厚生連北信総合病院
平成８年第40回高松宮賜杯軟式野球大会（第１部）優勝
隼クラブ
平成15年第47回高松宮賜杯軟式野球大会（第１部）優勝
ＭＢＣカザ
平成19年第51回高松宮賜杯軟式野球大会（第１部）準優勝
宮後工業㈱
平成26年第69回天皇賜杯軟式野球選手権大会　３位
厚生連佐久総合病院
平成26年第58回高松宮賜杯軟式野球大会（第２部）準優勝
チロリンズ

《連盟主催各種中央大会主な成績》

平成元年第11回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
フジゲン㈱
平成３年第13回東日本軟式野球大会（第１部）優勝
長野県社会保険支払基金
平成８年第18回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
いずみ荘クラブ
平成９年第19回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
クリエート中央ホーム
平成10年第20回東日本軟式野球大会（第１部）準優勝
テルウエル信越
平成11年第21回東日本軟式野球大会（第２部）準優勝
白樺クラブ
平成13年第23回東日本軟式野球大会（第１部）優勝
帝国通信赤穂工場

茨城国体での競技風景

平成13年第23回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
ＪＡ長野篠ノ井総合病院
平成17年第27回東日本軟式野球大会（第１部）優勝
佐久市役所
平成23年第33回東日本軟式野球大会（第１部）優勝
松本市役所
平成23年第33回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
新光電気工業㈱
平成26年第36回東日本軟式野球大会（第１部）準優勝
飯山深雪クラブ
平成28年第38回東日本軟式野球大会（第１部）準優勝
ＭＢＣ
平成28年第38回東日本軟式野球大会（第２部）準優勝
松田南信㈱
平成29年第39回東日本軟式野球大会（第２部）優勝
松本広域消防局
平成30年第41回東日本軟式野球大会（第２部）準優勝
赤羽アイシンククラブ

《長野県で開催された連盟主催全国大会》

・天皇賜杯第74回全日本軟式野球大会ENEOSトーナメント
令和元年９月13日～ 18日　６日間
全日本軟式野球連盟名誉総裁高円宮憲仁親王妃久子殿下のご臨席を賜り、松本市・塩尻市・岡谷市・諏訪市・茅野市・伊那市・駒ヶ根市・飯田市の８会場で開催される。
長野県をはじめ松本市・塩尻市・岡谷市・諏訪市・茅野市・伊那市・駒ヶ根市・飯田市の各市より補助金をいただき無事終了することが出来た。

長野県相撲連盟

○沿革

・昭和21年11月 第１回国民体育大会参加
・昭和22年２月 長野県相撲連盟創立
・歴代会長、理事長

会　長　平沢　光久　昭和21年
　　中野源三郎　昭和38年～40年
　　小林　庄司　昭和40年～63年
　　平野　　茂　平成元年～５年
　　石田治一郎　平成６年～26年10.11
　　村上　　淳　平成27年2.15～令和元
　　水野　雅義　令和２年～現在
理事長　飯島　勝雄　昭和22年～35年
　　小岩井昌彦　昭和36年～40年
　　西沢　　茂　昭和41年～48年
　　成沢　文雄　昭和49年～59年
　　竹花　繁典　昭和60年～平成４年
　　植原　延夫　平成５年～18年
　　横山　元佳　平成19年～20年
　　町田　明彦　平成21年～令和元年
　　安藤　　均　令和２年～現在

・組織

現在、本県相撲連盟は、木曽、長野、松本、塩尻、東信、飯田、駒ヶ根、赤穂の８支部で組織し、木曽、大桑、長野、塩尻、松尾、駒ヶ根、佐久の７ジュニアクラブがあり、成人から小学生まで約280名の会員と約90団体の協賛会員（平成19年～）である。

○あゆみ

第１回国民体育大会に参加以来、第33回やまびこ国体でも団体入賞を果たすことができなかった。しかし、やまびこ国体を契機として、木曽相撲連盟が中心となり、相撲の普及及び青少年の育成と選手強化の取組を進め、その取組を全県に広め、国体での優勝・入賞をはじめ、各年代において、全国・北信越で優勝・入賞を果たせるようになった。大会での結果を中心に歩みとして、記すこととする。

１　国民体育大会（入賞）

平成８・９年　田島大助　　成年Ｂ 優勝　２連覇
平成10年　　尾羽林英樹　成年Ｂ 第５位
平成11年　　成年Ｂ団体（滝澤誠・田島・尾羽林）
　　第４位初入賞　総合 第８位
平成12年　　田島大助　　成年Ｂ 第５位
平成14年　　尾羽林英樹　成年Ｂ 第５位
平成18年　　田島大助　　成年Ｂ 第５位
　　鈴木章広　　成年Ａ 第５位
平成21年　　成年団体（鈴木・中田・横山）第４位
　　大道久司　少年 第５位　総合 第８位

少年の部初入賞　木曽から全県に広げた成果

平成22年　　大道久司　少年 第３位
平成23年　　大道久司　成年 第５位
平成24年　　北村直樹　少年 第５位
平成25年　　少年団体（松原康・市川・髙木二・渡辺亮・芝田好）第５位初入賞
　　渡辺　亮　少年 第５位
平成28年　　渡辺　拓・山内裕太
　　少年 第３・４位

２　社会人（準優勝以上）

平成15年　第42回全国教職員相撲選手権大会
　団体（田島・植原・尾羽林・上村）準優勝
平成21年　第２回全日本青年相撲選手権大会
　横山雄大 優勝　※第５・７・８回優勝
平成25年　第６回全日本青年相撲選手権大会
　団体（杉浦・横山・花邑・藤森）準優勝

３　大学生（優勝）

平成26年　第92回全国学生選手権大会　天皇杯第63回全日本相撲選手権大会　日本代表として、第11回アジア相撲選手権大会重量級　第19回世界相撲選手権大会団体　優勝
　大道久司　個人15タイトル獲得（上記含H23～）
平成29年　第52回全日本大学選抜十和田大会
　渡辺　亮　優勝
平成30年　第43回全国学生個人体重別選手権大会
　髙木飛翔　65kg未満級　優勝

４　高校生（団体準優勝、個人第３位以上）

平成14年　第54回全国高等学校相撲新人選手権大会
　木曽山林高等学校（鈴木・起・中田・北原）
　　準優勝

平成21年　第61回全国高等学校相撲選抜大会
木曽青峰高等学校（大道・花邑・百瀬・髙木翔）
準優勝
平成22年　第94回高等学校相撲金沢大会
石坂拓矢　第３位・北信越最優秀選手
平成22年　第53回選抜高等学校相撲宇佐大会
大道久司　優勝
平成25年　第62回選抜高等学校十和田大会
渡辺　亮　第３位
平成27年　第10回全日本ジュニア体重別相撲選手権大会
芝田好佑　80kg未満級　準優勝

５　中学生（準優勝以上　但し全国都道府大会第３位）

昭和55年　第２回中部日本選抜中学生相撲大会
原　智之　優勝
昭和58年　第５回中部日本選抜中学生相撲大会
奈良靖司　優勝
昭和63年　第10回中部日本選抜中学生相撲大会
福島中学校（赤羽・田島・尾羽林・小坂）準優勝
平成６年　第24回全国中学校相撲選手権大会
福島中学校（下原・平畠・生駒・滝澤雅）準優勝
平成12年　第11回全国都道府県中学生相撲選手権大会
鈴木章広　第３位
平成12年　第22回中部日本選抜中学生相撲大会
福島中学校（起・鈴木・中田・針間）優勝
平成12年　第30回全国中学校相撲選手権大会
福島中学校（起・鈴木・中田・針間・奥田）優勝

官民一体となった取組で全国制覇

平成18年　第17回全国都道府県中学生相撲選手権大会
団体（大道・山﨑・石坂・井出）第３位
平成19年　第29回中部日本選抜中学生相撲大会
福島中学校（大道・百瀬・花邑・中畑）準優勝
石坂拓矢　優勝　大道久司　準優勝
平成22年　第21回全国都道府県中学生相撲選手権大会
山本正克　準優勝
平成23年　第33回中部日本選抜中学生相撲大会
山本正克　優勝　松原康太　準優勝
平成25年 第35回中部日本選抜中学生相撲大会
山内裕太　準優勝
令和元年 第41回中部日本選抜中学生相撲大会
木曽町中学校（林玲・林琉・佐々木・中田）準優勝
令和３年　第51回全国中学校相撲選手権大会
木曽町中学校（林玲・林琉・中谷・藤谷）準優勝

６　小学生（優勝）

平成18・19年 第19・20回全日本小学生相撲優勝大会
山本正克　４・５年生の部　優勝
平成30年 第31回全日本小学生相撲優勝大会
林　　玲　６年生の部　優勝

７　女子（優勝）

平成26年　第５回全日本女子相撲郡上大会
福澤明莉　小学校４年40kg未満級　優勝
平成26年　第17回全日本小学生女子相撲大会
古瀬愛恵　小学校６年50kg未満級　優勝
平成28年　第７回全日本女子相撲郡上大会
福澤明莉　小学校６年50kg未満級　優勝
※全国規模大会のみ記載（中部日本選抜中学生相撲大会を除く）

８　その他

⑴　全国大会開催と県内での大会創設
昭和54年　中部日本選抜中学生相撲大会創設
平成９年　長野県小学生相撲選手権大会創設
平成11年　第29回全国中学校相撲選手権大会開催
平成15年　小・中学生相撲木曽大会創設
〃　長野県中学生相撲選手権大会創設
平成24年　第90回全国高等学校相撲選手権大会開催
平成26年　長野県中学生女子相撲選手権大会創設
平成29年　長野県女子相撲選手権大会創設

⑵　その他
平成４年　東京農大学合宿誘致（木曽福島町と連携）
平成16年　県ジュニア強化事業開始
平成19年　連盟会報誌『相撲ながの』発刊
令和元年　出羽海部屋木曽合宿開催（他団体と連携）
令和２年　コロナ禍による大会中止に伴い「高校３年生中学生３年生を称え励ます会」開催

長野県馬術連盟

＜低迷期からの脱出＞

馬術関係者の長年の尽力で国民体育大会における馬術競技の地位の向上を目指してきたこと、つまり、昭和63年「京都国体」まで行われてきた国体天皇杯得点のシステムが平成元年より変更になり、それまでは各種目の入賞者の総合得点の入賞県しか天皇杯得点が与えられていなかったものが、平成元年の「北海道国体」では種目数も増え、各種目の入賞得点がそのまま天皇杯得点に反映

されるようになりました。そのため今までは一つの拠点を持ってそこに数頭良質馬を持っている県が有利でしたが、以降は種目も多様化したことを受け、幸い長野県は昭和53年の「やまびこ国体」に出場した選手のほとんどが長野県の地元に散らばり乗馬クラブを設立し、それぞれが特徴を活かし、（例えば「クロスカントリー競技」を得意とする乗馬クラブあるいは「馬場馬術競技」を得意とするクラブ）国体の新しいシステム変更にうまく対応できたわけです。

その結果、「北海道国体」では篠原真一選手の優勝を含む、３種目の入賞、さらに翌年（平成２年）の福岡国体では大久保寿幸選手の優勝を含む４種目に入賞を果たしました。とりわけ前年度から新設された「クロスカントリー競技」の少年の部は平成元年と２年連続優勝という快挙でした。その後、地形的にも施設的にも長野県の得意種目となります。（平成３年からは「ダービー競技」に変更され、若干地形的有利は薄れたものの、長野県にとっては有力種目でありました。）

＜国民体育大会、全員入賞を掲げて＞

それ以後、数年の低迷期がありました。その対策として外部からの指導者を招へいし、実践的なトレーニング（国体で勝てる）の実施と成年だけではなく、少年も（実際には少年の保護者）良質な馬匹を取得し、かつ、昭和53年の「やまびこ国体」優勝者、及びその関係者が、自らの二世、またはその年代の選手を育て、先の外部からの招へい指導者とともに切磋琢磨し合い、長野県の国体予選会自体が非常に高いレベルで行われるようになった画期的な時期でもありました。つまり今までは１人、もしくは２人が入賞することが精一杯でしたが、国体に出場する選手全員が入賞を争えるレベルになってきました。

国体優勝14回の佐藤　泰選手

その成果が出始めたのは、平成７年の広島国体でした。（天皇杯得点で13位までに躍進しました。）更なる実践的な強化策として、当時「馬強県」であった山梨県と定期戦を申し入れました。当初は全く「胸を借りる」という状況でしたが、山梨県の馬術競技場の施設的にも良質であることが相まって、長野県の選手は山梨県の優秀選手からも学ぶべきことを吸収し著しい成長を遂げました。（この競技会は「甲信馬術大会」として20年以上現在も継続し、当時２県で始めたこの競技会が、現在では関東甲信越の有力選手が集結し時には200頭以上参加する大会にまで発展しました。）

平成９年の「大阪国体」以降天皇杯得点では常に、入賞を果たし、平成12年「富山国体」においてはついに少年種目で２名の優勝者（佐藤賢希、中村陽平）もを輩出することになり、その後、平成13年「宮城国体」の佐藤賢希、平成14年「高知国体」の佐藤英賢、平成15年「静岡国体」佐藤英賢の連覇と続きました。

一年置いて平成17年「岡山国体」での佐藤　泰（２種目優勝）、有吉　隆、その後佐藤　泰選手は平成21年の新潟国体までの五年間で８度の優勝で「馬術の長野県」に大きく貢献しました。

それ以外の選手でも、平成20年「大分国体」の佐藤英賢、金子哲之、小野苑果そして平成21年の「新潟国体」の小林義彦の優勝（小林は平成27年「和歌山国体」でも優勝）もありました。そして増田真七海は平成23年「山口国体」、平成26年「長崎国体」に優勝を遂げました。その後、佐藤　泰は平成29年「愛媛国体」、平成30年「福井国体」でも優勝し国体優勝は14回に達し、現在記録保持者、静岡県の川口選手の18回の前人未到の記録に迫ろうとしています。

＜念願のオリンピック選手の輩出＞

2008年（平成20年）ついに念願の長野県出身のオリンピック馬術選手が生まれました。「2008年北京オリンピック」の馬術競技は香港で行われ佐藤英賢選手が「障害飛越競技」に出場しました。愛馬の「カヤックDH号」は彼が低いレベルの競技会から世界を転戦しオリンピック馬までに仕上げました。

2008年北京オリンピック
佐藤英賢選手とカヤックDH

2012年の「ロンドンオリンピック」には佐藤賢希選手、大岩義明選手がともに総合馬術の選手として出場し、特に大岩選手は初日トップ通過で今後に期待を持たせてくれました。

そして「Tokyo　2020　オリンピック、パラリンピック」においても上記３選手は日本代表の有力候補選手になっておりメタルが期待されます。

＜掲げてきた方針と今後＞

長野県馬術連盟は平成12年頃より強化方針を下記のように掲げてきました。

１）全国の高いレベルの競技会への積極的参加

全国の高いレベルの競技会に参加するには、施設使用料、エントリー費、馬匹の輸送費、その他宿泊、交通費等の個人または乗馬クラブの負担は大きく、県からの補助金を活用しながら、かつ保護者への理解もお願いしております。

２）県内および県外での県馬連主催の高いレベルの競技会の開催

競技会をオーガナイズするにあたって、審判員、スチュワート、コースデザイナー、装蹄師、獣医師等のオフィシャルが必要です。そのためにこれらの資格取得を県馬連は積極的に進めてきました。馬術に関わった人たち全てが騎手（アスリート）として成功するわけではありません。様々な分野で学習しかつその能力を発揮して、高いレベルの競技会開催の一翼を担っていただきたいと思っております。

３）優秀選手の海外派遣及び海外からの優秀指導者の招へい

コロナ禍で非常に厳しい状況ですが、かつて県が行った事業「オリンピアン育成事業」を復活していただき、長野県選手が参加するオリンピックにおける「スポーツの力」に長野県民の感動を呼び起こしたいと願っています。

＜2028年　「長野」国民スポーツ大会に向けて＞

2028年の国民スポーツ大会では、ぜひ総合優勝を勝ち取りたいと思っております。選手育成のためのプログラムと、そのための組織作り（法人化を含めて）をこれまでの方針の更なる発展的変革を行い「馬術長野」を目指していきます。

長野県フェンシング協会

●沿革

当協会は、昭和53年やまびこ国体にむけて昭和48年６月13日に設立､同６月25日に長野県体育協会に加盟した。フェンシングを通じてスポーツを振興し、その健全なる発展とスポーツ精神の向上を図ることを主目的に、①普及及び技術の向上に関すること、②各種競技会、講習会等の開催に関すること、③国民体育大会等全国的大会に選手、役員等を派遣すること等、各種事業を行ってきた。

●昭和63年～令和３年のあゆみ

（下線部は、現在継続中）

⑴　会長

・清水重幸（箕輪町長：昭和48年～53年、県議会議員：昭和53年～平成11年１月）
・井沢通治（平成11年５月～15年11月）
・平澤豊満（平成15年12月～26年11月）
・白鳥政徳（平成26年12月～現在）

会長職は、歴代箕輪町長が務めており、事務局も町教育委員会内に設置されるなど､箕輪町の協力のもと、競技の県内普及及び強化に努めている。

⑵　活動団体

・小中学生の活動先
NAGANO.Jr.フェンシングクラブ（平成８年～現在）
南箕輪わくわくクラブフェンシング（平成20年～現在）
・中学生の部活動
箕輪中学校のクラブ活動（昭和56年～平成５年）⇒
フェンシング部（平成６年～現在）
・高校生の部活動
箕輪工業高校（昭和49年～平成19年）
箕輪進修高校（平成22年～現在）
伊那北高校（昭和59年～現在）
赤穂高校（平成12年～28年）
上伊那農業高校（平成20年～26年）
・その他、大学・高校生の所属先として、信州大学、伊那弥生が丘高校、つくば開成高校、長野工業高等専門学校、辰野高校などがある。

平成５年頃までは、箕輪中学校での週１回活動と２つの高校の部活動及びその卒業生らによる社会人の活動であり、県内で競技を始める年齢は15歳過ぎが中心であった。

平成６年に箕輪中学校のクラブが部活動となり、中学生（13歳から）の本格的な普及と強化が始まった。さらに平成８年には、小中学生の活動の場として、NAGANO.Jr.フェンシングクラブを箕輪町に立ち上げ、小学生（６歳から）の普及も始まった。底辺を拡大すべく、平成20年に南箕輪村地域総合型スポーツクラブへフェンシング教室を追加した。

現在は、保育園児（概ね５歳）から機会の提供を行っている。

⑶　この間の国民体育大会について

○成年男子

平成12年富山エペ８位､平成14年高知サーブル４位、平成15年静岡エペ４位、平成21年新潟エペ６位、平成23年山口エペ６位、平成29年愛媛フルーレ８位、平成30年福井フルーレ８位

成年男子は、昭和63年京都国体から令和元年茨城国体まで、32回ストレート出場し、７回入賞を果たした。

○少年男子（種目フルーレのみ）

平成８年広島３位、平成26年長崎７位、平成27年和

第74回茨城国体

歌山４位

出場：平成元年、平成３年、平成20年、平成24年、平成28年、平成30年

○少年女子（種目フルーレのみ）

平成16年埼玉４位

出場：平成12年、平成17年、平成20年、平成28年、平成30年

○成年女子（この間、本国体未出場）

少年男女と成年女子は、北信越国体にて上位１位か２位でなければ本国体に進めないが、少年男子は９回突破し、３回入賞を果たした。少年女子は６回突破し、１回入賞を果たした。

⑷　国体以外の主要全国大会３位以上、世界大会日本代表としての個人戦績（一部、団体戦績を波下線部で記載）

平成３年度：高校総体男子サーブル２位

平成11年度：高校総体男子エペ２位

・世界カデ女子エペ日本代表輩出

○全日本男子エペ優勝【三澤（県出身者）】

平成12年度：全日本男子エペ３位

平成14年度：全日本男子エペ２位

平成15年度：全国高校選抜女子フルーレ団体優勝【赤穂高】・全国中学生男子フルーレ団体２位、女子フルーレ団体２位

○全日本男子エペ優勝【三澤：長野クラブ】

平成19年度：全国小学生男子フルーレ団体優勝【NAGANO.Jr】・ＪＯＣジュニア男子エペ２位・世界ジュニア女子サーブル日本代表輩出

平成20年度：全国小学生男子フルーレ団体３位

・全国中学生男子エペ団体２位・全日本学生女子サーブル優勝【唐澤（県出身者）】

・世界ジュニア男子エペ日本代表輩出

平成22年度：全国中学生男子フルーレ団体２位

・世界カデ男子サーブル、女子エペ日本代表輩出

・ＪＯＣカデ女子エペ優勝【今井：上伊那農業高】

平成23年度：高校総体男子サーブル３位・世界カデ女子エペ日本代表輩出・世界ジュニア女子サーブル日本代表輩出

平成24年度：全国中学生男子サーブル３位・世界カデ女子エペ日本代表輩出

○世界カデ男子フルーレ第３位【西藤（県出身者）】

平成25年度：高校総体男子サーブル優勝【清水（県出身者）】、男子サーブル２位、女子エペ２位

○世界ジュニア男子フルーレ３位【西藤】

平成26年度：高校総体女子エペ２位・全日本女子サーブル３位

平成27年度：高校総体男子サーブル優勝【清水】・ＪＯＣジュニア男子フルーレ優勝、全日本男子フルーレ２位【西藤】

平成28年度：ＪＯＣジュニア男子フルーレ２位・全日本男子フルーレ３位

平成29年度：◎全日本男子フルーレ優勝、世界選手権男子フルーレ２位【西藤】

平成30年度：全国小学生男子フルーレ３位・全日本男子サーブル３位

令和元年度：全国小学生女子フルーレ３位・ＪＯＣカデ男子フルーレ２位

令和２年度：ＣＯＩＶＤ－19の世界的流行により、殆どの全国大会が中止、オリンピック延期

令和３年度：☆西藤俊哉選手が東京2020オリンピック男子フルーレ日本代表【県内初】

昭和47年頃まで県内経験者不在だったが、49年間当協会が中心となり、普及及び強化を行ってきた。競技者は徐々に増え、県協会の会員最大値は平成26年の88人であった。ここ数年は75人前後の登録数推移であり、中学生以下の比重が高い。県外大学・高校等へ進学して競技継続する者、さらに卒業後には地元に戻り、自身の競技継続と後進の指導にあたる者もいる。また、親が元競技者の２世フェンサーも誕生している。

競技者の個人成績としては、高校総体で４位以内に11名入賞、年代別の日本代表30名を輩出し、国内最高峰の全日本選手権大会では２名が優勝を果たした。最近では、中高校生段階から将来の可能性を高めて世界で戦うため、県外に活動拠点を移す選手も生じている。2017世界選手権で準優勝を果たし、長野県初のオリンピアンとなった西藤俊哉選手もその１人である。

団体戦の最高成績としては、全国小学生男子フルーレ優勝、全国高校選抜女子フルーレ優勝などを残し、県内在住メンバーで勝ち取った。

●今後に向けての取り組み

１巡の国体が終了し、女子への普及と定着が課題である。競技力が高い県では、成年女子の存在が大きい。国体で上位入賞成績を収める以外にも、幼少期指導での活躍や孫･子供の良き理解者かつ応援者となり、グッドフェンサーが育つ好循環が見受けられる。2028年には長野国民スポーツ大会が予定されているので、前述の課題解消に努めながら、やまびこ国体の再現（奇跡の少年男子優勝と称された）を目指し、地元で優勝を狙うチーム作りに取り組む所存である。

長野県柔道連盟

長野県柔道連盟は、大正11年に結成された長野県柔道有段者会を昭和23年に発展的に解消し、長野県柔道会を結成、昭和26年から長野県柔道連盟と改称して現在に至っております。

大会の開催では、実施回数が70回を数える「長野県四地区対抗柔道大会」を始め、全国屈指の少年大会である「醍醐敏郎杯全国少年柔道練成大会」の開催も26回を数えております。

平成に入ってからは、平成14年（2002年）厚生労働大臣杯争奪「第52回全日本実業団体対抗大会」、令和３年（2021年）には「全国高等学校総合体育大会柔道競技（インターハイ）」を長野市ホワイトリングにて開催いたしました。特にインターハイにおいては前年度新型コロナウイルス感染症拡大のため中止（兵庫インターハイ）となった翌年度ということもあり、全国から注目を集めた大会でありましたが、高体連専門部を中心に、当柔道連盟が一丸となって成功を収める大会となりました。

国体の成績では、常勝とはいきませんが、昭和53年の「やまびこ国体」での総合４位を皮切りに、女子総合優勝、成年男子では４位入賞をしております。

最近の活躍では、令和元年の世界柔道選手権大会で出口クリスタ選手（松商学園高等学校出身）が優勝し金メダルを獲得。また堀川（津金）恵選手（松商学園高等学校出身）が講道館杯優勝、手塚（村山）明日香選手（松商学園高等学校出身）茂木才跡選手（松本第一高等学校出身）が全日本ジュニア柔道選手権大会で優勝。他にも各種全国大会で優勝・入賞者を多数輩出しているとともに、全日本柔道強化指定選手にも指名され、更なる活躍を期待しているところです。全国柔道形競技大会でも優勝者が多数誕生しています。このように少年から一般までが切磋琢磨し素晴らしい環境が出来つつあります。

2028年に迎える長野国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けてはプロジェクトチームを立ち上げ強化をスタートしました。長野県の天皇杯獲得に貢献できるよう取り組んでおります。

昨今のスポーツの多様化、少子化などによる児童生徒の激減、苦労を嫌う風潮も手伝ってか中学・高校柔道部員が極端に少なくなり、競技人口が減少しています。この国民スポーツ大会での活躍を目指すことにより、県内での柔道競技者また支持者拡大に努め、青少年健全育成・地域貢献にも寄与したいと思います。そのために会員一人一人がそれぞれの立場で、個々の指導力の向上、「精力善用・自他共栄」の柔道精神で今後とも努力していきたいと思います。

全国大会以上優勝の記録（平成元年以降）

【全国中学校総合体育大会】

平成９年　徳久　瞳・下諏訪中学
平成13年　山岸絵美・丘中学
平成13年　清水千晶・旭町中学
平成25年　木崎光輝・丘中学校
平成27年　唯野己哲・東御東部中学

【全国高等学校総合体育大会】

平成16年　清水千晶・松本松南
平成23/25年　出口クリスタ・松商学園
平成24/25年　津金　恵・松商学園
平成26年　鳥羽　潤・松本第一

【全国高等学校柔道選手権大会】

令和３年　白金宏都・佐久長聖

【全日本柔道形競技大会　優勝者】

平成９年　柔の形　大森千草（大森接骨院）
平成11年　投の形　原山伸樹（長野県警察）
　　中澤真樹（長野県警察）
　　極の形　菊地宗昭（長野県警察）
　　久保山正秋（長野県警察）
平成14年　護身術　依田正三（日置電機）
　　春日啓孝（上田染谷丘高校教）
平成16年　投の形　内山貴之（内山接骨院）
　　松井孝文（敬老園）
平成17年　柔の形　大森千草（大森接骨院）
　　古式の形　小野澤健次郎（㈱明和）
　　春日啓孝（上田染谷丘高校教）
平成18年　投の形　高橋俊充（長野県警）
　　依田文和（長野県警）
　　護身術　武井弘美（武井接骨院）
　　平林友一（セイコーエプソン株式会社）
平成20年　投の形　内山貴之（内山接骨院）
　　松井孝文（敬老園）

【※内山・松井ペアはワールドカップ日本代表選出】

平成21年　護身術　武井弘美（武井接骨院）
　　平林友一（セイコーエプソン株式会社）
　　五の形　丸尾　泉（長野県教育委員会）
　　勝見藤一（丸子中学校教頭）
平成22年　投の形　内山貴之（内山接骨院）
　　松井孝文（敬老園）
　　護身術　勝見藤一（丸子中学校教頭）
　　春日啓孝（上田染谷丘高校）
平成23年　五の形　丸尾　泉（長野県教育委員会）
　　勝見藤一（丸子中学校教頭）
平成24年　五の形　丸尾　泉（長野県教育委員会）
　　勝見藤一（丸子中学校教頭）
　　柔の形　大森千草（大森接骨院）

平成25年　古式の形　瀧澤義人（瀧澤接骨院）
　　小林　修（湯田中温泉接骨院）
平成26年　　柔の形　大森千草（大森接骨院）

組織（役員）体制（平成元年以降）

◇平成元年～３年度
会　長　井出友則
副会長　滝沢　汎　　原　幸宜　　森島久利
　　上松正巳
理事長　宮原三治
◇平成４年～５年度
会　長　井出友則
副会長　清水　浩　　原　幸宜　　岡本滎八郎
　　森島久利　　山田耕司　　島岡一蔵
理事長　宮原三治
◇平成６年～７年度
会　長　岡本滎八郎
副会長　金子保利　　儀藤建治　　清水　浩
　　石田和増　　岩井信人　　小宮山修
理事長　笹井計知
◇平成８年～９年
会　長　岡本滎八郎
副会長　金子保利　　儀藤建治　　清水　浩
　　石田和増　　小笠原良孝　　斎藤金司
理事長　笹井計知
◇平成10年～11年
会　長　岡本滎八郎
副会長　笹井計知　　竹鼻　要　　渡辺展猛
　　大森素久　　三澤四郎　　藤森　弘
理事長　笹井計知
◇平成12年～15年
会　長　笹井計知
副会長　春原和昭　　竹鼻　要　　渡辺展猛
　　大森素久　　竹内　聡　　宮崎重昭
理事長　塚田修三
◇平成16年～17年
会　長　笹井計知
副会長　塚田修三　　竹鼻　要　　渡辺展猛
　　小口久人　　大森素久
理事長　木内義雄
◇平成18年～19年
会　長　竹鼻　要
副会長　塚田修三　　小池権衛　　米山　廣
　　小口久人
理事長　木内義雄
◇平成20年～21年
会　長　竹鼻　要
副会長　塚田修三　　小池権衛　　村山良治
　　小口久人
理事長　木内義雄
◇平成22年～23年
会　長　村山良治
副会長　内山　清　　生島常吉　　猪又正雄
　　小林昭平　　木内義雄（兼 理事長）
◇平成24年～25年
会　長　村山良治
副会長　内山　清　　井出英孝　　猪又正雄
　　小林昭平　　木内義雄（兼 理事長）
◇平成26年～27年
会　長　村山良治
副会長　内山　清　　井出英孝　　津金武寿
　　小林昭平　　木内義雄（兼 理事長）
◇平成28年～29年
会　長　木内義雄
副会長　宮原一治　　岩下富夫　　津金武寿
　　宮坂健一
理事長　久保山正秋
◇平成30年～令和元年
会　長　木内義雄
副会長　宮原一治　　岩下富夫　　津金武寿
　　宮坂健一
理事長　久保山正秋
◇令和２年～令和３年（現体制）
名誉会長　村山良治
相 談 役　木内義雄
会　　長　岩下富夫
副 会 長　宮原一治　　勝見藤一　　津金武寿
　　宮坂健一
理 事 長　中澤俊明
事務局長　丸尾　泉
事務局次長　北村和幸　　下島正信　　高村和男

長野県ソフトボール協会

１　発足から現在の姿

長野県ソフトボール協会は、昭和24年日本ソフトボール協会の発足とともに県高体連内に併設された。その後、伊那弥生ヶ丘高等学校女子ソフトボール部の国体６年連続出場の活躍により、「ソフトボールのまち伊那市」として熱意が盛り上がり、学校の地元の伊那市へ事務局を移転し独立する事となった。伊那市に協会を独立設置するにあたり、伊那市の温かいご理解を経て、昭和32年、伊那市教育委員会内に移された。同時に事務局内の組織の整備も行われ、現在の運営の形が築き上げられた。

当協会では、毎年全国大会を初めとし、リーグ戦など多くの大会の誘致に取り組んでいる。主な大会として、昭和63年には、日本女子１部リーグが初めて伊那市で開催され、平成13年に誘致した日本女子１部リーグ第１節では、**上野由岐子選手**が北九州高校を卒業し、日立高崎チームに入団してのデビュー戦となった。観衆は２日間で4,114名となり、当時の大変な話題となった。その後も、幾度と開催され、北京オリンピックで金メダルを取った斉藤春香監督、2020東京オリンピックの日本代表宇津木麗華監督などが当時の選手として来ている。近年では、平成29年、平成30年と２年連続で日本女子１部リーグを誘致し、東京オリンピック代表候補選手が多数出場している。

また、日本ソフトボール協会主催の各種大会にも毎年出場しており、長野県内の各種別のチームが、全国大会において好成績を収めている。主な活躍は、平成13年日本女子３部イースタンリーグで「大和電機工業株式会社」が優勝し、その後もリーグ戦等で活躍が目立ち、平成27年第55回全日本実業団女子選手権大会で優勝した。現在も、長野県内のソフトボールの発展に寄与している。また、平成20年第48回全日本実業団男子ソフトボール大会では、「ＫＯＡ株式会社」が準優勝、その後も同大会で２年連続３位の活躍、平成16年には第１回全日本一般男子大会で「オール伊那ソフトボールクラブ」が**初代の優勝チーム**となった。その他にも、全日本エルデスト大会で「リリーズ松本」が３位、令和元年第18回全日本エルデスト大会では「ＡＶＡＣＨＡＮ's」が優勝している。全日本一般男子大会で「ミノワオールスター」が３位、全日本実年大会で「ミノワ実年クラブ」が３位、全日本シニア大会で「伊那シニア」が準優勝３回と３位２回、同じく「南信州ＳＳＣ」が３位、全日本ハイシニア大会で「イ～ナちゃんハイシニア」が準優勝している。中学生種別では、全国中学校女子大会で「篠ノ井西中学校」が３位、平成26年度都道府県対抗中学生女子大会で「長野県中学生選抜」が優勝、小学生チームも北信越大会で好成績を収めている。平成に入り全国大会を毎年の様に開催しており、全国から大勢のトップレベルのチームや選手を招くことは、交流とともに、選手の競技力向上や普及にも繋がっている。

令和元年には、創立70周年を迎え、記念式典・祝賀会を盛大に開催し、80周年に向けて新たな一歩を踏み出した。

第10回都道府県対抗
中学生女子大会
優勝：長野選抜チーム

第55回全日本実業団
女子選手権大会
優勝：大和電機工業

第１回全日本
一般男子大会
優勝：オール伊那

２　組織：役員

（組織）

当協会は、現在、一般、大学、高校、中学、小学生の加盟団体をもって構成し、南信、中信、東信、北信に支部をおいている。役員は、顧問若干、参与若干、名誉会長１名、会長１名、副会長若干、理事長１名、副理事長若干、常任理事若干、事務局長１名、監事３名にて構成され、会は、会長以下の組織にて運営されている。

また、各支部から選出された役員より、総務、審判、記録、放送、財務、広報、指導者、技術、強化、普及、小学生、中体連、高体連、大学連、実業団、クラブ、一般男子、壮年、実年、シニア、ハイシニア、レディース、エルダー、エルデスト、国体対策プロジェクト、審判員普及育成、記録員普及育成委員の委員会を組織し、具体的な活動の推進を図っている。

（役員）

顧　問　向山文人（昭和48年～平成13年）
向山一人（昭和54年～平成９年）
三沢功博（昭和61年～平成９年）
原　久夫（平成７年～平成15年）
唐沢清海（平成16年～平成23年）
野溝和男（平成20年～令和３年）
小牧文敏（平成24年～現在）
小林丈夫（令和２年～現在）

理事長　向山一人（昭和32年～昭和53年）
唐沢清海（昭和54年～昭和58年）
野溝和男（昭和59年～平成13年）
小牧文敏（平成14年～平成19年）
小林丈夫（平成20年～平成23年）
矢島　宏（平成24年～令和１年）
唐澤　稔（令和２年～現在）

会　長　原　賢一（昭和33年４月～昭和40年）
田畑五郎司（昭和41年～昭和45年４月）
三沢功博（昭和46年～昭和60年）
原　久夫（昭和61年～平成５年）
唐沢茂人（平成６年）
小坂樫男（平成６年～平成21年）
白鳥　孝（平成22年～現在）

事務局長　拓殖　晃（昭和63年）
植田光夫（平成１年）
橋爪英峯（平成２年～平成５年）
酒井　一（平成８年）
唐沢　学（平成９年）
宮下　武（平成10年～平成13年）
深沢逸雄（平成14年～平成17年）
小林丈夫（平成18年～平成19年）
矢島　宏（平成20年～平成21年）
深沢逸雄（平成22年～平成23年）
吉川充彦（平成24年～平成29年）
小林栄一郎（平成30年～現在）

2010年～2020年　チーム登録数

	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
実業団男子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、試合が中止となったため、登録無し。
実業団女子	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
クラブ男子	9	7	8	9	8	6	6	5	5	4	
クラブ女子	0	0	1	1	1	1	0	0	0	0	
大学男子	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	
大学女子	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
一般男子	10	12	12	9	11	12	11	11	9	10	
レディース	17	16	17	17	15	13	10	9	7	7	
エルダー	8	9	8	9	8	7	7	5	6	5	
エルデスト	4	5	5	5	5	5	4	5	6	6	
壮年	33	39	40	38	39	36	35	33	35	33	
実年	20	19	19	19	18	19	21	23	21	24	
シニア	28	28	26	25	26	24	22	20	20	18	
ハイシニア	12	13	11	13	11	13	12	12	13	12	
高校男子	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
高校女子	25	25	25	23	24	24	23	23	21	21	19
中学生女子	15	18	18	18	16	16	14	16	16	15	15

長野県ソフトボール協会創立70周年記念

３　国体

（出場歴）

昭和63年京都国体…成年女子（大和電機工業株式会社主体）監督：新山監督
平成１年北海道国体…成年女子（大和電機工業株式会社主体）監督：新山監督
少年女子（長野選抜）監督：多田監督
平成２年福岡県国体…成年男子２部（長野県選抜）監督：矢島監督
平成３年石川県国体…成年女子(大和電機工業株式会社）監督：新山監督
少年男子（伊那弥生ヶ丘高等学校）監督：山本監督
少年女子（長野選抜）監督：多田監督
平成４年山形県国体…成年女子(大和電機工業株式会社）監督：荒井監督
平成５年香川県国体…成年女子（長野県選抜）監督：原壮内監督
平成６年愛知県国体…出場なし
平成７年福島県国体…成年男子２部（長野県選抜）監督：吉沢監督
平成８年広島県国体…成年男子１部（長野県選抜）監督：笠原監督
平成９年大阪府国体…成年男子１部（長野県選抜）監督：渋谷監督
成年女子（大和電機工業株式会社）監督：佐野監督
平成10年神奈川県国体…成年男子１部（長野県選抜）監督：大沢監督３位入賞
平成11年熊本県国体…成年男子（ＫＯＡ株式会社）
平成12年富山県国体…成年女子(大和電機工業株式会社）監督：佐野監督　５位入賞

第61回国民体育大会ソフトボール競技（成年女子）・のじぎく兵庫国体

のじぎく兵庫国体5位入賞　平成18年10月1日～4日　於豊岡市

平成13年宮城県国体…成年男子（長野県選抜）
平成14年高知県国体…成年男子（長野県選抜）
　成年女子（大和電機工業株式会社）
平成15年静岡県国体…成年男子（長野県選抜）監督：飯沼監督５位入賞

静岡県国体　成年男子　５位入賞

平成16年埼玉県国体…成年男子（長野県選抜）
　成年女子（大和電機工業株式会社）
平成17年岡山県国体…成年男子（長野県代表）
平成18年兵庫県国体…成年女子(大和電機工業株式会社)
　監督：深沢監督　５位入賞

富山県国体　成年女子　５位入賞

長野県バドミントン協会

１．協会のあゆみ

⑴　長野県バドミントン協会は、長野県内バドミントン競技者及び愛好者の統括中枢機関として、1948年６月10日（昭和23年）設立された。創成期には、経費面・施設設備面で多くの苦労を重ねてきた。当時日本バドミントン協会で発行された「初版バドミントン」では、16都道府県が掲載されているが、長野県もその一つに明示されている。本年2021年、創立73年を迎えることになる。

　昭和52年、当時本協会の顧問をされていた西田実氏が信州大学教育学部紀要第38号に発表された「長野県におけるバドミントンの歩み」の中で将来の方策として本協会に寄せた提言がある。

①　役員組織の拡充
②　児童生徒によるスポーツ教室の開設
③　中学校におけるクラブ活動の促進
④　県下中学校大会の開催の促進
⑤　日本バドミントン協会の利用
⑥　指導者の育成強化
⑦　優秀選手の強化

　以上抜粋である。現在実践している内容もあるが、更に努めなければならない内容も含んでいる。

　長野県バドミントン協会では、バドミントン競技の普及振興・体位の向上を目標に掲げ、スポーツの健全な普及・競技力の向上を図り、ガバナンスの強化･充実及びコンプライアンスを徹底し、スポーツ･インテグリティの向上を図ってきている。

⑵　本協会では、目標を達成するため、以下の事業を行っている。

①　バドミントンの普及及び指導：バドミントン教室の開催、審判員の育成分野で実施。
②　本会主催バドミントン競技会及び（公財）日本バドミントン協会主催バドミントン競技会の開催：大町市でのS/Jリーグ、長野市での全国教職員バドミントン選手権大会、全日本ジュニアバドミントン選手権大会、中部日本バドミントン選手権大会を開催している。今後も、計画を立案していきたいと考えている。
③　（公財）日本バドミントン協会主催競技会への選手派遣：長野県の代表としてまた北信越の代表として参加する。
④　（公財）日本バドミントン協会との緊密な連携
⑤　バドミントンに関する調査研究
⑥　バドミントンの競技力の向上：②・③・④・⑤と連動させ、実施。

　上記のとおり実施しているが、北信越・全国との壁は厚く、更なる方策を検討していきたいと考えている。

⑶　創成期の組織から、現在の情勢に対応した組織編成を行った。現在、本協会には４地区バドミントン協会・長野県実業団バドミントン連盟・長野県教職

員連盟・長野県レディースバドミントン連盟・長野県バドミントンリーグ・長野県学生バドミントン連盟・長野県高体連バドミントン専門部・長野県中体連バドミントン専門部・長野県小学生バドミントン連盟・長野県社会人クラブバドミントン連盟の13団体が加盟しており、会員数は合わせて約6,000名を数える。理事会の構成は、会長・副会長（４地区会長）・理事長・副理事長・事務局長・理事（各委員会：総務委員会、競技委員会、審判委員会、指導委員会、広報委員会、競技力向上委員会の委員長及び協会加盟団体の代表者）とし、総会は理事会のメンバーに各加盟団体から２名の代議員を加え開催している。目標に掲げているガバナンスの強化・充実及びコンプライアンス、スポーツ・インテグリティの向上の観点から協会規約・同会計規程・同専門委員会規程・同加盟団体細則・同倫理規程を検討し、2020年（令和２年）７月１日から施行している。また、諸般の事項に対応するため、会長が招集し、特別委員会の設置ができることとした。

２．競技力の向上

競技力の向上では、各競技力向上委員が熱心に尽力しているが、北信越ブロックの高い壁があり、勝ち抜くことが難しい状況が続いている。今後は、更に指導者の育成、選手の競技力の向上が課題となっている。厳しい状況の中ではあるが、本県仁科台中学出身の奥原希望選手が、リオオリンピック女子シングルスで銅メダルを獲得し、注目されている。現在、女子シングルス世界ランキング３位で東京オリンピックを目指して頑張っている。

また、近年、本国体ベスト８・16、全日本小学生バドミントン選手権大会ではベスト４、全日本ジュニアバドミントン選手権大会ではベスト８と着実に競技力が向上してきている。日本バドミントン協会U13のナショナルチームに所属し、練習に励んでいる選手もいる。一方、普及の面では会員登録者数が約6,000名と着実に増加し、多くの方が大会に参加している。更なる競技力の向上と普及に努めていきたいと考えている。一方、日本の一線級の競技を見て自己研鑽に励んでもらいたいという思いから、全国大会及び準全国大会の招聘を行っている。大町市でS/Jリーグ（平成30,1）、長野市で全国教職員バドミントン選手権大会（平成24,8）・全日本ジュニアバドミントン選手権大会（平成30,9）、上田市・佐久市で中部日本バドミントン選手権大会（平成29,11）ある。長野県選手にとって良い刺激となったと考えている。各大会は無事終了することができた。開催にあたり、ご尽力・ご協力いただいた関係市町村の皆様、関係団体の皆様、ご支援いただいた企業の皆様、住民の皆様にこの場をお借りし、御礼申し上げます。今後も、全国大会を招聘し、長野県選手の競技力の向上と普及に努めていきたいと考えている。

３．歴代会長・理事長

①　会長

笠原　英一（松本市、Ｓ25～27）
宇都宮　宿（長野市、Ｓ28～29）
笠原　英一（長野市、Ｓ30～39）
中村　篤衛（松本市、Ｓ40～42）
上条　密門（松本市、Ｓ43～46）
中村　　伝（塩尻市、Ｓ47～Ｈ５）
長浦　音吉（千曲市、Ｈ５～11）
金子　　忍（諏訪市、H12～19）
山田　一六（諏訪市、H20～24）
平林　良治（安曇野市、H25～30）
山浦　和男（上田市、R元～２年）
荒井　和人（長野市、Ｒ３～　）

②　理事長

伊藤　活次（岡谷市、Ｓ25～27）
清水　　武（長野市、Ｓ28～29）
伊藤　活次（長野市、Ｓ30～37）
丸山　修弘（松本市、Ｓ38～39）
中村　欣也（松本市、Ｓ40～41）
小出沢　悟（松本市、Ｓ41～53）
桑沢　英晴（塩尻市、Ｓ54～58）
長浦　音吉（千曲市、Ｓ59～Ｈ４）
金子　　忍（諏訪市、Ｈ５～11）
平林　良治（安曇野市、H12～23）
荒井　和人（長野市、H24～）

４．今後の発展に向けて

西田実氏からの提言を踏まえ、選手強化の見直しを行った。本年（2021年）から次世代を担うジュニア層の競技力の向上を図るため、「選手強化プロジェクト」を立ち上げ、活動を始めている。2028年の長野国体や将来の競技力の向上に繋がるものと考えている。

長野県弓道連盟

昭和22年に全日本弓道連盟が発足し、その５月に長野県弓道連盟も設立され、現在まで75年間、先輩各位、会員の努力により、時代が激しく変化する中で弓道長野の伝統を守りながら充実、発展してきた。

「長野県弓道連盟の現状」

平成元年全日本弓道連盟会員として登録した一般会員は、1,411名。現在は、減少してきてはいるものの1,285名。これに学生登録者、大学生約200名、高校生約２,700名、中学生約70名を加えると4,250名ほどの弓道人口となっている。少子化、高齢化が進む中で、それぞれの競技団体が会員確保に苦労しているが、弓道も苦労はしつつも一般では、女性会員が増加し、また、高校生人口も減少する中でありながら弓道部員数は、横ばいで推移している。

平成24年から中学校での武道必修化が始まり、下伊那郡泰阜中学校では弓道を選択して現在も継続。また、下伊那郡喬木中学校では、選択授業で弓道が取り入れられ武道必修化以前から続けられている。また、全県下、中学での部活動、また各地域での弓道教室への中学生の参加も多く、長野県弓道連盟が主催する中学生大会も年々参加者が増加しジュニアへの普及も進んでいる。

指導者も長野県は、弓界の最高指導者である範士の数が全国でもっとも多い時期もあり、まさに全国弓道界をリードしてきた。時間の経過とともに、その先生方も他界された方、一線を退かれた方もいますが、平成に入り、平成11年に山川茂樹範士（平成28年逝去）が誕生、平成23年には土川俊市先生が八段に昇段。平成27年に杉田博範士が誕生。現在でも指導陣は、充実している。

「広報誌・連盟誌の発行」

平成14年に広報誌「弓道ながの」が発行された。全国では、広報誌を発行している県連も多くあり、当時の故古澤博会長が長野県でも何とか発行したいと努力され、新しく広報部がつくられた。当時のことを関係者に聞くと、始めてのことで大変な苦労があったということであるが、年４回発行の目標が計画どおり進められ、会員への情報提供、記録保持など貴重な情報源となっている。令和３年４月発行で77号を数えている。

平成17年には、長野県弓道連盟史も発行された。285ページという立派な連盟史で、長野県弓道の歴史が詳細に記録されている。12名の編纂委員会が組織されたが、すでに編集委員でも他界された方もいて、それだけ時間は経過しているが、読み直してみると、多くの資料を集め、弓道長野の歴史がよく分かり改めてその努力に敬意を表するものである。

「県営弓道場の建設」

長野県内には、公営、私営を合わせ85ほどの弓道場がある。古くからの道場も多く長野県の弓道が盛んな証明でもあるが「やまびこ国体」が松本の護国神社境内で実施されたように、数多く道場があっても遠的、近的合わせた全国大会ができる道場はなく、その建設が弓道関係者にとって悲願であった。

昭和53年「やまびこ国体」弓道少年女子の遠、近両種目制覇（選手３人は、飯田女子高校）を含め、飯田女子高校の全国大会での活躍、合わせ弓道の盛んな地域である飯田市の運動公園内に平成４年長野県営弓道場が総事業費約５億円で建設された。その規模、施設内容とも全国屈指の道場であり、長野県弓道連盟にとっても、弓道関係者にとっても大変な喜びであった。その後も遠的射場の安土屋根、近的射場の観覧席屋根などの整備も行われ、この道場を拠点に全国大会で活躍する選手を輩出してきている。

2028年に予定されている長野国体は、この県営弓道場で開催されることがすでに決定している。

「全国大会での活躍」

多くの全国規模の大会が実施されている。ここでは全日本弓道連盟が主催し、全国の弓士が目指す最高峰の大会である「全日本男子弓道選手権大会」「全日本女子弓道選手権大会」、日本スポーツ協会が主催の国民体育大会の中での弓道競技、高校生のインターハイでの優勝を

紹介したい。なお、大学生も信州大学を中心に、北信越での活躍はもとより、全国大会で優勝、入賞する個人選手もいる。卒業後、長野県に残り、社会人として活躍する弓士も多い。現在、長野県弓道連盟の中では、大学弓道との関わりが薄くなっており、今後改善していかなければならない課題である。

「全日本男子選手権大会」

平成26年　第65回全日本男子弓道選手権大会

平澤敏弘錬士六段　優勝

多くの指導者、選手が育った長野県であるが、男子選手権での入賞はあったものの優勝（天皇杯）に手が届かず、天皇杯を長野県に、これが積年の夢であった。平澤選手は、33歳の若さで、長野県に初の天皇杯を持ち帰り、新たな歴史を刻んだ。平澤選手は、現在「教士」に昇格している。

「全日本女子選手権大会」

平成４年９月　全日本女子選手権大会

今村康子教士七段　優勝

平成21年９月　全日本女子選手権大会

降旗奉子教士七段　優勝

平成の時代に２回皇后杯を長野県で獲得している。長野県女子の活躍は目覚ましい。

「国民体育大会」

平成４年　山形国体　少年男子遠的　優勝
平成７年　福島国体　成年女子（２部）優勝
平成18年　兵庫国体　少年女子近的　優勝
平成22年　千葉国体　成年男子遠的　優勝
平成27年　和歌山国体　成年男子近的　優勝
平成28年　岩手国体　成年男子近的　優勝
平成30年　福井国体　少年遠的、成年女子遠的、成年男子遠的　優勝

「全国高校総合体育大会」

平成元年　女子個人　長野吉田高校　伊藤三枝選手　優勝
平成３年　女子団体　飯田女子高高校　優勝

「全国高校選抜大会」

平成14年　女子個人　飯田女子高校　平澤京子選手　優勝
平成28年　男子団体　長野吉田高校　優勝

なお、優勝者を紹介したが、二位以下の数多くの入賞もある。特に、国体では、毎年のように入賞しているがその活躍は、飯田県営弓道場に賞状が掲げれられておりぜひご覧いただきたい。

「今後の課題」

全日本弓道連盟も平成23年公益財団法人となり、また、日本スポーツ協会傘下の弓道の中央競技団体となっている。スポーツ競技団体としてのガバナンスも求められ、弓道連盟も競技団体としての役割と伝統武道を守り育てる双方の役割を果たしていかなければならない。

競技団体としては、まず人口減少の中でいかに弓道人口を拡大していくか、青少年の健全育成という視点、また高齢者の生きがい、健康増進という視点からも幅広い年代層が興味を持てる武道であることを広めていかなければならない。一方、古来から弓は神器として崇められ、いまでも神社の祭典で奉納射会が開かれている。会員でなくても弓を引かれる方もおり、弓を引くという姿に憧れる人もいる。そういった人たちも弓道の仲間と考えていく多様性が求められている。

令和という新しい時代に、動かぬ的と対峙し、自己を見つめるこの弓道が多くの人に注目されるものと期待している。

長野県ライフル射撃協会

我々が愛して止まないライフル射撃競技が国体正式種目であると説明するも、残念ながら、それを知る人は少ない。中・高校生となると、国体の正式種目であることはおろかライフル射撃競技種目の存在さえも知らないことが多い。マイナースポーツゆえ、本協会にとって、その認知・啓蒙は今もって永遠の課題である。

他の「的」射る競技にも通ずると思うが、ライフル射撃競技において、射座に立つ折の精緻且つ崇高な境地は格別のものがある。更に、競技の性質上、法遵守は絶対的であり、その心得をもって練習・競技に臨むことは、自ずと人格形成が培われると信ずるところである。これは、本協会に所属する中・高校生や同伴の保護者にも、折に触れ伝えている。

本協会は、北信越国体予選突破、国民体育大会出場を目標に掲げ、日々運営推進に努力している。毎年巡ってくる国民体育大会だが、我がライフル射撃協会は１巡目長野国体開催（昭53）に発足後、漠然とした組織・体制のまま２巡目の京都国体（昭63）まで至った。国体が戦後の混乱期、国民の“元気付け”とした国のお祭として開催されたことを創始とみると、意識高揚が薄かったこと

令和２年「長野県スポーツ栄誉賞」受賞　砥石真衣

もあながち否めない。

しかし、２巡目京都国体あたりから、銃をはじめ施設設備等の高性能・メカニカル化が進んだこともあり、本協会内に天皇杯皇后杯を意識する気運が漸く高まり始めた。明確な目標をもつことが功を奏し、福岡国体（平２）から静岡国体（平15）まで、しばしば優勝及び上位入賞を達成してきたが長続きはしなかった。要因は、選手層を成年だけに頼っていたためである。年数と共に選手の高齢化、減少の限界がいよいよ現実のものとなり、低迷が続いた。打開策を講ずることは必至であった。

検討の結果、入賞者を輩出する持続可能な対策として、少年少女（ジュニア）の発掘と育成に比重を置き、ジュニア募集広告や「ビームライフル体験教室」等の開催を粘り強く続けたところ、僅か２名であるがジュニアを獲得することができた。その内の一名、西野入麗香（高３）が、わずか２年間のコーチングを経て大阪国体（平９）で優勝し先鞭を切った。まさに椿事であった。この快挙がジュニア活躍の発火点となり後輩たちは互いに刺激され意識向上につながり、その効果として今日まで優勝、入賞が続いている。後に続く後輩たちの栄光を挙げれば、徳武（高３）／富山国体（平12）、山本（高３）砥石（高１）／兵庫国体（平18）、金本（高１）／大分国体（平20）、三沢（高３）／千葉国体（平22）、小井戸瑠音（高１）／和歌山国体（平成27）、滝澤（高３）／岩手国体（平28）、小井戸瑠音（高３）／愛媛国体（平成29）、柳沢（高３）／茨城国体（令１）等、入賞、優勝、出場を果たした。特筆すべきは、砥石真衣（現成年）である。兵庫国体ジュニア初出場で４位入賞を皮切りに優勝、入賞を繰り返し、現在国体３姿勢種目５連覇中である。またオリンピック候補選手として日々精進に怠りない。ライフル射撃競技の真価と可能性を信じて、中長期的に対策を講じ、ジュニアに焦点を当て活躍の流れをつくってきた我が協会の誇りであり矜持である。

そして、今現在もライフル射撃競技が「スポーツ・ライフル」として広く理解が得られるべく、最善の方策をもって邁進中である。

令和３年度「第59回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会」
エアライフル立射60発競技　第３位入賞　柳沢充　長野工業高校３年

一般財団法人 長野県剣道連盟

１　連盟組織の改革（新たな時代のスタート）

(1)　昭和から平成へ

本連盟結成時（昭和27年６月１日）に副会長兼理事長であった古村幸一郎氏が第２代会長に就任したのが昭和29年４月のことである。それ以降、51年にわたり古村体制による本連盟の運営は続いた。昭和53年長野国体を成功させ、現在、当時の高校生強化選手が指導者として活躍している。

平成17年２月18日に古村幸一郎氏の逝去により、連盟の運営は新たな時代を迎えた。古村体制において長く副会長職にあった百瀬寛氏が会長代行として暫定的に連盟運営に努めたが、連盟役員の高齢化が顕著だったこともあり、連盟運営の活性化と若返りを望む声が多く出された。そのためは会長を剣道関係者や県内関係機関、中央団体等からも人望が厚い人物を据えたいという考えが出された。

平成19年４月、第３代会長に衆議院議員であった小坂憲次氏を迎えた。小坂氏は長野市出身であり、平成17年（2005年）第３次小泉内閣では文部科学大臣を務め、中学校の武道必修化を推進した実績があり、人望も厚いことから本連盟会長に適任であった。理事長には加瀬浩明氏（46歳）が就任し、役員の若返りも図った。小坂会長は、県内で開催される大会や予選会には公務多忙であっても必ず会場に駆けつけ、出場選手に激励の言葉をかけた。また、講習会の折には、受講生と同じ目線の高さで講師の指導を仰いだ。その姿を目の当たりにして、多くの剣士が感銘を受けたことは言うまでもなく、県内剣道は活性化し、新たな時代がスタートした。

⑵　一般財団法人化に向けて

小坂体制では、剣道の普及発展、競技力向上を目指して、段位審査会、講習会、大会等新たな事業を実施した。その結果、少年から一般まで剣道有段者数の増加、全国規模の大会における代表選手の活躍、県内で全国規模の行事開催など徐々に成果が見られるようになった。

平成24年には連盟結成60周年を迎え、さらなる発展を目指して連盟の法人化に着手し、平成26年６月17日、一般財団法人長野県剣道連盟が発足した。会長は引き続き小坂憲次氏、専務理事には加瀬浩明氏が就任した。法人化後は全日本女子剣道選手権大会を長野県開催にするなど活動がさらに活発になっている。

しかし、平成28年10月21日、病気療養中であった小坂会長が急逝し、小坂体制は幕を閉じることとなった。連盟組織の改革と全日本女子選手権の開催を見届けての逝去であった。

⑶　平成から令和へ

平成29年６月、小坂体制で専務理事を務めた加瀬浩明氏が第４代会長に就任、専務理事には塩﨑正昭氏が就任し、小坂氏の遺志を受け継ぎ連盟運営にあたっている。平成から令和へ時代が移り、コロナ禍の中これまで経験したことのない状況ではあるが、今だからこそできる剣道は何かを考え、各種ガイドラインを設定し、新たな取り組みに着手している。

令和３年４月現在、役員は会長、副会長４名、専務理事、常務理事、常任理事４名、理事24名、評議員16名、監事２名、参与４名で構成されている。県下各地に17支部、居合道部、杖道部を含め７加盟団体によって組織して事業を実施している。今後、本県で２回目の開催となる第82回国民体育大会成功を目標に、剣道連盟一丸となって準備を進めていく考えである。

２　現在の事業内容

⑴　大会・予選会

強化・審判委員会、普及委員会を中心に大会、予選会を開催している。主催大会には以下のようなものがある。

長野県剣道居合杖道薙刀演武大会
小坂憲次杯長野県剣道大会
長野県剣道選手権大会（兼全日本予選）
長野県女子剣道選手権大会（兼全日本予選）
長野県小学生剣道錬成大会
長野県小・中学生剣道選手権大会
長野県女子剣道年代別選手権大会
長野県支部対抗剣道大会
全日本都道府県対抗剣道優勝大会予選会
全日本都道府県対抗女子剣道優勝大会予選会
国民体育大会剣道競技予選会
全国高等学校剣道選抜大会予選会

中でも、「長野県剣道居合杖道薙刀演武大会」は今年度で69回目を迎え、本連盟結成時から続く歴史ある大会である。第65回大会までは「長野県剣道居合杖道薙刀大会」として開催、居合道、杖道、なぎなたの部は公開演武、剣道の部は県下各地からオープン参加できる団体戦として人気を博していたが、第66回大会からはすべての部が演武中心となった。オープン参加の剣道団体戦は、「小坂憲次杯長野県剣道大会」として平成30年より開催され、今年度で４回目を迎える。

令和２年度全日本男女選手権プロ表紙

⑵　審査会

審査委員会を中心に、初段から三段は年４回、四・五段は年２回の審査会を開催している。全日本剣道連盟並びに本連盟の審査規則、各段位の審査会実施要領等に則り、公正かつ公平な審査会運営に努めている。

なお、六段から八段及び称号（錬士・教士・範士）審査会は、全日本剣道連盟主催となる。

⑶　講習会・研修会・稽古会

会員の技能向上に主眼をおき、段位審査会受審者や合格者を対象とした講習会を開催、強化事業の一環として各種大会や審査会終了後に自由参加の稽古会（憲友錬成会）や強化錬成会等を開催している。その成果もあり、近年は高段位の会員が増え、全国規模の大会での活躍も多く見られるようなった。

⑷　居合道部・杖道部

各部において大会、審査会、講習会、研修会を開催し、県内における普及発展に努めている。また、県外開催の大会や講習会にも意欲的に参加し、近年、高段位の会員が増えており、中でも杖道部では平成29年に２名が八段に合格している。

３　全日本剣道連盟主催行事の運営

⑴　剣道六・七段審査会

全国各地より受審者が集まる審査会が、全日本剣道連盟の依頼を受け、本連盟主管により本県において隔年で開催（主に８月）されるようになった。準備を含め３日間、本連盟会員が運営にあたっている。また、地元開催ということで受審者数も多い傾向にある。

⑵　全日本女子剣道選手権大会

日本剣道界最高峰の大会が、平成28年の第55回大会より５年間、本県拠点開催となった。本県が主管となり、本連盟会員が運営に携わった。開催県は代表選手２名が大会に出場することができるため、女子選手の強化につながった。地元開催ということで毎回多くの会員が会場に足を運び、全国レベルの試合を観戦した。

拠点開催最終年度の令和２年度第59回大会はコロナ禍により例年９月開催が延期となった。一時は開催自体が危ぶまれたが、こちらも延期となっていた第68回全日本剣道選手権大会とともに令和３年３月に本県（ホワイトリング）で開催した。全日本男女選手権同時開催は史上初のことであった。本県選手も健闘し、優秀選手賞を受賞するなど、過去最高の成績を収めた。

一般社団法人　長野県ラグビーフットボール協会

ガバナンス強化を目的とした組織体制整備の一環として、2017年２月17日より、「長野県ラグビーフットボール協会」は一般社団法人となり、「一般社団法人長野県ラグビーフットボール協会」（以下長野県協会）となり、体制も一新致しました。

１．インターネットを用いた広報活動

インターネットを用いた広報活動が今後のスタンダードになると考え、2004年５月にnrfu.orgドメイン取得し、長野県協会HPの運用を開始。2013年には、Facebookページの設立、2018年には、公式Twitterの運用を開始。

2020年４月～2021年３月における、協会HPのページビュー数は、約15,000件/月。Facebookページのリーチ数は、約8,000件/月。Twitterのインプレッション数では、約66,000件/月と一定の成果をあげています。

今後は、さらに幅広い年代層に向けて、10代、20代の年齢層をターゲットとしたInstagramの運用を検討しています。

２．ラグビーワールドカップ開催前の気運醸成活動

2019年９月20日～11月２日まで開催された、ラグビーワールドカップに向け、2017年９月10日に長野市ラグビーフットボール協会を中心に、他競技のサッカーＪ３の長野パルセイロと「長野市ラグビー・サッカーコラボレーション2017」と題し、Ｊ３リーグ戦の開催日に地元のフットボールの聖地でもあり、長野パルセイロのホームグラウンドである、長野Uスタジアムにて、長野市少年少女ラグビースクールの公開練習や、リコーブラックラムズの松橋周平選手による始球式イベント、ラグビースクールによるエスコートなどのコラボイベントを行い、ラグビーを知らない多くの方へ周知することが出来ました。

また、ラグビー合宿のメッカで夏の聖地と呼ばれる菅平高原に、イタリアへ事前合宿をアプローチし、2018年には、イタリア代表チームが菅平高原に合宿に来訪、その事前合宿の中で、ヤマハ発動機ジュビロとの国際親善試合を実施し、多くの観客が両チームにプレーに魅了

され、ワールドカップへの気運が一気に高まるきっかけとなりました。

そして、ラグビーワールドカップ直前となる、2019年８月31日、９月１日の２日間にかけ、関東ラグビーフットボール協会の全面協力を得て、全８チームによる関東大学ラグビー菅平開幕戦を開催し、県内外より多くの方が訪れました。

３．ラグビーワールドカップ開催後の活動

ワールドカップ効果による、ラグビー人口の拡大を目指し、2020年２月23日に元日本代表主将の菊谷崇氏をゲストに招き、「ラグビーボールで遊ぼうin上田」を開催。市内保育園・幼稚園・認定こども園に通っている小学生未満児を対象にラグビーボールを触わるきっかけ作りを

行いました。

2021年は、コロナ禍の中、感染拡大防止対策を十分実施した上で、３月14日に駒ヶ根市おもしろかっぱ館芝生広場にて、開催することが出来ました。

中学生においては、高体連が主体となり、部員募集チラシを作成、県内の各中学校へ配布。協会としては、広報媒体の製作時のサポートなどを行いました。

４．今後

長野県では、７年後の2028年に第82回国民スポーツ大会･第27回全国障害者スポーツ大会開催を控えています。

ラグビーフットボール競技は少年（男子15人制）成年･女子（７人制）の３種目を上田市菅平高原、サニアパーク菅平にて開催予定です。ラグビーフットボールはここ何年も本国体に出場しておらず、各種別の強化が急務となります。2028年前には段階的な強化策を講じ国スポ出場、女子初出場を目指します。また、合わせて、レフリー（審判）の育成強化、大会運営の経験値増加、ノウハウ蓄積、競技者人口の増加なども合わせて行っていきたいと考えています。

現在コロナ禍の中ではありますが、「ウィズ・コロナ」「アフターコロナ」を見据え、臨機応援に十分な感染防止対策を行いつつ、今後も、各年齢層へ、各種イベント･SNSによる広報活動など多方面に渡り、きっかけ作りの取り組みを進め、底辺拡大を目指していきます。

（文/一般社団法人長野県ラグビーフットボール協会
広報記録委員会　宮下栄一）

長野県山岳協会

沿　革

長野県山岳協会（以下長山協）は、長野県体協史に創立当初からの25年間を記述した。　昭和36年４月発足、加盟は24団体だった。

時々によって増減があるが、令和２年には、30団体、761名が登録している。なお、平成12年からは個人加盟も可能になっている。

長山協規約は、登山の推進、交流、文化向上をうたい、技術向上、遭難防止、自然保護、登山、海外登山、情報提供、山岳総合センターの運営など登山に関する全面的

な活動を掲げている。これに沿って60年間活動してきた。

歴代会長は次の通り。

古原和美、小澤利一郎、光島督、町田和信、武田武、田村宣紀、百瀬尚幸、松田美宏、　柳沢昭夫、宮本義彦、唐木真澄、杉田浩康

歩　み

活動歴の詳細については、次の資料を参考にしていただきたい。

・長野県体育協会史（昭和63年）
・長山協創立50周年記念誌（平成23年）
・同誌付録のCD「国際登山史・機関誌」
・長山協ホームページの機関誌「やまなみ」

ここでは、昭和61年からの35年間の中心的な課題について、その「歩み」を記す。

◆国体山岳競技の取り組み◆

毎年県大会で選手を選抜し、北信越国体で本大会代表が決まり、本大会を迎える。昭和53年長野国体での完全制覇（４種別、３種目）後も、強豪県の位置を保ち続けてきた。

平成20年から競技がクライミングのみとなり、レベルが急速に上がったが活躍は続いている。とりわけ平成21年に少年男子の優勝、24年から26年の成年男子の３連覇という偉業は輝いている。令和10年の二巡目長野国体に向けて、すでに準備が考えられている。

◆海外登山界との交流事業◆

⑴　中国との友好登山交流事業

昭和41年、中国は諸外国に高峰登山の開放を発表した。当時の長山協のリーダーは「登山はいつでもできる。今重要なことは、中国との本当の交流を始めることだ」と説き、直ちに訪中し、合同の登山技術研修会を提案した。中国登山協会は諸手をあげて歓迎し、昭和56年から10年計画の日中合同登山技術研修会が実行された。第１回目は長野で、２回目は中国でと交互に訪問し合いながら行われた。

交流を一本の樹に例えると、10回計画の相互研修会という幹から、何本もの枝や葉が出た形となり、それが成長したイメージである。その枝や葉とは、高校生訪中交流登山、チベット登山協会との友好兄弟協定締結、北京市の訓練用人工岩場の寄贈、各種クライミング大会の支援、日中合同登山隊による高峰登山等で、それぞれ元気に茂り、結実している。

⑵　ネパール山岳協会との友好協定締結

平成15年末、長野市でネパール山岳協会から、松本市とカトマンズ、駒ケ根市とポカラの姉妹都市の好関係をみて、山国の長山協との友好協定を結びたいという申し出があった。平成17年にカトマンズで調印された。長野県のヒマラヤ登山隊への支援、ヒマラヤ環境調査支援、双方の行事への参加等の交流が続いている。

登山界の変化はあるだろうが、今後ともこれらの精神が続いてゆくことを願っている。

◆自然保護の取り組み◆

昭和50年代、長山協はビーナスライン問題で自然保護を訴えた。県自然保護連盟設立にも参画、寄与した。平成10年代には山のトイレ問題、ライチョウ保護や高山に進出した日本鹿問題などのフィールドワークを行った。

また、平成21年にはネパールのイムジャ湖に環境トレック隊を派遣し、地球温暖化による氷河湖崩壊の危機を、現地訪問で実体験した。平成24年には、ネパールへ植林活動の支援隊を派遣した。

自然愛護の気持ちを広めてゆくことの重要性は、今後さらに増すであろう。

◆主な海外登山◆

協会員の夢の一つに海外登山がある。この間の長山協主催の主な登山を挙げてみる。

昭和61年　チャンツェ峰（7553m）
　　63年　大姑娘山（5025m）　高校生隊
平成２年　ザンセルカンリ峰（6460m）初登頂
　　３年　シシャパンマ峰（8012m）雪崩事故
　　３年　ムスターグアタ峰（7546m）
　　５年　シシャルデン峰（2869m）
　　５年　ダウラギリⅠ峰（8167m）
　　８年　チョモラリ峰（7326m）
　　９年　キズ峰（6079m）初登頂
　　18年　紅旗峰（7011m）
　　23年　ヤズィックアグル峰（6770m）初登頂
　　30年　シュエラプカンリ峰（6310m）初登頂

なお、加盟団体やグループ、個人による海外登山は毎年行われており、枚挙にいとまがない。

◆長野県山岳総合センターとの関係◆

山岳総合センターの設立は昭和44年で、50年の歴史を超えた。当時日本隊のマナスル峰初登頂を機に登山ブームが起き、遭難の多発、自然破壊、登山マナーの低下等が社会問題化した。長山協は、登山課題全般に対応しリードするセンターの設立を県に提案し、設立をみた。そして、運営審議会の一員として専門的な意見を具申し、年間を通じて多数の実技講師をセンターの研修講座に派遣してきた。

平成24年度から、長山協はセンターの指定管理者となり、直接運営に携わり現在３期目に入っている。センター創立の原点を忘れず運営していくことが責務と言えるだろう。

◆長山協創立50周年記念事業◆

平成23年、長山協は創立50周年を迎えた。一年間かけて、活動の歴史を総まとめするとともに、今後の展望を開くため、次のような多様な記念事業を総力をあげて行った。

・県内50山の加盟団体による一斉登山と報告
・50年記念誌の発行（Ａ４版、233ページ）
・海外トレッキング隊の派遣（チベット、四川省、ブータンの３地区へ　合計41名参加）
・崑崙山脈へ登山隊を派遣（ヤズィックアグル峰6770m

に初登頂）
・海外友好団体との交流（訪中友好・長白山登山、ネパール山岳協会・西蔵登山協会招待）
・50周年記念クライミング大会の主催（ＪＦＡ日本選手権、視覚障碍者日本選手権）
・山岳図書資料館の建設（大町市と協力して）
・安全登山体験集の発行（「失敗、アクシデント事例集」）
・長山協Ｔシャツの作成と販売
・記念祝賀会の開催（11月12日長野市内のホテルで、各界200名の出席）

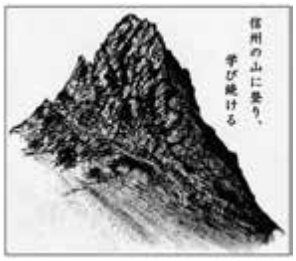
◆技術向上、会員交流などの事業◆

長山協の毎年の恒例事業として、次のようなことを企画し行っている。夏山登山教室、小川山キャンプ、ウィンターミーティング、ジュニア登山教室、指導者研修会等を企画・募集。

今後に向けて

創立以来60年を迎え、組織の強化、活動の活性化、各種事業の取り組み強化、加盟団体及び協会員のコミュニケーション強化等々の問題が顕在化してきている。令和２年からワーキンググループを作り、①情報発信の強化、②協会活動の洗い直しと新会員獲得推進、③二巡目の長野国体対応等を、集中的に検討している。

また、全国組織に合わせたクライミングを入れた団体名の変更や法人化移行問題も、検討課題に挙がっている。『信州の山に登り、学び続ける』をモットーに、がんばっていきたい。



長山協創立50周年
記念式典案内書から

長野県アーチェリー協会

当協会は県内に幾つか有った同好会やクラブの有志が話し合いを持ち長野県を代表する競技団体として昭和47年４月22日に発足しました。

翌昭和48年10月に長野県体育協会に加盟が認められ現在に至ります。

競技会については昭和48年11月４日に松本市梓運動公園で第一回長野県選手権大会が開催されました。それ以降現在では信州スカイパーク陸上競技場を中心に４月から10月の毎月一回の月例県大会と年一回の選手権大会、坂城町の体育館を中心に11月から２月まで月一回の室内県大会、中野市の牧の入フィールドアーチェリーコースを使用し年５回のフィールドアーチェリー記録会を実施しています。

アウトドア月例県大会

フィールド記録会

室内県大会

国民体育大会については昭和53年の長野国体では南箕輪村大芝高原多目的広場で初めてアーチェリーが公開競技として開催され、昭和55年の栃木国体からアーチェリーが正式競技として開催されるようになりました。

その後の国民体育大会において当協会の成績は必ずしも良いとは言えませんでしたが、今世紀に入ると長年にわたる普及や強化活動の成果が出てきたのか上位入賞で

きるようになってきました。

これは選手の頑張りはもちろんですが、練習できる専用の場所が皆無だった協会発足当時と比べ、現在数か所にある専用練習場の開設にかかわった個人やクラブの先輩方のご尽力の賜物といっても過言ではないと思います。

やまびこ国体での記念写真

国体での上位入賞

長野県銃剣道連盟

昭和55年国民体育大会正式競技に採用された銃剣道、長野県銃剣道少年チーム北信越国体初優勝、第44回国民体育大会（北海道倶知安町）初参加を果たす。

平成元年北信越国民体育大会　銃剣道少年男子優勝

監督　　井口　喜八　６段
先鋒　　手塚　佳徳　２段
中堅　　百瀬　典昭　２段
大将　　熊谷　敦徳　２段

創立40周年記念　第４回全日本銃剣道選手権大会

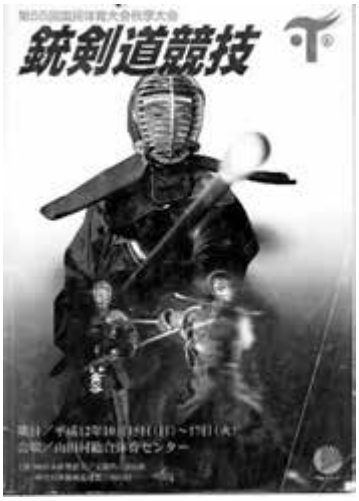
平成８年８月９日　日本武道館
長野県代表選手教士７段　松田千眞男　第３位入賞

2000年国民体育大会銃剣道競技に参加し、連盟の悲願である入賞を果たす。

第55回国民体育大会銃剣道競技が10月14日～16日の間、富山県山田村に227名の総勢が集結。

成年男子優勝 富山県、第３位 石川県、第７位 長野県と北信越選手飛躍の大会となった。

平成12年富山国体銃剣道競技　第７位入賞



監督　　望月　　尊　教士７段
先鋒　　田中　正樹　　５段
中堅　　松田千眞男　教士７段
大将　　長谷川三男　教士７段

スポーツ

全日本高齢者武道大会でV

銃剣道の部 塩尻市・井口さん 「連覇狙う」

（主催：一般財団法人全国老人福祉助成会）

全日本高齢者武道大会（銃剣道の部）が平成17年７月６日、日本武道館で行われ塩尻の井口喜八教士８段が２度目の総合優勝に輝いた。

平成13年　B組　総合優勝　　平成14年　準優勝
平成16年　第３位　　平成19年　第３位
平成21年　準優勝　　平成22年　第３位
平成23年　第３位　　平成23年　準優勝
平成26年　A組　優勝

第14回全日本短剣道大会が平成27年２月21日、日本武道館で開催、長野県から短剣道教士７段松田千眞男選手と短剣道３段林田信仁選手二名が参加。

個人戦C組に松田選手　第３位入賞

短剣道は全日本銃剣道連盟主催事業で長野県選手の大会参加は久しぶりとなりました。

令和元年全日本少年少女錬成大会が７月31日、日本武道館で開催、小学生の長野県選手が挑戦し、僅かの差で決勝トーナメント進出を逃しましたが大健闘。

監督　林田信仁６段　　西田知恵子　　酒井みゆき
選手　飯島小学校４年　林田啓汰　　酒井柚輝
　　飯島小学校２年　林田茉桜　　酒井陽稀
　　西山　樹

わが国固有の伝統と文化により一層触れることを目的に中学校における武道授業必修化が平成24年から開始されました。中学校における銃剣道授業は現代武道の一員として重要視しています。

2020年度武道等指導充実・資質向上支援事業（多様な武道）を支援しました。

令和２年11月17日中野市立南宮中学校武道（銃剣道）指導

令和２年11月18、19日　松本市立開成中学校武道（銃剣道）指導

特定非営利活動法人 長野県クレー射撃協会

１．協会概要

昭和21年の発足以来、第６回大会（昭和26年・広島）での入賞を皮切りに、第33回長野国体（昭和53年）での健闘から40年余り、第74回大会（令和元年・茨城）においてクレー射撃競技総合１位を獲得するに至った。

長い道のりではあったものの常に上位入賞を目指し、一貫して競技力の向上に心血を注いだ選手と指導者の功績もさることながら、長年にわたりクレー射撃競技の普及促進活動も並行して実施し、協会発足当初から長野県選手権を毎年開催して一般シューターにも射撃競技の魅力や技術指導等、情報発信と体験の場を提供してきた。

平成23年には法人化してNPOの認可を取得し、組織の透明化と指導体制の整備、誰もが安心して競技に参加できる組織運営を通じて、地域社会に貢献できるスポーツ団体として新たなスタートを切った。

平成29年からは一般シューターからの国体参加への門戸を広げ、同時に次世代を担う有望な潜在選手発掘の場として長野県国体予選会を開催し、女子選手も含め多くの選手が新たに加わり実績を積み重ねている。

こうした取り組みを踏まえ、二巡目長野国体に向けて分厚い選手層を構築し、選手各々のブラッシュアップと分析、より細分化した指導体制の確立と、指導員・審判員等の支援体制の拡充も併せて実施し、継続して上位入賞可能なチーム作りに邁進していく。

２、国民体育大会競技成績

平成２年第45回大会・福岡
　　スキート競技　団体３位

平成３年第46回大会・石川
　　トラップ競技　団体３位
　　スキート競技　個人２位　布野兼一

平成６年第49回大会・愛知
　　トラップ競技　個人８位

平成８年第51回大会・広島
　　トラップ競技　団体８位

平成14年第57回大会・高知
　　トラップ競技　団体３位
　　トラップ競技　個人２位
　　スキー地競技　団体５位

平成15年第58回大会・静岡
　　スキート競技　団体５位

平成16年第59回大会・埼玉
　　トラップ競技　個人３位

平成17年第60回大会・岡山
　　スキート競技　個人６位

平成18年第61回大会・兵庫
　　スキート競技　団体５位
　　スキート競技　個人５位　布野康介

平成20年第63回大会・大分
　　トラップ競技　団体７位
　　スキート競技　個人７位　布野兼一

平成21年第64回大会・新潟
　　スキート競技　団体５位
　　スキート競技　個人４位　塚田政光

平成22年第65回大会・千葉
　　トラップ競技　団体４位
　　トラップ競技　個人３位　大内智喜
　　トラップ競技　個人６位
　　スキート競技　個人８位　塚田政光

平成23年第66回大会・山口
　　トラップ競技　個人８位　大内智喜
平成25年第68回大会・東京
　　総合成績　２位　長野県
　　トラップ競技　団体１位
　　トラップ競技　個人１位
　　スキート競技　個人８位　布野康介
平成26年第69回大会・長崎
　　スキート競技　団体７位
　　スキート競技　個人８位　布野康介
平成28年第71回大会・岩手
　　トラップ競技　団体７位

令和元年第74回大会・茨城
　　総合成績　１位　長野県
　　トラップ競技　団体１位
　　トラップ競技　個人４位　大内智喜
　　スキート競技　団体６位
　　スキート競技　個人５位　清水裕

長野県なぎなた連盟

昭和30年５月に全日本なぎなた連盟が設立されて以降、長野県内でもなぎなた講習会を開催するなどの取り組みが盛んになり、昭和44年４月に長野県なぎなた連盟が結成されました。令和元年には50周年を迎えました。

＜沿革：昭和63年～令和３年３月＞

昭和63年　国民体育大会成年女子２部制となり、北信越国体なぎなた競技始まる（平成７年まで続く）

平成元年　久保るい氏　長野県体育協会よりスポーツ功績者表彰　有功章受賞
第44回はまなす国体（北海道）　少年の部試合８位入賞（監督：丸山紋子　選手：西村英子・林祐子・丸山佳世）

平成２年　長野県なぎなた連盟第四代会長に神澤邦雄氏就任
第１回長野県高校大会（坂城町村上小学校体育館）
布施芳子氏　松本市体育協会特別功労賞受賞

平成５年　第48回四国国体（香川県）　成年１部演技競技７位入賞（監督：森本美佐子　選手：滝沢千枝子・高野由紀）
坂城町スポーツ少年団なぎなた部　日本武道協議会より少年少女武道優良団体賞受賞
茅野教室開設　（指導者：山本　政子先生）

平成６年　第35回リハーサル大会　演技競技６位入賞（監督：山本政子　選手：滝沢千枝子・高野由紀）
第49回わかしゃち国体（愛知県）　成年２部演技競技６位入賞（監督:森本美佐子　選手:西村英子・丸山佳世）
長野県なぎなた連盟25周年大会　（松本市西部体育館）
布施芳子氏　長野県スポーツ少年団育成指導表彰受賞

平成７年　第３回北信越中学生大会　（三郷村文化公園体育館）
ジュニアオリンピック全国中学生大会　４位入賞（選手：三村誓子・松本朋子・青木洋美）
久保るい氏　勲七等宝冠章受賞
久保るい氏、布施芳子氏、笠原房子氏　全日本設立40周年記念の功労賞受賞

平成８年　第１回北信越選手権大会　（松本市運動公園体育館）演技競技優勝（滝沢千枝子・高野由紀）
久保るい氏　文部大臣より功績賞受賞
布施芳子氏　長野県体育協会よりスポーツ功績者表彰　有功章受賞

平成９年　県高体連へ加盟
高校対抗大会出場　（６校　大阪体育館）
長野県剣道なぎなた大会　２位入賞

平成10年　インターハイ正式種目となる
全日本と文部省主催による学校体育なぎなた指導者講習会（松本市総合体育館）
長野冬季オリンピックイベントに田川教室が参加
坂城スポーツ少年団なぎなた部　長野県体育協会より優良団体賞受賞

平成11年　長野県なぎなた連盟設立30周年記念大会（松本市本郷体育館）
第54回熊本国体　成年演技競技６位入賞（監督：森本美佐子　選手：中村仁美・齋藤明理）

平成12年　第８回北信越中学生大会（松本市里山辺体育館）演技競技優勝（選手：竹内希・竹内秋奈）
山内輝子氏　長野県体育協会よりスポーツ振興功績者表彰　有功章受賞

第４回エンジョイなぎなた大会（兵庫県）男子40歳以上の部２位（選手：沖山雄児）

平成13年　布施芳子氏　長野県教育委員会より社会体育功労賞受賞

布施芳子氏　日本体育協会よりスポーツ指導員普及振興貢献表彰受賞

第９回北信越高等学校体育大会（戸倉町総合体育館）

第６回北信越選手権大会（坂城町文化センター）男子個人優勝（木村隆一）

第14回ねんりんピック大会（広島県）　演技競技２位入賞（監督：笠原房子　選手：浅輪彰子・宮尾智香子）

平成14年　長野県なぎなた連盟第五代会長に佐藤浩市氏就任

第10回全国中学生大会（宮城県）　演技６位入賞（伊勢谷明奈・戸田千惠）

布施芳子氏　範士称号受称

笠原房子氏　長野県体育協会よりスポーツ振興功績者表彰　有功章受賞

平成15年　第16回ねんりんピック大会（徳島県）　演技競技２位入賞（監督：滝沢一子　選手：浅輪彰子・宮尾智香子）

日本体育協会主催　B級スポーツ指導員養成事業行う

笠原房子氏　長野県教育委員会より社会体育功労賞受賞

平成16年　第17回ねんりんピック大会（群馬県）　演技競技３位入賞（監督：滝沢一子　選手：浅輪彰子・宮尾智香子）

平成17年　第46回都道府県対抗大会　演技競技６位入賞（監督：浅輪彰子　選手：我山千枝子・滝沢幸子）

第13回北信越中学生大会（松本市里山辺体育館）団体戦２位入賞（山口慧子･野田愛美･古田奈穂）

滝沢幸子氏　高等学校体育連盟体育専門委員長就任

平成17年　浅輪彰子氏　日本体育協会より日本スポーツ少年団指導員顕彰受賞

上田自由塾開設（指導者：柳澤喜美子先生）

平成18年　布施芳子氏　文部科学省より生涯スポーツ功労者表彰受賞

第11回北信越選手権大会（松本市総合体育館サブアリーナ）　演技競技女子３位（二木美也子・落合仁美）、演技競技男子３位（沖山雄児・五島翔太）、試合男子競技個人３位（木村隆一）

第19回ねんりんピック大会（静岡県）　演技競技３位入賞（監督：松田晴代　選手：浅輪彰子・原富子）

田川教室　日本武道協議会より少年少女武道優良団体表彰受賞

平成19年　第12回北信越なぎなた大会　団体戦３位入賞（戸田千惠・二木美也子・飯森美江子）

第15回北信越高等学校体育大会（松本市総合体育館サブアリーナ）

浅輪彰子氏　長野県体育協会60周年記念表彰受賞

平成20年　北信越中学生大会　男子個人３位（深澤広幸）

全国中学生大会　男子個人４位（中野亮太）

大町教室開設（指導者：浅輪彰子先生）

国民体育大会なぎなた少年女子試合の部、ブロック大会による出場権獲得制度始まる

平成21年　長野県なぎなた連盟設立40周年記念大会（松本市立田川小学校体育館）

平成22年　佐藤浩市県連盟会長が全日本なぎなた連盟副会長に就任

第18回北信越中学生大会（松本市総合体育館サブアリーナ）

平成24年　佐藤浩市県連盟会長が全日本なぎなた連盟会長に就任

第20回北信越高等学校体育大会（松本市庄内体育館）

第52回東日本大会（松本市総合体育館）

選手強化３カ年計画開始

県連盟会長　佐藤浩市氏　長野県体育協会よりスポーツ振興功績者表彰　有功章受賞

平成25年　北信越国体　少年女子試合２位入賞し、本国体出場権を獲得

平成26年　北信越国体　少年女子試合２位入賞し、本国体出場権を獲得

平成27年　第23回北信越中学生大会（安曇野市穂高総合体育館）

森本美佐子氏　長野県体育協会よりスポーツ振興功績者表彰　有功章受賞

平成28年　幸村杯　全国女子なぎなた大会　全国高等学校男子なぎなた選手権大会始まる

柳澤喜美子氏　長野県体育協会よりスポーツ振興功績者表彰　有功章受賞

平成29年　第25回北信越高等学校体育大会（松本市波田体育館）

スポーツ指導員養成講習会開催　参加者10名

平成30年　全日本なぎなた連盟第１種・第２種公認審判員養成講習会（松本市庄内体育館・松本市総合体育館）

令和元年　長野県なぎなた連盟設立50周年記念大会（松本市庄内体育館）、祝賀会（ホテルモンターニュ松本）

令和２年　授業協力者養成講習会（松本市庄内体育館）

歴　代　会　長		
初代	夏目録郎	昭和43年～昭和50年
２代	久保るい	昭和50年～昭和54年
３代	水口米雄	昭和56年～平成２年
４代	神澤邦雄	平成２年～平成14年
５代	佐藤浩市	平成14年～ 現在

長野県空手道連盟

このたび、長野県スポーツ協会が創立75周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。

貴協会が設立以来75年の長きにわたり、長野県におけるスポーツ振興と健康増進にご尽力されてこられたことに、深く感謝申し上げます。

１．沿革

・昭44年11月－県連結成に向けた話し合い
・昭45年２月－第１回準備会開催
　　満場一致で県連結成決定
・同年６月27日－全国36番目の県連として全空連より認可
・同年　８月－第１回関東甲信越大会の出場
・昭46年７月－第１回長野県大会開催
・昭50～53年－長野県大会４年間中断
・昭50年４月－日本空手協会長野県本部の県連脱退
・昭56年３月－「長野県空手道連合」が誕生
　　正式に県体協加盟が認可
・昭57年－　「長野県空手連合」は発展的解消
　　長野県空手道連盟再出発
　　競技力向上委員会が設置
　　事務局長…伊藤 仁 就任
　　「県高校空手道連絡会」結成
・昭58年－　第１回県高等学校空手道選手権大会開催
・同年８月－　第10回全国高校空手道選手権大会出場
・昭60年－　審査指導委員会設置
　　長野県高体連に正式加盟承認
・昭61年－　三村由紀選手（当時深志高校）高校総体３位入賞
・昭62年－　三村選手 高校総体準優勝、選抜大会優勝の快挙
・昭63年－　三村選手 高校総体優勝
・同年10月－　三村選手 世界大会（カイロ）で優勝
・平２年－　県連分裂し、約半数が県連退会
・平５年－　県体協主催国体予選が二度開催
・平７年－　審判委員会設置
　　理事長…根橋 寛先生 就任
　　脱会協会会員の県連復帰
・平８年－　「長野県中学校空手道連盟」結成
　　第１回県中学生空手道選手権大会開催
　　現在26回を数える
・平15年－　医科学委員会設置
・平21年－　稲葉会長　旭日双光章受賞
・平24年－　広報普及委員会設置
　　武道必修化
・平31年－　事業員会・倫理委員会設置
・令３年－　名誉会長…稲葉恒幸　就任
　　新 会 長…根橋　寛　就任
　　新理事長…伊藤　仁　就任

２．あゆみ

■樋口大樹選手（現山梨日本航空学園高校教諭）

平成12年富山国体成年男子組手中量級優勝
平成14年全日本空手道選手権大会男子組手準優勝

三村由紀選手が形で長野県を牽引してきたのに対し、組手において長野県を牽引したのが樋口選手である。日本体育大学に入学後、メキメキと頭角を現し、全日本３位入賞２回、準優勝１回、国体中量級優勝と、輝かしい成績を残した他、アジア大会オープンでも準優勝、メキシコ世界大会に出場も果たした。現在は、山梨航空学園高校空手道部の監督として全国優勝を果たす名監督であると同時にナショナルチームのコーチとしても活躍中である。

■平成20年度全国高等学校空手道選抜大会開催

大会実行委員長根橋寛、審判長新井悟（現松本第一高校）、競技委員長中澤健一（当時屋代東高校）の県高体連空手道専門部が中心となって長野市ホワイトリンクで開催された。長野冬季五輪のフィギュアスケート競技の会場での開催とあって全国から注目を集め、高校生の熱戦が繰り広げられる中、男子団体形に出場した松商学園高校が見事に３位入賞を果たし、長野開催に花を添えた。

■杉野拓海選手（飯田長姫高校出身）

パリ世界空手道選手権大会団体形優勝（平成24年）
全日本空手道選手権大会第３位６回、準優勝１回

パリで開催された世界大会団体形決勝戦では、前回王者イタリアを相手とした。演武が始まると場内は静まりかえり、大技が決まると割れんばかりの拍手と歓声に湧き、圧倒的な力の差を見せつけて優勝を果たした。

■平成25年度第21回全国中学生空手道選抜大会開催

根橋寛大会実行委員長、伊藤仁大会準備委員長を中心に長野市ビッグハットにて開催された全中大会は、これまでの大会の常識を覆すような過去に例をみない大会であった。選手たちの活躍の様子はオーロラビジョンに映し出され、世界大会に出場しているかと思わせるような、選手一人ひとりの記憶に残る大会となった。また、この大会では女子個人形で宇海水稀選手（当時大町市立第一中）、また、女子個人組手で林風花選手（当時塩尻市立広陵中）、この２人がダブル優勝を果たし、大会成功をより感動的なものとした。さらに、宇海選手は山梨日本航空高校に進学した後、女子個人形でインターハイ３連覇、国体２連覇を果たし、帝京大学進学後は、全日本学生空手道選手権大会、世界ジュニア＆カデットU21でも優勝を果たしている。

■石原優選手（当時松本第一高校）

第69回長崎国体少年女子形優勝（平成26年）

全国の強豪選手を破って迎えた決勝戦では、地元長崎県の選手との戦いであった。単に選手との戦いだけではなく、地元選手を応援する観客との戦いでもあったが、落ち着いた演武で相手選手を圧倒しての完勝であった。

■田中美佐稀選手（池田町出身）

第10回世界大学空手道選手権大会個人女子形優勝

平成29年愛媛国体成年女子形優勝

2016年、ポルトガルのプラガで開催された世界大学空手道選手権大会女子個人形で優勝した田中選手は、小学校１年生の時に全日本少年少女空手道選手権大会に出場して以来、努力を重ね続けた結果での優勝であった。また、社会人として出場した愛媛国体でも見事優勝を飾り、日本を代表する選手の一人に成長した。

■第13回彩の国全国中学生選抜大会女子総合優勝

2019年３月埼玉県立武道館で開催された全中選抜大会女子個人組手に出場した金森奈央選手（当時松本市立清水中）・加瀬玲選手（当時長野日大中）・江尻ふみ選手（当時茅野市立北部中）の３名が１・２・３位を独占するという快挙を成し遂げた。県の強化練習でともに汗を流してきた３名が表彰台に並ぶ姿は圧巻であった。また、女子個人形では相川流璃選手（当時大町市立仁科台中）が５位入賞を果たしており、長野県女子中学生が一丸となってつかみ取った総合優勝といえる。

■第15回彩の国全国中学生選抜大会長野県開催

令和３年２月、埼玉県から彩の国杯開催キャンセルの電話からこの代替大会は動き出した。開催まで１ヶ月ほどしかないこの大会を、主管は埼玉県連が、会場地の提供・設営とコート係を含む一部のお手伝いを長野県連が行う共同開催となった。３月28日～30日の３日間の大会の舞台となった長野県立武道館（令和２年３月竣工）は、現理事長の伊藤仁が県立武道館建設アドバイザーとして就任し、様々なアイディアが詰め込まれ他県には見られない素晴らしい施設である。大会中は施設の機能をフルに活用して、４コートすべてに２台のモニターを配置し得点を表示。また、全試合YouTube配信を行った。Wi-Fi環境が整っていたからこそ問題なく実現できたことにほかならない。しかし、忘れてはならないのはマンパワーである。１ヶ月という短期間のなかで準備を整え開催にいたることができたのも、長野県連の先生方をはじめ保護者の方々、そして埼玉県連の先生方のすべての力が結集したからこそである。そして何より嬉しかったのは、中止になってもおかしくなかったこの大会に出場することができた選手の笑顔が見られたことであった。この大会の経験を生かして令和９年の国体では、最高の大会ができるよう、気持ちを新たにしたことは言うまでもない。　　（文責　鈴木達三事務局長）

2021/３/30　第15回全国中学生空手道選抜代替大会
長野県立武道館（佐久市）

長野県ボウリング連盟

長野県ボウリング連盟は、昭和41年県内のボウリング愛好者により、スポーツボウリングを目標として、長野県ボウリング連盟の前身である「長野県ボウリング協会」（通称ＮＢＡ）が組織され、松本市に事務局を置き、初代会長には衆議院議員増田甲子七が就任した。昭和50年、組織の再編成を行ない、名称も「長野県ボウリング連盟」とし、県内スポーツボウリングの統括団体として正式に設立、松本、長野、大町、塩尻、諏訪の５支部、会員は約400名であった。

その後、ボウリング場が増加するにつれ会員数も急激に増えたが、ボウリング熱が冷め全国的にボウリング離れが始まりボウリング場が閉鎖・縮小されたことにより

会員数も減少し、昭和55年には、ついに会員数も50名を割り、県連としての活動が困難になった。

昭和58年、全日本ボウリング協会（ＪＢＣ）が日本体育協会に加盟承認され、スポーツとしてのボウリングの定着と大衆スポーツとしての評価が高まり、レジャーボウリングからスポーツとしての位置付けが明確になったことにより、県内のボウリング界も新しい時代へと入った。

昭和59年、長野県体育協会へ加盟申請、昭和60年３月26日、県体協昭和59年度第３回評議員会で加盟承認された。長野支部、佐久支部が４月に、駒ヶ根支部が８月に結成され、松本支部、諏訪支部と合わせて５支部となり、会員数200余名に増加した。

平成５年、新飯田オークラボウルがＪＢＣ公認競技場となり、飯田支部が結成したが、駒ヶ根支部が、駒ヶ根グランドボウルが公認競技場を見送ったことや会員数の減少により解散した。平成９年５月に諏訪市の高島パークレーンが閉鎖されたが、７月12日に軽井沢プリンスボウルがショッピングプラザ内に、９月26日にスポルト岡谷が岡谷市のイルフアミューズメントプラザ内に開場、平成10年に軽井沢支部が、翌年の平成11年に岡谷支部が結成された。飯田支部は、新飯田オークラボウルが公認協の更新を見送ったため、支部活動を平成９年頃から休止していたが、会員数の減少もあり平成12年に解散、軽井沢支部も会員数の減少により同年解散している。

平成23年、上田市の東信ボウリングセンターが閉鎖となり、上田支部は、佐久プラザボウルに活動の拠点を移し、平成27年、佐久支部と合併して東信支部を結成、その傘下に佐久クラブと上田クラブが組織し現在に至っている。平成26年には全国規模の大会が開催可能な60レーンを有するヤングファラオが公認協更新を見送り、長野県での全国大会開催が困難となった。平成27年、長野支部の活動拠点をスポルトピカデリーに移す。平成28年２月28日、諏訪市のニューハイボーリング諏訪が突然閉鎖となり、第27回北信越国体ボウリング競技の会場を松本市のアピナボウル松本城山店に変更した。また、諏訪支部は、活動拠点をスポルト岡谷に移し、平成29年、支部を解散して岡谷支部に統合した。同年４月、ラウンドワンスタジアム長野店が公認協に、８月にヤングファラオが営業を再開、スポルトピカデリーが建物耐震化困難で閉鎖と、目まぐるしい年となった。

令和元年８月１日、ニューハイボーリング諏訪がリニューアルし、ＣｏＣｏレーン諏訪店として営業開始となり、令和２年、ＣｏＣｏ諏訪クラブが発足、令和３年より諏訪支部が再結成し現在に至っている。令和３年４月１日現在のＪＢＣ公認競技場は、アピナボウル松本城山店、ヤングファラオ、佐久プラザボウル、軽井沢プリンスボウル、スポルト岡谷、ラウンドワンスタジアム長野店、ＣｏＣｏレーン諏訪店の７センター246レーンである。

長野県での全国大会は、長野オリンピック期間中の平成10年２月11日、ＩＯＣファミリーボウリングトーナメントが長野市のヤングファラオで開催され、サマランチＩＯＣ会長ら委員60名が参加、ボウリング競技のオリンピック参加を大いにアピールした。平成12年には、第20回東日本シニア選手権大会が、平成13年、第34回全日本シニア選手権大会が全国各地からシニアボウラーが500名を超える人数で参加し、長野市のヤングファラオで開催した。令和元年10月25日～27日、第52回全日本新人選手権大会は、東日本豪雨により千曲川が氾濫し浸水被害が発生する中、会場のヤングファラオ様始め関係各位のご尽力により開催、大会期間中、災害義援金の募集を行なった。

ジュニア育成は、平成15年、長野県体育協会の指導のもと、「長野ジュニアクラブ」を創設、ジュニア選手の発掘・育成・強化を行なっている。平成22年には、第１回長野県小学生指導会、競技大会を諏訪市のニューハイボーリング諏訪で開催し、ジュニア層の充実・強化を図ってきている。また、平成24年に、長野県ボウリング連盟強化選手制度を創設した。平成30年12月15日、アピナボウル松本城山店でＮＡＧＡＮＯスポーツ☆キラキラっ子育成プロジェクト「ボウリング」が、令和２年11月27日、ＣｏＣｏレーン諏訪店で同プロジェクト「ボウリング体験会」が（公財）長野県スポーツ協会主催で開催されている。

国体では、公開競技として初参加した第42回沖縄国体では、全種別がブロック大会を勝ち抜き２種目で入賞、正式競技となった第43回京都国体では、成年男子が３種目で入賞、第44回北海道国体から第69回長崎国体までブロック大会で出場権を獲得し、各種別・種目で優勝２回、準優勝８回など全39回の入賞を果たしている。全国大会においても、個人種目・団体種目・男女を問わず多くの優勝者を輩出してきている。

組織と役員

⑴　組織

長野県ボウリング連盟は、松本、諏訪、岡谷、長野、東信の５支部６クラブにより組織されており、役員組織は、会長に上條義光、副会長に中村隆文と片倉光子、理事長（事務局長兼務）に川上秀樹、副理事長に小林克、両角英樹、加藤勇雄、ほか理事15名、監事２名、顧問・相談役３名からなっている。

本連盟の専門委員会に、総務委員会・競技委員会・競技力向上委員会・女性委員会・組織強化対策委員会・資格審査委員会の６委員会を設置、連盟運営を行なっている。

組織のガバナンス確保として、平成13年、連盟規約から長野県ボウリング連盟定款と会員登録規程を制定、役員等の倫理規程など組織運営に必要な規程・内規の整備を進めてきている。

令和３年４月１日現在の会員数は、松本支部33名、諏訪支部30名、岡谷支部32名、長野支部10名、東信支部19名計128名となっている。

⑵　役員

○会長

増田甲子七　昭和41年～昭和51年３月
島津　　昭　昭和58年９月～昭和62年３月
小林　武文　昭和62年４月～平成３年３月
小川　　元　平成３年４月～平成13年３月
桑原　宣彦　平成13年４月～平成15年３月
三木　　敏　平成15年４月～平成18年３月
高木　昭好　平成18年４月～平成25年３月
上條　義光　平成26年４月～現在

○副会長

藤森　弘一　昭和58年９月～昭和62年３月
川上一太郎　昭和62年４月～平成３年３月
藤森　弘敏　平成３年４月～平成13年３月
桑原　宣彦　平成10年４月～平成13年３月
高木　昭好　平成13年４月～平成18年３月
中村　隆文　平成14年４月～現在
池田　正幸　平成25年４月～2019年３月
三浦　　靖　平成29年４月～平成30年１月（逝去）
片倉　光子　2019年４月～現在

○理事長

竹内　義行　昭和52年９月～昭和58年３月
早出　祥幸　昭和58年４月～昭和60年３月
小林　武文　昭和60年４月～昭和62年３月
川島　誠一　昭和62年４月～平成５年３月
佐藤　茂雄　平成５年４月～平成10年３月
三木　　敏　平成10年４月～平成15年３月
川上　秀樹　平成15年４月～現在

○事務局長

藤森　弘敏　昭和54年４月～昭和58年８月
五味　　茂　昭和58年９月～昭和60年３月
川上　秀樹　昭和60年４月～現在

長野県少林寺拳法連盟

１　少林寺拳法とは

少林寺拳法は1947（昭和22）年、日本において宗道臣（そうどうしん）が創始した“人づくりの行”である。自分の身体（からだ）と心を養いながら、他人と共に助け合い、幸せに生きることを説く「教え」と、自身の成長を実感し、パートナーと共に上達を楽しむ「技法」、そして、その教えと技法を遊離させず、相乗的なスパイラルとして機能させる「教育システム」が一体となっている。

少林寺拳法は、自分の可能性を信じて自分を高め続けられる人、周囲の人々と協力して物心両面にわたって豊かな社会を築くために行動できる人を育てている。

２　少林寺拳法の創始の動機と目的

少林寺拳法の創始者である宗道臣は、戦後の混乱のさなか、自身の体験から、リーダーの質によって、集団や社会の方向性が大きく変わるという真理を悟った。そして、リーダーシップとは、自信と勇気と正義感、行動力に根ざすものであると定義付けた。人が平和で豊かに生きてゆくために、正しいリーダーシップを発揮できる人間を一人でも多く育てようという“人づくり”の志を抱いた宗道臣は、敗戦直後の混乱で自己を見失いそうな若者たちに、人として豊かに生きるべき道を説くとともに、身体を鍛え自信を得るのに有効な技法を教え始めまた。

修練の中で、道を説いて誇りや信念を引き出し、人が生まれながらに持つ成長の可能性を実感させ、自信と勇気と行動力を併せ持つ、社会に役立つ人を育てようと少林寺拳法を創始した。

３　少林寺拳法の沿革

1947年（昭和22年）10月、日本の香川県多度津町の自宅で、宗道臣は教えと技法と教育システムを兼ね備えた「人づくりの行」として、少林寺拳法を創始した。

1952年（昭和27年）、後の学校法人禅林学園の前身となる禅林学院が、少林寺拳法指導者の養成機関として、開設される。

1963年（昭和38年）、香川県認可の社団法人日本少林寺拳法連盟を設立。

1991年（平成３年）、社団法人日本少林寺拳法連盟（現・一般財団法人少林寺拳法連盟）を発展的に解散し、全国法人の財団法人少林寺拳法連盟を設立。

2011年（平成23年）、一般財団法人に移行して、学校・職域などで少林寺拳法のクラブ活動を展開している。

2020年（令和２年）１月現在、世界39か国に少林寺拳法が普及している。

４　長野県における少林寺拳法の歴史

⑴　伊那道院設立

長野県で初めて少林寺拳法の道場が誕生したのは、1969年（昭和44年）、小池靖彦が設立した伊那道院・支部が第一号である。柔道出身の小池は大学で少林寺拳法に出逢い、その後、銀座道院でも修業したのち、郷里の伊那市で道場を開いた。当初は材木店の倉庫を借り、わずか６人のスタートではあったが、小池の「長野県に少林寺拳法の明かりを灯もしたい」との熱い志により門下生を増やし、県内の拠点に次々と道場を設立していった。

⑵　県都長野市へ

小池は伊那道院設立の後、1975年（昭和50年）に県都長野市に長野中部道院を設立した。当時は少林寺拳法の知名度も無く、現在の少林寺拳法を取り巻く状況と比べると、地域に認められるまでの働き掛けは、想像し難い苦労であった。また当時は伊那市～長野市間に高速道路が無く、片道４時間半を掛けて指導に通うなど、開祖の「長野県を頼むぞ」の一言が小池の少林寺拳法に対する情熱を駆り立てていた。

⑶　道院設立の活発化

この頃から、県外支部や大学支部等で修業した拳士が帰郷し、道場設立の動きが活発化した。長野中部道院設立の５ヶ月後、1975年（昭和50年）に、豊島道院出身の大須賀庸子（旧姓、細川）が日本初の女性道院長となり上田道院を設立、1976年（昭和51年）には宮本繁が長野更埴道院、1977年（昭和52年）村澤紀夫が須坂中部道院（廃止）、1980年（昭和55年）北原実が諏訪至誠館道院（休院）を相次いで設立している。また大学支部にあっては、1971年（昭和46年）信州大学、1973年（昭和48年）松本歯科大学（廃止）、がそれぞれ少林寺拳法部として活動が開始された。

⑷　長野県少林寺拳法連絡協議会の発足

長野県少林寺拳法連絡協議会は、伊那・長野中部・上田・長野更埴・信州大学・松本歯科大学の６支部で1976年（昭和51年）頃に組織化された。当時は関東武専や各種行事が関東連合会に集中していたため、対外的な連絡窓口として設置された。また、県内にあっては支部相互の連絡を密にすることで、普及活動の活性化を図るねらいもあり、組織拡大のためにより多くの同志を募ろうと、全拳士の気迫がみなぎっていた。そしてこの時に、少林寺拳法の良き理解者である下条進一郎（参議院議員）を会長に迎え、強力な支援者になっていただいた。

⑸　長野県少林寺拳法連盟の発足

長野県少林寺拳法連絡協議会を５年経過したところで、連盟への移行の機運が高まり、1981年（昭和56年）４月に（社）日本少林寺拳法連盟（当時）所属の支部により、長野県少林寺拳法連盟が正式に発足した。

その後、1987年（昭和62年）に長野県少林寺拳法連盟として（財）長野県体育協会（当時）に加盟した。

⑹　県内全域への発展とブロックの設置

北信、東信、中信、南信の４つに分かれる長野県の地区において、１箇所ずつ支部が設立されていたが、徐々に数が増え長野県全域に発展したため、各地区をブロックとしブロック長をおいた。

長野県少林寺拳法連盟の基盤を造ったのは、連絡協議会発足時から理事長職にあった小池靖彦（現顧問）であり、補佐役は宮本繁（現相談役）が副理事長を務め、事務の円滑化と財政健全化のため事務局と財務局を設け、佐々木祥二（現会長）が兼務した。

５　長野県少林寺拳法連盟の取組み

⑴　組　織

現在の長野県少林寺拳法連盟の組織は、会長１名、副会長１名、顧問４名、と執行部では理事長１名、副理事長１名、事務局長１名、会計局長１名、理事４名で運営されている。この他に審判委員会、考試委員会、技術力強化委員会等、様々な角度から県内各支部の運営をサポートしている。

また、2021年（令和３年）には、長野県少林寺拳法連盟のホームページを一新し、新たな拳士獲得に取り組んでいる。

⑵　武　専

武専とは、少林寺拳法の指導者を育てるための養成機関として開校された。月１回松本市に集まり、午前中学科講義、午後実技講義を行い、制度改正があり形態は変わったが、入学から卒業まで11年間を要する学校であった。

現在、正規の講義が終了後、「部活」と称して、錫杖や独鈷等の武器を扱う「法器」部や、整体師の先生による「圧法・整法」部が活動している。

⑶　各種講習会

長野県少林寺拳法連盟主催の圧法・整法技術講習会は、2008年（平成20年）から香川県より加藤義秋先生

をお招きして毎年行われた。国内第一人者である加藤先生の講習会は、県内外から多数の受講者を集め行われたが、加藤先生の逝去により、2020年からは長野県立武道館が竣工したため、日本武道館主催の指導者研修会に移行した。

⑷　強化拳士制度

長野県内の小学生から高校生を対象に、強化拳士の指定を行い、全国レベルの大会で活躍できる拳士の育成に取り組んでいる。

技術はもちろんであるが、少林寺拳法で一番大切な教えである、「半ばは自己の幸せを 半ばは他人の幸せを」を実践できる拳士を育てている。

近年徐々に技術レベルが向上し、赤穂高校２年の西出伊織拳士が、全国高校選抜大会男子単独演武の部で全国優勝を飾る等、大きな大会で活躍できる拳士が育ってきた。

６　長野県少林寺拳法連盟のこれから

人口減少、少子高齢化から、拳士数の伸びは頭打ちで、全国各地で新規拳士獲得のための活動が開始されている。流派が無く世界で一つの少林寺拳法であるため、全国各地、長野県、そして近隣支部の絆をより一層深め、拳士一人一人が楽しく修行できる体制作りを行っている。

長野県少林寺拳法連盟は、県内支部相互の交友を図り、少林寺拳法の修行を通じて、自信と勇気と行動力を習得し、思いやりと正義感を養うことを目標とし、明日を担う少年拳士の育成に邁進する所存である。

◎歴代会長

初代　会長　　下条進一郎（参議院議員）
二代目会長　　吉田　博美（参議院議員）
三代目会長　　佐々木祥二（県議会議員）

◎歴代理事長

初代　理事長　小池　靖彦（伊那市）
二代目理事長　北原　　実（岡谷市）
三代目理事長　小池　靖彦（伊那市）
四代目理事長　佐治木光夫（長野市）
五代目理事長　宮本　　繁（千曲市）
六代目理事長　鷹野　鉄也（茅野市）

長野県綱引連盟

私共長野県綱引連盟は昭和58年10月に発足致しまして、昭和62年４月に全国に先駆けて当時長野県体育協会（現在スポーツ協会）に加盟させて頂く事が出来ました。

綱引競技は手軽に誰にも出来るスポーツです。昔からスポーツの原点とも言われおり、古来から各地で五穀豊穣・大漁祈願・として取り上げておりました。

又県境で行われている国盗り綱引大会があります。長野県でも飯田市と静岡県浜松市での兵越峠の綱引大会が行われていて、この大会は監督主将は両市の市長さん。行司役には愛知県豊田市の副市長さんが努めています。勝者の市は１m県境が移動する楽しいお祭り行事となっております。又学校の運動会、地域公民館等の運動会には必ず綱引競技があります。誰しも綱を引いた経験はあると思います。これらは全てお祭り行事です。

競技スポーツとしては、近代オリンピック第２回フランスのパリ大会（1900）から第７回ベルギーのアントワープ大会（1920）まで陸上競技の正式種目にありました。これらは全てアウトドア競技であり、アウトドア競技は天候に右左され競技が中止となったり、グランドが掘れてしまい引く度にコースを移動させなければならない。この様な事でオリンピックから外れたのではないかと想像しています。そこで今回の2020東京オリンピックにインドア競技として100年ぶりの綱引競技復活を願い、日本綱引連盟も10万人の署名を集めＪＯＣに提出致しました。１次予選は通過しましたが、大変残念ながら２次予選で落選となってしまいました。でも国際綱引連盟は2024年フランスパリ大会に向けて再度復

活を願い働き掛けているとの噂を聞いております。

長野県綱引連盟は発足に先立ち、日本綱引連盟に審判員の講師派遣依頼をお願いし、審判の資格取得を目的に、県内各地域のスポーツ指導員および各市町村の教育委員会にお願いし、県内で375人の審判員が誕生致しました。

そして昭和59年１月に長野県綱引連盟の第１回県選手権大会を開催し、59年２月の第２回全日本綱引選手権大会に初参加をしました。でも男女共予選敗退でした。当時は全日本綱引選手権大会、長野県綱引選手権大会には大手食品メーカーの冠大会で両大会はテレビ放映され助成金もあり、全国の都道府県連盟の事務局はほとんどが放送局又は新聞社に置かれていました。昭和60年11月に長野市の食品スーパー冠の第１回長野県スーパートーナメントオープン綱引大会を開催しました。此の大会もテレビ放映され、大勢の参加者がありました。第２回大会からは近県からも参加チームを募り150チームもの参加がありました。その後県選手権大会、全日本選手権大会も10回大会で冠が外れ、テレビ放映も無くなり、オープン大会も10回で冠が外れテレビ放映も無くなってしまいました。でも全国大会レベルは厚生労働省共催の全国勤労者綱引大会、文部科学省共催の全国スポーツレクリエーション祭綱引の部等が開催されていて、チームが存続されていました。

現在は上記２大会も終了してしまいましたが、2015年わかやま国民体育大会から公開競技として綱引を取り入れて頂きました。2019年茨城国体では北信越代表の長野県飯田OIDE長姫高等学校が少年男子の部で見事に優勝する事が出来ました。大変残念なのは昨年の鹿児島国体、今年の三重国体は、コロナ感染予防の為中止となってしまった事です。

また選手の強化に努め全日本綱引選手権大会の方は2005全日本綱引選手権大会で初参加から22年目で男子の部で岡

谷市の進友会チームが見事初優勝を果たしました。その後2006大会、2009大会、2010大会、2012大会、2013大会、2015大会で７回の全国優勝に輝きました。そして1995年２月スペイン・ビトリアで開催された大会では、世界綱引選手権大会に初出場致しましたが、惜しくも入賞は出来ませんでした。その後2006年２月にはアイルランド・キラーニーで開催された世界綱引選手権大会に参加６位入賞。2010年２月イタリア・チェゼナティコで開催された世界綱引選手権大会では７位入賞を果たしました。そして2014年２月アイルランド・キラニーで開催された大会では９位、2016年２月オランダ・ファーレンダムで開催された大会では８位入賞致しました。又アジア綱引選手権大会では2006年栃木県大田原市で開催された大会で、見事優勝を果たしました。2012年韓国ギム・ジェ市大会では準優勝を果たし、男子の部はすばらしい成績を果たしましたが、残念ながら女子の部はここ10年程チームが解散してしまい大変辛い思いをしています。

ご存知の通り昨年からコロナ感染予防の為、県綱引選手権大会、全日本綱引選手権綱引が中止となり、選手の皆さんも練習が出来ず誠に困っている状況です。一日も早くの収束を願っています。私も現在日本綱引連盟の理事で、組織強化委員長を努めており、国体の正式種目にとお願いしていますが、非常にハードルが高く、苦しんでいます。条件は47都道府県連盟が日本綱引連盟に加入する事で、昨年までに41都道府県が加入しており、今年１県加入し、残るは５県となりました。又各都道府県の連盟は都道府県体育協会・スポーツ協会に加盟する事が必要で、現在は80％位の加盟となっています。何とか加盟率を上げるよう頑張ってまいります。今後とも長野県綱引連盟を宜しくお願い致します。

長野県バイアスロン連盟

バイアスロンは、クロスカントリースキーと射撃を組み合わせた競技で、冬季オリンピックの正式種目であり、北欧、ヨーロッパ、旧ソビエト連邦の国々では盛んに行われ、ドイツでは１日中テレビ中継されるほどの競技ですが、わが国では銃規制があるため、誰でも行えるスポーツではないことから、競技人口も限られています。長野県では、長野オリンピック以前は選手もある程度いたのですが、オリンピック以後徐々に減っているのが現状で

す。国内では、競技人口増加に向け、銃刀法の規制を受けない光線銃を使用する競技の普及が始まりつつあります。上部組織は設立当初は日本近代五種・バイアスロン連合でしたが、その後日本バイアスロン連盟となっています。

１　沿革

昭和63年

1998年の長野オリイピック冬季大会招致に向け長野県スキー連盟、松本自衛隊、長野県ライフル射撃協会、有識者等により長野県バイアスロン連盟発足。

会長には、瀧澤至氏が就任。

それ以前は、松本自衛隊が全日本選手権、冬季国体公開競技のバイアスロン、宮様大会等に部隊として参加していた。

発足以後、自衛隊装備銃は一般銃の部、それ以外は競技銃の部へ出場することとなった。

平成元年

冬季国体へ連盟として初参加。

以後一般銃（自衛隊）、競技銃（主としてライフル射撃協会員）が参加し、毎年入賞者を輩出する。

1997年

野沢温泉村でオリンピックのプレ大会としてワールドカップ野沢温泉大会が開催された。

竹節（旧姓）佐貴子選手（北野建設:当時）が出場。

開催前日、会長の瀧澤至氏が急逝。

1998年

会長に百瀬公基氏就任

長野オリンピック冬季大会バイアスロン競技が野沢温泉村で行われた。

2000年

スキー連盟がバイアスロン連盟から離脱。

2001年

飯山市森の家周辺で冬季国体実施。

運営にあたり、飯山市、飯山市スキークラブ、自衛隊等の協力を得た。

2009年

第64回トキめき新潟国体が公開競技としては最後の大会となる。

2010年～

公式大会の全日本選手権、宮様大会についての出場資格制限が設けられ、以後自衛隊以外は、出場できる公式大会が東日本選手権､西日本選手権のみとなった。

2021年

新型コロナウィルスにより大会の中止、規模の縮小が相次ぐ。

2022年

新型コロナウィルスにより、長野県もまん延防止措置が発出され、この間大会参加を自粛した。

長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟

長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟は、前身を長野県ボブスレー・リュージュ連盟として、会長に北野次登北野建設社長を選任し、1987年１月14日、正式に発足した。以後、スパイラルが休止（2018年２月５日）されるまで、長野オリンピック競技運営、選手の発掘・育成・強化、国際大会・国内大会の開催、体験会等のそり競技普及発展に寄与する活動を経て、現在に至っている。

歴代会長は､前述の北野次登氏（1987-2012年度）から、小坂憲次氏（衆議院議員　元文部科学大臣　2013-2016年度)、現在の鷲澤幸一氏（炭平コーポレーション社長）の３氏である。

本連盟の目的は、長野県におけるボブスレー・リュージュ・スケルトンのそり競技を統括し、そり競技の普及発展及び競技力向上を図ることである。しかしながら、元々、そり競技が根付いていなかった長野に、そり競技を普及発展させることは非常に困難であった。その契機となったのが、長野オリンピック招致とそり競技場「スパイラル」の建設である。ここでは、選手発掘と強化、長野オリンピックを含めた国際大会の開催、普及のための活動の３つの側面から､歴史を追っていくことにする。

設立当時、長野県でオリンピック種目であるそり競技「ボブスレー」「リュージュ」がどのようなスポーツであるかを詳しく知るものは、ほとんど皆無といってよい。連盟を立ち上げる前後の時期は、そり競技を知ることから始まった。このことは、連盟以外の関連機関においても最大の関心事であった。そもそも長野でそり競技施設が建設できるのか、国際大会が開催できるのか。同時に世界に通用する選手養成をしていかなければならない。全てがゼロに近い状態から、連盟だけの問題ではなく、関連団体が連携して準備を進めていく必要があった。その中でも連盟の担う役割は、選手育成と国際大会競技運営の２つが中心となった。

選手育成については、長野オリンピック招致が決議された1985年前後から始まり、オリンピック開催が決定された1991年より本格的になった。指導者もほとんどいない中でのスタートではあったが、長野オリンピックへの出場を目標に選手希望者がたくさん集った。そり競技が盛んなヨーロッパへの遠征や研修を進め、1996年にオープンした「スパイラル」を拠点とし、地の利を活かした

強化により、少しずつ国際大会に参加できる実力を身につけた選手を育成していくことができたのである。地元開催での活躍を祈りつつ迎えた長野オリンピック大会ではあったが、競技成績は振るわず、人気と歴史のある中で育った海外選手との実力差は歴然としており、目標としていた国際舞台での活躍は、大きな壁となって立ちはだかる結果となった。長野オリンピック以後、正式にオリンピック種目となったスケルトン競技を加えて、2012年、名称を長野県ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟と改名。３競技での選手育成は、長野、ソルトレイク、トリノ、バンクーバー、ソチ、ピョンチャンの各オリンピックに毎回選手を輩出するなど、確実な成果を得ることができた。本連盟よりオリンピック出場を果たした選手は以下の通りである。

ボブスレー（竹脇直巳/清川卓/長岡千里/宮崎久/佐藤真太郎）リュージュ（高橋敬/山田映理子/柳澤しの/小口貴久/髙橋 敬/原田窓香/林部吾郎/小林誠也）スケルトン（越和宏/稲田勝/中山英子/田山真輔/髙橋弘篤/笹原友希/小口貴子）

中でも、最も著しい活躍を見せたのが、スケルトンの先駆者越和宏である。スパイラルで開催された1999年、2000年のワールドカップでは２連続優勝を成し遂げている。ソルトレイク（2002）では８位とオリンピックでの入賞を果たした。

一方で、長野オリンピックを迎える準備として、競技

役員の養成も着々と進められた。オリンピックをはじめとした国際大会では、ぴりぴりとした雰囲気の中で、広大な敷地内で全ての競技役員が機能的に動かなければ大会は成り立たないのである。このために、本連盟から海外へ競技役員養成スタッフを派遣し、海外の競技運営を学び、ボブスレー・リュージュ合わせて、50名以上の国際審判員養成を果たした。1997年２月のプレ大会から始まり、長野オリンピックを含め、スパイラルで開催された国際大会は2014年まで、３競技で26回を数える。いずれも質の高い競技運営として、国際連盟からも高く評価されたのである。毎年開催される国内大会を含めると100回を超える競技運営に貢献してきた。

本連盟の目的の一つに、そり競技の普及がある。とりわけ、知名度の低いそり競技にあっては、いかに多くの人にそり競技を知ってもらうか、興味を持ってもらえるかが将来のそり競技の発展に大きな影響を及ぼす。そのために、毎年そり体験会を開催したり、夏フェスタと称しスパイラルでのイベントや周辺の美化活動も行ったりした。とりわけ、そり競技に理解を示し、本連盟を支えていただいた団体に、「浅川スパイラル友の会」がある。地元の住民がスパイラルを守り、そり競技を普及させるための支援をしていただいたことに、連盟として頭が下がる思いである。その他、上部組織である日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟、スパイラルを管理していただいた長野市、協賛企業、関連団体全ての皆様の支えにより、ここまで連盟を維持することができたことに深く感謝し、結びとしたい。

長野県ゲートボール連盟

ゲートボールは、日本生まれのボールゲームで、ヨーロッパで行われていたクロッケーをヒントに昭和22年北海道の鈴木栄治氏（故人）によって創案されました。創案の動機は、終戦直後の混迷期に青少年の不良化を防止し、健全な育成を願い手軽に出来る軽スポーツを、との発想からでありました。しかし、こうして考案されたゲートボールでしたが、関係者による積極的な普及活動が行われたにも関わらず、あまり青少年には受け入れられず、一方で高齢者の間には福祉団体等によって地道な普及活動が展開されていたおかげで、長い間忘れられることなく愛好され続けておりました。

当初県内ではあまり定着されておりませんでしたが、昭和50年代に入り第33回国民体育大会が本県にて開催（昭和53年）されるとあって、これを機に県民のスポー

ツに対する関心も一段と深まってきた中、第７回長野県民運動競技大会（昭和54年）において、高齢者に格好のスポーツとして定着させるべき主催者が、ゲートボール競技を行い大会種目にしようとアピールしました。
この頃を契機に高齢者を中心に急速に人気が高まり、ゲートボール団体と長野県ルールを考案した長野県教育委員会体育課が積極的に普及活動を展開、県内のゲートボール愛好者数５万人とまで言われるようになりました。

当初は各地にいくつかの民間指導団体があり、それぞれに異なったルールで競技が行われていましたが、ルールと組織統一の要望が高まり、文部省の認可を得て昭和59年12月に財団法人日本ゲートボール連合が設立され、昭和60年全国の都道府県教育委員会（体育課）に対し、各県毎にその県を代表するゲートボール団体を認定、あるいは代表組織を作り各県教育委員会の副申請を添えて加盟手続きするよう要請があり、これを受け長野県教育委員会体育課が中心となり、長野県内で活動しているいくつかのゲートボール団体を統一するため、その協力についての呼びかけが行われ、昭和60年11月29日長野県ゲートボール連盟設立総会において「長野県ゲートボール連盟」が設立されました。

爆発的な人気に支えられ発展し続けてきた本連盟は、昨年（令和２年）設立35周年記念を迎える運びとなりました。

本連盟では、これまでゲートボールは、仲間づくりと高齢者の健康維持に役立つレクレーションスポーツとしてもとらえ、弾力性のある指導者の養成にも力を注ぎ、一方でチャンピオンスポーツとして競技力の向上も図っております。

現在ではジュニア・若年層への普及も図り小中学校児童、企業等への指導もしております。

多様化する軽スポーツの中にあってゲートボールは、今後幅広い普及活動が要求されております。スポーツとレクレーション、福祉の本来の姿に立ち返り着実な発展を続けて参りたいと存じます。

長野県カーリング協会

・昭和62年10月長野県カーリング協会設立
・昭和63年第１回～平成９年第10回全労済カップ 長野県カーリング選手権大会 開催
　第３回カナダチャレンジカップ開催
・平成元年第４回カナダチャレンジカップ開催
・平成２年第５回カナダチャレンジカップ開催
　Kスガハラカーリングスクール開催
・平成３年第６回カナダチャレンジカップ開催
　レイタンブルカーリングスクール開催
・平成５年 G･ジャクソンカーリングスクール開催
・平成６年世界選手権視察研修（オーバーストドルフ）
・平成７年世界選手権視察研修（ブランドン）
　会員制カーリング施設　カーリングホールみよた開設
・平成８年５th日本ジュニア選手権　常呂大会
　男子：チーム柏木 優勝
・平成９年世界ジュニア選手権1997　軽井沢大会
　男子日本代表：柏木寛昭・敦賀信人・柳沢和人・柳沢敬太・中山隼　出場
・平成10年第11回～令和３年32回長野県　カーリング選手権大会開催
　1998長野冬季オリンピック カーリング開催 軽井沢
・平成11年７th日本ジュニア選手権 軽井沢大会
　男子：チーム柏木 優勝
・平成12年17th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム柏木 優勝
　８th日本ジュニア選手権　男子：チーム柏木 優勝
　世界男子選手権2000　グラスゴー大会
　日本男子代表：柏木寛昭・柳沢和人・市村尊則・柳沢敬太・中山隼　出場
・平成13年９th日本ジュニア選手権　軽井沢
　男子：チーム柏木 優勝
　18th日本選手権　男子：チーム柏木 優勝

・平成14年19th日本選手権　常呂大会
　男子：チーム柏木 優勝
　11th日本ジュニア選手権 男子　チーム両角 優勝
　世界男子選手権2002　ビスマルク大会
　　日本男子代表：柏木寛昭・柳沢和人・市村尊則・柳沢敬太・中山隼　出場
・平成15年20th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム柏木 優勝
　13th日本ジュニア選手権　青森大会
　男子：チーム両角　女子：チーム掛川 優勝
・平成17年22th日本選手権　軽井沢大会
　女子：チーム土屋 優勝
　14th回日本ジュニア選手権　妹背牛大会
　男子：チーム両角 優勝
・平成18年23th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム両角 優勝
　15th日本ジュニア選手権　軽井沢大会
　男子：チーム松村 優勝
　世界女子選手権2006　アルバータ大会
　　日本女子代表：土屋由加子・園部淳子・園部智子・亀山智恵美・佐藤みつき 出場
・平成19年24th日本選手権　常呂大会
　男子：チーム両角 優勝
　16th日本ジュニア選手権　青森大会
　男子：チーム松村 優勝
・平成20年25th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム両角 優勝
　パシフィックアジア選手権2008　ネズビー大会
　男子：チーム両角 ２位
・平成21年26th日本選手権　青森大会
　男子：チーム両角 優勝
　パシフィックアジア選手権2009　軽井沢大会
　男子：チーム両角 ２位
　18th日本ジュニア選手権　軽井沢大会
　男子:チーム松村 優勝　女子：チーム土屋 優勝
　世界男子選手権2009　モンクトン大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・佐藤正徳・両角公佑　出場
・平成22年19th日本ジュニア選手権　常呂大会
　男子：チーム松村 優勝
・平成23年28th日本選手権　名寄大会
　女子：チーム藤澤 優勝
　パシフィックアジア選手権2011　南京大会
　女子：チーム藤澤 出場
・平成24年29th日本選手権　青森大会
　女子：チーム藤澤 優勝
　21th日本ジュニア選手権　青森大会
　男子：チーム速水 優勝
　パシフィックアジア選手権2012　ネズビー大会
　男子：チーム両角 ２位　女子：チーム藤澤 ２位
・平成25年30th日本選手権　札幌大会
　男子：チーム両角 優勝　女子：チーム藤澤 優勝
　６th日本ミックスダブルス選手権　軽井沢大会
　チーム佐藤･柏木 優勝
　世界男子選手権2013　ビクトリア大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・両角公佑・清水芳郎　出場
　世界女子選手権2013　リガ大会
　　日本女子代表：藤澤五月・市川美余・清水絵美・松村千秋・佐藤美幸　出場
　世界ミックスダブルス選手権2013　カナダ大会
　日本代表チーム：佐藤由美子･柏木寛昭 出場
　パシフィックアジア選手権2013　上海大会
　男子：チーム両角 ２位

通年型６シートカーリング場 軽井沢アイスパーク開設

・平成26年31th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム両角　女子：チーム藤澤 優勝
　パシフィックアジア選手権2014　軽井沢大会
　男子：チーム両角 ２位
　７th日本ミックスダブルス選手権　青森大会
　チーム佐藤･持田 優勝
　世界男子選手権2014　北京大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・両角公佑・松村雄太 ５位
　世界ミックスダブルス選手権2014　ダンフリー大会
　日本代表チーム：佐藤みつき･持田靖夫 出場
・平成27年32th日本選手権　常呂大会
　男子：チーム両角 優勝
　24th日本ジュニア選手権　軽井沢大会
　女子：チーム土屋 優勝
　世界男子選手権2015　ハリファクス大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・両角公佑・松村雄太 ６位
　パシフィックアジア選手権2015　カザフスタン大会
　男子：チーム両角 ２位
・平成28年世界ジュニア選手権2016　デンマーク
　　日本女子代表：土屋文乃・鈴木結海・上野結生・金井亜翠香・山本冴　10位
　33th日本選手権　男子：チーム両角 優勝
　世界男子選手権2016　バゼル大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・両角公佑・谷田康真　４位
　パシフィックアジア選手権2016　ウイソン大会
　男子：チーム両角 優勝
・平成29年34th日本選手権　軽井沢大会
　男子：チーム両角 優勝　女子：チーム松村 優勝
　世界男子選手権2017　エドモントン大会
　　日本男子代表：両角友佑・清水徹郎・山口剛史・両角公佑・平田洸介　７位
　パシフィックアジアカーリング選手権2017 エリナ大会
　男子：チーム両角 ３位

・平成30年 長野県選手、悲願のオリンピック
カーリング競技平昌冬季五輪出場　男子８位
男子代表：両角友佑･清水徹郎･山口剛史･両角公佑･平田洸介･コーチ 長岡はと美
11th日本ミックスダブルス選手権　青森大会
チーム藤澤･山口 優勝
27th日本ジュニア選手権　軽井沢大会
女子：チーム江並 優勝
世界ミックスダブルス選手権2018　スウェーデン大会
日本代表チーム：藤澤五月･山口剛史 ５位
・平成31年・令和元年
世界ジュニア選手権2019　リバプール大会
日本女子代表チーム：山本冴･江並杏実･鈴木みのり･両川萌音･金井亜翠香
９位
36th日本選手権　札幌大会
女子：チーム中嶋 優勝
12th日本ミックスダブルス選手権　軽井沢大会
チーム藤澤･山口 優勝
28th日本ジュニア選手権　妹背牛大会
女子：チーム山本 優勝
世界女子選手権2019　シルケボーグ大会
日本代表チーム：中嶋星奈･北澤育恵･松村千秋･石郷岡葉純･清水絵美　４位
世界ミックスダブルス選手権2019　ノルウェー大会
日本代表チーム：藤澤五月･山口剛史 ５位
・令和２年13th日本ミックスダブルス選手権
札幌大会　　チーム松村･谷田 優勝
・令和３年14th日本ミックスダブルス選手権
青森大会　　チーム吉田･松村 優勝

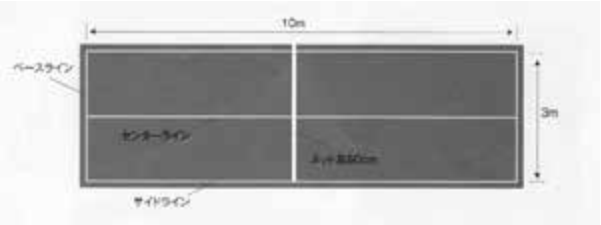
長野県バウンドテニス協会

【バウンドテニスとは】

「バウンドテニス」はひと言でいうならば､狭いスペースでできるテニスです。

バウンドテニスは、ラケットボールを原型に、テニスとほぼ同様のルールで狭い場所でも手軽にでき、しかも運動量も十分あるスポーツとして、メルボルンオリンピックで活躍した、レスリングのゴールドメダリスト、笹原正三氏によって昭和55年（1980年）に考案、開発されました。

バウンドテニスの「バウンド」とは､ボールが良く“弾む”こと（バウンド）と“限られたスペース”でできること（バウンダリー）に由来しています。具体的にはコートの広さは３m×10m、ネットの高さが50cmと定められ、テニスコートの約６分の１の面積でプレーができ、場所を選ばず楽しめることが何よりも大きな特色となっています。



使用するラケット、ボールともにテニスより小さい用具なのでなじみやすく、小学生から高齢者まで誰でも気軽にプレーすることができます。

さらに、バウンドテニスには他のスポーツには見られない「ＢＴラリー戦」という新しい種目があります。これは、初めてラリーが続けられるようになった最初の感激を、そのまま競技として活かしたもので、１分間に何回ラリーが続くかを他のコートと競い合います。このように本来のスポーツ性をそこなうことなく競技性を保ちながら、生涯スポーツ、レクリエーション・スポーツとしての工夫とアイデアも取り入れています。

１．協会の発足

長野県バウンドテニス協会は昭和58年（1983年）３月に設立されました。日本バウンドテニス協会が昭和56年（1981年）に設立しましたので、長野県は全国でも早く発足したことになります。

平成３年（1991年）４月に財団法人長野県体育協会（当時）に加盟させていただきました。

２．その後のあゆみ

長野県バウンドテニス協会設立後は長野県内各地で普及講習会を各地で行いました。

昭和58年（1983年）11月に第１回長野県バウンドテニス選手権大会を開催し、同年開催の第１回全日本バウンドテニス選手権大会（広島県開催）にも12名の選手を派遣し、シニア女子シングルスでは優勝と３位となるなど活躍を致しました。その後も毎年長野県バウンドテニス選手権大会が開催され、全日本バウンドテニス選手権大会に選手を派遣して優勝・準優勝等多くの上位入賞者が出ております。

平成10年には設立15周年を迎え、10月に［設立15周年

記念誌］を発行いたしました。

平成17年からは北信越ブロックバウンドテニス選手権大会も開催されるようになり、第１回大会のシニアシングルス優勝をはじめとして、その後も多くの優勝者が出ております。

設立25周年には、日本バウンドテニス協会・北信越各県のバウンドテニス協会に加え、交流の深い近県のバウンドテニス協会からもご出席をいただき創立25周年記念式典と記念親善大会を盛大に開催いたしました。

近年一般財団法人日本バウンドテニス協会はジュニア層への普及を推し進めており、長野県でも小学校のクラブ活動への講師派遣や愛好者の子供を中心とした地域クラブの活動などを支援しており、長野県バウンドテニスジュニア選手権大会も開催されております。

また、バウンドテニスは長野県においても、全国的に見てもシニア層の愛好者が多いので、日本バウンドテニスゴールド大会“ゴールドカップ　シニアチーム日本一決定戦”が毎年開催されております。平成30年に開催された第21回日本バウンドテニスゴールド愛媛大会では長野県の［シナノスイート］チームが念願の日本一に輝きました。

最近の長野県バウンドテニス協会登録者数を150～200名程度が続いております。毎年の大きな目標は、生涯スポーツとして協会員を増やして、バウンドテニスを楽しんで貰う事。また競技スポーツとして県全体の技術レベルを上げる事です。毎年協会員の増加を目指して、初心者教室や講習会を行っておりますが、なかなか増えないのが現実です。バウンドテニスが知られていないことで苦戦していますが、これからも活発に活動したいと思います。

３．これからの展望

現在まで、国民体育大会に於いてバウンドテニスはデモンストレーション競技として開催されてきました。

2016年 一般財団法人日本バウンドテニス協会は国体公開競技参加のための資料を提出し、ヒヤリング調査などが行われました。そして、2017年に第78回佐賀大会・第79回滋賀大会・第80回青森大会・第81回宮崎大会における公開競技参加が決定されました。

次の第82回は長野県が内々定している長野大会です。

【歴代　会長】

平成１年～８年	下条進一郎
平成９年～20年	後藤　幸雄
平成21年～27年	片峯　　正
平成28年～令和２年	後藤　秀作
令和３年～	立岩　之博

【歴代　理事長】

昭和57年～61年	中澤　　豊
昭和62年～平成２年	関　　良一
平成３年～６年	峯村　寿一
平成７年～10年	島田　高子
平成11年～14年	小山　一泰
平成15年～20年	立岩　之博
平成21年～22年	加藤　芳忠
平成23年～24年	笠原　正司
平成25年～	中沢　泰夫

【長野県スポーツ振興功績者　有功賞】受賞者

平成９年度	大野　重治
平成11年度	峯村　寿一
平成12年度	島田　高子
平成14年度	小山　一泰
平成17年度	山本　　弘
平成18年度	後藤　幸雄
平成19年度	後藤　正行
平成20年度	立岩　之博
平成21年度	髙木　重由
平成23年度	渡邉　正博
平成26年度	小山由紀子
令和元年度	島　　幸知

【長野県バウンドテニス協会ホームページ】

URL　http://bta-nagano.main.jp/

特定非営利活動法人　長野県武術太極拳連盟

○沿革、あゆみ

1985年（昭和60年）１月
　長野県太極拳協会設立　会長・中島深水
1987年（昭和62年）
　第１回フェスティバル開催（長野市）
　参加12団体、120人
1991年（平成３年）
　長野県体育協会へ加盟
1992年（平成４年）２月
　長野県武術太極拳連盟に改組
1993年（平成５年）
　第１回長野県選手権大会開催（上田市）
2018年（平成30年）６月
　組織改革のため特定非営利活動法人に改組

1985年（昭和60年）に長野県の団体が設立されました。1972年（昭和47年）が日中国交正常化の年ですから、それから13年目の設立になります。日本における武術太極拳界を統轄し、代表する団体である日本武術太極拳連盟（現在は公益社団法人）は1987年（昭和62年）４月に設立されました。同じ年の９月に横浜市で第１回アジア武術選手権大会が開催されています。日本武術太極拳連盟はその後、1990年（平成２年）に（財）日本オリンピック委員会に、翌年1991年（平成３年）には、（財）日本体育協会に加盟しています。武術太極拳の国体への参加は、2019年（令和元年）の「天皇陛下御即位記念　第74回国民体育大会　いきいき茨城ゆめ国体2019」にて初めて「公開競技」として実施されています。

長野県武術太極拳連盟は1985年（昭和60年）に前身の長野県太極拳協会として出発して以来、太極拳の普及に努めて来ました。1992年（平成４年）、現在公益社団法人となっている日本武術太極拳連盟に加盟する時に名称を変更し、長野県武術太極拳連盟としました。

今日、県内各地に教室が有り、多くの愛好者が太極拳を楽しんでいます。

太極拳は動作が穏やかでゆっくりしていることから、心臓や肺などへの負担が極めて少なく、体質の強弱を問わずに出来る優れた健康法であり、更に脳の活性化に極めて有効な運動と認められており、老若男女を問わず大勢の人達が練習しています。長拳（カンフーの形）は太極拳とは反対に速い動きが特徴ですので、愛好者のほとんどが小中高生です。

太極拳のことをもう少し説明いたします。

太極拳は伸びやかで大きく、ゆったりとした動作であり、意識・動作・呼吸の三つが調和して運動をするのが特徴です。柔らかい動きで相手の力を外しバランスを崩して合理的な力を用いて相手を倒す技法、すなわち化勁の武術であり、用意不用力を旨とします。

太極拳の動作はすべて陰陽が交替するものであり、虚と実、合と開、蓄と発などが互いに入れ替わり変化します。陰の部分が重要で有用であることに着目して動作します。

太極拳は中国に伝わる伝統武術のひとつであり、徒手及び剣・刀・槍等の武器を使う格闘技であり、日本では太極拳が広く行われるようになって、約40年がたちます。

中国武術の起源はかなり古く、様々な技法を組み合わせた数多くの武術の流派が生まれ、河南省で考案された武術の一つと、18世紀に武術家の王宗岳が著した『太極拳論』が結びついて太極拳という名称が用いられるようになりました。

格闘技としての武術は、社会状況の変化につれて、しだいに健身、スポーツ種目として心身の鍛錬と修養を目的とするようになっています。「武術太極拳」という名称で、太極拳、長拳、南拳や各種の伝統武術など、各種の中国武術・中国拳法を総称して、普及されています。そのなかでも、日本では太極拳の愛好者が圧倒的に多く、1956年（昭和31年）に編纂された簡化二十四式太極拳が普及しています。

スポーツ競技も行います。

試合は、演武競技が主であり、定められた時間とルールに基づいて、縦８メートル、横14メートルの特製の絨毯を敷いたコートの中で１人（組）ずつ演武し、審判員が与える得点によって順位を決定します。太極拳、太極剣、南拳、南刀、南棍、長拳、剣術、刀術、槍術、棍術等の種目を行います。

競技の採点は、10点満点からの減点方式で行い、姿勢や動作の正しさ、動作の均衡と力の運用の正しさ、精神・風格等の表現について判定します。

従来、演武競技は選手が各種目の武術の特徴を備えた足技、打法、跳躍技などを自分で組み合せて演武する自由演技で競われてきましたが、国際化の流れのなかで、

各国の選手の技術の向上を促進し、また、採点をより合理的に行うために、武術競技用統一規定演武型（規定套路）が定められ、1990年（平成２年）の第11回北京アジア競技大会から、この規定演武型が採用されています。

スポーツ競技における長野県選手の実績は以下のとおりです。（令和３年３月まで）1988年（昭和63年）に開催された第５回全日本武術太極拳選手権大会において、長野県の選手が集団競技で初めて入賞しました。

以後、個人種目での入賞が続いております。

1994年（平成６年）の第11回全日本武術太極拳選手権大会で、24式太極拳・女子で長野県の選手として初めて全国大会１位を獲得しました。翌年の1995年(平成７年)の第12回全日本武術太極拳選手権大会では､総合太極拳･女子で１位を獲得するなど、56回の入賞を果たし、活躍しております。

また2019年（令和元年）の第74回国民体育大会でも、少年女子:ジュニア太極拳２で３位に入賞しております。

全国大会での入賞記録は以下の通りです。

○全国武術太極拳選手権大会入賞

拳式	入賞回数	最高位
集団競技	1	３位

拳式	入賞延べ人数	最高位
総合太極拳　女子	4	優勝
総合太極拳　男子	1	３位
24式太極拳　男子	6	２位
24式太極拳　女子	2	優勝×２回
ジュニア太極拳２　男子	4	優勝×３回
ジュニア太極拳１　男子	4	優勝×３回
ジュニア太極拳１　女子	1	３位
初級長拳　男子	3	４位
32式太極剣　男子	4	２位
88式太極拳　男子	15	３位
呉式太極拳　男子	6	３位
孫式太極拳規定　女子	5	優勝

○国民体育大会入賞

拳式	入賞延べ人数	最高位
少年女子：ジュニア太極拳２	1	３位

長野県武術太極拳連盟は組織改革を行い、2018年（平成30年）６月に特定非営利活動法人となりました。恒例行事として年１回、長野県日中友好武術太極拳フェスティバルを開催し、長野県内の各団体の演武の発表や交流を行っております。

昨年2020年（令和２年）の第33回フェスティバルは残念ながら新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、2021年（令和３年）９月26日に長野市のビッグハットにおいて第34回フェスティバルを開催する予定で、準備を進めております。

長野県武術太極拳連盟は、一人でも多くの長野県民の皆様が楽しみながら出来る太極拳の練習を通じて、心身の健康の維持と増進を図り、長野県が日本一の健康長寿県となることを目指したいと存じます。

長野県トライアスロン協会

私ども『長野県トライアスロン協会』(略称NTA)は『公益社団法人日本トライアスロン連合』（略称JTU）の下部組織として、長野市を拠点に活動しています。

最初に「トライアスロン」競技の歴史について説明させていただきます。始まりは諸説ありますが、1974（昭和49）年に、米国カリフォルニア州サンディエゴで誕生したといわれています。水泳(スイム)､自転車(バイク)､ランニング（ラン）の３種目を連続して行うことから、ラテン語の３を意味する「トライ」と、競技を意味する「アスロン」を組み合わせたことが語源と言われ、サンディエゴ・トラッククラブのメンバーが、連続競技を世界で初めて『トライアスロン』と称し、競技を行ったことが始まりとされています。

トライアスロンの歴史を語る上で、転機となった大会があります。1978（昭和53）年にそれまでハワイのワイキキで行われていた「ラフウォータースイム」（スイム3.86㎞)、「アラウンドオアフ」（バイク180㎞)、「ホノルルマラソン」（ラン42.195㎞）を元に、同じ距離を連続して行う大会が、15人の米国海軍兵士により行われました。このような大会は『IRONMAN』と呼ばれ、ビジネスとしても成立したことにより、以後、世界各地で開催され、成長を見せていくことになりました。

1989（昭和64）年には、『国際トライアスロン連合』（ITU）が設立され、同年『第１回ITU世界選手権大会』がフランス・アビニオンで開催されました。そして1994（平成６）年には、トライアスロン競技がオリンピックに正式種目として採用され、これを受け競技人口も増えて、世界的な広がりをみせていくことになりました。1982（昭和57）年に始まった『国際トライアスロンシリーズ』（USTS）は、距離をスイム1.5km＋バイク40km＋ラン10km（計51.5km）に設定しましたが、現在ではこの距離が「オリンピックディスタンス」と呼ばれて、オリンピック、世界選手権を始めとする数多くの大会で採用されています。なお、ジュニア選手権や一般大会では、51.5kmの半分の距離で行われる「スプリントディスタンス」も導入されています。

さらに、2016（平成28）年の『リオパラリンピック』からは「パラトライアスロン」も正式種目に採用され、2021（令和３）年開催の『東京パラリンピック』では日本選手が、各カテゴリーでメダルを獲得し、障害を持つアスリートの活躍の場の広がりの一助となったものと感じています。

今日では、世界５大陸120カ国を超える国と地域で様々な距離の大会が開催されている他、ラン＋バイク＋ランで行われる『デュアスロン』やクロスカントリースキーとマウンテンバイクを取入れた『ウインタートライアスロン』などの関連複合競技も盛んに行われています。

一方日本では、1981（昭和56）年に「鳥取県の皆生温泉」でロングディスタンスの大会が初めて開催され、同大会は今も人気大会として継続されています。その４年後、「沖縄県宮古島」、「滋賀県びわ湖」でロングディスタンスの大会が、また、熊本県天草でオリンピックディスタンスの大会が開催されましたが、中でも『宮古島大会』がNHK-BSで中継放送されたことにより、トライスロンが一躍脚光を浴びることになりました。今では、全国で数多くの大会やセミナー、練習会、リハーサルイベントなどの普及イベントも開催されています。

トライアスロンと聞くと、「苦しさや過酷」という負のイメージがありますが、日本国内では小学生から80歳を超える方が「生涯スポーツ」として自分のペースで楽しんでいます。この素晴らしいスポーツをJTUおよびNTAは、様々な形でサポートしています。

次に『長野県トライアスロン協会』（NTA）の沿革について述べさせていただきます。長野県では、1986（昭和61）年に『第１回日本雪上トライアスロン戸狩大会』が開催され、そこに集ったメンバーがNTAの礎を築いていくことになりました。その２年後に開催された『第１回御嶽スーパートライアスロン』を経て、協会設立の機運がより一層高まり、翌年に設立総会を開催し、『長野県トライアスロン協会』を設立すると共に、「日本トライアスロン協会」に13番目の組織として加盟しました。なおこの年には、「日本トライアスロン連盟」も設立されましたが、その後、オリンピックの正式種目になったことを機会に、現在では『公益社団法人日本トライアスロン連合』に統合されています。

NTA設立後の活動としては、各種大会への協力、選手派遣などを行ってきましたが、取り分け1990（平成２）年から開催されている『氷上トライアスロン小海大会』の後援、および『野尻湖カップトライアスロンジャパンオープン』（現在大会名変更）の主管は、現在まで続くロングラン事業となっています。

新たな取組みとして、2021（令和３）年から『SUWAKO∞PEAKS.MIDOLE.TAIATHLON』（諏訪湖および八ヶ岳をめぐるミドルディスタンスの大会）を開催すべく準備を進めて参りましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、残念ながら翌年へと延期されることとなりました。また同年、信濃町の野尻湖において計画した『のじりっ子トライアスロン大会』（ジュニアの大会）は、規模の縮小はありましたが実施することができました。

大会・競技会以外の活動として、普及と選手強化、指導者ならびに審判員の育成と派遣、国民スポーツ大会（旧国民体育大会）関連の事業なども行っています。普及では、ジュニア選手の発掘・育成に力を入れています。長野市と岡谷市において「ジュニアスイム教室」を毎週行い、また、「バイク・ランの講習会」も開催しています。この取組みのために、ジュニア育成委員会を新たに立ち上げ、指導には若い指導者にも加わってもらうと共に、中央競技団体からオリンピアンなどを講師として招き、活動の活発化を図っています。また、ジュニア選手の意識の高揚とさらなる強化のために、エリート選手との合同合宿も行っています。選手強化は、主に「国民スポーツ大会」を目指すエリート選手を対象として、技術・体力の向上を図る目的で合宿を中心に行っています。

当該合宿には、中央競技団体および競技部を保有する企業にもご協力いただき、オリンピアンを含むトップアスリートからのご指導もいただいています。指導者については、上記で述べた普及、選手強化に必要な資格を持っ

第74回茨城国体

た指導者の養成、スキルアップのために、講習会への参加の後押しをしています。近年、指導者の数も増え、選手個々に対する細やかな指導ができるようになってきました。

トライアスロンの審判員には第３種から第１種まで、国際審判員はレベル１からレベル３までの種別があります。各種別の審判員の数を増やすこと、またそのスキルアップを図ることも重要課題と捉え、講習会を開催し受講を促したり、各地で行われる大会への派遣を行っています。『国民スポーツ大会』関連の事業としては、主に毎年開催される国体への選手選考・派遣を行ってきました。

また、2028年開催予定の『長野県国民スポーツ大会』の準備も進め、同大会で活躍できる選手の発掘・育成を中心に、指導者と審判員の増員とスキルアップを図り、大会の成功はもとより、天皇杯・皇后杯にも貢献できることを目指し活動しています。

トライアスロン競技はまだ歴史が浅く、長野県トライアスロン協会も設立から32年と、長い歴史を誇る団体ではありませんが、近年では、「長野県スポーツ振興功績者表彰」をいただける人材も現れるなど、徐々に認知されてきているものと嬉しく感じています。今後は、40年、50年と一層の発展を遂げられるよう努めて参りますので、公益財団法人長野県スポーツ協会をはじめ、長野県、その他の競技団体、関係の皆さまからのご指導ご鞭撻を賜りますよう切に願っております。

JABA長野県野球連盟

「長野県野球協会」設立へ

平成28年（2016年）、NPB（日本野球機構）とBFJ（全日本野球協会）により「日本野球協議会」が設立されプロ野球とアマチュア野球が連携して野球振興に取り組む時代となりました。長野県でも同年に「長野県青少年野球協議会」が設立され、アマチュア野球の様々な課題解決に向けての取り組みが進められ、競技人口拡大のためのイベント等が開催されました。

令和２年（2020年）、長野県野球界の発展と県内のさまざまな野球関連団体を統括する組織として、プロ野球（信濃グランセローズ）を含む全ての野球関連団体が連携した「長野県野球協会」設立に向けての準備が始まりました。

令和３年（2021年）、「次世代を担う青少年世代の支援と野球人口増加への取り組みを推進すること」「全ての加盟団体の競技力向上を図ると共に、他のスポーツ団体との相互協力や多様な社会貢献に寄与すること」を目的とし、プロ・アマ・女子すべての県内野球関連団体（14団体）を統括する組織として、令和４年（2022年）４月より「長野県野球協会」が本格的に活動することを記者会見し発表しました。

また、長野県野球協会の設立記念イベントとして、令和４年（2022年）３月19日・20日にオリンピックスタジアムで県内のＢＣリーグ（信濃グランセローズ）・社会人野球（千曲川硬式野球クラブ・信越硬式野球クラブ）・大学野球（松本大学）の４チームによる第１回長野県知事杯争奪プロ・アマドリームトーナメントが開催されることも発表されました。

今後の長野県野球協会の活動としては「野球普及イベントの開催」「指導者講習会・研修会の開催」「幼稚園・保育園への普及活動」「地域貢献・ボランティア活動」等が予定されています。

当連盟からは、長嶋会長が副会長として横井専務理事・高橋事務局長が協会役員としての参加が予定されています。

2021年度長野県野球連盟の活動

◇第62回長野県知事旗争奪JABA長野大会
期日：４月７日（水）から５日間
球場：長野オリンピックスタジアム・県営上田野球場
参加チーム（16）
TDK・七十七銀行・JFE東日本・鷺宮製作所・明治安田生命・ENEOS・東邦ガス・ジェイプロジェクト・トヨタ自動車・Honda鈴鹿・神戸ビルダーズ・三菱重工West・信越硬式野球クラブ・Fedex・伏木海陸運送・ロキテクノ富山
優勝：ENEOS（神奈川県）

◇第７回JABA北信越クラブカップ予選　長野大会
期日：５月15日（土）・16日（日）
球場：長野オリンピックスタジアム
参加チーム（４）
千曲川硬式野球クラブ・佐久コスモスターズ・上田硬式野球倶楽部・長野好球倶楽部
優勝：千曲川硬式野球クラブ

◇第46回社会人野球日本選手権北信越大会
期日：５月28日（金）から３日間
球場：オリンピックスタジアム
参加チーム（７）
信越硬式野球クラブ・Fedex・伏木海陸運送・ロキテクノ富山・IMF　BANDITS富山・バイタルネット・JR新潟
優勝：バイタルネット

◇第７回JABA北信越クラブカップ大会
期日：７月17日（土）・18日（日）
球場：オリンピックスタジアム

参加チーム（7）

千曲川硬式野球クラブ・上田硬式野球クラブ・長野好球倶楽部・全新潟ブラックス・新潟コンマーシャル倶楽部・富山ベースボールクラブ・HardBallClub金沢

優勝：千曲川硬式野球クラブ

◇第92回都市対抗野球一次予選長野県大会

期日：８月29日（土）・30日（日）
９月５日（日）

球場：佐久総合運動公園野球場
オリンピックスタジアム

参加チーム（6）

Fedex・長野好球倶楽部・佐久コスモスターズ・千曲川硬式野球クラブ・上田硬式野球クラブ・信越硬式野球クラブ

優勝：信越硬式野球クラブ

長野県マレットゴルフ連盟

平成のニュースポーツとして驚異の発展を遂げたマレットゴルフとは？スティックとボールを使い決められた打ち出し地点からボールをできるだけ少ない打数で入れることを競うスポーツです。

マレットとは「木づち」との意味でゴルフのルールを用い競技をすることでマレットゴルフと名づけられた。

昭和52年に福井県で開発され昭和57年に長野県体育センターにより推進普及され市町村の協力によって山麓地・河川敷・原野・公園等が整備され県内に200か所近くのマレット場が出来上がる。

2000年（平成12年）に長野県マレットゴルフ連盟は長野県マレットゴルフ協会との間で統合する。

発足時には支部数も県内に50余りが発足し会員数も約9,000人に迫る勢いになりました。

懸案だった長野県体育協会、現在の「公財長野県スポーツ協会」に加盟が叶いマレットゴルフがスポーツ競技として公から認められたことでマレットゴルフを継続していく誇りを感じさせることが強くなった。

「何時でも何処でも誰でも」のキャッチフレーズで手軽に安全性が確保出来ることで生涯スポーツとして取り入れられ長野県から平成９年「県民さわやかスポーツ祭」の参加が要請され競技に加えられる。

浅間 夏季大会

文部科学大臣杯・厚生労働大臣杯・長野県知事杯等を開きより多くの県民が気軽にスポーツに親しみを感じ年齢や性別に関わらずスポーツを通じて交流・親睦ができる場を確保し元気な県民づくりに寄与しております。

平成15年からは全国でも珍しい松本浅間カントリー倶楽部の白馬コースを借り受けて夏と晩秋に大会を開催して醍醐味溢れる競技を開いております。

浅間 晩秋大会

長野県マレットゴルフ連盟あゆみ

●1988年　昭和63年３月６日長野県マレットゴルフ連盟設立

歴代会長任期中の発足大会

▲ 初代会長　西沢直人（上山田）

■1988年～1992年
［昭和63年３月～平成４年３月］

※第１回長野県マレットゴルフ連盟選手権（昭和61年）

※長野県マレットゴルフ連盟競技規則（昭和61年）

表彰状
中島　睦様
あなたは多年体育団体の発展に
あつく活躍されスポーツの振興に
貢献されました
よってその功績をたたえここに
表彰します
令和二年十月十三日
長野県知事　阿部守一

▲ ２代目会長　原　徳則（坂城）
■1992年～1998年
［平成４年４月～平成10年３月］
※第１回全日本選手権大会（平成３年発足）
※第１回市町村対抗大会
（平成８年サングリーンで発足）
※長野県体育協会に加盟（平成８年）
※県民さわやかスポーツ祭
（平成９年参画）
※長野県体育協会有効章受章（平成12年）
▲ ３代目会長　藤森宗清（松本）
■1998年～2006年
［平成10年４月～平成18年３月］
※第１回長野県知事杯グランドチャンピオン大会（平成11年）
※長野県マレットゴルフ連盟・協会統合に至る（平成12年）
※全日本マレットゴルフ連盟競技規則新刊発行（平成14年）
※全日本選手権大会～文部科学大臣杯大会に変更（平成14年）
※市町村対抗～長野県知事杯支部対抗大会に変更（平成14年）
※連盟選手権～長野県知事杯選手権大会に変更（平成14年）
※長野県体育協会有効章受章（２人目）（平成16年）
▲ ４代目会長　浅井志郎（塩尻）
■2006年～2010年
［平成18年４月～平成22年３月］
※全日本マレットゴルフ連盟競技規則改訂（平成18年）
※第１回厚生労働大臣杯伊豆伊東温泉大会（平成18年）
※長野県体育協会有効章受章（３人目）（平成20年）
※第１回長野県M・G連盟レディース大会（平成21年）
▲ ５代目会長　中島　睦（池田）
■2010年～現在に至る
［平成22年４月～現在に至る］
※長野県体育協会有効章受章（４人目）（平成22年）
※全日本マレットゴルフ連盟競技規則改訂（平成22年）
※レディース～長野県知事杯レディース大会名称変更（平成23年）
※第１回長野県マレットゴルフ連盟ペア大会（平成26年）
※全日本マレットゴルフ連盟競技規則改訂（平成26年）
※支部対抗～長野県知事杯市町村対抗に変更（令和２年）

以上歴代会長任期中に新規事業発足内容を出来る限り調べ上げたが、時間の経過が立ちすぎ資料が足りなく当時の事業について携わった人たちの証言が少なく分かることだけを載せることとした。

2018年招致が決定された長野県国体にマレットゴルフが福井県国体同様に取り入れられ、若者がマレットを高齢者スポーツと見る向きが代わり連盟に加盟されることを期待する声が県内各地から聞こえてくる。

明るいニュースですが、令和２年10月13日に中島睦会長が（公財）長野県スポーツ協会の格段なるご厚意とご協力を賜り犀北館２階大広間にて県知事表彰を頂きました。

マレットゴルフ連盟が発足して33余年になりますが、県知事表彰は初めてのことであり県連盟全会員の栄誉でありました。

表彰式会場の様子

長野県ゴルフ協会

【沿革】

日本ゴルフ協会（JGA）が日本体育協会に復帰加盟したのは1992（平成４）年。これに伴い、47都道府県にアマチュアゴルファーを統括する競技者団体の設立が進められた。1996（平成８）年１月、JGAならびに関東ゴルフ連盟（KGA）の強い要請を受ける形で長野県ゴルフ場連盟、信濃毎日新聞社が数回の打ち合わせを行い、藤原正男、小坂健介両氏により発起人会が設立された。同

年３月、ゴルフ場連盟、長野県ゴルフ愛好会、信濃毎日新聞社、信越放送から74人が出席して、設立総会を開催した。長野県体育協会への加盟は同年６月14日。JGAには体協会員として８月に加入し、同協会規定により、KGAに所属することとなった。ゴルフ競技の国民体育大会参加は1999（平成11）年からである。

【組織運営】

協会の構成員は東信、北信、中信、南信の４支部、加盟団体（長野県ゴルフ場連盟）、ゴルフ競技会主催団体関係者である。役員構成もこれに沿っており、それぞれの組織から選出された理事と学識経験者からなる理事会の互選で理事長、常任理事を選出する。実際の運営に当たっては、総務企画委員会、競技委員会、ジュニア育成委員会の３つの専門委員会が活動している。総務企画委員会は協会全体の活動方針や常任理事会に諮る議案を審議、競技委員会は主催競技会の規則と運営を担い、ジュニア育成委員会はジュニアスクール、ジュニア研修会、ジュニア競技会の運営やジュニアゴルファーの指導に当たる。委員の人材確保のため、理事でない人も特別委員に任命し活動している。2019年に全世界一斉にゴルフ規則の大幅改定が行われ、これに対応した研修会を開くなど日々進化を図っている。

【事業の拡大】

事業の柱である競技会の開催、運営はゴルファーの各層、広い年代を対象にしている。1968（昭和43）年に始まった県アマチュアゴルフ選手権大会は県内最高峰の大会「県アマ」として親しまれているほか、県シニアアマチュア選手権、県女子アマチュア選手権に加え県ジュニアゴルフ選手権まですべての年齢層にチャンピオンをめざす競技の機会を提供している。また、団体戦として県市町村対抗ゴルフ大会、60歳以上を対象とした県シニア市町村対抗大会、レディース地区対抗大会を開催しゴルフを通じた親ぼくと健康増進に寄与している。世界共通のハンディキャップシステムの下で競う県アンダーハンディキャップゴルフ選手権も主催する。

県アマのチャンピオンと上位入賞者はKGA主催の関東アマチュアゴルフ選手権への出場権が付与されるほか、県ジュニア選手権は関東ジュニア選手権、関東小学生大会への予選を兼ねている。国民体育大会、日本マスターズゴルフ、関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権への選手派遣も合わせ、関東へ、全国へと道は開かれている。

【ジュニア育成】

ジュニア育成は協会発足当初からの大きな目標である。単に強い選手というより、礼儀やマナーをわきまえた良い「ゴルファー」を育てることが将来のゴルフ界にとっても大切であるとの考えのもと、夏季ジュニア・ゴルフスクールやジュニア研修会を実施している。ゴルフスポーツ少年団活動へのバックアップ、ゴルフにつながるゲーム「スナッグゴルフ」の普及にも力を入れている。

ジュニアの育成強化は、確かな成果を生みつつある。関東ジュニア選手権、さらに日本ジュニア選手権、ジュニアの枠を超えて日本アマチュア選手権、日本女子アマチュア選手権へと駒を進める選手も次々と出てきた。

協会直接の事業ではないが、当協会、県ゴルフ場連盟、県プロゴルフ会などが協議し県内ゴルフ振興を目的に2017年に設立した「一般社団法人長野県ゴルフ振興基金」は、一般ゴルファーにゴルフ場でプレーする度に振興金（50円）を拠出してもらい、これを集めてゴルフ振興のための基金とする仕組み。ジュニアのプレー費補助などに充てられ大きな力となっている。

【国体入賞へ一丸】

競技力の向上を最も具現化したい大会は国民体育大会（国民スポーツ大会）である。これまでの県勢最高成績は2007（平成19）年「秋田わか杉国体」における成年男子（広田文雄、百瀬将道、田中孝幸）の８位。唯一の団体入賞である。女子の団体は、ここ数年入賞ラインにあと一歩のところまでレベルアップしており、2019（令和１）年の茨城国体９位が最高成績。最終ホールまでつば競り合いの末、７位と１打差で入賞を逃した。

個人では2015（平成27）年の和歌山国体で成年男子の丸山雄也（日体大）が７位に入賞。２年後の愛媛国体女子で平木亜莉奈（御代田中）が８位入賞した。茨城国体では市村杏（佐久長聖高）が７位に入賞した。

【課題と展望】

冬季のゴルフ場開業期間が短い本県は気象条件に恵まれてはいない。少子化の波も否応なく押し寄せている。有望な選手が進学を機会に県外に流出してしまうケースも多かった。競技を続けるのに費用がかかる、若い親世代に経済的にも時間的にも余裕がないなど、一朝一夕に解決できない課題も多い。

しかし、ゴルフ場関係者、ジュニア指導者、ゴルフ愛好者の熱意は他県に引けを取らない。ジュニアゴル

夏季ジュニア・ゴルフスクール

ファーのプレー費減額、強化費補助など、環境整備を行ってきた。近年では県内にとどまり飛躍を目指す選手や、県外から活躍の場を求めて入学するケースも目立っている。スポーツ少年団や地域のクラブでの地道なジュニア育成事業で頭角を現し、中学・高校年代での成長を経て成年の主力選手となる理想の形がようやく見え始めている。

日本のゴルフ界には今まさに追い風が吹いている。2019年AIG全英女子オープンで渋野日向子が42年ぶり二人目の海外メジャー制覇を果たしたのをはじめ、2021年には松山英樹が４月、世界四大メジャー大会のマスターズ・トーナメントで日本人初優勝。６月には19歳の笹生優花が全米女子オープンで畑岡奈紗とのプレーオフを制して優勝という快挙を達成した。日本人同士の海外メジャー大会プレーオフなど、一昔前には想像すらできないことだった。

2010年前後から活躍し人気を博した石川遼、宮里藍らに刺激され、ジュニアゴルファーが一気に増えた。そうした中から現在国内外で活躍する人材が育ってきた。この流れを一過性のブームに終わらせることなく、大きな夢を抱きながら頑張る若いゴルファーたちを足元から応援する活動に結びつけていきたい。

茨城国体で７位入賞した市村杏（中央）

【役員】

・会長
小坂　健介　平成８年～平成25年
小坂壮太郎　平成25年～現在

・副会長
塩沢　鴻一　平成８年～平成22年
高澤　克治　平成16年～平成22年
田幸　淳男　平成22年～平成24年
宮坂　久臣　平成22年～令和２年
小根山克雄　平成24年～令和４年
平澤　豊満　令和２年～現在

・理事長
藤原　正男　平成８年
加藤邦太郎　平成８年～平成12年
川上　睦水　平成12年～平成14年
加藤　久雄　平成14年～平成25年
井口　恒雄　平成25年～平成28年
柄沢　洋一　平成28年～現在

・事務局長
牛山　　洋　平成８年
細田　欽也　平成８年～平成18年
野澤　信五　平成18年～平成20年
林　　正夫　平成20年～平成24年
吉川　　博　平成24年～現在

長野県合気道連盟

私共「長野県合気道連盟（旧長野県合気道連合会）」は設立が平成７年で、平成９年（1997年）に長野県スポーツ協会への加盟を認可されました。設立当初の状況からご説明したいと思います。

合気道は、合気道開祖植芝盛平翁が幾多の武道と宗教的な研鑽を極め完成した武道であり、昭和30年代後半から日本国内に少しずつ広まっていきました。昭和50年代ころには長野県下各地に合気道団体が生まれ始めていましたが、長野県内の統一組織は存在していませんでした。合気道の大きな特徴の一つは、競技スポーツと違い勝敗を決める試合がないと言うことにあります。これは開祖植芝翁が「真の武道はいたずらに力に頼って他人と強弱を競うものではなく、自己の人格の完成を願っての求道である」と説かれ、試合を行わず、互いに切磋琢磨し技を磨き上げていく道としての武道を完成させたからです。ですが、逆に、いわゆる試合が無いことが、統一組織づくりが遅れた一つの要因になったとも考えられます。

長野県体育協会加盟記念祝賀会（1997年）

しかし、年々合気道人口が増えていくと共に、県内の合気道団体が協同して合気道の素晴らしさを正しく理解してもらい長野県に普及を図ろうとする機運が高まって

いきました。そして、平成７年、松本合気道協会が呼びかけ団体となり、県内の合気道統一団体を作り、長野県体育協会（現スポーツ協会）への加盟活動を始めました。この呼びかけに県内各地の合気道団体10団体が呼応し長野県合気道連合会が発足しました。活動は非常に順調で平成９年には長野県体育協会への加盟が承認されました。

平成９年より、合気会合気道本部道場より講師をお招きし、毎年実技講習会を行うことにしました。平成11年には本会の活動が評価され、合気会の推薦により平成10年度武道優良団体として、日本武道協議会より日本武道館にて表彰を受けました。

日本武道館にて武道功労賞を受賞（1999年）

平成19年、長野県合気道連合会を長野県合気道連盟と名称変更しました。また、発足当初は本会への加盟資格は市町村体育協会加盟団体を基本としていましたが、時代の多様化に対応するために、平成27年に、道場単位でも加盟可能としました。加えて、大学合気道部との連携を密に図るため、大学合気道部は準加盟団体として加盟可能としました。そして、発足時10団体でしたが、令和３年（2021年）現在、21団体となり、長野県全体に加盟団体が広がっています。

現在の主たる活動は、本部道場より講師をお招きして実技講習会を行うことにより個々の技術レベルアップを図ると同時に普段は稽古できない相手と講習会で共に稽古することで親睦と親交を深めています。また県内各地で合気道教室、合気道演武大会などの開催により合気道普及活動を行っています。昨年2020年は新型コロナウイルスの影響で、残念なことにほとんど全ての活動が中止となりましたが、今年は、感染予防対策を十分に行い、徐々にですが通常の活動に戻ってきています。

先にも触れましたように、合気道は勝敗を決する形の

本部道場長植芝守央先生を囲んで（1998年）

講習会記念写真（2000年）

試合体系がありません。しかし、だからからこそ、誰もが学ぶことができる「生涯武道､生涯スポーツ」として、今後さらに注目される武道となると確信しています。老若男女を問わず、稽古を通じて心身両面を鍛える事が出来る合気道を長野県民に広く正しく普及させることを第一目標とし、今後もさらに団体間の絆を深めて連携して活動していきたいと考えております。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

長野県合気道連盟沿革

1995年（平成７）松本合気道協会が呼びかけ団体となり、市町村加盟団体中心に10団体にて長野県合気道連合会が発足する。
会長に萩原清氏が就任する。
理事長に古畑公幸氏が就任する。（現長野県合気道連盟顧問）

1996年　長野県合気道連合会 合気道研修会開催

1997年　長野県体育協会へ加盟 長野県体育協会加盟記念祝賀会開催
第１回実技講習会開催（講師：本部道場 市橋紀彦先生）

1998年（平成10）第２回実技講習会開催（講師：植芝守央本部道場長（現合気道道主））

1999年　第３回実技講習会開催（植芝守央合気道道主）
平成10年度武道優良団体として表彰される。

2000年　第４回実技講習会開催（講師：本部道場 市橋紀彦先生）

2001年　第５回実技講習会開催（講師：本部道場 関昭二先生）

2002年　第６回実技講習会開催（講師：本部道場 関昭二先生）

2003年　第７回実技講習会開催（講師：本部道場 関昭二先生）
理事長に原野隆行氏就任する。（現長野県合気道連盟副会長）

2004年　第８回実技講習会開催（講師：本部道場 菅原繁先生）

2005年　第９回実技講習会開催（講師：本部道場 金澤威先生）

2006年　第10回実技講習会開催（講師：本部道場 大澤勇人先生）

2007年　第11回実技講習会開催（講師：本部道場 横田愛明先生）
長野県合気道連合会から、長野県合気道連盟に名称変更する。

2008年（平成20）第12回実技講習会開催（講師：本部道場 小林幸光先生）
2009年　第13回実技講習会開催（講師：本部道場 菅原繁先生）
理事長に中島久典氏就任する。
2010年　第14回実技講習会開催（講師：本部道場 横田愛明先生）
2011年　第15回実技講習会開催（講師：本部道場 栗林孝典先生）
2012年　創立十五周年記念行事
特別講習会（講師：石垣晴夫技術顧問）と記念祝賀会の開催
2013年　第17回実技講習会開催（講師：本部道場 藤巻宏先生）
2014年　第18回実技講習会開催（講師：本部道場 森智洋宏先生）
2015年　第19回実技講習会開催（講師：本部道場 菅原繁先生）
道場単位、大学合気道部も加盟可能とした。
加盟団体17団体（含む準加盟１）
2016年　第20回実技講習会開催（講師：本部道場 栗林孝典先生）
2017年　第21回実技講習会開催（講師：本部道場 金澤威先生）
2018年（平成30）第22回実技講習会開催（講師：本部道場 栗林孝典先生）
2019年　第23回実技講習会開催（講師：本部道場 藤巻宏先生）
2020年　第24回実技講習会　新型コロナ感染拡大防止のため中止とする
加盟団体21団体（含む準加盟１）となる

創立15周年祝賀会（2012年）

長野県ダンススポーツ連盟

沿革

1993年（Ｈ５年）にアマチュアのダンススポーツ団体として発足し、ダンススポーツの振興と県民の心身の健全な発達ならびに社会貢献に寄与することを目的に活動してきました。上部団体の日本ダンススポーツ連盟（JDSF）に加盟し、国体種目、オリンピック種目採用に向けて、普及活動と選手強化の活動を進めています。

2018年には世界シニアⅣ選手権大会を長野市のホワイトリングで開催し、世界各国からシニアⅣ（60歳、65歳以上）の選手が参加し、大変盛り上がりました。

会員数は'20年現在663名、内選手282名です。

長野県ダンススポーツ連盟の歩み

1993年（Ｈ５年）５月　長野県アマチュアスポーツダンス協会　設立　会長　岡田明義　就任
会員数386名　でスタート
'93年11月　設立記念ダンススポーツ大会開催
1994年（Ｈ６年）～2000年（H12年）
・講習会＆ダンスパーティー４支部開催
・県ダンススポーツ大会　２回/年開催
・指導者養成講習会
・ジュブナイル（小学生）の育成
1998年７月　JADA都道府県対抗長野大会開催

長野県チーム　総合２位
1998年10月　国民文化祭　選手派遣ジュブナイル、ジュニア部門スタンダード優勝
2001年（H13年）～2005年（H17年）
・ダンススポーツ大会　２回/毎年
・講習会、研修会　２回/毎年
'01年３月　長野県体育協会への加盟申請
'01年６月　第10回長野県ダンススポーツ大会（佐久）
新芸能人社交ダンス部を迎えて観客2,500人を超え

る。一般に広まる。

’03年８月　創立10周年記念祝賀「夢の大舞踏会」

’04年６月　県連盟ホームページ開設

’04年９月６日　長野県体育協会　加盟

’05年３月21日　長野県体協加盟記念

「アップルブロッサムボール」開催（松本）

2006年（H18年）～2010年（H22年）

・ダンススポーツ大会　２回/毎年

・講習会、研修会　２回/毎年

’06年10月　全国ねんりんピック（静岡）

上倉＆戸谷組　W・Tともに全国優勝

’07年７月　第21回長野県ダンススポーツ大会

併催　第１回北信越選手権大会（佐久）

’07年11月　会報誌「クローバー通信」創刊発刊

’08年９月　創立15周年記念事業（ホワイトリング）

’09年４月　会長交代　高橋淳　就任

’09年11月　第17回都道府県対抗戦（新潟）

総合４位

第11回東部ブロック選手権 総合５位

’10年７月　第５回オールジャパンジュニア大会

（長野市ホワイトリング）

15都道府県より355名参加

2011年（H23年）～2015年（H27年）

・ダンススポーツ大会　２回/毎年

・講習会、研修会　２回/毎年

’12年７月　第６回北信越選手権大会（富山）

団体　総合優勝

’12年10月　全国ねんりんピック（仙台）団体９位

’12年11月　都道府県対抗戦（岐阜）総合９位

’13年９月　創立20周年式典＆第36回長野県ダンススポーツ大会（ホワイトリング）

’13年11月　都道府県対抗戦　団体　総合３位

’14年10月　全国ねんりんピック（栃木）総合４位

’14年11月　第８回北信越選手権大会　団体優勝

関東甲信越ブロック大会（群馬）

団体　総合４位

’15年11月　関東甲信越ブロック選手権（ホワイトリング）団体　総合４位

2016年（H28年）～2020年（R２年）

・ダンススポーツ大会　２回/毎年

・講習会、研修会　２回/毎年

’16年５月　第10回北信越選手権

団体　総合優勝

’16年11月　関東甲信越ブロック選手権（新潟）

団体　総合４位

’17年４月　会長交代　百瀬芳正　就任

’17年７月　第11回北信越選手権（新潟）

団体　総合３位

’17年７月　シニアⅣ世界選手権プレ大会（ホワイトリング）

’17年11月　関東甲信越ブロック選手権（栃木）

団体　総合７位

’18年７月　シニアⅣ世界選手権（ホワイトリング）

13の国と地域から114組参加

他の区分を含めて延べ458組参加

’18年８月　北信越選手権大会（富山）　総合２位

’18年11月　関東甲信越ブロック選手権（川崎）

団体戦　総合７位

’19年１月　創立25周年式典・2019アワード

支部対抗戦

’19年10月　第13回北信越選手権（新潟）
　団体戦　総合２位
’19年11月　関東甲信越ブロック選手権（東京）
　団体戦　総合４位
’19年11月　都道府県対抗戦（茨城）
　団体戦　総合７位
’19年11月　全国ねんりんピック（和歌山）
　団体戦　総合８位
’20年コロナ禍で全ての大会・行事中止
2021年（Ｒ３年）～
　５月　第49回長野県ダンススポーツ大会（塩尻）
　　コロナ禍で中止

長野県エアロビック連盟

１．エアロビック競技の沿革

エアロビックは、米国で提唱された健康体力づくりプログラム「エアロビクス」を起源として、その後に派生した「エアロビック・ダンス」を運動技術の側面から体系化して、スポーツとして発展させたものです。

２．組織の活動状況

①エアロビックの県選手権大会、競技会、発表会等開催。
②エアロビックの全国大会規模競技会等に対する代表選手の選定と派遣。
③長野県内５団体の市スポーツ協会加盟による、各種の普及活動。市スポーツ協会市民祭・スポーツ教室・総合型地域スポーツクラブへの指導者派遣・支部主催の大会・講習会等の協力・技能検定会開催・スローエアロビック教室開催。

３．競技普及への取り組み

①県大会開催による練習会開催、年２回。
②毎月月末の日曜日にスキルアップ教室開催。
③夏冬の選手のための合宿を開催。
④県連強化選手の指定による選手発掘。
⑤審判員・テクニカルアドバイザー・コーチの養成のための中央研修会参加の支援。

４．指導者の養成及び資質の向上

①指導者養成のための各種練習会･資格更新研修会開催。
②県連による「Ｃ級審判員養成講習会」の開催。
③「公認エアロビック指導員」の養成講習会開催。

５．今後の組織整備及び競技普及

①支部活動を活性化するために、支部単位の競技会や発表会を開催し県連盟挙げて協力と支援を行っていく。
②県連コーチによる強化合宿の開催推進。

長野県エアロビック連盟沿革

平成４年：長野県エアロビック連盟松本協会（以下　県連盟）を設立､初代会長に小林武義氏が就任。「第２回フレッシュライトカップ」を松本総合体育館にて開催（生涯エアロビックの普及を促進する催事）現在29回の開催
平成５年：一般愛好者や指導者を対象に各種講習会開催。
平成７年：財団法人松本体育協会加盟。
　社団法人日本エアロビック連盟に長野県エアロビック連盟設立準備委員会として加盟。
平成８年：８月文部大臣認定公認エアロビックＣ級指導員養成講習会を県連盟が主管で開催。２年ごと開催現在に至る。
平成９年：「第11回全国スポレク祭ぎふ大会」からエアロビックが正式種目に採用され長野県代表の選出派遣を平成23年「第24回スポレクとちぎ大会」までおこなう。
平成18年：全日本エアロビック選手権大会「スズキジャパンカップ長野県大会」の主管や「エアロビックチームチャレンジ長野県大会」を主催し、上位入賞者を｢中部地区大会｣に派遣現在に至る。「エアロビック技能検定会」を開催、年２回開催現在に至る。
平成19年：社団法人日本エアロビック連盟に「長野県エアロビック連盟」として正式加盟、組織改正を行い会長に本郷一彦氏が就任。

平成23年：「スズキワールドカップ2011　第22回世界エアロビック選手権大会」において長野県の中澤彩子選手が女子シングル部門優勝。

平成26年：４月公益財団法人　長野県体育協会加盟。

平成28年：公益社団法人　日本エアロビック連盟本部国会議員連盟発足（平成28年10月設立）。
議員連盟活動内容―競技エアロビックの促進・スローエアロビックの普及促進・学校体育へのエアロビック導入。

平成29年：「全日本エアロビック大会」「スズキジャパンカップ第34回全日本総合エアロビック選手権大会長野県大会」に変わりました。
ブロック協議会の結成「中部エアロビック競技会」参加。（静岡　愛知　富山　石川　三重　岐阜　長野　福井）

平成30年：本部国会議員連盟発足に伴い
顧問就任　衆議院議員　務台俊介氏

令和元年：長野県体育協会―「長野県スポーツ協会」

令和３年：スズキジャパンカップ長野県大会を５月16日（日）コロナ感染対策のため、無観客　開会式　閉会式を中止して行いました。

長野県スポーツチャンバラ協会

昭和46年に田邊哲人先生が「護身道」（現在のスポーツチャンバラ）を創立し、翌々年の昭和48年に全日本護身道連盟が設立され、田邊哲人先生が会長に就任しました。平成23年には公益社団法人として認可を受け、翌平成24年には公益社団法人日本体育協会（現日本スポーツ協会）へ加盟しました。

現在では２年に一度の世界大会が日本にて開催されています。

護身道の中の特に短いものを巧みに使い、身を護るという「小太刀護身道」が全国的に評判を得て、この部門を核として指導・普及し、各地で小大会が開催される様になりました。

長野県では中南信地区を中心に昭和63年に高沢正直元会長が長野県小太刀護身道連盟を設立しました。

そして翌年の平成元年には、長野県で第１回目となる長野県小太刀護身道選手権大会が箕輪町町民体育館にて開催されました。以来、長野県では毎年大会が開催されています。

平成20年には名称を長野県スポーツチャンバラ協会に変更とし、この年は第20回長野県スポーツチャンバラ選手権大会が開催されました。

1993年、平成５年に公益財団法人日本レクリエーション協会に加盟し、レクリエーション協会が開催する様々

なイベントにスポーツチャンバラも力を入れて参加してきました。

平成27年に長野県で開催された第69回全国レクリエーション大会には長野県スポーツチャンバラ協会も参加し、第27回長野県スポーツチャンバラ選手権大会を兼ねたスポーツチャンバラ交流大会が行われました。

2014年（平成26年）交流大会
前列中央：藤森正樹会長

平成29年には、長野県スポーツチャンバラ協会も長野県スポーツ協会へ加盟し現在に至っています。

長野県では箕輪、松本、駒ヶ根の各支部を主な活動拠点として、幼年から成人会員まで男女の隔てなく活発に鍛錬を重ね、明るい人間形成と護身の技を学んでいます。

スポーツチャンバラはエアーで出来た様々な種類の得物を使い、最小限の防具として面のみを着け試合をします。現在は小太刀、長剣（フリー、両手）、二刀、楯小太刀、楯長剣、棒、杖、短刀、楯短刀、短槍、長槍、長巻などがあります。

長槍を使った試合

長野県からも全日本選手権大会、世界選手権大会へ、選手・審判員が参加をし、平成24年の第38回スポーツチャンバラ世界選手権大会の長剣フリーの部では藤森正啓選手が準優勝、平成25年の第39回全日本選手権大会の小太刀５～６級の部では宮崎翼選手が準優勝、平成26年の第40回全日本選手権大会の楯長剣の部では村内泰久選手が３位入賞などの成績を収めています。

選手整列（世界大会にて）

世界大会　長剣フリーの部の試合
右側：藤森正啓選手

今日、スポーツチャンバラは時代の流れを受けながらより良いスポーツ団体を目指し、老若男女を問わず日本国内に留まらず世界中に広がりつつあります。今後も「公平と安全」そして「自由」を基本理念として、規制にとらわれない自由な発想による剣術を広めるよう精進していきます。

長野県スポーツチャンバラ協会

名誉会長	宮下一郎		
会　　長	藤森正樹		
副 会 長	片山英治	大前信夫	
理 事 長	北村　豊		
副理事長	横山幸之助		
常任理事	刈間亘二	村内泰久	北村元貴
	藤森正啓	堀内勝至	
理　　事	松村秀樹	竹澤賢仁	高梨秀隆
	藤森皇広	大澤　剛	齊藤祐哉
	遠藤良兼		
監　　事	松村秀樹	大澤　剛	
事 務 局	山口知佳		

長野県グラウンド・ゴルフ協会

はじめに　　～グラウンド・ゴルフとは～

グラウンド・ゴルフは、ゴルフをヒントにアレンジした生涯スポーツの振興を目的につくられたスポーツです。クラブでボールを打ち、ホールポスト内に静止するまでの打数を数えるゲーム的なスポーツであり、複雑なルールはありませんので初めての人でも大人でも子供でも楽しくプレーすることができます。

グラウンド・ゴルフ発祥の地は鳥取県のほぼ中央に位置する泊村という小さな村です。

昭和57年（1982）に、文部省（現文部科学省）は生涯スポーツ推進事業として高齢者の健康、体力づくりを目標に「高齢者にふさわしい新しいスポーツ開発」を目指して考案されました。グラウンド・ゴルフは、身近にある広場や公園、学校のグラウンドなどで楽しむことが出来、名前の由来のように手軽に楽しめるスポーツとして誕生しました。

１．県グラウンド・ゴルフ協会の発足

昭和62年４月（1987）、県ＧＧ協会設立にむけて日本協会及び県内の協力者として犬飼一雄、武井深両名が発起人となり発足準備が始まりました。

翌年の６月15日、長野県ＧＧ協会が発足し会長に古林恒太郎、副会長に武井深と犬飼一雄（事務局長兼務）、理事長に野口紘の各氏が就任しました。

６月30日には日本グラウンド・ゴルフ協会に登録加盟（全国で９番目の加盟）しました。

平成17年４月に、犬飼一雄が会長就任、副会長に堀内知徳及び百瀬公人、理事長に上条昇一、事務局長に犬飼桂子が就任し新しい体制で活動が始まりました。

２．組織の改革

長きにわたり長野県ＧＧ協会会長としてグラウンド・ゴルフの普及に貢献された犬飼一雄は平成30年６月に会長を退任し、新たに長野市ＧＧ協会顧問の服田高が新会長として就任し組織改革に着手されました。

開かれた協会を目指し、常任理事会におきまして規約の改正、体協加入委員会設置などの活動を開始し平成31年４月１日念願であった長野県スポーツ協会に加入しました。

県ＧＧ協会は、長野県を北信、東信、中信、南信の４ブロックに分け、協会の下部組織と位置づけ、ブロック長（副会長）を配置し大会主管地区の運営責任者としました。

又、事務局を充実させ、スポーツ協会担当者を決めて会計、経理の予算統制管理を充実させるなど実行体制の強化を進めてきました。

令和３年４月には服田高が会長を退任し、理事長の間柄順三郎が新たに会長に就任し現在に至っております。

３．役員　令和３～４年度（１期２年）

当協会の令和３年度は次に示す各氏による執行部体制により活動を開始しました。

会　　長	間柄順三郎
副会長（北信）	富澤　俊雄
副会長（東信）	猪飼　憲二
副会長（中信）	中村　浩之
副会長（南信）	後藤　和彦
理 事 長	松村　博夫
副理事長	松山　博保
事務局長	松本貴代己
会計担当	中村　吉秀

開会式風景

令和元年第29回北信越ブロックＧＧ交歓大会風景

経理兼スポーツ協会担当　　松山　博保
顧　　問　　服田　　高

４．主な大会・開催について

当協会では年間事業計画の日程、開催要領等を会員に周知していますが、想い出に残る主な大会としては、昭和63年７月31日に松本市で開催の第１回長野県グラウンド・ゴルフ交歓大会、同年８月10日に鹿児島県指宿市で開催された第２回全国グラウンド・ゴルフ交歓大会に長野県協会から23名の会員が参加しました。

平成２年５月６日には第３回全国グラウンド・ゴルフ交歓大会が松本市陸上競技場で行われ、北海道から沖縄まで全国から1,100人が参加しましたが長野県会員の参加者は350人でした。

北信越ブロックＧＧ交歓大会

毎年、北信越ブロックＧＧ交歓大会を開催していますがこの大会は福井県、石川県、富山県、新潟県、長野県の５県で輪番開催しており当協会が開催担当した大会は次のとおりです。

第19回：平成21年４月26日
長野市南長野運動公園　757名参加
この年行われました善光寺ご開帳に花を添えた大会となり大成功でした。

第24回：平成26年５月25日
松本市広域公園ターミナルゾーン 496名参加

第29回：令和元年５月26日
長野市運動公園（野球場、陸上競技場、運動広場の３つの会場使用）550名参加

５．ホールインワン基金の設立

当協会では開催する全ての大会を対象に、ホールインワン達成者から１本達成につき100円の基金を募るホールインワン基金を設立しています。募金は福祉団体等に支援しています。

募金額、寄付額の明細は日本ＧＧ協会に所定用紙で報告しています。

６．県グラウンド・ゴルフ会員登録の現況

当ＧＧ協会の会員の年会費は1000円で内500円は日本ＧＧ協会会費とし、どこの大会にも参加できる資格を有することとして会員増強に努めています。

日本協会の会員登録数は令和３年４月時点で144,645人ですが長野県会員は524人全国では北海道、富山県につぎ下から３番目であり退会する会員が増えている現状です。

高齢化・病気などによる会員減少傾向にどの県も同じ悩みを抱えていることと思います。

常設のグラウンド・ゴルフ場設置の期待

北から南、広大な大地の長野県、会場に足を運ぶことが困難な会員が増えてきていることから、高齢者の健康維持の一手として身近な所でいつでも誰とでも気軽にプレーが出来る常設のグラウンド・ゴルフ場があればグラウンド・ゴルフを楽しむ人が人を呼び、会員増につながるものと期待し関係部署に働きかけをしています。

……

人生100年時代と言われる今日、高齢になられても介護や医療とは無縁で社会に貢献できる高齢者が住む長野県となるよう、長野県ＧＧ協会はグラウンド・ゴルフの普及に取り組んでいます。

II　学校体育団体

長野県中学校体育連盟

昭和37年、第１回長野県中学校総合体育大会が長野県教育委員会、長野県市町村教育委員会連絡協議会、長野県中学校長会、そして長野県体育協会の４者主催により開催されました。それから60年、競技種目は９から19に増え、県中体連はその時々の状況により様々な変遷をたどりつつ、今日に至りました。

県体育協会へは昭和45年に中体連としての加盟が承認され、現在は県総合体育大会の共催団体として、中学生のスポーツ活動に対し物心両面において多大なるご支援をいただいております。

以下に、昭和63年以降の中学校体育連盟のあゆみをまとめます。

【昭和63年度】

・中学生の国体参加が始まり、体操１、陸上１、水泳７、フィギュアスケート２の計11名が参加。
・全国中体連が（財）日本中学校体育連盟となる。

【平成元年度】
・県体協主催の「ジュニア競技力向上対策会議」（年３回開催）に高体連と共に参加。
【平成２年度】
・第１回長野県中学校駅伝競走大会を開催。
【平成３年度】
・全国中学校体育大会にて塩田中女子ソフトテニス部が優勝、個人戦でも準優勝を果たす。
・県中体連30周年記念式典開催。
・全中スケート大会が軽井沢町で開催され、軽井沢中が男子総合優勝。
・全中スキー大会が野沢温泉村で開催。女子クロスカントリーのリレーで山ノ内中が優勝。
【平成４年度】
・第13回北信越中学校総合競技大会を開催。
・全中卓球大会を松本市で開催。
・全中大会にて高森中男子テニス部が個人優勝。
【平成５年度】
・全中スケート大会にて茅野北部中が女子総合優勝、個人で外ノ池亜季が長距離２冠を達成。
【平成６年度】
・全中大会にて塩田中女子ソフトテニス部が３年ぶり２度目の優勝。
【平成７年度】
・全中大会にて塩田中女子ソフトテニス部が２連覇を達成。
・全中スケート大会にて川上中の野本繁が大会記録で優勝し、現時点で男女全ての種目の大会記録を長野県が独占する。
【平成８年度】
・裾花中女子バレーボール部が全中初優勝。
【平成９年度】
・第18回北信越中学校総合競技大会を開催。
・全中大会にて女子柔道56kg級で徳久瞳（下諏訪中）が優勝。体操女子種目別平均台で高橋里沙(更北中)が優勝。
【平成10年度】
・全中大会にて陸上男子800mで塚田直也（裾花）が優勝、1500mでも３位に入賞。
【平成11年度】
・水泳、ハンドボール、相撲、スケート・アイスホッケーの全中大会を県内で開催。
・全中大会にて陸上男子800mで上嶋圭（梓川中）、1500mで藤森憲秀（山辺中）が優勝。
【平成12年度】
・平成13年度全中スキー大会実行委員会設立
・全中大会にて福島中相撲部が初優勝。
【平成13年度】
・県中体連40周年記念式典開催
・全中大会にて柔道44kg級で山岸絵美（丘中）、70kg級で清水千晶（旭町中）が優勝
・全中スケート大会において小平奈緒（茅野北部中）が500mと1000mで２冠を達成。
【平成14年度】
・新教育課程の完全実施に伴う学校週５日制による「土日の部活動の在り方」を検討。
・第23回北信越中学校総合競技大会を開催。
【平成15年度】
・県中学校運動部活動『長野モデル』検討委員会に本連盟会長が委員長として参加。
【平成16年度】
・県総体参加料（300円）徴収開始
【平成17年度】
・全中大会にて裾花中女子バレーボール部が２連覇、３度目の優勝。
【平成18年度】
・全中スキー大会を野沢温泉村で開催し、ノルディックコンバインドで渡部善斗（白馬中）が２連覇。
【平成19年度】
・第28回北信越中学校総合競技大会を開催。
・拠点事業による10年連続開催のスタートとなる全中スケート大会を長野市で開催。

【平成20年度】
・サッカー、軟式野球、体操競技の全中大会を県内で開催。
【平成21年度】
・新型インフルエンザの流行により多くの選手が大会出場辞退。
【平成22年度】
・全中大会にて裾花中学校女子バレーボール部が４度目の優勝。
・全中スキー大会で滝沢こずえ（山ノ内中）がクラシカルで３連覇を達成。
【平成23年度】
・県中体連50周年記念式典開催
【平成24年度】
・第33回北信越中学校総合競技大会を開催。
・全中スキー大会において、県勢が史上初のクロス全種目制覇を達成。

【平成25年度】
・県勢が夏季３種目、冬季12種目を制覇。
・「倫理に関するガイドライン」を設け、各競技部において対応。

【平成26年度】
・新人大会参加料（100円）徴収開始

【平成27年度】
・各競技の「指導マニュアル」を作成し、県下全中学校へ配付。
・全中大会にて、裾花中女子バレーボール部が６度目の優勝。
・全国研究大会が長野市で開催。
主題：「豊かな人間性と生きる力を育む運動部活動のあり方を目指して」

【平成28年度】
・陸上競技、剣道の全中大会を県内で開催。

【平成29年度】
・課題検討委員会を設置し、大会の見直し、組織改革、財源確保を検討。
・全中冬季競技にて県勢が12種目で優勝。

【平成30年度】
・グッドコーチング賞を新設。
・郡市大会、地区大会の在り方を検討。

【令和元年度】
・台風19号の被害により、新人大会の長水大会の一部と北信大会が中止となる。
・11年連続となる全中スキー野沢温泉大会がスタート。県勢が大活躍。

【令和２年度】
・新型コロナウイルス感染拡大により、夏季全中、北信越、県総体が開催中止。
・郡市あるいは地区単位での代替大会を開催。
・県総体冬季競技は開催できたものの、冬季全中大会が開催直前に中止が決定。

長野県高等学校体育連盟

⑴　生徒の活躍

昭和63年度以降の生徒の活躍の様子を全国高校総体の優勝数からみると、長野県のお家芸ともいえるスキー・スケートの冬季競技で素晴らしい成果を上げている。

スキー競技学校対抗では、飯山高校男子が統合前の飯山南高校時代も含めて13回の優勝を数える。中でも飯山南高校の平成10年度からの五連覇、飯山高校として平成28年度からの五連覇は特筆すべき結果である。女子でも飯山高校は11回の優勝を数え、平成10年度からと平成16年度から二回の三連覇を成し遂げている。個人では、男子15㎞クラシカルで堀米光男（中野実業）が三連覇、切久保深雪（白馬）はSLで三連覇、GSLでも優勝している。

スケート競技学校対抗では、男子佐久長聖が５回、女子東海大諏訪が２回優勝、個人の優勝は上條有司（岡谷東）３、今井裕介（佐久長聖）４、林　莉輝（佐久長聖）５、女子では吉井小百合（東海大三）３、外ノ池亜希（東海大三）４、清水美映（松本深志）５となっている。

駅伝を含む夏季競技で複数回優勝を果たした選手は、陸上競技：塚原直貴（東海大三）佐藤清治（佐久長聖）高田浩二（松川）瀧澤　彩（長野）、柔道：津金　恵（松商学園）、新体操：猪又涼子（伊那西）、定通柔道：岡村秀輝（中野実業）、団体競技では、駅伝：佐久長聖、バレーボール：松本国際・岡谷工業、ボート競技：岡谷南が二回の優勝を飾っている。

全国総体優勝数（昭和63年度以降）

スキー	121	新体操	4
スケート	75	ボート	4
陸上	19	定通	4
レスリング	6	卓球	3
柔道	5	テニス	2
バレーボール	4	体操	2

ソフトテニス、自転車、アーチェリー、水泳、空手道、ウエイトリフティングは１回

⑵　高体連活動の概要

１）事務局４地区持ち回り制

県高等学校体育連盟は、設立以来40年間は長野市と松本市の高等学校に事務局を置き運営されてきたが、交通網の整備、地区の振興、負担の公平化等を考慮して４地区の持ち回りとすることとなった。

任期を２期４年とし、昭和63年度諏訪二葉高校からこの体制がスタートした。以下は、会長、理事長、事務局校の一覧である。

	会長	理事長	事務局
S63～H２	小林　　仁	両角　千明	諏訪二葉
H３	竹内　長生	小島　　功	
H４ ～H７	藤澤　愛僖	山浦　正孝	上　　田
H８	海沼　清美	布施　紀彦	長　　野
H９～H11	本山　綱規		

２）事務局固定化へ

上田高校に事務局が置かれていた平成６年、常任理事会において事務局固定化が話題となるが継続審議となる。

その後、長野高校に事務局移転後の平成９年から事務局固定化について検討が重ねられた。

長期的展望に立った計画立案や継続的な業務運営といった観点から事務局を固定化し、県教育委員会や県体育協会（現スポーツ協会）に近い方が運営がしやすいということで、長野地区を事務局候補とすることを常任理事会原案とし、各地区高体連で検討を重ねた。

三年にわたる検討を経て、平成11年12月の臨時理事会において、長野高校同窓会館「金鵄会館」に事務局を固定化することが決定された。以下、現在に至るまでの事務局体制である。

	会長	理事長
H12	三沢　輝夫	笠原　浩
H13	青山　　誠	
H14	佐久　信雄	青木　　功
H15		
H16	酒井　陸久	
H17	諏訪　繁範	
H18	小松　茂美	加藤　博
H19		
H20	柏原　康久	小澤　健
H21	小松　茂美	
H22		
H23		鏡味　照明
H24		
H25	矢島富士雄	野口　剛彦
H26		
H27		
H28		武居　正憲
H29		
H30	北村　桂一	
R元		大谷　雅亮
R２	小林　武広	
R３		

３）県大会参加枠拡大

昭和55年に大会開催基準要項改正後10年が経過する中で、幾つかの専門部より県大会出場チーム数を、地区大会の上位４チームを改めて８チームにしたいという要望が出されるようになった。大会規模の拡大にかかわる問題であり、大会は高校教育の一環として行われていることから慎重な検討が重ねられた。平成元年には検討委員会を設置し、予算・日程の問題等を調査検討し、平成２年度の総合体育大会から団体戦のある９種目でチーム枠が増えることとなり現在に至っている。

４）高体連の会計について

本連盟の経費の主なものは１）学校分担金　２）高体連登録料　３）参加料　４）共催負担金である。

令和３年度一般会計の予算収入額は、約7800万であり、その内訳は学校分担金1100万円、登録料1640万円、参加料1520万円、共催負担金1630万円となっており、年度当初の運営資金として約1900万円を繰り越している。

分担金・登録料・参加料の変遷

	分担金	登録料	参加料
S63	200	300	400
H１	300		
H４			600
H８	500		
H11			800
H23		400	
H25			1000
R１		700	

⑶　今後に向けて

高体連登録者数は、昭和63年度32367名だったものが令和元年度には24847名と約7500名の減となっている。生徒数が約37000名減少したことを考えると、減少の割合は低く、全生徒に占める高体連登録者数で見ると約10ポイント上昇している。

地区大会において参加チーム数が15以下となり、予選としての試合をすることなくベスト８に入るトーナメントとなる競技、参加生徒数の減少により地区大会を廃止する競技、審判を含む競技役員の確保が困難となり２地区合同で大会を開催する競技も見られるようになっている。

今後も続く少子化、またそれに伴う学校の統廃合を見据えて、大会の在り方、高体連組織についての検討が今後の課題である。

また、令和２年度には新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、夏季高校総体が史上初の中止となり、その後の大会も多くの制約を受ける中での開催となった。大型化する台風などの災害時の対応なども含めて、危機管理体制を確立し、参加生徒・競技役員の安全を第一とした運営が求められている。

一般財団法人 長野県高等学校野球連盟

１．昭和61年からの選手権長野大会優勝校一覧

※は初戦出場

全国高等学校野球選手権長野大会優勝校			
年	回　数	学校名	選手権
昭和61年	第68回	松商学園	１回戦
昭和62年	第69回	上田	※２回戦
昭和63年	第70回	上田東	※２回戦
平成元年	第71回	丸子実業	１回戦
平成２年	第72回	丸子実業	１回戦
平成３年	第73回	松商学園	ベスト８
平成４年	第74回	松商学園	１回戦
平成５年	第75回	松商学園	１回戦
平成６年	第76回	佐久	ベスト４
平成７年	第77回	佐久長聖	２回戦
平成８年	第78回	東海大三	１回戦
平成９年	第79回	松商学園	１回戦
平成10年	第80回	佐久長聖	１回戦
平成11年	第81回	松商学園	※２回戦
平成12年	第82回	松商学園	ベスト16
平成13年	第83回	塚原青雲	ベスト16
平成14年	第84回	佐久長聖	ベスト16
平成15年	第85回	長野工業	※２回戦
平成16年	第86回	塚原青雲	１回戦
平成17年	第87回	松商学園	１回戦
平成18年	第88回	松代	２回戦
平成19年	第89回	松商学園	１回戦
平成20年	第90回	松商学園	１回戦
平成21年	第91回	長野日大	ベスト16
平成22年	第92回	松本工業	１回戦
平成23年	第93回	都市大塩尻	※２回戦
平成24年	第94回	佐久長聖	１回戦
平成25年	第95回	上田西	１回戦
平成26年	第96回	佐久長聖	２回戦
平成27年	第97回	上田西	２回戦
平成28年	第98回	佐久長聖	１回戦
平成29年	第99回	松商学園	２回戦
平成30年	第100回	佐久長聖	２回戦
令和元年	第101回	飯山	１回戦
令和２年	第102回	佐久長聖	独自大会
令和３年	第103回	松商学園	ベスト16

２．その他大会と出来事

昭和60年
- 松商学園、第73回北信越地区高等学校野球大会優勝
  第16回明治神宮野球大会優勝

昭和61年
- 松商学園、第58回選抜高等学校野球大会２回戦敗退
- 長野県高等学校野球大会記念史Ⅲ刊行
- 野沢南、明科が加盟して92校となる

昭和62年
- 阿南、岡谷東、諏訪二葉が加盟して95校となる
- 軟式部会　上田高校加盟　阿南高校脱退

昭和63年
- ベンチ入り選手18名となる

平成元年
- 長野県で20年ぶり日米親善高校野球（対長野県選抜チーム）県営長野球場でおこなう
- 飯田風越が加盟して96校となる

平成２年
- 松商学園、第83回北信越地区高等学校野球大会優勝

平成３年
- 松商学園、第63回選抜高等学校野球大会準優勝
- 松商学園、第46回国民体育大会高校野球優勝
- 秋季北信越県大会出場校が16校になる

平成５年
- 選手権長野大会４回戦まで県内４地区で同時開催
- 第75回選手権大会開会式全校参加

平成７年
- 県選抜チーム台湾遠征

平成８年
- 蘇南（軟式より）、松本第一（再加入）の２校が加盟し98の加盟校となる
- 佐久長聖、第95回秋季北信越地区高等学校野球大会優勝
- 軟式選手権地区大会の地区割りが北信越大会に変更になる（長野・新潟・富山・福井の４県となる）

平成９年
- 佐久長聖、第69回選抜高等学校野球大会出場
- 長野県高等学校野球大会記念史Ⅳ刊行

平成10年
- 第80回全国高等学校野球選手権長野大会のシードを春季北信越県大会の上位８校とした（２次抽選廃止）

平成11年
- 東海大三、第71回選抜高等学校野球大会出場
- 第100回春季北信越地区高等学校野球記念長野大会各地区６校計24校で開催、予選で復活決定戦を実施

平成12年
- 長野商業、第72回選抜高等学校野球大会２回戦敗退
- 点差によるコールド（５回10点、７回７点）適用
- 日米親善試合が長野オリンピックスタジアムで開催

平成15年
- 第85回全国高等学校野球選手権記念長野大会
  大会歌の独唱を実施

平成16年
- 第86回全国高等学校野球選手権長野大会
  準々決勝を１球場２日間で実施

平成17年
- 地球環境が加盟し硬式加盟校数99校となる
- 上田西が加盟し軟式加盟校10校となる

・日米親善試合が松本市野球場にて開催
平成19年
・創造学園、第79回選抜高等学校野球大会出場
・選手権大会が96校参加で開催
・長野県高等学校野球大会記念史Ｖ刊行
・長野日大、第117回秋季北信越地区高等学校野球大会優勝
平成20年
・長野日大、第80回選抜高等学校野球大会ベスト８
・丸子修学館、第80回選抜高等学校野球大会出場
平成21年
・秋季北信越地区予選会前に各地区で予備戦実施
平成23年
・４月26日をもって一般財団法人　長野県高等学校野球連盟として新たに発足
平成24年
・地球環境、第84回選抜高等学校野球大会出場
・秋季北信越県大会から各地区６校24校で開催
平成26年
・東海大三、第86回選抜高等学校野球大会出場
平成27年
・松商学園、第87回選抜高等学校野球大会出場
・第60回全国軟式選手権、上田西ベスト４　国体出場
平成28年
・日本ウェルネス信州筑北キャンパス加盟
平成29年
・長野県高等学校野球大会記念史Ⅵ刊行
平成30年
・佐久長聖、第100回全国高等学校野球選手権記念大会１回戦甲子園史上初のタイブレークを制す
令和２年
・コロナウィルス感染症拡大に伴い142回春季北信越大会すべてが中止となる
令和３年
・上田西、第93回選抜高等学校野球大会出場
・１年ぶりに春季大会から入場料値上げで大会開催

Ⅲ　郡市体育団体

南佐久郡体育協会

１　発足までの経過

大正初期、郡青年団組織結成に伴い体育事業が開始され、大正６年に第１回南佐久郡青年団体育大会が開催された。昭和４年臼田野球協会が創立され、翌５年４月27日に第１回南北佐久野球大会が行われた。

昭和22年４月１日、旧23ヵ町村で構成する南佐久郡体育協会が発足した。同じ年、田口体育協会が、翌23年には青沼・臼田体育協会が発足している。

昭和23年４月１日には、長野県体育協会に加盟することになった。昭和36年４月１日に、佐久市旧野沢、中込の脱退（佐久市へ合併）により３町５村からなる組織となった。その後合併等を経て、２町４村体制となっている。

２　創立当時（昭和20年代）

太平洋戦争が日本の敗戦という結果で終わった昭和20年代初期は、人心が定まらない世相の中で、スポーツによる刷新をはかろうと、南佐久郡体育協会を前記のとおり発足させ、各種の競技大会を開催した。その先駆として、昭和23年９月４日には、戦時中中止となっていた南北佐久野球大会が、第３回大会として行われた。９月19日には、臼田小校庭で第１回南佐久郡陸上競技大会が開催され、優勝は川上村であった。10月16日には第１回排球・卓球大会も行われた。昭和25年10月10日には第１回南佐久郡駅伝大会が開催された。

このような中で、陸上競技の石井賢治（臼田高校―慶応大）が5,000、10,000ｍで県記録を作った（昭和26年）。また、石井は昭和27年１月３日からのサンシルベスト国際競技大会（ブラジル）に出場するなど国際的な選手となった。

昭和26年11月15、16日と行われた第１回県下縦断駅伝大会では、南佐久チームがチームワーク良く第２位となった。昭和27年には第１回南佐久郡バドミントン大会を開催し、郡内のスポーツ活動が大きく飛躍し、地域住民のスポーツへの関心の高まりが、生活の向上へとつながったのである。

３　その後のあゆみ

当地域の特性を生かしたスケートは、古くから地域の町村で協議会がもたれており、高校でも昭和20年代から松原湖での中央の大学生の合宿、協議会に刺激されてクラブ活動も活発になり、高見沢初江（南佐久実高＝現小海高、30年１月全日本スピードスケート選手権優勝、33年世界スピード選手権８位、35、39年冬季オリンピック

入賞)、鷹野靖子（南佐久実出　40年、41年世界スピード選手権出場)、有賀秋子（南佐久実出　42年世界スピード選手権出場)、内藤修（臼田　45年世界スピード選手権出場）等国際的選手が選出した。

昭和37年５月には、第１回南佐久郡弓道大会を、昭和38年には第１回南佐久郡バレーボール大会を開催した。また、44年には南佐久郡陸上競技大会（臼田町優勝）が第20回記念の大会を佐久中学校庭で開催するにいたり、54年には第30回記念大会（臼田町優勝）が行われ、住民に定着した大会になった。同じように、46年11月３日に第20回を数えた南佐久郡駅伝大会（小海町優勝）も息の長い大会であった。

同年７月第１回南佐久郡軟式野球選手権大会（佐久町優勝）が開催され、48年には第１回南佐久郡ママさんバレーボール大会が始まって、スポーツ熱はますます高まったのである。この年10月、松本市で開催された第１回の長野県民運動競技大会では､佐久ブロックが優勝し、平素の成果をあげたのである。

50年11月には､体育スポーツの発展に努力したとして、臼田町体育協会が優良体育団体として、文部大臣表彰を受賞した。

52年10月第１回南佐久ソフトボール大会（臼田ソフトボールクラブ優勝）を開催し、54年９月には、第１回南佐久郡少年野球大会（臼田町竜岡クラブ優勝)、11月には第１回南佐久郡ゲートボール大会（小海町優勝）が開催され、現在は傘下の町村、老若男女皆スポーツに親しみエンジョイする姿がみられるのである。前記大会は、現在ではいずれも40回を超える、地域に定着した大会となっている。

４　課題と展望

本郡体育協会の運営は、現況で問題点を抱えている。組織構成、予算財政面、指導者、リーダー不足が悩みである。

今後の展望の中で、組織の見直し、特に町村単位体育協会の育成と強化、各種競技団体への自主的活動の推進と強化を行うことが必要である。

また、昨今は新型コロナウイルス感染症対策として、各種活動、大会を見送った経過もある。コロナ禍により活動に制限がかかる中、郡体育協会内の各種所属団体においては、郡体育協会の目的である体位向上と健全な社会体育の振興、社会文化の向上のために日々苦慮されている｡なかなかコロナ禍の終息が見えない中ではあるが、指導者等の養成と育成を単位町村体育協会及び競技団体において充実強化をはかり、地域における健康づくり、そしてスポーツ活動を通した、青少年健全育成の推進を併せて行っていきたい。

北佐久郡スポーツ協会

北佐久郡は、北に浅間山、南に立科山があり小諸市と佐久市によって東西に二分された郡である。発足当時の資料が全くなく記述できないが、発足は昭和24年と言われている。東に軽井沢町、御代田町、西には立科町、望月町、浅科村、北御牧村の６カ町村で構成されていたが、平成16年４月１日には北御牧村が東部町と合併（現東御市)、平成17年４月１日には、望月町、浅科村が佐久市へ合併により、解散となった。平成19年から軽井沢町、御代田町、立科町の３町で新たに長野県体育協会に加盟し、現在に至っている。

現在の活動状況

主な活動は、目的をともにする各町（軽井沢町、御代田町､立科町）の協会にてそれぞれ活発に推進している。

会長

直井　幸男（北御牧村）	昭和35年～42年７月
成沢　保雄（望月町）	昭和42年８月～53年
柳澤　　薫（御代田町）	昭和54年～58年
佐藤　好一（軽井沢町）	昭和59年
新井　芳次（軽井沢町）	昭和60年
佐々木光雄（北御牧村）	昭和61年～62年
小林　　勇（望月町）	昭和63年～平成元年
工藤　周一（浅科村）	平成２年～３年
中島　正恵（立科町）	平成４年～５年
柳澤　敏一（御代田町）	平成６年～７年
細江　幸俊（軽井沢町）	平成８年～９年
中村　　元（北御牧村）	平成10年～11年
土屋東一郎（望月町）	平成12年～13年
町田　幹昌（浅科村）	平成14年
丸山　俊雄（浅科村）	平成15年
宮下　健一（立科町）	平成16年～17年
高山　昌雄（御代田町）	平成19年～23年
尾台　栄一（御代田町）	平成24年～令和元年
荻原　謙一（御代田町）	令和２年～

小県郡体育協会

１．発足までの経過

昭和35年４月１日、４年後の東京オリンピック開催にあたり、地域の体育振興、奨励、住民体位の向上、競技技術の向上ならびにアマチュアスポーツ精神の高揚をはかるため､町村および町村公民館が主体となり設立した。

２．現在の活動状況

平成17年度に旧丸子町、旧東部町、旧真田町、旧武石村が上田市と合併したことにより、小県郡体育協会に所属する町村は、青木村と長和町（平成17年度に旧長門町と旧和田村が合併）の２町村となった。それ以降については、小県郡体育協会としての活動はなく、青木村体育協会と長和町体育協会のそれぞれで活動を行っている。

３．長和町体育協会における現在の活動状況

平成17年度の旧長門町と旧和田村の合併により長和町体育協会として活動を開始した。平成17年度より現在まで当協会の会長は、バレーボール協会の両角晃一氏が務めている。現在は、14団体、会員数389名（令和２年度時点）の方が当協会に所属している。所属団体名・活動内容については下記のとおりである。

団体名	活動内容
長門町 バレーボール協会	現在活動休止中。
長和町 ゲートボール協会	古町･長久保･大門･和田の４支部に分かれて活動。４支部交流大会を開催。
長和町 ソフトテニスクラブ	毎週木曜日に活動。朝日新聞杯に参加。依田窪南部中学校の生徒と合同練習を実施。
長門スキークラブ	年に数回定例会･総会を開催。当町のジュニアスキー教室及び小学校スキー教室に指導者として参加。
長和町 ソフトボールクラブ	毎週水曜日と日曜日に活動。全日本一般ソフトボール大会長野県大会等の大会に参加。
ソフトバレーボール連盟	現在、活動休止中。
長和町ビーチボールバレークラブ	毎週水曜日に活動。
長和町グラウンドゴルフ愛好会	毎週水曜日に活動。夏と秋に大会を開催。
ロングゲート （バドミントン）	毎週金曜日に活動。
和田スキークラブ	現在、活動休止中。
長和町マレットゴルフクラブ	４月～ 11月にかけて長和マレットゴルフ協会春季大会等年間を各種大会に参加。
和田愛球会 （マレットゴルフ）	月に１回定例会を開催。交流試合に参加。
長和町ゴルフクラブ	東信地区地区対抗ゴルフ大会等の大会に参加。
太極拳	毎週火曜日に活動。諏訪市で開催される交流演武会に参加。日々の練習の成果を当町の文化祭において発表している。

４．青木村体育協会における現在の活動状況

青木村では現在、スポーツ（体育）協会として独自の活動は行っておらず、スポーツ推進委員会の活動の一部として活動を行っている。

スポーツ推進委員会の委員数は、令和元年：10名、令和２年：10名、令和３年：11名となっている。

活動内容は、村内外におけるスポーツイベント等のスタッフ・インストラクターとしての活動が主である。

５．主な活動イベント

スポーツ推進委員としての活動イベントは以下のとおり。

○義民の里を走ろうマラソン大会（４月上旬実施）
○春季ニュースポーツ祭（４月下旬実施）
○青木村プールまつり（７月下旬実施）
○村民体育祭（10月上旬実施）
○秋季ニュースポーツ祭（10月中旬実施）
○スキー・スノーボード教室（１月中旬実施）
○スポーツレクリエーション祭（上田地域広域連合、スポーツレクリエーション祭実行委員会の主催で、年４回実施）

近年は新型コロナウイルスの感染が拡大している影響もあり、実施できていないイベントが多く、例年通りの活動が出来ていないというのが現状であるが、村内外問わず､開催されたイベントでは精力的にイベントの準備･補助等を行っている。また各イベントを通して、推進委員同士の繋がりも深められている。

６．組織形成と役員

⑴　組織形成

青木村スポーツ推進委員会は基本的には10名（場合によっては人数が増減する可能性もあり）で構成され、村内に住む方々に対して募集・依頼を行い、年度初めに委嘱をする。

任期は２年としている。

⑵　近年の役員

○会長

西澤　　明（平成21年～26年）

清水　正夫（平成27年～現在）

○副会長

清水　正夫（平成21年～26年）

北村　尚久（平成27年～現在）

７．今後の課題

今後の課題の１つとして挙げられるのは、若い世代の委員数増加への促進・スムーズな世代交代である。委員の平均年齢が高まりつつある中で、比較的若い年齢層の方々の委員数を増やしていくことが、スムーズな世代交代を進めていくために大変重要になってくる。

諏訪郡スポーツ協会

● 沿革とあゆみ

諏訪郡スポーツ協会は、下諏訪町・富士見町・原村の諏訪郡３町村スポーツ協会が構成している団体である。

昭和46年の長野国体招致の動きの中、長野県体育協会が行った、県内の未組織・未加入郡市体育団体の解消の呼びかけに応じる形で、下諏訪町を中心として、富士見町、原村の２町１村で諏訪郡体育協会創立準備会が発足し、昭和49年３月には下諏訪町体育協会が県体協加入を目的に準備会を開催、この結果を受けて、５月30日に下諏訪町、富士見町、原村の体育協会役員が集合し、規約の制定ほか創立に必要な事項を審議し、「諏訪郡体育協会」が創立された。

諏訪郡体育協会は２年ごとに構成３町村で会長を持ち回り、年２回以上の会議を行うこととし、毎年春と秋の２回に開催している。

毎年の会議においては、長野県スポーツ（体育）協会によるスポーツ振興事業補助金や、長野県スポーツ振興功績者表彰等についてのほか、諏訪郡は下諏訪町と富士見町、原村が地理的に分離しているため、協会主催事業を開催する上で不便があることから、自主事業開催に代わり、各スポーツ協会が抱える課題などを持ち寄り、協議を行った結果を構成３町村スポーツ協会にフィードバックして、それぞれの活動の発展に寄与している。

その後、組織の強化や法人格取得を目的に、平成15年には下諏訪町体育協会と富士見町体育協会がそれぞれ特定非営利活動法人化した。

平成23年に、昭和36年に制定された「スポーツ振興法」が約50年ぶりに全部改正されて「スポーツ基本法」が制定されたことにより、各体育協会の名称を「スポーツ協会」に改称する動きが広まり、下諏訪町体育協会は平成30年７月に名称を「下諏訪町スポーツ協会」に、原村体育協会は令和元年５月に名称を「原村スポーツ協会」にそれぞれ改称した。また、富士見町スポーツ協会は令和元年７月に名称を「富士見町スポーツ協会」に改称することが決定された。

構成３町村体育協会の名称がすべて「スポーツ協会」に改称されることが決まった後、令和元年６月の諏訪郡体育協会総会において、名称を「諏訪郡スポーツ協会」に改称することが決定され、以後、諏訪郡スポーツ協会の名称で活動を継続している。

●構成団体の活動紹介

・下諏訪町スポーツ協会

毎年10月の体育の日に合わせて、町とともに「町民スポーツ祭」を開催している。写真は、平成30年の下諏訪町町制施行125周年に合わせた記念行事として、元オリンピック選手の高橋千恵美さんを招き、ランニング教室を開催した際の様子。

・富士見町スポーツ協会

平成16年に第１回大会が開催された「富士見高原全国八ヶ岳クロスカントリー大会」を共催している。一般から小学生の部に加え、ファミリーの部も用意されており、富士見高原の林間コースを駆け抜ける。

・原村スポーツ協会

毎年８月に原村スポーツ協会主催の「穂屋祭体育大会」を開催している。写真は、令和元年８月大会のバスケットボール競技の様子。

●歴代会長（昭和62年以降）

細川　三夫	（富士見）	昭和62年４月～平成元年３月
五味　勇吉	（　原　）	平成元年４月～平成３年３月
橋詰　義一	（下諏訪）	平成３年４月～平成５年３月
細川　三夫	（富士見）	平成５年４月～平成７年３月
由沢　文夫	（　原　）	平成７年４月～平成９年３月
小林　悦雄	（下諏訪）	平成９年４月～平成11年３月
葛城　嘉光	（富士見）	平成11年４月～平成13年３月
秋山　長雄	（　原　）	平成13年４月～平成15年３月
石澤　正憲	（下諏訪）	平成15年４月～平成17年３月
葛城　嘉光	（富士見）	平成17年４月～平成19年３月
日達　徳吉	（　原　）	平成19年４月～平成21年３月
大野　栄作	（下諏訪）	平成21年４月～平成23年３月
河西元太郎	（富士見）	平成23年４月～平成25年３月
日達　徳吉	（　原　）	平成25年４月～平成26年３月
小林　公賢	（　原　）	平成26年４月～平成27年３月
髙木　常吉	（下諏訪）	平成27年４月～平成29年３月
森山　高志	（富士見）	平成29年４月～平成31年３月
百瀬　嘉徳	（　原　）	平成31年４月～令和３年３月

上伊那郡体育協会

１　上伊那郡体育協会の沿革

上伊那郡は西の中央アルプス、東の南アルプスに挟まれ、天竜川が中央を流れる伊那盆地に位置している。

昭和59年４月に高遠町，辰野町，箕輪町，飯島町，南箕輪村，中川村，宮田村，長谷村の８町村で構成された上伊那郡体育協会は平成18年３月31日に高遠町と長谷村が伊那市と合併したことに伴い、現在は６町村で構成されている。

会長、副会長は町村長が勤め、事務局は会長の属する町村が行っている。任期は１年。

○会長

白鳥政徳（箕輪町）	平成27年４月～平成28年３月
下平洋一（飯島町）	平成28年４月～平成29年３月
唐木一直（南箕輪村）	平成29年４月～平成30年３月
宮下健彦（中川村）	平成30年４月～平成31年３月
小田切康彦（宮田村）	平成31年４月～令和２年３月
武居保男（辰野町）	令和２年４月～令和３年３月
白鳥政徳（箕輪町）	令和３年４月～現在

現在、上伊那郡体育協会による事業は行われていない現状である。各種大会や競技振興は伊那市、駒ヶ根市を加えた上伊那地域の各競技団体か中心となり、ソフトボール・卓球・バレーボール・ソフトテニス・陸上競技・スキー等幅広い種目が活動している。上伊那地域のスポーツ振興などを目的とした、上伊那スポーツ振興協議会（上伊那地域８市町村、総合型地域スポーツクラブ等で構成）が組織され、市町村スポーツ推進委員が運営する「ニコニコブース」、総合型地域スポーツクラブが運営する「キラキラブース」、競技団体が運営する「バリバリブース」を上伊那スポーツフェスティバルとして開

催するなど、地域での活動が行われている状況である。

構成町村においては、各町村でスポーツ推進委員と共に、

辰野町では、荒神山スポーツ公園やたつの未来館アラパを中心に各種スポーツイベント・大会等の開催している。

箕輪町では、天竜川が作り出した河岸段丘の高台から見下ろす夜景を楽しむ田舎では珍しいナイトウォークイベント等を開催している。

飯島町では、ニュースポーツ普及を推進しており、囲碁ボール大会を毎年開催し、年齢を問わず多くの参加者があり盛り上がりをみせている。

南箕輪村では、NPO法人南箕輪わくわくクラブを中心とし、スポーツや文化に親しみながら地域づくりをしている。

宮田村は隔年開催の村民運動会を開催しており、毎回1,000人以上が参加する一大イベントとなっており、住民がスポーツを通じ交流している。

中川村では、毎年お盆休み近くに「中川村バレー祭」を開催し、地区・世代を超えた交流・親睦を深める絶好の機会となっている。公民館体育部が運営し､40チーム、800人以上が参加し、令和４年度には第30回を迎える。

等、スポーツ振興に取り組んでいる。

南箕輪村ではＶリーグ（バレーボール）ＶＣ長野トライデンツの本拠地として、また、プロ野球独立リーグベースボールチャレンンジリーグ信濃グランセローズのキャンプ地として、箕輪町はＪリーグ（サッカー）松本山雅ＦＣのホームタウンとしてプロスポーツとのかかわりも深い。

令和10年度に予定されている第82回国民スポーツ大会においては、辰野町でクレー射撃競技、箕輪町でフェンシング競技、飯島町でホッケー競技開催に向け、準備を行っている状況である。

下伊那郡体育協会

下伊那郡体育協会は令和元年度（2019年度）に40周年を迎えました。本会のあゆみを、各周年記念誌をもとにふり返りました。

〔昭和55年（1981年）設立〕

１　設立までの経過

設立以前、飯伊地区における住民の体育・スポーツ活動は、飯田市体育協会（現：飯田市スポーツ協会）が30余年にわたって活動をリードしてきた。各競技団体の活動についても、飯田市と下伊那郡が一つになって「飯伊陸上競技協会」のように、“飯伊地区”で組織し活動する団体が多くあった。

そうした状況下、当時の長野県体育協会からは、郡市においてそれぞれに体育協会組織をつくるよう要請があり、下伊那郡体育協会設立に向けた協議会が開催され、様々な障壁を乗り越え努力の末、設立の運びとなった。

〔設立までの概略〕

・昭和50年４月１日
　飯伊地区体育協会等連絡協議会設立
・昭和55年１月22日
　下伊那郡町村会長へ下伊那郡体育協会設立について陳情
・昭和55年７月４日
　下伊那郡体育協会設立総会を開催
・昭和55年12月26日
　長野県体育協会に加盟承認される

２　設立当時の様子

昭和53年（1978年）のやまびこ国体が終わって社会体育が急速に発展していく中、下伊那郡体育協会は設立された。当時、体育協会が未設置の町村は９村あったが、公民館の体育部組織での加入を認め、郡下19町村が一応まとまった形で体育協会はスタートした。

組織づくりや財政基盤の面では、町村会の指導援助を願い諸行事の遂行にあたった。設立当初は、公民館活動の体育部事業と体育協会事業が重複するなどして運営上の問題が起きた。また、競技団体については既にあった“飯伊地区”で組織する団体も残っていたことで、競技者は双方の体育協会に加入して活動する等の混乱も起こった。しかし、そうした諸問題も月日が経過するにつれて各町村の理解も深まり、徐々に下伊那郡体育協会として独自の活動が可能な組織となっていった。

３　10周年記念誌より〔平成元（1989）年度〕
「郡体協　設立までの経緯を振り返って」

鈴木　将敏　初代理事長

郡体協の設立には非常に強い抵抗があり、厳しい歩みであったように感じております。

昭和53年後半より54年度には設立委員会が幾度となく開かれるも結論が出ず、暗礁に乗り上げた事もありました。

当時21町村がバラバラで、作業は難航し、「何も郡体協をつくらなくても」と消極的町村が数多く、公民館体育部が肩代わりするのが殆どでした。それに財源もなく役員会及び会議も旅費の支給すら不可能なことが多くてすべて自費で、大会も会場開催地の地元負担が多く、正式な下部組織のある町村は９町村でスタートしたと記憶しています。事務局共々に役員が毎年市町村を訪問し、粘り強い説得運動を展開し、強力に体協作りを請願し説得に努めました。

10周年記念誌発刊に当たり、郡下関係者の皆様の理解に感謝し発展した事に心から御礼を申し上げる次第であります。（一部抜粋）

第１回全国健康福祉祭に県代表として出場の
「豊丘シルバー」チーム（ねんりんピック88兵庫大会）

４　20周年記念誌より〔平成11（1999）年度〕
「創立20周年にあたって」

松島　貞治　会長（当時）

私もスポーツというか武道というのか「弓道」に長く取り組んでおります。初段に合格したのが昭和51年ですから、すでに20周年を経過しております。動きの少ないスポーツで、はたから見ていると何が面白いんだろうと感じることと思いますが、あの動かぬ的に動かされる私自身の心の弱さを何とかできないものか。また、弓道という競技、引き分けはありません。相手より一本多く当てなければ勝てません、逆にいえば、外さなければ負けません。心の弱さが克服できず、一本足りずに何回も涙をのみました。しかし、たまにうまくいった時の味が忘れられず、つい20年以上経ってしまいました。いまでも時間をみつけて的に向かいますが、なぜ忙しい仕事の合間をぬってスポーツをやるのか。私の弓の先生は、「仕事以外の実益もない、一見無駄に見える、たかが弓道に時間をかける、つまり仕事以外の世界をもつことが人間の幅を広くする」という表現をされました。

あえて無駄な時間という表現をしましたが、本当はこの時間こそが「考える」「創造する」といった人間にしか与えられていない能力を発揮できるのであり、人間として生きる証の時間だと思えるようになりました。（一部抜粋）

５　30周年記念誌より〔平成21（2009）年度〕
「30年のあゆみ」

塩沢　清治　理事長（当時）

かつては、人生において「スポーツをする」時期というのは、ごく限られた年代の時期にしか行われないもののように捉えられていましたが、実際にはそうでないように思います。

例えば、乳児期においてはハイハイをすることや家族との触れ合いという行為そのものが全身を使います。そのこと自体をスポーツとは呼びませんが、体を動かす「運動」という意味ではスポーツに関わっていると言うことができます。また、10歳未満ぐらいでは、友達との触れ合いなども増し、楽しみながら知らず知らずのうちに身体を動かし、また、地域の野球クラブやサッカークラブなどに所属する子どもも出始め、自らの意志でスポーツを始めます。

個人によってスポーツをする目的は様々です。ライフステージに応じたスポーツへの取り組み方があるとともに、これまでスポーツを行っていなかった人々にとっても「スポーツとの出会い」は、どの年代にもあると思います。今の時代、スポーツには、運動能力の高い人たちだけでなく、様々な目的のもとで、子どもからお年寄りまで、多くの人々が関われるようになりました。

この下伊那郡体育協会は、飯田市体育協会と協力して、この飯田下伊那地域の生涯スポーツ振興をさらに推し進めていって欲しいと考えます。（一部抜粋）

６　40周年記念誌より〔令和元（2019）年度〕
「挨拶」

市瀬　直史　会長（当時）（現：喬木村長）

下伊那郡体育協会は、長野県でやまびこ国体が開催された２年後の昭和55年に設立されました。やまびこ国体では、長野県選手団の大活躍もあり、長野県全体のスポーツ振興に対する機運が高まりました。飯田下伊那では、飯田市総合運動場にてラグビー競技が開催され、郡市一体となって大会を盛り上げました。その後も、長野県各地で健康体力づくりへの関心が高まり、生涯スポーツが急速に発展してきました。

先のラグビーワールドカップでも証明されましたが、スポーツは、する者、観る者、それを支える者に勇気と感動をもたらし社会全体を明るく活気づけてくれます。健康の保持増進はもちろん人生を豊かで実りあるものにする力があります。そうした意味でも、当協会が今後果たすべき役割の大きさを強く感じる次第であります。(一部抜粋)

木曽郡体育協会

木曽郡体育協会では、郡民の健全な発展と明るく豊かな郡民生活をおくることを目的に、木曽郡内19競技の加盟団体と６町村体育協会にて構成し体育・スポーツ活動の推進をはかっています。

特徴的な活動のひとつに、木曽郡総合体育大会があります。この大会は令和３年現在で69回目を数え、19種目の競技団体が主管となり開催し、子どもから大人まで多くの年齢層の皆さんがそれぞれの競技に参加をしています。

かつてこの大会は「町村対抗」の名称にて運営され、各競技種目に得点を付け、その年々の町村の順位を競って行われていましたが、郡内の人口減少を踏まえ、近年では、近隣町村の合同チームでの参加や企業としてのチーム参加などスポーツ活動の継続のために様々な工夫を凝らして大会を運営しています。

そのような木曽郡内のスポーツ活動をより充実させていくために適時、理事会等を開催し、各部や各町村での活動状況や諸課題を討議したり、さらには、救急法や指導法の研修会も行い、安全かつ楽しいスポーツ活動を推進すべく取り組んでいます。

木曽郡総合体育大会での選手宣誓

さらには平成４年度からの学校週２日制の導入により、児童生徒のスポーツ活動の機会も増えていき、木曽郡内各町村の体育協会にスポーツ少年団が発足し、次世代を担う青少年へのスポーツ指導も盛んに行われることと同時に、子どもたちにどのようにスポーツを指導していくか、その指導方法についても本会理事会等で盛んに議論されました。

(沿革／あゆみ)

■昭和63年～平成10年頃

全国的な生涯学習社会の波及により、木曽郡内においても公民館を主体に講座やサークル活動が活発になり、かつて行われていた競技スポーツとあわせ、地域の住民どうしが楽しく触れあうレクリエーション的なスポーツ活動も盛んになっていきました。

こうしたスポーツ活動のニーズに併せ、木曽郡内町営各地に屋内プールが建設されるなど、スポーツ施設の充実化が図られた時期でもありました。

■平成11年～平成20年頃

木曽郡内におけるスポーツ活動の活性化に伴い、スポーツ予算の増額を求める要望も多くなってきました。そうした中、平成11年の木曽広域連合発足に伴い、木曽地域全体のスポーツ振興を図るべく、財政的支援により、今まで以上に安定した組織運営とスポーツ活動の活性化を図ることができ、町村対抗大会等多くの郡民の皆さんの参加をいただきました。

そうした中、平成17年の「平成の大合併」に伴い、か

つての木曽郡11町村が６町村に統合となり、木曽郡体育協会の組織体制も大きく変わることとなりました。また、従来行われていた「町村対抗大会」も「総合体育大会」の名称に変わったのもこの時期ですが、木曽郡でスポーツ活動の推進は継続され、競技趣向スポーツや親睦交流を兼ねたスポーツへ、さらには、健康を考慮したスポーツ活動へと幅が広まっていきました。

■平成21年～平成25年頃

平成20年からの10年間は、長野県内にスポーツに関するあらゆる振興計画が策定され、木曽郡体育協会におけるスポーツ活動も地域や学校と連携した活動が一層推進されました。

平成20年に長野県スポーツ振興計画が策定され、スポーツ活動における新たな方向性が見いだされました。その一方で、持続性のある組織運営が全国的な課題となっており、全国においてスポーツ運営の在り方が問われた時期でもありました。その代表的な方策として、地域住民主体の自主運営を趣旨とした『総合型地域スポーツクラブ』が謳われるようになりました。

人口の少ない木曽郡内において、体育協会と総合型スポーツクラブの組織が両立することで人の奪い合いになるのではないかといった声も上げられました。各町村の体育協会を中心に議論が重ねられ、両者の特色を出し合い、協調していく組織運営の方向性が見い出されました。その成果として、地域に根付いたスポーツ活動が展開され、陸上やスキー、サッカー、バドミントンなど多くの競技団体において、全国で活躍している選手を木曽から多く産み出すことができました。現在、大相撲で活躍している御嶽海関もそのひとりであります。

■平成26年～令和３年　　～将来展望～

平成26年には長野県中学校運動部活動指針が示されました。

学校の部活動に地域の人材を多く活用し、学校・地域ともに活性化を図るこれらの計画に地域スポーツへの期待がより高まり、木曽郡体育協会所属の部においても、中学校運動部活動への指導を定期的に行ったり、中学生を対象とした教室を開催するなど、次世代育成のための活動も行ってきました。

そうした中、現在、木曽郡内は人口減少や少子化の問題が顕著となっており、とりわけ団体競技における活動に苦慮していることは否めません。

また、新型コロナウイルス感染の拡大は、活動そのものの自粛など、スポーツ活動推進に大きく影響を受けました。

令和に入り、様々な諸課題が山積していますが、第２次長野県スポーツ推進計画の基本である「青少年におけるスポーツ活動の充実化」「生涯を通じたスポーツ活動推進」「全国で活躍する人材育成」「スポーツの多面的活用」の目的を達成すべく新たな方向性を協議し推進を図っていきたいと考えています。特に、今後は、次の木曽を支え担っていく、青少年を対象とした人材育成に力を入れながら、世代間交流を兼ね備えた活動を進めていきたいと考えています。

木曽郡総合体育大会開会式に集まった選手の皆さん

北安曇郡スポーツ協会

北安曇郡は長野県北西部に位置する大町市・池田町・松川村・八坂村・美麻村・白馬村・小谷村の１市１町５村であったが、平成18年１月に大町市・八坂村・美麻村が合併し新しい大町市が誕生した。現在は大町市・池田町・松川村・白馬村・小谷村の１市１町３村からなる地域である。北安曇郡スポーツ協会は池田町・松川村・白馬村・小谷村で構成されている。

長野県体育協会から長野県スポーツ協会に変更になった事に伴い池田町・松川村・白馬村・小谷村の体育協会も令和３年にスポーツ協会と名称変更し郡旗を作成。

【毎年実施されている行事】

〇北安曇郡春季スポーツ祭

・野球・ソフトボール・ママさんバレーボール

62年目を迎える。

〇大北縦断駅伝大会

小谷村発～池田町間、池田町発～小谷村間と毎年交互に行っている。

今年で71年目を迎えましたが、令和２年度から３年度はコロナウイルス感染症防止の為中止となる。

〇大北スポーツ競技会

・ソフトテニス・ミニテニス・ソフトボール・ソフトバレーボール・卓球・マレットゴルフ・ゲートボール・グラウンドゴルフ・剣道・柔道・陸上

〇北安曇郡町村対抗ゴルフ大会

安曇野カントリークラブにて各町村10名選出し40名にて競う。

〇北安曇郡秋季スポーツ祭（マレットゴルフ）

４名４チーム各町村より選出し64名にて競う。

〇長野県縦断駅伝大会に参加など

【町村体育・スポーツ協会の活動状況】

松川村

松川村スポーツ協会は平成４年「健康で明るい村づくり」をめざして18団体、会員数1,200人で発足しました。現在は、17団体、会員数762人です。

事業としては、会員のスポーツに対する意識の高揚を図ることを目的に、初年度から国内のトップアスリートを招き講演会を企画。また、各種スポーツ講習会・村民ゴルフ大会・村民マレットゴルフ大会を開催。加盟団体の協力でゴルフ・ママさんバレーボール・マレットゴルフ・ソフトテニスなど各種体験教室を毎年開催。また加盟団体開催のマラソン大会・ソフトバレーボール大会等各種大会の共催・後援の協力を行っています。

そして、毎年４月の総会では社会体育・スポーツ振興功績者表彰者を行ない多く方々を表彰しています。

池田町

平成元年当時17団体で構成していた体育協会が、20年の歴史を刻む中で組織も充実し平成23年には20団体会員数660名に増えました。しかし、スポーツの多様化また少子・高齢化によりにより令和３年では19団体490名の会員数に減少してきており、クラブ団体の継続と充実が課題となっています。

スポーツ協会は、会員や町民の競技力向上、体力づくりという面で町のスポーツ振興に大きく貢献し、過去にはママさんバレーボールクラブ、ソフトボールクラブは全国大会に出場を果たし多くの会員が活躍をしています。

また町民のスポーツ振興を図るためニュースポーツの普及、マラソンオリンピック選手の中山竹通選手の活躍もあったことから、多くの町民が参加できる池田ハーフマラソンの企画運営にも携わりハーフマラソン大会を立ち上げております。

近年は総合型地域スポーツクラブ「大かえで倶楽部」と協力して、町の総合的なスポーツ振興にも関わっています。

白馬村

白馬村スポーツ協会は令和３年４月に白馬村体育協会から白馬村スポーツ協会へと名称変更をし、現在は陸上競技協会などの「競技スポーツ団体」、サッカーのアラグランデFCなどの「スポーツ少年団」、ジュニア運動プログラムなどを行う「スポーツクラブ」からなり、25団体、1,210名の会員により組織しています。

1998年２月・３月に、長野冬季オリンピック、パラリンピックを開催しました。

白馬村はジャンプ、クロスカントリー、ノルディック複合、アルペン（スーパー大回転、滑降、複合）の競技会場となりました。

白馬高校（当時３年）の上村愛子選手が、モーグル競技で７位入賞。その後のオリンピック４大会に出場し、バンクーバーとソチでは、自己最高の４位の成績を収めました。

また、長野オリンピック後にはノルディック複合の渡部暁斗選手が、2006年トリノオリンピックから平昌まで４大会連続して出場。ソチと平昌で２度銀メダルを獲得しました。その他にも多くのオリンピック・パラリンピック選手が誕生しています。

白馬村を訪れる外国人観光客が増加する中で、それに伴い白馬村に定住する外国人も増加し、スポーツ協会の各団体に所属する顔ぶれにも反映されてきています。

平成10年からオリンピックのクロスカントリー会場にて「スノーハープクロスカントリー大会」を開催し、アップダウンの激しいコースに、個人・駅伝の２種目を設け、毎年２千名を超える選手に参加をいただいています。

また、スノーハープはMTBコースとしても利用でき、平林安里選手や、北林力選手など、自転車競技世界選手権など世界で活躍できる選手も輩出しています。

これまでのウィンタースポーツ選手の活躍に加え、MTB競技、ダンスやバレー（踊り）、サッカーなどのクラブが盛んになるなど、スポーツの選択肢が増え、多様化してきています。

小谷村

小谷村では平成に活躍された女子クロスカントリーオリンピック選手猪又由美さんと女子ジャンプオリンピック選手山田優梨菜さんをご紹介いたします。

＊猪又由美

昭和42年　小谷村で生まれる。

３歳からスキーを始め10歳からクロスカントリーに

転向。
白馬高校進学　国体２位、インターハイ５位
日本大学文理学部体育学科に入学　インカレ連覇強豪
北野建設スキー部に入社　旭川大会優勝
平成３年　札幌ユニバーシアード団体リレーアンカーを務め　銀
平成４年　アルベールビルオリンピック出場
その後引退。
　現在は薬膳で「なりたい自分になるため」のサポート
　ポールエクササイズ・整体・よもぎ蒸しなど幅広い指導にあたっている。
　鍼灸の専門学校にも通い勉強中。

＊山田優梨菜
平成８年　小谷村で生まれる。
　６歳の時、ジャンプを経験し、「楽しい・もっと遠くに飛びたい」との思いがよぎり、小谷ジュニアスキークラブに入部。
白馬高校進学
平成26年　ソチオリンピック出場
早稲田大学に入学
　その後膝の怪我の為、手術をしたが、引退を余儀なくされる。
　大学院でキャリア形成について学ぶ。
　現在はアスリートキャリア・一般の方々のキャリア支援を行っている。
　小谷村としても今後のご活躍に期待していきたい。

坂城町体育協会

・昭和49年10月
　スポーツを振興し、町民の体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図ることを目的に、坂城町体育協会が設立される。

　坂城町教育委員会内に事務局を置き、18種のスポーツ団体や連盟が集まり、体育協会を構成していた。
　会長は町長の職にある者が就き、社会教育課（当時）が事務局を担い、各団体の代表者を理事に任命し、運営していた。

・平成12年５月
　それまで、町長が会長を務め、教育委員会にて運営を行っていた体育協会を、会長を民間から選出し、運営についても教育委員会の職員から、体育協会に所属する者へと切り替え、発足当時からのスポーツ団体と新たに加入した団体の18団体で、任意団体として新たなスタートを切る。

・平成15年９月
　坂城町と隣接する２町（戸倉町、上山田町）にて、埴科郡体育協会を組織し、独立した事務局を有し、郡体育協会としても３町で活動していたが、同年に、更埴市、戸倉町、上山田町が合併し、新たに千曲市となり、それに合わせて、更埴市、戸倉町、上山田町体育協会で、千曲市体育協会を新たに組織した。
　そのため、埴科郡体育協会は坂城町体育協会の１団体のみとなった。

　以降、坂城町体育協会は、町体育協会の活動と、郡体育協会としての活動を行ってきたが、１郡１町ということもあり、平成19年に活動を一本化し、坂城町体育協会として現在に至る。

団体のあゆみ（昭和63年頃から令和３年３月までの期間）
　坂城町体育協会では、設立当時、町内に活動拠点を有した18種のスポーツ団体でスタートしており、設立当時から、町民を対象とした各種大会を開催していました。
　特に設立当時から町内で人気の高かった、「早起き野球」はシーズンを通して活動を行っており、「バレーボール」は、年間３～４回の大会を開催していました。

　また、設立当時には、「すもう」や「綱引き」、「山岳」、「スキー」といった競技団体も加盟し、活動を行っていましたが、活動を維持していくだけの町内での競技人口を確保することができず、昭和63年までに５つの部が廃部となってしまいました。

　その後、ニュースポーツの登場により、新たな競技団体が立ち上がり、体育協会に加盟されたり、高齢化や人口減少の余波を受け、存続が難しくなり廃部となった部があったりして、現在の構成団体は、14の団体となってしまいました。

　現在では、高齢化と人口減少により、体育協会の構成員の人数も減少しており、各団体の運営も厳しくなってきています。

　平成12年に任意団体となった町体育協会は、所属する団体の活動を支援していくことはもちろん、体育協会全体の発展と活動の活性化を狙い、平成15年から、「体協祭」を開催しています。

体協祭は、体育協会に所属するスポーツ団体の競技をお互いに知ってもらおうと、それぞれの団体が大会や教室を開催し、会員相互の親睦を図っていました。

開催当初から続いている大会にマレットゴルフ大会があります。

マレットゴルフは町内でも愛好者が多く、毎年多くの方が参加される大会となっています。

また、町内には、千曲川の河川敷に、鼠橋運動公園マレットゴルフ場がありますが、マレットゴルフ協会がコース整備や草刈りをして、管理してくださっていますので、町内外からとても評判の良いコースとなっています。

第15回体協祭マレットゴルフ大会

太極拳教室も当初から続いています。
健康維持のため、各公民館を使って、多くの方が取り組んでいます。

年に１度、外部から指導者を招いて、体協祭を開催しています。

このほかにも、ソフトバレーボールや、テニスなども、行っています。

また、町公民館の主催するソフトボール大会とビーチボール大会から、体育協会に審判の要請があり、各団体にて協力しています。

第14回体協祭太極拳教室

町公民館主催ソフトボール大会

町公民館主催ビーチボール大会

上高井郡体育協会

１　発足までの経過

敗戦の痛手はつらく、また、忘れられない苦しみでもあった。長かった戦争の苦しみを忘れるために、戦後の復興はスポーツでと言う気風が郡内に広がり、この気風は青年を中心に高まった。

まず組織づくりからと青年達は、協会設立に向け郡内をくまなく歩いた結果､昭和22年に設立をみたのである。

２　その後の歩み

発足当時は１町13村であった郡内には、体育協会未設置の村が多かったが、その後次々に設立をし、郡体育協会へ加盟したのである。その後１町13村は町村合併促進法に基づき合併が進んだ。昭和48年に小布施町、昭和56年に高山村の体育協会が誕生し、現在に至っている。

３　現状の活動

小布施体育協会（バドミントン、卓球、ソフトテニス、ローンテニス、婦人バレーボール、ソフトボール、ゴルフ、ソフトバレー、ウォーキング、太極拳）
以上10団体が加盟し約300名で活動している。

高山村体育協会（山岳会、ソフトボール、野球、バスケット、バドミントン、婦人バレーボール、卓球、ゲートボール、マレットゴルフ、太極拳）
以上10団体が加盟し約400名で活動している。

４　今後の課題

日本全体が高齢化社会となり、上高井郡体育協会の会員も従来の走って、跳んでのスポーツを苦手とする傾向がある。スポーツの内容を検討する時になっている。やるスポーツ　見るスポーツ　企画するスポーツ　等々スポーツに関連する事業に目を向けたい。

例えば小中学生に培ったノウハウを提供する。生徒数の減少や働き方改革が叫ばれている昨今、学校部活と共存しスポーツを通して地域の大人に、子供の健康で明るい社会を構築する担い手として私達の直面した課題と受け止めたい。

あなたに出来る事あなたに任せた
私に出来る事　私に任せろ
みんな出来る事違うから

５　上高井郡体育協会組織

小布施町体育協会、高山村体育協会のそれぞれの体育協会長、副会長、理事、評議員、監事、教育委員会の30名で構成している。

役員の任期は２年間として毎年度４月１日～翌年の３月31日としその担当協会の会長が上高井郡体育協会の会長を務める。一方の会長が副会長を務める。

６　総会及び事前会議

毎年４月に役員事前会議を招集し総会のあり方を協議する。総会は毎年５月に開催して年間行事を決定する。

７　令和３年度役員名簿（令和元年～３年）

顧　問　桜井　昌季（小布施町長）
〃　内山　信行（高山村長）
〃　冨岡　義仁（小布施町体育協会前会長）
〃　原　等・北澤宏之（高山村体育協会前会長）
会　長（理事１）　関谷　明生（小布施町体育協会長）
副会長（理事１）　轟　三己夫（高山村体育協会長）
理事長　根津　照夫（小布施町体育協会）
副理事長　高橋　重光（高山村体育協会）
理事２号　市村　勝巳（小布施町公民館長）
〃　望月千惠子（高山村公民館長）
理事３号　根津　照夫（小布施町体育協会）
〃　飯田　岩雄（小布施町体育協会）
〃　涌井　昭一（小布施町体育協会）
〃　黒岩　優子（高山村体育協会）
評議員１号　小林　潔（小布施町スポ推委員長）
〃　霜方　大介（高山村スポ推委員長）
評議員２号　山崎　幸治（小布施町体育協会）
〃　黒岩　悟（高山村体育協会）
評議員３号　黒岩　隆三（高山村体育協会）
〃　土屋　和夫（小布施町体育協会）
監　事　寺島　純夫（小布施町体育協会）
〃　藤澤まゆみ（高山村体育協会）
幹　事　倉橋　明子（小布施町体育協会）
〃　深谷　照男（高山村体育協会）
服部　優瞬（小布施町教育委員会）
近藤　真弘（高山村教育委員会）

令和２年度はコロナ禍の為、行事が開催されなく小布施町体育協会が令和３年度も引き続き運営を担った。

８　上高井郡体育協会が展開するスポーツ

やるスポーツ　　見るスポーツ　　企画するスポーツ

①上高井郡体育協会球技大会、毎年300名の選手が４球技で親睦を図るイベントである。２年毎に担当が変わりそれぞれの趣向で絆を深める交流大会である。

②全国から参加する小布施ミニマラソン。
　上高井郡体育協会員とスポーツ少年団が、スポーツを通しておもてなしを体験する。スポーツならではの効果である。

③高山村ヒルクラム大会を上高井郡体育協会が応援する。応援を通して大人と小学生とが行動を共にする世代間交流である。

④長野県縦断駅伝競走に上高井郡体育協会より選手を５名送り出し応援団を結成している。郷土の誇りを体験できる瞬間である。

下高井郡スポーツ協会

１　沿　革

下高井郡は長野県の東北端に位置し、上信越高原国立公園と千曲川に囲まれ、湯量豊かな温泉とスキーのメッカで知られる志賀高原、野沢温泉、またブナの原生林とニッコウキスゲ咲きみだれる北ドブ湿原、自然休養林カヤの平を保有する山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の１町２村で構成されている。

２　協会の発足

下高井郡スポーツ協会は、昭和51年７月14日に山ノ内町体育協会、木島平村体育協会、野沢温泉村体育協会の３協会の加盟により下高井郡体育協会として発足し、続く翌年の昭和52年２月１日には長野県体育協会の加盟団体となった。発足当時、長野県はやまびこ国体を２年後に控えており、スポーツの普及とスポーツ人口の拡大に

注力している最中であった。それに伴い、県や郡下の町村体育協会との連絡、協議のための連携組織の必要性が高まったことから、本協会は発足に至った。その後、令和２年には設立以来使用してきた「下高井郡体育協会」から「下高井郡スポーツ協会」へ名称を変更した。

３　組織および事業

本協会は山ノ内町、木島平村、野沢温泉村の各体育協会ならびにスポーツ協会で構成され、各協会の正副会長、理事等の代表で運営している。

発足当時、活動内容は縦横の連携と親睦のみであったが、現在協会の主な事業として、令和３年で44回目となる下高井郡バレーボール大会、38回目となる下高井郡ソフトボール大会、30回目となる下高井郡女子ソフトボール大会、28回目となる下高井郡マレットゴルフ大会、27回目となる下高井郡ソフトバレーボール大会を開催し体育スポーツの振興にあたっている。

〔下高井郡スポーツ協会〕

◇主な事業

・下高井郡バレーボール大会
・下高井郡ソフトボール大会
・下高井郡女子ソフトボール大会
・下高井郡マレットゴルフ大会
・下高井郡ソフトバレーボール大会

◇予算規模

・令和３年度予算額　164,000円

◇役員（令和３年度）

・会　長　萩原　千春（野沢温泉村）
・副会長　髙山　祐一（山ノ内町）
・　〃　　真淵　弘宣（木島平村）
・理　事　佐藤　史郎（野沢温泉村）
　　山口　辰也（山ノ内町）
　　竹鄭　　信（木島平村）
・監　事　丸山　喜庸（山ノ内町）
　　小澤　和麻（木島平村）

〔山ノ内町体育協会〕

◇主な事業

・町長杯親善マレットゴルフ大会
・町長杯ソフトバレーボール大会
・町長杯争奪女子バレーボール大会
・町民ゴルフ大会
・町長杯ソフトテニス大会
・町長杯ソフトボール大会
・町長杯争奪硬式テニス大会（ダブルス）
・町長杯争奪卓球大会
・全信州弓道大会
・中高柔道選手権大会
・町ゲーゴルゲーム交流大会
・スポーツ吹矢フェスティバル
・スポーツ少年団軟式野球大会
・全日本公認甲信越ブロック連合中学校ユーススキー競技会兼志賀高原少年スキー大会
・各種スポーツ教室

◇予算規模

・令和３年度予算額　3,349,000円

◇加盟団体

・15団体

◇役員

・会　長　髙山　祐一
・副会長　竹節　　清　丸山　喜庸

〔木島平村スポーツ協会〕

◇主な事業

（協力事業）
・FIS･SAN公認木島平サマーノルディック大会
・村民スポーツフェスティバル
・村民運動会
・SAN公認木島平ジュニアジャンプ大会
・SAN公認木島平ジュニアクロスカントリー競技大会
・木島平ジュニア大回転スキー競技大会
・全日本小学生選抜クロスカントリー大会

（補助事業）
・ジュニアスポーツ選手育成補助金交付事業

◇予算規模

・令和３年度予算額　1,138,000円

◇加盟団体

・９団体

◇役員

・会　長　真淵　弘宣
・副会長　小澤　和麻

〔野沢温泉村体育協会〕

◇主な事業

・野沢温泉村ロードレース大会
・体育協会長杯マレットゴルフ大会
・体育協会長杯テニス大会

下高井郡バレーボール大会

・体育協会長杯剣道大会
・村民ゴルフ大会
・村内ナイターバレーボール大会

◇予算規模
・令和３年度予算額　1,843,000円

◇加盟団体
・６団体

◇役員
・会　長　萩原　千春
・副会長　宮崎　大輔

下高井郡ソフトボール大会

４　役　員

◇会　長
・平成29年度～平成30年度
山ノ内町　　渡辺　正男
・令和元年度～令和２年度
木島平村　　芳澤　育男
・令和３年度～
野沢温泉村　萩原　千春

◇副会長
・平成29年度～平成30年度
木島平村　　芳澤　育男
野沢温泉村　片桐　嘉幸
・令和元年度～令和２年度
野沢温泉村　片桐　嘉幸
山ノ内町　　渡辺　正男
・令和３年度～
山ノ内町　　髙山　祐一
木島平村　　真淵　弘宣

上水内郡スポーツ協会

１　沿革

昭和62年４月１日

昭和53年に発足した更水体育協会より更級郡の上山田町と大岡村が脱退（２町村は埴科郡体育協会になる）。上水内郡の９町村（信州新町・豊野町・信濃町・戸隠村・鬼無里村・中条村・三水村・牟礼村・小川村）のみになったため名称を上水内体育協会とする。

平成17年３月31日（平成16年度）

平成17年１月の豊野町・戸隠村・鬼無里村の長野市編入及び10月の牟礼村・三水村の合併を踏まえ上水内郡体育協会は解散

県体育協会からは脱退する。

平成17年４月

旧上水内郡体育協会代表者（旧上水内郡内９町村）により、各旧町村体育組織が主体となり競技大会を継続していくこととなる。

旧上水内郡内連絡会の形をとり郡単位での会議が必要な場合の幹事町村は初年度、牟礼村（10月からは飯綱町）となる。

平成17年11月25日

旧上水内郡内連絡会において新しい上水内郡体育協会として活動していく案が提出され、承認。

平成18年４月

上水内郡体育協会が郡内５町村で発足。

平成22年１月

信州新町・中条村が長野市へ編入したため上水内郡体育協会は３町村（信濃町・飯綱町・小川村）になる。

平成30年４月

上水内郡体育協会より上水内郡スポーツ協会に名称変更する。

２　その後のあゆみ

⑴　競技大会開催町村状況

昭和53年更水体育協会より始まり上水内郡体育協会として活動を続けていますが、上水内郡体育協会は市町村合併の平成17年３月31日に一度解散しており解散以前の記録がほとんど残っていないため詳しい活動は不明です。

平成17年の旧上水内郡内町村単位競技大会運営を経て平成18年に再度、上水内郡体育協会として活動を開始しています。

各町村のスポーツ団体が主管となっている競技大会においては更水体育協会当時より継続したものになっています。

各競技大会においては旧上水内郡として豊野町や戸隠村のスポーツ団体にも参加いただいています。

昭和53年第１回の大会を開催した男子バレーボール及び翌54年開始の女子バレーボール大会は平成23年に大会休止になりました。近年では、競技人口も減り大会中止や休止のスポーツが多くなっています。

平成26年度にはゲートボールの上水内支部大会（第48回）を上水内郡の事業として追加した。

令和２年度はコロナ禍ということもあって上水内郡主催の大会はすべて中止になってしまいました。

令和３年は第42回卓球大会（飯綱町）と第54回上水内支部ゲートボール大会（飯綱町）を行いました。

計画のあった第31回壮年ソフトボール及び第19回ソフトバレーボール大会はやむなく中止となりました。

⑵　組織

上水内郡体育協会は平成17年の市町村合併の際一度解散し平成18年になり再度発足。上水内郡の５町村の体育協会により組織されている。

町村持ち回りの当番町村内に事務局を置く形で会長は幹事町村の体育協会会長が務める。任期は２か年。

会長の他理事若干名（各町村体育協会会長）と監事２名により構成される。

平成22年からは信州新町・中条村が長野市へ編入したため、３町村（信濃町・飯綱町・小川村）での組織運営となる。

３町村になったため会長は幹事町村体育協会会長、理事２名は残りの町村体育協会会長とし、監事２名は理事選出町村の体育協会副会長とする。

⑶　役員　平成18年以降

○会長

小林元太郎	平成18年～平成20年
近藤　邦彦	平成21年～平成22年
松本　貴秀	平成23年～平成24年
	平成29年～平成30年
風間　幸一	平成25年～平成26年
	令和１年～令和２年
西澤登美男	平成27年～平成28年
島田　市夫	令和３年～現在

○理事

古山　定男	平成18年～平成21年
原山　文徳	平成18年
久保田正治	平成18年
戸谷　武彦	平成18年～平成21年
原　　秀和	平成19年～平成20年
大日方輝人	平成19年～平成21年
松本　貴秀	平成22年・平成25年～平成28年
小林元太郎	平成22年～平成23年
金箱　　弘	平成23年～平成24年
風間　幸一	平成24年・平成27年～平成30年
	令和３年現在
服田　昭男	平成25年～平成26年
森野　佳宏	平成29年～平成30年
小林　和人	令和１年～令和２年
宮下　　登	令和２年～現在

公益財団法人　長野市スポーツ協会

沿　革

■はじまり（1926「大正15」年）

創立当初の長野市体育協会は、現在のように総合的なものではなく、野球場（のち、市営城山野球場「1947（昭和22）年７月10日完成、2000（平成12）年閉鎖」）建設を目的に、市内在住の関係者が主唱して組織された単一的な体育団体として第一歩を踏み出しました。

■長野市体育協会の創設（1947「昭和22」年４月１日）

戦後のスポーツ振興の力はめざましく、組織の確立と再編がなされ、名実ともに面々を一新した総合的な体育団体として13競技団体が参加し長野市体育協会が発足しました。

■市町村合併と体育協会

1954（昭和29）年（第１次昭和の大合併）、1966（昭和41）年（第２次昭和の大合併）　の合併を機に大長野市の建設に万進するに及び、合併の体育関係者との連絡を緊密にする必要性が認められ、規約改正を行い地区の代表も交えて全市的な体育活動の基盤として一段とスケールの大きい体育協会が組織され、市当局と密接な協力のもとに長野市の体育振興に努めてきました。

■財団法人長野市体育協会の設立（1991「平成３」年６月１日）

複雑多様化する社会環境のもとで、市民の健康に対する関心は強く、生活水準の向上や自由時間の増大と

あいまって、体育・スポーツへの欲求が高まり、特に1975（昭和50）年６月のスポーツ都市宣言、1976（昭和51）年の全国高校総合体育大会、1978（昭和53）年の長野国体開催などを契機として、この機運はすます高まりを見せました。毎年５月に開催される市民健康まつり、市民体育祭など各種スポーツ行事、スポーツ大会、スポーツ教室を開催し、体力・健康つくりの推進に始まり、競技力の強化に努めてきました。社会体育施設の整備についても行政と連携を図りながら、全国に誇りうる体育･スポーツ施設を確保してきました。また、長野市は、1986（昭和61）年から国指定のヘルスパイオニアタウン（健康つくり先進モデル都市）に選ばれ、健康増進の観点からますます体育・スポーツの必要性が望まれ、全ての市民のニーズに答えられる体制が必要となりうること、長野市体育協会が創設40周年を迎えるにあたり、組織を確固たるものとし、より一層体育・スポーツの振興を図るべく、また、オリンピック冬季大会を長野市へ招致するために、微力ながらも行政並びに関係団体と一体となり、招致に向け前進するためには、組織と財政の確立が急務であることから、種々調査、協議を重ね、任意団体である長野市体育協会を財団法人として、強力かつ広汎なスポーツ活動をすることが必要であるという結論に到達し、1991（平成３）年５月10日に、長野県教育委員会に設立許可の申請を行い、1991（平成３）年５月18日に許可を受け、1991（平成３）年６月１日に「財団法人長野市体育協会（加盟団体33)」が設立されました。

■長野オリンピック・パラリンピック等国際大会の開催

1998（平成10）年には、長野オリンピック・パラリンピック冬季競技大会、2005（平成17）年には、長野スペシャルオリンピックス（SO）冬季世界大会が開催され、その後、これを機に各種国際大会や長野マラソンなどのビッグイベントが継続的に開催されるようになり、また、スポーツと環境への取り組みやスポーツボランティアの活躍などのオリンピックムーブメントの推進など、多くのレガシーが引き継がれました。スポーツに対するかかわり方も、する・観る・支えると多種多様になり、長野市が掲げた“スポーツを軸としたまちづくり”の推進と共に、体育協会の果たす役割も多種多様かつ重要になってきました。

■長野市スポーツ推進計画と体育（スポーツ）協会

国においては、2000（平成12）年に“スポーツ振興基本計画”が策定（2006「平成18」年改定）され、新たな指針が示されました。また、2010（平成22）年に「新たなスポーツ文化の確立」を目指した“スポーツ立国戦略”が策定され、2011（平成23）年にスポーツ振興法（昭和36年制定）を全面改正し、“スポーツ基本法”が制定されました。

長野市においても、国のスポーツ振興政策を踏まえ、市の基本施策である“スポーツを軸としたまちづくり”を基に、平成20年に“長野市スポーツ振興計画（計画期間：平成23年度まで）”が策定され、平成21年には、文化芸術及びスポーツの持つ「文化力」あふれるまちづくりの推進を目指して“文化芸術及びスポーツ振興による文化力あふれるまちづくり条例”が制定されました。

長野市スポーツ振興計画の計画期間満了により、平成24年に、新たな“長野市スポーツ推進計画（計画期間：平成28年度まで）”が策定され、その後、スポーツをさらに発展させていくため、計画期間が終了する“長野市スポーツ推進計画”を改訂し、平成29年に“第二次スポーツ推進計画（計画期間：平成33年度まで）”が策定されました。

長野市スポーツ協会は、“第二次長野市スポーツ推進計画”と連動するため、平成29年度から第二次４期（５ヶ年）となる“全国大会等出場選手強化基本構想プログラム”を策定し、市と連携や協力を強化することで、トップアスリートの育成、競技スポーツ人口の拡大や専門能力を持つ指導者の養成・確保において、重要な役割を担い、競技力の向上と底辺の拡大に努めています。

■公益財団法人長野市体育協会の設立（2013「平成25」年４月）

公益財団法人への移行に向け、専門委員会、理事会及び評議員会において協議を行い、平成24年10月15日の理事会において、公益財団法人の認定申請について決議し、2012（平成24）年11月に、長野県に移行認定の申請を行い、2013（平成25）年３月に長野県知事から認定を受け、2013（平成25）年４月１日から、公益財団法人へ移行し、「公益財団法人長野市体育協会（加盟団体46「内準加盟団体５」」に変更しました。

■公益財団法人長野市スポーツ協会へ名称変更
（2016「平成28」年４月）

平成28年４月１日には、目的及び方針を明確に表す“スポーツ”の名称を取り入れ、法人名を「公益財団法人長野市スポーツ協会」に変更しました。

一般財団法人　松本市スポーツ協会

１　松本体育会の活動

大正15年、松本市に県営陸上競技場と野球場が建設されると共に、松本体育協会の前身である松本体育会の組織的な活動が始まり、松本地域の総合的体育団体の礎となった。

２　松本体育協会の設立

昭和６年４月３日、松本市とその周辺の13体育団体により松本体育協会を設立。会長には初代松本市長小里頼永が就任した。

３　組織の充実拡大

昭和13年５月、時の百瀬興政会長（松本市長）の提唱により、松本体育協会の組織充実が図られ、加盟団体は15団体となった。その後昭和19年頃から戦争が激しくなり、活動を一時停止せざるを得なくなった。

４　松本体育協会の再開

昭和21年、日本体育協会の再発足を契機に23体育団体により松本体育協会の活動を再開し、市民体育の普及育成に努めた。その後、教育委員会制度の施行とともに、松本体育協会は社会体育の指導的役割を果たすこととなる。また地区体育協会の活動も始まり、地区公民館、町会と協調しつつ地域のスポーツ振興の中心となり、市民スポーツの底辺をひろげる原動力となった。

５　地区体育協会の組織化と体協加盟

昭和29年に近隣13村の大合併があり、それに伴い合併各村の体育協会が加盟した。

その後昭和56年11月に、時の和合正治会長（松本市長）の提唱により、旧松本市の町会に地区体育協会の設立と組織化が呼びかけられ、順次市内29地区の町会に地区体育協会が設立され、全市民を対象とした体育指導と体力向上が図られることとなった。

６　松本市市民体育大会・松本市長杯争奪球技大会の開催

13村の大合併により松本市の財政は大きな赤字で地方財政再建団体に指定されていた。そこからの脱却を図るため、時の降旗徳弥市長（会長）が「松本第一主義」をかかげ、「品格ある都市」の建設を目指し、市民の固い団結と健康の向上を旨として、昭和33年に第１回市民体育祭が開催された。「多くの市民が参加する場を作り、老若男女が一体となって明日へのエネルギーを結集する」という旗印のもと、スポーツに多くの市民が結束し市政への協力が図られ、赤字再建団体脱却のための大いなる力となった。その後、市内公共施設の整備が図られ体育施設が充実すると共に、スポーツに親しむ市民も年々増加し、令和３年には第64回をかぞえ、春夏秋冬延べ76種目約１万５千人が参加する総合体育大会となった。また昭和59年からは本郷地区との合併10周年記念として、松本市長杯争奪球技大会が開催され、令和３年には第38回をかぞえ、両大会はスポーツを通じたまちづくりにも大きく寄与している。

７　松本市スポーツ少年団の結成

昭和40年、松本市教育委員会の主導で松本体育協会に松本市スポーツ少年団本部が設置された。その後、地域のスポーツを通じた青少年の健全育成に励み、スポーツを楽しむだけでなく、清掃活動など社会活動を通じて社会のルールや協調性を学ぶことを主眼に活動を行い、現在は42単位団、団員1235人、指導者等279人を擁するスポーツ少年団となった。

８　松本体育協会の財団法人化

昭和53年のやまびこ国体を契機に市民のスポーツに対する熱意が高まり、松本体育協会に指導協力を求める多くの市民の声に応える必要があった。また、松本市から有人体育施設管理の要請もあり、受託者としての責任体制確立が求められ、これまでの任意団体の体制を強化すべく、昭和58年に財団法人化を実現、市民皆スポーツの掛け声のもとに、一層の組織強化が行われた。昭和60年の「音楽とスポーツ都市宣言」により、松本市と歩調を合わせて諸施策を推進している。

９　松本市市民スポーツ振興基金制度創設

昭和60年、松本市スポーツ振興基金創設のため、市民・民間企業から寄付金を募ると共に、松本市からの拠出金を加え１億円を超える基金が造成された。その運用益を加盟団体へ分配することにより、各種スポーツ大会やスポーツ教室が盛んに開催されている。現在利率の低下に伴い基金運用益は減少しているものの、松本市からの補助金を充て、スポーツ推進の大きな原動力となっている。令和２年には規程を全面改正し、加盟団体の組織維持強化と、中学生の地域部活動を見越した公認指導者養成を新たに加えている。

10　市民スポーツ教室の充実

昭和58年頃、松本市が開催していた市民向けスポーツ教室の一部が松本体育協会に移管された。その後、加盟団体と調整のうえ種目増と内容充実を図り、現在は年間23コースを開催し、市民が低料金で初心者も気軽にス

ポーツに参加できる事業として、そしてその成果を楽しめる市民体育大会の参加と合わせ好評を得ている。

11　生涯スポーツ推進の取り組み

平成11年から生涯スポーツ指導者養成講習会を年間15回程度開講し、地域住民にニュースポーツやレクリエーションの指導を行う人材を重点的に養成し、50人を超える指導者を登録した。令和２年には、生涯スポーツ指導者制度を施行し、行政や地域の要請に応じた指導者を紹介することで、レクリエーションスポーツの推進を行っている。また、県内のウォーキングコースを歩き温泉での食事を楽しむ「さわやかウォーキング」を毎年開催し、市民に運動する機会を提供している。

12　松本武道祭（まつり）の開催

平成19年、松本体育協会の加盟11武道団体により実行委員会を結成し、第１回松本武道祭を開催した。演武披露により日頃の鍛錬の成果を発表すると共に体験教室を行い、市民が武道に触れる機会を設け、武道普及の一端を担っている。平成24年からは12団体となり毎年開催している。

13　松本体育協会の一般財団法人化

国が主導する公益法人制度改革の施行に伴い、平成25年に法人格を一般財団法人に改め、スポーツ推進の基盤を強固にした。

14　松本市の基幹体育施設指定管理受託

地方自治体が主導する指定管理者制度の施行に伴い、共同体「ミズノ・松本体育協会グループ」を㈱美津濃と結成し、平成27年４月から松本市総合体育館を受託、利用者に視点を置いた管理運営に努めている。

15　国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会主会場の誘致

第82回国民スポーツ大会・第27回全国障害者スポーツ大会の主会場誘致活動を行い、令和10年には、昭和53年やまびこ国体に続き松本平広域公園陸上競技場が開閉会式を行う主会場となることが決定した。松本市内で行われる種目として、前者は陸上競技、サッカー少年男子、バレーボール成年男子、自転車トラックレース、軟式野球、なぎなたが、後者は陸上競技、バレーボール（知的障がい）、サッカー（知的障がい）が内定している。

16　松本市スポーツ協会への名称変更

昭和39年の東京オリンピック開催以来、「スポーツ」の言葉が広く社会に浸透し、体育や身体活動の概念を含み幅広く表すものになってきた。社会のスポーツへの関心や期待が高まる中、スポーツを文化として定着・発展することを目指すと共に、より多くの市民がスポーツに参加することを促し次の世代へ継承していくためには、名称に「スポーツ」という言葉を掲げることが相応しいとし、令和２年６月26日に「松本体育協会」から「松本市スポーツ協会」に名称を変更した。

17　松本マラソンへの開催協力

平成29年、参加者１万人規模とする第１回松本マラソンが開催された。この時から、市民スポーツの推進と大会の成功に向け、加盟団体の協力を得て、200名前後のボランティア協力を行っている。

18　中信４市スポーツ協会・体育協会協議会の設立

令和２年７月30日、松本市・大町市・塩尻市・安曇野市のスポーツ協会及び体育協会は、中信地域における更なる体育・スポーツ・レクリエーション等の振興を図るため協議会を設立した。中信地区のスポーツ施設の充実を目指し、初回は長野県知事及び長野県教育長へ、第82回国民スポーツ大会主会場予定地である長野県松本平広域公園の体育館の全面改築及びビーチバレーボールコート新設の要望を全県的視野をもって行っている。

19　新型コロナウイルス感染症への対応

令和２年冬からの新型コロナウイルス感染症の世界的・爆発的な流行に伴い、スポーツ事業の多くをやむなく縮小・中止をせざるを得なかったが、開催に向けて日本スポーツ協会・各上部競技団体・国・県・市が示すスポーツイベント開催時の感染症対策ガイドライン等をもとに、競技主管団体と慎重協議の上、可能な限り開催をした。

一般財団法人　上田市体育協会

“生涯健幸　元気都市うえだ”を目指して！
合併からの飛躍へ

上田市体育協会の歴史は古く、昭和３年に当協会の前身である「上田體育会」を設立、第二次世界大戦の混乱の中、昭和17年に終止符をうち解散した。その後、終戦を迎え、混乱の世情の中で国民が虚脱状態になっていた時、当市ではいち早くスポーツの振興を願い、あらゆる困難を排除してスポーツの興隆に立ちあがり、昭和21年に「上田市体育協会」を発足した。その後、野球・庭球・陸上・相撲をはじめ、新しい競技種目が次々に団体を形成し、当協会へ加盟するなど、スポーツを普及する様々な活動を進めてきた。昭和57年には、年々拡充される体

育施設の管理委託を見通し、岡谷市体育協会に次ぐ二番目の「財団法人」として、スポーツ振興事業のほかに、市民の森公園体育施設の管理運営などを新たに加え出発した。その後、平成４年に室内プールアクアプラザ上田、平成８年に上田古戦場公園などの施設管理を拡大してきた。平成18年３月には、上田市、丸子町、真田町、武石村の１市２町１村の合併があり、当協会としても各町村で活動していた体育協会との合併を試みたが、組織の性質の違いから合併申し入れの合意には至らなかった。しかし、平成22年に協議を再開し、各地域の活動を継承することで合意を受け、平成24年に丸子体育協会、真田町体育協会との統合、平成27年には武石スポーツ協会との統合を果たした。さらに、当協会の存在価値を高めるための方策として、「うえだスポーツ振興ビジョン」を策定、スポーツを通じたまちづくり“健幸元気都市うえだ”を掲げ、具現化に向け取り組んでいる。

平成29年には、当協会の今後のあり方を検討するための研究会が発足し、職員雇用、補助金、特定積立基金について、真剣に議論を行い、当協会として「補助金頼みの運営体質の改善のため、自主財源を確保することが必要」との答申をうけ、再び指定管理者として、令和３年市スポーツ施設管理へ参入することになった。今後、市スポーツ界の付託にこたえ、これまでの伝統を大切にしながらも新しい時代に即した組織運営を展開していくことになった。

■協会ビジョンの策定

目標１．体育協会の組織充実

上田市のスポーツ統括団体として、加盟団体と協力し組織の充実強化を図ります。

目標２．行政との連携強化

行政と体育協会が、それぞれのもつ役割を明確に分担し、協働により上田地域のスポーツ振興を展開します。

目標３．健康スポーツと競技スポーツの推進

体育協会は、ライフステージにそった７つの運動により、幼児から高齢者までを対象に健康スポーツを推進すると共に発展して競技スポーツの振興を目指します。

目標４．スポーツ少年団の充実

青少年の健全な身体と精神の育成を図り、子どもたち（団員）にスポーツの楽しさと生きる力等を育んでいきます。

目標５．体育施設充実に向けての取り組み

上田市の体育施設は、県内に先駆け昭和３年から順次設置されてきているため、いずれも老朽化が進んでいる。こうしたことから体育協会は、上田城址内にある体育施設も含めた大規模な体育施設建設構想及び建設計画の策定に向けて行政と協働して作業を推進します。

目標６．スポーツ観光・国内外スポーツ交流

スポーツを通じた地域活性化を目指し、上田市の歴史的遺産と自然を活かしたスポーツ観光イベントを開催し、観光振興・国際交流並びに上田市の発展の一助となります。

■沿革

昭和60年
- 創立40周年記念式典開催
- 市民の森スケート場オープン、市から施設管理を委託

昭和61年
- 上田市スポーツ少年団の設立、軟式野球スポーツ少年団を設立し登録（１団：団員28人）

昭和62年
- 第１回上田古戦場ハーフマラソン開催
- 創立40周年史発刊及び祝賀会を開催

昭和63年
- 市民の森公園の全施設の管理を受託
- スポーツ会館建設に向け積立金に着手

平成元年
- 第１回全日本生涯野球大会の開催
- スポーツ少年団登録数（15団：団員964人）

平成４年
- アクアプラザ上田（室内プール）オープン、施設受託開始
- スポーツ少年団広報誌「みどりの朝風」を創刊

平成５年
- 若林正五会長ご逝去協会葬を挙行

平成７年
- 創立50周年記念式典を開催

平成８年
- 上田古戦場公園、県営上田野球場の施設管理を受託
- スポーツ少年団設立10周年記念・小谷実可子氏スポーツ講演会を開催

平成９年
- 「市民健康体力つくりの日」活動を開始

平成10年
- スポーツ少年団登録数（24団：団員1,388人）

平成11年
- 県体育協会へ職員１名派遣

平成14年
・アジア近隣諸国青年研修会をスポーツ少年団で受入
・日独スポーツ少年団同時交流へ指導者を派遣
平成15年
・中村良隆氏スポーツ講演会
・スポーツ少年団登録数（32団：2,026人）
平成17年
・創立60周年記念式典・祝賀会を開催、湶純江氏基調講演会
平成18年
・上田市、丸子町、真田町、武石村の１市２町１村が合併し、新「上田市」発足
・スポーツ少年団創立20周年記念式典開催、吉松俊一氏講演会
・アクアプラザ上田、市民の森公園の指定管理者に選定される。
平成20年
・日独スポーツ少年団同時交流へ団員２名をドイツへ派遣
平成21年
・アクアプラザ上田、市民の森公園の指定管理者から撤退
平成22年
・丸子体育協会、真田町体育協会、武石スポーツクラブへ体育協会統合を申し入れ、統合に向け協議を開始、武石スポーツクラブについては、統合調整に参加しない意向を表明
平成23年
・東日本大震災に伴う義援金活動を開始、真田幸村公の縁で交流がある宮城県白石市、名取市、岩沼市、亘理町、山元町、南三陸町の３市３町を支援
・「うえだスポーツ振興ビジョン」を策定
・上田市スポーツ少年団創設25周（登録数42団2,214人）
・第１回シリーズスポーツ講演会を開催（講師：野口京子氏）
平成24年
・常勤専務理事と事務局職員１名を増強。
・丸子体育協会、真田町体育協会と統合、新生「上田市体育協会」がスタート、３体協統合ベントを実施。
・両角速氏スポーツ講演会を開催
・荻原健司氏スポーツ講演会を開催
平成25年
・「一般財団法人」へ移行
平成26年
・宮城県南三陸町の少年野球チームを迎えて復興支援交流交歓会を開催
・南三陸町体育協会来田、スポーツ少年団交流を実施

・山本昌邦氏スポーツ講演会を開催
平成27年
・武石スポーツ協会と統合
平成28年
・宮城県南三陸町へスポーツ少年団を派遣、スポーツ交流を実施
・上田市スポーツ少年団創設30周年記念誌発行
平成30年
・体育協会創立70周年記念、瀬古俊彦氏スポーツ講演会を開催
・スポーツ少年団登録数（48団1,685人）
令和元年
・台風19号災害により千曲川が氾濫、上田古戦場ハーフマラソンが初の中止となる。
令和２年
・スポーツ少年団登録数（48団1,589人）
令和３年
・上田古戦場公園の指定管理者となる

■組織

新公益法人制度改革による抜本的な見直しにより旧制度を改め、外部からの登用も加え、理事22名、評議員14名、監事２名とし、新たに加盟団代表者制を設け加盟団体からの意見聴取の場を設置。

加盟競技団体38団体、地区団体３団体、スポーツ少年団48団体

■役員

○会長
遠藤　利治　平成５年～平成12年
久保　忠夫　平成13年～平成22年
森　　大和　平成23年～令和２年
母袋　創一　令和３年～現在
○副会長
丸山登一郎　昭和58年～平成８年
遠藤　利治　昭和62年～平成４年
田辺　昭夫　平成５年～平成12年
岩草　　満　平成９年～平成12年
成澤　秀敏　平成13年～平成16年
柳澤　守彦　平成13年～平成22年
湶　　勉　平成17年～現在
増澤　延男　平成17年～現在

丸山　俊治　平成21年～令和２年
小林　秀男　平成24年～平成30年
木島　久文　平成24年～現在
下村　　栄　令和元年～現在
小林　哲夫　令和元年～令和２年
矢島富士雄　令和３年～現在

公益財団法人　岡谷市スポーツ協会

１　昭和63年までのあゆみ

「岡谷體育協會」の設立

昭和5.9.8「岡谷體育協會」が正式に発足、事務所を岡谷公会所内に置く。

会長に林新一郎、副会長花岡和人・中村百太郎

「岡谷市体育協会」の設立

昭和13.7.20「岡谷體育協會」が発展的解消し「岡谷市体育協会」が設立された。

初代会長に今井梧樓市長、副会長柳沢助役

「岡谷市体育協会」の組織改造

昭和20.4.1 第８代会長に林浩正市長が選任された。

これを機に市体協では規約改正、組織の再編等を通し現状にあった体質改善を行った。従来の部制による運営から部以外の協会・クラブなど独自の活動団体を統一し、また、区を代表する体育団体の加入を呼びかけた。その結果21団体と区体協11区の加盟が実現した。

「岡谷市体育協会」の財団法人化

昭和50.10.18 財団法人化のための企画委員会が発足。

財団法人化のねらいは、市民総参加のスポーツ活動を一層充実させるために市体協が行政と一体となって協力で広範な体育活動を推進する必要があった。 このためには現状の補助金や会費等による困難な運営から脱却し、公益を目的とした法人化をはかり、免税募金を可能にし、それによって生ずる基本財産によって確実な運営を図るというものであった。

昭和52.7.11 設立基金を最低目標1,500万円を決定、スポーツに理解をもつ市内事業所、スポーツ競技団体地区体協や一般市民に寄付の協力を呼びかけた。

昭和53.6.16 基金2,000万円で財団法人化の登記を完了した。（全国で９番目）

会　長　林泰章
副会長　平林三之助・林友蔵
専務理事　征矢才
常任理事　高林清高・高橋浩・小口悦司
理　　事　小口喜冨・大槻智恵子・千代馨脩・林敬為・大滝昭吉・小口大八・山下道広・花岡宏
監　　事　濱興祐・高橋司郎

（加盟団体）

競技団体（23）

軟式野球連盟、バレーボール協会、陸上競技協会、軟式庭球協会、庭球協会、卓球連盟、バドミントン協会、バスケットボール協会、ソフトボール協会、スケート協会、柔道協会、剣道協会、弓道協会、スキー協会、合氣会、水泳協会、ライフル射撃協会、山岳協会、空手協会、ライフル射撃協会、早起き野球会、レクリェーション協会、サッカー協会

地区体育協会（13）

今井、間下、岡谷、下浜、小尾口、上浜、新屋敷、小口、小井川、西堀、湊、川岸、長地

参加団体（１）

岡谷市スポーツ少年団

２　平成元年以降のあゆみ

平成17.12.6岡谷市綱引連盟の加盟を承認
平成18.4.1（財）岡谷市体育協会の事務局の自立
平成22.5.20岡谷フォークダンスクラブの加盟を承認

「甲府・岡谷スポーツ大会」発展的解消

平成23.10.23、昭和26年に「甲信駅伝競走」として開催され、本年で第42回（通算60回）となる歴史ある大会であるが、近年は少子化や大会数の増加、選手の固定化、高齢化、競技環境の変化等から大会への参加者（競技役員含む。）が年々減少している。

両市で対策を講じてきたが有効な改善策が見いだせないため協議の結果、節目である60回をもって終止することになった。

「財団法人から公益財団法人への移行」

平成18年６月に公布された「公益法人改革３法」が平成20年12月１日から施行され、現行の財団法人は特例民法法人となり、以後５年間（平成25年11月30日）の経過期間内に公益認定申請し、現行の財を受けて公益財団法人に移行するか、あるいは認可申請を行い一般法人へ移行するか、又は解散して法人格のない任意団体に移行するかが求められることになった。

当協会は、過去80余年（財団法人化32年）にわたり「アマチュアスポーツの健全なる振興と市民の体力の向上及び体育文化の進展を図ることを目的とする事業」を展開し、将来にわたって公益事業を継続することが求められていること等を総合し、現在保有する財産を活用しつつ、法的な制限は多いものの、税制上の優遇措置を受けられる公益財団法人へ移行すべきとの結論に至った。

平成23.5.18 平成23年度第１回理事会において決議
平成23.5.25 平成23年度第１回評議員会において決議
平成25.3.25 岡谷市ローラースポーツ協会脱退を承認
平成25.4.1　岡谷市漕艇協会の休会を承認

「公益財団法人岡谷市体育協会」の発足

平成25.1.17「長野県公益認定等委員会」において認定の基準に適合すると認められる。正式通知は４月１日登記に合わせ３月20日とした。

平成25.3.22「公益財団法人」として移行認定を受理
平成25.4.1「公益財団法人岡谷市体育協会」として発足

（役員）

会　　長　千代馨脩
副 会 長　林裕彦、野口行敏、松山武雄
専務理事　陸川和弘
常務理事　鮎澤憲通、宮坂健一、高林順三
理　　事　宮坂伸、尾崎孝、伊沢修一、上沼縁、荒井誠司
監　　事　花岡功浩、木下敏彦

（評議員）

新井憲次、小松憲三郎、北原桂子、寺島英雄、尾又順一、小口眞喜也、松浦盛明、伊藤祐臣、金子義雄、中松茂夫、宮坂勝次、今井光則、中島友義、小口九美雄、小口進、中島昭、高山修一、小口昌弘、吉原君子、宇治浩

「おかやファミリースポーツフェスティバル」中止

平成26.3.13「体育の日」の趣旨に基づき、スポーツを始めるきっかけ作りを目的にスポーツ中心で行ってきたが、今後は「スポーツに親しみ健康な心身を培う」新規事業を検討する。

平成26.5.16 岡谷市サイクリング協会脱退を承認
平成27.2.17 岡谷市ライフル協会脱退を承認
平成29.2.24 岡谷市体操協会の休会を承認

「災害時における飲料水等の供給に関する契約」

平成27.4.1 財政基盤の強化（収益事業：自主財源の確保）の一つとしてサントリービバレッジ（株）と市内において地震、風水害その他の原因による災害が発生し、又は、発生する恐れがある場合における飲料水等の供給に関し、自動販売機内の飲料水等を無償提供する。

また、岡谷市拠点の保有飲料水等を最大優先的に無償提供するという内容で協定を締結した。また、岡谷市とも災害時における飲料水等の供給に関する当協会が所有する自動販売機による商品販売に関して設置協定を行った。（平成27.4.1～平成30.3.31）

平成24.11.6 県に公益財団法人移行申請書を提出
平成26.5.16 岡谷市サイクリング協会脱退を承認
平成27.2.17 岡谷市ライフル協会脱退を承認
平成27.10.7「行政庁の立入り検査」を受ける。
平成28.4.5　岡谷市バドミントン協会脱退を承認
平成29.2.28 岡谷市ゲートボール協会の休会を承認
平成29.2.28 岡谷市バドミントン連盟の加盟を承認
平成30.9.5「行政庁の立入り検査」を受ける（第２回目）
令和1.12.24 姉妹都市富岡市に訪問し、台風19号災害義援金を届ける。

「公益財団法人岡谷市スポーツ協会」に名称変更

令和2.4.1「体育」から「スポーツ」という名称変更は、90年ぶりのものであり、本協会にとって大きな転換期をなすものである。「体育」から「スポーツ」の概念には大きな違いはなく、現在では「スポーツ」は体育や身体活動の概念を含むものと認識されるようになり「スポーツ」という表現が広く人々や社会に浸透している。また、当協会の上部団体（日本スポーツ協会、長野県スポーツ協会）や諏訪地方５市町村の動向をみても「スポーツ」に変更している。

「岡谷市スポーツ協会旗」の新調

令和2.2.26当協会は令和２年４月１日より協会の名称を「公益財団法人岡谷市スポーツ協会」に変わる。これを機に、旗のデザインを新調することになった。最終図案は中央印刷株式会社にお願いした。

令和2.7.30 岡谷市チアリーダー協会の休会を承認
令和2.10.1 当協会の広報誌「スポーツおかや」名称変更とホームページ刷新を図る。
令和2.12.22. 岡谷市議会（総務委員会）との懇談会
令和3.1.28.　岡谷市財政援助団体監査実施

「2028年度国民スポーツ大会」

長野大会へ岡谷市から代表選手を輩出するため、競技力向上事業補助金制度を創設する。

「コロナ禍の影響でスポーツイベント等が自粛」

令和２年度当初より新型コロナウイルスの感染症の影響を受けて活動の「自粛」を余儀なくされ、多くの大会や教室等が中止又は延期となり、事業活動において厳しい状況が続いた。（Ｒ３もいまだに続いている。）

公益財団法人 飯田市スポーツ協会

沿革

飯田市体育協会として発足したのは昭和24年４月１日、その後昭和31年に座光寺村・松尾村・竜丘村・三穂村・伊賀良村・山本村・下久堅村との合併。昭和36年に川路村と合併。昭和39年には龍江村・千代村・上久堅村と合併。昭和59年12月１日には鼎町（体育協会）と平成５年７月１日には上郷町（体育協会）と合併してきました。

協会も法人化する機運が昭和50年代終わり頃からありました。この時期はまだ無理な状況でしたが、一定の基金積み立てにより、そこから発生する利息収入等で運営したいという思いもあり、基本財産を積み立ててきました。そして幾多の研究会議等により煮詰め、平成６年９月22日任意団体である「飯田市体育協会」の解散総会等を行い、「財団法人飯田市体育協会」が発足しました。

平成17年10月１日には、上村・南信濃村との合併により現在の協会エリアとなりました。

また、一定程度財産のある法人について、「公益財団法人」か「一般財団法人」として今後活動するのが良いのかについて研究協議を行い、平成24年４月１日に「公益財団法人飯田市体育協会」としての活動となりました。

協会名称も「スポーツ」の流れの中で論議を経て、令和２年５月21日から「公益財団法人飯田市スポーツ協会」と名称変更をして現在に至っています。

また、事務局も従来から飯田市役所に設置していたが、市役所の建替えにより平成27年より飯田市勤労青少年ホームの一室が事務所と活動拠点になりました。

特徴的活動

〇中央道沿線都市親善スポーツ大会

昭和56年度に本体育協会の30周年事業の一つとして、中央自動車道を利用して飯田でスポーツ活動を通じて交流を図ろうとして、「中央道沿線都市親善スポーツ大会」を開催しました。当初は２日間で７種目1,542名の参加があり盛大に行われました。その後種目も増え、期日も種目ごとの開催となり、平成30年度には９日間、11種目、4,568名参加と規模も大きくなり、現在でも協会の主要な事業として充実開催に努めています。

スポーツ振興ビジョン

2027年リニアエクスプレスの長野県駅（仮称）が飯田市に設置されることにより地域全体が今までの「伊那谷」の生活から、東京・名古屋がほぼ一直線に、どちらの都市へも１時間以内に結ばれることにより大きな変化が訪れようとしていることから、スポーツ界においてもそれを見越したビジョンを打ち立てそれに沿って活動することとなりました。

〇ビジョン策定

リニアエクスプレス開通（2027年）後までに体協活動を含めてどのような手立てが必要か等について、平成27年６月から７回の「スポーツビジョン検討員会が開催されました。

その結果、基本理念として「スポーツ文化推進による元気な南信州の構築」とし、目標年次を「2027年」、体系として

①市民のための体育協会
②スポーツ施設環境向上
③スポーツ統括団体としてのリーダーシップ
④財政基盤の充実
⑤地域団体との連携

の５つの柱を設けて活動することとしました。

〇ビジョンの実行活動

・みなみ信州駅伝・ロードレース大会

リニアエクスプレス開通までに当地域がスポーツで発信できる事業として平成28年11月に第１回みなみ信州駅伝・ロードレース大会を創設し、この大会がより充実し全国に発信できるような大会を目指しています。

この大会は加盟各種目競技団体関係者が競技団体個別の活動をひかえ、大会を体協主催行事として一緒に開催運営している大会となっています。

・多目的体育館実現に向けた活動

スポーツ環境の向上は常に課題の一つとなっていますが、とりわけ体育館の建設について昭和50年代後半から平成の初めにかけて気運が盛り上がり、一旦は建設に向けた検討に入ったが、建設には至らなかった経過がありました。

そこで日本のほぼ中央である当地域に多目的体育館（アリーナ）を建設し、全国からのスポーツ愛好家にも満足出来る施設建設を目指した活動を行い、25千余名の署名による要請を南信州広域連合長へ致

しました。

莫大な金額が必要になる案件であることから結論は出ていませんが、他の団体等と連携して建設に向けた活動を続けています。

・財政基盤の充実に向けた活動

財政基盤の充実はどうしても弱い部分があり、毎年基金を取り崩しての運営をしてきた経過もありました。

平成30年度から飯田市有施設である「飯田市総合運動場、飯田勤労者体育センター、飯田市勤労青少年ホーム」の指定管理を担い、体育協会業務と指定管理業務を双方兼務しながら業務効率を図り、１期（３年）を経て２期（５年）目の業務を進めています。その結果、基金を取り崩しての運営が無い状況になってきました。

今後の課題

・競技人口の減少

市民がスポーツに親しめる環境を整えるためにスポーツ協会が出来ることを提供し、元気な生活を営んでもらえるような方向を目指しています。とりわけ小学生においては体力的に全国平均を下回っている状況もあります。また中学生期では、全市型競技別スポーツスクールとして、協会は競技指導を主体に担い教育委員会と進めています。

R2.3年の新型コロナウィルス感染症に際しては、学校スポーツへの制限もあり、活動者数の減少がみられました。そして大人のスポーツ活動も制限があることから必ずしも高まっていない状況もあります。

・競技団体担い手と指導者不足

スポーツ活動を活発に推進するには、良き指導者と競技団体の活動の活発化が大きな要因となっていますが、若者が経験してきた競技を続け、一線競技者から指導者として競技の普及・強化を行えるような担い手不足と競技団体組織の運営に携わりスポーツ活動を広めていく担い手が高齢化している状況があります。

令和元年度　107チーム出場の駅伝スタート

組織代表者等

1　会長
松沢　太郎　Ｓ63年～
田中　秀典　Ｓ64年～
牧野　光朗　H18年～
佐藤　　健　Ｒ２年～

2　副会長
福島　　稔　Ｓ63年～Ｈ３年
今井　孝二　Ｓ63年～Ｈ６年
松尾　　豊　Ｓ63年～H15年
吉沢　睦美　Ｓ63年～H19年
小林恭之介　Ｈ４年～Ｈ６年
吉川　國光　Ｈ７年～H15年
矢島　秀次　H16年～H22年
川井　重明　H16年～H22年
土屋　章尋　H20年～H23年
北沢　豊治　H20年～H22年
矢澤　章弘　H23年～H31年
康野　公則　H23年～現在
浦野　　智　H23年～H30年
田中　　進　H23年～H23年
H24年度から代表理事が組織代表者

3　代表理事
土屋　章尋　H24年～
榊山　俊彦　H28年～
森山　和幸　Ｒ２年～

諏訪市スポーツ協会

諏訪市スポーツ協会

１．沿革

昭和16年８月、豊田、四賀の両村を合併して諏訪市となり、それまでの上諏訪体育協会が諏訪市体育協会として新発足したが、太平洋戦争により活動が中止、昭和20年８月の終戦により各スポーツ部門が発足したことを機に、21年９月、諏訪市体育協会再設立準備会が設けられ、翌年２月に諏訪市役所において再発足した。

その後、加盟協会の増加と諏訪市社会教育の振興を願って、昭和24年７月「諏訪市体育連盟」と名称を改め、役員も全員が体育経験者が選任されることとなった。

昭和27年教育委員会が設置されるとともにともに、事務局を教育委員会内に移し、事務局長に社会体育係長を任命、昭和55年市庁舎内に体育連盟室設置が許可されたのを機に事務職員を採用し、諏訪市体育連盟としての自主的運営に踏み切った。

平成12年に「県レベルのスポーツ大会開催が困難な諏訪市の体育施設には、総合体育館の建設が必要と打ち出した新会長の会長方針のもと、翌13年に「総合体育館建設プロジェクトチーム」を発足させ、同年12月に計画図を作成し「諏訪市総合体育館建設に関する要望書」を諏訪市に提出したが、14年10月「諏訪地域６市町村任意合併協議会」の設置がなされ、以降合併協議のため中断となり、立ち消えとなってしまった。

平成18年３月、平成大合併の協議が破綻した後の諏訪市総合計画に盛り込むべく、平成13年の「諏訪市総合体育館建設に関する要望書」踏まえて、「諏訪市総合体育館建設推進委員会」を体育連盟の専門委員会として設置し改めて建設の実現を図り、以降２年に一度の視察等も推進して市長要望にも盛り込むと同時に建設推進の提案を進め、平成29年以降は建設地を「旧東洋バルブ工場跡地」として､同地で従来開催されてきた「諏訪圏工業メッセ」にも利用可能な「多目的体育施設」建設の推進を提案してきている。

この間、合併協議破綻以降の財政状況等も踏まえて、体育連盟の「法人化」の検討も継続して実施するとともに、平成30年の「体育連盟」から「スポーツ協会」への名称変更にあたっては、加盟各協会の意向等のアンケートを実施し、平成31年４月から「諏訪市スポーツ協会」へと改称し、同時に発足以来の「協会旗」も新たに選定して、「笑顔輝くスポーツの力で賑やかな街づくり」をコンセプトに事業推進を図っている。

２．組織

①競技団体　　33団体

野球、バレーボール、スケート、陸上競技、バスケットボール、ソフトテニス、山岳、バドミントン、水泳、卓球、スキー、剣道、柔道、弓道、空手道、グライダー、ボート、テニス、サッカー、セーリング、オリエンテーリング、ソフトボール、ゴルフ、ゲートボール、ボーリング、マレットゴルフ、カーリング、ペタンク、エースドッジボール、合気道、ノルディックウォーキング、ダンススポーツ、太極拳

②傘下スポーツ少年団　13種目21団

軟式野球（５団)、バレーボール（３団)、サッカー、バドミントン、卓球、柔道（２団)、剣道（２団)、空手道、スキー、ヨット、新体操、武道空手、少林寺拳法

③組織

理事会、常任理事会、総務委員会、事務局

④役職

会長・副会長（２）・理事長・総務委員長・総務委員・監事（２）顧問（参与）

３．事業

①団体の育成強化

⑴　組織の強化と指導体制の確立
⑵　財政基盤の強化
⑶　各協会事業の充実・各種大会の開催
⑷　競技力向上の推進
⑸　スポーツ人口の底辺拡大
⑹　協会対話の推進

②スポーツ施設の充実

⑴　多目的体育施設建設の推進
⑵　現有施設の改善促進（現体育施設及び学校施設の改善）
⑶　耐震に伴う施設の見直し

③市民体育振興

⑴　市民スポーツ祭の開催
⑵　各種スポーツ教室の振興
⑶　スポーツ指導者の育成
⑷　市民体力づくり運動の推進
⑸　生涯スポーツの推進
⑹　社会体育と学校体育の連携強化
⑺　すわっこランド施設の有効活用

④2028長野国民スポーツ大会

（国体）開催に向けての選手育成と各種競技会の誘致

⑤スポーツ少年団の育成強化

⑥スポーツ協会組織の充実強化

⑴　法人格の研究
⑵　広域体育活動の推進

⑦開催事業への協力

⑴　市教育委員会の体育振興瀬策への協力
⑵　諏訪地方スポーツ協会連絡協議会の事業への協力
⑶　長野県スポーツ協会の事業への協力

４．役員

①　歴代会長

・宮坂　作衛・山中　助蔵・金井　汲治・塩原　渕・宮坂　伊兵衛・藤森　清一朗　（昭和７年～18年）
・宮坂　勝衛・塚原　葦穂・平林　安幸・三沢卓三郎・浜　田美蔵・茅野　耕一（昭和21年～28年）
・伊東　忠蔵（昭和28年～32年）
・小池　花男（昭和33年～40年）
・北沢　淑夫（昭和41年～51年）
・岩波　啓富（昭和51年～平元年）
・土橋　道治（平成２年～11年）
・太田　信男（平成12年～13年）
・岩波　章八（平成14年～18年）
・佐久　秀幸（平成19年～現在）

②　副会長

・小松　直治・林　虎雄（昭和７年～18年）
・宮坂　勝衛・伊東　忠蔵・藤原　正男・笠原　武次・矢島　敏晴・金沢　正巳（昭和24年～40年）
・飯塚　勝敏（昭和41年～61年）

・関　　勝（昭和41年～43年）
・土橋　道治（昭和50年～平成元年）
・立木　正純（昭和51年～平成11年）
・藤原　綱夫（昭和61年～平成10年）
・太田　信男（平成２年～11年）
・有賀　　裕（平成10年～13年）
・河西　　勇（平成12年～13年）
・北澤　忠義（平成12年～13年）
・山田　一六（平成14年～19年）
・小松　修治（平成14年～21年）
・有賀　文夫（平成14年～現在）
・松木　則好（平成20年～21年）
・藤森　節徳（平成22年～令元年）
・今井　幸寿（平成22年～23年）
・塩原　晴彦（令和２年～現在）

③理事長

・大堀　高志（昭和24年～26年）
・河西　　勝（昭和31年～33年）
・土井　卯八（昭和33年～34年）
・松沢　国夫（昭和35年～40年）
・河西　　勝（昭和41年～47年）
・藤原　綱夫（昭和47年～61年）
・土屋栄三郎（昭和61～平11年）
・今井　正喜（平成12年～15年）
・牛山　　孝（平成16年～19年）
・堀田　　実（平成20年～27年）
・名取　功夫（平成28年～現在）

一般社団法人　須坂市スポーツ協会

１　体育協会の設立と市民スポーツの発展

須坂市スポーツ協会は、昭和22年２月、須坂町体育協会として設立され、昭和29年、市政施行に伴い須坂市体育協会に改称された。

昭和30年代は、各競技協会がそれぞれの自主的活動により、市長杯や市民対抗競技会等を開催し成長した。特に昭和39年の東京オリンピック以降は高度経済成長と社会の安定に伴ってスポーツが学校教育だけではなく、職場や地域社会へ大きく広がり発展した。

昭和45年、須坂園芸高校、昭和46年、須坂商業高校の野球部が２年続けて夏の甲子園に出場し、市民を大いに沸かせた。

昭和52年、全日本卓球選手権大会に富士通須坂工場チームが出場し第２位を獲得した。

昭和53年､本県において「やまびこ国体」が開催され、須坂市では卓球競技とバスケットボール競技が開催された。

昭和56年には墨坂中学校女子バレーボール部が全国制覇を成し遂げた。

これら市内チームの活躍や国体の経験は、市民のスポーツへの関心と参加意欲を更に高め、各競技団体発展の原動力となった。

２　昭和60年代からの協会のあゆみ

昭和61年、加盟団体から募集した作品から市章の中に「スポーツで鍛えた健康な体」を象徴する体育協会のシンボルマークを選定した。

昭和62年、体育協会創立40周年に当たり「須坂市体育協会史」の編纂事業が進められた。

昭和63年、当市出身高橋有紀子氏がソウルオリンピックバレーボール競技に出場し第４位を獲得。平成４年のバルセロナオリンピックでは、同競技第５位。また同氏は、平成８年のアトランタオリンピック、平成12年のシドニーオリンピックのビーチバレーボール競技に出場し、第５位と第４位を獲得した。

平成８年度から平成20年度の間、体育協会は須坂市社会体育施設窓口業務を受託した。

平成９年、体育協会創立50周年を記念して、積水化学工業女子陸上部監督小出義雄氏による講演会､記念式典･祝賀会を挙行し、県民須坂運動広場入口に「脩己以敬（しゅうこいけい）」の記念碑を建立した。

平成14年、須坂市社会体育施設の利用団体と体育協会加盟団体は連名で、須坂市長、須坂市議会議長宛て「須坂市総合体育館建設実現に関する陳情書」を提出するが、市は須坂富士通の閉鎖等経済情勢の悪化により「総合体育館建設は一時凍結する」ことを決定した。

平成18年、本県で「北信越国体」が開催され、市民体育館において卓球競技が行われた。

平成19年、体育協会創立60周年記念事業として、信州大学副学長藤沢謙一郎氏の講演会と記念式典・祝賀会が挙行された。

平成21年、体育協会事務局を市民体育館から須坂市勤労青少年ホーム創造の家に移転した。

平成23年、東北地方太平洋沖地震と長野県北部地震の巨大災害が発生し、体育協会は加盟団体と協力して義援募金に取り組んだ。

平成24年､総合型地域スポーツクラブ｢いきいきスポーツクラブすざか」が設立され、事務局は体育協会事務所内に置かれた。同年、日本体育協会のキャンペーンに賛同し「フェアプレイで須坂を元気に」宣言を行った。

平成26年、総合型地域スポーツクラブへの補助金が年々減少する中、運営困難のため同クラブは解散となった。

平成27年、体育協会は市から創造の家の指定管理（第１期）を受託した。

平成29年４月、一般社団法人須坂市体育協会が発足。同年、体育協会創立70周年を記念して「須坂市体育協会のあゆみ」が刊行され、シンクロナイズドスイミング日本代表ヘッドコーチ井村雅代氏による講演と記念式典・祝賀会が挙行された。

平成31年、当市出身アジア大会セパタクロー競技銀メダル、小林裕和氏講演会を開催した。

令和元年５月、法人の名称を一般社団法人須坂市スポーツ協会に改めた。

令和２年､創造の家の指定管理（第２期）を受託した。

３　組織体制について

一般社団法人須坂市スポーツ協会は現在、加盟24競技団体により組織されている。

役員は理事の中から、会長１名、副会長４名、専務理事、常務理事各１名が選任され、市文化スポーツ課担当者、市スポーツ推進委員等学識経験者、加盟競技団体から選出された理事24名、代議員24名、監事２名から成り、顧問・参与の他、専門委員会が併せて設置されている。

４　加盟競技団体（令和４年３月31日現在）

陸上競技協会　野球協会　スキークラブ　バレーボール協会　バスケットボール協会　卓球協会　柔道協会　剣道連盟　弓道会　ソフトテニス協会　ソフトボール協会　スポーツ少年団　空手協会　水泳協会　テニス協会　サッカー協会　バドミントン協会　ゲートボール協会　マレットゴルフ協会　ダンススポーツ協会　ママさんバレーボール連盟　太極拳協会　ウオーキング協会　ソフトバレーボール連盟

５　歴代役員（昭和60年代以降）

⑴　会長

田中　太郎　昭和59年度～平成５年度
岩崎　忠三　平成６年度～ 平成17年度
橋本　和江　平成18年度～平成19年度
山際　荘一　平成20年度～平成21年度
傳田　明康　平成22年度～現在

⑵　副会長

養田　正義　昭和45年度～昭和62年度
北村善三郎　昭和49年度～平成３年度
青木　信夫　昭和51年度～平成３年度
中沢　　允　昭和53年度～平成３年度
遠藤　利男　昭和61年度～平成３年度
岩崎　忠三　昭和63年度～平成５年度
押鐘　　昭　平成４年度～平成９年度
青木　周一　平成４年度～平成17年度
大峡　栄治　平成４年度～平成17年度
中村　理一　平成４年度～平成17年度
大久保俊弘　平成６年度～平成12年度
橋本　和江　平成10年度～平成17年度
森山　茂勝　平成13年度～平成19年度
山際　荘一　平成16年度～平成19年度
堀内　孝人　平成18年度～平成26年度
傳田　明康　平成20年度～平成21年度
坂田　雅幸　平成20年度～平成23年度
根岸　正喜　平成20年度～平成21年度
目黒　昭伸　平成22年度～平成28年度
菊池　健造　平成22年度～現在
渡辺　利夫　平成24年度～平成25年度
原　　信行　平成26年度～現在
永藤　　聡　平成28年度～現在
北島　邦造　平成30年度～現在

⑶　理事長（平成29年度から専務理事）

岩崎　忠三　昭和53年度～昭和62年度
中村　理一　昭和63年度～平成３年度
大久保俊弘　平成４年度～平成５年度
山小　貴治　平成６年度～平成11年度
山際　荘一　平成12年度～平成15年度
堀内　孝人　平成16年度～平成17年度
傳田　明康　平成18年度～平成19年度
目黒　昭伸　平成20年度～平成21年度
渡辺　利夫　平成22年度～平成23年度
原　　信行　平成24年度～平成25年度
北島　邦造　平成26年度～平成29年度
湯本　剛文　平成30年度～現在

⑷　副理事長（平成29年度から常務理事）

田幸　信治　昭和53年度～昭和62年度
山崎　良二　昭和63年度～平成３年度

山小　貴治　平成４年度～平成５年度
坂口　光男　平成６年度～平成７年度
山際　荘一　平成８年度～平成11年度
堀内　孝人　平成12年度～平成15年度
傳田　明康　平成16年度～平成17年度
根岸　正喜　平成18年度～平成19年度
渡辺　利夫　平成20年度～平成21年度
永藤　　聡　平成22年度～平成27年度
小山　弘子　平成28年度～現在

一般財団法人 小諸市体育協会

北に活火山“浅間山”、南に清流“千曲川”……この詩情豊かな街「小諸」…戦前はスポーツが盛んで、多くのグループが活発に活動していたが、敗戦によりこれらの運動が中断されていた。

昭和21年から23年にかけて、敗戦の混乱と生活苦の中からスポーツを通じて住民に夢と活力をと、運動グループ再建の息吹が胎動、地域のスポーツ指導者と行政の協調により着々と再建に向けて運動グループ組織化への努力がなされ、体育協会設立への準備が進められた。

昭和25年には町営グランドが建設され、これを契機に全小諸野球チームが結成され、また小諸柔道クラブ、小諸山岳会が発足し体育協会設立に向けての基盤整備がなされた。

ここでいよいよ、すでに発足していた野球・卓球・バレーボール・軟式野球・バスケットボール・柔道・剣道・弓道・陸上・水泳・相撲・山岳・スキーの13団体との協働により「小諸町体育協会」が結成された。これにより各種のスポーツ行事も盛大に開催され、住民のスポーツに対する参加意欲も大いに高まった。

昭和29年４月に町村合併による市制施行に伴い、合併５ケ町村の代表者会議を開催し、「小諸市体育協会」に名称変更し、この年市制施行記念行事として、第一回市内一周駅伝大会を実施、市民総参加によるスポーツ促進を指向した。

小諸市駅伝大会

身障者ニュースポーツ大会

昭和39年、この年東京オリンピックが開催され、10月15日には全市民参加による聖火リレーを実施。また、待望の市営球場が唐松に完成し、その球場開きが行われるなど、施設充実の年でもあった。

昭和43年ころには、各部の活動も年を追うごとに充実し、市民のスポーツ参加への働きかけを促し、さらに天池総合運動場の整備が進展し、スポーツ施設整備拡大への槌音が浅間嶺に響き渡り、スポーツ振興の拠点として多くの市民の期待を集めた。

昭和44年、いよいよ天池総合運動場（野球・陸上・テニス・バレーボール・サッカー）が完成。 この年は市制施行15周年にもあたり、記念行事として「第一回市民運動会」を開催。二千余名が参加のもと盛大に開催され、施設整備とあいまって「小諸スポーツ元年」ともいえる年であった。

昭和47年には、時代を反映しボーリング熱が高まり、ボーリング部が誕生し新しいスポーツへも分野を広げた。また、滑川市との姉妹都市スポーツ交流が、野球・硬式テニス等各部事業として実施された。

昭和51年、長野県体育協会よりスポーツ功労賞が小諸市体育協会へ授与され、翌年には社会体育優良団体として文部大臣表彰を受賞した。この年、大磯町体育協会が姉妹都市交流のため小諸市を訪れた。

昭和53年「やまびこ国体」が長野県下で開催され、小諸市では「レスリング競技」が開催実施、その会場として、永年の懸案であり待望久しかった「総合体育館」が完成、市民一丸となって国体の運営と成功に向けて取り組んだ結果、無事その任を果たすことができた。

昭和56年、広報活動として市民スポーツ啓蒙を期し「小

諸体育協会報」発行開始。これは現在も市内全戸配布で継続している。

昭和58年には、永年の懸案であった「武道館」が完成し三武道（柔道・ 剣道・弓道）の振興鍛錬の場として盛大にオープンニングを行った。

昭和59年、南城公園に市民プール（流水プール・こどもプール）が完成、賑わいをみせた。平成61年には待望の五十メートルの公認プールが南城運動公園に完成し、日本のトビウオ古橋広之進元日本水連会長（元JOC会長）を招き盛大に竣工落成を祝った。

平成63年、乙女湖公園に人工芝のゲートボール場３面と夜間照付テニスコート８面が完成し、若者から高齢者の白球を追う姿で大いに賑わった。平成元年、スポーツ少年団の体協加盟により20団体の組織となる。この年、南城運動公園野球場が完成、よって小諸市の体育施設が一通り完備となった。

平成４年、体育協会創立40周年を記念し「小諸市体育協会誌」を発行。平成17年には体育協会創立50周年を記念し「小諸市体育協会誌」発行。

平成27年、任意団体より法人格を取得「一般財団法人小諸市体育協会」として組織替を実施した。尚、令和３年４月より、小諸市総合体育館他の小諸市体育施設の指定管理を再開している。

小諸市オープン綱引大会

大磯町スポーツ交流

現在 構成団体数25団体 協会員1500人余で活動中

令和３年度 加盟団体

野球部　バレーボール部　ソフトテニス部　卓球部　柔道部　剣道部　弓道部　陸上部　水泳部　レスリング部　空手道部　バトミントン部　ソフトボール部　アーチェリー部　ゴルフ部　マレットゴルフ部　エアロビクスダンス部　太極拳部　グラウンドゴルフ部　テニス部　空道部　フットサル部　スポーツ吹矢部　少林寺拳法部　スポーツ少年団（以上25団体）

スポーツ少年団

小諸少年柔道　小諸キッズレスリングクラブ　小諸市サッカー　美南ドリームズ　空手道示現館　小諸ジュニア駅伝クラブ　わんぱくキッズ　小諸東ミニバスケットボールクラブ　アーチェリークラブ　少林寺拳法小諸　（以上10クラブ　団員350名）

伊那市スポーツ協会

■組織

本協会は33の競技団体と、スポーツ推進委員会、地区公民館の全44団体の加盟により組織しており、事務局を伊那市文化スポーツ部内に設置して運営している。

⑴　役員構成

会長　１名、副会長 若干名、理事長　１名、副理事長 若干名、常任理事 各部会の長・各地区１名、理事 各部会・各地区４名以内、監事　２名、事務局長　１名、幹事 若干名

⑵　加盟団体（44団体）

野球部、陸上部、バレーボール部、バスケット部、ソフトボール部、ソフトテニス部、硬式テニス部、卓球部、バドミントン部、剣道部、弓道部、柔道部、スキー部、スケート部、山岳部、水泳部、スポーツ少年団、少林寺拳法部、ラグビー部、馬術部、サッカー部、ゲートボール部、綱引部、マレットゴルフ部、ゴルフ部、ソフトバレー部、太極拳・気功部、トリムバレー部、カヌー部、合気道部、海洋部、パターゴルフ部、空手部、フットサル部、スポーツ推進委員会、伊那公民館、富県公民館、美篶公民館、手良公民館、東春近公民館、西箕輪公民館、西春近公民館、高遠町地区、長谷地区

■歴代役員

＜旧伊那市＞

会　長　原　　久夫（昭和61年～平成６年）

唐澤　茂人（平成６年～平成７年）
小坂　樫男（平成８年～平成18年）
副会長　宮下　安人（昭和61年～平成７年）
保科　恭治（平成７年～平成15年）
北原　　明（平成15年～平成18年）
理事長　神田　福治（昭和60年～昭和63年）
所沢　千秀（平成元年～平成16年）
阿部　凱人（平成17年）

＜旧高遠町＞
会　長　北原　三平（昭和54年～平成12年）
伊東　義人（平成12年～平成18年）
副会長　向山　幹男（昭和54年～平成２年）
伊藤　敏男（昭和54年～平成５年）
堀井　英雄（昭和59年～平成２年）
山川　　廣（平成２年～平成９年）
唐沢　千春（平成２年～平成６年）
高嶋　好文（平成６年～平成９年）
中原　長昭（平成９年～平成18年）
北村　勝彦（平成９年～平成14年）
矢野やよ江（平成14年～平成18年）
理事長　原　　浩（昭和54年～平成18年）

＜新伊那市＞
会　長　小坂　樫男（平成18年～平成22年）
白鳥　　孝（平成22年～現在）
副会長　北原　　明（平成18年～平成22年）
久保村清一（平成22年～平成26年）
北原　秀樹（平成26年～平成30年）
笠原　千俊（平成30年～現在）
理事長　阿部　凱人（平成18年～平成26年）
伊藤　易明（平成27年～平成31年）
伊藤　直人（令和２年～現在）

■あゆみ（昭和63年～令和２年）

スポーツの振興に伴い、様々な競技において活動が活発化する中、本会への加入を希望する競技団体を随時迎えてきた。ゲートボール部（平成元年）、綱引部（平成４年）、マレットゴルフ部（平成８年）、ゴルフ部（平成９年）、ソフトバレー部（平成10年）、太極拳･気功部（平成11年）、トリムバレー部、カヌー部（平成14年）、合気道部（平成18年）、フットサル部（平成21年）。昨今、新しい競技も次々と誕生しており、スポーツがますます活性化、多様化する中で、今後も随時加入希望団体を受入れ、一層のスポーツ振興に寄与していきたい。

・記念事業

旧高遠町体育協会では、平成15年５月に創立25周年を記念して、全日本女子ソフトボールチーム監督宇津木妙子氏を招いて講演会を開催した。

・市町村合併（平成18年）

平成18年３月30日に、伊那市、高遠町、長谷村の３市町村が合併して新伊那市が誕生した。体育協会については旧伊那市と旧高遠町に組織されており、協議の結果、高遠町体育協会が解散して伊那市体育協会に合流することとし、各部・関係団体同士が合併したほか､伊那市体育協会になかった競技団体(海洋部、パターゴルフ部、空手部)、高遠町公民館、長谷公民館を新たに加盟団体に迎えることとなった。また、併せて、伊那市体育協会会則の見直しを行い、各地区代表・各部代表・関係団体ごとに選出する理事の定員を３名以内から４名以内に増員、副理事長も４名から５名体制に拡充し、協会の運営に３市町村の関係者が広く参画できるよう体制を整え、平成19年４月に新たな伊那市体育協会として出発した。

・組織名称変更（平成31年）

スポーツが広く人々や社会に浸透する中、本協会では、スポーツを振興し、その価値を高める役割を担ってきた。社会のスポーツへの関心や期待がますます高まっていく中で、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツという文化を後世に継承していくには、本会の名称を「伊那市スポーツ協会」に変更することがよりふさわしいと考え、平成31年４月１日をもって協会の名称を伊那市体育協会から伊那市スポーツ協会に変更した。

・全国規模の大会運営、招致

昭和53年に長野県の高校新人駅伝大会として始まった「春の高校伊那駅伝」は、令和３年３月の大会で男子44回、女子37回を迎え、今日では県内外の強豪校を含む多くの高校が参加する全国規模の高校新人駅伝大会として定着している。この大会は市内に大規模な交通規制をかけることから人員が多数必要で運営も非常に困難であるが、本協会陸上競技部をはじめ、加盟各部・各団体が協力し、大会の成功に貢献しているところである。令和３年３月28日には市道環状南線が開通し、今後も市道環状北線や伊那バイパスなどの新しい道路が開通予定である中、それらの道路を活用し、より多くの高校に参加していただける素晴らしいコースの設定が今後期待される。

また､伊那市では「ソフトボールのまち」として、長野県ソフトボール協会の事務局が伊那市役所内に席を置く中、昭和53年に長野県で開催された第33回国民体育大会「やまびこ国体」にて、伊那市、高遠町、南箕輪村合同でソフトボール会場を運営した経験を基に、毎年、伊那市に全国規模のソフトボール大会を数多く招致し、本協会ソフトボール部も全面的に運営に協力している。2028年に長野県で開催される第82回国民スポーツ大会、第27回全国障害者スポーツ大会では伊那市が再びソフトボール競技の大会会場に内定していることから、今後も引き続き全国規模の大会運営に協力し、国民スポーツ大会に向けた機運を醸成していきたい。

■今後の課題

近年、新しいスポーツが次々と誕生し、多種多様なスポーツの活動団体が増えており、隆盛な競技においては団体数も多い。このため、各団体が活動するにあたり体育施設の利用希望が重なることが多く、調整に苦慮している。

また、自家用車による移動頻度が高い今日においては、規模の大きい大会が開催される際には駐車場が不足することも多く、隣接する野球用グラウンドを駐車場として使用する場合があるなど、本来の体育施設の利用用途から外れた嘆かわしい状況も見られる。

伊那市の財政的余裕は多くはなく、既存体育施設の維持管理にも多額の費用を要する中、体育施設の新設は極めて困難なものと思われるが、今後、より一層のスポーツ振興を図るためにも、有利な財源の活用、近隣市町村との協力等による体育施設整備の充実が望まれる。

駒ヶ根市スポーツ協会

１　沿革

【目的】

⑴　スポーツ振興及び市民の体力向上
⑵　アマチュアスポーツ精神の高揚
⑶　スポーツを通じた心身の健全なる発達と明るく豊かな市民生活の形成

【事業】

⑴　アマチュアスポーツ精神の徹底
⑵　市民の体力向上及び競技者の技術力向上
⑶　加盟団体の強化発展と相互の連携
⑷　各種体育大会、講習会の開催及び援助
⑸　スポーツに関する施設（設備）の調査研究
⑹　広報活動によるスポーツの普及
⑺　対外的行事への競技者派遣
⑻　スポーツ功労者の表彰
⑼　その他必要な事業の執行

【役員】

会　　長	１名
副 会 長	若干名
理　　事	若干名
内　理事長	１名
副理事長	２名
評 議 員	若干名
監　　事	３名

【加盟団体】（20団体）

陸上、野球、ソフトボール、ソフトテニス、バレーボール、卓球、バドミントン、バスケットボール、弓道、柔道、剣道、ホッケー、テニス、アーチェリー、ゲートボール、綱引、マレットゴルフ、太極拳、アマチュアゴルフ、スキー

【歴代役員】（昭和63年以降）

〈会長〉
中原　正純（昭和63年～平成19年）
北村　四郎（平成20年～26年）
林　　憲明（平成27年～現在）

〈副会長〉
小池　　深（昭和55年～平成元年）
北澤　良男（昭和62年～63年）
清水　　一（昭和63年～平成８年）
澁谷　光弘（平成元～２年、５～８年）
木下　貞治（平成２～４年、９～16年）
大沼　一隆（平成３年～４年）
穂髙　四郎（平成５年～10年）
松﨑　隆道（平成５年～12年）
清水　博人（平成９年～18年）
山下　善廣（平成11年～18年）
北村　四郎（平成13年～19年）
赤須　和彦（平成17年～26年）
小山　典男（平成19年～20年）
城田　忠承（平成21年～26年）
林　　憲明（平成25年～26年）
後藤　正一（平成27年～現在）
小出　洋平（平成27年～令和２年）
堀内　英昭（平成27年～現在）
西村　　稔（令和３年～現在）

〈理事長〉
松﨑　隆道（昭和51年～平成４年）
小山　典男（平成５年～18年）
大井　初己（平成19年～22年）
氣賀澤德義（平成23年～26年）
武藤　文明（平成27年～30年）
髙仲　成人（令和元年～２年）
下島　　修（令和３年～現在）

２　あゆみ

【創立】

当市では、古くからスポーツが盛んであり、昭和22年以降各地区で体育協会が設立されていく中で、昭和29年

合併による「駒ヶ根市」誕生に伴い、市全体のスポーツ振興の中枢として「駒ヶ根市体育協会」が設立された。

【経歴】

創立当初（野球部、陸上部、庭球部、籠排球部、スキースケート部、卓球部、山岳部、柔剣道部、弓道部、水上部）から、スポーツの多様化に伴い、加盟や脱退がある中で現在では20団体が加盟している。

各部ごとに自主事業開催や他大会出場など活動を盛んに行っており、全国大会にも多数出場し優秀な成績も多数収めており、スポーツ振興に寄与している。さらに、市民対象に事業開催及び激励金交付等を行い、市民の「人づくり」「健康づくり」「まちづくり」に貢献している。

平成16年には設立50周年を迎え、記念事業として元オリンピック選手の大林素子氏を招いた講演会を開催した。

令和元年には、「スポーツ」が体育や身体活動の概念を含むものと認識され、スポーツへの関心や期待が高まる中、多くの人々のスポーツ参画を促し、スポーツ文化を後世に継承していく組織として相応しくなるよう、名称を「駒ヶ根市スポーツ協会」に変更した。

【主要事業】

〈市民総合体育大会〉

昭和48年に県の県民運動競技大会に呼応して、第１回市民総合体育大会が開催され、以降現在まで継続している。「地区対抗」「個人」「オープン」の３種目を設け、区長会や公民館の協力のもと、市内在住の社会人や学生など幅広い年代が参加し、市全体で開催している。

本大会は、市民の健康維持をはじめ、地域間や世代間交流の場としても重要な役割を担う事業として位置づけられている。

〈マラソン大会〉

本大会は、大正14年の「駒ヶ岳山頂登山マラソン」、続く昭和33年の「中央アルプス駒ヶ根高原マラソン」の歴史を紡ぎ、平成25年に会場を駒ヶ根高原から街中に移し、現在の「信州駒ヶ根ハーフマラソン」となった。

「「走る」「応援する」「支える」すべての人が参加者として大会を楽しむ」をコンセプトに、全国各地から約4,000名のランナー集い、約1,000人のスタッフで開催及び運営している。「ハーフマラソン」「５㎞」「３㎞」の３種目で、小学生から高齢者まで幅広い年齢層が参加している。アールビーズスポーツ財団から発表される「全国ランニング大会100選」に幾度となく入選し、全国的にも高い評価を受けている。

本大会は市民の健康維持及び促進はもとより、市の広報や経済など多面的な効果をもたらしている。

【課題】

近年、スポーツの種類やスポーツに対する価値観の多様化が進み、競技者及び団体の細分化が進んでいる。それに伴い、施設数や設備の不足への対応及びニーズに合わせた既存事業の見直しが必要となってくる。

また昨今では、スポーツ庁が提唱する「運動部活動改革」において、部活動の地域移行が盛り込まれており、学校や児童生徒の意欲や要望も踏まえた人材確保や既存団体への受入要請及び環境整備など課題は山積みである。

このようなスポーツを取り巻く問題を総合的かつ持続的に解決していくためには、各競技者及び団体の要望や課題などを常に把握し、それらを広域的な視点や立場でまとめていく存在が必要不可欠となる。市のスポーツ活動を担う中枢である組織として、本協会が前述の存在となれるよう、近隣市町村の協会と協力しながら、スポーツのニーズに合わせて、常に組織や体制を再構築し続けていかなければならない。

中野市体育協会

本協会のあゆみ

昭和29年７月　一町八カ村が大同合併して中野市が誕生し、翌30年８月、市民のスポーツ活動普及のため市単位で活動する12のスポーツ団体が加盟して中野市体育協会を発足した。

発足当初、市のスポーツ施設は野球場だけであったため、学校の校庭でできる野球やバレーボールを中心に地区や職域の大会を盛んにおこなった。

昭和37年　第１回市民体育祭を開催し、種目単位で行っていたそれぞれの大会を統一し、地区対抗で野球・バレーボール・バスケットボール・テニス・柔道・剣道・卓球の７種目をおこなった。（現在も支部対抗球技大会

として継続されている）

昭和40年　女性の競技が少ないことから、既婚女性対象にバレーボールと卓球大会を開催したところ、女性のスポーツ熱を高めることにつながりママさんバレーボール大会（昭和50年）に発展した。

昭和45年　発足以来の各行事の開催とクラブを育成し、市民の体育向上に努めた功績が評価され文部大臣表彰を受賞する。

昭和55年11月　壮年層のスポーツ活動を活発化するため、ソフトボール協会を発足させた。翌年４月に市営運動場に夜間照明施設が完成し、ソフトボール大会の開幕を迎えた。

昭和56年７月　体協野球部が全国大会に出場したことをきっかけに、スポーツ選手の育成支援のため、篤志者を募り体育協会賛助会を設立した。全国規模の大会への出場する選手に奨励金を贈り激励するようになった。

昭和63年４月　中野市スポーツ少年団が発足し、６月から組織の中に位置づけ、子供から高齢者までの生涯スポーツ団体としての体制を築いた。

平成２年　ジョギングによる健康づくりが盛んになり、市民ランナーによるマラソン大会が全国的に広まったことを契機に『晋平の里を走るカチューシャマラソン大会（現カチューシャふるさとマラソン大会）』を創設した。以降、毎年開催され市民や近県など各地からの参加がある。

平成17年　中野市・豊田村の市村合併により豊田村体育協会が加入し組織再編をおこなった。

平成19年　プロ野球独立リーグ　長野県民球団信濃グランセローズの本拠地を中野市営野球場に迎える。

平成20年　中野市スポーツ振興課内設置されていた本協会事務局が独立し、併せて中野市民体育館ほか17体育施設の管理運営をおこなう指定管理者となる。

平成24年　中野市多目的サッカー場が新設され、指定管理業務を受託する。

令和元年　カチューシャふるさとマラソン大会が第30回の記念大会を迎え、全国から1000名を超えるランナーが参加し盛大に開催した。

組　織

⑴　加盟団体　27団体

野球部、ソフトボール協会、排球部、バトミントン部、卓球部、バスケットボール部、サッカー部、テニス協会、ソフトテニス協会、陸上部、水泳部、柔道部、剣道連盟、銃剣道連盟、空手道連盟、山岳会、射撃部、乗馬クラブ、スキークラブ、弓道会、ゲートボール連盟、マレットゴルフ協会、ママさんバレーボール連盟、早起き野球連盟、トライアスロン協会、女子ソフトボール部、ダンススポーツ連盟

⑵　支部　10支部

中野、日野、延徳、平野、高丘、長丘、平岡、科野、倭、豊田

⑶　スポーツ少年団　７団体

柔道、剣道、北部剣道、空手、サッカー、女子サッカー、中野シニアリーグ（硬式野球）

⑷　組織構成

・正副会長（会長・副会長４名）
・理事（正副理事長・理事32名）
・顧問５名、監事２名、代議員67名

事　業

⑴　各種目競技別大会の開催

・カチューシャふるさとマラソン大会
・中野市民水泳大会
・支部対抗球技大会
・中野市駅伝大会
・中野市民スキー大会
・各種目市長杯争奪大会、市民大会等

⑵　駅伝大会派遣事業

・長野県市町村対抗駅伝大会

・高社山一周駅伝大会
・長野県縦断駅伝大会

⑶　競技者・指導者レベルアップ事業

・ワンラックアップ講習会

⑷　スポーツ教室の開催

・初心者弓道教室
・初心者弓道教室（中学生）
・初心者テニス教室
・市民スキー・スノーボード教室

指定管理業務

下記の17体育施設の管理運営をおこなう。

市営野球場、市営運動場、市民体育館、武道館、市営テニス場、弓道場、北部運動場、篠井川河川敷運動広場、コミュニティスポーツセンター、屋内運動場、豊田テニス場、豊田野球場、豊田マレットゴルフ場、永田社会体育運動場、B&G海洋センター、北公園、多目的サッカー場

大町市体育協会

１　沿　革

昭和29年７月１日、当時の大町、平、常盤、社の１町３村が合併して、大町市が誕生した。（その後、平成18年１月１日、八坂村及び美麻村が編入合併となり、現在に至っている。）

この市制施行に合わせて、大町市体育協会が発足した。それまで北安曇郡体育協会に加盟していたスポーツ団体や非加盟の団体が集まり、昭和29年12月18日設立総会を開催し、大町市体育協会が発足した。当時の加盟団体は、陸上競技、野球、バレーボール、バスケットボール、軟式庭球、卓球、水泳、山岳、スキー、スケート、弓道の11団体である。

当時の社会体育事業は、市教育委員会と市公民館が中心となり、それに各スポーツ団体等が協力して実施していたが、大町市体育協会の発足後は、市の事業等の運営、実施に積極的にかかわるようになった。

平成12年には、教育委員会体育課内に置かれていた体育協会事務局が独立し、事務所も勤労青少年ホームに移した。さらに平成30年４月からは、現在の第２屋内運動場に事務局を置いている。

地域スポーツ、生涯スポーツの振興が課題となっている現在、体育協会の役割もますます重要となっている。

２　歩　み（昭和～平成～令和）

○昭和63年

運動公園総合体育館が11月に竣工し、運動公園として計画された施設はすべて完成となった。スポーツ、健康づくりの拠点として、また、市民の憩いの場として広く利用され、体育協会の事業推進に大いに役立ってきた。

○平成３年

６月、姉妹都市立川市（東京都）とのスポーツ交流懇談会が当市で開催された。以後、両市の間でスポーツ交流が盛んに行われている。

○平成６年

７月、市制施行40周年記念の市民スポーツ祭が開催された。体育協会の競技委員会を中心に、スポーツ少年団の協力で炬火リレーが行われ、開会式を盛り上げた。

12月、運動公園にコミュニティースポーツの拠点として期待される屋内運動場が完成

○平成８年

７～８月、第17回北信越国民体育大会の山岳、カヌー、サッカーの３競技が大町市で開催された。

９月、第46回大北縦断駅伝大会に姉妹都市の立川市及び氷見市（富山県）がオープン参加した。併せて各市体育協会間の交流が行われた。

○平成10年

１～２月、第18回長野冬季オリンピックの聖火リレーが市内６区間で行われ、聖火ランナーとして、体育協会関係３団体の代表８名が走った。

また、ボランティアの協力者として加盟11団体62名（延べ180名）が参加した。後日、長野県オリンピック組織委員会から、大町市体育協会に感謝状が贈られた。

○平成13年

９月、第15回全日本シニアソフトボール大会が大町市で開催される。

○平成14年

５月、第20回全国シニアソフトボール大会が大町市で開催される。２年続いての全国大会の開催となった。

９月、第１回大北スポーツ競技会を郡体育協会と共催により開催する。

大町アルプスマラソン実行委員会事務局が大町市体育協会となる。

○平成15年

10月、第７回全国ミニテニス交流信州大町大会が大町市で開催される。

総合型地域スポーツクラブの大町スポーツクラブが発足した。バレーボール、陸上競技、トータルスポーツに、合わせて101人が参加した。

○平成16年

11月、創立50周年を迎え、元プロ野球選手の中畑清氏の講演会を開催

○平成22年

３月、スポーツの啓発普及と競技力の向上を図るため、ソフトボールの上野由岐子氏の講演会を開催

11月、市民の健康づくりやスポーツへの関心を高めるため、元サッカー日本代表で評論家のラモス瑠偉氏の講演会を開催

○平成25年

大町市バレーボール協会が、平成25年度生涯スポーツ優良団体文部科学大臣表彰を受ける。

大町アルプスマラソンが30回目となり、記念大会として弘山晴美さんをゲストランナーに迎える。4,000人を超えるランナーが参加

○平成27年

創立60周年を記念し、元バレーボールオリンピック代表の吉原知子氏を招き講演会を開催

○平成28年

８月、リオ五輪バドミントン女子シングルスで、当市出身の奥原希望選手が銅メダルを獲得。パブリックビューイングで応援するとともに、帰省した際には祝賀パレード等で祝福

○平成29年度

10月、運動公園に第二屋内運動場が完成、冬期の屋外スポーツ、体力つくり等の拠点施設として期待される。

○平成30年

１月、奥原希望選手の活躍を記念し、ジュニアの国際オープン大会（北アルプスバドミントンオープン2018）を開催。海外招待選手（３か国62名）を含め全国から502名が参加

バドミントン国内トップリーグ、S/Jリーグを１月末に開催。奥原希望選手の所属する日本ユニシスの試合を誘致したが、奥原選手は海外遠征のため欠場した。

○令和元年

７月、第２回北アルプスバドミントンオープン2019）を開催。国内外から15歳以下のジュニア選手が参加。各県トップクラスの選手により、レベルの高いゲームが展開された。

○令和２年

新型コロナウィルス感染症拡大のため、市民スポーツ祭、アルプスマラソンを始め、多くの大会が中止となった。唯一、冬季市民スポーツ祭のスキー大会が開催された。

●役員

・歴代会長

平林　泰雄	昭和29年～43年
片倉　　甫	昭和44年～47年
縣　　聡	昭和48年～52年
高橋　恭男	昭和53年～平成元年
中牧　豊光	平成２年～10年
降旗　　正	平成11年～16年
田中　　稔	平成17年～20年
竹村　武人	平成21年～22年
石原　　学	平成23年～28年
島田　剛志	平成29年～現在

・現役員

会　　長	島田　剛志
副 会 長	中島登美雄
〃	赤羽　健次
〃	菅沢　浩也
理 事 長	金原　宗雄
副理事長	三原　信治
事務局長	長澤　　奨

飯水スポーツ協会

沿革

昭和61年５月、飯山市体育協会に豊田村体育協会、栄村体育協会を加え、飯水体育協会として長野県体育協会に加盟した。飯水体育協会は、市村体育協会と密接な連携を保ち、住民の体育を指導奨励し、住民の体位向上を図ることを目的として設立された。

発足当初から年末懇談会を継続して開催し、情報交換の場としてきた。

平成17年豊田村と中野市との合併により、豊田村体育協会が飯水体育協会を脱退する。

令和２年４月１日、「飯水体育協会」を「飯水スポーツ協会」に名称を変更した。

あゆみ

昭和62年　長野県体育協会創立40周年記念表彰を、今清水昌昭氏が受賞

昭和62年　長野冬季オリンピック招致運動への協力（署名運動）

昭和63年　長野オリンピック招致委員会　事務次長　平林源治氏を講師に、講演会「広げようオリンピックの輪、語り合おう未来スポーツを」を開催

昭和63年　ソウルオリンピック視察研修

平成元年　元全日本女子バレーボールチーム主将　野口京子氏（旧姓 石田）を講師に、婦人バレーボール実技講習会を開催

平成２年　1998年長野冬季オリンピックに飯水地区より選手を送り出せるよう㈶スポーツ医科学研究所　長野県スキー連盟トレーニングドクター　小林規氏を講師に、スキー指導者育成講習会「これからのスキー指導者に求められるもの」を開催

平成３年　長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰　有功賞を、丸山修三氏が受賞

平成３年　ベースボールマガジン社　堀場英孝氏（元プロ野球選手）を講師に、少年野球教室を開催（講演「ドリームからアクションへ」の後、実技指導）

平成４年　ミュンヘンオリンピック金メダリスト　森田淳悟氏講演会へ参加

平成５年　スキーの集い「オリンピック選手を囲んで(河野孝典氏)」へ参加

平成５年　長野県教育委員会より西山馥司氏、長野県体育協会より平林源治氏を講師に指導者研修会を開催、同時に前長野県スキー連盟会長　片桐匡氏を講師に、特別講演会「'98長野冬季オリンピックを成功させるには」を開催

平成６年　全日本スキー連盟複合チーム　チーフコーチ斉藤智治氏を講師に、講演会「オリンピックへの道！」を開催

平成６年　懇談会　前長野県スキー連盟会長　片桐匡氏を講師に、特別講話を開催

平成７年　佐久長聖高校野球部監督　中村良隆氏を講師に、講演会「甲子園への道のり」－甲子園を目指して、たくましく成長した選手たち－を開催

平成８年　理事部長研修　オリンピック施設を視察

平成８年　第45回長野県縦断駅伝飯山下水内チーム７位入賞（16回大会６位以降チーム史上２位）

第１日目５位

平成８年　長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰　有功賞を、会長　菊池渡氏が受賞

平成９年　長野県体育協会副会長　林泰章氏（長野県スケート連盟会長）を講師に、講演会「長野冬季オリンピックを迎えて」を開催

平成９年　第46回長野県縦断駅伝　飯山下水内チーム７位入賞

平成10年　理事会研修　小千谷市総合体育館を視察

平成11年　飯水PTA連合会他と合同で、元オリンピックマラソンランナー　中山竹通氏を講師に、陸上講習会と講演会「私のマラソン人生」を開催

平成11年　元長野県体育協会専務理事　平林源治氏を講師に、講演会を開催

平成12年　飯山市国体室長　佐藤俊平氏を講師に、講演会「ながの飯山国体開催に向けて」を開催

平成13年　ながの飯山国体への協力

平成13年　長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰　有功賞を、川口雅司氏が受賞

平成13年　長野教育事務所生涯学習課指導主事　工藤忠好氏を講師に、講演会「生涯スポーツの現状と総合型地域スポーツクラブについて」を開催

平成14年　長野県体育センター専門主事　丸山智之氏を講師に、講演会「総合型地域スポーツクラブとは？」を開催

平成15年　豊田村施設視察及びマレットゴルフ交流会を開催

平成16年　元プロ野球選手の町田行彦氏と堀場秀孝氏を

講師に、飯水少年野球教室を開催

平成17年　豊田村合併に伴う飯水体協お別れ会兼縦断駅伝記念誌発刊祝賀会を開催
平成17年　ソフトバレーボール交流会を開催
平成18年　飯山市体育協会との共催事業として、日本体育大学教授　森田淳悟氏（ミュンヘンオリンピック金メダリスト）を講師に、講演会「スポーツは教育」を開催
平成19年　マレットゴルフ交流会を開催
平成19年　長野県体育協会創立60周年記念表彰を、宮澤要吉氏が受賞
平成20年　「栄村体育協会」から「さかえスポーツクラブ」に名称を変更
平成20年　長野県体育協会専務理事　小林健孜氏を講師に、講演会「地域スポーツクラブの育成と指導者の心構えについて」を開催
平成21年　岳北消防本部栄分署職員を講師に、普通救命講習会を開催
平成21年　長野県縦断駅伝「飯山下水内チーム」から「飯山栄チーム」にチーム名を変更
平成22年　信濃毎日新聞社運動部記者　中村恵一氏を講師に、講演会「地域スポーツの振興について」を開催
平成23年　ニュースポーツ講習会を開催
平成24年　ニュースポーツ講習会を開催
平成25年　第21回abnスポーツ大賞特別賞を、高橋政幸氏が受賞（マスターズ陸上　男子100メートルハードルM60で世界新記録達成）
平成25年　イシッタヨガ教室「yoga山」丸山沙樹氏を講師に、ヨガ講習会を開催
平成26年　長野県体育協会スポーツ振興功績者表彰　有功賞を、飯山市硬式テニスクラブが受賞
平成26年　長野県体育協会事務局長　町田暁氏を講師に、講演会「“少年よ大志をいだけ”と言えますか？」を開催
平成27年　ネパール　アロギャ　アシュラム　ヨガインストラクター　井出ふみ子氏を講師に、ヨガ講習会を開催
平成28年　第14回日韓少年冬季スポーツ交流（スキー交流）への協力
平成28年　岳北消防本部栄分署職員を講師に、普通救命講習会を開催
平成29年　日本体育大学　集団行動監督　清原信彦氏講演会「人を創る－誰でもやればできる」を聴講
平成30年　2002年ソルトレーク冬季オリンピッククロスカントリースキー出場　畔上大地氏を講師に、講演会「オリンピックへの道～そこから得たものを今～」を開催
令和元年　飯山高校野球部部長　木村徹氏を講師に、講演会「統合から甲子園への道のり」を開催
令和２年　「飯山市体育協会」から「飯山市スポーツ協会」に名称を変更
令和２年　新型コロナウイルス感染防止対策のため、評議員会は書面議決とし、研修会等は中止。
令和３年　長野県スポーツ協会スポーツ振興功績者表彰　有功賞を、みゆき野少年野球連盟が受賞

特定非営利活動法人　茅野市スポーツ協会

１　沿　革

昭和30年（1955年）に１町８村（ちの町、米沢村、玉川村、宮川村、北山村、湖東村、豊平村、泉野村、金沢村）の合併によりちの町が誕生し、同年４月１日にちの町体育協会が発足した。昭和33年（1958年）にちの町は市制を施行して茅野市となったため、茅野市体育協会と改称し、さらにその後茅野市体育連盟と改称された。

平成10年（1998年）頃より体育協会の法人化に対する研究が行われ、平成12年（2000年）に特定非営利活動法人茅野市体育協会へと法人化された。当時体育協会の特定非営利活動法人としては国内第１号となったため、県内外から多くの問い合わせや視察が相次いだ。

その後、令和元年（2019年）に体育協会からスポーツ協会に名称変更され、現在の特定非営利活動法人茅野市スポーツ協会に至っている。

２　組織と役員

⑴　組　織

現在のスポーツ協会の組織は、会長１名、副会長３名、専務理事１名、常任理事６名の役員と、監事２名、事務局員１名の体制となっている。

スポーツ協会の定款に謳われている目的は、「本会はスポーツを振興して市民の体力の向上とスポーツ文化の高揚を図り、民主的で文化的な社会の建設に寄与すること」である。その目的達成のため年１回の総会、年４会の理事会、役員会、各委員会とそれぞれ活発に活動しており、様々な催し物が年間を通して主催されている。

⑵　役　員（2021年～2023年）

役　職	氏　名	所　属
会　長	宮坂　　章	バスケットボール協会
副会長	中澤　三郎	マレットゴルフ協会
	澤井　久一	バレーボール協会
	伊藤あや子	女性委員会委員長
専務理事	鷹野　鉄也	少林寺拳法協会
常務理事	原　　嘉樹	ソフトボール協会
	守屋　　武	サッカー協会
	牛尼　正幸	ゲートボール協会
	池上　泰司	スケート協会
	辰野　誠一	バドミントン協会
	竹内ひかり	女性委員会副委員長
	伊藤　善彦	スポーツ健康課長
監　事	鮎沢　英行	バスケットボール協会
	大沢　義治	ウォーキング協会
事務局員	佐竹ちずか	

常務理事はそれぞれ、総務委員、市民スポーツ振興委員、施設委員、競技力向上委員、スポーツ少年団育成委員の委員長を兼ね、その他に会計担当、学識経験者を置く。

３　茅野市のオリンピック選手

茅野市出身のオリンピック選手は、記憶に新しいところでは、平成30年（2018年）平昌冬季オリンピック女子500m金メダリストの小平奈緒がいる。茅野市の冬は雪が少なく寒さが厳しいのが特徴で、昔からスキーよりもスケートの方が盛んな土地柄である。そのため茅野市のオリンピック選手の第１号は、昭和27年（1952年）オスロ冬季オリンピックに出場したスケートの五味芳保で、以降スケートのオリンピック選手の総勢は10人を数える。スケート以外のオリンピック選手はバレーボール男子の井上謙が昭和63年（1988年）ソウル夏季オリンピックに出場しており、また、志鷹昌浩がチェアスキー競技で平成６年（1994年）リレハンメル冬季パラリンピックから３回連続で出場している。

スポーツ協会としても各団体の競技力向上を目標としており、早い段階での選手育成を目指し、13種目有るスポーツ少年団単位団についても、育成委員会等でバックアップできる体制を整えている。

４　構成団体

スポーツ協会に所属する団体は、発足時から増減を繰り返し、令和３年（2021年）現在29種目の協会が活動している。

№.	協 会 名	会　長
1	空手協会	小池　敏高
2	柔道協会	小口　久人
3	剣道協会	藤原　利明
4	スキー協会	田村　和弥
5	スケート協会	池上　泰司
6	卓球協会	横内　秀光
7	ソフトテニス協会	今井　忠昭
8	バスケットボール協会	長谷川孟三
9	バレーボール協会	澤井　久一
10	野球協会	藤森　昭芳
11	陸上競技協会	田中　米人
12	ソフトボール協会	原　　嘉樹
13	弓道協会	増澤　徹二
14	山岳協会	宮坂　公久
15	ゲートボール協会	小平　紀之
16	テニス協会	小尾　富勇
17	バドミントン協会	辰野　誠一
18	ゴルフ協会	両角　太一
19	サッカー協会	守屋　　武
20	カーリング協会	福田　孝秀
21	宮川スポーツ協会	久保田稔二
22	マレットゴルフ協会	中澤　三郎
23	居合道協会	山崎　　勝
24	ウォーキング協会	大澤　義治
25	合気道協会	小池みはる
26	グランドゴルフ協会	塩練　洋之
27	インディアカ協会	木川　　仁
28	少林寺拳法協会	鷹野　鉄也
29	ハンドボール協会	藤森　順三

５　茅野市スポーツ協会が行う事業

⑴　茅野市総合体育大会

茅野市スポーツ協会に所属するそれぞれの団体が大会長を市長として、４月から翌年の３月までの間に大会を行う。その総合開会式は６月第一日曜日に、全ての団体が集合し合同開会式が開催される。茅野市では１市民１スポーツを奨励していて、レベルの高い大会から、初心者が気軽に参加できる大会まで、数多くの種目がある。

⑵　茅野市民スポーツ祭

10月のスポーツの日に合わせ、各協会所属の会員が集い「市民がスポーツに親しむ日」ということで、茅野市総合運動公園陸上競技場で開催される。大玉送りや玉入れ、十人十一脚、長縄跳び等の「茅野ギネスに挑戦」コーナーもあり、子供からお年寄りまで沢山の協会員が集まり、スポーツを楽しんでいる。

⑶　各種教室

スポーツ協会主催又は共催の各種スポーツ教室を行っている。中でも、東海大学駅伝部の両角速監督が茅野市出身ということもあり、同部が合宿で茅野市を訪れる際、走り方を学ぶ教室を開いてもらっている。市民だけに限定していないため、諏訪地方から大勢のランナーが集まり、現役箱根駅伝ランナーから手ほどきを受けられるため、大変好評である。ちなみに茅野

市の白樺湖は湖周ランニングコースがあり、標高1,200ｍで高地トレーニングになり、また、夏も涼しい気候のため、東海大学の他にも多数の大学駅伝部が合宿に訪れている。

かつては平成元年（1989年）に、当時三段跳び世界記録保持者のＷ・バンクスを招いて陸上競技教室を開いたり、元プロ野球選手から手ほどきを受ける等、様々なスポーツ教室が開催されている。

⑷　スポーツ体験実践発表会

平成19年（2007年）の第１回から13回を数えるこの発表会は、市内の小学生、中学生、高校生、大学生、社会人が、スポーツを通して体験又は実践したことについて、茅野市教育委員会、地元報道機関等の皆さまを審査員に迎え、持ち時間４分の弁論大会方式で行われる。毎年11月に行なわれ、自身が行なっている競技が、自身の生活においてどのような影響を与えているか、競技を行って良かった点等が発表され、多くの市民が視聴に訪れる。

⑸　表　彰

スポーツ協会では表彰規程が定められており、４月の総会と、10月の市民スポーツ祭で会長より授与される。内容は、長年にわたりスポーツ協会の役職に従事し、誠実熱心に体育、スポーツの振興に貢献した者に対し功労賞を与え、県大会優勝、ブロック大会（北信越・東海５県大会等）３位以内、全国大会８位以内の者に対しては栄光章を与える。

特に栄光章については、全国大会で活躍する選手が多く、毎年多数の受賞者がある。

⑹　体育施設一斉清掃

毎年春・秋の２回、茅野市総合運動公園を協会員全員で、日頃の感謝の気持ちを込めて一斉清掃を行う。各協会下部のスポーツ少年団の選手から、指導員・顧問等も参加し、1,000人を超える参加者が集まり、盛大に清掃が行われる。

スポーツマン精神に則り、分担し合いながらてきぱきと作業を行う。

⑺　スポーツ少年団

茅野市スポーツ少年団は昭和63年（1988年）に結成され、現在は13単位団で活動している。５月の結団式では目標達成シートを配布し、１年の目標、５年後の目標等を記入し、翌年２月の修了式に１年間の成長を指導員とともに確認を行なう。

また、茅野市スポーツ少年団では、競技力の向上だけでなく、相手を思いやれる心や、感謝の心を持って大会に出場するようメンタル面での指導に力を入れている。

６　スポーツ協会の今後

平均寿命が伸び､元気な高齢者が増えてきているため、各競技団体においても高齢化の波には逆らえない｡また、スポーツ自体の多様化により、団体に属するよりも個人又は気の合う仲間での活動が増え、スポーツ協会に所属するメリットの希薄化も目立つようになってきた。

今後のスポーツ協会の取組みは、旧態依然としたものではなく、抜本的な対策も必要ではないだろうか。そして誰もが進んで携わってもらえるようなスポーツ協会にしていかなければならない。

茅野市・茅野市教育委員会では、平成30年（2018年）を初年度とした５ヶ年計画である「茅野市スポーツ推進計画」を策定している。スポーツ協会は行政の一翼を担う団体として、責任感と使命を持って運営することが望まれている。

特定非営利活動法人　塩尻市体育協会

１　塩尻市体育協会の創立

塩尻市体育協会は、昭和34年４月１日の１町４ヶ村の合併による塩尻市誕生に伴い創立された。

平成14年３月20日、特定非営利活動促進法に基づくNPO法人の認証を受け法人化し、特定非営利活動法人塩尻市体育協会として再出発して現在に至っている。現在、加盟団体は44団体、賛助会員139団体、正会員80名となっている。

２　社会体育のあゆみ（昭和62年以降）

○昭和62年度　第１回ときめき市民ランドを中央スポーツ公園にて開催

○昭和63年度　「1998年冬季オリンピックを長野へ」を合言葉に県下縦断炬火リレーに参加。テニス部が加盟

○平成元年度　創立30周年記念事業（健康スポーツ都市宣言、元読売巨人軍投手堀内恒夫氏記念講演会、NHK巡回ラジオ体操、第１回ファミリースポレクフェスティバル）

○平成２年度　グラウンドゴルフ部が加盟
体育協会会長に三沢光広市長が就任

○平成３年度　冬季オリンピックの開催地が長野に決定

○平成４年度　合気道部が加盟

○平成５年度　第１回アルプス展望ロードレース大会を小坂田公園で開催
吉田地区体育協会、マレットゴルフ部が加盟

○平成７年度　第１回ゴルフオンパレード大会を開催
冬季オリンピック長野大会100日前イベント・炬火リレーを実施

○平成８年度　第１回いきいきスポーツフェスタを中央スポーツ公園で開催
塩尻市小・中学校体育連盟が発足

○平成10年度　長野冬季オリンピック・パラリンピックが開催

○平成11年度　創立40周年記念事業を実施
元マラソン選手　松野明美氏講演会開催
40周年記念誌を発行

○平成13年度　特定非営利活動促進法に基づくNPO法人の認可申請を行い、平成14年３月20日に法人認証される。

○平成14年度　特定非営利活動法人塩尻市体育協会を設立し、竹林敏博氏が継続して会長に就任
記念事業、講演会「元プロ野球阪神監督中村勝弘氏」を開催

○平成15年度　スポーツ議員連盟が発足

○平成16年度　いきいき体育学園を開設

○平成17年度　楢川地区体育協会、高出地区体育協会が加盟
新体育館建設促進署名活動を行い、２万509人の署名が集まる

○平成18年度　トリノ五輪スケートショートトラック出場　小澤美香選手の激励壮行会を開催

○平成19年度　新体育館建設基金の寄付募集を実施し、寄付者１万２千人余、寄付総額439万円余となり、市へ寄付

○平成20年度　創立50周年記念事業を実施。記念講演会開催、講師　ソルトレイク五輪他出場スケートショートトラック勅使河原郁恵氏とソウル五輪競歩出場酒井浩文氏

○平成21年度　創立50周年記念事業を実施、50周年記念誌発刊
第１回ぶどうの郷ロードレース開催
バンクーバー冬季五輪出場小澤美香選手壮行会開催

○平成22年度　第１回日本どまん中塩尻チロルの森ウォーク2010開催

○平成23年度　体育協会長に倉沢恒雄氏が就任

○平成24年度　日本スポーツ吹き矢塩尻支部が加盟

○平成26年度　本年度よりスケート大会が塩尻・朝日・松本と合同開催となる

○平成27年度　塩尻市スポーツ少年団創設40周年記念事業、記念誌を発刊

○平成29年度　体育協会長に小松千万蔵氏が就任
第１回新体育館建設懇話会（～第４回）開催
平昌パラリンピックアイスホッケー出場者塩谷吉寛選

手壮行会・応援パブリックビューイング開催

○令和元年度

体育協会長に丸山智之氏が就任

令和元年度総会（H31.4）

創立60周年記念事業実施、記念講演会開催（北京五輪陸上400mリレー銀メダリスト塚原直貴氏）

12月頃より新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、スポーツ活動、経済活動に大きな支障が出る。

○令和２年度　新型コロナウイルス感染症の影響で定例総会を書面決議により開催

○令和３年度　塩尻市総合体育館ユメックスアリーナが開館

３　課題と展望

○児童生徒の体力・スポーツ活動

「子どもの体力・運動能力等調査（令和元年度）」によると多くの項目で全国の中で長野県は下位に位置している状況である。

○成人の週一回以上のスポーツ実施率

塩尻市の平成29年度の実施率は40％であり、国・長野県と比較するとそれぞれ15・９ポイントと大きく下回っている。

この２点を、行政と連携して向上策を講じることが求められている。

４　役員（昭和61年以降）

○会　　長	川上　睦水	昭和54年～平成２年
	三沢　光広	平成３年～12年
	竹林　敏博	平成13年～22年
	倉沢　恒雄	平成23年～28年
	小松千万蔵	平成29年～30年
	丸山　智之	平成31年～現在
○副会長	川上　直美	昭和60年～平成元年
	古牧　　勲	昭和60年～平成８年
	横山　興夫	平成元年～２年
	森　　儀平	平成３年～４年
	百瀬　勝一	平成３年～６年
	川尻　正文	平成３年～４年
	中原　　宏	平成５年～６年
	米山　　廣	平成５年～16年
	倉沢　恒雄	平成７年～16年
	中野　　学	平成７年～８年
	高木　春喜	平成９年～12年
	武井　　深	平成９年～13年
	平林　綾子	平成９年～16年
	青柳　武人	平成17年～18年
	高砂　礼次	平成17年～22年
	小澤　良子	平成17年～22年
	安田　昌平	平成19年～20年
	金井　盛吉	平成21年～22年
	古厩　久登	平成23年～26年
	髙橋　忠人	平成23年～28年
	小澤なつ子	平成23年～現在
	北澤　健司	平成27年～現在
	奈良井宏美	平成29年～30年
	嶋﨑　光尚	平成31年～現在
○常任理事	林　　敏明	昭和60年～昭和62年
	永原　高雄	昭和62年～平成元年
	小野　克夫	平成元年～３年・６年
	武井　範治	平成４年～５年
	横山　哲宣	平成７年～８年
	小野　克夫	平成９年～10年
	飯田　正弘	平成11年～13年
○事務局長	津田　　清	平成４年～５年
	小野　貞雄	平成６年～９年
	南山　壽勝	平成10年～12年
	永井　泰仁	平成12年～13年
	手塚　啓子	平成14年
○専務理事・事務局長		
	武井　　深	平成15年～22年
	奈良井宏美	平成23年～28年
	寺澤　好則	平成29年～現在

特定非営利活動法人　佐久市体育協会

◎沿革

昭和36年佐久市発足と同時に佐久市体育協会が設立発足しました。その後平成17年（旧）佐久市、南佐久郡臼田町、北佐久郡浅科村・望月町が新設合併して（現）佐久市が発足と同時に、（旧）佐久市体育協会、臼田町体育協会、浅科村体育協会、望月町体育協会も合併し（現）佐久市体育協会が設立しました。平成17年設立時には35の競技団体と４つの支部が加盟しました。当時基本的な考え方として各競技団体においてもそれぞれに合併して各競技一団体の方向性をもって調整をしました。

平成28年には「特定非営利活動法人（NPO法人）佐久市体育協会」となりました。これは平成２年にスポーツ都市宣言をした佐久市が、「生涯スポーツの拡大を図るためには陸上競技場を始め各種スポーツ施設の充実を進めるとともに、スポーツ人口の拡大と競技力の向上を図る必要があり、今後様々なニーズへの対応にあたり、佐久市に合ったスポーツ振興を図るため、佐久市体育協会の組織体制を早急に整備する必要がある」と考え、法人化に向け支援・補助をすることとなりました。そこで当協会は、「法人格を持つ」と「佐久市体育施設指定管理者となる」を２本柱として検討を重ね、既存の体制の特色を生かしつつ改善する方策として「特定非営利活動法人（NPO法人）」とすることとしました。現在は34の競技団体と４の支部が加盟し活動しています。また市の体育課に置いていたスポーツ少年団の事務局を当協会に移し、活動・育成を図ることとしました。

佐久市におけるスポーツ環境も変化し、昭和63年以降でいえば広大な河川敷グラウンドの千曲川スポーツ交流広場、浅間体育センター、野沢体育センター、佐久総合運動公園（陸上競技場・野球場・マレットゴルフ場・クロスカントリーコース）、県営武道館など新たな施設が設置され、全国規模の大会等が開催されるようになりました。また老朽化した施設の補強改築も進められ弓道場などが整備されました。これに伴い佐久平の人々がスポーツを楽しむ場が広がり、様々なグループの育成にも寄与することとなりました。このように児童・学生・社会人の練習の場が整備され、ナイターの活用などにより競技力の向上に格段の進歩がなされました。当協会も市内44施設の指定管理を行い、「利用者が安心して安全に利用できること」「利用者を大事に考え市民・競技団体と信頼関係を築くこと」「特定の競技部・団体が優先的にならないこと」を大切にして業務遂行することとなりました。

◎あゆみ

昭和63年以降では、平成３年に佐久市体育協会30周年を記念しての記念誌を発行、全国夏季巡回ラジオ体操会の開催、オリンピック金メダリストの小谷実可子さんの講演会を開催、30周年記念としての各種競技団体の開催等日夜多彩な活動を展開し一般市民の理解と共感を得ながら、スポーツに対する社会全般の評価を高めました。

友好都市の静岡県清水市とは昭和59年よりスポーツ交流会が続いています。隔年ごとに佐久市と清水市が交互に会場となり、交流会を行っています。競技種目も、婦人バレーボール・継走マラソン・軟式テニスなど変遷を重ねながら、現在は婦人バレーボール・少年野球などの競技が行われ、参加者の親睦と技術を高める大会となっております。

同じく、交流都市の埼玉県和光市とも平成５年よりスポーツ交流会が続いています。こちらも、隔年ごとに佐久市と和光市を会場にして開催されています。少年サッカー・少年野球・ミニバスケットボールなど主に子供たちの競技が行われ、親睦と競技力の向上を図っています。

平成６年、民間施設のスキーガーデンパラダがオープンし、佐久市に初めてスキー場が誕生しました。これまで佐久市におけるウインタースポーツはほぼアイススケートが占めておりましたが、スキー大会・教室の開催が市内で開催可能となり競技人口の増加・競技力向上のきっかけとなりました。佐久市スキー大会なども開催されております。

平成16年、アテネオリンピック女子バスケットボール日本代表チームが合宿を佐久市にて行いスポーツ少年団の子供たちや中学・高校生たちにバスケットボール教室を開催し、競技力の向上を図りました。

平成18年、合併の１周年記念としてオリンピック金メダリストの斎藤仁氏の講演会が開催されました。また１周年記念の各種競技大会を開催し活発な活動を続けました。

平成25年、佐久総合運動公園の陸上競技場が日本陸上競技連盟公認第２種競技場として開場しました。オリンピック金メダリストの高橋尚子さんを招いて市民ランナーと一緒に走る会を開催して、陸上競技場をアピールするとともに市民ランナーに参加していただくことによって、スポーツに親しむ方を一人でも多く増やしたいと開催しました。ナイター設備もあることから、学生・社会人の練習場として日夜稼働させています。また、クロスカントリーコースも開場して長距離競技の核として活用しています。小学生年代では、小学生駅伝大会を毎年開催、市民ランナーには毎年元旦マラソン大会や佐久鯉マラソン大会を開催し、長距離走が根付く街を目指して開催しています。

令和２年、長野県営武道館が開場し、コロナウイルスの影響で利用状況はかんばしくありませんが、柔道・剣道はじめ各武道のスポーツ少年団や学生たちが練習の拠点として活動し各種教室も行われています。

このように施設・環境が整ってきている中、当協会もスポーツを振興し、市民の体力向上を図り、スポーツ文化の高揚に努力してスポーツ精神を養うことに寄与することを目的として、次の事業を行っています。

「スポーツのアマチュア精神の高揚並びにスポーツに関する情報の収集、広報及び啓発」
「市民の体力向上、競技技術及び競技力の向上」
「スポーツに関する各種競技大会、講習会及び各種事業の計画実施並びにスポーツに関する各種大会の援助」
「佐久市が委託するスポーツ大会の開催及びスポーツ施設の管理運営」
「スポーツ少年団の育成」

この５本柱を軸にコンプライアンスを守りながら佐久市民のスポーツライフがより充実すべく活動しています。

特定非営利活動法人　千曲市スポーツ協会

千曲市体育協会は、平成15年（2003年）８月に、翌９月の市町村合併を見据えて発足した。（平成の大合併：更埴市・戸倉町・上山田町の１市２町は、平成15年９月１日に合併した。当時の人口は約64,000人）

それから約１年後、千曲市体育協会は、地域のスポーツ振興に向けて、組織強化、スポーツ施設の指定管理者になりうる体制づくりのため、協会の法人化に向けた検討を始めた。

平成16年12月には、法人化に向けた検討委員会を発足、17年には準備委員会により諸準備を進め、平成17年11月17日に「特定非営利活動法人千曲市体育協会」を設立した。

翌年、平成18年２月20日、長野県から正式に特定非営利活動法人としての認証を受けた。

千曲市体育協会は、合併前からの各市町村協会の加盟団体の統合を進め、それまで実施してきた市民が参加する様々な競技大会の充実を図るとともに、子どたちの健康づくりのための「スポーツ教室」を開催したり、協会としての活動のほか、「スポーツ少年団活動」に協力するなど、千曲市が主催、あるいは共催する事業にも積極的に協力してきた。

特に、千曲市との共催事業の「元旦マラソン」や「市民体育祭」総合開会式から大会の運営を加盟団体が担い、旧戸倉町から続いていた「千曲川ロードレース」、旧更埴市が実施していた「おばすてマラソン」、「小中学校駅伝大会」などに携わってきた。

また、「千曲川ロードレース」を引継ぐ形で、平成27年３月に新たにスタートした「千曲川ハーフマラソン」にも積極的に協力をしてきた。

法人となってからは、より積極的に地域スポーツの振興を目指し、新たな協会の事業として、平成23年から「市民登山」を実施、多くの市民が参加され好評を得ている。

さらに、平成25年からは、小さな子どもから大人まで、さまざまな年齢の方がグループで参加できる「チャレンジスポーツ事業」をスタートさせ、市民の体力づくりの一翼を担った。

競技だけでなく、協会員のスポーツ振興への取組むための意識の向上を目指した「パネルディスカッション」やスポーツ指導者としての学習のための「スポーツ講演会」なども開催してきた。

NPO法人設立の大きな目的でもある指定管理については、平成23年度から３年間、更埴地区の体育館、テニスコートなどの指定管理者となり、事務所も戸倉体育館から更埴体育館に移転し、施設利用者にとってより利用しやすい管理に努め、平成25年度からは、それまでの指定管理の実勢を認めていただき、２期目の指定管理者となることができた。そして、本年度（令和３年度）は、４期目の２年目に入った。

千曲市では、平成21年度に「千曲市スポーツ振興基本計画」が策定され、（平成25年度には中間の見直しをされた。）子どもから大人まで、市民が広くスポーツに親しめるための様々な事業を計画的に進めるとしている。

また、平成24年には、スポーツに親しみ健康な体づくり、スポーツをとおして子どもたちの健全育成、活気ある地域づくりを目指すとし、千曲市となって初の「千曲市スポーツ・健康都市」の宣言がなされた。

千曲市をホームタウンとするプロバスケットボールチーム「信州ブレイブウォリアーズ」（平成11年発足）は、年々市民の関心も高まり、2018-2019にＢ２優勝を果たしたが、Ｂ１ライセンスの取得ができずにＢ２での再挑戦が始まった。そして、2019-2020には、Ｂ２中地区優勝を果たし、Ｂ２勝率１位及びＢ１ライセンス取得により、2020-2021にＢ１昇格が決まった。

なお、ことぶきアリーナ千曲は、ホームゲーム会場となっている。（他は、ホワイトリング、松本市総合体育館）

平成30年には、新体育館（ことぶきアリーナ千曲）が完成し５月31日に千曲市に引き渡され、９月11日からは一般開放された。

また、平成30年度の通常総会で、「千曲市スポーツ協会」への改名が了承され、県への申請を行った。

令和元年10月13日、台風19号により、更埴文化会館や一般住宅等で甚大な被害を受けたが、体育館や市役所は水害を免れた。一時、市役所も一般の方が避難された時もあった。

今後、利用者が多い更埴体育館は、これまで以上に利用しやすい施設として、千曲市スポーツ協会が指定管理として、適正管理を行っていき、市民とともに歩んでいきたい。

歴代役員名簿（平成17年度～）

◎平成17・18年度

会　　長：下崎　保

副 会 長：滝沢　弘、寺澤　松雄

専務理事：林　幸彦

理　　事

諏訪　清春	小林　重之	小野　伴江
久保　義貴	五十嵐忠雄	山田　健二
佐々木一則	上原　　武	山崎　　章
大家　孚	立川　清士	松澤　和夫
丹羽二三雄	黒岩　啓介	小出　義宗
渡辺　幸子	川原　利秋	柳町　和幸
柳澤　清一	中山　利夫	
北村千江子	中曽根　剛	
宮本　　繁	西村　光男	
宮入　好盛	近藤　孝男	
山田　正文	中曽根　浩	

監　　事：宮坂　登、竹内　長生

役　職	平成19・20年度	平成21・22年度
会　　長	滝沢　　弘	滝沢　　弘
副 会 長	赤地　憲一	赤地　憲一
副 会 長	小宮山　久	小宮山　久
専務理事	林　　幸彦	林　　幸彦
理　　事	石井　孝男	石井　孝男
理　　事	北澤すみ江	北澤すみ江
理　　事	君島眞由美	君島眞由美
理　　事	黒岩　啓介	黒岩　啓介
理　　事	小出　義宗	小出　義宗
理　　事	立川　清士	立川　清士
理　　事	中山　利夫	塚田　訓好
理　　事	丹羽二三雄	西村千代松
理　　事	宮本　　繁	丹羽二三雄
理　　事	柳町　和幸	宮本　敏保
理　　事	山崎　　章	柳町　和幸
監　　事	寺澤　松雄	寺澤　松雄
監　　事	大家　　孚	大家　　孚

役　職	平成23・24年度	平成25・26年度
会　　長	滝沢　　弘	清水　國利
副 会 長	清水　國利	小宮山　久
副 会 長	小宮山　久	塚田　訓好
専務理事	林　　幸彦	林　　幸彦
理　　事	石井　孝男	金井　智弘
理　　事	北澤すみ江	工藤　弘行
理　　事	君島眞由美	小出　義宗
理　　事	小出　義宗	小林由美子
理　　事	立川　清士	立川　清士
理　　事	塚田　訓好	田中　勇次
理　　事	西村千代松	西村千代松
理　　事	丹羽二三雄	丹羽二三雄
理　　事	丸田　幸英	宮下正位喜
理　　事	宮本　敏保	宮本　敏保
理　　事	柳町　和幸	渡辺　幸子
監　　事	黒岩　啓介	北澤すみ江
監　　事	大家　　孚	黒岩　啓介

役　職	平成27・28年度	平成29・30年度
会　　長	清水　國利	寺澤　和治
副 会 長	小宮山　久	永井　知行
副 会 長	塚田　訓好	塚田　訓好
専務理事	林　　幸彦	林　　幸彦
理　　事	工藤　弘行	唐木沢利幸
理　　事	小出　義宗	工藤　弘行
理　　事	小林由美子	久保　吉人
理　　事	立川　清士	小出　義宗
理　　事	田中　勇次	小林由美子
理　　事	寺澤久仁彦	佐藤　公治
理　　事	西村千代松	鈴木　　功
理　　事	丹羽二三雄	立川　清士
理　　事	宮島　信明	田中　勇次
理　　事	宮本　敏保	西村千代松
理　　事	渡辺　幸子	宮坂　尚敏
理　　事		宮本　敏保
理　　事		和田　義宣
監　　事	北澤すみ江	丹羽二三雄
監　　事	黒岩　啓介	渡辺　幸子

役　職	令和元・２年度	令和３・４年度
会　　長	寺澤　和冶	塚田　訓好
副 会 長	永井　知行	永井　知行
副 会 長	塚田　訓好	北澤　和明
専務理事	林　　幸彦	林　　幸彦
理　　事	吉池美由紀	和田　義宣
理　　事	久保　吉人	松林　規昭
理　　事	和田　義宣	松坂　　修
理　　事	小林由美子	西村千代松（R3.10逝去）
理　　事	西村千代松	原田　明乗
理　　事	宮坂　尚敏	豊城　　勇
理　　事	立川　清士	立川　清士
理　　事	佐藤　公治	土屋　　厚
理　　事	唐木澤利幸	山田　兼二
理　　事	宮本　敏保	堀内　　登
理　　事	工藤　弘行	水井　義典
理　　事	鈴木　　功	小林　永知
理　　事	山田　兼二	工藤　弘行
理　　事	小出　義宗	中村　正直
理　　事	中村　正直	
監　　事	丹羽二三雄	吉池美由紀
監　　事	渡辺　幸子	鈴木　　功

（更埴体育館）

特定非営利活動法人　東御市スポーツ協会

１．設立経緯

平成16年４月１日、東御市誕生と同時に市民のスポーツ振興体力の向上及びスポーツ文化の高揚を図ると共に健康で明るく豊かな社会の建設に寄与することを目的に、東部町体育協会、北御牧村体育協会が合併し東御市体育協会が設立しました。

設立以来、東御市行政と車の両輪となって協調連携しながらスポーツの普及、スポーツ文化の振興そして競技力の向上に努め、市民から一定の評価を得てきました。

また、任意団体であるため、組織の拡大強化、財務基盤の確立、運営の合理化等思うに任せない状況でありましたが、平成20年４月１日行政から独立した事務局を設置し、組織基盤の整備を着々と進めてきました。このような状況に中、指定管理の要望を市に提出した事に伴い各加盟協会より、一層の信頼性の確保、組織の拡大強化、財務基盤の確立等を図るために法人化の方向が望ましいとの声が多く、検討の結果、特定非営利活動法人として活動を展開することとなり、同年９月22日、長野県の認可を頂き同月29日特定非営利活動法人東御市体育協会が誕生しました。

令和２年７月、「スポーツ」という言葉が「体育」という概念をも包括した広義の言葉として広く浸透してきたことから、「特定非営利活動法人東御市体育協会」から「特定非営利活動法人東御市スポーツ協会」に名称変更をしました。

以来、更なるスポーツ文化の振興と市民の健康、体力向上、競技スポーツのレベルアップ、市民スポーツの普及推進に幅広い活動を展開しております。

２．あゆみ（昭和63年～平成15年は東部町体育協会）

昭和63年

- 新たにヘルシーダンス、弓道、マレットゴルフ、山岳協会が加盟する。
- 体協創立15周年記念式典を挙行

平成元年

- 早起き野球連盟創立20周年記念事業で20時間野球大会を開催

平成２年
・神津敬次氏が第三代会長に就任
・賛助会員との親睦ゴルフ大会開催
・湯ノ丸スキークラブ創立30周年記念式典開催
平成３年
・新たにビーチボール協会が加盟する。
・ソフトボール協会創立15周年記念大会開催
平成４年
・町民ゴルフ大会を２日間で実施
・バレーボール協会創立20周年記念大会開催
・仮設弓道場、屋内ゲートボール場の増設工事が行われる
平成５年
・体協創立20周年式典を挙行
平成６年
・飯島孝夫氏が第四代会長に就任
平成７年
・ソフトテニス協会創立30周年記念事業挙行
平成８年
・弓道場落成記念祝射会を行う
・山岳協会創立20周年記念誌「籠の登」発行
・ソフトボール協会20周年記念大会開催
平成９年
・陸上協会創立20周年記念式典開催
・マレットゴルフ協会創立20周年大会開催
・第20回東部町町民ゴルフ大会開催
平成10年
・柳橋勝氏が第五代会長に就任
・体協創立25周年記念式典を挙行
平成11年
・早起き野球連盟30周年大会大田区で開催
・体育館建設の為、山梨県白州町体育館視察
・町民ゴルフ大会の参加者が500人超える
・オムニテニスコート完成（８面）
平成12年
・ビーチボール協会創立10周年記念大会開催
・オムニテニスコートで各種大会開催
・念願の第一体育館の工事始まる
平成13年
・第一体育館完成し各種記念大会開催
・「体協とうぶ」発刊第20号より一部をカラーとする
・プロ野球ＯＢ９名による少年野球教室開催
平成14年
・唐沢光章氏が第六代会長に就任
・総合体育大会が25回目を迎え17種目に2000人が参加
・ふわっとテニス協会が加盟
平成15年
・体協創立30周年記念式典挙行
平成16年
・東部町と北御牧村が合併により東御市が誕生、同日「東部町体育協会」と「北御牧村体育協会」が合併し「東御市体育協会」が設立される。構成団体25団体、同日、唐沢光章氏が初代会長に就任
平成17年
・東御市行政改革プランが策定され、体育施設等指定管理者制度導入の検討が始まり、体育協会も役員中心に指定管理制度と法人化の検討を始める。
平成18年
・小山剛氏が第二代目会長に就任
・待望の海野マレットゴルフ場完成
平成19年
・芝生広場外周にランニング･ウォーキングコース完成
・総会にて、「指定管理制度に関する調査研究」を決議
平成20年
・指定管理者指名要望を市へ提出
・市行政から独立した事務所を設置
・体育協会通常総会にて、特定非営利活動法人設立を決議
・県知事から特定非営利活動法人に認証され、特定非営利活動法人格取得
・東御市体育協会創立５周年・特定非営利活動法人認証記念事業及び式典開催
平成21年
・スポーツ少年団「日独交流事業」を実施
平成22年
・鶴田武夫氏が第三代目会長に就任
・東御市長へ体育施設等指定管理者に指名要望書提出
・東御市へ公の施設に係る指定管理者指定申請書提出
平成23年
・東御市議会の議決を経て、東御市体育施設等指定管理者の指定を受ける
・体育施設指定管理業務を開始（３年間）
・太極拳協会が加盟
平成24年
・中央公園グラウンド照明施設改修工事完成
平成25年
・中央公園テニスコート芝生張替え工事完成
・体育協会創立10周年記念事業及び式典開催
平成26年
・第２期体育施設等の指定管理業務開始（５年間）
・チャレンジデー2014に初めて参加
平成27年
・ユニバーサルスポーツクラブが加盟
平成28年
・水泳協会が加盟
平成29年
・中央公園に「くじら噴水」完成
平成30年
・第一体育館にて「大相撲雷電場所」が開催される

平成31年（令和元年）
・第３期体育施設等の指定管理業務開始（５年間）
令和２年
・中堀雅夫氏が第四代目会長に就任
・通常総会にて定款の改正、名称変更登記届けをし長野県知事の認証をうけ「特定非営利活動法人東御市体育協会」から「特定非営利活動法人東御市スポーツ協会」に名称変更
令和３年
・６月現在　加盟協会28団体　会員数2,683人
　柔道、ソフトテニス、陸上競技、湯ノ丸スキークラブ、マレットゴルフ、ふわっとテニス、バドミントン、弓道、サッカー、卓球、バレーボール、ソフトボール、空手、バスケットボール、ヘルシーダンス、ビーチボール、山岳、早起き野球、ソフトバレー、テニス、ゲートボール、太極拳、ユニバーサルスポーツクラブ、グラウンドゴルフ、剣道、ゴルフ、水泳、スポーツ少年団

３．歴代役員

・会　長
石井　補人　昭和48年～60年
戸堀　武之　昭和61年～平成元年
神津　敬次　平成２年～５年
飯島　孝夫　平成６年～９年
柳橋　　勝　平成10年～13年
唐澤　光章　平成14年～17年
小山　　剛　平成18年～21年
鶴田　武夫　平成22年～令和２年
中堀　雅夫　令和２年～現在

特定非営利活動法人　安曇野市スポーツ協会

１　発足までの経過

昭和20年、敗戦により戦時体制一色から180度転換して、体育スポーツを通じて健康の保持増進のための社会体育が生活の中に取り入れられるようになり、各種スポーツクラブの同好者の集いや、クラブ団体が主催した大会等が行われるようになった。昭和23年４月１日に前身の南安曇郡体育協会が発足した。また各町村の体育協会が、昭和25年に豊科町、安曇村に、昭和28年に穂高町、昭和36年に梓川村に、昭和38年に三郷村、堀金村に、昭和43年に奈川村にと順次設置され、各町村体育協会と相互に連絡しつつ郡体育協会が発展してきた。

―前回の県体育協会史より一部抜粋－

平成17年10月に旧南安曇郡豊科町、穂高町、堀金村、三郷村と旧東筑摩郡明科町の３町２村が合併して安曇野市が誕生。半年後の平成18年４月８日に豊科・穂高・堀金・三郷・明科の５地域体育協会と16競技団体で構成する安曇野市体育協会が設立され、初代会長には渡辺展猛氏が就任した。

設立に伴い、旧南安曇郡体育協会を解散し、新たに安曇野市体育協会が、平成18年５月10日付で長野県体育協会への加盟が承認された。

発足当初は、市教育委員会事務局内に事務所を置き、合併前と同様に市行政職員が事務局業務を担当する形で運営されていた。この間に財源の確保及び事業推進にかかわる経費の算定基準等に関する基本方針の策定、会計規程、専門委員会規程、表彰規程等諸規程の策定を進め、協会運営の基盤づくりに努めてきた。

しかし任意団体である安曇野市体育協会の業務をいつまでも行政に依存しているわけにいかず、市からも自立運営を求められていた。そのためには、事務所の場所と、行政職員に代わる事務局業務担当者を確保することが必要であった。場所については、市教育委員会から豊科地域社会体育施設利用窓口業務の委託を受け、その業務と併せて体協事務局業務を豊科勤労者総合スポーツ施設体育館事務室で行うことにより解決。

事務局業務担当者は１名を公募により、もう１名は常務理事に体協から手当てを支給することにより確保し、平成21年４月１日に新たな事務所において、行政より独立した団体としての活動を始める。

平成22年からそれまで行政職員が担当していた安曇野市スポーツ少年団の事務局業務を体協事務局で担当することになり、新たに体協職員を１名採用した。そのため豊科勤労者総合スポーツ施設体育館事務室は手狭となったため、堀金総合体育館事務室の一部を借用し事務所を設置することになり平成22年４月１日から業務を開始した。

平成22年６月15日に開催された代議員会において本体協発足以来２期４年間会長を務めた渡辺展猛氏が退任し、第二代会長に下里安生氏が選任された。

発足以来の４年間で本体協の運営体制がほぼ整えられ、平成22年度からは事業の充実を重点課題とし以下の事業を計画、実施し現在まで継続している。

○平成22年６月28日　第１回安曇野市民スポーツ祭開催（主として種目別競技会担当）
○平成23年３月31日　本協会広報誌創刊号発刊
○平成24年３月31日　本協会ホームページ開設
○平成24年度から
・スポーツ教室開催（24年度９種目・14教室開催）
・本協会表彰内容に中高校生を対象とする奨励賞部門を新設

○平成25年度から指導者研修会を開催
第１回　８月17日スポーツ医学研修会
講　師：元長野県衛生部長
日体協公認スポーツドクター
長野県協議会会長（当時）
古川善行先生
その他：スポーツ障害防止研修会、
救急救命講座　等

２　特定非営利活動法人 安曇野市体育協会へ

平成23年度より一層の組織の活性化、運営の厳正化を図り、公的にも認められた団体として活動するために、法人格取得のための調査研究を開始する。

以来、約４年間にわたり総務委員会を中心に、県民協働課のご指導も受けながら、すでに法人化されている近隣の体育協会などからの情報収集、本協会内の各地域体協や競技団体からの意見聴取や説明会を重ね、平成27年１月に総務部会と事業部会、財務部会で構成する設立準備委員会を結成し、定款案の作成、諸規程案の作成、事業計画案、予算案の作成など法人化に向けて準備を進め、平成27年10月24日に堀金公民館講堂において設立総会を開催した。

平成27年10月24日　設立総会の様子

この総会で新たに理事、監事が選任され、理事の互選により赤羽高明氏が会長に選任された。

設立総会から平成28年度設立認証に向け手続きを進め、平成28年４月14日付で長野県から設立が認証された。同４月20日に登記を完了し、安曇野市体育協会は発足10年の節目となる年に「特定非営利活動法人安曇野市体育協会」として再出発することになった。

平成28年６月１日に開催された安曇野市体育協会最後の代議員で３期６年間第二代会長を務めた下里安生氏が退任し、安曇野市体育協会は解散した。

平成28年６月11日に安曇野市体育協会設立10周年記念事業として堀金総合体育館サブアリーナにおいて、バルセロナ、アトランタオリンピックメダリストの有森裕子さんを講師にお招きし「よろこびを力に・・・」と題して講演会を開催した。参加者は約230名。

講演終了後、あづみ農協烏川支所において記念式典を挙行。来賓、加盟団体を含め出席者は40名。

平成28年６月11日　創立10周年記念式典

３　その後の活動

⑴　平成29年11月24日には2027年に長野県で開催が予定されている第82回国民体育大会に向けて、松本広域連合（松本市,塩尻市,安曇野市,麻績村,生坂村,山形村,朝日村,筑北村）として、主会場を松本地域に誘致したい旨、３市体協（松本・塩尻・安曇野）で県知事へ要望書を提出した。

⑵　中信４市スポーツ協会・体育協会協議会設立
令和２年７月30日松本市総合体育館において設立会議を行い、中信４市スポーツ協会・体育協会協議会設立。体協事業における情報交換の場として活かしていく。令和２年９月23日には松本平広域公園体育館の全面改築、ビーチバレーコートの新設について県への要望活動を行う。＊松本・大町・塩尻・安曇野

⑶　豊科南部総合公園（安曇野市総合体育館含む）の指定管理者に選定
令和２年11月に市教育委員会より指定管理者の公募が始まり㈱ミズノ、㈱アシスト＆ソリューション、安曇野市体協の３社で安曇野市に提案書を提出し、年明け１月18日の審査会には、ミズノ３名、Ａ＆Ｓと本協会各１名の計５名で臨み、３社JVで指定管理者に選定された。10月完成予定で、翌令和４年１月の開館に向け準備を進めていく。

⑷　本協会の名称変更
令和３年６月17日開催の通常総会において、本協会名を特定非営利活動法人安曇野市スポーツ協会に変更する旨、定款変更の議案が議決され、８月12日に長野県に認証され、８月31日に登記が完了した。

第4章

国民体育大会の記録

1 ▌参加のあゆみ（男女総合及び女子総合成績）

2 ▌国民体育大会入賞者

3 ▌北信越国民体育大会成績（県別本大会代表数）

1　国民体育大会参加の歩み（総合成績一覧）

回 開催年	総合成績				派　遣 選手団	季別成績						
	天皇杯		皇后杯				開催地	派　遣 選手団	男女総合		女子総合	
	得点	順位	得点	順位					得点	順位	得点	順位
41 昭和61	89.0 ㊟1	11	80.53 ㊟1	6	816	冬季大会	山梨県・北海道	210	20.5	3	21.5	2
						夏季大会	山梨県	106	10.0	15	9.0	18
						秋季大会		500	58.5	22	50.03	9
42 昭和62	80.5 ㊟1	18	55.5 ㊟1	14	747	冬季大会	長野県	225	29.5	2	24.0	1
						夏季大会	沖縄県	121	4.0	25	4.0	23
						秋季大会		401	47.0	29	27.5	28
43 昭和63	1047.0	14	505.5	11	689	冬季大会	群馬県・岩手県	218	463.0	2	202.0	2
						夏季大会	京都府	116	85.0	35	56.0	33
						秋季大会		355	499.0	40	247.5	27
44 平成元	1078.5	15	483.0	15	766	冬季大会	北海道	227	432.0	2	162.0	2
						夏季大会	北海道	111	70.0	42	54.0	25
						秋季大会		428	576.5	38	267.0	38
45 平成 2	1134.0	14	523.5	13	743	冬季大会	岩手県・青森県	231	391.0	2	171.0	2
						夏季大会	福岡県	101	84.0	39	51.0	42
						秋季大会		411	659.0	29	301.5	20
46 平成 3	1227.5	14	599.0	11	953	冬季大会	長野県・新潟県	242	468.0	2	199.5	1
						夏季大会	石川県	111	96.0	34	52.0	42
						秋季大会		600	663.5	25	347.5	18
47 平成 4	1231.5	14	544.0	13	752	冬季大会	山形県	234	426.5	2	187.5	1
						夏季大会	山形県	99	138.5	23	75.0	25
						秋季大会		419	666.5	30	281.5	29
48 平成 5	1035.5	18	547.5	13	693	冬季大会	青森県・鳥取県	235	426.5	2	208.0	1
						夏季大会	徳島県・香川県	77	66.0	42	55.0	42
						秋季大会		381	543.0	39	284.5	29
49 平成 6	1090.0	17	534.5	16	735	冬季大会	群馬県・宮城県	239	453.0	2	188.5	2
						夏季大会	愛知県	94	88.0	36	51.0	43
						秋季大会		402	549.0	40	295.0	29
50 平成 7	1081.0	18	506.5	18	704	冬季大会	福島県	242	537.0	2	199.0	2
						夏季大会	福島県	84	63.0	41	53.0	42
						秋季大会		378	481.0	46	254.5	40
51 平成 8	1051.42	16	441.0	24	745	冬季大会	栃木県・岐阜県	217	424.0	2	138.0	1
						夏季大会	広島県	87	92.0	34	81.0	26
						秋季大会		441	535.42	42	222.0	44
52 平成 9	1154.5	14	588.0	12	754	冬季大会	北海道・秋田県	206	434.0	2	173.0	2
						夏季大会	大阪府	88	85.0	38	49.0	46
						秋季大会		460	635.5	26	366.0	18
53 平成10	1093.0	13	523.0	19	740	冬季大会	岩手県	211	399.5	2	177.5	2
						夏季大会	神奈川県	93	71.5	40	50.0	43
						秋季大会		436	622.0	30	295.5	32
54 平成11	1076.5	16	526.5	18	725	冬季大会	長野県・北海道	205	472.0	2	198.0	2
						夏季大会	熊本県	82	80.5	39	57.0	46
						秋季大会		438	524.0	41	271.5	35
55 平成12	1070.54	16	489.54	23	787	冬季大会	青森県・富山県	206	436.04	2	148.04	2
						夏季大会	富山県	104	67.0	46	65.0	41
						秋季大会		477	567.5	39	276.5	43
56 平成13	1104.0	18	576.0	16	740	冬季大会	山梨県・長野県	221	452.5	2	200.0	2
						夏季大会	宮城県	91	109.5	38	71.0	40
						秋季大会		428	542.0	42	305.0	34
57 平成14	1158.5	15	504.5	23	737	冬季大会	北海道・新潟県	214	435.0	2	176.0	1
						夏季大会	高知県	127	143.0	43	116.0	43
						秋季大会		396	580.5	29	212.5	45

回 開催年	総合成績				派　遣 選手団	季別成績						
	天皇杯		皇后杯				開催地	派　遣 選手団	男女総合		女子総合	
	得点	順位	得点	順位					得点	順位	得点	順位
58 平成15	1234.0	16	601.5	15	716	冬季大会	群馬県・北海道	189	460.5	2	185.0	1
						夏季大会	静岡県	141	162.0	29	107.0	31
						秋季大会		386	611.5	30	309.5	30
59 平成16	946.5	26	486.0	26	694	冬季大会	青森県・山形県	198	330.0	2	134.0	2
						夏季大会	埼玉県	90	88.0	40	71.0	39
						秋季大会		406	528.5	44	281.0	44
60 平成17	1050.0	18	477.0	30	609	冬季大会	山梨県・東京都・岩手県	191	423.5	2	173.0	1
						夏季大会	岡山県	135	127.0	44	80.0	47
						秋季大会		283	499.5	37	224.0	43
61 平成18	1076.5	19	622.5	14	595	冬季大会	北海道・群馬県	179	364.0	2	167.0	2
						本大会	兵庫県	416	712.5	38	455.5	25
62 平成19	1007.0	23	502.5	24	608	冬季大会	群馬県・秋田県	203	333.0	2	166.0	2
						本大会	秋田県	405	674.0	43	336.5	43
63 平成20	1158.5	15	599.5	17	617	冬季大会	長野県	210	452.5	2	184.0	2
						本大会	大分県	407	706.0	40	415.5	36
64 平成21	1147.0	18	574.0	16	738	冬季大会	青森県・新潟県	236	336.0	2	152.0	2
						本大会	新潟県	502	811.0	29	422.0	33
65 平成22	1138.5	14	584.0	16	637	冬季大会	北海道	221	414.0	2	169.0	2
						本大会	千葉県	416	724.5	38	415.0	34
66 平成23	983.5	17	507.5	21	669	冬季大会	青森県・秋田県	212	347.0	2	162.0	2
						本大会	山口県	457	636.5	42	345.5	44
67 平成24	1026.0	17	565.0	17	748	冬季大会	愛知県・岐阜県	236	342.0	2	170.0	1
						本大会	岐阜県	512	684.0	38	395.0	37
68 平成25	1002.5	17	529.5	16	747	冬季大会	東京都・福島県・秋田県	239	349.0	2	157.0	2
						本大会	東京都	508	653.5	42	372.5	39
69 平成26	997.0	20	500.5	22	682	冬季大会	栃木県・山形県	234	342.5	2	152.5	2
						本大会	長崎県	448	654.5	41	348.0	43
70 平成27	1150.5	14	598.0	16	762	冬季大会	群馬県	242	359.5	2	145.0	2
						本大会	和歌山県	520	791.0	33	453.0	28
71 平成28	1041.5	19	623.5	18	716	冬季大会	岩手県	232	339.0	2	171.0	1
						本大会	岩手県	484	702.5	41	452.5	35
72 平成29	1057.5	18	606.0	19	681	冬季大会	長野県	250	430.0	1	171.0	1
						本大会	愛媛県	431	627.5	45	435.0	39
73 平成30	1233.5	13	731.5	11	828	冬季大会	山梨県・神奈川県・新潟県	259	437.5	1	185.0	1
						本大会	福井県	569	796.0	32	546.5	20
74 令和元	1090.0	16	655.5	14	730	冬季大会	北海道	241	368.5	2	164.5	1
						本大会	茨城県	489	721.5	35	491.0	30
75 令和２	注2	空位	注2	空位	216 注2	冬季大会	青森県・富山県	216	366.0	2	142.0	1
						本大会	鹿児島県	令和５年に特別大会として延期				
76 令和３	注3	空位	注3	空位	注3	冬季大会	愛知県・岐阜県	99	205.0	2	104.0	1
						本大会	三重県	中　止				
77 令和４	402.0		163.0		203	冬季大会	栃木県・秋田県	203	402.0	2	163.0	1
						本大会	栃木県					

※得点は参加点を含む
注１　国体１巡目の旧得点方法による得点
注２　新型コロナウイルス感染症の影響により本大会が令和５年度に延期のため、総合成績は空位
　　派遣選手団は冬季大会（スケート・アイスホッケー・スキー）の人数
注３　新型コロナウイルス感染症の影響により本大会およびスキー競技会が中止のため、総合成績は空位
　　派遣選手団は冬季大会（スケート・アイスホッケー）の人数

2　国民体育大会入賞者一覧

第41回（昭和61年）夏季大会・秋季大会　開催地：山梨県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年男子（共）	10000m競歩	酒井　浩文	飯田消防署	43'28"00
	陸上競技	少年男子（共）	走高跳	近藤　広幸	長野工専	2m13
	漕艇	成年男子	シングルスカル	岩波　健児	下諏訪町役場	3'39"43
	弓道	成年女子	近的	五味　美和 後藤　典子 宮川　静子	長野選抜	
２位	陸上競技	少年男子A	5000m競歩	長原　正夫	長野吉田高	22'49"7
	水泳	少年男子B	200mバタフライ	伊部　敏行	飯田高	2'09"12
	漕艇	少年女子	ナックルフォア	橋本美奈子 朝倉　冬雪 清水　直美 橋爪あけみ 鶴田三恵子	岡谷東高 岡谷東高 岡谷東高 岡谷東高 岡谷東高	4'15"28
	レスリング	成年男子	フリースタイル68kg級	湯田　善吉	オリエクス	
	軟式野球	少年男子		茅野クラブ	東海大三高	
	弓道	成年女子		五味　美和 後藤　典子 宮川　静子	長野選抜	
	弓道	少年女子		松重多恵子 浅野文美恵 仲田　弥生	長野選抜	
	弓道	近的		松重多恵子 浅野文美恵 仲田　弥生	長野選抜	
３位	体操	成年女子	競技	内藤いずみ 近藤　啓子 山田かおり 鶴田有紀子	長野選抜	208.700点
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg級	中島　則行	北佐久農高*教員	
	馬術	成年男子	総合馬術	佐藤　正道	明松寺	
	山岳	少年女子		佐々木由紀子 米久保里美 堀之内美鈴	松本美須々ケ丘高 松本美須々ケ丘高 松本美須々ケ丘高	
４位	陸上競技	少年男子A	1500m	中村恵一郎	篠ノ井高	3'53"43
	陸上競技	少年女子（共）	走高跳	太田亜矢子	長野皐月高	1m70
	水泳	少年男子A	200m平泳	河西　篤	長野中央高	2'28"71
	水泳	成年男子	30才以上50m平泳	石井　孝男	更埴S.S	33"10
	漕艇	成年男子	ナックルフォア	熊崎　壮介 山田　泰史 向山　　忍 野嶋　辰生 金井　健年	長野選抜	3'46"77
	ヨット	成年男子	スナイプ級	柳沢　幸弘	日東光学信和製作所	43.7点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	ヨット	成年男子	スナイプ級	池上　宣男	日東光学信和製作所	
	柔道	少年男子		小林　和彦 養田　和男 加藤　　恒 古畑　忠俊 土屋　　徹	長野選抜	
	山岳	成年男子		小松　善仁 岩下　宏之 北原　　強	長野選抜	
	山岳	成年女子		傘木　正枝 前沢　妙子 高橋真由美	長野選抜	
	空手	少年女子	形	三村　由紀	松本深志高	
	空手	少年男子	組手	井坪　正利	飯田長姫高	
５位	バレーボール	成年男子	9人制		オリンパス辰野	
	バレーボール	少年女子	6人制		松商学園高	
	バスケットボール	成年男子			長野選抜	
	レスリング	少年男子	フリースタイル48kg級	清水　久三	小諸高	
	レスリング	少年男子	フリースタイル56kg級	土屋　寿文	丸子実高	
	レスリング	少年男子	フリースタイル60kg級	武藤　　誉	小諸高	
	レスリング	少年男子	フリースタイル87kg級	八木沢博幸	小諸商高	
	ウェイトリフティング	成年男子	52kg級	江波　博司	中京大	212.5kg
	ハンドボール	成年男子			長野選抜	
	軟式庭球	成年女子		中村　貴子 因幡真由美 丸山　美保 中野　信子 菅田すみ子 松田　春枝	長野選抜	
	卓球	成年女子		塚田　妙子 中島　早苗 小林　幸子 竹花　里恵	長野選抜	
	ソフトボール	成年女子	種別		大和電機	
	弓道	少年女子	遠的	松重多恵子 浅野文美恵 仲田　弥生	長野選抜	
	なぎなた	成年女子	演技	森本美佐子 滝沢千枝子 荒井　由紀	長野選抜	
６位	馬術	少年男子	馬場馬術	飯森　博樹	軽井沢高	
７位	漕艇	成年男子	舵手付フォア	手島　浩一 小口　浩晃 宮沢　　武 逢沢　　靖 鮎沢　要一	駒草R・C 駒草R・C 駒草R・C 駒草R・C 駒草R・C	3'24"56
	ラグビーフットボール	成年男子			長野選抜	
８位	馬術	成年男子	馬場馬術	北原　　衛	松本商工会議所	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	弓道	成年女子	遠的	五味　美和 後藤　典子 宮川　静子	長野選抜	
	カヌー	成年女子	カヤックシングル	登玉　貴子	日体大	2'24"52
	なぎなた	成年女子		森本美佐子 滝沢千枝子 荒井　由紀	長野選抜	

第41回（昭和61年）スケート・アイスホッケー競技　開催地：山梨県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	500m	戸田　金作	三協精機	38"9
	スピードスケート	成年男子A	5000m	今村　俊明	三協精機	7'04"1
	スピードスケート	成年女子A	3000m	浅尾　恵子	三協精機	4'26"5
	スピードスケート	少年男子	1500m	井出　一彦	小海高	1'59"0
	スピードスケート	少年男子	10000m	大村　正彦	小海高	17'03"7
２位	スピードスケート	成年女子B	500m	水野　里美	岡谷スケート協会	46"4
	スピードスケート	少年男子	5000m	大村　正彦	小海高	7'29"6
	スピードスケート	少年女子	500m	小池加奈子	小海高	44"3
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	山村　公乃 岩波　寿美 河西　博子 小池加奈子	軽井沢高 諏訪二葉高 諏訪二葉高 小海高	2'56"1
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山崎　弘雄 山上　泰司	明治大 明治大	種目別９点 競技点77.0点 (41.0・36.0)
３位	スピードスケート	成年男子A	10000m	加藤　和彦	明治大	ナシ
	スピードスケート	成年女子A	500m	黒沢　理香	三協精機	42"0
	スピードスケート	少年男子	5000m	市川　英彦	小海高	7'31"1
	スピードスケート	少年女子	500m	岩波　寿美	諏訪二葉高	44"4
４位	スピードスケート	成年男子A	10000m	今村　俊明	三協精機	ナシ
	スピードスケート	成年女子A	500m	石川さおり	日体大	42"0
	スピードスケート	成年女子A	1500m	中島由美子	専修大	2'15"7
	スピードスケート	成年女子B	1000m	水野　里美	岡谷スケート協会	ナシ
	スピードスケート	少年男子	1500m	寺島　乾士	小海高	2'02"8
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山崎　弘雄	明治大	順位点　6.2 得点83.6 規定1.2 自由5.0
５位	スピードスケート	成年女子A	500m	平川真粧美	三協精機	42"1
	スピードスケート	成年女子A	1000m	平川真粧美	三協精機	ナシ
	スピードスケート	成年女子A	3000m	関　ナツエ	三協精機	4'35"9
	スピードスケート	成年女子B	500m	植松三恵子	諏訪市スケート協会	46"7
	スピードスケート	成年女子B	1000m	植松三恵子	諏訪市スケート協会	ナシ
	スピードスケート	少年男子	500m	佐藤　　司	小海高	40"0
	スピードスケート	少年女子	1000m	山村　公乃	軽井沢高	ナシ
	スピードスケート	少年女子	3000m	依田智恵子	野沢北高	4'51"9
６位	スピードスケート	成年男子A	1500m	戸田　金作	三協精機	ナシ
	スピードスケート	成年女子A	1000m	中島由美子	専修大	ナシ

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スピードスケート	成年女子A	1500m	関　ナツエ	三協精機	ナシ
	スピードスケート	少年男子	5000m	岩下　清人	小海高	ナシ
	スピードスケート	少年男子	10000m	岩下　清人	小海高	ナシ
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	佐藤　　司	小海高	2'43"3
				佐藤　秀樹	軽井沢高	
				佐藤　恒樹	軽井沢高	
				井出　一彦	小海高	
	スピードスケート	少年女子	500m	山村　公乃	軽井沢高	1'02"7
	スピードスケート	少年女子	1500m	河西　博子	諏訪二葉高	2'18"9
７位	スピードスケート	成年男子B	1000m	小松　清視	サンエストスケート	ナシ
	スピードスケート	成年女子A	1000m	石川さおり	日体大	ナシ
	スピードスケート	少年女子	1000m	小池加奈子	小海高	ナシ
８位	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	坂井　正明	三協精機	3'50"6
				宮坂　雅昭	下諏訪体協	
				土屋　幸彦	日体大	
				戸田　金作	三協精機	
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	

第41回（昭和61年）スキー　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１部	クロスカントリー	佐々木一成	北野建設	43'01"3
	スキー	成年男子１部	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	中央大	1'34"86
	スキー	成年男子３部	ジャンプスペシャル	小野　　学	北野建設	204.3
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	中島　和子	北野建設	16'51"7
	スキー	成年女子	リレー	中島　和子	北野建設	1°10'48"8
				富井　弘子	北野建設	
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	白河　三枝	白馬高	1'21"90
	スキー	少年女子	リレー	猪又　由美	白馬高	1°10'48"8
				小沢　和恵	飯山南高	
２位	スキー	成年男子１部	コンバインド	丸山　寿明	白馬体協	403.24
	スキー	成年女子１部	ジャイアントスラローム	荻沢　明子	北野建設	1'20"50
	スキー	少年男子	クロスカントリー	清水　博樹	中野実高	45'55"7
	スキー	少年男子	コンバインド	河野　孝典	飯山南高	393.905
３位	スキー	成年男子	リレー	竹節　義信	日本大	2°01'50"7
				片桐　一茂	丸山解体	
				山口　　智	中央大	
				佐々木一成	北野建設	
				佐々木雅俊	北野建設	
	スキー	成年男子１部	コンバインド	内田　博喜	明治大	399.535
	スキー	成年男子１部	ジャイアントスラローム	丸山　直樹	中央大	1'35"19
	スキー	成年男子３部	コンバインド	切久保勝儀	白馬体協	350.78
	スキー	成年女子１部	クロスカントリー	富井　弘子	北野建設	17'27"8
	スキー	少年男子	ジャイアンドスラローム	猪又　一之	白馬高	1'37"13
	スキー	少年男子	リレー	竹節　知夫	中野実高	2°05'25"3
				清水　博樹	中野実高	
				清水　寛仁	飯山北高	
				青木　英幸	中野実高	
				今井　博幸	長野吉田高	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	少年女子	クロスカントリー	猪又　由美	白馬高	17'43"5
４位	スキー	成年男子１部	コンバインド	児玉　和興	明治大	396.98
	スキー	成年男子２部	クロスカントリー	佐々木雅俊	北野建設	46'28"4
	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	武田　彰代	白馬中教	1'28"50
	スキー	少年男子	ジャンプスペシャル	西方　仁也	下高井農林高	175.3
５位	スキー	成年男子３部	ジャイアントスラローム	河野　政男	野沢温泉スキークラブ	1'26"2
	スキー	成年女子１部	ジャイアントスラローム	深沢　　香	日体大	1'21"44
６位	スキー	成年男子２部	ジャンプスペシャル	佐藤　功一	上野建築	136
	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	児玉　　修	小賀坂スキー製作所	1'42"68
	スキー	成年男子３部	コンバインド	津久井　哲	中野保健所	269.83
	スキー	成年男子３部	ジャイアントスラローム	田原　一成	大町電報電話局	1'27"45
	スキー	少年男子	コンバインド	山本　直鋭	白馬高	343.465
７位	スキー	成年男子３部	ジャンプスペシャル	津久井　哲	中野保健所	96.7
８位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	竹節　啓子	中野実高	1'24"14

第42回（昭和62年）夏季大会・秋季大会　開催地：沖縄県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	酒井　浩文	飯田広域消防署	44'16"64
	自転車	成年男子	ロードレース	大石　一夫	三信技研	30°29'52"06
	軟式野球	少年男子		茅野クラブ	東海大三高	
２位	陸上競技	少年男子B	100m	中津　敦喜	飯田高	10"74
	軟式野球	成年男子		佐久総合病院	長野県	
	空手道	少年女子	型	三村　由紀	松本探志高	
	ボウリング	少年男子	団体戦	乗川　吉康 花岡　秀興	丸子実業高 ㈱千石観光	3351点
３位	陸上競技	少年男子（共）	走高跳	近藤　広幸	長野工高専	2m05
	レスリング	少年男子	グレコローマン68kg級	塩川　和仁	北佐久農高	
	軟式庭球	成年女子		丸山　美穂 因幡真由美 菅田すみ子 松田　春枝 中村　貴子 中野　信子	長野選抜	
４位	陸上競技	少年男子A	5000m競歩	酒井　　弘	北部高	22'32"65
	体操	成年女子	競技	内藤いずみ 近藤　啓子 山田かおり 小池　珠美	長野選抜	212.250点
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	52kg級	江波　博司	松本市役所	210kg
	クレー射撃	成年	スキート	吉原　宣親 成沢　一郎 布野　兼一	長野選抜	
５位	陸上競技	少年男子A	400mハードル	山崎　　茂	岩村田高	52"57
	陸上競技	少年男子A	400m	臼田　正幸	望月高	47"41
	水泳	少年男子A	200m平泳ぎ	河西　　篤	長野中央高	2'29"06
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg級	中島　則行	北佐久農高校教員	
	レスリング	成年男子	グレコローマン100kg級	曽根　哲夫	日産プリンス	
	レスリング	成年男子	フリースタイル130kg級	佐藤　文哉	㈱ユダ	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	陸上競技	少年女子B	100mハードル	青木　利佳	中野西高	15"23
	漕艇	少年女子	ナックルフォア	藤森　由香	岡谷東高	4'23"89
				小沢　文香	岡谷東高	
				鶴田三恵子	岡谷東高	
				小林　藤枝	岡谷東高	
				増田　和枝	岡谷東高	
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	75kg級	大輪　嘉幸	松本市役所	262.5kg
	ボウリング	成年女子	29才以下個人戦	中山　圭子	㈱ﾊｰﾓﾆｯｸﾄﾞﾗｲﾌﾞｼｽﾃﾑ	1576点
７位	弓道	少年女子	近的	柴田　千佳	伊那西高	
				松崎久美子	伊那西高	
				三沢かおる	伊那西高	
８位	水泳	成年男子	30才以上　200mメドレーリレー	角本　周二	長野DSS	1'59"56
				石井　孝男	更埴SS	
				小林　健治	岸田板金	
				五明　浩之	長野アポロ	
	水泳	成年男子	30歳以上50m平泳ぎ	石井　孝男	更埴SS	32"99
	フェンシング	成年男子	サーブル	唐沢　　浩	長野選抜	
				草間　祥明		
				末松　英司		

第42回（昭和62年）スケート・アイスホッケー　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年男子	5000m	大村　正彦	小海高	7'21"49
	スピードスケート	成年女子B	1000m	水野　里美	岡谷スケート協会	1'34"47
	スピードスケート	成年男子A	10000m	市川　英彦	日体大	14'53"85
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山崎　弘雄	明大	種別点12点
				山上　泰司	明大	競技点65.0点
						(33.0・32.0)
２位	スピードスケート	成年女子B	500m	植松三恵子	諏訪市スケート協会	46"37
	スピードスケート	成年女子A	500m	石川さおり	日体大	43"02
	スピードスケート	成年男子B	1000m	平手　則男	三協精機	1'24"10
	スピードスケート	成年男子A	1500m	上田　佳秋	明大	1'57"40
	スピードスケート	少年男子	10000m	大村　正彦	小海高	14'50"81
	スピードスケート	成年女子（共）	2000mリレー	黒沢　理香	三協精機	2'55"00
				小池加奈子	中京短大	
				間　多香音	三協精機	
				石川さおり	日体大	
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	佐藤　恒樹	軽井沢高	2'35"24
				鷹野　　満	小海高	
				油井　一哲	小海高	
				井出　一彦	小海高	
	スピードスケート	成年男子（共）	2000mリレー	土屋　幸彦	三協精機	2'33"79
				宮坂　雅昭	筑波大院	
				朝田　志朗	法政大	
				戸田　金作	三協精機	
３位	スピードスケート	成年女子B	500m	水野　里美	岡谷スケート協会	46"62
	スピードスケート	成年男子B	500m	平手　則男	三協精機	41"62
	スピードスケート	少年女子	500m	山村　公乃	軽井沢高	43"12

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スピードスケート	成年女子B	1000m	植松三恵子	諏訪市スケート協会	1'37"54
	スピードスケート	少年男子	10000m	岩下　清人	小海高	14'52"23
４位	スピードスケート	成年男子A	500m	戸田　金作	三協精機	38"12
	スピードスケート	成年男子A	1500m	土屋　幸彦	三協精機	2'16"03
	スピードスケート	少年男子	1500m	寺島　乾士	軽井沢高	2'06"58
	スピードスケート	少年男子	5000m	岩下　清人	小海高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	浅尾　恵子	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	3000m	浅尾　恵子	三協精機	4'31"48
	スピードスケート	少年女子	1000m	岩波　寿美	諏訪二葉高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	菊池美千子	小海高	2'15"95
５位	スピードスケート	成年男子A	5000m	今村　俊明	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	500m	黒沢　理香	三協精機	55"57
	スピードスケート	少年女子	1500m	堀内　佳子	諏訪二葉高	2'16"35
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	山村　公乃 鶴田　一枝 小池美佐子 岩波　寿美	軽井沢高 小海高 諏訪二葉高 諏訪二葉高	2'56"60
	アイスホッケー	成年			長野選抜	
	アイスホッケー	少年			長野選抜	
６位	スピードスケート	成年男子A	1000m	今村　俊明	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	5000m	上田　佳秋	明大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	1000m	小松　清視	サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	500m	高橋　朝行	小海高	39"75
	スピードスケート	成年女子A	500m	間多　香音	三協精機	55"94
	スピードスケート	成年女子A	1000m	小池加奈子	中京短大	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	500m	鶴田　一枝	小海高	43"77
	スピードスケート	少年女子	1000m	山村　公乃	軽井沢高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	3000m	菊池美千子	小海高	4'40"72
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山崎　弘雄	明大	個人得点33 得点79 (規定3 自由6)
７位	スピードスケート	少年男子	5000m	岩月　直之	野沢南高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1000m	石川さおり	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	依田智恵子	筑波大	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	鶴田　一枝	小海高	タイムなし
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山上　泰司	明大	個人得点32.0 得点67.7 (規定11 自由7)
８位	スピードスケート	成年男子A	500m	土屋　幸彦	三協精機	47"68
	スピードスケート	成年男子A	1500m	戸田　金作	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	51"10
	スピードスケート	少年男子	1500m	井出　一彦	小海高	タイムなし

第42回（昭和62年）スキー　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子２部	コンバインド	丸山　寿明	白馬体協	440.500点
	スキー	成年男子３部	スペシャルジャンプ	小野　　学	北野建設	185.9点
	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	武田　彰代	白馬体協	1'09"98

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	西片　仁也	下高井農林高	198.1点
	スキー	少年男子	コンバインド	河野　孝典	飯山南高	422.965点
２位	スキー	成年男子１部	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷体協	1'14"80
	スキー	成年男子２部	スペシャルジャンプ	丸山　寿明	白馬体協	153.4点
	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	内川　芳美	白馬体協	1'10"15
	スキー	成年女子１部	クロスカントリー	富井　弘子	北野建設	16'04"9
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	中島　和子	北野建設	16'13"9
	スキー	成年女子	リレー	猪又　由美	日本大	1°01'04"0
				富井　弘子	北野建設	
				中島　和子	北野建設	
				竹節佐貴子	中野実高	
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山本さち子	長野中央高	1'04"55
３位	スキー	成年男子２部	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	151.0点
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	白河　三枝	白馬高	1'05"32
	スキー	少年女子	クロスカントリー	祢津ひかる	飯山北高	16'44"9
４位	スキー	成年男子	リレー	片桐　一茂	野沢温泉スキークラブ	1°46'27"2
				竹節　義信	日本大	
				宮入　芳幸	中央大	
				岩本　靖雄	中央大	
				佐々木雅俊	北野建設	
	スキー	成年男子２部	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	292.415点
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	永井恵里子	北野建設	17'33"3
５位	スキー	成年男子１部	コンバインド	山本　直鋭	明治大	376.385点
	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	塩島　秀基	白馬体協	1'18"32
	スキー	成年男子３部	コンバインド	小野　　学	北野建設	258.315点
	スキー	成年女子１部	ジャイアントスラローム	荻沢　明子	北野建設	1'07"70
	スキー	成年女子１部	クロスカントリー	猪又　由美	日本大	16'43"8
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	猪俣　一之	白馬高	1'13"93
６位	スキー	成年男子１部	スペシャルジャンプ	東沢　洋一	北野建設	173.8点
	スキー	成年男子３部	ジャイアントスラローム	田原　一正	大町市スキークラブ	1'07"40
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	河野　孝典	飯山南高	147.1点
	スキー	少年男子	リレー	清水　博樹	中野実高	1°45'50"0
				今井　博幸	長野吉田高	
				望月　弘樹	中野実高	
				青木　　透	飯山北高	
				竹田　和正	下高井農林高	
	スキー	少年女子	クロスカントリー	竹節佐貴子	中野実高	16'58"7
７位	スキー	成年男子１部	ジャイアントスラローム	丸山　直樹	白馬体協	1'16"27
	スキー	成年男子１部	スペシャルジャンプ	小林　雄一	安全索道スキークラブ	164.9点
	スキー	成年男子１部	コンバインド	内田　博喜	北野建設	370.095点
	スキー	成年男子２部	クロスカントリー	佐々木雅俊	北野建設	46'50"1
８位	スキー	成年男子２部	スペシャルジャンプ	森福　　治	野沢温泉スキークラブ	107.5点
	スキー	成年男子３部	ジャイアントスラローム	河野　政男	野沢温泉スキークラブ	1'08"07

第43回（昭和63年）夏季大会・秋季大会　開催地：京都府

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子	10000m競歩	酒井　浩文	飯田広域消防署	41'53"68
	弓道	少年女子	近的・遠的総合	太田　　緑 野神　綾子 元島　啓江	飯田女子高	近的３位 遠的２位
２位	漕艇	成年男子１部	シングルスカル	岩波　健児	下諏訪町役場	3'35"56
	ライフル射撃	成年	BRL・T40	前橋　典子	長野県ライフル射撃協会	492点
	ボウリング	成年男子１部	個人40歳代	百瀬　千波	㈲ニキ設備工事	1898点
	ボウリング	成年男子	団体	長谷部謙司 根橋　輝行 百瀬　千波 渡辺　得夫	カートン光学 根橋工業 ㈲ニキ設備工事 TDK	7167点
３位	レスリング	成年男子	フリー130kg級	佐藤　文哉	和田㈱	
	レスリング	少年男子	フリー81kg級	坂下　　晋	下伊那農業高	
	自転車	成年男子	ポイントレース15000m	大原　　満	信州大	
	軟式庭球	成年2	団体	太田　　衛 小林　哲三 寺山美智子 山田　隆稔 松田　謙治 鎌倉ふく代	長野選抜	
４位	陸上	少年男子A	100m	中津　敦喜	飯田高	10"78
	陸上	少年男子A	2000m障害	中村　　守	上田高	5'46"18
	弓道	成年女子2	近的・遠的総合	竹田　かえ 大島奈緒美 田口　美穂	長野選抜	近的７位 遠的４位
	ボウリング	成年男子１部	個人29歳以下	長谷部謙司	カートン光学	1791点
５位	陸上	少年男子A	ハンマー投	杉村　秀樹	長野南高	57m06
	水泳	少年男子A	200mバタフライ	伊部　敏行	飯田高	2'07"44
	ボクシング	成年男子	フェザー級	中沢　　剛	東京農業大	
	ボクシング	成年男子	ライトフライ級	小宮山高平	昭和産業	
	レスリング	成年男子	フリー48kg級	高橋　成敏	㈱信濃マツダ	
	レスリング	成年男子	フリー82kg級	井出　　優	㈱長野ダイハツモータース	
	レスリング	成年男子	フリー100kg級	曽根　哲郎	㈱日産プリンス長野	
	レスリング	成年男子	グレコローマン62kg級	倉根　国弘	日体大	
	レスリング	少年男子	グレコローマン46kg級	小山　　稔	北佐久農業高	
	ライフル射撃	成年	CP25・M60	茂木喜久男	長野ライフル射撃協会	577点
６位	陸上	少年男子A	5000m競歩	酒井　　弘	北部高	22'29"8
	水泳	成年男子	200m個人メドレー	河西　　篤	日大	2'14"36
	カヌー	成年女子	カヤックシングル500m	登玉　貴子	日体大	2'23"87
	空手道	成年女子	型	丸山　裕美	三菱電機㈱	
７位	漕艇	少年女子	シングルスカル	西沢　美香	岡谷南高	4'22"52
	弓道	成年女子1	近的・遠的総合	後藤　典子 近藤　明子 林　　礼子	長野選抜	近的８位 遠的７位
	山岳	成年男子		松沢　　功 村井　勇睦 馬目　弘仁	長野選抜	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	山岳	少年女子		大沼 原田 柳沢	岡谷南高	
	カヌー	成年女子	カヤックシングル300m	登玉　貴子	日体大	1'16"36
	カヌー	少年男子	カヤックフォア500m	森山　一樹 笹井　賢次 舟坂　和也 柳本　正澄	長野西 長野工業高 長野南高 長野高	1'54"28
８位	陸上	少年女子A	400m	高根香代子	野沢南高	58"03
	陸上	少年男子B	110mハードル	藤森　　要	諏訪二葉高	14"95
	水泳	成年女子	飛板飛込	草川佐由理	信越ビル美装	173.52点
	カヌー	少年男子	カヤックフォア300m	森山　一樹 笹井　賢次 舟坂　和也 柳本　正澄	長野西 長野工業高 長野南高 長野高	1'00"24

第43回（昭和63年）スケート・アイスホッケー　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	5000m	大村　正彦	三協精機	7'38"34
	スピードスケート	成年女子A	3000m	浅尾　恵子	三協精機	4'39"76
	スピードスケート	成年女子A	5000m	浅尾　恵子	三協精機	8'20"30
	スピードスケート	成年女子C	500m	水野　里美	岡谷スケート協会	51"83
	スピードスケート	少年男子	5000m	小平　　寛	岡谷南高	7'17"59
	スピードスケート	少年女子	1500m	堀内　佳子	諏訪二葉高	2'12"12
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	土屋　幸彦 佐藤　　司 井出　一彦 戸田　金作	三協精機 日体大 専修大 三協精機	2'35"83
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	田中　稚早 小池加奈子 黒沢　理香 石川さおり	三協精機 中京短大 三協精機 日体大	2'53"93
２位	スピードスケート	成年男子A	500m	戸田　金作	三協精機	40"19
	スピードスケート	成年男子A	3000m	今村　俊明	三協精機	4'22"12
	スピードスケート	成年女子C	500m	植松三恵子	諏訪市スケート協会	51"98
	スピードスケート	少年男子	1000m	真寿田聖也	岡谷南高	1'24"27
	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　三枝	諏訪清陵高	1'29"12
３位	スピードスケート	成年男子A	10000m	大村　正彦	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	1500m	小松　清視	サンエススケート	2'26"15
	スピードスケート	成年女子A	500m	石川さおり	日体大	44"50
	スピードスケート	成年女子A	1000m	石川さおり	日体大	1'26"29
	スピードスケート	成年女子A	1500m	吉原　映子	日体大	2'12"75
	スピードスケート	少年男子	1500m	荒井　律生	小海高	2'02"73
	スピードスケート	少年男子	3000m	小平　　寛	岡谷南高	4'16"50
	スピードスケート	少年女子	1000m	吉田　亜紀	野沢北高	1'31"03
	スピードスケート	少年女子	3000m	菊池美千子	小海高	5'10"34
	スピードスケート	少年女子	5000m	菊池美千子	小海高	8'28"82
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	真寿田聖也	岡谷南高	2'36"53

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				渡辺　　猛	佐久高	
				鷹野　　満	小海高	
				佐藤　恒樹	軽井沢高	
４位	スピードスケート	成年男子A	5000m	市川　英彦	日体大	8'02"97
	スピードスケート	成年女子B	500m	山田　啓子	長野市スケート協会	55"12
	スピードスケート	少年男子	500m	佐藤　恒樹	軽井沢高	40"04
	スピードスケート	少年男子	10000m	土屋　純二	軽井沢高	14'55"30
	スピードスケート	少年女子	1500m	上原　三枝	諏訪清陵高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	5000m	菊池　裕子	岡谷東高	タイムなし
５位	スピードスケート	成年女子A	5000m	依田智恵子	筑波大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子B	1000m	山田　啓子	長野市スケート協会	1'45"30
	スピードスケート	少年男子	3000m	荒井　律生	小海高	4'24"85
	スピードスケート	少年女子	500m	山本絵里子	軽井沢高	46"57
	スピードスケート	少年女子	3000m	堀内　佳子	諏訪二葉高	5'10"78
	フィギュア	成年男子		山下　泰司	明治大	得点122.0
６位	スピードスケート	成年男子A	500m	土屋　幸彦	三協精機	40"45
	スピードスケート	成年男子A	1500m	両角陽一郎	明治大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	10000m	市川　英彦	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	500m	黒沢　理香	三協精機	44"68
	スピードスケート	少年男子	500m	鷹野　　満	小海高	41"40
７位	アイスホッケー	成年			長野選抜	
８位	スピードスケート	少年男子	1000m	佐藤　恒樹	軽井沢高	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	長田　博孝	東海大三高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	500m	吉田　亜紀	野沢北高	1'01"90
	フィギュア	成年男子		山崎　弘雄	長野市役所	得点118.9

第43回（昭和63年）スキー　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子１部B	ジャイアントスラローム	武田真由巳	小谷体協	1'16"11
	スキー	成年女子１部B	クロスカントリー	佐々木和子	北野建設	16'11"0
	スキー	成年女子	リレー	佐々木和子	北野建設	1°00'25"6
				猪又　由美	日大	
	スキー	少年女子	リレー	竹節佐貴子	中野実業高	1°00'25"6
				佐藤恵美子	中野実業高	
２位	スキー	成年女子１部A	ジャイアントスラローム	富井真紀子	筑波大	1'12"02
	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	猪又　由美	日大	16'56"5
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	猪又　一之	白馬高	1'19"38
３位	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	129.8点
	スキー	成年男子	リレー	片桐　一茂	野沢温泉スキークラブ	1°53'42"3
				清水　寛仁	中央大	
				宮入　芳幸	志賀高原スキークラブ	
				小出　　浩	東洋大	
				河野　孝典	早稲田大	
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	竹節　一夫	中野実業高	1'19"62
	スキー	少年男子	クロスカントリー	清水　博樹	中野実業高	44'15"1
	スキー	少年男子	リレー	青木　　透	飯山北高	1°51'45"5
				清水　博樹	中野実業高	
				今井　博幸	長野吉田高	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				竹田　和正	下高井農林高	
				青木　英幸	中野実業高	
４位	スキー	成年男子１部B	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	310.615点
	スキー	成年男子１部C	コンバインド	切久保勝儀	白馬体協	354.770点
	スキー	成年男子２部	クロスカントリー	横沢　　修	白馬体協	50'07"6
	スキー	少年男子	クロスカントリー	今井　博幸	長野吉田高	44'17"7
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	白河　三枝	白馬高	1'14"25
	スキー	少年女子	クロスカントリー	竹節佐貴子	中野実業高	17'28"4
５位	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	切久保勝儀	白馬体協	72.3点
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	河野　孝典	早稲田大	362.570点
	スキー	成年男子１部C	コンバインド	津久井　哲	飯山市スキークラブ	313.360点
	スキー	少年男子	コンバインド	三好　英次	上田高	350.270点
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	丸山　有紀	白馬高	1'14"43
６位	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	中村　節子	㈱浜清	1'30"24
	スキー	少年男子	コンバインド	小泉　　仁	飯山南高	347.910点
７位	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	西沢　重信	JR長野スキー部	1'40"82
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	東沢　洋一	北野建設	164.8点
	スキー	成年男子１部A	クロスカントリー	片桐　一茂	野沢温泉スキークラブ	43'40"6
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	富井　剛志	飯山南高	1'20"47
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	小泉　　仁	飯山南高	167.5点
	スキー	少年男子	クロスカントリー	青木　　透	飯山北高	44'54"3
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山本香代子	中野実業高	1'15"82
	スキー	少年女子	クロスカントリー	佐藤恵美子	中野実業高	17'40"0
８位	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	丸山　直樹	白馬体協	1'23"56
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	山本　直鋭	明治大	357.190点
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　勝美	下高井農林高	342.250点

第44回（平成元年）夏季大会・秋季大会　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	酒井　浩文	飯田広域消防署	41'42"70
	自転車	成年男子	個人ロードレース	大石　一夫	ボスコ	3°07'42"83
	馬術	少年	クロスカントリー	篠原　真一	長野日大高	0点 3'18"
	空手道	成年女子	形	三村　由紀	青山学院大	48.8点
	弓道	成年男子			長野選抜	
２位	漕艇	成年男子１部	シングルスカル	岩波　健児	下諏訪町役場	3'32"18
	バレーボール	成年女子１部	9人制		塩尻工業㈱	
	自転車	少年男子	1000mタイムトライアル	塩原　正長	松本工高	1'08"97
３位	陸上競技	少年男子A	5000m競歩	高根　英貴	岩村田高	22'20"35
	自転車	成年男子	ポイントレース	大石　一夫	ボスコ	29点
	ボクシング	成年男子	フェザー級	中沢　　剛	東京農大	
４位	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	56kg級	永田　真樹	篠ノ井高	スナッチ87.5kg
	軟式野球	成年１部壮年			全諏訪	
	カヌー	成年男子	カヤックシングル500m	武江　　一	関東学院大	1'54"53
	空手道	少年女子	形	朝倉美奈子	坂城高	47.5点
５位	陸上競技	少年男子B	やり投	田中　完次	大町北高	52m74
	ボクシング	成年男子	ライトフライ級	小宮山高平	K.K伊藤組	
	レスリング	成年男子	グレコローマン57kg級	井出　真一	信州学園佐久幼稚園	
	レスリング	成年男子	グレコローマン62kg級	倉根　国弘	日本大	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg級	塩川　和仁	日本大	
	レスリング	少年男子	グレコローマン88kg級	富岡　　孝	小諸商高	
	レスリング	少年男子	フリースタイル81kg級	小林　　真	小諸商高	
	ハンドボール	成年２部			全長野	
	軟式野球	成年２部			セイコーエプソン㈱	
	馬術	成年１部	クロスカントリー	望月　一雄	明科町役場	20点3'18"
	ソフトボール	成年女子			大和電機工業	
	ソフトボール	少年女子			長野選抜	
	ライフル射撃	成年	cp25・M	茂木喜久男	長野県警察学校	190点
	ボウリング	成年男子１部	個人戦29歳以下	長谷部謙司	㈱カートン光学	1754点
６位	水泳	少年女子A	220m平泳ぎ	石坂いづみ	長野日大高	2'45"81
	カヌー	成年男子	カヤックシングル300m	武江　　一	関東学院大	1'05"86
	山岳	成年女子			長野選抜	
	ボウリング	成年男子	団体戦	長谷部謙司	㈱カートン光学	6799点
				大森今朝武	パブスナックJJ	
				百瀬　千波	㈲ニキ設備工事	
				渡辺　得夫	㈱TDK	
７位	陸上競技	少年女子A	400m障害	清水　　幸	野沢南高	65"49
	馬術	少年	標準障害飛越	篠原　真一	長野日大高	4点55"31
	バレーボール	成年男子２部	9人制		全諏訪	
８位	カヌー	少年男子	カヤックシングル500m	柳本　正澄	長野高	2'12"17
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	52kg級	江波　博司	松本市役所	ジャーク105kg
	馬術	成年１部	総合馬術	佐藤　正道	明松寺	216.1点
	ボウリング	成年女子２部	個人戦	川井　洋子	カワイ	1516点

第44回（平成元年）スケート・アイスホッケー　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	5000m	大村　正彦	専修大	7'35"29
	スピードスケート	成年女子A	500m	田中　稚早	三協精機	44"07
	スピードスケート	成年女子C	500m	水野　里美	岡谷スケート協会	50"92
	スピードスケート	成年女子C	1000m	水野　里美	岡谷スケート協会	1'40"38
	スピードスケート	少年女子	1000m	堀内　佳子	諏訪二葉高	1'28"17
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	戸田　金作	三協精機	2'46"60
				井出　一彦	専修大	
				佐藤　恒樹	明治大	
				小平　　寛	法政大	
２位	スピードスケート	成年男子A	10000m	大村　正彦	専修大	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	真寿田聖也	岡谷南高	2'48"90
				北原　　優	岡谷南高	
				藤原　喜臣	佐久高	
				土屋　泰仁	軽井沢高	
３位	スピードスケート	成年男子A	500m	戸田　金作	三協精機	39"93
	スピードスケート	成年男子B	1000m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	1'32"58
	スピードスケート	成年女子B	500m	有賀千恵子	伊那スケート協会	48"94
	スピードスケート	少年男子	500m	北原　　優	岡谷南高	40"09
	スピードスケート	少年男子	1000m	真寿田聖也	岡谷南高	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	土屋　純二	軽井沢高	14'50"58
	スピードスケート	少年女子	500m	吉田　亜紀	野沢北高	46"17

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　三枝	諏訪清陵高	1'28"01
	スピードスケート	少年女子	3000m	菊池美千子	小海高	4'51"14
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	田中　稚早 石川さおり 依田智恵子 山村　順子	三協精機 高瀬中学校教 筑波大 東洋大	3'05"96
４位	スピードスケート	成年男子A	1500m	岩下　清人	専修大	2'02"81
	スピードスケート	成年女子B	1000m	有賀千恵子	伊那スケート協会	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	500m	平林　佐一	岡谷南高	40"76
	スピードスケート	少年女子	500m	山本絵里子	軽井沢高	46"04
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山上　泰司	明治大	順位点16.2 得点108.3 個人順位８位
	フィギュア	成年男子	フィギュア	山崎　弘雄	長野市役所	順位点28.6 得点96.5 個人順位14位
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
５位	スピードスケート	成年男子A	1500m	小平　　寛	法政大	2'05"09
	スピードスケート	成年女子B	1500m	小松　清視	サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	500m	小池加奈子	小池組	44"21
	スピードスケート	成年女子A	3000m	関　ナツエ	三協精機	4'51"34
	スピードスケート	成年女子A	1500m	関　ナツエ	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年女子C	1000m	山田　啓子	長野スケート協会	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1000m	藤原　喜臣	佐久高	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	真寿田聖也	岡谷南高	2'05"76
	スピードスケート	少年男子	5000m	土屋　純二	軽井沢高	8'16"40
	スピードスケート	少年女子	1500m	上原　三枝	諏訪清陵高	2'21"71
６位	スピードスケート	成年男子A	5000m	市川　英彦	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	10000m	市川　英彦	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	44"88
	スピードスケート	成年女子A	3000m	依田智恵子	筑波大	5'22"26
	スピードスケート	成年女子C	500m	山田　啓子	長野スケート協会	52"33
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	吉田　亜紀 鶴田　一枝 上原　三枝 堀内　佳子	野沢北高 小海高 諏訪清陵高 諏訪二葉高	3'04"97
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
７位	スピードスケート	成年女子A	1000m	田中　稚早	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	堀内　佳子	諏訪二葉高	タイムなし
８位	スピードスケート	少年男子A	500m	井出　一彦	専修大	1'00"24
	スピードスケート	少年男子A	1000m	井出　一彦	専修大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	依田智恵子	筑波大	タイムなし

第44回（平成元年）スキー　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１A	クロスカントリー	今井　博幸	中央大	44'59"9
	スキー	成年男子１C	コンバインド	畔上　寿次	野沢温泉スキーC	411点
	スキー	成年男子１C	スペシャルジヤンプ	小野　　学	北野建設スキーC	178.8点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	富井　剛志	飯山南高	1'30"81
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	丸山　有紀	白馬高	1'05"85
２位	スキー	成年男子１Ａ	クロスカントリー	清水　博樹	同志社大	45'03"3
３位	スキー	成年男子１Ａ	クロスカントリー	片桐　一茂	野沢温泉スキーC	45'05"8
	スキー	少年男子	コンバインド	小泉　　仁	飯山南高	407点
	スキー	成年女子１Ａ	ジャイアントスラローム	白河　三枝	早稲田大	1'09"70
	スキー	成年女子１Ｂ	ジャイアントスラローム	武田真由巳	小谷村体協	1'12"27
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山本さち子	長野日大高	1'07"01
４位	スキー	成年男子	リレー	片桐　一茂	野沢温泉スキーC	1°53'01"4
				今井　博幸	中央大	
				清水　博樹	同志社大	
				青木　英幸	日体大	
				山本　直鋭	明治大	
	スキー	女子	リレー	竹節佐貴子	中野実高	1°05'42"1
				佐藤恵美子	中野実高	
				猪又　由美	日本大	
				祢津ひかる	飯山北高	
５位	スキー	少年男子	クロスカントリー	竹田　和正	下高井農林高	46'25"2
	スキー	少年男子	リレー	保坂　寿芳	中野実高	1°54'42"1
				竹田　和正	下高井農林高	
				青木　　透	飯山北高	
				吉池　孝二	中野実業高	
				禰津　　誠	下高井農林高	
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	田原　　恵	白馬高	1'07"59
	スキー	少年女子	クロスカントリー	佐藤恵美子	中野実高	17'24"0
６位	スキー	成年男子１Ｂ	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキーC	324.775点
	スキー	成年男子１Ｃ	ジャイアントスラローム	田原　一正	大町市スキーC	1'10"30
	スキー	成年男子１Ｃ	コンバインド	切久保勝儀	白馬村体協	338.150点
	スキー	成年男子１Ｃ	スペシャルジャンプ	津久井　哲	飯山市スキーC	108.0点
	スキー	少年男子	コンバインド	森　　敏	飯山北高	391.660点
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	北林　万里	白馬高	1'07"77
７位	スキー	成年男子１Ａ	コンバインド	河野　孝典	早稲田大	393.500点
	スキー	成年男子１Ｂ	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキーC	151.2点
	スキー	成年男子2	ジャイアントスラローム	伴　　一彦	上田スキーC	1'41"08
	スキー	成年男子2	クロスカントリー	久保田千代	野沢温泉スキーC	53'08"5
８位	スキー	成年男子１Ａ	スペシャルジャンプ	西方　仁也	明治大	190.8点
	スキー	成年男子１Ｃ	ジャイアントスラローム	椿　　哲男	長野市スキーC	1'10"79
	スキー	成年女子2	クロスカントリー	水野こゆき	長野市スキーC	26'10"0

第45回（平成２年）夏季大会・秋季大会　　開催地：福岡県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子（共）	10000m競歩	酒井　浩文	国士舘大	39'43"05
	馬術	少年男子	クロスカントリー	大久保寿幸	上田西高	2'42"72
	空手道	成年女子	形	三村　由紀	青山学院大	49.3点
２位	漕艇	少年男子	舵手つきフォア	内藤　秀則	岡谷南高	3'27"97
				湯本　和彦		
				藤重　　浩		
				牛山　英俊		

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	陸上	少年男子Ａ	5000m競歩	高根　英貴	岩村田高	21'20"72
	軟式庭球	成年２部		中村　由一 深沢　　泰 石田　征勝 金井　静馬 星谷みつ枝 小林知恵子	長野選抜	
	馬術	成年１部	スピードアンドハンディネス	佐藤　正道	明松寺	1'00"62
	馬術	成年１部	クロスカントリー	北村　幸雄	北村建築	2'59"77
３位	漕艇	成年男子１部	舵手なしペア	岩波　健児 矢島　正恒	下諏訪町役場	3'48"45
	陸上	少年男子Ａ	走高跳	小柳　和朗	中野実業高	2m13
	バレーボール	少年男子	6人制	岡谷工業高		
	レスリング	成年男子	フリースタイル130kg	佐藤　文哉	㈱和田	
	空手道	少年女子	形	朝倉美奈子	坂城高	48.2点
	クレー射撃	成年	スキート	布野　兼一 成沢　一郎 村山　深美	長野選抜	275点
４位	陸上	少年女子Ａ	3000m競歩	笠原　千穂	辰野高	14'36"50
	バレーボール	成年男子２部	9人制		長野選抜	
	バレーボール	成年女子１部	6人制		長野選抜	
	バレーボール	成年女子１部	9人制		セイコーエプソン塩尻	
	体操	少年女子	競技		長野選抜	216.3点
	馬術	成年１部	馬場馬術	佐藤　正道	明松寺	
	馬術	成年２部	トップスコアー	中村英太郎	ナガノ・ビデオ	1'05"77
５位	レスリング	成年男子	グレコローマン57kg	井出　真一	小諸商業高校教員	
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg	塩川　和仁	日体大	
	レスリング	少年男子	フリースタイル115kg	緑川　英樹	更級農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン58kg	高山　昭夫	北佐久農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン63kg	大井　源裕	北佐久農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン68kg	竹内　一政	北佐久農業高	
	馬術	成年１部	馬場馬術	北原　　衛	㈱ストロング	1041点
	柔道	少年男子		山岸　裕二 富岡　　孝 小林　桂樹 中山　重光 村上　　理	長野選抜	
６位	自転車	成年男子	4000m団体追抜競走	塩原　正長 古本　清文 大石　一夫 羽田野隆彦 内田　義人	長野選抜	4'43"87
	弓道	成年女子２部		清水　和代 宮本　晴美 平井　礼子	長野選抜	
７位	カヌー	成年男子	カヤックシングル300m	武江　　一	箕輪工業高校教員	1'23"72
	陸上	成年（共）	10000m	福島　　正	富士通長野	29'33"70
	陸上	成年（共）	走高跳	有賀　大成	高遠高校教員	2m05

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	陸上	少年男子Ａ	400mハードル	相沢　伸也	野沢南高	53"39
	体操	成年女子	競技		長野選抜	101.375
	ライフル射撃	成年１部	FSB・P60	前橋　秀昭	JR東日本	
	ﾗｸﾞﾋﾞｰ･ﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	成年２部			長野選抜	
８位	カヌー	成年男子	カヤックシングル500m	池田　敏樹	高見澤	2'40"97
	カヌー	成年女子	カヤックシングル500m	田中　道子	電算	3'03"04
	弓道	成年女子１部		後藤　典子 木村由紀子 木下　久子	長野選抜	

第45回（平成２年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子Ａ	5000m	小竹　直喜	三協精機	7'37"34
	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	田中　稚早	三協精機	42"81
	スピードスケート	少年女子	1500m	上原　三枝	諏訪清陵高	2'13"07
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	佐藤　恒樹 藤原　喜臣 小平　　寛 井出　一彦	明治大 日体大 法政大 専修大	2'33"62
２位	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　三枝	諏訪清陵高	1'28'77
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	田中　千景 篠原ひろみ 油井　桐子 上原　三枝	岡谷東高 諏訪二葉高 野沢北高 諏訪清陵高	2'57"47
３位	スピードスケート	成年女子Ａ	3000m	依田智恵子	筑波大	4'33"24
	スピードスケート	少年男子	10000m	遠藤　亮治	佐久高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	田中　千景	岡谷東高	1'30"89
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	田中　稚早 山本絵里子 伊藤　仁美 依田智恵子	三協精機 山梨学院大 三協精機 筑波大	2'53"77
４位	スピードスケート	成年男子Ａ	10000m	小竹　直喜	三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年男子Ｂ	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	43"85
	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	伊藤　仁美	三協精機	43"04
	スピードスケート	成年女子Ｂ	500m	有賀千恵子	主婦	49"12
	スピードスケート	成年女子Ｃ	500m	山田　啓子	山田企画設計事務所	51"94
	スピードスケート	成年女子Ｃ	1000m	山田　啓子	山田企画設計事務所	1'43"24
	スピードスケート	少年女子	500m	田中　千景	岡谷東高	44"66
	スピードスケート	少年女子	3000m	菊池　裕子	岡谷東高	4'50"38
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	足立　雄一 佐藤　嘉泰 佐藤　文武 由井　健央	軽井沢高 岡谷南高 佐久高 佐久高	2'40"29
	フィギュア	成年男子		山上　泰司	守谷商会	119.8点
	フィギュア	成年男子		山崎　弘雄	長野市役所	102.4点
５位	スピードスケート	成年男子Ａ	1000m	井出　一彦	専修大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子Ａ	1500m	岩下　清人	専修大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	田中　稚早	三協精機	タイムなし

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	スピードスケート	成年女子Ａ	1500m	堀内　佳子	大東文化大	2'16"59
	スピードスケート	少年女子	500m	油井　桐子	野沢北高	45"14
	スピードスケート	少年女子	1500m	菊池　裕子	岡谷東高	2'17"24
６位	スピードスケート	成年男子Ｂ	1500m	小松　清視	サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	黒沢　　誠	佐久高	タイムなし
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
７位	スピードスケート	成年男子Ａ	500m	井出　一彦	専修大	52"30
	スピードスケート	成年男子Ａ	1000m	小平　　寛	法政大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	堀内　佳子	大東文化大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ｂ	1000m	有賀千恵子	主婦	タイムなし
８位	スピードスケート	成年女子Ａ	1500m	依田智恵子	筑波大	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	篠原　淳晃	小海高	タイムなし

第45回（平成２年）冬季大会　スキー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１Ｂ	クロスカントリー	佐々木一成	北野建設	41'59"4
	スキー	成年男子１Ａ	コンバインド	児玉　和興	志賀高原スキーC	433.000点
	スキー	成年男子１Ｃ	コンバインド	畔上　寿次	野沢温泉スキーC	397.000点
	スキー	少年女子	クロスカントリー	佐藤恵美子	中野実業高	16'45"3
	スキー	成年男子	リレー	片桐　一成	野沢温泉スキーC	1°46'42"0
				清水　博樹	同志社大	
				今井　博幸	中央大	
				清水　寛仁	中央大	
				佐々木一成	北野建設	
２位	スキー	成年男子１Ａ	コンバインド	山本　直鋭	明治大	410.700点
	スキー	成年女子１Ａ	ジャイアントスラローム	北林　万里	日本大	59"80
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	切久保深雪	白馬高	1'01"21
３位	スキー	成年男子１Ｃ	スペシャルジャンプ	畔上　寿次	野沢温泉スキーC	96.2点
	スキー	成年男子２	ジャイアントスラローム	山本　　正	志賀高原スキーC	1'22"87
	スキー	成年女子１Ａ	クロスカントリー	竹節佐貴子	北野建設	17'06"8
４位	スキー	成年女子１Ｂ	ジャイアントスラローム	深沢　　香	小谷体協	1'05"91
	スキー	成年女子２	クロスカントリー	池田みゆき	野沢温泉スキーC	22'39"7
	スキー	女子	リレー	竹節佐貴子	北野建設	1°8'11"3
				佐藤恵美子	中野実業高	
				横川　恵理	白馬高	
				中村　由紀	白馬高	
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	猪又　　誠	白馬高	1'16"42
５位	スキー	成年男子１Ｃ	コンバインド	津久井　哲	飯山市スキーC	311.030点
	スキー	少年男子	コンバインド	上野　　隆	飯山北高	375.145点
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	山本　　治	中野西高	1'16"49
６位	スキー	成年男子１Ｃ	スペシャルジャンプ	津久井　哲	飯山市スキーC	82.0点
	スキー	成年女子１Ａ	クロスカントリー	祢津ひかる	日体大学	17'16"7
	スキー	成年女子１Ｂ	クロスカントリー	富井　弘子	野沢温泉スキーC	19'19"2
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　　彦	下高井農林高	366.115点
７位	スキー	成年男子１Ｂ	ジャイアントスラローム	宮沢　　徹	小谷体協	1'21"71
	スキー	成年男子１Ｂ	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキーC	303.175点
	スキー	成年男子１Ｃ	クロスカントリー	佐藤　志郎	北野建設	46'46"5

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	スキー	少年男子	コンバインド	河野　大輔	下高井農林高	357.465点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　　彦	下高井農林高	135.0点
	スキー	少年女子	クロスカントリー	横川　恵理	白馬高	17'19"7
	スキー	少年男子	リレー	畔上　大地	飯山北高	1°54'35"2
				佐藤　新一	飯山北高	
				吉池　孝二	中野実業高	
				春原　直人	中野実業高	
				松村　慎也	飯山南高	
８位	スキー	成年男子１Ａ	クロスカントリー	片桐　一茂	野沢温泉スキーC	43'58"7
	スキー	少年男子	クロスカントリー	佐藤　新一	飯山北高	42'03"8
	スキー	成年男子１Ｃ	ジャイアントスラローム	田原　一正	大町市スキーC	1'02"74
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	太田　光洋	白馬高	1'17"56
	スキー	成年男子１Ａ	スペシャルジャンプ	西方　仁也	明治大	155.7点
	スキー	成年男子１Ｂ	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキーC	120.6点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	池田　俊幸	長野日大高	133.4点

第46回（平成３年）夏季大会・秋季大会　　開催地：石川県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子	10000m競歩	酒井　浩文	国土館大	41'21"57
２位	陸上	少年男子	5000m競歩	小池　昭彦	長野高	21'51"82
	陸上	少年女子Ａ	1500m	宮下　三華	諏訪実業高	4'23"52
	軟式野球	成年１部	壮年		全諏訪	
	空手	成年女子	型	三村　由紀	青山学院大	49.0点
３位	陸上	少年男子Ａ	ハンマー投げ	三浦　　理	篠ノ井高	58m92
	陸上	少年女子共通	3000m	石原さつき	諏訪実業高	9'16"29
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg級	塩川　和仁	日体大	
	柔道	成年女子			長野選抜	
	弓道	少年女子			飯田女子高	
	クレー射撃	成年	トラップ		長野選抜	
４位	漕艇	少年男子	舵手付きフォア	塩原　　剛	岡谷南高	3'24"36
				小松　崇宏		
				牛山　英俊		
				中島　啓司		
				滝沢　英昭		
	バレーボール	少年男子	６人制		岡谷工業高	
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	90kg級	清澤　英彦	松商学園高	スナッチ100kg
	ボウリング	成年男子２部	個人戦	曽山　米保	堀金村役場	1680点
	柔道	少年女子			長野選抜	
５位	漕艇	成年１部	舵手付きフォア	馬場　智義	長野選抜	3'20"56
				平林　幸哉		
				矢島　正恒		
				加藤　　洋		
				北沢　勝己		
	陸上	少年男子Ｂ	400m	塚田　英彦	上田東高	48"96
	ボクシング	成年男子	ライトフライ級	押金　　励	大東文化大	
	レスリング	成年男子	フリースタイル130kg級	緑川　英樹	国際武道大	
	レスリング	少年男子	グレコローマン63kg級	新井　英孝	北佐久農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン82kg級	美斉津　修	北佐久農業高	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	ソフトボール	成年女子			長野選抜	
	空手	少年女子	型	朝倉美奈子	坂城高	48.2点
６位	漕艇	成年男子	シングルスカル	岩波　健児	下諏訪町役場	3'43"95
	陸上	成年女子２部	3000m	五味まゆみ	茅野陸協	11'31"31
	陸上	少年男子Ｂ	5000m	西沢　洋務	東海大第三高	14'53"24
	ライフル射撃	成年	BRL・T40	上島　由子	明治学院大	187点
	ボウリング	成年男子１部	29歳以下	成沢　宣正	千国総合観光㈱	1670点
	ボウリング	成年男子１部	40歳代	池田　正幸	㈱ニヤクコーポレーション	1733点
	ボウリング	成年男子１部	50歳代	吉見　芳廣	吉見建築板金	1677点
７位	カヌー	成年男子１部	レーシングK－1　500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	1'53"71
	カヌー	成年女子１部	スラロームK－1　15ゲート	佐々木元子	八十二銀行	241.17点
	陸上	少年女子	3000m競歩	笠原　千穂	辰野高	15'41"32
	バレーボール	成年男子１部	9人制		長野選抜	
	バレーボール	成年男子２部	9人制		長野選抜	
	バレーボール	成年女子１部	6人制		長野選抜	
	バレーボール	成年女子１部	9人制		セイコーエプソン塩尻	
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	90kg級	清澤　英彦	松商学園高	ジャーク137.5kg
	自転車	成年男子	ポイントレース	大石　一夫	ボスコKK	
	軟式庭球	成年女子			長野選抜	
	軟式庭球	成年２部			長野選抜	
	軟式野球	成年２部			岡谷市役所	
	弓道	少年男子			長野選抜	
８位	カヌー	成年男子１部	レーシングK－1　300m	武江　　一	箕輪工業高*教員	1'07"82
	陸上	少年男子	400mハードル	本田　速人	野沢南高校	52"40
	陸上	成年女子共通	100mハードル	大谷留美子	中京女子大	14"74
	軟式庭球	少年女子			長野選抜	
	軟式野球	成年１部	一般		ルビコン㈱	
	馬術	少年男子	ダービー	大久保輝彦	上田西高	
	ライフル射撃	成年	AR・P60	宮沢　邦宏	ヤマト運輸	189点

第46回（平成３年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年女子	3000m	清水　美映	松本深志高	4'29"39
	スピードスケート	成年女子Ａ	3000m	関　ナツエ	㈱三協精機	4'22"35
	スピードスケート	成年女子Ｃ	500m	有賀千恵子	主婦	48"77
	スピードスケート	成年女子Ｃ	1000m	有賀千恵子	主婦	1'38"29
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	田中　千景 沢田　由布 佐々木志保 市川もとよ	岡谷東高 岡谷東高 佐久高 軽井沢高	2'56"29
２位	スピードスケート	少年男子	5000m	篠原　淳晃	小海高	7'21"59
	スピードスケート	少年男子	1500m	黒沢　　誠	佐久高	2'02"66
	スピードスケート	成年男子Ａ	500m	井田　一彦	専修大	38"75
	スピードスケート	少年女子	1500m	名取　美香	佐久高	2'18"06
	スピードスケート	成年女子Ａ	1500m	関　ナツエ	㈱三協精機	2'12"06
３位	スピードスケート	少年男子	5000m	野明　弘幸	岡谷南高	7'25"49
	スピードスケート	少年男子	1500m	日向　　功	小海高	2'05"57
	スピードスケート	少年女子	1000m	田中　千景	岡谷東高	タイムなし

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スピードスケート	少年女子	500m	田中　千景	岡谷東高	43"38
	スピードスケート	成年男子Ｂ	1500m	川口　和茂	日本精機工業	2'30"04
	スピードスケート	成年男子Ｂ	1000m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	1'26"55
	スピードスケート	成年男子Ｂ	500m	川口　和茂	日本精機工業	42"17
	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	山本絵里子	山梨学院大	43"62
	スピードスケート	成年女子Ｂ	1000m	村沢　優子	主婦	1'41"22
	スピードスケート	成年女子Ｃ	1000m	山田　啓子	山田企画設計事務所	1'44"63
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	近藤　広輝	㈱三協精機	2'35"70
				佐藤　恒樹	明治大	
				小平　　寛	法政大	
				井手　一彦	専修大	
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	船水　一葉	㈱三協精機	2'50"86
				山本絵里子	山梨学院大	
				堀内　佳子	大東文化大	
				関　ナツエ	㈱三協精機	
４位	スピードスケート	少年男子	500m	佐藤　嘉泰	岡谷南高	39"71
	スピードスケート	少年女子	500m	沢田　由布	岡谷東高	44"68
	スピードスケート	成年男子Ａ	10000m	市川　英彦	八千穂中*教員	タイムなし
	スピードスケート	成年男子Ａ	1500m	岩下　清人	専修大	2'05"24
	スピードスケート	成年男子Ｂ	1500m	小松　清視	サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	成年男子Ｂ	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	42"48
	スピードスケート	成年女子Ａ	1500m	堀内　佳子	大東文化大	2'12"51
	スピードスケート	成年女子Ｂ	1500m	井出　里美	ﾌﾞﾙｰﾏﾘｰﾝｽｲﾐﾝｸﾞｽｸｰﾙ	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ｂ	500m	井出　里美	ﾌﾞﾙｰﾏﾘｰﾝｽｲﾐﾝｸﾞｽｸｰﾙ	48"83
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	小平　昇一	諏訪二葉高	2'34"80
				田口　　優	佐久高	
				由井　健史	佐久高	
				佐藤　嘉泰	岡谷南高	
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
５位	スピードスケート	少年女子	1500m	清水　美映	松本深志高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ｂ	500m	村沢　優子	主婦	49"18
６位	スピードスケート	成年男子Ａ	5000m	市川　英彦	八千穂中*教員	タイムなし
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
７位	スピードスケート	少年男子	10000m	野明　弘幸	岡谷南高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	山本絵里子	山梨学院大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ｃ	500m	山田　啓子	山田企画設計事務所	51"17
８位	スピードスケート	少年男子	500m	小平　昇一	諏訪二葉高	1'00"91
	スピードスケート	少男子Ｃ	1000m	那須　功宣	昭和電工	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	船水　一葉	㈱三協精機	タイムなし
	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	船水　一葉	㈱三協精機	1'23"22
	スピードスケート	少年女子	1000m	佐々木志保	佐久高	タイムなし

第46回（平成３年）冬季大会　スキー　　開催地：新潟県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子１部Ａ	ジャイアントスラローム	山本さち子	ロシニョールジャパン	1'07"41
	スキー	成年男子１部Ａ	クロスカントリー	今井　博幸	中央大	44'02"03
	スキー	成年男子１部Ｂ	クロスカントリー	片桐　一茂	野沢温泉スキーＣ	46'15"4
	スキー	少年女子	クロスカントリー	佐藤　雪野	中野実業高	17'22"0

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１部C	コンバインド	畔上　寿次	野沢温泉スキーC	173.5点 50'43"9
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　　彦	下高井農林高	212.0点 47'06"0
	スキー	成年男子１部B	ジャイアントスラローム	丸山　直樹	白馬村体協	1'26"45
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	小野　　学	北野建設スキーC	173.2点
２位	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	山田　裕美	小谷村体協	1'17"60
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	切久保深雪	白馬高	1'9"69
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	堀米ひろみ	志賀高原スキーC	20"28"04
	スキー	少年男子	クロスカントリー	堀米　光男	中野実業高	47'43"03
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	山本　直鋭	北野建設スキーC	209.2点
３位	スキー	成年男子１部C	ジャイアントスラローム	田原　一正	大町市スキーC	1'10"90
	スキー	女子	リレー	佐藤恵美子 中村　由紀 竹節佐貴子 佐藤　雪野	早稲田大 白馬高 北野建設スキーC 中野実業高	1°3'26"45
	スキー	少年男子	リレー	神津　正昭 畔上　大地 堀米　光男 森　　知弘 祢津　　誠	中野実業高 飯山北高 中野実業高 下高井農林高 下高井農林高	1°50'18"0
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	山本　　治	中野西高	1'19"32
４位	スキー	成年女子１部A	ジャイアントスラローム	丸山　有紀	早稲田大	1'8"45
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	内田　博喜	野沢温泉スキーC	175.5点 47'32"0
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	猪又　　誠	白馬高	1'20"33
５位	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	斎藤　安彦	南牧スキーC	1'36"44
	スキー	成年男子	リレー	片桐　一茂 青木　　透 今井　博幸 春原　直人 清水　寛仁	野沢温泉スキーC 日本大 中央大 法政大 中央大	1°48'58"0
６位	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	佐藤恵美子	早稲田大	17'23"01
	スキー	少年女子	クロスカントリー	中村　由紀	白馬高	17'54"05
	スキー	成年男子１部B	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体協	1'28"44
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	横川　朝治	北野建設スキーC	184.3点
	スキー	成年男子１部C	コンバインド	津久井　哲	飯山市スキーC	174.9点
７位	スキー	少年男子	コンバインド	富井　正樹	飯山北高	175.5点 47'32"0
	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	富井　剛志	野沢温泉スキーC	1'21"91
	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキーC	132.8点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　正樹	飯山北高	158.4点
８位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　　彦	下高井農林高	153.8点
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	東沢　洋一	北野建設スキーC	181.3点

第47回（平成４年）夏季大会・秋季大会　　開催地：山形県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	漕艇	少年男子	舵手付きフォア	小松　崇宏 共田　武生 伊藤　浩史 中島　啓司 水沢　裕樹 早出　　克	岡谷南高	3'12"68
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	酒井　浩文	国士館大	41'02"13
	軟式野球	成年男子１部	壮年		オール駒ヶ根	
	弓道	少年男子			長野選抜	
	空手道	成年女子	形	三村　由紀	青山学院大	3回目
２位	陸上競技	少年男子	5000m競歩	佐藤　孝洋	野沢南高	21'00"19
	バレーボール	少年男子	6人制		岡谷工業高	
	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	少年男子			岡谷工業高	
３位	漕艇	少年女子	舵手付きフォア	原　　朱里 中村　理恵 小口絵理子 秋山由紀子 渡辺　晴美 矢沢　友恵	諏訪清陵高	3'36"64
	自転車	成年男子	1㎞タイムトライアル	塩原　正長	早稲田大	1'9"53
	ライフル射撃	成年	FSB－P60	前橋　秀昭	JR東日本	690.3点
４位	漕艇	成年男子１部	舵手付きフォア	平林　幸哉 岩波　健児 馬場　智義 加藤　　洋 北澤　勝己 矢島　正恒	諏訪漕陵会 下諏訪町役場 諏訪漕陵会 諏訪漕陵会 下諏訪町役場 下諏訪町役場	3'09"93
	陸上競技	少年女子	3000m競歩	丸山　由香	皐月高	14'03"41
	陸上競技	少年女子	やり投げ	山本　晴美	長野南高	49m44
	バレーボール	成年女子１部	9人制		セイコーエプソン塩尻	
	バレーボール	成年女子２部	9人制		野沢チーム佐久市	
	弓道	成年男子			長野選抜	
	ライフル射撃	成年	AR－K20	宮澤　邦宏	ヤマト運輸	191点
５位	漕艇	成年男子２部	ダブルスカル	小林　淳司 天野　修一	諏訪漕陵会 諏訪漕陵会	3'23"33
	陸上競技	成年女子共通	400mハードル	青木　利佳	筑波大	61"68
	陸上競技	少年男子	走幅跳	伊藤　健一	飯田高	7m05
	ボクシング	成年男子	ライト級	中沢　　剛	下高井農林*教員	
	ボクシング	成年男子	ライトウェルター級	西沢　卓哉	望月高校*職	
	レスリング	成年男子	フリースタイル130kg級	緑川　英樹	国際武道大	
	レスリング	成年男子	グレコローマン57kg級	井出　真一	上田西高*教員	
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg級	塩川　和人	浅間中*教員	
	レスリング	成年男子	フリースタイル54kg級	青木　　潤	北佐久農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン63kg級	二見　洋一	北佐久農業高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン88kg級	竹内　智之	北佐久農業高	
	弓道	少年女子			長野選抜	
６位	サッカー	少年男子			長野選抜	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	馬術	成年男子	ダービー	佐藤　正道	明松寺	2.5点 2'16"0
	馬術	成年男子	総合馬術	佐藤　正道	明松寺	124.00点
	ライフル射撃	成年女子	ARL－S20	前橋　典子	長野ヤナセ	188点
７位	陸上競技	少年男子	400mハードル	臼田　　茂	野沢南高	52"99
	テニス	少年男子			長野選抜	
	空手道	成年女子	形	滝沢めぐみ	田川高	
８位	カヌー	成年男子１部	レーシングK－1300m	武江　　一	箕輪工業高*教員	1'04"36
	馬術	少年男子	2段階障害飛越	藤沢　臣悟	長野ろう学校	12点

第47回（平成４年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：山形県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	山本絵里子	山梨学院大	43"04
	スピードスケート	成年男子Ａ	1500m	小竹　直喜	㈱三協精機	2'03"35
	スピードスケート	少年男子	10000m	篠原　淳晃	小海高	14'57"40
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	山本絵里子 山田美佐子 関　ナツエ 田中　稚早	山梨学院大 中京女子短期大 ㈱三協精機 ㈱三協精機	2'56"05
２位	スピードスケート	成年女子Ｂ	500m	井出　里美	主婦	49"82
	スピードスケート	少年女子	500m	金井　悦子	軽井沢高	43"74
	スピードスケート	成年女子Ｂ	1000m	井出　里美	主婦	1'47"06
	スピードスケート	成年女子Ｃ	1000m	有賀千恵子	主婦	1'45"93
	スピードスケート	少年男子	1500m	田中　慎也	東海大第三高	2'04"26
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	田中　千景 井内美貴子 荒崎　江美 佐々木志保	岡谷東高 岡谷東高 佐久高 佐久高	2'57"42
３位	スピードスケート	成年男子Ｂ	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	43"04
	スピードスケート	成年女子Ｃ	500m	山田　啓子	山田企画	48"56
	スピードスケート	少年女子	500m	田中　千景	岡谷東高	43"79
	スピードスケート	成年女子Ｃ	1000m	山田　啓子	山田企画	1'48"23
	スピードスケート	少年男子	1500m	日向　　功	小海高	2'05"76
	スピードスケート	少年女子	1500m	佐々木志保	佐久高	2'20"36
	スピードスケート	成年女子Ａ	3000m	開　ナツエ	㈱三協精機	4'31"40
	スピードスケート	少年女子	3000m	清水　美映	松本深志高	4'42"70
	スピードスケート	少年男子	5000m	関　　克教	岡谷南高	7'16"04
	スピードスケート	少年男子	10000m	北沢富士男	岡谷南高	15'18"28
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	近藤　広輝 真寿田聖也 佐藤　嘉泰 小竹　直喜	㈱三協精機 明治大 法政大 ㈱三協精機	2'38"69
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	小平　昇一 矢崎　文也 田口　　優 篠原浩一郎	諏訪二葉高 諏訪二葉高 佐久高 小海高	2'39"96
４位	スピードスケート	成年女子Ｃ	500m	有賀千恵子	主婦	49"07
	スピードスケート	少年女子	1000m	佐々木志保	佐久高	1'30"44

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	スピードスケート	少年女子	3000m	降籏　克子	大町北高	4'51"27
５位	スピードスケート	成年女子Ａ	500m	田中　稚早	㈱三協精機	43"54
	スピードスケート	成年男子Ｂ	1000m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	1'30"75
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	船水　一葉	㈱三協精機	1'27"59
	スピードスケート	成年男子Ａ	1500m	岩下　清人	専修大	2'10"47
６位	スピードスケート	成年男子Ｂ	1000m	鈴木　　優	中日新聞	1'32"39
	スピードスケート	少年女子	1500m	清水　美映	松本深志高	2'15"36
７位	スピードスケート	少年女子	1000m	田中　千景	岡谷東高	1'47"18
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
８位	スピードスケート	少年男子	500m	篠原浩一郎	小海高	40"63
	スピードスケート	成年女子Ａ	1000m	田中　稚早	㈱三協精機	1'41"31
	スピードスケート	成年女子Ａ	1500m	関　ナツエ	㈱三協精機	2'18"10
	スピードスケート	成年男子Ａ	5000m	小竹　直喜	㈱三協精機	8'45"83
	フィギュア	成年男子		山上　泰司	㈱守谷商会	
	フィギュア	成年男子		徳嵩　伸治	日体大	

第47回（平成４年）冬季大会　スキー　　開催地：山形県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１部Ａ	クロスカントリー	今井　博幸	中央大	41'02"6
	スキー	成年男子１部Ａ	クロスカントリー	片桐　一茂	野沢温泉スキークラブ	43'18"7
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　　彦	下高井農高	213.6点 41'01"8
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	竹田　高広	中野実業高	1'03"36
	スキー	成年男子１部Ｃ	スペシャルジャンプ	小野　　学	北野建設スキー部	152.3点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	杉山　恵亮	飯山北高	192.6点
	スキー	少年男子	リレー	佐藤　　威 神津　正昭 堀米　光男 市川　雄一 畦上　大地	中野実業高 中野実業高 中野実業高 下高井農高 飯山北高	1°35'56"7
２位	スキー	少年男子	クロスカントリー	堀米　光男	中野実業高	42'48"3
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　正樹	飯山北高	191.5点
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	宮下　征樹	白馬高	1'03"78
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	切久保深雪	白馬高	1'04"43
３位	スキー	成年女子１部Ａ	ジャイアントスラローム	山本さち子	ロシニョールジャパン	1'02"63
	スキー	成年女子１部Ｂ	ジャイアントスラローム	渡辺　　香	小谷村体協	1'09"98
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	坂口奈津実	中野実業高	1'05"38
	スキー	成年男子１部Ａ	ジャイアントスラローム	平沢　　岳	志賀高原スキークラブ	1'07"89
	スキー	成年男子１部Ａ	コンバインド	河野　孝典	野沢温泉スキークラブ	197.6点 39'15"5
	スキー	成年男子１部Ｂ	コンバインド	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	182.5点 43'11"1
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　正樹	飯山北高	210.0点 44'01"3
	スキー	女子	リレー	中村　由紀 竹節佐貴子 佐藤　雪野 猪又　由美	白馬高 北野建設スキー部 中野実業高 北野建設スキー部	1'00'15"3

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	スキー	成年男子１部B	ジャイアントスラローム	丸山　直樹	小谷村体協	1'15"11
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	児玉　和興	志賀高原スキークラブ	178.5点 37'59"2
	スキー	成年男子１部C	コンバインド	畔上　寿次	野沢温泉スキークラブ	164.8点 50'34"9
	スキー	少年男子	コンバインド	佐藤　正彦	飯山南高	182.8点 41'04"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー	神津　正昭	中野実業高	43'12"1
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉スキークラブ	95.1点
５位	スキー	成年男子１部C	ジャイアントスラローム	田原　一正	NTT信越	1'08"55
	スキー	成年女子１Ａ	クロスカントリー	竹節佐貴子	北野建設スキー部	17'00"8
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	新井　美夏	志賀高原スキークラブ	22'30"1
	スキー	少年女子	クロスカントリー	中村　由紀	白馬高	17'49"7
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	山本　直鋭	北野建設スキー部	174.4点 38'24"9
	スキー	成年男子	リレー	祢津　　誠 今井　博幸 片桐　一茂 太田　敏朗 吉池　孝二	日体大 中央大 野沢温泉スキークラブ 東洋大 中央大	1°38'19"9
６位	スキー	成年男子２部	クロスカントリー	郷津　哲人	白馬体協	47'26"9
	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	松田富士人	専修大	1'08"82
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　　彦	下高井農高	175.0点
７位	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	山本　　治	志賀高原スキークラブ	1'09"23
	スキー	成年女子１部A	ジャイアントスラローム	片桐　朝美	日体大	1'04"36
	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	猪又　由美	北野建設スキー部	17'17"2
	スキー	少年女子	クロスカントリー	佐藤　雪野	中野実業高	17'50"0
８位	スキー	成年男子１部C	コンバインド	津久井　哲	飯山市スキークラブ	147.8点 53'33"2
	スキー	少年男子	クロスカントリー	佐藤　　威	中野実業高	44'08"2
	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	143.8点

第48回（平成５年）夏季大会・秋季大会　　開催地：徳島県、香川県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	少年男子A	400m	塚田　英彦	上田東高	47"16
	陸上	成年男子共通	10000m競歩	酒井　浩文	国士館大	41'45"90
	陸上	少年男子A	5000m	西沢　洋務	東海大三高	14'36"88
２位	ﾗｸﾋﾞｰ･ﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	少年男子			岡谷工業高校	
	レスリング	少年男子	グレコ68kg	大井　将憲	北佐久農高	
	空手道	成年女子	型	三村　由紀	筑波大研究生	
３位	漕艇	成年男子	舵手付きフォア	平林　幸哉 岩波　健児 馬場　智義 加藤　　洋 北澤　勝己 矢島　正恒	セイコーエプソン㈱ 下諏訪町役場 八十二銀行 セイコーエプソン㈱ 下諏訪町役場 下諏訪町役場	2'59"43
	バレーボール	成年女子１部	9人制		セイコーエプソン塩尻	
	自転車	成年男子	1kmタイムトライアル	塩原　正長	早稲田大	1'09"790
	弓道	少年女子			長野選抜	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	レスリング	少年男子	グレコローマン58kg	竹花　良二	上田西高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン74kg	田守　太郎	上田西高	
	レスリング	少年男子	フリー46kg	堀切　邦晃	小諸高	
４位	カヌー	少年女子	レーシング　K－1500m	内山美智子	更級農業高	2'21"89
	陸上	少年男子A	5000m競歩	神津　英人	岩村田高	21'59"49
	ソフトテニス	成年２部			長野選抜	
	馬術	成年２部	2段階障害飛越	井地亜由美		33"68
	空手道	少年女子	型	杉山　裕美	松商学園高	
５位	柔道	成年女子	団体		長野選抜	
	レスリング	少年男子	フリー63kg	石田　亮一	上田西高	
	空手道	少年男子	組手	山田　高照	松本深志高	
６位	ライフル射撃	成年	FSB－P60	前橋　秀昭	JR東日本	686.6点
７位	陸上	少年男子B	800m	田幸　将徳	中野実業高	1'55"67
	馬術	少年	ダービー	大久保輝彦	上田西高	
	弓道	成年女子	2部		長野選抜	
８位	水泳	成年男子	100m自由形	徳永　　啓	順天堂大	53"30
	自転車	成年男子	スプリント	岩間　光輝	信州大	
	ライフル射撃	成年	AR－3P60	割田　好則	シナノケンシ	580点
	ライフル射撃	成年	CP25－60	茂木喜久雄	長野中央警察署	672点

第48回（平成５年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年女子	500m	土屋和花子	野沢北高	43"76
	スピードスケート	成年女子A	1000m	田中　稚早	㈱三協精機製作所	1'25"66
	スピードスケート	少年女子	1500m	清水　美映	松本深志高	2'11"48
	スピードスケート	少年女子	3000m	清水　美映	松本深志高	4'34"48
	スピードスケート	成年男子A	5000m	篠原　淳晃	日体大	7'7"63
	スピードスケート	少年男子	5000m	野明　弘幸	岡谷南高	7'13"60
２位	スピードスケート	成年女子A	500m	田中　稚早	㈱三協精機製作所	42"51
	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	49"83
	スピードスケート	少年女子	500m	金井　悦子	軽井沢高	43"86
	スピードスケート	少年男子	5000m	日向　　功	小海高	7'15"25
	スピードスケート	成年男子A	10000m	遠藤　亮治	日体大	14'47"86
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	五味　一志	東海大三高	2'37"21
				矢崎　文也	諏訪二葉高	
				小池　嘉則	諏訪二葉高	
				篠原浩一郎	小海高	
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	金井　悦子	軽井沢高	2'56"88
				佐々木志保	佐久高	
				荒崎　江美	佐久高	
				土屋和花子	野沢北高	
３位	スピードスケート	成年男子A	1000m	黒沢　　誠	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子C	1000m	山田　啓子	山田企画	1'42"45
	スピードスケート	成年男子A	5000m	遠藤　亮治	日体大	7'10"22
	スピードスケート	少年男子	10000m	北沢富士夫	岡谷南高	14'20"90
	スピードスケート	成年女子B	500m	井出　敬子	御代田中*教員	47"79
４位	スピードスケート	成年女子A	500m	山本絵里子	山梨学院大	43"05
	スピードスケート	成年女子B	500m	山田　啓子	山田企画	50"26

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	スピードスケート	成年女子A	1000m	関谷　千晶	㈱三協精機製作所	タイムなし
	スピードスケート	成年女子B	1000m	名取みのり	主婦	タイムなし
	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	降籏　克子	大町北高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	3000m	野崎　千春	㈱三協精機製作所	4'32"56
５位	スピードスケート	成年男子C	500m	那須　功宣	フヨーライト	44"51
	スピードスケート	少年男子	500m	五味　一志	東海大三高	39"28
	スピードスケート	少年男子	1000m	篠原浩一郎	小海高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	佐々木志保	佐久高校	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	野明　弘幸	岡谷南高	タイムなし
６位	スピードスケート	成年男子B	500m	鈴木　　勝	中日新聞	43"61
	スピードスケート	成年女子B	500m	名取みのり	主婦	8"10
	スピードスケート	成年男子C	1000m	那須　功宣	フヨーライト	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1500m	黒沢　　誠	日体大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	野崎　千春	㈱三協精機製作所	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	田中　慎也	東海大三高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	関谷　千晶	㈱三協精機製作所	3'09"45
				山本絵里子	山梨学院大	
				市川もとよ	山梨学院大	
				田中　稚早	㈱三協精機製作所	
７位	スピードスケート	成年男子B	500m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	43"67
	スピードスケート	成年男子B	1000m	長岡　秀秋	長岡鉄工所	タイムなし
	スピードスケート	成年男子C	1000m	小松　清視	サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	成年女子B	1000m	井出　敬子	御代田中*教員	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	日向　　功	小海高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	3000m	名取　美香	日体大	4'40"07
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	

第48回（平成５年）冬季大会　スキー　　開催地：鳥取県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子２部	大回転	松本　澄香	白馬村体育協会	1'16"08
	スキー	少年男子	クロスカントリー	神津　正昭	中野実業高	43'35"07
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	山本　直鋭	北野建設スキークラブ	219.0点
						42'43"09
	スキー	少年男子	コンバインド	高沢　公治	飯山南高	184.2点
						44'05"09
	スキー	成年男子２部	大回転	山崎　元義	小賀坂スキークラブ	1'24"36
	スキー	女子	リレー	中村　由紀	慶応大	1°05'30"03
				竹節佐貴子	北野建設スキークラブ	
				平野　正美	飯山北高	
				水野小百合	飯山北高	
	スキー	少年男子	リレー	佐藤　　威	中野実業高	1°41'21"02
				神津　正昭	中野実業高	
				常田　武彦	中野実業高	
				森　　知弘	下高井農林高	
				堀米　光男	中野実業高	
２位	スキー	少年男子	クロスカントリー	佐藤　　威	中野実業高	44'29"07
	スキー	成年女子１部A	大回転	山本さち子	ロシニョールジャパンスキークラブ	1'09"73

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	竹節佐貴子	北野建設スキークラブ	16'28"04
	スキー	成年女子１部B	クロスカントリー	猪又　由美	北野建設スキークラブ	18'07"07
	スキー	少年男子	コンバインド	中村　幸志	白馬高	205.7点 47'20"07
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	138.3点 47'41"01
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉スキークラブ	80.0点
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー	常田　武彦	中野実業高	44'31"07
	スキー	少年女子	大回転	松田美登里	白馬高	1'11"69
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	伊沢真由美	飯山市スキークラブ	21'39"08
	スキー	成年男子１部A	大回転	平澤　　岳	志賀高原スキークラブ	1'15"31
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	杉山　恵亮	飯山北高	146.5点
	スキー	成年男子	リレー	祢津　　誠 畔上　大地 佐藤　新一 山本　直悦 太田　敏朗	日体大 中央大 早稲田大 北野建設スキークラブ 東洋大	1°48'14"07
４位	スキー	少年男子	クロスカントリー	堀米　光男	中野実業高	44'58"07
	スキー	成年男子１部B	大回転	丸山　直樹	白馬村体育協会	1'21"80
	スキー	少年男子	コンバインド	市川　雄一	下高井農林高	136.1点 42'32"9
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	佐藤　正彦	飯山南高	129.3点
５位	スキー	少年女子	クロスカントリー	平野　正美	飯山北高	17'22"09
	スキー	成年女子１部B	大回転	大谷　妙子	白馬村体育協会	1'17"48
	スキー	少年男子	コンバインド	佐藤　信義	長野日大高	135.3点 42'59"02
６位	スキー	少年男子	クロスカントリー	森　　知弘	下高井農林高	45'30"05
	スキー	成年女子１部A	大回転	片桐　朝美	日体大	1'11"05
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	上野　　隆	中央大	189.3点 46'36"01
７位	スキー	少年女子	大回転	田中加芳子	長野日大高	1'12"35
	スキー	成年男子１部A	クロスカントリー	畔上　大地	中央大	45'18"09
	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	91.0点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	河野　智海	下高井農林高	117.7点
８位	スキー	成年男子１部C	大回転	田原　一正	NTT信越スキークラブ	1'13"70
	スキー	少年女子	クロスカントリー	西澤美智子	中野実業高	17'28"07
	スキー	成年男子１部A	大回転	猪又　一之	小賀坂スキークラブ	1'16"97
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	185.6点

第49回（平成６年）夏季大会・秋季大会　　開催地：愛知県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子B	800m	一志　　学	福井工大	1'51"82
	レスリング	少年男子	グレコローマン63kg	石田　亮一	上田西高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン58kg	竹花　良二	上田西高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン68kg	大井　将憲	北佐久農業高	
	自転車	成年男子	1㎞タイムトライアル	塩原　正長	大塚製薬ノックス	1'07"574
	空手道	成年女子	形	三村　由紀	筑波大・院生	
２位	陸上	少年男子A	5000m競歩	伊藤　和也	松川高	20'57"83

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	レスリング	少年男子	グレコローマン88kg	竹内　智之	北佐久農業高	
３位	漕艇	成年男子	ダブルスカル	岩波　健児	下諏訪町役場	3'32"50
				佐藤　　亘	飯田長姫高*教員	
	漕艇	少年男子	舵手付きフォア	岡西　正明	諏訪清陵高	3'26"78
				池田　竜雄	岡谷南高	
				河西雄一郎	諏訪清陵高	
				鴨志田　玄	諏訪清陵高	
				藤森　昌幸	岡谷南高	
				原　　秀和	岡谷南高	
	カヌー	成年男子	ワイルドウォーター　K－1　500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	2'08"68
４位	陸上	少年男子A	1500m	帯刀　秀幸	大町高	4'04"60
	陸上	少年男子共通	走幅跳	伊藤　健一	飯田高	7m37
	バレーボール	成年女子１部	9人制		セイコーエプソン塩尻	
	バレーボール	成年女子２部	9人制		長野選抜（かりん）	
	自転車	成年男子	ポイントレース	大石　一夫	エアロセプシーあずみの・PI	11点
	ライフル射撃	成年	AR－3P60	割田　好則	㈱シナノケンシ	584点
５位	バスケットボール	成年男子			長野選抜	
	レスリング	成年男子	グレコローマン57kg	井出　真一	上田西高*教員	
	レスリング	成年男子	グレコローマン74kg	塩川　和仁	浅間中*教員	
	自転車	成年男子	4㎞速度競走	羽田野隆彦	KKアルプス技研	5'12"580
	軟式野球	成年１部	一般		佐久総合病院	
	柔道	少年女子			長野選抜	
	弓道	成年女子１部			長野選抜	
	空手道	成年男子	組手（中量級）	山田　高照	日本大	
６位	カヌー	成年男子	ワイルドウォーター　K－1 1500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	5'26"41
	陸上	成年女子共通	400mハードル	春原　夕子	東京女子体育大	62"31
	陸上	少年女子A	400m	日下部恵理	東海大三高	56"13
	陸上	少年女子A	走幅跳	三枝　真紀	東海大三高	5m75
７位	水泳	少年男子B	200m背泳ぎ	丹下　智幸	諏訪二葉高	2'10"89
	陸上	少年男子A	5000m	帯刀　秀幸	大町高	14'19"29
	陸上	少年女子共通	3000m競歩	庄田真由美	皐月高	14'07"74
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	76kg級クリーン＆ジャーク	岩井　純徳	篠ノ井高	130.0kg
	馬術	少年	スピードハンディネス	内山　順子	上田高	
	ライフル射撃	成年	SFR－P60	前橋　秀昭	JR東日本	688.5点
	ライフル射撃	成年	BRL－T40	田中　成美	下諏訪町役場	495点
８位	水泳	成年男子	100m自由型	山本　幸仁	東海大	53'03
	ソフトテニス	少年女子			長野選抜	
	ライフル射撃	成年	AP－60	太田寿美雄	鉄道警察隊	657点
	クレー射撃	成年男子	トラップ	楢本　桂一	㈱楢本電機	271点
				川島　信也	川島歯科医院	
	ボウリング	少年女子	個人戦	市原　孝子	飯田女子高	1,555点

第49回（平成６年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	1000m	黒沢　　誠	日体大	1'17"4
	スピードスケート	少年男子	1000m	宮川　洋平	佐久高	1'15"89
	スピードスケート	成年女子A	3000m	清水　美映	信州大	4'25"64
	スピードスケート	少年女子	3000m	土橋　貴子	佐久高	4'25"94

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年男子	10000m	宮木　大吾	岡谷南高	14'42"81
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	山本絵里子	㈱三協精機製作所	2'47"68
				田中　千景	東京女子体育大	
				金井　悦子	大東文化大	
				田中　稚早	㈱三協精機製作所	
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	上原　千聖	軽井沢高	2'48"30
				宮川真紀子	佐久高	
				竹田　久美	東海大三高	
				土屋和花子	野沢北高	
２位	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	ｽﾊﾟｰｸｱﾑｳｪｲﾈｯﾄﾜｰｸ	48"15
	スピードスケート	少年女子	500m	土屋和花子	野沢北高	42"73
	スピードスケート	成年男子A	1000m	田口　　優	大東文化大	1'22"01
	スピードスケート	成年女子B	1000m	名取みのり	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1000m	篠原裕太郎	佐久高	1'17"32
	スピードスケート	成年男子A	1500m	野明　弘幸	日体大	1'55"66
	スピードスケート	成年女子A	1500m	清水　美映	信州大	2'09"12
	スピードスケート	少年女子	1500m	土橋　貴子	佐久高	2'09"24
	スピードスケート	成年男子A	5000m	野明　弘幸	日体大	6'56"04
	スピードスケート	少年男子	5000m	高見沢敬二	小海高	6'54"14
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	田口　　優	大東文化大	2'31"07
				佐藤　嘉泰	法政大	
				野明　弘幸	日体大	
				黒沢　　誠	日体大	
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	篠原裕太郎	佐久高校	2'31"05
				小池　嘉則	諏訪二葉高	
				矢崎　文也	諏訪二葉高	
				宮川　洋平	佐久高	
３位	スピードスケート	成年男子B	500m	中村幸一郎	諏訪西中学*教員	42"18
	スピードスケート	成年女子B	500m	名取みのり	主婦	47"72
	スピードスケート	成年男子A	1500m	黒沢　　誠	日体大	1'57"55
	スピードスケート	少年男子	1500m	鶴田　重樹	佐久高	2'08"75
	スピードスケート	成年男子A	5000m	篠原　淳晃	日体大	6'56"19
	スピードスケート	少年男子	5000m	宮木　大吾	岡谷南高	6'54"49
	スピードスケート	成年男子A	10000m	篠原　淳晃	日体大	14'04"58
	スピードスケート	少年男子	10000m	高見沢敬二	小海高	14'57"51
４位	スピードスケート	成年男子C	500m	那須　功宣	㈱フヨーライト	43"00
	スピードスケート	成年女子A	500m	山本絵理子	㈱三協精機製作所	41"90
	スピードスケート	少年男子	500m	篠原裕太郎	佐久高	39"18
	スピードスケート	少年女子	500m	上原　千聖	軽井沢高	42"75
	スピードスケート	成年女子A	3000m	降籏　克子	日体大	4'27"26
５位	スピードスケート	成年男子C	1000m	小松　清視	㈱サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	三浦美枝子	岡谷東高	2'14"32
６位	スピードスケート	成年女子C	500m	山田　啓子	㈲山田企画	49"42
	スピードスケート	少年女子	1000m	茂木美保子	野沢北高	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	関谷　千晶	㈱三協精機製作所	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	田中　慎也	東海大三高	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	3000m	三浦美枝子	岡谷東高	4'36"99
７位	スピードスケート	成年女子A	500m	田中　稚早	㈱三協精機製作所	42"20

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	土屋和花子	野沢北高	タイムなし
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
８位	スピードスケート	成年女子A	1000m	田中　稚早	㈱三協精機製作所	タイムなし

第49回（平成６年）冬季大会　スキー　　開催地：宮城県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	佐藤恵美子	早稲田大	16'40"9
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	東沢　洋一	野沢温泉スキークラブ	194.0点 49'35"7
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　竜也	飯山南高	153.0点 44'16"1
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	山本　直鋭	北野建設スキー部	216.0点 42'27"3
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	136.5点
	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	東沢　洋一	野沢温泉スキークラブ	117.5点
	スキー	少年男子	リレー	島田　武彦 佐藤　　威 竹節　竜二 高橋幸一郎 中村　　浩	飯山南高 中野実業高 中野実業高 飯山南高 中野実業高	1°43'58"1
２位	スキー	少年男子	クロスカントリー	佐藤　　威	中野実業高	43'15"7
	スキー	少年女子	クロスカントリー	大口奈津美	中野実業高	17'04"6
	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	横山久美子	昭和電機スキークラブ	16'59"7
	スキー	成年女子１部B	ジャイアントスラローム	宮下　由美	菅平高原スキークラブ	1'06"39
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	河野　智海	明治大	213.0点 44'19"3
	スキー	女子	リレー	大口奈津美 横山久美子 佐藤恵美子 宮本　由紀	中野実業高 昭和電機スキークラブ 早稲田大 飯山南高	1°01'15"
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー	中村　　浩	中野実業高	43'39"3
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	松沢千津子	白馬村体協	21'40"2
	スキー	成年女子１部B	ジャイアントスラローム	永田三千代	小谷村体協	1'02"22
	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体協	1'11"41
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉スキークラブ	101.5点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	佐藤章之助	飯山南高	137.5点
４位	スキー	少年女子	クロスカントリー	宮本　由紀	飯山南高	17'51"1
	スキー	少年男子	コンバインド	中村　清志	白馬高	121.5点 45'53"1
５位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	池田　義治	飯山南高	125.5点
６位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	田中加芳子	長野日大高	59"61
	スキー	少年男子	コンバインド	金井　伸悟	飯山南高	131.5点 47'36"8
	スキー	成年男子１部B	スペシャルジャンプ	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	62.5点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	宮崎　　優	飯山北高	111.0点
	スキー	成年男子	リレー	佐藤　新一 畔上　大地	早稲田大 中央大	1°44'46"8

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
6位				森　　知弘 富井　　彦 小境　啓之	日本体育大 早稲田大 専修大	
7位	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	横澤　秀和	志賀高原スキークラブ	1°17'73"
	スキー	成年男子１部C	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉スキークラブ	118.0点 1°03'25"6
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	小泉　　敦	青山学院大	143.5点
8位	スキー	成年女子１部A	ジャイアントスラローム	松田美登里	中京大	58"16
	スキー	成年男子１部C	ジャイアントスラローム	辺見　元孝	薮原スキークラブ	1'01"92
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	佐藤　友紀	長野市スキークラブ	61.5点 50'50"4

第50回（平成７年）　夏季大会・秋季大会　　開催地：福島県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	陸上	成年男子B	200m	武田　　満	国土館大	21"29
	レスリング	少年男子	フリー54kg	平井　進悟	上田西高	
	自転車	成年男子	個人ロード	大石　一夫	MBKヤマハ	3°22'12"11
	弓道	成年女子２部			長野選抜	遠的５位 近的１位
	空手道	成年女子	形	三村　由紀	筑波大大学院	
2位	水泳	少年男子	200m背泳ぎ	黒沢　晃弘	佐久長聖高２年	2'06"87
3位	レスリング	少年男子	グレコローマン58kg	土屋　　聡	上田西高	
	レスリング	少年男子	グレコローマン115kg	塚田　　良	上田西高	
4位	陸上	少年男子A	5000m競歩	今井　博和	野沢南高	21'22"55
	陸上	少年男子共通	棒高跳	上杉　丈夫	松本県ケ丘高	5m00
	ライフル射撃	成年女子	ビームライフル	田中　成美	下諏訪南小*教員	498点
5位	陸上	成年男子共通	走幅跳	町田　貴之	国際武道大	7m55
	バスケットボール	成年男子			長野選抜チーム	
	レスリング	少年男子	グレコローマン63kg	原田　靖昭	北佐久農業高	
	レスリング	成年男子	グレコローマン90kg	田守　太郎	山梨学院大	
	柔道	成年女子			長野選抜	
	ソフトボール	成年男子			長野選抜	
6位	陸上	少年男子A	走高跳	奥村　剛志	上田東高	2m00
	馬術	成年男子１部	ダービー競技	橋本　知幸	住友生命	
	馬術	成年男子２部	ダービー競技	大久保輝彦	中央大	
7位	水泳	混合女子 （成年女子・少年女子）	200mリレー	藤本　文香 武士　真弓 小林　弘味 藤森　順子	東海大三高２年 屋代高２年 順天堂大４年 諏訪西中３年	1'50"86
	カヌー	成年男子	ワイルドウォーター　K-1 1500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	5'26"74
	陸上	成年女子A	やり投げ	山本　晴美	中京大	51m10
	ウェイトリフティング	少年男子	83kg級ジャーク	塚田　和広	篠ノ井高	135kg
	弓道	少年男子			長野選抜	遠的３位
8位	水泳	少年男子	400mメドレーリレー	清水　　悟 岸田　俊也 丹下　智幸 小林　隼人	長野日大高２年 諏訪二葉高３年 諏訪二葉高２年 長野日大高３年	3'59"10
	水泳	少年女子	200m個人メドレー	保坂真理子	伊那西高３年	2'25"59

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	陸上	成年女子共通	5000m競歩	丸山　由香	中京女子大	24'24"40
	馬術	成年男子２部	団体障害飛越	大久保輝彦 佐藤　正道	中央大 明松寺	
	馬術	成年男子１部	総合馬術	大久保寿幸	中央大	
	空手道	少年女子	形	杉山　正美	大町高	

第50回（平成７年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：福島県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子B	1000m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	1'24"64
	スピードスケート	成年男子C	1000m	那須　功宜	㈱芙蓉パーライト	1'27"99
	スピードスケート	成年女子A	1000m	田中　稚早	㈱三協精機製作所	1'26"77
	スピードスケート	成年女子B	1000m	村澤　優子	主婦	1'41"27
	スピードスケート	少年男子	1500m	今井　裕介	佐久高２年	2'03"47
	スピードスケート	成年男子A	1500m	佐藤　睦浩	㈱三協精機製作所	2'07"27
	スピードスケート	少年女子	1500m	外ノ池亜希	東海大三高１年	2'15"98
	スピードスケート	成年男子A	5000m	篠原　淳晃	日体大３年	7'33"26
	スピードスケート	少年男子	10000m	中島　昇秀	佐久高２年	14'53"35
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	小須田典之 篠原裕太郎 宮川　洋平 今井　裕介	小海高２年 佐久高３年 佐久高３年 佐久高２年	2'33"73
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	田口　　優 矢崎　文也 佐藤　睦浩 黒沢　　誠	大東文化大３年 法政大１年 ㈱三協精機製作所 日体大３年	2'34"50
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	上原　千聖 宮川真紀子 竹田　久美 外ノ池亜希	軽井沢高３年 佐久高２年 東海大三高２年 東海大三高１年	2'54"41
２位	スピードスケート	少年男子	500m	篠原裕太郎	佐久高３年	39"97
	スピードスケート	成年女子B	500m	村澤　優子	主婦	49"02
	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	1'42"87
	スピードスケート	少年男子	1500m	宮川　洋平	佐久高３年	2'14"39
	スピードスケート	成年男子B	1500m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	2'13"05
	スピードスケート	成年女子A	1500m	野崎　千春	㈱三協精機製作所	2'17"50
	スピードスケート	成年女子A	3000m	野崎　千春	㈱三協精機製作所	4'36"70
	スピードスケート	少年男子	5000m	中嶋　昇秀	佐久高２年	7'32"55
	スピードスケート	成年男子A	10000m	篠原　淳晃	日体大３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	土屋和花子 市川もとよ 山本絵里子 田中　稚早	信州大１年 山梨学院大３年 ㈱三協精機製作所 ㈱三協精機製作所	2'55"42
３位	スピードスケート	成年男子B	500m	遠藤　正和	自営	43"15
	スピードスケート	少年女子	500m	上原　千聖	軽井沢高３年	44"16
	スピードスケート	成年女子B	500m	名取みのり	主婦	49"04
	スピードスケート	成年女子C	500m	井出　里美	主婦	49"75
	スピードスケート	成年女子B	1000m	名取みのり	主婦	1'46"61
	スピードスケート	少年女子	1500m	三浦美枝子	岡谷東高３年	2'22"98

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スピードスケート	少年女子	3000m	外ノ池亜希	東海大三高１年	4'42"68
	スピードスケート	成年女子A	3000m	降籏　克子	日体大２年	4'37"30
４位	スピードスケート	少年男子	500m	小須田典之	小海高２年	40"10
	スピードスケート	成年男子B	500m	中村幸一郎	諏訪西中*教員	43"38
	スピードスケート	成年男子B	1000m	遠藤　正和	自営	1'34"31
	スピードスケート	成年女子C	1000m	山田　啓子	㈲山田企画	1'47"56
	スピードスケート	少年男子	5000m	竹渕　貴順	東海大三高３年	7'33"88
	アイスホッケー	少年			長野選抜	
５位	スピードスケート	成年男子C	500m	小松　清視	㈱サンエススケート	45"53
	スピードスケート	少年女子	500m	竹田　久美	東海大三高２年	44"87
	スピードスケート	少年男子	1000m	今井　裕介	佐久高２年	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	長岡創一郎	野沢北高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	10000m	宮木　大吾	日体大１年	タイムなし
６位	スピードスケート	成年男子A	1000m	黒沢　　誠	日体大３年	タイムなし
７位	スピードスケート	成年女子A	500m	市川もとよ	山梨学院大３年	43"53
	スピードスケート	成年男子B	1500m	藤巻　　克	池田工業高*教員	タイムなし
８位	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	1'11"03
	スピードスケート	少年男子	1000m	宮川　洋平	佐久高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1000m	土屋和花子	信州大１年	タイムなし

第50回（平成７年）冬季大会　スキー　　開催地：福島県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子１部A	クロスカントリー	今井　博幸	NTT信越	40'09"9
	スキー	成年男子１部B	クロスカントリー	佐々木一成	北野建設	40'49"2
	スキー	少年男子	クロスカントリー	高橋幸一郎	飯山南高	42'07"2
	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	横山久美子	昭和電気産業	16'24"1
	スキー	成年女子２部	クロスカントリー	畔上　房子	野沢温泉SC	20'15"7
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	富井　　彦	早稲田大	飛躍192.1点 距離41'36"0
	スキー	成年男子１部B	コンバインド	山本　直鋭	北野建設	飛躍199.0点 距離41'56"2
	スキー	少年男子	コンバインド	宮尾　憲典	白馬高	飛躍192.5点 距離42'56"6
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	宮崎　　優	飯山北高	126.6点
	スキー	女子	リレークロスカントリー	堀米　千恵 横山久美子 佐藤恵美子 大口奈津美	飯山南高 昭和電気産業 北野建設 中野実業高	1°06'51"9
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー	竹節　竜二 今井　博幸 堀米　光男 片塩　　崇 佐々木一成	専修大 NTT信越 志賀高原SC 明治大学 北野建設	1°45'35"6
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー	大山　勝広 高橋幸一郎 湯本　竜也 小松　裕一 島田　武彦	中野実業高 飯山南高 下高井農林高 飯山南高 飯山南高	1°47'30"0

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	成年男子１部A	クロスカントリー	堀米　光男	志賀高原SC	40'15"4
	スキー	成年男子２部	クロスカントリー	山口　辰也	志賀高原SC	46'34"1
	スキー	成年女子１部A	クロスカントリー	佐藤恵美子	北野建設	16'59"2
	スキー	少年女子	クロスカントリー	大口奈津美	中野実業高	16'42"9
	スキー	成年女子２部	ジャイアントスラローム	山本美香子	志賀高原SC	1'14"90
	スキー	成年男子１部A	ジャイアントスラローム	宮下　征樹	中央大	1'12"20
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	高沢　公治	中央大	飛躍202.4点 距離43'04"8
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　竜也	飯山南高	飛躍189.2点 距離42'48"6
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	高沢　公治	中央大	110.7点
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉SC	68.1点
３位	スキー	成年男子１部C	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉SC	飛躍150.1点 距離55'16"5
４位	スキー	少年男子	クロスカントリー	大山　勝広	中野実業高	42'51"9
	スキー	少年女子	クロスカントリー	堀米　千恵	飯山南高	17'10"3
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	太田真由美	白馬高	1'09"27
	スキー	成年男子２部	ジャイアントスラローム	稲川　孝治	志賀高原SC	1'21"56
	スキー	成年男子１部A	コンバインド	富井　正樹	雪印長野	飛躍185.9点 距離42'27"8
	スキー	成年男子１部C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉SC	63.4点
５位	スキー	少年男子	クロスカントリー	湯本　竜也	下高井農林高	42'58"5
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	佐藤　武留	東部高	100.7点
６位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	佐藤章之助	飯山南高	98.3点
７位	スキー	成年男子１部B	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体協	1'17"45
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	桜井　元樹	上田東高	1'13"21
８位	スキー	成年男子１部C	クロスカントリー	佐藤　志郎	北野建設	46'29"4
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	関　　理奈	長野日大高	1'10"63
	スキー	成年男子１部A	スペシャルジャンプ	富井　　彦	早稲田大	93.3点
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	池田　義治	飯山南高	95.7点
９位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	木谷　逸郎	白馬高	1'13"35

第51回（平成８年）夏季大会・秋季大会　　開催地：広島県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	レスリング	少年男子	フリー50kg	高橋　利典	上田西高	
	レスリング	少年男子	グレコ54kg	平井　進悟	上田西高	
	相撲	成年B		田島　大助	木曽養護*教員	
２位	水泳	少年男子A	200m背泳ぎ	黒沢　晃弘	佐久長聖高	2'05"88
	漕艇	少年女子	シングルスカル	岩本亜希子	岡谷南高	4'15"24
	レスリング	少年男子	フリー46kg	吉澤　克洋	北佐久農業高	
	レスリング	成年男子	グレコ68kg	大井　将憲	拓殖大	
	ボウリング	成年女子	年齢別個人戦 ハイミドルの部	藤牧　幸子	藤牧工業	トータル1938ピン
３位	陸上	少年女子A	400mハードル	高畑　志野	松本県ケ丘高	1'00"74
	レスリング	少年男子	グレコ88kg	丸山真太郎	上田西高	
	自転車	成年男子	ポイントレース	福島　晋一	ブリヂストンサイクル㈱	
	馬術	成年女子	アキュムレーター	井地亜由美	セイコーエプソン㈱	
	フェンシング	少年男子			長野選抜	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	陸上	少年男子B	800m	佐藤　清治	浅間中	1'53"53
	軟式野球	成年１部			ルビコン㈱	
	馬術	少年	スピードハンディネス	山本　恵美	長野女子高	
５位	水泳	成年女子	200m個人メドレー	保坂真理子	鹿屋体育大	2'22"48
	水泳	成年男子	200mリレー	徳永　　啓 山本　幸仁 橋爪　俊成 小坂　寛之	飯山照丘高*教員 佐久長聖高*教員 近畿大 金沢大	1'36"27
	陸上	少年女子A	100mハードル	長崎　寛子	中野実業高	14"51
	陸上	少年女子A	400m	矢野　沙織	長野高	56"63
	バレーボール	成年男子１部	9人制		岡谷市役所	
	バスケットボール	成年男子			長野選抜	
	レスリング	少年男子	フリー58kg	今村　勝利	上田西高	
	レスリング	成年男子	グレコ82kg	田守　太郎	山梨学院大	
	軟式野球	成年２部			JA長野厚生連小諸厚生総合病院	
６位	陸上	成年男子	400m	目黒　武志	順天堂大	47"12
	陸上	成年男子	800m	一志　　学	福井工業大	1'50"31
	馬術	少年	ダービー	中村　英信	須坂東高	
	馬術	少年	リレー	中村　英信 伝刀　正樹	須坂東高 大町北高	1'24"13
	馬術	少年馬場	馬術競技ジュニア	関谷喜和子	長野女子高	
	馬術	成年男子	ダービー	大久保寿幸	中央大	
	馬術	成年男子	総合馬術競技	大久保寿幸	中央大	
	アーチェリー	少年男子			長野選抜	1863点
	ボウリング	成年女子	年齢別個人戦 ミドルの部	中山　圭子	自営業	トータル1776ピン
７位	漕艇	成年男子	舵手付きフォア	藤牧　宏彰 天野　修一 花岡　和弘 佐藤　　亘 杉村　　篤	丸登電業 諏訪清陵高*教員 セイコーエプソン㈱ 諏訪実業高*教員 長日ソフト	3'23"42
	漕艇	成年男子	ダブルスカル	岩波　健児 牛山　英俊	下諏訪町役場 細川商店	3'19"37
	陸上	少年女子共通	3000m競歩	関　由香利	野沢南高	14'06"84
	陸上	少年男子B	走幅跳	下条　正紀	松代高	6m73
	テニス	少年男子			長野選抜	
	馬術	成年男子	五段階障害飛越	篠原　真一	小川村役場	
	ボウリング	成年女子	団体戦	堀川由美子 中山　圭子 藤牧　幸子 河西　房子	主婦 自営業 藤牧工業 セイコーエプソン㈱	トータル6987ピン
８位	馬術	少年	二段階障害飛越	山本　恵美	長野女子高	

第51回（平成８年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：栃木県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年男子	500m	小須田典之	小海高	38"84
	スピードスケート	少年男子	1000m	今井　裕介	佐久長聖高	1'15"58
	スピードスケート	少年女子	1000m	外ノ池亜希	東海大三高	1'24"43

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子B	1000m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	1'21"69
	スピードスケート	少年男子	1500m	今井　裕介	佐久長聖高	1'59"11
	スピードスケート	少年女子	1500m	外ノ池亜希	東海大三高２年	2'14"70
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	市村　　雅 菊池　裕暁 小須田典之 今井　裕介		2'31"53
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	新谷志保美 宮川真紀子 野明　純香 外ノ池亜希		2'48"28
２位	スピードスケート	少年男子	500m	市村　　雅	野沢北高	38"90
	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	ｽﾊﾟｰｸｱﾑｳｪｲﾈｯﾄﾜｰｸ	47"99
	スピードスケート	成年男子B	1500m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	2'07"92
	スピードスケート	成年男子C	1000m	那須　功宜	㈱芙蓉パーライト	1'26"99
	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	ｽﾊﾟｰｸｱﾑｳｪｲﾈｯﾄﾜｰｸ	1'37"51
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	田口　　優 篠原浩一郎 篠原裕太郎 加藤　将司		2'33"17
３位	スピードスケート	少年男子	5000m	中嶋　昇秀	佐久長聖高	6'56"45
	スピードスケート	少年女子	3000m	土橋　貴子	佐久長聖高	4'21"00
	スピードスケート	成年女子B	1000m	名取みのり	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	篠原　祐剛	佐久長聖高	14'06"55
	スピードスケート	成年男子A	10000m	高見沢敬二	山梨学院大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1500m	佐藤　睦浩	㈱三協精機	タイムなし
４位	スピードスケート	少年男子	5000m	平田　浩一	東海大三高	6'56"60
	スピードスケート	成年男子B	500m	遠藤　正和	自営業	41"68
	スピードスケート	成年女子A	500m	上原　千聖	山梨学院大	42"34
	スピードスケート	成年女子A	1000m	市川もとよ	山梨学院大	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	1000m	遠藤　正和	自営業	1'32"53
	スピードスケート	成年男子A	1500m	田中　慎也	専修大	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	安田　有希	東海大三高	2'15"46
５位	スピードスケート	少年女子	3000m	竹ノ内由香	佐久長聖高	4'22"30
	スピードスケート	成年女子A	3000m	降籏　克子	日体大	4'17"44
	スピードスケート	成年女子C	500m	井出　里美	主婦	48"71
	スピードスケート	少年女子	500m	新谷志保美	伊那北高	43"10
	スピードスケート	成年男子C	1000m	小松　清視	㈱サンエススケート	1'31"14
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
６位	スピードスケート	成年男子C	500m	小松　清視	㈱サンエススケート	43"33
	スピードスケート	成年女子B	500m	山崎　敬子	御代田中*教員	1'00"35
	スピードスケート	少年女子	1000m	遠藤　弘恵	佐久長聖高	タイムなし
７位	スピードスケート	成年男子B	500m	中村幸一郎	諏訪西中*教員	42"86
	スピードスケート	成年女子A	1000m	土屋和花子	信州大	タイムなし
	スピードスケート	成年女子C	1000m	山田　啓子	㈲山田企画	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	米倉　大介	岡谷南高	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	10000m	篠原　淳晃	日体大	タイムなし
８位	スピードスケート	成年女子B	500m	名取みのり	主婦	1'01"89

第51回（平成８年）冬季大会　スキー　　開催地：岐阜県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子A	クロスカントリー	佐藤　　威	北野建設	41'17"2
	スキー	少年女子	クロスカントリー	大口奈津美	中野実業高	16'54"4
	スキー	成年A	コンバインド	森　　敏	野沢温泉SC	飛躍214.0点 距離44'56"0
	スキー	成年B	コンバインド	山本　直鋭	北野建設	飛躍211.5点 距離46'44"5
	スキー	成年C	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉SC	199.1点
２位	スキー	少年	コンバインド	正木　栄二	下高井農林高	飛躍200.1点 距離45'34"7
	スキー	少年男子	クロスカントリー	大山　勝広	中野実業高	43'13"5
	スキー	女子	リレークロスカントリー	大口奈津美 佐藤恵美子 堀米　千恵 宮本　由紀	中野実業高 北野建設 飯山南高 日体大	1°03'08"1
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	飯山南高	1'02"98
	スキー	少年	スペシャルジャンプ	佐藤　祐作	飯山北高	221.6点
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー	駒村　俊介 大山　勝広 高橋幸一郎 山田　琢也 池田　裕一	飯山南高 中野実業高 飯山南高 飯山南高 中野実業高	1°42'27"7
３位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	西村　　斉	白馬高	1'03"18
	スキー	成年C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉SC	186.3点
４位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	柿坂　理沙	長野日大高	1'12"32
	スキー	少年	コンバインド	宮尾　憲典	白馬高	飛躍204.3点 距離48'42"5
５位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	竹田　高弘	近畿大	1'03"18
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山崎　有可	中野実業高	1'13"18
	スキー	成年A	コンバインド	富井　政樹	雪印長野	飛躍212.9点 距離47'37"8
	スキー	成年C	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉SC	飛躍173.1点 距離39'54"2
	スキー	少年	コンバインド	土屋　和貴	飯山南高	飛躍200.4点 距離48'32"0
	スキー	少年	スペシャルジャンプ	佐藤　武留	東部高	214.8点
６位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	西条己智男	長野市SC	1'08"42
	スキー	成年B	コンバインド	横川　朝治	北野建設	飛躍184.9点 距離55'46"7
	スキー	成年B	スペシャルジャンプ	横川　朝治	北野建設	160.7点
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー	久保田　裕 畔上　大地 佐藤　　威 黒岩　拓吾 河野　智海	専修大 中央大 北野建設 明治大 明治大	1°43'31"5
７位	スキー	成年A	スペシャルジャンプ	杉山　恵亮	雪印長野	207.0点
	スキー	少年	スペシャルジャンプ	太田　泰彦	大町高	209.3点
８位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	高橋　一浩	NTT信越	1'14"59

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	スキー	少年男子	クロスカントリー	高橋幸一郎	飯山南高	44'06"0
	スキー	成年A	スペシャルジャンプ	上野　真吾	中央大	204.4点
	スキー	成年B	スペシャルジャンプ	山本　直鋭	北野建設	147.5点

第52回（平成９年）夏季大会・秋季大会　　開催地：大阪府

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	少年男子B	800m	佐藤　清治	佐久長聖高１年	1'51"92
	陸上	少年男子B	3000m	佐藤　清治	佐久長聖高１年	8'19"55
	レスリング	少年男子	グレコ88kg	丸山真太郎	上田西高３年	
	相撲	成年男子B	個人	田島　大助	木曽養護学校*教員	
	ボウリング	成年男子	年齢別個人戦ミドルの部	古坂　純一	名古屋道路エンジニア	トータル1924ピン
２位	陸上	成年男子	800m	一志　　学	セキスイハイム信州	1'49"63
	バレーボール	成年女子２部	9人制		長野選抜	
３位	水泳	少年男子B	400m自由形	伊原　裕貴	飯田高	4'04"47
	水泳	成年女子	200m個人メドレー	保坂真理子	鹿屋体育大	2'20"33
	水泳	成年男子	200m個人メドレー	丹下　智幸	日本大	2'07"64
	レスリング	少年男子	グレコ46kg	吉沢　　宏	北佐久農業高３年	
	レスリング	少年男子	グレコ74kg	森角　裕介	北佐久農業高３年	
	レスリング	成年男子	グレコ62kg	石田　亮一	日体大	
	レスリング	成年男子	グレコ68kg	大井　将憲	拓殖大	
	ソフトテニス	少年女子団体			上田西高校	
	馬術	少年	リレー	小林　義彦 金井　美鈴	長野工業高校１年 長野女子高２年	75"50
	馬術	成年女子	ダービー	杉浦　稚奈	松本馬術協会	43"52
	馬術	成年男子	標準障害飛越	佃　日出彦	飯綱ライディングパーク	減点8　39"08
	ソフトボール	成年女子			大和電機工業	
	空手道	成年男子	組手中量級	樋口　大樹	日体大	
４位	漕艇	成年男子	ダブルスカル	岩波　健児 牛山　英俊	下諏訪町役場 細川商店	3'16"04
	馬術	少年	二段階障害飛越	金井　美鈴	長野女子高	32"82
	馬術	少年	トップスコアー	小林　義彦	長野工業高	1010点
	馬術	成年男子	スピード＆ハンディネス	佃　日出彦	飯綱ライディングパーク	73"87
	馬術	成年男子	5段階障害飛越	篠原　真一	小川村役場	
	柔道	成年男子	団体	甲斐　隆文 中山　三雄 高橋　俊充 上原　英樹 広瀬　喜広	長野選抜	
５位	柔道	成年女子		徳久　静華 泉　　香澄 広瀬　理英	長野選抜	
	弓道	成年男子	遠的	田端　隆夫 前沢　秀夫 大口　晴男	長野選抜	
	バレーボール	成年女子１部	6人制		富士通長野	
	レスリング	少年男子	グレコ68kg	伊藤　哲也	北佐久農業高３年	
	レスリング	成年男子	グレコ74kg	吉沢　　剛	拓殖大	
	レスリング	成年男子	フリー57kg	平井　進悟	拓殖大	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	ソフトボール	成年男子１部			長野選抜	
	山岳	成年女子	団体	福沢さゆり 小野真理子 五味　光子	長野選抜	登攀1位縦走8位踏査9位
	空手道	成年男子	組手軽量級	小林　　徹	日大	
	空手道	成年男子	組手重量級	山田　高照	日大	
６位	水泳	成年女子	100m背泳ぎ	保坂真理子	鹿屋体育大	1'05"79
	水泳	成年男子	100mバタフライ	早田　和重	田川高	56"20
７位	カヌー	成年男子	ワイルドウォーター カヤックシングル1500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	8'28"57
	テニス	成年女子	団体	尾又　綾香 尾又明日香	日体大 立教大	
	馬術	成年男子	総合馬術	大久保寿幸	中央大	164.4
	ライフル射撃	成年	AP－60	太田寿美雄	上田警察署	659.4点
	ライフル射撃	成年	AR－S60	割田　好則	シナノケンシ㈱	676.7点
	空手道	成年男子	形	園原　武嗣	中京学院大*教員	
８位	漕艇	少年男子	ダブルスカル	柿沢　義紀 牛尼　裕之	岡谷東高	3'16"40
	ヨット	成年男子	国体ボードセーリング	安齋　大輔	東京ガス	累計42点
	カヌー	成年男子	ワイルドウォーター カヤックシングル500m	武江　　一	箕輪工業高*教員	1'43"69
	陸上	少年男子A	5000m競歩	下平　賢哉	飯田高３年	21'45"63
	軟式野球	成年男子２部			隼クラブ	
	馬術	少年	馬場馬術Ⅰ	鈴木　香織	松本松南高３年	940点
	馬術	少年	スピード＆ハンディネス	小林　義彦	長野工業高１年	1'19"30
	弓道	成年男子	近的	田端　隆夫 前沢　秀夫 大口　晴男	長野選抜	

第52回（平成９年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	少年男子	500m	笠原　健司	岡谷工業高３年	38"86
	スピードスケート	少年女子	500m	新谷志保美	伊那北高２年	44"45
	スピードスケート	少年女子	1000m	外ノ池亜希	東海大三高３年	1'25"59
	スピードスケート	成年男子B	1000m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	1'22"47
	スピードスケート	少年男子	10000m	平田　浩一	東海大三高３年	14'21"53
	スピードスケート	成年男子A	1500m	今井　裕介	山梨学院大１年	2'01"30
	スピードスケート	少年女子	1500m	外ノ池亜希	東海大三高３年	2'13"85
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	新谷志保美 遠藤　弘恵 野明　純香 外ノ池亜希		2'50"60
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	清水　亮平 高見澤雅彦 井出　良直 笠原　健司		2'34"77
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	加藤　将司 菊池　裕暁		2'36"65

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				小須田典之 今井　裕介		
２位	スピードスケート	成年女子B	500m	三ツ石理香	岡谷市役所	46"37
	スピードスケート	成年女子C	500m	名取みのり	主婦	48"57
	スピードスケート	成年男子B	1500m	相澤　英一	㈱帝産ロッヂ	2'11"85
	スピードスケート	少年女子	3000m	竹ノ内由香	佐久長聖高２年	4'44"26
	スピードスケート	成年女子B	1000m	三ツ石理香	岡谷市役所	1'34"57
	スピードスケート	成年女子C	1000m	名取みのり	主婦	1'36"47
	スピードスケート	少年男子	1500m	篠原　泰洋	小海高２年	2'03"48
３位	スピードスケート	成年男子A	5000m	赤沼　健一	日本大４年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子B	500m	土屋千鶴子	主婦	46"45
	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	48"62
	スピードスケート	少年男子	500m	清水　亮平	岡谷南高２年	39"04
	スピードスケート	少年男子	1000m	清水　亮平	岡谷南高２年	1'23"67
	スピードスケート	少年女子	1500m	安田　有希	東海大三高３年	2'17"83
４位	スピードスケート	成年男子B	500m	遠藤　正和	自営業	41"82
	スピードスケート	成年女子A	3000m	根岸　瑞江	㈱三協精機製作所	4'29"63
	スピードスケート	少年男子	1000m	笠原　健司	岡谷工業高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1000m	小須田典之	専修大１年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	1000m	遠藤　正和	自営業	1'35"35
	スピードスケート	成年女子B	1000m	土屋千鶴子	主婦	1'35"24
	スピードスケート	成年男子A	10000m	宮木　大吾	日体大３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	根岸　瑞江	㈱三協精機製作所	タイムなし
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
５位	スピードスケート	成年男子C	500m	那須　功宜	㈱芙蓉パーライト	43"15
	スピードスケート	成年女子A	500m	上原　千聖	山梨学院大２年	42"65
	スピードスケート	少年女子	3000m	安田　有希	東海大三高３年	4'43"64
	スピードスケート	少年男子	1500m	井出　良直	佐久長聖高３年	タイムなし
６位	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	スパークアムウェイネットワーク	タイムなし
７位	スピードスケート	成年男子B	1500m	藤巻　　克	大町北高*教員	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1500m	赤沼　健一	日本大４年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	小泉　　恵	日体大１年	タイムなし
８位	スピードスケート	成年女子A	500m	竹田　久美	㈱三協精機製作所	44"30
	スピードスケート	少年女子	500m	野明　純香	岡谷南高３年	58"01
	スピードスケート	少年女子	1000m	遠藤　弘恵	佐久長聖高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1000m	茂木美保子	日体大２年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1000m	今井　裕介	山梨学院大１年	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	西山　卓哉	佐久長聖高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	上原　千聖 茂木美保子 小泉　　恵 竹田　久美		3'22"10

第52回（平成９年）冬季大会　スキー　　開催地：秋田県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	佐藤絵里子	大東文化大３年	1'11"44
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	柿坂　理沙	長野日大高２年	1'17"53
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	高橋　一浩	NTT信越	1'18"49

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	スキー	成年男子A	クロスカントリー	佐藤　　威	北野建設	47'15"9
	スキー	成年A	コンバインド	富井　正樹	雪印乳業	飛躍98.2点 距離21'52"7
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー	金丸　富男 大山　勝広 駒村　俊介 服部　正秋 山岸　　修	飯山南高２年 中野実業高３年 飯山南高２年 飯山南高２年 中野実業高２年	1°40'31"6
	スキー	成年A	スペシャルジャンプ	杉山　恵亮	雪印乳業	244.0点
2位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	田原　　恵	小谷村体育協会	1'18"84
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー	高橋幸一郎 島田　武彦 湯本　竜也 佐藤　　威 富井　　彦	早稲田大１年 日本大１年 近畿大１年 北野建設 雪印乳業	1°40'34"9
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	猪又　一之	小賀坂SC	1'19"43
	スキー	成年A	コンバインド	富井　　彦	雪印乳業	飛躍90.0点 距離21'53"4
	スキー	女子	リレークロスカントリー	佐藤　雪野 大口奈津美 大日方純恵 小林　みき	日本大３年 北野建設 飯山南高２年 大東文化大２年	1°04'05"4
3位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	竹田　高広	近畿大４年	1'14"96
	スキー	成年A	スペシャルジャンプ	宮崎　　優	中央大１年	228.7点
4位	スキー	成年C	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉SC	133.1点
6位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	徳竹　　剛	中野実業高２年	1'08"97
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	横沢　慎介	白馬高３年	206.8点
	スキー	少年女子	クロスカントリー	大日方純恵	飯山南高２年	15'24"2
	スキー	成年男子A	クロスカントリー	島田　武彦	日本大１年	48'28"6
7位	スキー	少年男子	クロスカントリー	大山　勝広	中野実業高３年	49'14"9
	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'15"62
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	山崎　慎一	飯山南高２年	203.3点
	スキー	成年A	スペシャルジャンプ	森　　卓也	中央大４年	211.2点
	スキー	成年B	スペシャルジャンプ	富井　善邦	野沢温泉sc	107.2点
	スキー	少年男子	コンバインド	正木　栄二	下高井農林高３年	飛躍80.1点 距離21'48"5
8位	スキー	少年男子	クロスカントリー	駒村　俊介	飯山南高２年	49'33"8
	スキー	成年C	コンバインド	佐藤　功一	野沢温泉SC	飛躍69.5点 距離18'09"8
	スキー	成年C	スペシャルジャンプ	森　　福治	野沢温泉SC	123.4点
	スキー	少年男子	コンバインド	佐藤　裕作	飯山北高２年	飛躍80.2点 距離21'56"0

第53回（平成10年）夏季大会・秋季大会　　開催地：神奈川県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	陸上	少年男子共	5000m競歩	吉澤　永一	飯田高３年	21'00"56
	陸上	成年女子	やり投げ	山本　晴美	長野市役所	56m46
	馬術	成年男子	SP＆ハンディネス	佃　日出彦	飯網ライディングパーク	1'11"36

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	ソフトテニス	少年女子			上田西高	
	ライフル射撃	成年	ARL－S20	西野入玲香	東洋大	194点
２位	馬術	成年男子	標準障害飛越	佃　日出彦	飯網ライディングパーク	1'22"47
	馬術	少年	団体障害飛越	小林　義彦 中村　陽平	長野工業高２年 須坂高１年	
	レスリング	成年男子	グレコローマン69kg	大井　将憲	拓殖大	
３位	水泳	成年女子	200m個人メドレー	保坂真理子	鹿屋体育大	2'20"38
	陸上	少年男子共	走り高跳び	吉田　　剛	小諸高３年	2m11
	レスリング	少年男子	グレコローマン60kg	臼田　育男	北佐久農業高３年	
	レスリング	少年男子	フリー56kg	白鳥　　昇	上田西高３年	
	ソフトボール	成年男子１部			長野選抜	
	山岳	成年女子		副沢さゆり 松本佐知子 古川　美香		
	卓球	少年男子		三島　　渚 小野寿史生 中村　　稔		
４位	水泳	成年男子	200mリレー	橋爪　俊成 山本　幸仁 早田　和重 徳永　　啓		1'34"75
	陸上	少年男子B	3000m	塚田　直也	裾花中３年	8'34"36
	馬術	少年	トップスコア	小林　義彦	長野工業高２年	1080点
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	自営	
	ボウリング	少年男子	個人戦	村石　智康	須坂高	トータル1705ピン
５位	ボート	成年女子	シングルスカル	岩本亜希子	早稲田大	4'01"66
	カヌー	成年女子	スラローム　K－1 15ゲート	佐々木元子	八十二銀行	364.07点
	陸上	少年男子A	走り幅跳び	下條　正紀	松代高３年	7m13
	陸上	少年男子B	800m	塚田　直也	裾花中３年	1'56"54
	馬術	成年女子	ダービー	杉浦　稚奈	菅平プリンス乗馬クラブ	2'10"40
	馬術	少年	二段階障害飛越	金井　美玲	長野女子高３年	32"17
	馬術	成年男子	総合馬術	大久保寿幸	飯綱ライディングパーク	
	馬術	成年男子	五段階障害飛越	篠原　真一	長野市役所	
	バスケットボール	成年男子			長野選抜	
	レスリング	少年男子	フリー76kg	田守　竹夫	北佐久農業高２年	
	レスリング	成年男子	フリー54kg	高橋　利典	山梨学院大	
	レスリング	成年男子	フリー58kg	平井　進悟	拓殖大	
	レスリング	成年男子	グレコローマン63kg	石田　亮一	日体大	
	レスリング	成年男子	グレコローマン85kg	田守　太郎	山梨学院大	
	レスリング	成年男子	グレコローマン97kg	森角　裕介	日体大	
	レスリング	少年男子	グレコローマン49kg	清水　康弘	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマン65kg	安齋　和洋	北佐久農業高２年	
	空手道	成年男子	組手団体	竹村　　進 樋口　大樹 廣瀬　章光 園原　武嗣		
	バレーボール	少年男子			岡谷工業高	
	相撲	成年男子B	個人戦	尾羽林英樹	木曽山林高*教員	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
6位	水泳	少年男子A	400m自由形	伊原　裕貴	飯田高	4'04"53
	ボート	成年男子	舵手付フォア	岡西　正明 池田　竜雄 牛山　英俊 金子　　明 鴨志田　玄 花岡　和弘	中央大 中央大 細川商店 明治大 早稲田大 セイコーエプソン㈱	3'17"37
	馬術	少年リレー		金井　美玲 児玉　聖光	長野女子高３年	
	馬術	成年男子	ダービー	大久保寿幸	飯綱ライディングパーク	2'31"47
	馬術	成年女子	アキュームレーター	松井美葉子	飯綱ライディングパーク	1'20"25
	空手道	少年女子	形	高橋　典子	松本松南高２年	
	ライフル射撃	成年A	P60	太田寿美雄	更埴警察署	657.7点
	ボウリング	少年男子	団体戦	村石　智康 山口　知仁	須坂高 長野西高	トータル3228ピン
7位	陸上	少年男子	400mハードル	小林　　豊	長野高３年	53"22
	ﾗｸﾞﾋﾞｰﾌｯﾄﾎﾞｰﾙ	少年男子			長野選抜	
	山岳	成年男子		藤田　浩一 伊藤　　正 岩佐　信吾		
8位	水泳	成年男子	200m個人メドレー	丹下　智幸	日本大	2'08"51
	ボート	少年男子	舵手付フォア	柳澤　一成 春宮　　真 両角　直樹 両角　大介 沢井　邦仁 山田　兼司	岡谷南高	3'28"06
	軟式野球	成年男子１部	壮年		オール諏訪	
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	スナッチ53kg	久保田　浩	松商学園高	75.0kg
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	ジャーク56kg	丸山　純和	松商学園高	95.0kg

第53回（平成10年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	スピードスケート	成年男子A	1500m	田中　慎也	専修大４年	2'04"90
	スピードスケート	成年男子C	500m	那須　功宣	昭和電工㈱大町工場	42"84
	スピードスケート	成年女子C	500m	有賀千恵子	ｽﾊﾟｰｸｱﾑｳｪｲﾈｯﾄﾜｰｸ	48"79
	スピードスケート	成年女子C	1000m	有賀千恵子	ｽﾊﾟｰｸｱﾑｳｪｲﾈｯﾄﾜｰｸ	1'35"62
	スピードスケート	成年女子C	500m	名取みのり	主婦	48"79
	スピードスケート	少年男子	1000m	篠原　泰洋	小海高３年	1'16"63
	スピードスケート	少年男子	1500m	篠原　泰洋	小海高３年	1'57"76
	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　寿香	佐久長聖高１年	1'23"21
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	小須田典之 宮川　洋平 篠原裕太郎 加藤　将司		2'33"82
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	宮川　亮祐 鈴木　　智 高見澤雅彦		2'35"69

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				清水　亮平		
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	栗林美奈子 鶴田　恵子 大井　啓子 上原　寿香		2'52"77
２位	スピードスケート	成年男子B	1500m	宮坂　雅昭	県体協	2'06"80
	スピードスケート	成年女子C	1000m	名取みのり	主婦	1'35"79
	スピードスケート	少年男子	500m	清水　亮平	岡谷南高３年	38"63
	スピードスケート	少年男子	10000m	菊池　千年	小海高２年	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	3000m	竹ノ内由香	佐久長聖高３年	4'30"72
３位	スピードスケート	成年男子B	1000m	宮坂　雅昭	県体協	1'23"94
	スピードスケート	成年男子B	1500m	相澤　英一	㈱帝産ロッジ	2'08"34
	スピードスケート	成年女子A	3000m	根岸　端江	㈱三協精機製作所	4'40"77
	スピードスケート	少年男子	500m	高見沢雅彦	小海高３年	38"74
	スピードスケート	少年女子	1500m	竹ノ内由香	佐久長聖高３年	2'14"56
	スピードスケート	少年女子	500m	栗林美奈子	佐久長聖高２年	43"20
４位	スピードスケート	成年男子A	10000m	高見澤敬二	山梨学院大４年	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	10000m	牛山　貴広	諏訪清陵高１年	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	栗林美奈子	佐久長聖高２年	タイムなし
５位	スピードスケート	成年男子A	10000m	平田　浩一	日本大１年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	安田　有希	日体大１年	2'10"53
	スピードスケート	少年女子	500m	上原　寿香	佐久長聖高１年	43"40
	スピードスケート	少年女子	3000m	大木　房美	佐久長聖高２年	4'36"59
６位	スピードスケート	成年男子A	5000m	平田　浩一	日本大１年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	500m	加藤　将司	㈱三協精機製作所	39"34
	スピードスケート	成年男子B	1000m	相澤　英一	㈱帝産ロッジ	タイムなし
	スピードスケート	成年男子C	1000m	小松　清視	㈱サンエススケート	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	根岸　端江	㈱三協精機製作所	タイムなし
	スピードスケート	成年女子B	500m	市川　智保	小海小*教員	50"01
	スピードスケート	成年女子B	1000m	市川　智保	小海小*教員	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	野本　　繁	小海高２年	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1500m	大木　房美	佐久長聖高２年	タイムなし
７位	スピードスケート	成年女子A	1000m	遠藤　弘恵	日体大１年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	茂木美保子 上原　千聖 遠藤　弘恵 安田　有希		3'10"31
８位	スピードスケート	成年男子A	1500m	宮川　洋平	専修大３年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	500m	茂木美保子	日体大３年	43"20
	スピードスケート	少年男子	5000m	菊池　千年	小海高２年	タイムなし

第53回（平成10年）冬季大会　スキー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	クロスカントリー	今井　博幸	NTT信越	41'10"7
	スキー	成年男子C	クロスカントリー	佐々木一成	北野建設	28'34"4
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	猪又　一之	小賀坂スキー	1'19"89
２位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	佐藤絵里子	大東文化大４年	59'53
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山崎　有可	中野実業高３年	1'02"12

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	少年男子	コンバインド	正木　栄二	下高井農林高３年	飛躍202.0点 距離29'10"7
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	池田　義治	明治大３年	238.0点
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー	佐藤　　威 畔上　大地 高橋幸一郎 堀米　光男		1°43'34"3
	スキー	女子	リレークロスカントリー	大日方純恵 横山久美子 大口奈津美 佐藤恵美子		58'05"6
３位	スキー	成年男子A	クロスカントリー	畔上　大地	NTT信越	43'08"7
	スキー	成年女子B	クロスカントリー	横山久美子	守谷商会	16'16"3
４位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	高橋　香絵	白馬村SC	1'07"20
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	湯本　浩美	飯山南高１年	1'02"40
	スキー	成年女子B	クロスカントリー	佐藤恵美子	北野建設	16'16"8
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	佐藤　功一	野沢温泉SC	125.5点
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー	金丸　富男 駒村　俊介 恩田　祐一 山岸　　修	飯山南高３年 飯山南高３年 飯山南高２年 中野実業高校３年	1°49'34"5
５位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	大久保　優	日本大３年	1'00"90
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	高橋　一浩	NTT信越	1'03"53
	スキー	少年男子	クロスカントリー	山岸　　修	中野実業高３年	43'36"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー	大日方純恵	飯山南高３年	17'09"7
	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	西村　　斉	近畿大２年	1'16"37
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'21"27
６位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	福島のり子	白馬高３年	1'02"75
	スキー	成年女子A	クロスカントリー	大口奈津美	北野建設	16'26"9
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	宮澤　岳二	白馬高２年	195.5点
７位	スキー	成年男子A	クロスカントリー	佐藤　　威	北野建設	43'53"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー	恩田　祐一	飯山南高２年	43'54"4
	スキー	少年男子	コンバインド	井出　直也	飯山北高２年	飛躍209.5点 距離30'38"1
８位	スキー	成年男子A	コンバインド	高沢　公治	野沢温泉SC	飛躍224.0点 距離46'07"8
	スキー	成年男子B	コンバインド	富井　善邦	野沢温泉SC	飛躍108.5点 距離53'48"9

第54回（平成11年）夏季大会・秋季大会　　開催地：熊本県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	レスリング	成年男子	グレコ69kg級	大井　将憲	県レスリング協会	
	レスリング	少年男子	グレコ76kg級	田守　竹夫	北佐久農業高３年	
２位	陸上	成年女子	やり投	山本　晴美	長野市役所	54m91
	レスリング	成年男子	グレコ58kg級	平井　進悟	拓殖大３年	
	レスリング	少年男子	フリー70kg級	高橋　龍太	上田西高３年	
	ソフトテニス	少年女子			上田西高	
３位	レスリング	成年男子	フリー54kg級	高橋　利典	山梨学院大３年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	レスリング	少年男子	グレコ83kg級	森泉　　誠	北佐久農業高２年	
	レスリング	少年男子	フリー115kg級	前島　信彦	上田西高２年	
	馬術	成年男子	SP＆ハンディネス	佃　日出彦	飯綱ライディングパーク	1'20"75
	馬術	少年	二段階障害飛越	荒木　久佳	佐久長聖高１年	39"36
	馬術	少年	第３課目馬場馬術競技	小沢まど加	須坂園芸高３年	402点
	馬術	少年	アジア大会記録競技	小沢まど加	須坂園芸高３年	507点
４位	水泳	成年女子	200m個人メドレー	保坂真理子	鹿屋体育大	2'20"44
	水泳	成年男子	200m個人メドレー	丹下　智幸	日本大	2'07"09
	ボート	少年男子	舵手付フォア	今井　裕介 両角　大介 沢井　邦仁 内田　幸裕 荒井　勇多 矢崎　裕幸	岡谷南高 岡谷南高 岡谷南高 岡谷東高 岡谷東高 岡谷東高	3'14"41
	相撲	成年男子B	団体	滝沢　　誠 田島　大助 尾羽林英樹 木下　圭輔 安藤　　均	木曽福島町教育委員会 木曽養護学校職員 木曽山林高校教員	
５位	陸上	少年男子A	5000m	高見澤　勝	佐久長聖高３年	14'08"30
	バレーボール	成年女子	（9人制）		セイコーエプソン㈱	
	バレーボール	少年男子			岡谷工業高	
	レスリング	少年男子	フリー60kg級	岩田　直之	上田西高３年	
	馬術	少年	SP＆ハンディネス	中村　陽平	須坂東高２年	1'16"12
	馬術	少年	リレー競技	小林　義彦 荒木　久佳	長野工業高３年 佐久長聖高１年	92"51
	ソフトボール	成年男子			KOA他	
	空手	成年男子	組手（軽）	野町　直秀	信州大２年	
６位	水泳	少年男子A	400m自由形	伊原　裕貴	飯田高	4'05"08
７位	水泳	少年女子A	200m平泳ぎ	丸山　亮子	佐久長聖高	2'36"40
	陸上	少年男子B	800m	上嶋　　圭	梓川中３年	1'57"65
	陸上	少年女子B	400m	中村恵里香	長野日大高１年	59"40
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	85kg級	滝澤　健太	篠ノ井高３年	スナッチ110kg
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	85kg級	滝澤　健太	篠ノ井高３年	ジャーク135kg
	自転車	少年男子	ポイントレース	平田　昌志	松本工業高３年	6点
	馬術	成年男子	総合馬術	大久保寿幸	飯綱ライディングパーク	142点
８位	水泳	成年男子	30歳以上50m背泳ぎ	杉浦　直樹	杉浦畳店	30"05

第54回（平成11年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	500m	篠原裕太郎	専修大４年	36"90
	スピードスケート	成年女子A	500m	茂木美保子	日体大４年	41"12
	スピードスケート	成年男子B	1000m	宮坂　雅昭	岡谷東高校教員	1'19"90
	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　寿香	佐久長聖高２年	1'21"12
	スピードスケート	成年男子B	1500m	宮坂　雅昭	岡谷東高校教員	2'01"78
	スピードスケート	成年女子A	3000m	安田　有希	日体大２年	4'15"24
	スピードスケート	成年男子A	10000m	井出　良直	法政大２年	13'47"05
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	土屋　陽祐	佐久長聖高２年	2'27"29

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				田口　　新	佐久長聖高３年	
				清水　悠紀	東海大三高１年	
				宮川　亮祐	佐久長聖高３年	
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	清水　亮平	日本大学２年	2'31"03
				柿沢与一郎	日本大２年	
				渡辺壮一郎	日本大１年	
				小須田典之	専修大３年	
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	新谷志保美	筑波大１年	2'43"05
				遠藤　弘恵	日体大２年	
				大垣　郁絵	㈱三協精機製作所	
				茂木美保子	日体大１年	
２位	スピードスケート	成年男子A	500m	加藤　将司	㈱三協精機製作所	37"03
	スピードスケート	成年女子B	500m	三ツ石理香	主婦	45"93
	スピードスケート	成年女子B	1000m	小澤多香音	主婦	1'36"11
	スピードスケート	少年女子	1500m	宮嶋　若菜	東海大三高１年	2'07"56
	スピードスケート	成年女子A	1500m	安田　有希	日体大２年	2'03"59
	スピードスケート	少年女子	3000m	大木　房実	佐久長聖高３年	4'16"02
	スピードスケート	成年女子A	3000m	竹ノ内由香	日体大１年	4'15"27
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	栗林美奈子	佐久長聖高３年	2'41"64
				原　　亜希	小海高１年	
				原　　美樹	小海高１年	
				上原　寿香	佐久長聖高２年	
３位	スピードスケート	成年女子B	500m	小澤多香音	主婦	46'51
	スピードスケート	成年女子C	500m	名取みのり	主婦	46"40
	スピードスケート	少年女子	1000m	栗林美奈子	佐久長聖高３年	1'25"58
	スピードスケート	成年女子A	1000m	新谷志保美	筑波大１年	1'22"72
	スピードスケート	成年女子B	1000m	三ツ石理香	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	野本　　繁	小海高３年	1'52"20
	スピードスケート	少年男子	10000m	中嶋　敬春	佐久長聖高１年	13'32"68
	スピードスケート	成年男子A	10000m	平田　浩一	日本大２年	タイムなし
	アイスホッケー	少年男子			軽井沢高	
４位	スピードスケート	少年女子	500m	上原　寿香	佐久長聖高２年	40"13
	スピードスケート	少年男子	1000m	野本　　繁	小海高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子C	1000m	那須　功宜	昭和電工㈱	タイムなし
	スピードスケート	成年女子C	1000m	名取みのり	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	3000m	宮嶋　若菜	東海大三高１年	4'22"86
５位	スピードスケート	少年女子	500m	栗林美奈子	佐久長聖高３年	40"79
	スピードスケート	成年男子B	500m	遠藤　正和	自営業	40"44
	スピードスケート	少年女子	1500m	大木　房実	佐久長聖高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1500m	田中　慎也	㈱NTT信越	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1500m	根岸　瑞江	㈱三協精機製作所	2'32"75
	スピードスケート	少年男子	10000m	牛山　貴広	諏訪清陵高２年	タイムなし
６位	スピードスケート	少年男子	500m	宮川　亮佑	佐久長聖高３年	38"06
	スピードスケート	成年男子B	500m	友野　修一	仁科台中学校教員	41"62
	スピードスケート	成年男子A	1000m	宮川　洋平	専修大４年	タイムなし
７位	スピードスケート	成年女子A	500m	新谷志保美	筑波大４年	41"69
	スピードスケート	成年男子B	1000m	相澤　英一	㈱帝産ロツヂ	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1500m	関　　喜治	岡谷南高３年	タイムなし

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	スピードスケート	少年男子	500m	土屋　陽祐	佐久長聖高３年	転倒1'02"68
	スピードスケート	少年男子	1000m	小嶋　雅之	岡谷東高２年	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	1000m	茂木美保子	日体大４年	タイムなし

第54回（平成11年）冬季大会　スキー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	佐藤　　威	北野建設㈱	47'54"1
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	池田　義治	明治大３年	251.0点
	スキー	成年男子A	コンバインド	高沢　公治	野沢温泉スキークラブ	飛躍239.0点 距離47'05"0
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー　10㎞×4	大山　勝広 畔上　大地 佐藤　　威 高橋幸一郎	日本大２年 ㈱NTT信越 北野建設㈱ 早稲田大３年	1°54'51"4
２位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'09"13
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体育協会	1'08"10
	スキー	少年男子	クロスカントリー15㎞	斉藤　　亮	飯山南高３年	50'16"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー５㎞	田村　直美	飯山南高２年	18'39"7
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	湯本　浩美	飯山南高２年	1'15"32
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー　10㎞×4	今井　伸幸 恩田　祐一 斉藤　　亮 小林　博敏	飯山南高３年 飯山南高３年 飯山南高３年 飯山南高３年	1°56'20"7
	スキー	女子	リレークロスカントリー　5㎞×4	加藤　望実 田村　直美 大日方純恵 平野　朱美	飯山南高３年 飯山南高２年 専修大１年 日本大３年	1°05'34"1
３位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	西村　　斉	近畿大３年	1'04'61
	スキー	成年男子A	コンバインド	河野　智海	河野建設	飛躍212.5点 距離47'00"1
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	宮下　　透	菅平高原スキークラブ	1'09"27
	スキー	少年男子	クロスカントリー15㎞	恩田　祐一	飯山南高３年	50'33"6
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	山田　大起	飯山南高１年	217.5点
４位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	西森　享平	白馬ジャンプ競技場	232.0点
	スキー	成年男子A	コンバインド	正木　　誠	近畿大１年	飛腰202.0点 距離46'05"4
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	岡田たか子	白馬村スキークラブ	1'20"06
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	宮澤　岳二	白馬高３年	216.5点
５位	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	畔上　大地	㈱NTT信越	49'38"1
	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	大久保　優	日本大４年	1'08"95
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	石田　　廉	飯山南高３年	1'06"62
	スキー	少年男子	コンバインド	薄井　智行	飯山南高１年	飛躍225.5点 距離32'58"4
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	古畑　奈美	中野実業高３年	1'16"68
６位	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	大山　勝広	日本大２年	49'48"6
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	猪又　一之	小賀坂スキークラブ	1'10"02
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	志鷹　慎吾	白馬村スキークラブ	1'08"54
	スキー	少年男子	コンバインド	青木　雄二	中野実業高２年	飛躍196.5点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
6位						距離30'59"1
7位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	佐藤由加里	専修大１年	1'09"34
8位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	宮澤　恵美	小谷村体育協会	1'20"45

第55回（平成12年）夏季大会・秋季大会　　開催地：富山県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	レスリング	少年男子	グレコ97kg級	前島　信彦	上田西高３年	
	陸上	少年男子B	3000m	藤森　憲秀	佐久長聖高１年	8'31"92
	馬術	少年	ダービー競技	中村　陽平	須坂東高３年	1'51"06減点0
	馬術	少年	トップスコア競技	佐藤　賢希	長野日大高１年	1590点
	バレーボール	少年男子			選抜	
	空手道	成年男子	組手個人戦中量級	樋口　大樹	㈱風間産業	
2位	レスリング	少年男子	グレコ58kg級	浜本　　純	上田西高３年	
	レスリング	成年男子	グレコ58kg級	平井　進悟	拓殖大４年	
	レスリング	成年男子	グレコ85kg級	森角　祐介	日体大３年	
	陸上	少年男子共通	5000m競歩	矢澤　智彦	松川高３年	20'42"21
	馬術	少年	スピード＆ハンドネス	佐藤　賢希	長野日大高１年	1'05"46
3位	レスリング	成年男子	フリー54kg級	高橋　利典	山梨学院大４年	
	レスリング	少年男子	グレコ85kg級	森泉　　誠	北佐久農業高３年	
	陸上	少年男子A	5000m	太田　貴之	佐久長聖高３年	14'06"22
	陸上	少年男子B	100m	黒岩　浩平	長野日大高１年	10"87
	陸上	少年女子共通	棒高跳び	前田　朋子	高遠高３年	3m50
	馬術	少年	二段階障害飛越	荒木　久佳	佐久長聖高２年	29"58減点0
4位	ソフトテニス	少年女子			上田西高	
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	自営	
5位	水泳	少年女子A	200m個人メドレー	丸山　亮子	佐久長聖高	2'21"39
	レスリング	少年男子	グレコ63kg級	宮島　孝光	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコ130kg級	丸山　柘也	上田西高２年	
	レスリング	成年男子	グレコ63kg級	竹花　良二	上田市役所	
	馬術	成年男子	総合馬術競技	大久保寿幸	飯綱高原乗馬倶楽部	
	馬術	成年男子	標準障害飛越	佃　日出彦	飯綱高原乗馬倶楽部	1'13"74減点0
	ソフトボール	成年女子			大和電機工業	
	相撲	成年男子B	個人戦	田島　大助	木曽養護学校職員	
6位	陸上	少年男子共通	400mハードル	三好　　翔	赤穂高３年	53"44
	馬術	少年	第３課目馬場馬術競技	上野　洋平	軽井沢高１年	384点
	弓道	少年女子			選抜	
7位	水泳	成年男子	200m個人メドレー	丹下　智幸	日本大	2'08"51
	陸上	少年男子B	800m	上嶋　　圭	佐久長聖高１年	1'57"16
	バレーボール	成年男子	（6人制）		選抜	
	銃剣道	成年男子			陸上自衛隊	
	軟式野球	成年			選抜	
8位	水泳	成年女子	100m自由形	藤本　文香	鹿屋体育大	59"47
	陸上	少年女子	共通5000m競歩	福沢　玲子	飯田風越高３年	24'08"80
	ライフル射撃	少年男子	ビームライフル	徳武　隼八	長野日大高３年	679点

第55回（平成12年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スピードスケート	成年男子A	500m	羽石　国臣	㈱三協精機製作所	37"12
	スピードスケート	少年男子	500m	小嶋　雅之	岡谷東高３年	38"29
	スピードスケート	成年男子B	1000m	宮坂　雅昭	岡谷東高校教員	1'18"93
	スピードスケート	成年男子A	1500m	宮部　行範	長野市スケート協会	1'55"24
	スピードスケート	成年男子B	1500m	宮坂　雅昭	岡谷東高校教員	2'05"04
	スピードスケート	少年男子	1500m	中嶋　敬春	佐久長聖高２年	1'58"70
	スピードスケート	成年男子A	5000m	根本　茂一	㈱三協精機製作所	6'59"80
	スピードスケート	成年男子A	10000m	米倉　大介	明治大３年	15'04"34
	スピードスケート	少年男子	2000mリレー	小嶋　雅之 鈴木　　暢 石黒　弘希 清水　悠紀		2'31"36
２位	スピードスケート	成年女子A	500m	新谷志保美	筑波大２年	41"31
	スピードスケート	成年女子A	1000m	新谷志保美	筑波大２年	1'22"81
	スピードスケート	成年女子B	1000m	結城智恵子	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年男子	1000m	清水　悠紀	東海大三高２年	1'15"46
	スピードスケート	少年女子	1000m	加治木　彩	東海大三高２年	1'24"44
	スピードスケート	少年男子	1500m	知久　隆徳	岡谷南高３年	2'02"97
	スピードスケート	少年女子	1500m	上原　寿香	佐久長聖高３年	2'10"11
	スピードスケート	少年女子	3000m	宮嶋　若菜	東海大三高２年	4'25"24
	スピードスケート	少年男子	10000m	牛山　貴広	諏訪清陵高３年	14'25"80
	スピードスケート	成年男子	2000mリレー	清水　亮平 根本　茂一 笠原　健司 羽石　国臣		2'30"92
	スピードスケート	少年女子	2000mリレー	加治木　彩 宮嶋　若菜 原　　美樹 上原　寿香		2'45"30
３位	スピードスケート	成年男子A	500m	笠原　健司	東洋大３年	37"32
	スピードスケート	成年女子B	500m	結城智恵子	主婦	44"90
	スピードスケート	少年男子	500m	清水　悠紀	東海大三高２年	38"42
	スピードスケート	成年男子A	1000m	羽石　国臣	㈱三協精機製作所	1'26"00
	スピードスケート	成年女子A	1000m	大垣　郁絵	㈱三協精機製作所	1'25"93
	スピードスケート	少年男子	1000m	小嶋　雅之	岡谷東高３年	1'16"43
	スピードスケート	成年男子B	1500m	相沢　英一	㈱帝産ロッヂ	2'10"41
	スピードスケート	成年男子A	5000m	米倉　大介	明治大３年	7'07"31
	スピードスケート	少年男子	5000m	中嶋　敬春	佐久長聖高２年	タイムなし
４位	スピードスケート	成年女子C	500m	名取みのり	主婦	46"99
	スピードスケート	成年女子A	1500m	安田　有希	日体大３年	2'12"45
	スピードスケート	少年女子	1500m	宮嶋　若菜	東海大三高２年	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	3000m	原　　亜希	小海高２年	4'27"38
	スピードスケート	成年女子	2000mリレー	新谷志保美 遠藤　弘恵 栗林美奈子 大垣　郁絵		2'48"82
５位	スピードスケート	成年男子C	500m	那須　功宣	昭和電工㈱	43"57

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	スピードスケート	少年女子	500m	加治木　彩	東海大三高２年	42"40
	スピードスケート	成年男子C	1000m	那須　功宣	昭和電工㈱	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	10000m	平田　浩一	日本大３年	タイムなし
６位	スピードスケート	成年女子C	500m	白井久仁子	主婦	51"50
	スピードスケート	少年女子	500m	原　　美樹	小海高２年	42"43
	スピードスケート	成年男子A	1000m	宮部　行範	長野市スケート協会	タイムなし
	スピードスケート	成年男子B	1000m	相沢　英一	㈱帝産ロッヂ	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	3000m	安田　有希	日体大３年	タイムなし
７位	スピードスケート	少年男子	5000m	牛山　貴広	諏訪清陵高３年	タイムなし
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
８位	スピードスケート	成年女子A	500m	大垣　郁絵	㈱三協精機製作所	42"06
	スピードスケート	成年女子C	1000m	白井久仁子	主婦	タイムなし
	スピードスケート	少年女子	1000m	上原　寿香	佐久長聖高３年	タイムなし
	スピードスケート	成年男子A	1500m	田中　慎也	㈱NTT東日本長野	タイムなし
	スピードスケート	成年女子A	3000m	竹ノ内由香	日体大２年	タイムなし

第55回（平成12年）冬季大会　スキー　　開催地：富山県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	クロスカントリー15㎞	今井　博幸	㈱NTT東日本長野	42'42"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー15㎞	山室　　忠	飯山南高３年	44'30"6
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー	駒村　俊介 大山　勝広 畔上　大地 佐藤　　威	近畿大２年 日本大３年 ㈱NTT東日本長野 北野建設㈱	1°48'43"6
２位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	猪又　一之	小賀坂スキー	1'18"85
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	関塚　真一	飯山南高３年	1'13"12
	スキー	少年男子	コンバインド	岡田　　良	飯山北高２年	飛躍217.4点 距離30'30"3
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー	沼田　鉄平 中村　順一 山室　　忠 高橋　一磨	飯山南高３年 中野実業高３年 飯山南高３年 飯山南高３年	1°53'43"7
３位	スキー	少年男子	コンバインド	青木　雄二	中野実業高３年	飛躍199.3点 距離29'30"1
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	鈴木　美奈	飯山南高２年	1'10"03
４位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	近畿大３年	1'10"53
	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	畔上　大地	㈱NTT東日本長野	42'55"8
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	宮沢　恵美	小谷村体育協会	1'17"25
	スキー	少年男子	クロスカントリー15㎞	高橋　一磨	飯山南高３年	45'05"04
	スキー	女子	リレークロスカントリー	篠原　文香 大澤三津子 大日方純恵 平野　朱実	中野実業高１年 飯山南高２年 専修大２年 日本大４年	1°09'29"9
５位	スキー	成年男子A	コンバインド	正木　　誠	専修大３年	飛躍209.7点 距離44'35"4
	スキー	成年男子B	コンバインド	小泉　　仁	飯山市消防署	飛躍183.3点 距離48'35"9
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	宮下　　透	菅平高原クラブ	1'20"51

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	西森　享平	白馬村スキークラブ	236.2点
６位	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	大山　勝広	日本大３年	43'15"9
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体育協会	1'13"47
	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	大久保　優	菅平高原スキークラブ	1'11"03
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	小林さつき	上田千曲高３年	1'10"95
	スキー	少年女子	クロスカントリー５㎞	駒村　裕子	飯山南高１年	17'31"0
	スキー	少年男子	コンバインド	山田　　充	白馬高校２年	飛躍199.6点 距離29'49"3
７位	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	小泉　　仁	飯山市消防署	171.4点
	スキー	成年男子C	クロスカントリー10㎞	山口　辰也	山ノ内町福祉センター	33'43"3
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小田切恭平	飯山南高２年	1'14"29
８位	スキー	成年男子A	クロスカントリー15㎞	佐藤　　威	北野建設㈱	43'52"4
10位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	小池　優喜	飯山南高１年	217.6点

第56回（平成13年）夏季大会・秋季大会　　開催地：宮城県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	水泳	成年女子	100m平泳ぎ	丸山　亮子	中京大１年	1'10"88
	陸上	少年男子共通	5000m競歩	高田　浩二	松川高３年	20'36"82
	馬術	成年男子	標準障害飛越	佃　日出彦	乗馬クラブNAGANO	1'13"31
	馬術	少年	ダービー	佐藤　賢希	長野日大高２年	1'46"33
２位	ボート	成年男子	舵手付フォア	藤牧　宏彰 今井　裕介 柿澤　義紀 宮坂　哲也 両角　大介	諏訪重機運輸㈱ 中大2 中大4 東工大4 明大2　長野選抜	3'23"62
	ボート	成年男子	ダブルスカル	牛山　英俊 北澤　勝己	細川商店㈱ 下諏訪町役場　（長野選抜）	3'28"59
	レスリング	成年男子	グレコ85kg級	田守　竹夫	山梨学院大２年	
	レスリング	少年男子	グレコ58kg級	内田　達治	上田西高２年	
	レスリング	少年男子	グレコ97kg級	丸山　拓也	上田西高３年	
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	自営	
	馬術	少年	二段階障害飛越	荒木　久佳	佐久長聖高３年	29"96
	弓道	少年			男子選抜	
３位	バレーボール	成年女子			セイコーエプソン㈱	
	レスリング	成年男子	フリー76kg級	高橋　龍太	拓殖大２年	
	レスリング	少年男子	フリー54kg級	佐藤　　剛	北佐久農業高３年	
	卓球	少年女子			松本松南高	
	馬術	少年	トップスコア	佐藤　賢希	長野日大高２年	1100点
５位	サッカー	成年女子			選抜	
	バスケットボール	成年男子			選抜	
	レスリング	成年男子	フリー58kg級	武藤　弘幸	日体大４年	
	レスリング	成年男子	フリー130kg級	前島　信彦	拓殖大１年	
	レスリング	成年男子	グレコ63kg級	竹花　良二	アクアプラザ上田	
	馬術	成年男子	スピード＆ハンディネス	佃　日出彦	乗馬クラブNAGANO	1'09"73
	ボウリング	少年男子	団体	千野　健次 関　　陽一	松本工業高１年 長野吉田高３年	3669点
６位	水泳	成年女子	200m個人メドレー	丸山　亮子	中京大１年	2'22"06
	陸上	成年女子	走高跳	大久保あゆ美	中京女子大３年	1m71

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	馬術	少年	標準障害飛越	荒木　久住	佐久長聖高３年	1'11"42
７位	陸上	少年男子B	400m	塚原　直貴	東海大三高１年	50"21
	馬術	成年女子	標準障害飛越	立花　姿緒	長野市役所	1'08"84
	弓道	成年女子			選抜	
	ボウリング	少年男子	個人	千野　健次	松本工業高１年	1925点
８位	陸上	少年男子A	三段跳び	川上　良明	東海大三高３年	14m58
	軟式野球	成年男子	一般B		選抜	
	馬術	成年男子	トップスコア	篠原　真一	長野市役所	900点

第56回（平成13年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：山梨県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	少年男子	スピード1000m	清水　悠紀	東海大三高３年	1'14"37
	スケート	少年男子	スピード5000m	中嶋　敬春	佐久長聖高３年	6'30"50
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	清水　悠紀	東海大三高３年	2'26"68
				石黒　弘希	佐久長聖高３年	
				鈴木　　暢	佐久長聖高３年	
				中嶋　敬春	佐久長聖高３年	
	スケート	成年女子	ショート500m	田中　干景	県体育センター	46"356
	スケート	成年女子	ショート1000m	田中　干景	県体育センター	1'40"101
	スケート	少年女子	スピード1000m	原　　美樹	小海高３年	1'22"92
	スケート	少年女子	スピード1500m	宮嶋　若菜	東海大三高３年	2'06"47
	スケート	少年女子	スピード3000m	宮嶋　若菜	東海大三高３年	4'22"47
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	原　　美樹	小海高３年	2'49"15
				加治木　彩	東海大三高３年	
				宮嶋　若菜	東海大三高３年	
				吉井小百合	東海大三高１年	
	スケート	少年女子	ショート500m	飯塚　容子	岡谷東高３年	48"538
	スケート	少年女子	ショート1000m	小澤　　幸	岡谷工業高３年	1'43"133
２位	スケート	成年男子	スピード1000m	加藤　将司	㈱三協精機	1'16"05
	スケート	成年男子	スピード2000mリレー	渡辺壮一郎	日本大３年	2'24"86
				清水　亮平	日本大３年	
				宮川　亮祐	専修大２年	
				加藤　将司	㈱三協精機	
	スケート	成年女子	スピード3000m	竹ノ内由香	日体大３年	4'48"55
	スケート	少年女子	スピード500m	吉井小百合	東海大三高１年	41"56
	スケート	少年女子	スピード1000m	加治木　彩	東海大三高３年	1'23"67
	スケート	少年女子	スピード3000m	三浦　あい	東海大三高１年	4'22"52
	スケート	少年女子	ショート500m	小澤　　幸	岡谷工業高３年	47"732
	スケート	少年女子	ショート1000m	飯塚　容子	岡谷東高３年	1'43"144
３位	スケート	成年男子	スピード500m	渡辺壮一郎	日本大３年	36"99
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	田中　千景	県体育センター	4'51"555
				中嶋　陽子	㈱帝産ロッヂ	
				小坂　直子	軽井沢高*教員	
				太田　奈月	やまびこスケートの森	
４位	スケート	成年男子	スピード5000m	菊池　千年	専修大２年	6'54"50
	スケート	成年男子	ショート5000mリレー	林　　篤志	自営	7'27"478
				西田　浩紀	中京大２年	
				小澤　竜一	阪南大２年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位				須藤　勇気	信州大２年	
	スケート	少年男子	スピード10000m	中嶋　敬春	佐久長聖高３年	記録なし
	スケート	成年女子	スピード1000m	新谷志保美	筑波大３年	1'23"68
	スケート	少年女子	スピード1500m	原　　亜樹	小海高３年	2'08"53
５位	スケート	成年男子	スピード1500m	小澤　春樹	東洋大３年	記録なし
	スケート	少年男子	スピード1500m	安田　直樹	東海大三高３年	記録なし
	スケート	少年男子	スピード10000m	井出　智秀	小海高２年	記録なし
	スケート	成年女子	スピード500m	大垣　郁絵	㈱三協精機	40"88
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	5位タイ
６位	スケート	少年男子	ショート500m	吉澤　一哉	小海高２年	1'39"170
	スケート	成年女子	スピード500m	新谷志保美	筑波大３年	41"12
	スケート	成年女子	スピード1000m	上原　寿香	㈱三協精機	記録なし
７位	スケート	成年男子	スピード5000m	野本　　繁	日体大３年	記録なし
	スケート	少年男子	ショート1000m	伴野　清貴	小海高２年	1'50"149
	スケート	成年女子	スピード1500m	遠藤　弘恵	日体大４年	記録なし
８位	スケート	少年男子	スピード500m	石黒　弘希	佐久長聖高３年	1'17"26
	スケート	少年男子	スピード1500m	依田幸一郎	佐久長聖高２年	記録なし

第56回（平成13年）冬季大会　スキー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	山田　大起	飯山南高３年	225
	スキー	成年男子A	コンバインド	高沢　公治	野沢温泉スキークラブ	飛躍239.5 距離43'16"3
	スキー	少年男子	コンバインド	青木　純平	飯山南高３年	飛躍220.0 距離27'36"0
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	中村　順一 佐藤　　威 駒村　俊介 畔上　大地	日本大１年 北野建設スキークラブ 近畿大３年 NTT東日本長野	1°44'12"8
２位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	小賀坂スキークラブ	1'09"34
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	小谷村体育協会	54"39
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	佐藤絵里子	志賀高原スキークラブ	1'02"80
	スキー	成年男子C	コンバインド	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	飛躍158.0 距離14'59"4
	スキー	少年男子	コンバイント	中沢章一郎	飯山南高１年	飛躍220.0 距離27'55"4
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	中村　順一	日本大１年	26'37"0
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	畔上　大地	NTT東日本長野	27'07"9
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	高橋　　肇 石野　康人 杉山　拓実 成瀬　野生	飯山南高１年 飯山南高３年 中野実業高２年 飯山南高１年	1°49'04"2
	スキー	女子	リレークロスカントリー 4×フリー５㎞	駒村　裕子 小林　あき 田村　直美 松沢　朋美	飯山南高２年 飯山南高２年 専修大１年 白馬高３年	56'20"7
３位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	岡澤　研太	國學院大３年	1'09"72
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	内田　博喜	野沢温泉スキークラブ	139.5

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー クラシカル10㎞	高橋　　肇	飯山南高１年	28'29"5
４位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	宮下　　透	菅平高原スキークラブ	1'14"40
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	宮沢　恵美	小谷村体育協会	1'04"21
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	良波　優希	飯山南高１年	59"48
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品工業	218.5
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	小泉　　仁	飯山市スキークラブ	193
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	山田　誠司	小谷村体育協会	130.5
	スキー	成年男子C	コンバインド	山田　誠司	小谷村体育協会	飛躍119.5 距離15'34"9
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	田村　直美	専修大１年	16'29"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　あき	飯山南高２年	16'34"2
５位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	山崎　有可	日本大３年	54"15
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	高橋　美和	飯山南高３年	59"78
	スキー	成年男子B	コンバインド	小泉　　仁	飯山市スキークラブ	飛躍192.0 距離43'01"9
	スキー	少年男子	コンバインド	中山　義明	中野実業高３年	飛躍183.5 距離27'31"7
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	杉山　拓実	中野実業高２年	28'43"2
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	駒村　裕子	飯山南高２年	16'36"4
６位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	國分　哉伸	飯山北高２年	205
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山口　辰也	志賀高原スキークラブ	14'34"6
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	石野　康人	飯山南高３年	28'53"3
７位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	高橋　一浩	NTT東日本長野	55"40
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小田切恭平	飯山南高３年	1'14"45
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	渡辺　俊介	白馬高１年	204.7
	スキー	成年男子A	コンバインド	竹田　　元	日本大３年	飛躍206.5 距離44'08"3
	スキー	成年男子B	コンバインド	久保田真一郎	野沢温泉スキークラブ	飛躍149.5 距離45'04"5
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	郷津　哲人	白馬村スキークラブ	14'47"0
８位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	瀧川　隼史	飯山南高２年	1'14"58

第57回（平成14年）夏季大会・秋季大会　　開催地：高知県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	バレーボール	少年男子			岡谷工業高（長野県選抜）	
	馬術	少年	スピード＆ハンディネス	佐藤　英賢	中条高２年	59"81
	馬術	少年	トップスコア	佐藤　英賢	中条高２年	1320点
２位	陸上	成年男子	三段跳び	石川　和義	筑波大２年	16m49
	陸上	成年女子	三段跳び	三澤　涼子	松本市陸協	12m63
	レスリング	少年男子	グレコ69㎏級	村瀬　洸介	上田西高３年	
	馬術	少年	ダービー	佐藤　賢希	長野日大高３年	1'43"05
	クレー射撃	成年	トラップ個人	矢澤　秀宗	㈱矢澤興産	96点
	ボウリング	成年女子	個人マスターズ	宮坂千代子	主婦	1838点
	ボウリング	少年男子	団体	千野　健次 原　　清孝	松本工業高２年 茅野高１年	3992点
３位	水泳（競泳）	成年女子	100m平泳ぎ	丸山　亮子	中京大２年	1'12"27
	陸上	少年男子共通	400mハードル	小池　佑始	東海大第三高３年	52"47
	陸上	少年男子B	3000m	佐藤　悠基	佐久長聖高１年	8'19"19

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	レスリング	少年男子	フリー63kg級	桜井　浩二	上田西高３年	
	レスリング	成年男子	グレコ85kg級	田守　竹夫	山梨学院大３年	
	馬術	少年	リレー競技	佐藤　英賢 佐藤　賢希	中条高２年 長野日大高３年	1'18"53
	クレー射撃	成年	トラップ	何原　由泰 山本　清文 矢澤　秀宗	㈲浪村屋 太国屋 ㈱矢澤興産	270点
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	77kg級クリーン＆ジャーク	滝沢　祥太	松商学園高３年	135kg
４位	陸上	少年男子B	200m	宮沢　洋平	長野工業高１年	22"00
	陸上	成年女子	400m	竹内　昌子	福島大学３年	55"07
	バレーボール	成年男子	6人制		長野教員バレーボールクラブ （長野選抜）	
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	NPO法人HSSC	
	空手道	成年男子	組手中量級	樋口　大樹	直富商事㈱	
	馬術	成年男子	六段階障害飛越	小林　義彦	㈱エクセレント	8点
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	77kg級	滝沢　祥太	松商学園高３年	237.5kg
５位	陸上	少年女子A	1500m	土屋　智美	長野吉田高３年	4'26"58
	陸上	成年男子	1500m	山本　卓実	神奈川大４年	3'50"65
	陸上	成年男子	走幅跳	北野　幸徳	信州大学大学院	7m53
	陸上	少年女子	共通5000m競歩	町田　佳美	野沢南高３年	23'23"54
	レスリング	成年男子	フリー76kg級	高橋　龍太	拓殖大３年	
	レスリング	成年男子	グレコ63kg級	竹花　良二	アクアブラザ上田	
	レスリング	成年男子	グレコ97kg級	前島　信彦	拓殖大２年	
	レスリング	少年男子	グレコ97kg級	小林　敏雄	上田西高１年	
	空手道	成年男子	組手団体	野町　直秀 樋口　大樹 廣瀬　章光	信州大学大学院１年 直富商事㈱ ㈱光ホーム長野	
	クレー射撃	成年	スキート	吉原　宣親 布野　兼一 塚田　政光	㈱恵三会 太進建設 ㈲太新	261点
	卓球	少年女子		重本　幸恵 松田　幸子 浜島　優子	松本松南高３年 松本松南高３年 松本松南高２年	
	ボウリング	少年男子	個人	千野　健次	松本工業高２年	2001点
６位	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	丸山　亮子	中京大２年	2'23"30
	ボート	成年男子	舵手付フォア	内田 今井 宮坂 牛山 北澤	大和電機工業㈱ 中大3 東工大4 細川商店㈱ 下諏訪町役場	3'03"86
	陸上	少年男子A	100m	塚原　直貴	東海大三高２年	10"57
	馬術	成年男子	トップスコア	篠原　真一	長野市役所	880
	馬術	少年	標準障害飛越	佐藤　賢希	長野日大高３年	1'01"20
	ソフトテニス	成年男子		山上　聡司 依田　教夫 黒岩　邦博 山口　明宏 横関　康寿	長野選抜	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位				川村　史樹		
	アーチェリー	少年男子	個人	井原　一巌	上田西高３年	1122点
７位	ライフル射撃		50mP60M	林　　恵	㈱山ノ内流通センター	684.4点
	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上50mバタフライ	三浦　　弘	DIVA長野	26"33
	陸上	成年少年男子共通	4×100mリレー	黒岩　浩平 塚原　直貴 宮沢　洋平 井上　隆志	長野日大高３年 東海大三高２年 長野工業高１年 信州大３年	40"66
	軟式野球	一般B		長野県選抜	JA長野厚生連松代総合病院	
	アーチェリー	少年男子		宮原　　雅 柳沢　広志 井原　一巌	長野選抜　上田西高３年 長野選抜　上田西高３年 長野選抜　上田西高３年	
	フェンシング	成年男子		山本　政典 大槻　高範 武田　　操 三沢　高志	長野選抜	
８位	陸上	少年男子A	三段跳び	佐藤　賢一	長野西高３年	14m77
	アーチェリー	成年男子	個人	丸山　孝之	中京大学４年	1179点

第57回（平成14年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード5000m	牛山　貴広	明治大２年	6'55"84
	スケート	少年女子	スピード1500m	三浦　あい	東海大三高２年	2'09"36
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	岡谷美由紀 名取　奈緒 金澤なつみ 吉井小百合	東海大三高２年 東海大三高１年 岡谷東高３年 東海大三高２年	2'45"41
	スケート	少年女子	ショート500m	酒井　智美	諏訪二葉高２年	49"497
	スケート	成年女子	ショート500m	飯塚　容子	中京大１年	48"741
２位	スケート	成年男子	スピード1500m	牛山　貴広	明治大２年	1'52"70
	スケート	成年男子	スピード2000mリレー	加藤　将司 渡辺壮一郎 清水　悠紀 笹渕　峰尚	三協精機製作所 日本大４年 日本大１年 三協精機製作所	2'29"45
	スケート	少年男子	スピード5000m	井出　智秀	小海高３年	7'09"16
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	鈴木　　暢 小松　洋人 上原　　龍 依田幸一郎	佐久長聖高３年 岡谷南高１年 佐久長聖高１年 佐久長聖高３年	2'28"51
	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	信州大１年	40"40
	スケート	成年女子	スピード1500m	上原　寿香	三協精機製作所	2'08"90
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	大垣　郁絵 加治木　彩 原　　美樹 新谷志保美	三協精機製作所 信州大１年 山梨学院大１年 筑波大４年	2'45"83
	スケート	少年女子	スピード500m	岡谷美由紀	東海大三高２年	41"96
	スケート	少年女子	スピード1000m	吉井小百合	東海大三高２年	1'23"40
	スケート	少年女子	スピード3000m	三浦　あい	東海大三高２年	4'29"77

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スケート	少年男子	ショート500m	吉澤　一哉	小海高３年	45"785
３位	スケート	成年男子	スピード500m	清水　悠紀	日本大１年	37"64
	スケート	少年男子	スピード500m	上原　　龍	佐久長聖高１年	37"53
	スケート	少年男子	スピード10000m	井出　智秀	小海高３年	14'39"44
	スケート	少年男子	スピード1000m	鈴木　　暢	佐久長聖高３年	1'20"51
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	信州大１年	1'24"25
	スケート	少年女子	スピード500m	吉井小百合	東海大三高２年	42"10
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	飯塚　容子	中京大１年	4'53"681
				井出絵里佳	東京女子体育大２年	
				中嶋　陽子	自営	
				太田　奈月	やまびこスケートの森	
４位	スケート	少年男子	スピード10000m	佐藤　克憲	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	中島　織七	山梨学院大１年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1000m	岡谷美由紀	東海大三高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	有川未奈美	東海大三高１年	4'30"49
	スケート	少年男子	ショート500m	伴野　清貴	小海高３年	46"294
５位	スケート	少年男子	スピード1500m	中嶋　博王	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1000m	新谷志保美	筑波大４年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	宮嶋　若菜	アルピコ	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1500m	有川未奈美	東海大三高１年	タイムなし
	スケート	少年男子	ショート1000m	吉澤　一哉	小海高３年	1'42"375
６位	スケート	少年男子	スピード1000m	依田幸一郎	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード500m	新谷志保美	筑波大４年	40"64
７位	スケート	少年男子	スピード1500m	依田幸一郎	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	宮嶋　若菜	アルピコ	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート1000m	飯塚　容子	中京大１年	1'52"779
８位	スケート	成年男子	スピード1000m	笹渕　峰尚	三協精機製作所	タイムなし

第57回（平成14年）冬季大会　スキー　　開催地：新潟県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	コンバインド	高沢　公治	野沢温泉スキークラブ	飛躍220.05 距離43'07"3
	スキー	成年男子C	コンバインド	山田　誠司	山田旅館	飛躍151.0 距離15'18"4
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー　4×フリー10㎞	村松　昌一	下高井農林高２年	1°46'27"7
				杉山　拓実	中野実業高３年	
				成瀬　野生	飯山南高２年	
				山田　優一	飯山南高３年	
	スキー	女子	リレークロスカントリー　4×フリー５㎞	畔上　尚子	飯山北高２年	1°04'38"3
				山本　奈々	飯山北高２年	
				大津三律子	日本大１年	
				大日方純恵	専修大４年	
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	武田　典子	中野実業高２年	1'17"19
２位	スキー	成年男子A	コンバインド	青木　純平	日体大１年	飛躍212.5 距離42'44"3
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	中村　順一	日本大２年	26'56"2
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー　4×フリー10㎞	山岸　　修	近畿大４年	1°42'56"1
				中村　順一	日本大２年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				青木　正和 山室　　忠	中央大４年 中央大２年	
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	松村　昌一	下高井農林高２年	27'12"6
３位	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	中央大２年	27'11"5
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	大竹　太志	北野建設	187
	スキー	成年男子B	コンバインド	大竹　太志	北野建設	飛躍154.5 距離16'36"4
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	関英青果店	132
	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	関英青果店	飛躍198.5 距離42'23"5
	スキー	少年男子	コンバインド	白鳥　陽平	中野実業高３年	飛躍191.5 距離27'38"8
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	佐藤絵里子	自営	1'19"50
４位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	自営	1'03"44
	スキー	成年男子A	コンバインド	竹田　　元	日本大４年	飛躍204.0 距離42'25"4
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	青木　正和	中央大４年	27'14"6
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキー製作所	1'04"21
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	西条己智男	長野市役所	1'10"81
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	山田　誠司	山田旅館	122
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	池田　峻二	下高井農林高３年	226.5
	スキー	少年男子	コンバインド	中澤章一郎	飯山南高２年	飛躍190.5 距離27'42"2
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	中山　将広	中野実業高３年	27'32"3
５位	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山岸　　修	近畿大４年	27'23"3
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	小賀坂スキー製作所	1'04"22
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	渡辺　一樹	自営	1'10"92
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	吉越　一平	飯山南高１年	1'06"85
６位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	山崎　　純	自営	1'04"15
	スキー	少年男子	コンバインド	岩崎　　武	下高井農林高２年	飛躍199.5 距離28'47"8
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大澤三津子	日本大１年	17'36"0
７位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	梅崎　慶大	明治大２年	190
	スキー	成年男子A	コンバインド	正木　栄二	近畿大４年	飛躍179.50 距離41'30"3
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	小泉　　敦	トーエネック長野支店	140.5
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	宮下　　透	自営	1'11"06
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	鈴木　太郎	飯山南高２年	1'07"40
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山田　優一	飯山南高３年	27'39"4
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	良波　優希	飯山南高２年	1'18"19
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	畔上　尚子	飯山北高２年	18'02"7
８位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	森　　崇	明治大２年	189.5
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	富井　正一	自営	1'04"85
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	渡辺　俊介	白馬高２年	203.5

第58回（平成15年）夏季大会・秋季大会　　開催地：静岡県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子	三段跳	石川　和義	筑波大３年	16m84
	バレーボール	少年男子	6人制		長野選抜	
	レスリング	少年男子	フリー50kg級	富岡　直希	上田西高３年	
	馬術	少年	スピード＆ハンディネス	佐藤　英賢	中条高３年	58"02
	ライフル射撃	成年男子	50mK20M	城口　保雄	㈲城口商店	188点
２位	水泳（競泳）	成年女子	100m平泳ぎ	丸山　亮子	中京大３年	1'10"90
	陸上	少年男子A	5000m	佐藤　悠基	佐久長聖高２年	14'02"82
	馬術	成年男子	ダービー	篠原　真一	長野市役所	1'55"11
	馬術	少年	リレー競技	佐藤　英賢 佐藤　　泰	中条高３年 文大長野高１年	1'12"58
	山岳	成年女子	縦走	竹内　淳子 松岡　由里	信州大学職員 北信広域連合	99.712点
	ボウリング	成年男子	個人ユース	竹下　将弘	㈱長野汎用計器製作所	1797点
３位	水泳（競泳）	成年女子	100mバタフライ	宮島　弘実	中京大３年	1'01"98
	バレーボール	成年女子	9人制		セイコーエプソン㈱	
	レスリング	少年男子	フリー85kg級	小林　敏雄	上田西高２年	
	レスリング	成年男子	グレコ96kg級	前島　信彦	拓殖大３年	
	自転車	少年男子	エリミネーション	花岡祐太郎	岡谷工業高３年	
	ボウリング	少年男子	個人	千野　健次	松本工業高３年	1835点
４位	ボート	成年男子	舵手付フォア	内田　幸裕 今井　裕介 両角　大介 牛山　英俊 北澤　勝己	大和電機工業㈱ 中大４年 明大４年 細川商店㈱ 下諏訪町役場　（長野選抜）	3'09"86
	陸上	成年男子	3000m障害	宮入　一海	軽井沢衛生企業	8'49"59
	陸上	少年男子A	400m	宮沢　洋平	長野工業高２年	47"42
	馬術	少年	ダービー	佐藤　　泰	文大長野高１年	1'40"83
	弓道	少年女子	遠的	中沢　萌未 福沢留美子 植村　　睦	長野日大高３年 伊那西高３年 長野西高３年	
	空手道	成年男子	組手中量級	樋口　大樹	直富商事㈱	
５位	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上50mバタフライ	三浦　　弘	DIVA長野	26"20
	陸上	少年男子B	3000m	永田　慎介	鉢盛中３年	8'31"86
	サッカー	成年女子			長野選抜	
	レスリング	成年男子	フリー74kg級	高橋　龍太	拓殖大４年	
	レスリング	少年男子	フリー69kg級	若菜　政志	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコ54kg級	堀込　　平	上田西高２年	
	馬術	成年女子	ダービー	篠原　姿緒	長野市役所	2'11"89
	柔道	少年男子		吉田　巻拡 横山　裕司 百瀬　　学 黒河　正輝 川住　　基	松本第一高３年	
	ソフトボール	成年男子			長野選抜	
	クレー射撃	成年	スキート	吉原　宣親 布野　兼一 塚田　政光	㈱恵三会 太進建設 大和	267点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	空手道	成年男子	組手団体	野町　直秀	信州大学大学院２年	
				樋口　大樹	直富商事㈱	
				廣瀬　章光	㈱光ホーム長野	
	空手道	成年男子	組手個人	野町　直秀	信州大大学院２年	
	空手道	少年女子	組手個人	若林　梨沙	松商学園高３年	
６位	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	丸山　亮子	中京大３年	2'20"81
	陸上	成年女子	400m	竹内　昌子	福島大４年	55"21
	陸上	少年女子A	400mハードル	関　　優希	丸子実業高３年	1'01"77
	陸上	少年男子A	走幅跳	下平　克宣	飯田風越高３年	7m31
	陸上	成年女子	三段跳	三澤　涼子	ヤマトヤT・C	12m46
７位	ボート	少年男子	舵手付クォドルプル	宮坂　　裕	諏訪清陵高３年	3'12"78
				小松　佑介	諏訪清陵高３年	
				高木　慎也	諏訪清陵高２年	
				高木　　良	岡谷東高３年	
				林　　利洋	岡谷東高３年長野選抜	
	陸上	少年男子A	100m	塚原　直貴	東海大三高３年	10"69
	陸上	成年男子	走高跳	奥村　剛志	㈱アヅマセラミテック	2m15
	フェンシング	成年男子	エペ	山本　政典	伊那北高*職	
				大槻　高範	赤穂高*教員	
				武田　　操	㈱大和製作所	
				三澤　高志	箕輪町役場	
	アーチェリー	成年女子		吉川　　梓	日体大３年	1257点
８位	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上50m自由形	徳永　　啓	第一公害	24"76
	自転車	成年男子	ロード・レース	筧　　五郎	自営	2°55'07"873
	馬術	少年	二段階障害飛越	荒木　紀迪	佐久長聖高１年	29"58
	ライフル射撃	成年男子	50mP60M	城口　保雄	㈲城口商店	684.5点
	ボウリング	成年男子	個人ミドル	那須野　弘	農林水産省長野情報統計事務所	1760点
					松本統計情報センター	
	ボウリング	少年男子	個人	原　　清孝	茅野高２年	1694点
	ボウリング	少年女子	個人	高橋　美沙	蓼科高１年	1531点

第58回（平成15年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード2000mリレー	鈴木　　暢	日本大１年	2'24"80
				羽石　国臣	㈱三協精機製作所	
				笹渕　峰尚	㈱三協精機製作所	
				中嶋　敬春	日体大２年	
	スケート	少年男子	スピード1000m	上原　　龍	佐久長聖高２年	1'14"43
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	大菅小百合	㈱三協精機製作所	2'36"93
				大菅　淳子	㈱三協精機製作所	
				加治木　彩	信州大２年	
				外ノ池亜希	アルピコ	
	スケート	成年女子	スピード500m	大菅小百合	㈱三協精機製作所	39"51
	スケート	成年女子	スピード1000m	外ノ池亜希	アルピコ	1'20"52
	スケート	成年女子	ショート1000m	田中　干景	野沢南高*教員	1'54"210
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	田中　干景	野沢南高*教員	4'38"564
				飯塚　容子	中京大２年	
				井出絵里佳	東京女子体大２年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				江村さやか	㈲アクティブ	
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	小平　奈緒	伊那西高１年	2'43"92
				岡谷美由紀	東海大三高３年	
				名取　奈緒	東海大三高２年	
				吉井小百合	東海大三高３年	
	スケート	少年女子	スピード1000m	吉井小百合	東海大三高３年	1'22"03
２位	スケート	少年男子	スピード1500m	中嶋　定利	佐久長聖高２年	1'53"23
	スケート	少年男子	スピード5000m	中嶋　定利	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	信州大２年	39"67
	スケート	成年女子	スピード1000m	大菅小百合	㈱三協精機製作所	1'27"93
	スケート	成年女子	スピード1500m	外ノ池亜希	アルピコ	2'06"95
	スケート	少年女子	スピード500m	小平　奈緒	伊那西高１年	40"68
	スケート	少年女子	ショート1000m	酒井　智美	諏訪二葉高３年	1'40"888
３位	スケート	成年男子	スピード1000m	中嶋　敬春	日体大２年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード10000m	佐藤　克憲	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1500m	名取　英理	東海大三高３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	三浦　あい	東海大三高３年	4'32"84
４位	スケート	成年男子	スピード5000m	安田　直樹	日体大２年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1000m	上條　有司	岡谷東高１年	1'18"48
	スケート	少年男子	スピード1500m	斉川　史徳	松本工業高３年	1'56"04
	スケート	少年男子	スピード5000m	佐藤　克憲	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	上條　有司	岡谷東高１年	2'31"65
				斉川　史徳	松本工業高３年	
				小松　洋人	岡谷南高２年	
				上原　　龍	佐久長聖高２年	
	スケート	成年女子	スピード1500m	妹尾栄里子	アルピコ	2'08"25
	スケート	成年女子	スピード3000m	妹尾栄里子	アルピコ	4'23"46
	スケート	少年女子	スピード500m	吉井小百合	東海大三高３年	40"73
	スケート	少年女子	スピード3000m	名取　英理	東海大三高２年	4'32"99
	スケート	成年男子	ショート500m	小澤　竜一	阪南大４年	46"339
	スケート	少年女子	ショート500m	酒井　智美	諏訪二葉高３年	50"645
５位	スケート	成年男子	スピード1500m	中嶋　敬春	日体大２年	2'03"71
	スケート	少年女子	スピード1500m	小松　美樹	東海大三高１年	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート500m	田中　干景	野沢南高*教員	48"533
	アイスホッケー	少年男子			長野選抜	
６位	スケート	成年男子	スピード500m	鈴木　　暢	日本大１年	37"19
	スケート	成年男子	スピード1500m	牛山　貴広	明治大３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード500m	上條　有司	岡谷東高１年	36"91
	スケート	少年男子	スピード10000m	吉澤　達矢	岡谷南高１年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	宮嶋　若菜	アルピコ	4'29"48
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
７位	スケート	少年男子	スピード500m	上原　　龍	佐久長聖高２年	37"26
	スケート	少年女子	スピード1000m	名取　奈緒	東海大三高２年	タイムなし

第58回（平成15年）冬季大会　スキー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	小賀坂スキークラブ	1'01"48
	スキー	少年男子	コンバインド	中澤章一郎	飯山南高３年	飛躍219.5 距離28'03"8
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	中村　順一	日本大３年	27'33"3
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	高橋　　肇 関原　　駿 成瀬　野生 松村　昌一	飯山南高３年 飯山南高３年 飯山南高３年 下高井農林高３年	1°48'07"5
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	山田　大起	北野建設㈱スキークラブ	251.5
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	湯本　史寿	下高井農林高３年	230.5
２位	スキー	成年男子	ジャイアントスラローム	山崎　雄太	中央大１年	1'00"87
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'01"68
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	関原　　駿	飯山南高３年	28'40"1
	スキー	女子	リレークロスカントリー 4×フリー５㎞	畔上　尚子 山本　奈々 大澤三津子 加藤　望実	飯山北高３年 飯山北高３年 日本大２年 大東文化大４年	1°05'20"9
	スキー	成年男子C	コンバインド	山田　誠司	小谷村体育協会	飛躍134.5 距離16'07"2
３位	スキー	成年男子A	コンバインド	田中　耕介	中央大２年	飛躍240.5 距離43'30"2
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	畔上　大地	NTT東日本長野	28'41"0
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	石野　康人 中村　順一 畔上　大地 沼田　鉄平	近畿大２年 日本大３年 NTT東日本長野 東洋大３年	1°48'23"6
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	168.5
４位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	松村　昌一	下高井農林高３年	28'50"1
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大澤三津子	日本大２年	17'04"0
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	宮下　　透	菅平高原スキークラブ	1'04"00
	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	飛躍154.0 距離18'06"7
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品工業㈱	236.5
５位	スキー	成年女子B	クロスカントリー　クラシカル５㎞	畔上　美栄	逸楽荘	18'02"6
	スキー	少年男子	コンバインド	薄井　良隆	飯山南高３年	飛躍203.0 距離28'54"6
	スキー	成年男子A	コンバインド	正木　栄二	菅平高原スキークラブ	飛躍202.0 距離41'36"8
６位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	福島のり子	白馬村スキークラブ	1'03"18
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山口　辰也	志賀高原スキークラブ	15'41"0
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	山田　誠司	小谷村体育協会	134.5
７位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	高橋　　肇	飯山南高３年	29'12"6
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	加藤　望実	大東文化大４年	17'19"7
	スキー	少年男子	コンバインド	庵地真乃介	飯山南高２年	飛躍188.0 距離28'08"8
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	富井　亮太	飯山南高３年	198
８位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	成瀬　野生	飯山南高３年	29'17"8

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	畔上　尚子	飯山北高３年	17'00"0
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	西条己智男	長野市スキークラブ	1'04"83
	スキー	成年男子A	コンバインド	青木　雄二	日本大３年	飛躍205.5 距離43'04"5
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	沼田　鉄平	東洋大３年	28'53"8

第59回（平成16年）夏季大会・秋季大会　　開催地：埼玉県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子	三段跳び	石川　和義	筑波大４年	16m35
	自転車	成年男子	ロードレース	宮澤　崇史	自営業	4°13'52"
２位	水泳（競泳）	成年女子	100m平泳ぎ	丸山　亮子	中京大４年	1'10"98
	陸上	少年男子A	走り幅跳び	新村　　守	東海大第三高３年	7m57
	レスリング	成年男子	グレコ96kg級	森角　裕介	長野県レスリング協会	
	アーチェリー	成年男子		丸山　貴之 小池　栄太 井原　一厳	長野県アーチェリー協会 長野県警察 日体大２年	232点
３位	ボート	少年男子	シングルスカル	高木　慎也	諏訪清陵高３年	3'34"79
	陸上	少年男子B	3000m	岡本　考平	佐久長聖高１年	8'28"79
	馬術	成年男子	スピード＆ハンディネス	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1'16"38
	馬術	少年	リレー	佐藤　　泰 有吉　　隆	文大長野高２年 上田西高１年	1'10"04
	クレー射撃	成年	トラップ	矢澤　秀宗	㈱矢澤興産	89
４位	カヌー	成年男子	ﾌﾗｯﾄｳｫｰﾀｰﾚｰｼﾝｸﾞ ｶﾅﾃﾞｨｱﾝｼﾝｸﾞﾙ	吉澤　雄一	同志社大４年	2'01"536
	陸上	少年男子A	400m	宮沢　洋平	長野工業高３年	47"51
	陸上	少年男子A	5000m	佐藤　悠基	佐久長聖高３年	14'06"62
	バレーボール	少年男子	6人制		長野選抜	
	馬術	成年女子	トップスコアー	荒木　久佳	杏林大３年	1090点
	馬術	成年男子	標準障害飛越	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1'40"92
	馬術	成年女子	ダービー	荒木　久佳	杏林大３年	1'08"86
	フェンシング	少年女子	フルーレ	那須　美奈 小原ゆかり 唐澤　千夏	赤穂高３年 赤穂高３年 赤穂高２年	
５位	ボウリング	成年男子	個人ミドル	西島　　博	西島商事㈱	1808
	陸上	成年女子	三段跳び	三澤　涼子	ヤマトヤTC	12m70
	バレーボール	少年女子	6人制		長野選抜	
	レスリング	成年男子	フリー120kg級	前島　信彦	拓殖大４年	
	レスリング	成年男子	グレコ60kg級	竹花　良二	アクアプラザ上田	
	レスリング	少年男子	フリー84kg級	小林　敏雄	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコ74kg級	水石　　晶	北佐久農業高３年	
	空手道	成年男子	組手団体	真島　和也 樋口　大樹 奥村　雄志	駒澤大２年 直富商事㈱ 信州大４年	
	空手道	成年男子	組手個人軽量級	真島　和也	駒澤大２年	
	空手道	成年男子	組手個人中量級	樋口　大樹	直富商事㈱	
	空手道	少年女子	形	三浦　理紗	松本第一高１年	
６位	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	丸山　亮子	中京大４年	2'20"11
	自転車	成年男子	ロードレース	小笠原崇裕	自営業	4°13'54"
７位	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上50m自由形	徳永　　啓	第一公害	24"70

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
7位	バレーボール	成年女子	9人制		セイコーエプソン㈱	
	軟式野球	成年		オール諏訪		
	馬術	成年男子	ダービー	伝刀　正樹	飯綱ライディングパーク	1'55"37
	水泳（競泳）	成年女子	100mバタフライ	宮島　弘実	中京大４年	1'02"60
	馬術	少年	ダービー	佐藤　　泰	文大長野高２年	1'46"77
	馬術	少年	スピード＆ハンディネス	荒木　紀迪	佐久長聖高２年	1'18"69
	弓道	成年男子	遠的	井垣　貴夫 志村　　仁 牧内　和宏	長野県信用組合大町支店 山二発條㈱ 中部電力㈱飯田支店	

第59回（平成16年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	スケート	成年男子	スピード1000m	牛山　貴広	明治大４年	1'14"45
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	上條　有司 中嶋　定利 中村　　航 上原　　龍	岡谷東高２年 佐久長聖高３年 東海大三高３年 佐久長聖高３年	2'28"86
	スケート	少年男子	スピード500m	上條　有司	岡谷東高２年	37"83
	スケート	少年男子	スピード1000m	上條　有司	岡谷東高２年	1'14"39
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	大菅　淳子 加治木　彩 原　　美樹 吉井小百合	三協精機製作所 信州大３年 山梨学院大３年 三協精機製作所	2'41"90
	スケート	成年女子	スピード500m	吉井小百合	三協精機製作所	41"03
	スケート	成年女子	スピード1000m	吉井小百合	三協精機製作所	1'21"53
	スケート	成年女子	スピード1500m	新谷志保美	竹村製作所	2'17"63
	スケート	少年女子	スピード1000m	熊谷　恵美	東海大三高３年	1'25"78
2位	スケート	成年男子	スピード1000m	中嶋　敬春	日体大３年	1'14"97
	スケート	成年女子	スピード500m	大菅　淳子	三協精機製作所	41"23
3位	スケート	成年男子	スピード500m	鈴木　　暢	日本大２年	37"60
	スケート	成年男子	スピード5000m	佐藤　克憲	法政大１年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	加治木　彩	信州大３年	2'35"46
	スケート	成年女子	ショート500m	飯塚　容子	中京大３年	48"179
	スケート	成年女子	ショート1000m	飯塚　容子	中京大３年	1'48"884
	スケート	少年男子	スピード1000m	上原　　籠	佐久長聖高３年	1'21"65
	スケート	少年男子	スピード10000m	荒井　春樹	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード500m	小平　奈緒	伊那西高２年	42"32
	スケート	少年女子	スピード1500m	小松　美樹	東海大三高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	ショート500m	酒井　裕唯	岡谷東高１年	48"255
4位	スケート	成年女子	スピード3000m	新谷志保美	竹村製作所	4'29"42
	スケート	少年女子	スピード3000m	小松　美樹	東海大三高２年	4'38"08
	スケート	少年女子	ショート1000m	酒井　裕唯	岡谷東高１年	1'51"530
5位	スケート	少年男子	スピード500m	上原　　龍	佐久長聖高３年	38"39
6位	スケート	成年男子	スピード1500m	牛山　貴広	明治大４年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	中島　織七	山梨学院大３年	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート500m	酒井　智美	筑波大１年	47"948
	スケート	少年男子	スピード1500m	斉川　哲利	更級農業高１年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	吉澤　達矢	岡谷南高２年	タイムなし

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スケート	少年女子	スピード3000m	名取　英理	東海大三高３年	タイムなし
７位	スケート	成年男子	スピード1500m	中嶋　敬春	日体大３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	信州大３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1500m	中嶋　定利	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	ショート1000m	西田　竜大	岡谷東高１年	2'07"640
８位	スケート	少年女子	スピード500m	名取　奈緒	東海大三高３年	50"79
	スケート	少年女子	スピード1000m	名取　奈緒	東海大三高３年	タイムなし

第59回（平成16年）冬季大会　スキー　　開催地：山形県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	宮下　　透	菅平高原スキークラブ	37"00
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	中央大４年	29'48"5
２位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'04"92
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	富井　正一	スノーバスターズ	37"03
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	上野　岳光	飯山南高３年	1'02"16
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	堀米　光男	志賀高原スキークラブ	30'31"2
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	成瀬　野生 中村　順一 堀米　光男 畔上　大地	早稲田大１年 日本大４年 志賀高原スキークラブ NTT東日本長野	1°46'51"7
３位	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品工業	209.5
	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	飛躍121.0 距離17'25"0
４位	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	98
５位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	小賀坂スキークラブ	1'05"69
	スキー	成年男子C	コンバインド	山田　誠司	小谷村体育協会	飛躍80.5 距離15'08"0
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	野口　誉継 山田　　洋 北村　雅之 太田　一平	飯山北高３年 飯山南高２年 白馬高３年 飯山南高２年	1°46'16"9
６位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	国分　哉伸	明治大２年	212.5
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	北村　雅之	白馬高３年	30'14"9
７位	スキー	少年男子	コンバインド	森　　悠輔	中野実業高３年	飛躍166.5 距離28'43"4
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	畔上　大地	NTT東日本長野	32'31'1
	スキー	女子	リレークロスカントリー 4×フリー５㎞	篠原　舞香 角田あずさ 大津三津子 畔上　尚子	中野実業高２年 飯山南高２年 日本大３年 早稲田大１年	1°12'56"9
８位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	関塚　真一	日本大４年	1'04"33
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	松沢　幸靖	白馬村スキークラブ	37"71
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	外山　直也	飯山南高１年	203

第60回（平成17年）夏季大会・秋季大会　　開催地：岡山県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	少年女子	3000m競歩	上條のどか	田川高１年	15'02"28
	レスリング	少年男子	グレコローマン50kg級	富岡　達也	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマン55kg級	重松　　賢	上田西高３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマン74kg級	矢口　　護	上田西高３年	
	馬術	少年	二段階障害飛越	佐藤　　泰	文大長野高３年	30"49
	馬術	少年	リレー	佐藤　　泰	文大長野高３年	59"35
				有吉　　隆	上田西高３年	
	アーチェリー	少年男子		宮下　朋幸	篠ノ井高３年	230点
				山﨑　由晃	上田西高３年	
				齋藤　一平	上田西高３年	
２位	レスリング	成年男子	グレコローマン96kg級	森角　裕介	蓼科高*教員	
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	佐藤　　泰	文大長野高３年	1'08"86
	馬術	少年	トップスコア	荒木　紀迪	佐久長聖高３年	1040
	馬術	成年男子	ダービー	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1'38"41
３位	陸上	成年男子	1500m	上野裕一郎	中央大２年	3'47"15
	レスリング	成年男子	グレコローマン55kg級	高橋　利典	アクトス上由	
	レスリング	成年男子	グレコローマン84kg級	岡本　鉄平	拓殖大４年	
	馬術	少年	標準障害飛越	荒木　紀迪	佐久長聖高３年	1'11"16
４位	陸上	成年女子	ハーフマラソン	丸山　美雪	北安曇郡陸協	1°13'37"
	陸上	成年男子	100m	塚原　直貴	東海大２年	10"58
	馬術	成年男子	六段障害飛越	伝刀　正樹	飯綱高原乗馬倶楽部	3
	空手道	個人戦	組手重量級	樋口　大樹	直富商事㈱	
５位	ボート	少年男子	舵手つきクォドルプル	青木　勇太	諏訪清陵高２年	3'12"47
				小松　昌平	諏訪清陵高２年	
				藤原　　昂	諏訪清陵高２年	
				赤井　龍男	岡谷東高３年	
				酒井　悠佑	諏訪清陵高３年	
	陸上	成年男子	ハーフマラソン	太田　貴之	富士通	1°03'26"
	陸上	少年男子	5000m競歩	藤沢　　勇	中野実業高３年	21'54"25
	レスリング	成年男子	フリースタイル120kg級	丸山　拓也	大東文化大４年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル66kg級	三石　淳志	北佐久農業高３年	
	馬術	成年女子	ダービー	荒木　久佳	博悠会	1'46"81
	弓道	少年男子	遠的	赤羽　根侑	野沢北高３年	43点
				大久保雅輝	松商学園高３年	
				細田　将弘	赤穂高３年	
６位	陸上	少年男子	ハンマー投	笹野　弘充	丸子実業高３年	57m29
	陸上	少年男子	5000m	松本　昂大	佐久長聖高３年	13'58"86
	馬術	少年	ダービー	有吉　　隆	上田西高３年	1'51"05
	弓道	成年男子	近的	牧内　和宏	中部電力㈱長野支店	6点
				井垣　貴夫	長野県信用組合八幡支店	
				志村　　仁	山二発條㈱	
	クレー射撃	成年	スキート	吉原　宣親	恵三会	
７位	ボート	成年男子	舵手つきフォア	内田　幸裕	大和電気工業㈱	3'25"65
				両角　大介	高島産業㈱	
				北澤　勝己	下諏訪町役場	
				伊藤　貴裕	諏訪重機運輸㈱	
				林　　拓実	富山国際大４年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上50m自由形	徳永　　啓	第一公害	24"60
	水泳（競泳）	少年男子A	400m個人メドレー	伊藤　義輝	岡谷工業高３年	4'33"36
	カヌー	成年男子	フラットウォーターレーシング カナデイアンシングル200m	吉澤　雄一	同志社大４年	45"046
	バレーボール	成年女子	9人制		セイコーエプソン㈱	
	ソフトテニス	少年男子		中田　　瑛 渡邊　達也 浅野　　優 徳武　良匡 安江　一輝 松山　大樹	上田千曲高３年 上田千曲高３年 上田千曲高３年 上田千曲高３年 上田高３年 阿智高３年	
	ライフル射撃	成年男子	50mP60M	林　　巧	㈱山ノ内流通センター	683.3点
８位	ボート	少年男子	シングルスカル	東城　正芳	岡谷南高３年	3'31"02
	陸上	少年女子	砲丸投げ	大矢　結麻	丸子実業高２年	12m89
	陸上	成年女子	やり投げ	山本　晴美	長野市陸協	48m38
	陸上	少年男子	3000m	堂本　尚寛	佐久長聖高１年	8'30"94
	弓道	成年女子	近的	高地美佐子 山田　昌代 長尾真樹子	上田日本無線㈱小牧工場 諏訪信用金庫 積和不動産中部㈱	3点

第60回（平成17年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：山梨県・東京都

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード1500m	中嶋　敬春	日体大４年	1'55"08
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	田中　千景 飯塚　容子 酒井　智美 井出絵里佳	岡谷東高校教員 中京大４年 筑波大２年 東京女子体育大４年	4'37"151
	スケート	少年男子	スピード500m	上條　有司	岡谷東高３年	37"32
	スケート	少年男子	スピード1000m	上條　有司	岡谷東高３年	1'13"01
	スケート	少年男子	スピード5000m	由井　拓実	佐久長聖高１年	7'46"82
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	立木　和佳 笠原　吉充 金子健太郎 上條　有司	東海大三高３年 東海大三高３年 東海大三高２年 岡谷東高３年	2'26"48
	スケート	少年女子	スピード500m	小平　奈緒	伊那西高３年	41"40
	スケート	少年女子	スピード1000m	小平　奈緒	伊那西高３年	1'20"48
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	武井　陽子 小平　　恵 小松　美樹 小平　奈緒	伊那西高３年 東海大第三高３年 東海大第三高３年 伊那西高３年	2'43"19
	スケート	少年女子	ショート500m	酒井　裕唯	岡谷東高２年	46"178
２位	スケート	成年男子	ショート1000m	篠原　祐剛	篠原農園	1'32"443
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	信州大４年	1'18"64
	スケート	成年女子	ショート500m	酒井　智美	筑波大２年	46"743
	スケート	成年女子	ショート1000m	田中　千景	岡谷東高*教員	1'39"596
	スケート	少年男子	スピード500m	立木　和佳	東海大三高３年	37"34
	スケート	少年男子	スピード1000m	立木　和佳	東海大三高３年	1'16"08
	スケート	少年男子	スピード10000m	吉澤　達矢	岡谷南高３年	14'44"66

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スケート	少年女子	スピード1500m	小松　美樹	東海大第三高３年	2'12"61
	スケート	少年男子	ショート1000m	古屋　憲吾	岡谷南高２年	1'32"802
３位	スケート	成年男子	スピード5000m	畠山　　薫	日体大４年	6'53"77
	スケート	成年女子	スピード1000m	外ノ池亜希	アルピコ	1'21"49
	スケート	成年女子	スピード3000m	名取　英理	山梨学院大１年	4'21"94
	スケート	少年女子	スピード3000m	小松　美樹	東海大第三高３年	タイムなし
４位	スケート	成年男子	スピード1500m	安田　直樹	日体大４年	1'58"33
	スケート	成年女子	スピード500m	大菅　淳子	㈱三協精機製作所	40"74
	スケート	少年男子	ショート500m	古屋　憲吾	岡谷南高２年	44"198
５位	スケート	成年男子	ショート500m	篠原　祐剛	篠原農園	44"218
	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	信州大４年	41"11
	スケート	少年男子	スピード1500m	金子健太郎	東海大第三高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード500m	武井　陽子	伊那西高３年	42"13
	スケート	少年女子	スピード1500m	菊池　彩花	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	菊池　彩花	佐久長聖高２年	タイムなし
６位	スケート	成年男子	スピード1000m	鈴木　　暢	日大３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	外ノ池亜希	アルピコ	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1000m	武井　陽子	伊那西高３年	タイムなし
７位	スケート	成年女子	スピード3000m	中島　織七	山梨学院大４年	タイムなし
	スケート	少年女子	ショート500m	小口　絵理	岡谷東高２年	48"437
８位	スケート	少年男子	スピード10000m	遠山　大輔	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	吉澤　達矢	岡谷南高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1500m	荒井　春樹	佐久長聖高３年	タイムなし

第60回（平成17年）冬季大会　スキー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	小賀坂スキークラブ	1'11"15
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	富井　正一	スノーバスターズ	1'14"00
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	飯山市スキークラブ	27'00"5
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	今井　博幸	NTT東日本長野	13'57"0
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	山室　　忠 堀米　光男 畔上　大地 今井　博幸	飯山市スキークラブ 志賀高原スキークラブ NTT東日本長野 NTT東日本長野	1°37'49"0
２位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	山田　大起	北野建設	226.5
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品工業	227
	スキー	少年男子	コンバインド	渡部　暁斗	白馬高１年	飛躍171.5 距離27'00"2
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	堀米　光男	志賀高原スキークラブ	27'41"0
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	篠原　舞香	中野実業高３年	16'23"4
	スキー	女子	リレークロスカントリー 4×フリー５㎞	篠原　舞香 丸山　未紀 篠原　文香 下平恵理華	中野実業高３年 飯山南高２年 中京大３年 飯山南高３年	58'13"5
３位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	大久保　優	菅平高原スキークラブ	1'15"25
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	桜井　峯久	白馬村スキークラブ	151.5
	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	飛躍158.0 距離16'15"9

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー クラシカル10㎞	柏原　暢仁	飯山南高１年	28'00"5
	スキー	少年女子	クロスカントリー クラシカル５㎞	下平恵理華	飯山南高３年	16'32"3
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	山田　　洋 柏原　暢仁 矢嶋　正明 太田　一平	飯山南高３年 飯山南高１年 飯山南高３年 飯山南高２年	1°42'00"1
４位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	山﨑　　純	白馬村スキークラブ	1'13"77
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	池内沙也加	飯山南高２年	1'08"90
	スキー	成年男子A	コンバインド	田中　耕介	中央大４年	飛躍179.5 距離40'01"0
	スキー	成年男子B	クロスカントリー クラシカル10㎞	畔上　大地	NTT東日本長野	29'22"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー クラシカル５㎞	角田あずさ	飯山南高３年	16'34"6
	スキー	成年男子A	クロスカントリー クラシカル10㎞	成瀬　野生	早稲田大２年	27'41"7
５位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	山崎　真喜	飯山南高３年	1'07"91
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	上野　真吾	NTT東日本	213.5
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	138
	スキー	成年女子A	クロスカントリー クラシカル５㎞	篠原　文香	中京大３年	17'29"2
６位	スキー	成年男子B	コンバインド	小泉　　敦	トーエネック松本営業所	飛躍147.5 距離46'01"3
	スキー	成年男子C	コンバインド	桜井　峯久	白馬村スキークラブ	飛躍146.0 距離16'01"2
	スキー	少年男子	クロスカントリー クラシカル10㎞	山田　　洋	飯山南高３年	28'17"1
７位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	松沢　幸靖	白馬村スキークラブ	1'16"35
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	梅崎　慶大	白馬村スキークラブ	206.5
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	国分　哉伸	明治大３年	206.5
８位	スキー	成年女子A	クロスカントリー クラシカル５㎞	駒村　裕子	専修大３年	17'57"0

第61回（平成18年）本大会　　開催地：兵庫県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	バレーボール	少年男子	6人制			
	レスリング	成年男子	フリースタイル74㎏級	桜井　浩二	拓殖大４年	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル　66㎏級	村瀬　洸介	拓殖大４年	
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大１年	26"25
	弓道	少年女子	近的			
	ライフル射撃	少年女子	10mS20J競歩	山本　友美	長野女子高３年	197点
２位	陸上	成年男子	100m	塚原　直貴	東海大３年	10"41
	自転車	少年男子	ロード・レース	柿澤　大貴	岡谷工業高２年	2°50'39"
	アーチェリー	成年男子				
３位	水泳	少年女子	シンクロ			79.583
	弓道	少年女子	遠的			
	レスリング	成年男子	フリースタイル55㎏級	富岡　直希	日体大３年	
４位	陸上	少年女子B	3000m競歩	水野　綺子	田川高１年	15'08"46
	陸上	少年女子A	円盤投	中島　沙織	丸子実業高３年	40m84
	陸上	成年女子	やり投	山本　晴美	㈱電算南長野運動公園事務局	50m82
	陸上	少年男子B	3000m	佐々木寛文	佐久長聖高１年	8'35"92
	バレーボール	成年女子	9人制			
	馬術	少年	二段階障害飛越	金本　行誠	伊那北高３年	29"20
	馬術	少年	トップスコア	橋田　誓也	㈱飯綱ライディングパーク	1330

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	空手道	少年女子	形	三浦　理紗	松本第一高３年	
５位	ボート	少年男子	シングルスカル	北沢　泰彦	岡谷東高３年	3'24"88
	レスリング	少年男子	フリースタイル 60kg級	佐藤　貴大	上田西高３年	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル　84kg級	若菜　政志	日体大３年	
	卓球	成年女子				
	相撲	成年男子B	個人	田島　大助	伊那養護学校寄宿舎指導員	得点換算なし
	相撲	成年男子A	個人	鈴木　章広	東洋大２年	得点換算なし
	ソフトボール	成年女子				
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大１年	25"42
	ライフル射撃	少年女子	BRS40J競歩	砥石　真衣	長野俊英高１年	501.6点
	クレー射撃	成年	スキート（団体）			251
	クレー射撃	成年	スキート（個人）	布野　康介	㈱布野恵だるま店	88
６位	陸上	成年男子	3000m障害	宮入　一海	㈲MIDAS	8'55"11
	陸上	成年男子	10000m競歩	藤沢　　勇	山梨学院大１年	42'40"13
	馬術	成年男子	六段障害飛越	小林　義彦	㈱エクセレント	飛越回数3 減点8
７位	カヌー	女子	スラローム（25ゲート）	矢澤　亜季	飯田西中３年	355.33
	カヌー	女子	スラローム（15ゲート）	矢澤　亜李	飯田西中３年	272.29
	水泳（競泳）	成年男子30歳以上	自由形50m	徳永　　啓	第一公害	24"67
	バレーボール	成年男子	6人制			
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	69kg級（スナッチ）	滝澤　祥太	中京大４年	117kg
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	69kg級（クリーン＆ジャーク）	滝澤　祥太	中京大４年	148kg
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	金本　行誠	伊那北高３年	1'11"95
８位	水泳（競泳）	成年男子	30歳以上背泳ぎ50m	宮坂　貴之	㈱ホムズ技研	28"18
	ボート	成年男子	舵手つきフォア			3'6"06
	カヌー	男子	ワイルドウォーター　（スプリント）	内山　岳佳	広田産業㈱	2'4"17
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	社会福祉法人しあわせ	
	自転車	少年男子	4km速度競走	柿澤　大貴	岡谷工業高２年	4'48"950
	馬術	成年男子	セントジョージ賞典馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	56
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	59.625

第61回（平成18年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード1000m	小平　奈緒	信州大１年	1'20"39
	スケート	成年女子	ショート1000m	小沢　　幸	ソーデナガノ	1'39"480
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	飯塚　容子 小沢　　幸 酒井　智美 山田　伸子	㈱イズミテクノ ソーデナガノ 筑波大３年 東京女子体育大３年	4'38"138
	スケート	少年男子	スピード1500m	原　　宏彰	佐久長聖高１年	1'54"26
	スケート	少年女子	ショート500m	酒井　裕唯	岡谷東高３年	47"116
	スケート	少年女子	ショート1000m	酒井　裕唯	岡谷東高３年	1'49"773
２位	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日体大１年	36"98
	スケート	成年女子	スピード500m	大菅　淳子	日本電産サンキョー	40"24
	スケート	成年女子	スピード1500m	小平　奈緒	信州大１年	2'16"36
	スケート	成年女子	ショート500m	小沢　　幸	ソーデナガノ	47"165
	スケート	成年女子	ショート1000m	飯塚　容子	㈱イズミテクノ	1'39"480
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	大菅　淳子	日本電産サンキョー	2'42"03

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				加治木　彩	八幡屋礒五郎	
				小平　奈緒	信州大１年	
				新谷志保美	竹村製作所	
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	関　真太郎	岡谷南高３年	2'30"80
				和田　良祐	岡谷南高２年	
				原　　宏彰	佐久長聖高１年	
				金子健太郎	東海大三高３年	
	スケート	少年女子	スピード500m	清水　玲香	東海大学第三高１年	41"05
	スケート	少年女子	スピード3000m	菊池　彩花	佐久長聖高３年	4'27"96
３位	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日体大１年	1'14"71
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	1'23"71
	スケート	少年女子	スピード3000m	鎌倉ひとみ	東海大学第三高２年	4'56"06
４位	スケート	成年男子	スピード1500m	斉川　史徳	信州大３年	タイムなし
	スケート	成年男子	スピード2000mリレー	上條　有司	日体大１年	2'32"00
				中村　　航	日体大２年	
				依田幸一郎	専修大４年	
				鈴木　　暢	日大４年	
	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	40"49
	スケート	少年男子	スピード500m	関　真太郎	岡谷南高３年	38"19
	スケート	少年男子	ショート1000m	古屋　憲吾	岡谷南高３年	1'33"707
	スケート	少年女子	スピード1000m	太田未奈美	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1500m	鎌倉ひとみ	東海大学第三高２年	2'13"61
５位	スケート	少年男子	スピード500m	和田　良祐	岡谷南高２年	38"38
	スケート	少年男子	スピード1000m	関　真太郎	岡谷南高３年	2'06"63
	スケート	少年男子	スピード10000m	由井　拓実	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　玲香	東海大学第三高１年	タイムなし
６位	スケート	成年男子	スピード5000m	佐藤　克憲	法政大３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1500m	金子健太郎	東海大学第三高３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード500m	菊池　和佳	佐久長聖高３年	42"36
	アイスホッケー	成年男子			長野選抜	
７位	スケート	成年女子	スピード1500m	新谷志保美	竹村製作所	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	名取　英理	山梨学院大２年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	佐伯　幸輝	岡谷南高３年	タイムなし
８位	スケート	少年男子	スピード1000m	金子健太郎	東海大学第三高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	ショート500m	古屋　憲吾	岡谷南高３年	46"112

第61回（平成18年）冬季大会　スキー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	奥田　祐輔	中央大２年	1'08"86
	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	飯山市スキークラブ	26'43"1
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	今井　博幸	NTT東日本長野	13'56"3
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷体協	1'08"98
２位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	柏原　暢仁	飯山南高２年	28'02"9
	スキー	女子	リレークロスカントリー 4×フリー５㎞	小田佳奈里	飯山南高２年	1°04'18"7
				丸山　未紀	飯山南高３年	
				畔上　尚子	早稲田大３年	
				下平恵理華	専修大１年	
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	矢嶋　正明	東洋大１年	2°07'51"0

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				堀米　光男 山室　　忠 服部　正秋	志賀高原観光開発㈱ 飯山市スキークラブ 飯山学園	
３位	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	堀米　光男	志賀高原観光開発㈱	28'47"0
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	山崎　　純	白馬村スキークラブ	1'11"43
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	梅崎　慶大	雪印乳業	219.8
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	上野　真吾	NTT東日本北海道	218.9
４位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	丸山　未紀	飯山南高３年	16'27"5
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	富井　正一	スノーバスターズ	1'10"41
	スキー	成年男子A	コンバインド	青木　純平	飯山市スキークラブ	ジャンプ211.0 クロス47'15"3
５位	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	ジャンプ164.0 クロス16'59"2
	スキー	少年男子	リレークロスカントリー 4×フリー10㎞	太田　一平 松村　和俊 柏原　暢仁 高木　　剛	飯山南高３年 飯山北高１年 飯山南高２年 飯山北高２年	1°51'59"2
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	平林　秀太	大町高１年	226
６位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	湯本　香織	日本大学保健体育審議会	1'10"38
	スキー	少年男子	コンバインド	北村　桝平	白馬高２年	ジャンプ201.0 クロス30'01"4
７位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	佐藤由加里	志賀高原スキークラブ	1'25"52
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品工業	203.8
８位	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	畔上　尚子	早稲田大３年	16'15"3
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	158.2
	スキー	少年男子	コンバインド	仲山　義敬	飯山南高１年	ジャンプ217.0 クロス31'39"4

第62回（平成19年）本大会　　開催地：秋田県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	カヌー	成年男子	スラロームレーシング　25ゲート	矢澤　一輝	駿河台大１年	212.72点
	陸上競技	成年男子	100m	塚原　直貴	東海大４年	10"23
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大２年	23"30
２位	水泳（競泳）	成年男子30歳以上	50m背泳ぎ	宮坂　貴之	ホムズ技研	27"44
	カヌー	成年男子	スラロームレーシング　15ゲート	矢澤　一輝	駿河台大１年	205.99点
	陸上競技	少年男子B	110mハードル	早川　恭平	長野吉田高１年	14"53
	バレーボール	少年男子	6人制		選抜	
	レスリング	成年男子	グレコローマン120㎏級	森角　裕介	北佐久農業高	
	馬術	成年男子	トップスコア	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1480点
	弓道	成年男子	近的		選抜	
	アーチェリー	成年男子	個人	宮原　　雅	生協コープながの	661点
３位	カヌー	成年男子	ワイルドウォーターレーシング 1500	内山　岳佳	広田産業㈱	4'40"01
	陸上競技	少年女子A	三段跳び	田澤　　愛	松本深志高３年	12m40
	レスリング	成年男子	グレコローマン60㎏級	平井　進悟	綜合警備保障	
	レスリング	少年男子	フリースタイル60㎏級	山木　尚行	上田西高３年	
	馬術	成年男子	スピード＆ハーディネス	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1'00"58
	弓道	少年男子	近的		選抜	
	ライフル射撃	少年女子	10mエア・ライフル立射（20発）	砥石　真衣	長野俊英高２年	194点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	今滝　耕作	大町高３年	21'07"23
	陸上競技	少年男子A	棒高跳	西澤　直希	長野工業高３年	4m80
	陸上競技	少年男子A	800m	伊藤　秀充	大町高２年	1'53"46
	陸上競技	少年女子B	3000m競歩	鳥羽　詩織	長野東高１年	14'47"55
	テニス	少年男子		伊藤　　翼 伊藤　　駿	松商学園高３年 松商学園高３年	
５位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	山梨学院大２年	41'53"78
	陸上競技	少年男子A	5000m	村澤　明伸	佐久長聖高２年	14'16"76
	陸上競技	少年女子共通	走高跳	今村久美子	佐久長聖高２年	1m69
	レスリング	少年男子	グレコローマン96kg級	土田　崇英	北佐久農業高３年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル66kg級	松浦　三笠	上田西高３年	
	ライフル射撃	成年男子	50mライフル膝射（20発）	林　　巧	山ノ内流通センター	186点
	山岳	少年男子	クライミング	笠原　大輔 尾形　昌弥		53.409点
６位	水泳（シンクロ）	少年女子	デュエット	片岡　　彩 箱山　愛香		77.667点
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	61.5
	クレー射撃	成年男子	スキート		選抜	245点
７位	陸上競技	成年男子	走幅跳	新村　　守	東海大３年	7m38
	バレーボール	成年女子	9人制		セイコーエプソン㈱	
	軟式野球	一般B			選抜	
	馬術	成年女子	馬場馬術	清水　　愛	日本デジタル研究所	57.6
	馬術	少年	馬場馬術	等々力美帆	穂高商業高１年	57.6
８位	水泳（競泳）	少年男子A	平泳ぎ200m	望月　僚平	佐久長聖高３年	2'19"65
	陸上競技	成年男子	3000m障害	宮入　一海	㈲MIDAS	8'50"25
	陸上競技	成年女子	走幅跳	三澤　涼子	スポーツプラザヤマトヤ	5m72
	体操	少年女子	新体操		選抜	24.4062点
	自転車	成年男子	スプリント	湯原　正行	社会福祉法人しあわせ	
	馬術	少年	スピード＆ハーデイネス	西澤　美咲	長野清泉高２年	59"86
	アーチェリー	成年男子			選抜	201点
	ゴルフ	成年男子			選抜	453

第62回（平成19年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	40"31
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　玲香	東海大三高２年	1'21"50
	スケート	成年女子	ショート500m	酒井　裕唯	早稲田大１年	46"035
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	小口　絵理 小沢　　幸 飯塚　容子 酒井　裕唯	日本女子体育大１年 ソーデナガノ ㈱イズミテクノ 早稲田大１年	4'28"114
２位	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　悠希	小諸商業高１年	1'43"156
	スケート	成年女子	ショート1000m	小口　絵理	日本体育大１年	1'40"841
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	加治木　彩 小松　美樹 名取　英理 武井　陽子	八幡屋礒五郎 日本大２年 山梨学院大３年 日体大２年	2'41"49
	スケート	成年女子	ショート500m	飯塚　容子	㈱イズミテクノ	46"108

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スケート	少年男子	スピード10000m	由井　拓実	佐久長聖高３年	14'35"82
	スケート	少年女子	スピード500m	清水　玲香	東海大三高２年	41"55
	スケート	少年男子	スピード1500m	武井　博史	上伊那農業高２年	2'00"17
	スケート	少年男子	ショート1000m	小松　翔太	岡谷南高３年	1'46"365
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	武井　博史	上伊那農業高２年	2'33"87
				由井　拓実	佐久長聖高３年	
				小林　拓斗	岡谷南高１年	
				和田　良祐	岡谷南高３年	
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	清水　玲香	東海大三高２年	2'47"10
				太田未奈美	佐久長聖高３年	
				牛山　千種	東海大三高１年	
				清水　優香	東海大三高１年	
４位	スケート	少年女子	スピード500m	牛山　千種	東海大三高１年	42"00
	スケート	少年女子	スピード1500m	太田未奈美	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	由井　拓実	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1000m	太田未奈美	佐久長聖高３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	タイムなし
５位	スケート	少年男子	スピード500m	小林　拓斗	岡谷南高１年	38"21
	スケート	少年男子	スピード10000m	小林　成光	上伊那農業高２年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1500m	原　　宏彰	佐久長聖高２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	小島　早織	佐久長聖高１年	4'29"35
	スケート	成年女子	スピード1000m	武井　陽子	日体大２年	タイムなし
	スケート	成年男子	ショート5000mリレー	伴野　清貴	南佐久スケート協会	7'23"794
				吉沢　一哉	とらふぐ亭	
				古屋　憲吾	早稲田大１年	
				小沢　竜一	岡谷東高*教員	
６位	スケート	成年女子	スピード500m	熊谷　恵美	松本スケート協会	41"00
	スケート	成年男子	スピード1500m	安田　直樹	日体大４年	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート1000m	小沢　　幸	ソーデナガノ	1'48"095
	スケート	成年女子	スピード3000m	小松　美樹	日体大２年	4'24"01
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　悠希	小諸商業高１年	48"951
７位	スケート	少年女子	スピード1500m	鎌倉ひとみ	東海大三高３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	武井　陽子	日体大２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	坂本亜由美	佐久長聖高１年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	名取　英理	山梨学院大３年	タイムなし
８位	スケート	少年男子	スピード500m	和田　良祐	岡谷南高３年	53"37
	スケート	少年男子	スピード1000m	武井　博史	上伊那農業高２年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	清水　勇介	岡谷南高３年	タイムなし

第62回（平成19年）冬季大会　スキー　　開催地：秋田県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	飯山市スキークラブ	24.34"0
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'09"39
	スキー	成年男子	リレークロスカントリー４×フリー10㎞	北村　雅之	中央大３年	1°32'06"9
				山室　　忠	飯山市スキークラブ	
				斉藤　　亮	飯山市スキークラブ	
				成瀬　野生	早稲田大４年	
２位	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	斉藤　　亮	飯山市スキークラブ	24'39"3

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	女子リレー	クロスカントリー　4×フリー５㎞	平瀬　友里 柏原　理子 山本　奈々 下平恵理華	飯山南高２年 飯山南高１年 同志社大４年 専修大２年	56'40"8
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	竹内　　択	北野建設スキー部	258
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	柏原　暢仁	飯山南高２年	25'01"9
	スキー	成年男子C	コンバインド	久保田真一郎	木島平中*教員	jump137.0 CC13'06"9
	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品スキー部	236
４位	スキー	成年男子B	スペシャルジャンプ	上野　真吾	NTT東日本北海道	234.2
５位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'06"36
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	畔上　大地	野沢温泉スキークラブ	25'52"6
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	ﾚﾝﾃｨﾝｸﾞ　陽	飯山北高１年	25'06"1
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	平田　奈央	飯山北高１年	14'36"4
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山本　奈々	同志社大４年	14'12"3
	スキー	少年男子	コンバインド	小山　　祐	飯山南高３年	jump199.0 CC25'10"8
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	平林　秀太	大町高２年	237.3
６位	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	服部　正秋	飯山市スキークラブ	25'58"0
	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	湯本　香織	日大４年	1'09"90
	スキー	成年男子C	コンバインド	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	jump145.5 CC15'17"7
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	塩田　大喬	飯山南高３年	1'05"55
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	中野実業高１年	237.2
７位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	野沢温泉スキークラブ	1'07"24
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	畔上　尚子	早稲田大４年	14'14"4
	スキー	成年男子C	スペシャルジャンプ	関　　朋広	志賀高原スキークラブ	149.2
	スキー	少年男子リレー	クロスカントリー　4×フリー10㎞	ﾚﾝﾃｨﾝｸﾞ　陽 宮崎　達也 町田　結希 柏原　暢仁	飯山北高１年 飯山南高２年 飯山北高３年 飯山南高２年	1°36'56"5
８位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	清水　香帆	飯山南高２年	1'15"03
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	片桐　慧太	下高井農林高１年	222.1

第63回（平成20年）本大会　　開催地：大分県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	自転車	少年男子	（トラック）スプリント	等々力久就	岡谷工業高校３年	
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大学３年	減点0、23秒46
	馬術	成年女子	ダービー	小野　苑果	クレアールアカデミー長野校	減点0、1分42秒62
	馬術	成年男子	トップスコア	佐藤　英賢	明松寺馬事公苑	1250点
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大学３年	減点0、1分02秒06
	馬術	成年男子	ダービー	金子　哲之	上田乗馬倶楽部	減点4、1分42秒79
２位	陸上	少年男子A	10000m	村澤　明伸	佐久長聖高校３年	29分03秒01
	レスリング	成年男子	フリースタイル55kg級	富岡　直希	日本体育大学研究員	
３位	水泳	少年女子	（シンクロ）デュエット	横山　愛実 箱山　愛香	松商学園高校３年 長野日大高校２年	82.333
	カヌー	成年男子	スラロームカヤックシングル（25ゲート）	矢澤　一輝	駿河台大学２年	208.19点
	陸上	少年男子共通	棒高跳	松澤ジアン成治	高遠高校２年	4m90

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	陸上	少年男子Ｂ	走幅跳	嶺村　鴻汰	大町高校１年	６ｍ98
	陸上	成年男子	10000mW	藤澤　　勇	山梨学院大学３年	40分48秒00
	バレーボール	成年女子	9人制		セイコーエプソン	
	レスリング	少年男子	グレコローマン60kg級	穂谷　億人	上田西高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマン84kg級	宮沢　　忍	上田西高校３年	
	自転車	成年男子	（トラック）ケイリン	柿澤　大貴	自営	
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	㈱飯綱高原乗馬倶楽部	減点4、1分00秒83
	弓道	少年男子	遠的	安藤　直貴 斉藤　秀和 宮島　　凌	須坂東高校３年 岩村田高校３年 上田東高校３年	
	山岳	少年男子	リード	尾形　昌弥 中嶋　　渉	大町高校３年 松本深志高校２年	
	ボウリング	少年女子	個人	浅田　梨奈	松本蟻ヶ崎高校３年	1842点
４位	陸上	少年男子Ａ	三段跳	太田　　朗	松代高校３年	15ｍ00
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	62.85
	弓道	少年男子	近的	安藤　直貴 斉藤　秀和 宮島　　凌	須坂東高校３年 岩村田高校３年 上田東高校３年	
	山岳	少年男子	ボルダリング	尾形　昌弥 中嶋　　渉	大町高校３年 松本深志高校２年	
５位	陸上	成年男子	3000mSC	宮入　一海	㈲MIDAS	8分48秒56
	陸上	成年男子	走幅跳	新村　　守	東海大学４年	7m60
	陸上	少年女子共通	走高跳	今村久美子	佐久長聖高校３年	1m69
	バレーボール	少年女子	6人制		選抜	
	レスリング	少年男子	フリースタイル74kg級	高橋　良太	上田西高校３年	
	レスリング	成年男子	グレコローマン60kg級	平井　進悟	綜合警備保障	
	レスリング	成年男子	グレコローマン120kg級	森角　裕介	北佐久農業高校教員	
	馬術	少年	二段階障害飛越	増田真七海	上田市立第五中学校３年	減点4、27秒45
	アーチェリー	少年女子	団体	久保　和美 宮尾明日香 林　　美月	篠ノ井高校２年 上田西高校３年 上田高校１年	176
	空手道	成年男子	組手	真島　和也	トウケル	
	空手道	成年女子	組手	小池　詩織	日本大学２年	
	空手道	成年男子	形	北原　逸城	国士舘大学２年	
６位	陸上	少年女子Ａ	5000m	小田切亜希	長野東高校３年	16分04秒28
７位	カヌー	成年男子	スラローム　カヤックシングル　15ゲート	矢澤　一輝	駿河台大学２年	90.13点
	陸上	少年男子共通	800m	伊藤　秀充	大町高校３年	1分52秒94
	ｳｪｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	69kg級クリーン&ジャーク	滝澤　祥太	愛知県警察	142kg
	アーチェリー	少年女子		林　　美月	上田高校１年	600点
	クレー射撃	成年男子	トラップ団体	山本　清文 矢澤　秀宗 遠山　哲治	大国屋 ㈱矢澤興産 飯田温室サービス	251
	クレー射撃	成年男子	スキート個人	布野　兼一	㈱布野だるま店	90
８位	陸上	少年女子共通	円盤投	添野　沙蘭	文大付属長野高校３年	41m26
	カヌー	少年男子	ﾌﾗｯﾄｳｫｰﾀｰ　カヤックシングル　500m	梅香　正徳	犀峡高校２年	2分２秒093
	カヌー	少年男子	ﾌﾗｯﾄｳｫｰﾀｰ　カヤックシングル　200m	梅香　正徳	犀峡高校２年	43秒224
	自転車	少年男子	（トラック）ケイリン	長幅　亮太	松本工業高校２年	

第63回（平成20年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	少年男子	スピード1500m	山中　大地	長野工業高等専門学校２年	1'51"43
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	1'19"60
	スケート	少年男子	スピード1000m	原　　宏彰	佐久長聖高校３年	1'13"78
	スケート	成年女子	スピード3000m	名取　英理	山梨学院大学４年	4'05"54
	スケート	少年女子	スピード2000mリレー	牛山　千種	東海大三高校２年	2'41"91
				清水　仁美	岡谷南高校１年	
				清水　優香	東海大三高校２年	
				清水　玲香	東海大三高校３年	
	スケート	成年女子	スピード2000mリレー	武井　陽子	日本体育大学３年	2'40"63
				小松　美樹	日本体育大学３年	
				熊谷　恵美	セントラルフィットネスクラブ松本店	
				加治木　彩	八幡屋礒五郎	
	スケート	成年女子	ショート3000mリレー	小沢　　幸	ソーデナガノ	4'37"910
				酒井　智美	筑波大学４年	
				小口　絵理	日本体育大学２年	
				飯塚　容子	㈱イズミテクノ	
	スケート	少年男子	スピード2000mリレー	小林　拓斗	岡谷南高校２年	2'26"47
				武井　博史	上伊那農業高校３年	
				中村　健斗	東海大三高校１年	
				原　　宏彰	佐久長聖高校３年	
２位	スケート	少年男子	スピード10000m	小林　成光	上伊那農業高校３年	13'18"97
	スケート	少年女子	スピード1500m	小島　早織	佐久長聖高校２年	2'09"64
	スケート	少年男子	スピード5000m	小林　成光	上伊那農業高校３年	6'34"74
	スケート	成年女子	ショート500m	小沢　　幸	ソーデナガノ	46"328
	スケート	成年男子	ショート500m	古屋　憲吾	早稲田大学２年	43"916
	スケート	成年男子	ショート5000mリレー	吉沢　純平	とらふぐ亭	7'11"423
				伴野　清貴	伴野鉄工	
				古屋　憲吾	早稲田大学２年	
				小松　翔太	神奈川大学１年	
	スケート	成年男子	スピード2000mリレー	小松　洋人	日本体育大学４年	2'24"87
				関　真太郎	日本大学１年	
				安田　直樹	エクスサンエス	
				上條　有司	日本体育大学３年	
３位	スケート	少年女子	スピード500m	清水　仁美	岡谷南高校１年	42"26
	スケート	成年女子	スピード500m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	40"62
	スケート	少年男子	スピード500m	小林　拓斗	岡谷南高校２年	37"18
	スケート	成年女子	ショート1000m	小沢　　幸	ソーデナガノ	1'36"422
	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日本体育大学３年	1'19"03
	スケート	少年女子	スピード3000m	小島　早織	佐久長聖高校２年	4'15"64
４位	スケート	成年女子	スピード500m	武井　陽子	日本体育大学３年	40"88
	スケート	少年男子	スピード500m	原　　宏彰	佐久長聖高校３年	38"38
	スケート	成年男子	スピード1500m	安田　直樹	エクスサンエス	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	名取　英理	山梨学院大学４年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　玲香	東海大三高校３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	牛山　千種	東海大三高校２年	4'23"76
	スケート	少年男子	スピード5000m	山中　大地	長野工業高等専門学校２年	6'59"72

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	スケート	少年女子	スピード500m	清水　玲香	東海大三高校３年	51"61
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　仁美	岡谷南高校１年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード3000m	小松　美樹	日本体育大学３年	4'16"28
	スケート	成年男子	スピード5000m	安田　直樹	エクスサンエス	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート500m	酒井　智美	筑波大学４年	47"402
	スケート	成年男子	ショート500m	吉沢　純平	とらふぐ亭	44"005
	アイスホッケー	少年男子				
６位	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日本体育大学３年	37"31
	スケート	少年女子	スピード1500m	牛山　千種	東海大三高校２年	タイムなし
	スケート	成年女子	ショート1000m	酒井　智美	筑波大学４年	1'44"302
	スケート	成年女子	スピード1000m	熊谷　恵美	ｾﾝﾄﾗﾙﾌｨｯﾄﾈｽｸﾗﾌﾞ松本店	タイムなし
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　悠希	小諸商業高校２年	49"580
７位	スケート	少年男子	スピード10000m	小林　　忍	小海高校２年	タイムなし
	スケート	成年男子	スピード5000m	由井　拓実	早稲田大学１年	タイムなし
８位	スケート	成年男子	スピード500m	小松　洋人	日本体育大学４年	49"40
	スケート	少年男子	スピード1500m	武井　博史	上伊那農業高校３年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	小松　美樹	日本体育大学３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1000m	武井　博史	上伊那農業高校３年	タイムなし
	アイスホッケー	成年男子				

第63回（平成20年）冬季大会　スキー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	斉藤　　亮	飯山市スキークラブ	28'07"5
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	野沢温泉スキークラブ	1'00"80
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品スキー部	217
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	森　　敏	野沢温泉スキークラブ	jump 188.5 CC 14'44"3
２位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	中野実業高校２年	205
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	山田　大起	北野建設㈱	213.5
	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	富井　剛志	野沢温泉スキークラブ	1'07"07
	スキー	女子	クロスカントリー　４×フリー５㎞			1°04'00"8
				平瀬　友里	飯山南高校３年	16'31"0
				平田　奈央	飯山北高校２年	15'41"9
				篠原　舞香	中京大学３年	15'59"0
				下平恵理華	専修大学３年	15'48"7
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	渡部　暁斗	早稲田大学１年	jump 189.5 CC 41'20"3
	スキー	少年男子	コンバインド	渡部　善斗	白馬高校１年	jump 216.5 CC 28'12"1
３位	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	下平恵理華	専修大学３年	16'49"3
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	竹田　征吾	㈱小賀坂スキー製作所	1'01"32
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	佐藤由加里	志賀高原スキークラブ	1'07"59
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	宮本　康希	早稲田大学３年	jump 210.5 CC 43'06"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー　４×フリー10㎞			1°48'01"2
				太田　光平	白馬高校２年	26'44"4
				栗山　雄大	白馬高校２年	27'22"4
				太田　圭祐	白馬高校２年	26'47"3

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				角田　　稜	白馬高校２年	27'07"0
４位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	平田　奈央	飯山北高校２年	16'56"8
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	平林　秀太	大町高校３年	191
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	山本真矢香	白馬高校３年	1'06"04
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×フリー10㎞			146'17"2
				山田　琢也	JF-Design	26'40"9
				山室　　忠	飯山市スキークラブ	27'06"7
				斉藤　　亮	飯山市スキークラブ	25'18"0
				野口　誉継	信州大学４年	27'11"5
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	清水　　大	飯山南高校３年	59"60
５位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'08"08
６位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	太田　圭祐	白馬高校２年	29'22"5
	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	篠原　舞香	中京大学３年	16'58"3
	スキー	成年女子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	野口　麿莉	飯山第三中学校教員	18'21"5
	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'03"65
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山田　琢也	JF-Design	29'36"1
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	金井　伸悟	㈲東郷堂	jump 137.0 CC 16'26"6
	スキー	少年男子	コンバインド	片桐　慧太	下高井農林高校２年	jump 174.5 CC 27'45"0
７位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	角田　　稜	白馬高校２年	29'23"5
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	畔上　大地	NTT東日本長野	29'37"8
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	渡部　善斗	白馬高校１年	179.5
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	森　　敏	野沢温泉スキークラブ	166
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	清水　　将	飯山高校１年	1'00"58
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	小泉　　敦	㈱トーエネック	jump 97.5 CC 15'38"6
８位	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	飯山市スキークラブ	28'49"6
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	宮本　康希	早稲田大学３年	188.5

第64回（平成21年）本大会　　開催地：新潟県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	カヌー	成年男子	カヌースラローム・カヤックシングル15ゲート	矢澤　一輝	駿河台大学３年	99.07点
	カヌー	成年男子	カヌースラローム・カヤックシングル25ゲート	矢澤　一輝	駿河台大学３年	104.23点
	陸上競技	少年男子共通	棒高跳	松澤ジアン成治	高遠高校３年	5m00
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大学４年	減点0(20秒53)
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	早稲田大学４年	減点0(1分00秒00)
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	飯綱ライディングパーク	減点0(1分８秒52)
	山岳	少年男子	ボルダリング	中嶋　　渉	松本深志高校３年	
				中嶋　　徹	松本深志高校１年	
２位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	山梨学院大学４年	40分40秒00
	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	宮澤　英之	佐久長聖高校３年	21分９秒88
	陸上競技	少年男子Ｂ	3000m	両角　　駿	佐久長聖高校１年	8分20秒90
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	増田真七海	上田高校１年	1分７秒42
	弓道	成年男子	遠的	亀岡　英司	帝産ロッヂ	
				志村　　仁	山二発條㈱	
				市川　隆光	野村ユニソン㈱	
３位	陸上競技	男子共通	400mリレー	塚原　直貴	富士通㈱	40秒52

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				小西　志朗	早稲田大学３年	
				深沢　宏之	松代高校２年	
				内堀　直也	岩村田高校１年	
	水泳	少年女子	（シンクロ）デュエット	箱山　愛香	長野日大高校３年	79.25点
						テクニカル 39.000
				楜澤みなみ	長野清泉女学院高校２年	フリー 40.250
	カヌー	少年男子	カヌースプリント・カヤックシングル（200m）	梅香　正徳	犀峡高校３年	41秒557
	陸上競技	少年男子共通	800m	川元　　奨	北佐久農業高校２年	1分51秒31
	バレーボール	成年女子	９人制		セイコーエプソン㈱塩尻事業所	
	レスリング	成年男子	フリースタイル55kg級	富岡　直希	日本体育大学研究員	
	馬術	成年男子	ダービー	金本　行誠	早稲田大学３年	減点8(1分42秒49)
	馬術	少年	二段階障害飛越	増田真七海	上田高校１年	減点0(27秒24)
	山岳	少年男子	リード	中嶋　　渉	松本深志高校３年	
				中嶋　　徹	松本深志高校１年	
４位	陸上競技	少年女子共通	走幅跳	宮坂　　楓	東海大三高校２年	5m69
	相撲	成年男子	団体	鈴木　章広	東洋大学	
				中田　明斗	木曽養護学校寄宿舎指導員	
				横山　雄大	横山工業	
	馬術	成年男子	トップスコア	小林　義彦	飯綱ライディングパーク	990点
	馬術	少年	ダービー	土岐知恵美	白馬高校２年	減点4(1分44秒93)
	クレー射撃	成年男子	スキート個人	塚田　政光	大和通商	92点
	ボウリング	少年男子	個人	矢花　秀征	長野高校１年	9ゲーム1990点
５位	サッカー	成年男子			長野選抜	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル96kg級	土田　崇英	拓殖大学２年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル55kg級	松沢　力也	北佐久農業高校２年	
	相撲	少年男子	個人	大道　久司	木曽青峰高校２年	
	馬術	少年	自由演技馬場馬術	等々力美帆	穂高商業高校３年	60.150（得点率）
	ソフトボール	成年女子			大和電機工業㈱	
	バドミントン	少年男子		奥原　大生	大町高校３年	
				藤巻　嵩寛	大町北高校３年	
	弓道	成年男子	近的	亀岡　英司	帝産ロッヂ	
				志村　　仁	山二発條㈱	
				市川　隆光	野村ユニソン㈱	
	弓道	成年女子	遠的	中村　美穂	㈱ジェルモ	
				栗林　　薫	日本イーライリリー㈱	
				高山　寿恵	家事手伝い	
	クレー射撃	成年	スキート団体	吉原　宣親	訪問介護サービスからだ堂	
				塚田　政光	大和通商	
				布野　康介	㈱布野恵だるま店	
６位	陸上競技	成年女子	走幅跳	三澤　涼子	スポーツプラザヤマトヤ	5m97
	陸上競技	少年男子Ａ	10000m	大迫　　傑	佐久長聖高校３年	28分57秒00
	陸上競技	少年男子Ａ	三段跳	深沢　宏之	松代高校２年	14m80
	テニス	少年女子		渡邉　　彩	松商学園高校３年	
				牧野　菜摘	宮田中学校３年	
	体操	少年女子	新体操	笠原　基衣	伊那西高校３年	総合得点 41.9812
				百瀬　　礼	伊那西高校３年	個人得点 19.9812
				矢崎ほの香	伊那西高校１年	団体得点 22.000
				中澤　　歩	伊那西高校３年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位				湯田　愛理	松商学園高校２年	
	馬術	成年男子	六段障害飛越	金本　行誠	早稲田大学３年	6位タイ　減点4　飛越2
	馬術	少年	リレー	土岐知恵美	白馬高校２年	1分１秒40
				増田真七海	上田高校１年	
	フェンシング	成年男子	エペ	河西　遼太	信州大学３年	
				唐澤　　司	明治大学３年	
				大槻　知也	日本大学３年	
	ライフル射撃	成年男子	50mライフル伏射（60発、決勝10発）	林　　巧	㈱山ノ内流通センター	687.3本戦586決勝101.3
	ライフル射撃	成年男子	50mライフル膝射（20発）	林　　巧	㈱山ノ内流通センター	186点
７位	陸上競技	成年男子	走幅跳	佐藤　賢一	明科高校教員	7m35
	陸上競技	少年女子共通	円盤投	中島　未歩	丸子修学館高校２年	39m22
	陸上競技	少年女子A	800m	中田　倭菜	長野吉田高校３年	2分９秒64
	馬術	少年	馬場馬術	等々力美帆	穂高商業高校３年	58.200（得点率）
	馬術	少年	団体障害飛越	篠原　　悟	中野西高校３年	
				清水　彩花	長野清泉女学院高校２年	
	アーチェリー	成年男子	団体	宮原　　雅	安井インターテック㈱	
				宮下　朋幸	同志社大学４年	
				井原　一厳	カレッジオブキャリア共和校	
８位	水泳	成年女子	200m個人メドレー	小松原彩香	中京大学１年	2分16秒18
	水泳	少年男子A	50m自由形	松澤　直哉	中野西高校２年	24秒09
	カヌー	少年男子	カヌースプリント・カヤックシングル（450m）	梅香　正徳	犀峡高校３年	1分57秒415
	陸上競技	成年女子	10000m競歩	大和　千秋	中部学院大学１年	47分19秒50

第64回（平成21年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	少年男子	スピード1500m	山中　大地	長野工業高等専門学校３年	2'03"10
	スケート	成年女子	スピード1000m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	1'23"90
	スケート	成年女子	スピード2000m　リレー	武井　陽子	日本体育大学４年	2'44"53
				加治木　彩	八幡屋礒五郎	
				清水　玲香	日本体育大学１年	
				仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	
	スケート	成年女子	ショート3000m　リレー	小沢　　幸	㈱ソーデナガノ	4'48"609
				小口　絵理	日本体育大学３年	
				飯塚　容子	㈱イズミテクノ	
				北村　千景	岡谷東高校教員	
２位	スケート	少年女子	スピード500m	牛山　千種	東海大三高校３年	40"76
	スケート	少年男子	スピード1500m	石原　大暉	佐久長聖高校２年	2'04"70
	スケート	成年男子	ショート1000m	吉澤　純平	㈱とらふぐ亭	1'31"625
	スケート	少年男子	スピード1000m	中村　健斗	東海大三高校２年	1'19"68
	スケート	少年男子	スピード5000m	石原　大暉	佐久長聖高校２年	7'15"68
	スケート	成年男子	スピード5000m	安田　直樹	エスクサンエス	6'55"19
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　仁美	岡谷南高校２年	1'28"30
	スケート	成年男子	ショート500m	吉澤　純平	㈱とらふぐ亭	43"977
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　萌水	野沢北高校１年	47"697
	スケート	成年男子	スピード2000m　リレー	関　真太郎	日本大学３年	2'30"44
				斉川　史徳	信州大学大学院２年	
				金子健太郎	東洋大学３年	
				上條　有司	日本体育大学４年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スケート	少年女子	スピード2000m　リレー	清水　優香	東海大三高校３年	2'47"79
				清水　仁美	岡谷南高校２年	
				小島　早織	佐久長聖高校３年	
				牛山　千種	東海大三高校３年	
３位	スケート	少年男子	スピード10000m	花岡　宏大	東海大三高校２年	13'47"43
	スケート	少年男子	スピード500m	小林　拓斗	岡谷南高校３年	38"04
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　萌水	野沢北高校１年	1'38"870
	スケート	成年女子	スピード3000m	太田未奈美	山梨学院大学２年	4'30"80
	スケート	少年男子	スピード2000m　リレー	中村　健斗	東海大三高校２年	2'33"58
				小林　拓斗	岡谷南高校３年	
				中嶋　宣成	佐久長聖高校３年	
				山中　大地	長野工業高等専門学校３年	
４位	スケート	少年男子	スピード10000m	小林　　忍	小海高校２年	(13'47"50)
	スケート	少年女子	スピード500m	清水　優香	東海大三高校３年	42"33
	スケート	成年女子	スピード500m	清水　玲香	日本体育大学１年	41"55
	スケート	少年男子	スピード500m	中村　健斗	東海大三高校２年	38"08
	スケート	成年女子	スピード1500m	加治木　彩	八幡屋礒五郎	2'16"72
	スケート	成年男子	スピード5000m	由井　拓実	早稲田大学２年	7'18"75
５位	スケート	少年女子	スピード1000m	牛山　千種	東海大三高校３年	(1'28"03)
	スケート	少年女子	スピード3000m	小島　早織	佐久長聖高校３年	(4'47"29)
	スケート	成年女子	スピード1000m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	(1'25"50)
	スケート	成年女子	スピード3000m	小松　美樹	日本体育大学４年	4'54"88
６位	スケート	成年男子	スピード1500m	安田　直樹	エスクサンエス	(2'04"00)
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　悠希	小諸商業高校３年	1'43"657
	スケート	成年女子	ショート1000m	小沢　　幸	㈱ソーデナガノ	1'47"132
	スケート	成年男子	ショート5000m　リレー	伴野　清貴	帝産ロッヂ	7'36"366
				古屋　憲吾	早稲田大学３年	
				小松　翔太	神奈川大学２年	
				吉澤　純平	㈱とらふぐ亭	
７位	スケート	少年女子	スピード1500m	小島　早織	佐久長聖高校３年	(2'21"76)
	スケート	成年女子	ショート1000m	小口　絵理	日本体育大学３年	1'47"942
８位	スケート	成年女子	スピード500m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	56"53
	スケート	成年女子	ショート500m	小沢　　幸	㈱ソーデナガノ	48"546

第64回（平成21年）冬季大会　スキー　　開催地：新潟県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	富井　正一	長野市スキークラブ	1'06"99
	スキー	少年男子	コンバインド	渡部　善斗	白馬高校２年	jump 180.0
						CC 29'11"0
３位	スキー	成年女子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	篠原　文香	ＭＡＸスポーツクラブ	19'16" 3
	スキー	少年男子	クロスカントリー　4×10㎞			1°46'51"2
				栗山　雄大	白馬高校３年	26'29"3
				ﾚﾝﾃｨﾝｸﾞ陽	飯山北高校３年	26'06"8
				角田　　稜	白馬高校３年	26'52"5
				太田　圭祐	白馬高校３年	27'22"5
４位	スキー	女子	クロスカントリー　4×フリー５㎞			1°02'31"3
				吉越　友美	飯山北高校３年	15'27"0
				杉山　　茜	飯山高校２年	15'34"5

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位				下平恵理華	専修大学４年	15'25"8
				篠原　舞香	中京大学４年	16'03"8
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'10"43
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	山田　大起	北野建設スキー部	83.5
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	中野実業高校３年	106
５位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	良波　拓夢	中央大学４年	1'06"15
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	富井　剛志	野沢温泉スキークラブ	1'07"47
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	野沢温泉スキークラブ	1'10"80
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	佐藤由加里	志賀高原スキークラブ	1'10"29
６位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	吉越　友美	飯山北高校３年	18'35"0
	スキー	少年男子	コンバインド	富井　皓大	飯山南高校３年	jump 143.0 CC 28'13"3
	スキー	成年男子	クロスカントリー　4×10㎞			1°50'05"2
				太田　一平	早稲田大学３年	27'04"1
				成瀬　開地	日本大学２年	27'33"2
				山室　　忠	飯山市スキークラブ	28'11"7
				関　　真二	中央大学３年	27'16"1
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	宮本　康希	早稲田大学４年	78
７位	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	成瀬　開地	日本大学２年	28'17"0
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	飯山市スキークラブ	28'20"9
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	清水　寛仁	アスザック㈱	16'41"1
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	下平恵理華	専修大学４年	18'49"4
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'11"09
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	波多野真弓	小海高校３年	1'08"44
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	金井　伸悟	㈲東郷堂	jump 157.5 CC 16'10"6
	スキー	成年男子A	コンバインド	田中　耕介	㈲江口建設	jump 163.5 CC 43'12"1
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	渡部　善斗	白馬高校２年	99.0
	スキー	成年	バイアスロン　リレー競技（競技銃）			1:49'02"5
				湯本　隆幸	オリオン機械㈱	32'37"1
				滝沢　憲仁	エムケー精工㈱	38'01"0
				畔上　　直	野沢温泉スキー場	38'24"4
８位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	杉山　　茜	飯山高校２年	18'47"1
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	小泉　　敦	㈱トーエネック	jump 156.5 CC 16'29"2
	スキー	少年男子	コンバインド	内田　貴輝	飯山北高校２年	jump 150.0 CC 28'54"1
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	西森　享平	丸善食品スキー部	80.0
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	片桐　慧太	下高井農林高校３年	97.5

第65回（平成22年）本大会　　開催地：千葉県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	ボート	少年女子	シングルスカル	藤森　理恵	東海大三高校３年	3分52秒16
	陸上競技	少年男子A	走幅跳	嶺村　鴻汰	大町高校３年	7m61
	陸上競技	少年男子共通	800m	川元　　奨	北佐久農業高校３年	1分51秒41
	レスリング	成年男子	フリースタイル55kg級	富岡　直希	NEWS-DER1	
	弓道	成年男子	遠的	志村	山二発條㈱	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				市川 平澤	野村ユニソン㈱ 日本電産㈱	
２位	陸上競技	男子共通	400mR	小西 原 樋口 塚原	早大４年 高遠高３年 梓川中３年 富士通㈱	40秒17
	レスリング	少年男子	フリースタイル84kg級	雫田　真最	小諸高校２年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル55kg級	松澤　力也	北佐久農業高校３年	
	馬術	少年	リレー	増田 清水	上田高２年 長野清泉高３年	1分 3秒60
３位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ＡＬＳＯＫ綜合警備保障㈱	40分32秒29
	陸上競技	少年女子Ａ	走幅跳	宮坂　　楓	東海大三高校３年	6m05
	陸上競技	少年女子共通	円盤投	中島　未歩	丸子修学館高校３年	44m69
	バレーボール	少年男子			創造学園大附属高校	
	レスリング	成年男子	フリースタイル74kg級	高橋　龍太	朝霞自衛隊	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル96kg級	土田　崇英	拓殖大学３年	
	相撲	少年男子	個人	大道　久司	木曽青峰高校３年	
	馬術	成年男子	スピードアンドハンディネス	小林　義彦	飯綱ライディングクラブ	1分20秒53
	馬術	成年女子	標準障害飛越	中村　陽子	ロッジ山の音	減点0(1分 5秒89)
	馬術	少年	団体障害飛越	清水 土岐	長野清泉高３年 白馬高３年	
	弓道	成年女子	遠的	高山 栗林 山田	なかひら農場 日本イーライリリー㈱ 上伊那薬剤師会	
	クレー射撃	成年	トラップ個人	大内　智喜	ログ･コテージ霧ヶ峰	89点
	ボウリング	成年女子	個人	浅田　梨奈	日本女子体育大学２年	1,861点
４位	陸上競技	成年女子	棒高跳	前田　朋子	ホーメックス㈱	3m95
	バレーボール	成年女子	９人制		セイコーエプソン㈱塩尻事業所	
	クレー射撃	成年	トラップ	大内 遠山 矢澤	ログ・コテージ霧ケ峰 県林業公社 ㈱矢澤興産	251点
５位	水泳	少年女子B	自由形100m	佐藤　　綾	長野東高校１年	57秒74
	ボート	成年男子	ダブルスカル	長崎 牛山	明治安田生命 ㈱細川商店	3分14秒90
	陸上競技	成年女子	10000m競歩	大和　千秋	中部学院大学２年	46分35秒55
	陸上競技	少年女子B	100mハードル	瀧澤　　彩	長野高校１年	14秒31
	バスケットボール	少年男子			長野県選抜	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル66kg級	竹花　良二	韓国屋キムチ店	
	レスリング	少年男子	フリースタイル66kg級	長崎　宏樹	上田西高校３年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル96kg級	竹内　　徹	上田西高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル60kg級	尾台　寛史	北佐久農業高校３年	
	卓球	成年男子		田中 桑原 高木	岡谷市役所 岡谷市役所 長野県信連	
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	増田真七海	上田高校２年	1分 5秒56
	空手道	少年男子	形	保科　悠樹	松商学園高校２年	
６位	水泳	成年女子	個人メドレー200m	小松原彩香	中京大学２年	2分17秒43
	水泳	少年男子A	自由形50m	伊澤　賢治	上伊那農業高校３年	24秒01

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	水泳	少年女子	飛板飛込	畔上ゆみか	長野吉田高校１年	221.15点
	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	小林　純平	佐久長聖高校３年	21分17秒99
	体操	少年女子	新体操		長野県選抜	43.9437点
	山岳	少年男子	ボルダリング	中嶋 小林	松本深志高２年 長野俊英高１年	
	クレー射撃	成年	トラップ個人	矢澤　秀宗	㈱矢澤興産	89点
７位	陸上競技	成年男子	走幅跳	佐藤　賢一	明科高校教員	7m61
	陸上競技	少年女子共通	棒高跳	伊澤　　楓	高遠高校２年	3m30
	陸上競技	少年女子共通	走高跳	有賀　楓子	伊那北高校２年	1m66
８位	陸上競技	少年女子Ａ	ハンマー投	中島　未歩	丸子修学館高校３年	44m45
	テニス	少年男子		諱 西脇	松商学園高校１年 松商学園高校１年	
	ライフル射撃	成年男子	50mライフル膝射20発	林　　巧	㈱山ノ内流通センター	185点
	クレー射撃	成年	スキート個人	塚田　政光	大和通商	87点
	ボウリング	成年女子	団体（2人チーム）	浅田 武舎	日本女子体育大２年 ミヨシ精機工業㈱	3,495点

第65回（平成22年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード500m	清水　玲香	日本体育大学２年	40"52
	スケート	少年男子	スピード500m	中村　健斗	東海大第三高校３年	38"54
	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	37"83
	スケート	成年男子	スピード1500m	金子健太郎	東洋大学４年	2'02"09
	スケート	成年女子	スピード1000m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	1'20"86
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　萌水	野沢北高校２年	47"500
２位	スケート	成年女子	スピード500m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	40"59
	スケート	少年男子	スピード1500m	石原　大暉	佐久長聖高校３年	1'59"58
	スケート	成年男子	スピード1500m	山中　大地	長野工業高等専門学校４年	(2'02"08)
	スケート	成年女子	スピード1500m	太田未奈美	山梨学院大学３年	2'09"93
	スケート	成年男子	ショート1000m	古屋　憲吾	早稲田大学４年	1'38"256
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　萌水	野沢北高校２年	1'41"018
	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	1'13"06
	スケート	少年女子	スピード2000m　リレー	宮澤　里沙 平岡　愛莉 伊藤さゆり 清水　仁美	市立長野高校２年 東海大三高校３年 東海大三高校２年 岡谷南高校３年	2'49"95
	スケート	成年男子	スピード2000m　リレー	関　真太郎 斉川　史徳 山中　大地 上條　有司	日本大学４年 信州大学大学院 長野工業高等専門学校４年 日本電産サンキョー㈱	2'28"27
	スケート	少年女子	ショート500m	辻中　杏奈	岡谷南高校１年	48"170
３位	スケート	少年男子	スピード10000m	由井　大陽	佐久長聖高校２年	14'26"43
	スケート	少年女子	スピード500m	宮澤　里沙	市立長野高校２年	43"11
	スケート	少年女子	スピード1000m	宮澤　里沙	市立長野高校２年	(2'02"23)
	スケート	少年男子	スピード1000m	中村　健斗	東海大第三高校３年	1'19"11
	スケート	少年男子	スピード2000m　リレー	中村　健斗 青木　唯人 寺島　翔平	東海大三高校３年 市立長野高校１年 佐久長聖高校２年	2'33"06

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				石原　大暉	佐久長聖高校３年	
	スケート	成年女子	ショート3000m　リレー	小口　絵理 菊池　悠希 小沢　　幸 飯塚　容子	日本体育大学４年 立教大学１年 ソーデナガノ ㈱イズミテクノ	4'41"406
４位	スケート	少年男子	スピード10000m	篠原　聖貴	小海高校３年	(14'26"59)
	スケート	少年女子	スピード500m	清水　仁美	岡谷南高校３年	43"13
	スケート	少年女子	スピード1000m	清水　仁美	岡谷南高校３年	(2'02"34)
	スケート	少年男子	スピード5000m	花岡　宏大	東海大第三高校３年	7'06"98
	スケート	成年女子	スピード2000m　リレー	清水　玲香 太田未奈美 小島　早織 仁科有加那	日本体育大学２年 山梨学院大学３年 山梨学院大学１年 日本電産サンキョー㈱	2'56"56
	スケート	少年女子	ショート1000m	辻中　杏奈	岡谷南高校１年	1'43"014
５位	スケート	少年女子	スピード3000m	小林　真実	岡谷南高校１年	4'25"68
	スケート	成年女子	スピード3000m	坂本亜由美	大東文化大学１年	4'39"50
	スケート	少年男子	スピード5000m	篠原　聖貴	小海高校３年	7'07"69
	スケート	少年男子	アイスホッケー		長野選抜	５　位
６位	スケート	少年男子	スピード500m	寺島　翔平	佐久長聖高校２年	38"73
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　悠希	立教大学１年	1'45"853
	スケート	少年男子	フィギュア	中村　　智 野口　博一	長野東高校２年 諏訪清陵高校３年	中村SP45.05, FS83.77　11位 野口SP33.03, FS79.21 14位 個人順位計25
	アイスホッケー	成年男子	アイスホッケー		長野選抜	
７位	スケート	少年女子	スピード1500m	小林　真実	岡谷南高校１年	(2'24"78)
	スケート	少年女子	スピード3000m	小金澤美沙	佐久長聖高校２年	(4'37"68)
	スケート	成年女子	スピード3000m	小島　早織	山梨学院大学１年	(4'22"08)
	スケート	少年男子	スピード1000m	石原　大暉	佐久長聖高校３年	(1'14"85)
	スケート	成年男子	ショート5000m　リレー	小松　翔太 古屋　憲吾 伴野　清貴 小林　拓斗	神奈川大学３年 早稲田大学４年 帝産ロッヂ 専修大学１年	7'47"120
８位	スケート	少年女子	スピード1500m	小林　仁子	岡谷南高校３年	(2'26"83)

第65回（平成22年）冬季大会　スキー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	野沢温泉スキークラブ	1'14"84
	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'14"04
	スキー	少年男子	コンバインド	渡部　善斗	白馬高校３年	jump 129.5 CC 26'11"5
２位	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	松本　勲人	スキースターズ長野	1'13"08
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設㈱	124
	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'16"19
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	川浦あすか	文大附属長野高校１年	1'15"01
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	富井　皓大	近畿大学１年	jump 94.5 CC 24'48"1

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	成年女子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	篠原　文香	ＭＡＸスポーツクラブ	16'59"7
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:32'51"5
				栗山　雄大	専修大学１年	23'15"9
				レンティング陽	早稲田大学１年	22'35"5
				山室　　忠	スキースターズ長野	23'28"8
				柏原　暢仁	早稲田大学３年	23'31"2
４位	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	清水　　大	中央大学２年	1'13"84
	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	レンティング陽	早稲田大学１年	27'45"8
５位	スキー	成年女子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	野口　麿莉	飯山第三中学校教員	17'50"4
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	町田　美紀	中野立志館高校３年	16'31"6
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	渡部　善斗	白馬高校３年	93
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	清水　　将	飯山高校３年	1'09"75
	スキー	少年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:38'21"3
				山本　　航	飯山高校３年	23'57"0
				栗山　大貴	白馬高校１年	24'40"0
				立花　　遼	飯山高校３年	24'40"6
				岡田　瑞生	飯山高校１年	25'03"6
６位	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	山室　　忠	スキースターズ長野	27'35"6
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	杉山　　茜	飯山高校３年	16'33"0
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	川端　佑沙	日本大学３年	1'17"01
	スキー	女子	クロスカントリー　４×フリー５㎞			57'18"3
				髙木　毬衣	飯山高校１年	14'13"6
				杉山　　茜	飯山高校３年	13'32"0
				町田　美紀	中野立志館高校３年	14'11"2
				半藤　成実	飯山高校１年	15'21"3
７位	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'16"65
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	清水　香帆	専修大学２年	1'17"10
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	1'20"53
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	小山　　祐	早稲田大学３年	jump 85.5
						CC 24'49"2
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	小泉　　敦	㈱トーエネック	jump 72.5
						CC 15'17"9
８位	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	森　　敏	野沢温泉スキークラブ	jump 76.5
						CC 16'12"1
９位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	立花　　遼	飯山高校３年	27'31"2☆
11位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	平川　拓矢	白馬高校３年	80.5☆

第66回（平成23年）本大会　　開催地：山口県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ALSOK綜合警備保障㈱	40分13秒62
	馬術	少年	二段階障害飛越	増田真七海	上田高校３年	減点0(25秒64)
	カヌー	成年男子	カヌースラローム カヤック シングル（15ゲート）	矢澤　一輝	山田記念朝日病院	75.94点
	ボウリング	成年男子	個人戦	野崎　新市	KYB-YS㈱	2043点
２位	レスリング	成年男子	フリースタイル55kg級	富岡　直希	NEWS-DER Ⅰ	
	カヌー	成年男子	カヌースラローム　カヤック　シングル（25ゲート）	矢澤　一輝	山田記念朝日病院	80.62点
	ボウリング	成年男子	団体戦（４人）	中島	㈲太平商事	4806点
				関	昭和電機産業㈱	
				竹下	㈱長野汎用計器製作所	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				野崎	KYB-YS㈱	
３位	陸上	少年男子Ａ	400mハードル	中野　直哉	長野吉田高校２年	51秒73
	陸上	少年女子Ａ	400m	山本　　瑞	小諸高校３年	55秒55
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル120kg級	森角　裕介	小諸高校教員	
	レスリング	少年男子	フリースタイル84kg級	雫田　真最	小諸高校３年	
４位	陸上	少年男子Ａ	5000m	両角　　駿	佐久長聖高校３年	14分７秒62
	陸上	少年女子共通	800m	山本　　瑞	小諸高校３年	2分９秒68
	自転車	成年男子	ケイリン	赤澤　　健	信州大学３年	
	山岳	少年男子	リード	中嶋 小林	松本深志高校３年 長野俊英高校２年	
５位	ボート	少年男子	ダブルスカル	中世古 小林	岡谷南高校３年 岡谷南高校３年	3分20秒14
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	得点率63.200
	弓道	成年男子	近的	志村 市川 平澤	山二発條㈱ 諏訪市役所 日本電産㈱	
	ライフル射撃	成年男子	50mライフル膝射20発	林　　巧	㈱山ノ内流通センター	186点
	山岳	少年男子	ボルダリング	中嶋 小林	松本深志高校３年 長野俊英高校２年	
	水泳（競泳）	成年男子	バタフライ100m	原　　翔太	中京大学４年	53秒10
	レスリング	成年男子	フリースタイル84kg級	小林　奎太	日本体育大学２年	
	剣道	成年女子		澤田 須坂 南島	横沢税理士事務所 NTT東日本長野支店 城西国際大学３年	
	相撲	成年男子	個人	大道　久司	東洋大学１年	
６位	陸上	少年男子Ｂ	3000m	髙森　建吾	佐久長聖高校１年	8分25秒09
	水泳（競泳）	少年女子A	自由形100m	佐藤　　綾	長野東高校２年	56秒66
	テニス	少年女子		牧野 中原	松商学園高校２年 地球環境高校３年	
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1分１秒95
	フェンシング	成年男子	エペ	大野 河西 白鳥	長野クラブ 長野クラブ 朝日大学１年	
	弓道	少年男子	遠的	金子 林 前田	上田高校３年 木曽青峰高校３年 豊科高校３年	
７位	水泳（競泳）	成年女子	個人メドレー200m	小松原彩香	中京大学３年	2分16秒15
	水泳（飛込）	少年女子	飛板飛込	畔上ゆみか	長野吉田高校２年	238.90点
	ボート	成年男子	ダブルスカル	長崎 牛山	明治安田生命保険相互会社 ㈱細川商店	3分14秒38
	陸上	成年男子	棒高跳	松澤ジアン成治	中京大学２年	5m20
	陸上	成年女子	1500m	峰村いずみ	中央大学３年	4分20秒38
	陸上	少年男子共通	5000m競歩	北原　　亮	長野高校３年	22分２秒56
	テニス	少年男子		諱 羽倉	松商学園高校２年 松商学園高校３年	
	新体操	少年女子	団体	長野県選抜		43.6562点
	馬術	成年男子	スピードアンドハンディネス	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	1分16秒99
	馬術	成年男子	馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	得点率58.131

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	馬術	成年女子	ダービー	中村みどり	ロッジ山の音	減点4(1分34秒10)
	馬術	成年女子	馬場馬術	藤森　祐子	あづみの乗馬苑	得点率59.131
	アーチェリー	少年女子	団体	吉田/神林 橘田	篠ノ井高校2年/長野南高校3年 篠ノ井高校２年	
	ボウリング	少年女子	個人戦	河村　実穂	明科高校３年	1634点
８位	ボート	少年女子	シングルスカル	片桐　綾香	岡谷南高校３年	4分13秒33
	陸上	少年男子Ａ	三段跳	中山　昂平	上田東高校２年	14m57
	アーチェリー	成年女子	団体	宮尾/小池 久保	ﾏﾝﾊﾟﾜｰｼﾞｬﾊﾟﾝ㈱/中京大学4年 日本福祉大学２年	
	クレー射撃	トラップ	個人	大内　智喜	ログ･コテージ霧ヶ峰	87点

第66回（平成23年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード500m	神谷衣理那	日本電産サンキョー㈱	41"25
	スケート	成年女子	スピード1500m	小島　早織	山梨学院大学２年	2'06"27
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　萌水	野沢北高校３年	48"344
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　萌水	野沢北高校３年	1'38"615
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗 小林　拓斗 斉川　哲利 上條　有司	日本大学１年 専修大学２年 信州大学大学院２年 日本電産サンキョー㈱	2'26"82
	スケート	成年女子	スピード2000mR	清水　玲香 小林　仁子 太田未奈美 神谷衣理那	日本体育大学３年 信州大学１年 山梨学院大学４年 日本電産サンキョー㈱	2'47"20
２位	スケート	少年男子	スピード5000m	由井　大陽	佐久長聖高校３年	6'49"26
	スケート	少年男子	スピード10000m	由井　大陽	佐久長聖高校３年	15'20"79
	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	37"03
	スケート	少年女子	スピード500m	宮澤　里沙	市立長野高校３年	41"49
	スケート	少年女子	スピード2000mR	宮澤　里沙 伊藤さゆり 新井　　縁 辻中　杏奈	市立長野高校３年 東海大学付属第三高校３年 岡谷南高校２年 岡谷南高校２年	3'00"86
	スケート	成年女子	ショート3000mR	小澤　美夏 菊池　悠希 小口　絵理 小澤　　幸	阪南大学職員 立教大学２年 会社員 ㈱ソーデナガノ	4'44"835
３位	スケート	少年女子	スピード1000m	宮澤　里沙	市立長野高校３年	1'25"77
	スケート	少年女子	スピード3000m	小林　真実	岡谷南高校２年	4'31"59
４位	スケート	少年男子	スピード500m	青木　唯人	市立長野高校２年	39"85
	スケート	成年男子	スピード1500m	由井　拓実	早稲田大学４年	1'55"42
	スケート	成年男子	スピード5000m	小林　成光	法政大学３年	7'33"08
	スケート	少年女子	スピード500m	辻中　杏奈	岡谷南高校２年	41"91
	スケート	少年女子	スピード1000m	辻中　杏奈	岡谷南高校２年	(1'22"75)
	スケート	成年女子	スピード3000m	小島　早織	山梨学院大学２年	4'26"62
	スケート	少年男子	ショート1000m	山浦　大明	小海高校２年	1'34"137
	スケート	少年男子	スピード2000mR	青木　唯人 奥原　綱希	市立長野高校２年 市立長野高校３年	2'32"58

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位				大槻　貴弘 寺島　翔平	岡谷南高校３年 佐久長聖高校３年	
５位	スケート	少年男子	スピード5000m	大林　昌仁	佐久長聖高校１年	(6'49"06)
	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	(1'12"66)
	スケート	成年女子	スピード1000m	清水　玲香	日本体育大学３年	(1'21"40)
	スケート	少年男子	ショート500m	岩下　　聖	小海高校１年	46"370
	スケート	少年女子	ショート500m	北澤　　彩	岡谷南高校１年	50"949
	スケート	少年女子	ショート1000m	北澤　　彩	岡谷南高校１年	1'45"820
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　悠希	立教大学２年	1'43"453
６位	スケート	少年男子	スピード10000m	大林　昌仁	佐久長聖高校１年	15'53"30
	スケート	少年男子	ショート500m	山浦　大明	小海高校２年	46"841
	スケート	少年男子	ショート1000m	岩下　　聖	小海高校１年	1'34"708
	スケート	成年女子	フィギュア	那須野　光	山梨学院大学１年	SP 43.80 FS 80.11
７位	スケート	少年男子	スピード1000m	青木　唯人	市立長野高校２年	(1'20"41)
	スケート	少年女子	スピード1500m	小金澤美沙	佐久長聖高校３年	(2'46"94)
	スケート	成年女子	スピード1500m	太田未奈美	山梨学院大学４年	2'09"54
	スケート	成年男子	ショート1000m	小松　翔太	神奈川大学４年	1'39"185
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　悠希	立教大学２年	48"169
８位	スケート	少年男子	スピード500m	寺島　翔平	佐久長聖高校３年	59"98
	スケート	少年男子	スピード1500m	由井　　翔	市立長野高校３年	(2'14"03)
	スケート	少年男子	フィギュア	中村　　智 小平　渓介	長野東高校３年 塩尻志学館高校１年	個人　9位 SP47.81/FS83.83 個人　21位 SP31.82/FS48.37

第66回（平成23年）冬季大会　スキー　　開催地：秋田県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'04"12
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	1'05"17
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	渡部　暁斗	早稲田大学４年	jump 123 CC 22:50.7
	スキー	少年男子	コンバインド	堀米　翔大	飯山高等学校１年	jump 106 CC 24:00.2
	スキー	成年男子	リレー	栗山　雄大 駒村　俊介 レンティング陽 柏原　暢仁	専修大学２年 ㈱黒姫和漢薬研究所快 早稲田大学２年 早稲田大学４年	1:34'32"1
２位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	川浦あすか	文化女子大附属長野高等学校2年	59"42
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	山田　大禧	長野市スキークラブ	241.4
３位	スキー	少年男子	リレー	中村　寿真 岡田　瑞生 栗山　大貴 市村耕太郎	飯山高等学校２年 飯山高等学校２年 白馬高等学校２年 飯山高等学校２年	1:38'23"2
４位	スキー	少年男子	クラシカル10㎞	中村　寿真	飯山高等学校２年	26'25"3
	スキー	少年女子	クラシカル５㎞	髙木　毬衣	飯山高等学校２年	14'17"0
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設スキークラブ	233.1
５位	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー	山室　　忠	スキースターズ長野	26'06"2

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	富井　正一	長野市スキークラブ	1'06"94
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	スキーチームゼロ	59"22
	スキー	少年男子	コンバインド	傳田　翁玖	飯山北高等学校２年	jump 97.5 CC 23:57.2
	スキー	女子	リレー	滝沢こずえ 髙木　毬衣 杉山　　茜 下平　悠生	山ノ内中学校３年 飯山高等学校２年 日本大学１年 専修大学３年	55'46"2
６位	スキー	成年男子Ｂ	クラシカル10㎞	駒村　俊介	㈱黒姫和漢薬研究所快	26'13"6
	スキー	少年男子	クラシカル10㎞	栗山　大貴	白馬高等学校２年	26'41"0
	スキー	少年女子	クラシカル５㎞	滝沢こずえ	山ノ内中学校３年	14'39"4
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	大久保　優	菅平プリンスホテル	1'06"52
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	傳田　翁玖	飯山北高等学校２年	212.6
７位	スキー	成年女子Ｂ	クラシカル５㎞	篠原　文香	ＭＡＸスポーツクラブ	15'14"0
	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	三上　正人	中央大学２年	52"99
	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	松田富士人	小谷村体育協会	1'07"79
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	小山　　祐	早稲田大学４年	jump 111 CC 23:48.4
８位	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	渡部　善斗	早稲田大学１年	225
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	田中　耕介	江口建設株式会社	jump 90 CC 12:38.4

第67回（平成24年）本大会　　開催地：岐阜県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	馬術	成年女子	二段階障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	減点0(30秒47)
	馬術	成年男子	トップスコア	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1280点
	ライフル射撃	成年女子	50ｍライフル伏射60発	砥石　真衣	東洋大学４年	592点
	山岳	成年男子	リード競技	笠原　大輔 中嶋　　徹	Edge&sofa 信州大学１年	
２位	バスケットボール	少年男子		長野県選抜		
	馬術	成年男子	スピードアンドハンディネス	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1分７秒63
	馬術	少年	ダービー	山下　大貴	東海大学付属第三高校１年	減点0(1分37秒38)
	馬術	少年	二段階障害飛越	山下　大貴	東海大学付属第三高校１年	減点0(28秒51)
	馬術	少年	団体障害飛越	山下　大貴 衛藤みのり	東海大学付属第三高校１年 明科中学校３年	
	山岳	成年男子	ボルダリング競技	笠原　大輔 中嶋　　徹	Edge&sofa 信州大学１年	
３位	馬術		男女総合			73.5点
	陸上競技	成年男子	100ｍ	塚原　直貴	富士通	10秒36
	陸上競技	少年男子Ａ	400ｍ	中野　直哉	長野吉田高校３年	47秒55
	体操（新体操）	少年女子	団体	長野県選抜		44.8125点
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル60kg級	松澤　力也	日本体育大学２年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル55kg級	井出　光星	上田西高校１年	
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	減点0(1分06秒62)
	馬術	成年女子	ダービー	増田真七海	上田乗馬倶楽部	減点0(1分15秒01)
	柔道	少年女子		武居 津金 出口	松商学園高校１年 松商学園高校２年 松商学園高校２年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	弓道	成年男子	近的	志村 安藤 平澤	山二発條㈱ ㈲萬作 日本電産㈱	
４位	馬術		女子総合			31点
	水泳（競泳）	少年女子A	自由形50m	佐藤　　綾	長野東高校３年	26秒21
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル３姿勢60発	砥石　真衣	東洋大学４年	665.4点
５位	水泳（競泳）	成年女子	個人メドレー200m	小松原彩香	中京大学４年	2分15秒59
	水泳（競泳）	少年女子A	自由形100m	佐藤　　綾	長野東高校３年	56秒46
	水泳（飛込）	少年女子	飛板飛込	畔上ゆみか	長野吉田高校３年	232.75点
	卓球	少年男子		田中 滝澤 加藤	松商学園高校３年 長野商業高校３年 松商学園高校２年	
	相撲	少年男子	個人	北村　直樹	更級農業高校３年	
６位	体操		女子総合			40点
	柔道		女子総合			28点
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ＡＬＳＯＫ綜合警備保障㈱	41分57秒09
	陸上競技	成年女子	三段跳	三澤　涼子	ライフメッセージ	12m92
	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	塩島　亮太	豊科高校３年	20分51秒10
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	減点0(1分02秒92)
	ボウリング	成年男子	団体（4人チーム）	中島 関 竹下 平林	太平商事 昭和電機産業 長野汎用計器製作所 ユアサ電器	4674点
７位	陸上競技	成年女子	100m	宮澤　有紀	富山大学２年	11秒92
	陸上競技	少年男子A	三段跳	中山　昂平	上田東高校３年	14m91
	テニス	少年男子		西脇　一樹 諱　　五貴	松商学園高校３年 松商学園高校３年	
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	スナッチ	百瀬　祥真	松商学園高校３年	105kg
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	得点率62.000
	馬術	少年	リレー	北沢　加奈 衛藤みのり	長野吉田高校１年 明科中学校３年	1分08秒89
	弓道	少年女子	近的	菅 金子 畑田	松本深志高校２年 飯田高校３年 長野東高校３年	
８位	山岳		男女総合			55点
	陸上競技	成年男子	走幅跳	嶺村　鴻汰	筑波大学２年	7m62
	水泳（競泳）	成年男子	自由形100m	伊澤　賢司	中京大学２年	50秒88
	ボート	少年女子	舵手つきクォドルプル	長野選抜		3分39秒79
	自転車	成年男子	ケイリン	赤澤　　健	信州大学４年	(8位以下は計測せず)
	馬術	成年女子	自由演技馬場馬術	藤森　祐子	あづみの乗馬苑	得点率61.175

第67回（平成24年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：愛知県・岐阜県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	36"92
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗 小林　拓斗 山中　大地 上條　有司	日本大学２年 専修大学３年 信州大学職員 日本電産サンキョー㈱	2'25"26

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード1500m	高木　菜那	日本電産サンキョー㈱	2'01"79
	スケート	少年女子	スピード1000m	辻中　杏奈	岡谷南高校３年	1'22"05
	スケート	少年女子	スピード2000mR	曽我こなみ	佐久長聖高校１年	2'47"31
				松澤優花里	市立長野高校１年	
				新井　　縁	岡谷南高校３年	
				辻中　杏奈	岡谷南高校３年	
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　純礼	小海高校１年	47"457
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　純礼	小海高校１年	1'37"386
２位	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	1'13"86
	スケート	成年女子	スピード3000m	高木　菜那	日本電産サンキョー㈱	4'08"92
	スケート	少年男子	スピード5000m	大林　昌仁	佐久長聖高校２年	6'49"22
	スケート	少年男子	スピード10000m	大林　昌仁	佐久長聖高校２年	13'59"09
	スケート	少年女子	スピード500m	辻中　杏奈	岡谷南高校３年	41"66
	スケート	少年女子	スピード1000m	曽我こなみ	佐久長聖高校１年	1'27"48
	スケート	少年男子	スピード2000mR	上地　一馬	佐久長聖高校２年	2'31"80
				村上　　匠	小海高校３年	
				菊原　魁人	野沢北高校１年	
				大林　昌仁	佐久長聖高校２年	
３位	スケート	成年女子	スピード500m	神谷衣理那	日本電産サンキョー㈱	40"34
	スケート	成年女子	スピード1000m	神谷衣理那	日本電産サンキョー㈱	1'21"75
	スケート	少年女子	スピード500m	曽我こなみ	佐久長聖高校１年	41"67
４位	スケート	成年女子	スピード3000m	石野枝里子	日本電産サンキョー㈱	4'11"38
	スケート	少年男子	スピード500m	青木　唯人	市立長野高校３年	38"01
	スケート	少年男子	スピード1500m	矢島　友喜	岡谷南高校２年	(2'01"02)
	スケート	少年女子	スピード3000m	北澤　　彩	岡谷南高校２年	4'25"65
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　萌水	早稲田大学１年	1'35"839
	スケート	少年女子	ショート1000m	松島ジョアンナ瑤子	小海高校１年	1'40"098
５位	スケート	成年女子	スピード2000mR	清水　玲香	日本体育大学４年	2'56"58
				永田　希絵	日本電産サンキョー㈱	
				宮澤　里沙	高崎健康福祉大学１年	
				神谷衣理那	日本電産サンキョー㈱	
	スケート	少年女子	スピード1500m	飯島　美幸	佐久長聖高校２年	2'10"16
	スケート	成年女子	ショート3000mR	菊池　萌水	早稲田大学１年	4'40"558
				小口　絵理	会社員	
				小澤　　幸	ソーデナガノ㈱	
				飯塚　容子	㈱イズミテクノ	
６位	スケート	成年男子	スピード500m	中村　健斗	日本大学２年	37"80
	スケート	成年男子	スピード1000m	山中　大地	信州大学職員	(1'14"10)
	スケート	成年女子	スピード500m	清水　玲香	日本体育大学４年	41"55
	スケート	成年女子	スピード1000m	清水　玲香	日本体育大学４年	(1'20"99)
	スケート	少年男子	スピード1000m	上地　一馬	佐久長聖高校２年	(1'15"31)
７位	スケート	少年男子	スピード1000m	菊原　魁人	野沢北高校１年	(1'15"65)
	スケート	少年女子	スピード1500m	北澤　　彩	岡谷南高校２年	(2'07"56)
８位	スケート	少年男子	スピード10000m	久保　宣宗	市立長野高校３年	(14'04"90)
	スケート	少年女子	スピード3000m	渡邉　夏純	佐久長聖高校１年	(4'22"43)

第67回（平成24年）冬季大会　スキー　　開催地：岐阜県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	小林　幸世	鹿島槍スキークラブ	1'10"01
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設スキークラブ	247.2
	スキー	少年男子	コンバインド	堀米　翔大	飯山高校２年	jump 98.7 CC 24'54"9
	スキー	少年男子	クロスカントリー	栗山　大貴	白馬高校３年	27'48"0
２位	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	三上　正人	中央大学３年	1'10"27
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	川浦あすか	文化学園長野高校３年	1'07"50
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー	駒村　俊介	㈱黒姫和漢薬研究所快	27'11"6
３位	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	1'08"99
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	山田　大禧	長野市スキークラブ	222.2
	スキー	少年男子	クロスカントリー	中村　寿真	飯山高校３年	28'25"1
	スキー	成年男子	リレー			1:48'48"2
				太田　光平	日本大学３年	28'18"1
				栗山　雄大	専修大学３年	27'26"9
				駒村　俊介	㈱黒姫和漢薬研究所快	25'44"2
				立花　　遼	専修大学２年	27'18"8
	スキー	少年男子	リレー			1:51'51"6
				中村　寿真	飯山高校３年	28'20"1
				岡田　瑞生	飯山高校３年	28'22"8
				馬場　雄樹	中野立志館高校２年	27'20"7
				栗山　大貴	白馬高校３年	27'47"8
	スキー	女子	リレー			1:02'13"8
				栗田　　茜	飯山高校３年	15'46"6
				髙木　毬衣	飯山高校３年	15'53"9
				大塚　裕華	國學院大學３年	15'24"9
				杉山　　茜	日本大学２年	15'08"2
４位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	傳田　佳代	飯山高校１年	1'08"07
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	荻原　健司	北野建設スキークラブ	jump 84.0 CC 12'25"3
５位	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	松本　勲人	スキースターズ長野	1'10"71
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	池田　匡誉	中野立志館高校３年	1'08"07
	スキー	少年男子	コンバインド	久保田真弘	飯山北高校２年	jump 93.9 CC 25'28"4
６位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	有江　竣平	飯山高校２年	1'08"21
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	片桐　慧太	早稲田大学３年	jump 98.7 CC 24'38"7
	スキー	少年男子	コンバインド	関沢　昌太	白馬高校２年	jump 93.6 CC 25'33"6
７位	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	大久保　優	菅平プリンスホテル	1'10"33
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	青木　純平	飯山市スキークラブ	jump 77.9 CC 12'59"4
	スキー	少年女子	クロスカントリー	髙木　毬衣	飯山高校３年	16'47"0
	スキー	少年男子	クロスカントリー	岡田　瑞生	飯山高校３年	28'42"6
８位	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	山本真矢香	法政大学４年	1'11"76
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	上原　広大	近畿大学３年	jump 92.7 CC 24'20"7
	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	清水　　大	中央大学４年	1'11"21

第68回（平成25年）本大会　　開催地：東京都

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	ボート	少年女子	シングルスカル	石上　璃奈	下諏訪向陽高校３年	荒天のため決勝中止
	カヌー	成年男子	スラロームカヤックシングル（15ゲート）	矢澤　一輝	長野県カヌー協会	96.47点
	陸上競技	成年女子	三段跳	宮坂　　楓	横浜国立大学３年	13m02
	馬術	成年男子	スピードアンドハンディネス	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1分02秒25
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル伏射60発	砥石　真衣	東洋大学４年	591点
	山岳	成年男子	リード競技	笠原　大輔 中嶋　　徹	Edge and Sofa 信州大学２年	
	クレー射撃	成年	トラップ団体	大内　智喜 遠山　哲治 矢澤　秀宗	ログコテージ霧ヶ峰 (一社) 長野県林業コンサルト協会 ㈱矢澤興産	241点
	クレー射撃	成年	トラップ個人	矢澤　秀宗	㈱矢澤興産	88点
２位	カヌー	成年男子	スラロームカヤックシングル（25ゲート）	矢澤　一輝	長野県カヌー協会	91.84点
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル74kg級	塩川　貫太	北佐久農業高校３年	
	山岳	成年男子	ボルダリング競技	笠原　大輔 中嶋　　徹	Edge and Sofa 信州大学２年	
	クレー射撃		男女総合			34点
３位	陸上競技	少年女子共通	棒高跳	原　奈津美	上伊那農業高校３年	3m55
	レスリング	少年男子	フリースタイル96kg級	マルチネス・タダシ	上田西高校３年	
	柔道	少年女子		津金　　恵 出口クリスタ 武居　沙知	松商学園高校３年 松商学園高校３年 松商学園高校２年	
	弓道	少年女子	近的	菅　　渓子 澤村莉香子 保科　早紀	松本深志高校３年 伊那弥生ヶ丘高校３年 長野西高校３年	
４位	陸上競技	少年女子共通	800m	内山　成実	長野吉田高校３年	2分08秒96
５位	水泳（競泳）	成年女子	自由形50m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学１年	25秒98
	陸上競技	成年男子	走幅跳	太田　　朗	ライフメッセージ	7m48
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ＡＬＳＯＫ綜合警備保障㈱	40分36秒01
	陸上競技	男子共通	400mリレー	岩田　　晃 長谷川　寛 松下　優太 塚原　直貴	ライフメッセージ 松本深志高校３年 松川高校１年 富士通	40秒35
	レスリング	少年男子	フリースタイル55kg級	井出　光星	上田西高校２年	
	相撲	少年男子	団体	選抜	更級農業高校 木曽青峰高校	
	相撲	少年男子	個人	渡辺　　亮	更級農業高校３年	
	馬術	成年男子	六段障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	飛越回数３減点4
	馬術	少年	リレー	山下　大貴 北沢　加奈	東海大学付属第三高校２年 長野吉田高校２年	1分06秒94
	柔道		女子総合			28点
	弓道	成年男子	近的	市川　隆光 安藤　直貴 平澤　敏弘	諏訪市役所 ニトリ長野店 日本電産㈱	
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル三姿勢60発	砥石　真衣	東洋大学４年	410.3点
	アーチェリー	成年男子	団体	宮原　　雅 長澤　宏平 淵田　悠太	安井インターテック㈱ 愛知工業大学１年 愛知学院大学１年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	空手道	成年男子	形	杉野　拓海	㈱皆思	
	空手道	成年女子	形	田中美佐稀	山梨学院大学１年	
	空手道	少年女子	形	石原　　優	松本第一高校１年	
６位	水泳（競泳）	少年男子Ｂ	平泳ぎ100m	塩入　龍斗	松本市立明善中学校３年	1分05秒25
	陸上競技	成年男子	110mハードル	早川　恭平	早稲田大学４年	14秒03
	陸上競技	成年女子	10000m競歩	大和　千秋	飯田病院	48分06秒83
	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	髙橋　涼太	豊科高校３年	20分52秒40
７位	水泳（飛込）	少年女子	高飛込	山口　夏鈴	文化学園長野高校３年	244.00点
	バレーボール	少年男子		選抜	創造学園高校 長野日本大学高校 岡谷工業高校	
	馬術	成年女子	ダービー	増田真七海	上田乗馬倶楽部	減点0(1分33秒44)
	馬術	成年女子	自由演技馬場馬術	藤森　祐子	あづみの乗馬苑	得点率64.300
	馬術	少年	スピードアンドハンディネス	北沢　加奈	長野吉田高校２年	1分05秒57
	山岳		男女総合			55点
８位	陸上競技	少年男子B	200m	松下　優太	松川高校１年	22秒22
	陸上競技	少年男子B	3000m	關　　颯人	佐久長聖高校１年	8分29秒91
	馬術	成年男子	馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	得点率61.762
	馬術	成年男子	自由演技馬場馬術	北原　　衛	北原装蹄所	得点率62.325
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	1分00秒19
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	56秒82
	馬術	少年	ダービー	山下　大貴	東海大学付属第三高校２年	1分34秒16
	馬術	少年	二段階障害飛越	山下　大貴	東海大学付属第三高校２年	第２段階進出できず
	クレー射撃	成年	スキート個人	布野　康介	㈱布野恵だるま店	87点
	空手道		女子総合			15点

第68回（平成25年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：東京都・福島県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード500m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	37"01
	スケート	成年男子	スピード1000m	上條　有司	日本電産サンキョー㈱	1'13"12
	スケート	少年男子	スピード10000m	大林　昌仁	佐久長聖高校３年	13'53"80
	スケート	少年女子	ショート500m	菊池　純礼	小海高校２年	46"535
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　純礼	小海高校２年	1'36"809
２位	スケート	成年女子	スピード1500m	高木　菜那	日本電産サンキョー㈱	(2'02"64)
	スケート	少年女子	スピード1000m	曽我こなみ	佐久長聖高校２年	1'28"47
	スケート	成年女子	スピード2000mR	清水　玲香 宮澤　里沙 高木　菜那 仁科有加那	竹村製作所 高崎健康福祉大学２年 日本電産サンキョー㈱ 日本電産サンキョー㈱	2'41"16
	スケート	少年男子	スピード2000mR	上地　一馬 菊原　魁人 牛山　紘貴 大林　昌仁	佐久長聖高校３年 野沢北高校２年 東海大学付属第三高校２年 佐久長聖高校３年	2'29"83
	スケート	少年女子	スピード2000mR	曽我こなみ 松澤優花里 中村　杏奈 藤森　美希	佐久長聖高校２年 長野市立長野高校２年 東海大学付属第三高校３年 佐久長聖高校１年	2'44"96
	スケート	少年女子	ショート1000m	松島ジョアンナ瑤子	小海高校２年	1'37"593

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スケート	成年女子	ショート3000mR	辻中　杏奈	大東文化大学１年	4'45"595
				菊池　萌水	早稲田大学２年	
				小口　絵理	自営業	
				新井　　縁	自営業	
３位	スケート	成年男子	スピード1000m	山中　大地	電算	1'15"26
	スケート	少年男子	スピード1500m	由井　勇矢	長野市立長野高校１年	2'23"17
	スケート	少年男子	スピード5000m	大林　昌仁	佐久長聖高校３年	6'47"34
４位	スケート	成年男子	スピード500m	中村　健斗	日本大学３年	37"30
	スケート	成年女子	スピード500m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	40"48
	スケート	成年女子	スピード3000m	石野枝里子	日本電産サンキョー㈱	4'20"14
	スケート	少年男子	スピード500m	上地　一馬	佐久長聖高校３年	37"89
	スケート	少年女子	スピード500m	中村　杏奈	東海大学付属第三高校３年	42"68
	スケート	少年女子	スピード1000m	藤森　美希	佐久長聖高校１年	(1'21"78)
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗	日本大学３年	2'35"45
				小林　拓斗	専修大学４年	
				山中　大地	電算	
				上條　有司	日本電産サンキョー㈱	
５位	スケート	少年男子	スピード500m	菊原　魁人	野沢北高校２年	37"90
	スケート	少年男子	スピード1500m	大澤　　航	小海高校２年	(2'10"15)
	スケート	少年女子	スピード3000m	原　　和穂	佐久長聖高校１年	(4'37"72)
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　萌水	早稲田大学２年	1'36"053
	スケート	少年	アイスホッケー	長野県選抜		5位
６位	スケート	成年女子	スピード500m	清水　玲香	竹村製作所	40"92
	スケート	少年男子	スピード1000m	大澤　　航	小海高校２年	(1'17"36)
	スケート	少年女子	スピード1500m	竹村　美咲	東海大学付属第三高校３年	(2'15"35)
	スケート	少年女子	スピード3000m	竹村　美咲	東海大学付属第三高校３年	(4'39"90)
７位	スケート	成年女子	スピード1500m	石野枝里子	日本電産サンキョー㈱	(2'03"37)
	スケート	少年男子	スピード5000m	菊池　耕太	小海高校１年	(7'57"60)
	スケート	少年男子	スピード10000m	菊池　耕太	小海高校１年	(14'54"92)
	スケート	少年女子	スピード500m	曽我こなみ	佐久長聖高校２年	57"07
	スケート	成年女子	ショート1000m	辻中　杏奈	大東文化大学１年	1'49"332
８位	スケート	少年男子	スピード1000m	上地　一馬	佐久長聖高校３年	(1'18"70)
	スケート	成年女子	ショート500m	辻中　杏奈	大東文化大学１年	49"632

第68回（平成25年）冬季大会　スキー　　開催地：秋田県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	小林　幸世	鹿島槍スキークラブ	1'02"28
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	川浦あすか	スキースターズ長野	58"89
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	1'04"25
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設㈱スキークラブ	231.8
	スキー	成年男子Ｂ	スペシャルジャンプ	山田　大禧	長野市スキークラブ	224.8
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	駒村　俊介	㈱黒姫和漢薬研究所快	26'04"4
	スキー	少年男子	クロスカントリー　4×10㎞			1:50'21"6
				池田　圭介	中野立志館高校３年	28'17"0
				湯本　啓太	中野立志館高校２年	28'05"7
				馬場　直人	中野立志館高校１年	26'46"4
				馬場　雄樹	中野立志館高校３年	27'12"4
３位	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	荻原　健司	北野建設㈱スキークラブ	jump 83.5

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位						CC 13'02"6
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	滝沢こずえ	飯山高校２年	14'48"2
４位	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	56"15
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	神津　正昭	菅平高原スキークラブ	13'40"3
	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大塚　裕華	國學院大學４年	14'57"4
	スキー	成年女子Ｂ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	篠原　文香	ＭＡＸスポーツクラブ	16'20"2
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:48'24"0
				岡田　瑞生	中央大学１年	27'44"3
				市村耕太郎	東京農業大学１年	27'16"3
				駒村　俊介	㈱黒姫和漢薬研究所快	26'27"6
				栗山　大貴	専修大学１年	26'55"7
	スキー	女子	クロスカントリー　４×5㎞			57'55"4
				栗田　　渚	飯山高校２年	14'06"8
				滝沢こずえ	飯山高校２年	14'30"4
				大塚　裕華	國學院大學４年	14'28"4
				半藤　成実	早稲田大学１年	14'49"6
５位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	馬場　雄樹	中野立志館高校３年	26'57"1
６位	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	栗山　大貴	専修大学１年	26'17"7
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	池田　圭介	中野立志館高校３年	27'00"1
７位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	里野　太吾	中野立志館高校３年	59"55
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	永峯　寿樹	木島平中学校３年	202.4
	スキー	少年男子	コンバインド	大山　陽平	飯山高校２年	jump 70.5
						CC 25'55"0
８位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	横川　猶也	白馬高校２年	197.9
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	片桐　慧太	早稲田大学４年	jump 90.5
						CC 26'14"3
９位	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	青木　純平	飯山市スキークラブ	jump 62.5
						CC 13'58"6

第69回（平成26年）本大会　　開催地：長崎県

順位	競　技	種　別	種目	氏　名	所　属	記　録
１位	カヌー	成年女子	スラローム（25）	矢澤　亜季	長野県カヌー協会	108.41点
	カヌー	成年男子	スラローム（25）	矢澤　一輝	善光寺大勧進	98.33点
	カヌー	成年女子	スラローム（15）	矢澤　亜季	長野県カヌー協会	102.13点
	空手道	少年女子	形	石原　　優	松本第一高校２年	
	馬術	成年女子	ダービー	増田真七海	上田乗馬倶楽部	1分49秒75
	山岳	成年男子	リード	笠原　大輔	Edge and Sofa	
				中嶋　　徹	信州大学３年	
	山岳	成年男子	ボルダリング	笠原　大輔	Edge and Sofa	
				中嶋　　徹	信州大学３年	
２位	カヌー	成年男子	スラローム（15）	矢澤　一輝	善光寺大勧進	94.32点
	陸上競技	成年男子	走幅跳	嶺村　鴻汰	筑波大学４年	7m80
	レスリング	成年男子	グレコ66kg	長崎　宏樹	山梨学院大学４年	
	馬術	成年男子	トップスコア	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1480点
	馬術	成年男子	六段障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	4回
	ライフル射撃	成年女子	50ｍＰ60W	砥石　真衣	東洋大学４年	615.0点
	ボウリング	成年男子	団体２人	竹下　将弘	㈱長野汎用計器製作所	4007点
				中島　紀彦	㈲太平商事	

順位	競　技	種　別	種目	氏　名	所　属	記　録
３位	水泳（競泳）	成年女子	自由形100m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学２年	56秒08
	水泳（競泳）	成年男子	自由形100m	伊澤　賢司	中京大学４年	49秒82
	水泳（競泳）	少年男子Ｂ	平泳ぎ100m	塩入　龍斗	松商学園高校１年	1分03秒59
	レスリング	少年男子	グレコ96kg	白鳥　慶樹	小諸高校２年	
４位	水泳（競泳）	成年男子	自由形50m	伊澤　賢司	中京大学４年	23秒07
	水泳（競泳）	少年男子Ａ	自由形50m	古川慎一郎	佐久長聖高校３年	23秒52
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ＡＬＳＯＫ	39分41秒69
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	1分４秒23
５位	レスリング	成年男子	グレコ59kg	松澤　力也	日本体育大学４年	
	馬術	成年男子	スピード＆ハンディネス	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1分18秒13
	ライフル射撃	成年女子	50ｍ３×20W	砥石　真衣	東洋大学４年	408.8点
	空手道	少年男子	形	北澤　久遠	飯田高校２年	
	バレーボール	少年男子		創造学園高校		
	バスケットボール	少年男子		長野県選抜		
６位	アーチェリー	成年女子	団体	宮原明日香 林　　美月 小池　麻実	今井書店 山梨大学３年 ㈱総合キャリアオプション	
	空手道		女子総合			18点
	陸上競技	成年女子	100m	宮澤　有紀	富山大学４年	11秒93
	馬術	少年	二段階障害飛越	中村　瑠佳	上田高校１年	34秒91
７位	水泳（競泳）	成年男子	200mリレー	伊澤　賢司 小松原　祐 松澤　直哉 西澤　大樹	中京大学４年 中京大学４年 神奈川大学４年 中京大学２年	1分32秒04
	陸上競技	成年女子	10000m競歩	大和　千秋	飯田病院	47分23秒88
	陸上競技	男子共通	リレー	松下　優太 原　　翔太 樋口　一馬 塚原　直貴	松川高校２年 上武大学４年 松商学園高校１年 富士通	40秒12
	フェンシング	少年男子	団体	塩原　智輝 平松　海成 矢澤　　亮	伊那北高校３年 箕輪進修高校１年 箕輪進修高校３年	
	馬術	少年	スピード＆ハンディネス	中村　瑠佳	上田高校１年	1分16秒04
	山岳		男女総合			58点
	クレー射撃	成年	スキート	塚田　政光 奥野　隆志 布野　康介	㈱ＲＥＡＬ 奥野建材 ㈱布野恵だるま店	253点
	馬術		男女総合			47点
８位	水泳（シンクロ）	少年女子	デュエット	新井はすみ 須藤　美紅	長野高校２年 市立長野高校１年	149.1162点
	水泳（競泳）	少年男子Ａ	平泳ぎ200m	礒田　涼太	野沢北高校３年	2分17秒40
	陸上競技	少年女子Ｂ	走幅跳	森本　知隼	塩尻中学校３年	5m73
	陸上競技	成年女子	走幅跳	宮坂　　楓	横浜国立大学４年	5m94
	陸上競技	成年男子	5000m	關　　颯人	佐久長聖高校２年	14分11秒13
	陸上競技	成年男子	400m	中野　直哉	早稲田大学２年	47秒84
	陸上競技	少年男子Ｂ	3000m	名取　燎太	佐久長聖高校１年	8分27秒58
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	56kg級ジャーク	河尻隆之介	松商学園高校２年	100kg
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	85kg級ジャーク	小松　幸佑	松商学園高校２年	136kg

順位	競　技	種　別	種目	氏　名	所　属	記　録
８位	馬術	少年	リレー	山下　大貴 中村　瑠佳	東海大学付属第三高校３年 上田高校１年	1分12秒47
	馬術	少年	ダービー	山下　大貴	東海大学付属第三高校３年	1分37秒12
	馬術		女子総合			18点
	クレー射撃	成年	スキート	布野　康介	㈱布野恵だるま店	89点

第69回（平成26年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：栃木県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード500m	羽賀　亮平	日本電産サンキョー㈱	36"22
	スケート	成年女子	スピード2000mR	仁科有加那 中村　杏奈 樋　　沙織 清水　玲香	日本電産サンキョー㈱ 信州大学１年 日本電産サンキョー㈱ ㈱竹村製作所	2'40"96
	スケート	少年男子	ショート500m	菊池　純礼	小海高校３年	47"094
	スケート	少年女子	ショート1000m	菊池　純礼	小海高校３年	1'41"531
２位	スケート	成年女子	スピード500m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	39"91
	スケート	成年女子	スピード1000m	仁科有加那	日本電産サンキョー㈱	1'25"02
	スケート	少年男子	スピード500m	牛山　紘貴	東海大三高校３年	37"86
	スケート	少年女子	スピード500m	曽我こなみ	佐久長聖高校３年	40"74
	スケート	少年女子	ショート1000m	藤森　美希	佐久長聖高校２年	1'21"58
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗 大槻　貴弘 青木　唯人 羽賀　亮平	日本大学４年 法政大学３年 専修大学２年 日本電産サンキョー㈱	2'27"35
	スケート	少年男子	スピード2000mR	菊原　魁人 大澤　　航 由井　勇矢 牛山　紘貴	野沢北高校３年 小海高校３年 市立長野高校２年 東海大三高校３年	2'29"88
	スケート	少年女子	スピード2000mR	曽我こなみ 松澤優花里 山田　梨央 藤森　美希	佐久長聖高校３年 市立長野高校３年 伊那西高校１年 佐久長聖高校２年	2'42"85
３位	スケート	少年男子	スピード500m	菊原　魁人	野沢北高校３年	37"95
	スケート	少年男子	スピード10000m	伊藤　貴裕	市立長野高校２年	13'52"75
	スケート	少年女子	スピード1000m	曽我こなみ	佐久長聖高校３年	1'31"09
	スケート	成年男子	スピード1000m	中村　健斗	日本大学４年	1'14"18
	スケート	成年女子	スピード1000m	清水　玲香	㈱竹村製作所	(1'19"46)
４位	スケート	成年女子	スピード3000m	樋　　沙織	日本電産サンキョー㈱	4'14"16
	スケート	少年男子	スピード500m	菊池　耕太	小海高校２年	43"608
	スケート	少年女子	スピード1500m	山田　梨央	伊那西高校１年	2'16"91
５位	スケート	少年女子	スピード3000m	渡邉　夏純	佐久長聖高校３年	4'24"32
	スケート	成年男子	スピード5000m	由井　　翔	山梨学院大学３年	6'39"42
	スケート	少年男子	スピード1000m	大澤　　航	小海高校３年	(1'15"91)
	スケート	成年女子	ショート3000mR	菊池　悠希 北澤　　彩 小口　絵理 小林　真実	立教大学４年 神奈川大学１年 自営業 高崎健康福祉大学２年	4'48"774
６位	スケート	成年男子	スピード500m	中村　健斗	日本大学４年	37"53

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スケート	成年男子	スピード1500m	大林　昌仁	山梨学院大学１年	(2'25"41)
	スケート	少年男子	スピード1000m	由井　勇矢	市立長野高校２年	(1'16"84)
	スケート	少年男子	スピード5000m	樋口　諒亮	市立長野高校２年	(6'56"64)
	スケート	少年女子	スピード1500m	藤森　美希	佐久長聖高校２年	(2'09"37)
	スケート	少年女子	スピード3000m	原　　和穂	佐久長聖高校２年	(4'24"34)
７位	スケート	成年女子	スピード500m	清水　玲香	㈱竹村製作所	57"93
	スケート	成年女子	スピード1000m	北澤　　彩	神奈川大学１年	1'52"552
	スケート	成年男子	ショート5000mR	山浦　大明	山梨学院大学２年	7'43"462
				岩下　　聖	山梨学院大学１年	
				矢島　友喜	法政大学１年	
				笠原　堅介	日本大学２年	
	アイスホッケー	少年		長野県選抜		
	スケート	成年男子	スピード1000m	由井　大陽	早稲田大学３年	(6'39"28)
	スケート	少年女子	スピード1000m	山田　梨央	伊那西高校１年	53"70
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　悠希	立教大学４年	47"372

第69回（平成26年）冬季大会　スキー　　開催地：山形県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	加藤　聖五	野沢温泉中学校３年	49"15
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設(株)スキークラブ	233.5
	スキー	成年男子Ｂ	クロスカントリークラシカル10km	成瀬　野生	白馬村スキークラブ	26'15"8
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリークラシカル５km	大山　勝広	中野土建(株)	13'49"6
	スキー	少年男子	クロスカントリークラシカル10km	馬場　直人	中野立志館高校２年	26'09"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー　4×10km			1:36'11"5
				湯本　啓太	中野立志館高校３年	24'32"3
				渡辺　瑛仁	中野立志館高校３年	23'56"2
				馬場　直人	中野立志館高校２年	23'18"6
				本間　有次	中野立志館高校２年	24'24"4
２位	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリークラシカル５km	大塚　裕華	スキースターズ長野	14'04"2
	スキー	少年男子	クロスカントリークラシカル10km	内田亜汰瑠	中野立志館高校２年	26'49"4
３位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	傳田　佳代	飯山高校３年	48"76
	スキー	少年男子	コンバインド	傳田　英郁	飯山高校１年	Jump 109.0
						CC 30'49"2
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリークラシカル５km	山田　琢也	ジェイエフデザイン	1'05"88
	スキー	少年女子	クロスカントリークラシカル５km	滝沢こずえ	飯山高校３年	15'08"5
	スキー	成年男子	クロスカントリー　4×10km			1:33'54"0
				市村耕太郎	東京農業大学２年	23'51"7
				栗山　大貴	専修大学２年	23'32"8
				立花　　遼	専修大学４年	23'43"5
				成瀬　野生	白馬村スキークラブ	22'46"0
４位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	宮崎日香里	中野立志館高校１年	47"16
	スキー	女子	クロスカントリー　4×5km			55'48"8
				渡邉　祐佳	飯山高校２年	13'42"5
				滝沢こずえ	飯山高校３年	13'29"7
				大塚　裕華	スキースターズ長野	13'45"7
				半藤　成実	早稲田大学２年	14'50"9
５位	スキー	少年男子	クロスカントリークラシカル10km	渡辺　瑛仁	中野立志館高校３年	27'20"3
	スキー	少年女子	クロスカントリークラシカル５km	渡邉　祐佳	飯山高校２年	15'24"8

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スキー	少年男子	コンバインド	山本　涼太	飯山高校１年	Jump 87.5 CC 29'59"3
	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリークラシカル10km	栗山　大貴	専修大学２年	26'33"8
７位	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	54"27
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小林　竜登	飯山高校３年	51"38
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	久保田　拓	飯綱中学校３年	51"38
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	柴草　陽祐	明治大学３年	Jump 91.5 CC 29'01"2
	スキー	少年男子	コンバインド	大山　陽平	飯山高校３年	Jump 66.0 CC 28'58"3
	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリークラシカル10km	立花　　遼	専修大学４年	26'47"3
８位	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	浅野　　仁	大町市スキークラブ	1'11"38
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	野々山颯絵	白馬高校２年	49"75
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	栗田　力樹	白馬中学校３年	191
	スキー	少年男子	コンバインド	永峯　寿樹	飯山北高校１年	Jump 105.5 CC 31'52"3

第70回（平成27年）本大会　　開催地：和歌山県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年男子	走幅跳	嶺村　鴻汰	モンテローザ	8m00
	陸上競技	成年男子	800m	川元　　奨	スズキ浜松ＡＣ	1分48秒58
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル96kg級	白鳥　慶樹	小諸高校３年	
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級クリーン＆ジャーク	小松　幸佑	松商学園高校３年	143kg
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	56秒68
	馬術	成年女子	トップスコア	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1540点
	馬術	成年男子	六段障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	飛越回数5
	弓道	成年男子	近的	清水　北登 小田切祐典 平澤　敏弘	㈱竹内製作所 まちづくり小諸第一事業部 日本電産㈱長野技術開発Ｃ	
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル三姿勢60発	砥石　真衣	東洋大学４年	446.4点
２位	ボート	少年男子	シングルスカル	中村　智哉	下諏訪向陽高校３年	3分47秒35
	陸上競技	少年女子Ｂ	1500m	和田　有菜	長野東高校１年	4分19秒98
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級トータル	小松　幸佑	松商学園高校３年	254kg
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	増田真七海	上田乗馬倶楽部	24秒95
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル伏射60発	砥石　真衣	東洋大学４年	608.6点
３位	水泳（競泳）	成年女子	自由形50m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学３年	25秒62
	カヌー	成年男子	スラローム・カヤックシングル（25ゲート）	矢澤　一輝	善光寺大勧進	80.29点
	カヌー	成年男子	スラローム・カヤックシングル（15ゲート）	矢澤　一輝	善光寺大勧進	78.68点
	陸上競技	少年女子Ｂ	走幅跳	森本　知隼	松本県ヶ丘高校１年	5m89
	体操	少年女子	新体操	猪又　涼子 清澤　毬乃 北原　沙希 塩澤　有紀 児玉　　悠	伊那西高校３年 松商学園高校２年 伊那西高校２年 伊那西高校２年 伊那西高校２年	27.558点
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級スナッチ	小松　幸佑	松商学園高校３年	111kg
	馬術	少年	標準障害飛越	衛藤みのり	松商学園高校３年	1分７秒49
	馬術	成年男子	国体総合馬術	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	49.9点
	馬術		男女総合			

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	弓道		男女総合			
４位	水泳（競技）	少年男子Ａ	平泳ぎ200m	畔上進太郎	長野吉田高校３年	2分15秒97
	陸上競技	成年男子	400mＨ	中野　直哉	早稲田大学３年	50秒63
	サッカー	女子		長野県選抜		
	バレーボール	成年男子		長野県選抜		
	馬術	少年	ダービー	高野　実樹	中野西高校１年	1分40秒68
	フェンシング	少年男子		西藤　俊哉	帝京高校３年	
				平松　海成	箕輪進修高校２年	
				根橋　大空	箕輪進修高校１年	
５位	水泳（競泳）	成年女子	自由形100m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学３年	55秒83
	水泳（競泳）	成年男子	200mリレー	伊澤　賢司	京浜物流株式会社	1分31秒25
				古川慎一郎	早稲田大学１年	
				松田　優太	法政大学３年	
				西澤　大樹	中京大学３年	
	水泳（競泳）	少年男子Ｂ	自由形50m	中村　　翼	上伊那農業高校１年	24秒19
	水泳（シンクロ）	少年女子	デュエット	須藤　美紅	市立長野高校２年	152.2361点
				藤原　茉那	長野市立柳町中学校３年	
	ボート	成年女子	シングルスカル	石上　璃奈	早稲田大学２年	4分31秒49
	陸上競技	成年女子	100m	宮澤　有紀	富山大学５年	11秒82
	バレーボール	少年男子		創造学園高校		
	バスケットボール	成年女子		長野県選抜		
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル75kg級	小林　隆介	拓殖大学３年	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル85kg級	塩川　貫太	日本体育大学２年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル60kg級	小島　裕紀	上田西高校３年	
	ウエイトリフティング	少年男子	94kg級クリーン＆ジャーク	河西　勇介	松商学園高校３年	140kg
	卓球	成年男子		滝澤　拓真	明治大学３年	
				伊積　健太	岡谷市役所	
				岡田　　崚	岡谷市役所	
	馬術	少年	トップスコア	衛藤みのり	松商学園高校３年	830点
	弓道	少年男子	遠的	青木俊太郎	長野日大高校３年	
				伊藤　益瑠	伊那弥生ヶ丘高校３年	
				金子　夏暉	岡谷工業高校３年	
	空手道	成年女子	形	田中美佐稀	山梨学院大学３年	
６位	陸上競技	少年男子Ａ	400m	樋口　一馬	松商学園高校２年	48秒26
	陸上競技	少年男子Ｂ	3000m	中谷　雄飛	佐久長聖高校１年	8分28秒84
	ウエイトリフティング	少年男子	94kg級トータル	河西　勇介	松商学園高校３年	245kg
	馬術	少年	二段階障害飛越	中村　瑠佳	上田高校２年	30秒20
	馬術	少年	少年リレー	衛藤みのり	松商学園高校３年	1分１秒58
				中村　瑠佳	上田高校２年	
	弓道	成年男子	遠的	清水　北登	㈱竹内製作所	
				小田切祐典	まちづくり小諸第一事業部	
				平澤　敏弘	日本電産㈱長野技術開発Ｃ	
７位	水泳（競泳）	成年男子	自由形50m	伊澤　賢司	京浜物流株式会社	23秒12
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ＡＬＳＯＫ綜合警備保障㈱	42分26秒80
	陸上競技	成年女子	10000m競歩	溝口友己歩	長野東高校３年	47分３秒23
	陸上競技	男子共通	400mＲ	松橋　大夢	長野日大高校３年	40秒34
				川上　真弥	中央大学４年	
				小出　郁弥	市立長野高校１年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位				原　　翔太	スズキ浜松ＡＣ	
	バレーボール		男女総合			52.5点
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	94kg級スナッチ	河西　勇介	松商学園高校３年	105kg
	ゴルフ	成年男子		丸山　雄也	日本体育大学３年	142
				牧野ふみ江	行政書士森山事務所	
				井原　寿恵	豊丘村中央保育園	
８位	カヌー	少年男子	スプリント・カヤックシングル	竹下　世界	篠ノ井高校犀峡校３年	2分３秒253
	陸上競技	少年女子Ａ	走幅跳	西村　千明	伊那北高校３年	5m73
	陸上競技	女子共通	400ｍＲ	金田　華実	野沢北高校３年	46秒21
				宮澤　有紀	富山大学５年	
				森本　知隼	松本県ヶ丘高校１年	
				今井沙緒里	飯田病院	
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	クリーン＆ジャーク	河尻隆之介	松商学園高校３年	102kg
	馬術	成年男子	標準障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	1分０秒13
	弓道	成年女子	遠的	竹花　　葵	コープながの上田センター	

第70回（平成27年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　萌水	早稲田大学３年	1'37"310
	スケート	少年女子	ショート1000m	山浦美和子	小海高校１年	1'35"067
	スケート	成年男子	スピード5000m	大林　昌仁	山梨学院大学２年	6'59"81
	スケート	少年男子	ショート500m	菊池　耕太	小海高校３年	43"492
２位	スケート	少年男子	スピード500m	高見澤　涼	小海高校３年	38"10
	スケート	少年男子	スピード10000m	土屋　　陸	長野東高校２年	14'27"87
	スケート	少年女子	ショート1000m	小池　佑奈	岡谷南高校３年	1'35"093
	スケート	少年男子	ショート1000m	菊池　耕太	小海高校３年	1'33"266
	スケート	少年男子	スピード5000m	伊藤　貴裕	市立長野高校３年	6'52"28
	スケート	成年男子	スピード1000m	中村　健斗	日本電産サンキョー㈱	1'12"74
	スケート	少年女子	スピード1000m	松本　芽依	伊那西高校１年	1'26"28
	スケート	少年女子	ショート500m	山浦美和子	小海高校１年	47"163
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　萌水	早稲田大学３年	46"569
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗	日本電産サンキョー㈱	2'28"33
				青木　唯人	専修大学３年	
				上地　一馬	東洋大学２年	
				山中　大地	日本電産サンキョー㈱	
３位	スケート	成年男子	スピード500m	中村　健斗	日本電産サンキョー㈱	37"74
	スケート	少年男子	スピード1000m	高見澤　涼	小海高校３年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード5000m	土屋　　陸	長野東高校２年	6'55"55
	スケート	少年女子	ショート500m	小池　佑奈	岡谷南高校３年	47"432
	スケート	少年女子	スピード2000mR	松本　芽依	伊那西高校１年	2'51"14
				平澤　春佳	伊那北高校１年	
				堀　あかり	諏訪二葉高校１年	
				原　　和穂	佐久長聖高校３年	
	スケート	成年男子	ショート5000mR	菊池　哲平	山梨学院大学１年	7'21"962
				岩下　　聖	山梨学院大学２年	
				矢島　友喜	法政大学２年	
				山浦　大明	山梨学院大学３年	
４位	スケート	少年男子	スピード500m	小林　寛和	市立長野高校３年	38"24

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	スケート	成年女子	スピード500m	辻中　杏奈	大東文化大学３年	42"57
	スケート	成年男子	ショート1000m	岩下　　聖	山梨学院大学２年	1'32"628
５位	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　悠希	立教大学４年	1'39"234
	スケート	少年女子	スピード1500m	松本　芽依	伊那西高校１年	2'12"39
	スケート	少年男子	ショート1000m	菊池　浩樹	小海高校３年	1'40"493
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　悠希	立教大学４年	47"155
６位	スケート	成年女子	スピード2000mR	辻中　杏奈	大東文化大学３年	2'54"52
				新井　　縁	信州大学２年	
				中村　杏奈	信州大学２年	
				松澤優花里	大東文化大学１年	
	スケート	少年女子	スピード3000m	田中　翔子	東海大三高校３年	タイムなし
８位	スケート	少年男子	スピード10000m	伊藤　貴裕	市立長野高校３年	タイムなし
	スケート	成年男子	フィギュア	中村　　智	山梨学院大学４年	153.61(点)
				小平　渓介	日本大学２年	103.27(点)
	スケート	少年男子	スピード1500m	原田　佳祐	諏訪二葉高校１年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1500m	池上　真以	大東文化大学３年	タイムなし
	スケート	成年男子	スピード5000m	由井　　翔	山梨学院大学４年	タイムなし
	スケート	成年女子	スピード1000m	辻中　杏奈	大東文化大学３年	タイムなし
	スケート	少年男子	ショート500m	菊池　浩樹	小海高校３年	54"403
	スケート	成年男子	ショート500m	山浦　大明	山梨学院大学３年	43"822
	アイスホッケー	成年		長野県選抜		

第70回（平成27年）冬季大会　スキー　　開催地：群馬県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	馬場　直人	中野立志舘高校３年	28'25"0
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	宮崎日香里	中野立志舘高校１年	16'18"5
	スキー	少年男子	クロスカントリー　4×10㎞			1：50'56"1
				笠原　　陸	中野立志舘高校１年	28'06"2
				内田亜汰瑠	中野立志舘高校３年	27'47"1
				本間　有次	中野立志舘高校３年	27'38"5
				馬場　直人	中野立志舘高校３年	27'24"3
２位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	内田亜汰瑠	中野立志舘高校３年	29'14"0
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山田　琢也	ジェイエフデザイン	15'35"6
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	蓮見小奈津	東海大学４年	1'05"88
	スキー	少年男子	コンバインド	山本　涼太	飯山高校２年	jump　101.0
						CC　27'28"1
	スキー	女子	クロスカントリー　4×5㎞			59'49"0
				渡邉　祐佳	飯山高校３年	14'49"6
				唐木　永乃	飯山高校３年	14'52"0
				宮崎日香里	中野立志舘高校１年	15'00"6
				大塚　裕華	スキースターズ長野	15'06"8
３位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	栗田　力樹	白馬高校１年	228.6
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大山　勝広	中野土建㈱	15'47"9
	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大塚　裕華	スキースターズ長野	16'45"7
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	唐木　永乃	飯山高校３年	16'39"9
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	久保田　拓	中野西高校１年	1'04"46
４位	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	市村耕太郎	東京農業大学３年	29'06"4
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	柴草　陽祐	明治大学４年	jump　103.5

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位						CC　27'04"5
５位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	渡邉　祐佳	飯山高校３年	16'45"3
	スキー	成年女子Ａ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	半藤　成実	早稲田大学３年	17'13"4
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	川浦あすか	スキースターズ長野	1'06"68
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	傳田　翁玖	早稲田大学３年	jump　93.5 CC　26'30"3
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	西　　颯太	地球環境高校３年	1'05"21
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞			２：01'58"8
				神宮司悠人	東洋大学１年	29'44"9
				栗山　大貴	専修大学３年	31'38"7
				市村耕太郎	東京農業大学３年	30'31"2
				大山　勝広	中野土建㈱	30'04"0
	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'01"92
６位	スキー	少年男子	コンバインド	傳田　英郁	飯山高校２年	jump　116.5 CC　28'53"9
７位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	大瀧　徹也	スキーチームゼロ	1'02"10
	スキー	少年男子	コンバインド	山田　和也	白馬高校３年	jump　98.0 CC　27'41"7
８位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	山本　涼太	飯山高校２年	207.8
	スキー	成年男子Ａ	クロスカントリー　クラシカル10㎞	栗山　大貴	専修大学３年	29'21"6
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	吉越知恵美	中野立志舘高校３年	17'01"6
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	野々山颯絵	白馬高校３年	1'10"55
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	堀米　翔太	日本大学２年	jump　85.0 CC　26'23"4
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	荻原　健司	北野建設㈱スキークラブ	jump　78.5 CC　13'58"0
９位	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	横川　良太	白馬村スキークラブ	115.4
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	岡　　利哉	木島平スキークラブ	jump　64.5 CC　14'09"0

第71回（平成28年）本大会　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年女子	三段跳	宮坂　　楓	ニッパツ	13m33
	馬術	成年女子	ダービー	増田真七海	上田乗馬倶楽部	1分48秒08
	弓道	成年男子	近的	清水　北登	㈱竹内製作所	
				小田切祐典	信州味噌㈱	
				平澤　敏弘	日本電産㈱	
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル 三姿勢60発	砥石　真衣	東洋大学	4463.3点
２位	水泳（競泳）	成年女子	自由形50m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学４年	25秒44
	カヌー	成年男子	スラロームカヤックシングル（25ゲート）	矢澤　一輝	善光寺大勧進	86.77
	陸上競技	少年女子Ａ	1500m	和田　有菜	長野東高校２年	4分22秒71
	自転車	女子	ケイリン	中嶋　里美	日本競輪選手会　愛知支部	
	馬術	成年女子	トップスコア	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1420点
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル　伏射60発	砥石　真衣	東洋大学	615.7点
３位	水泳（シンクロ）	少年女子	デュエット	須藤　美紅	市立長野高校３年	154.8423点
				藤原　茉那	文化学園長野高校	
	ボート	少年男子	舵手つきクォドルプル	大西　泰輔	岡谷南高校３年	3分12秒81
				鎌原　康陽	岡谷南高校３年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				小林　駿斗	岡谷南高校２年	
				牛山　直哉	岡谷南高校３年	
				丸山　寛喜	岡谷南高校３年	
	相撲	少年男子	個人決勝トーナメント	渡辺　　拓	更科農業高校３年	
	陸上競技	成年男子	800m	川元　　奨	スズキ浜松AC	1分51秒18
	陸上競技	少年男子A	棒高跳	内山　朋也	長野吉田高校３年	4m95
	テニス	成年男子		諱　　五貴	明治大学４年	
				西脇　一樹	明治大学４年	
	バレーボール	少年男子		創造学園		
	馬術	成年男子	ダービー	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1分43秒91
	馬術	成年男子	総合馬術	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	51.5点
	レスリング	成年男子	フリースタイル57kg級	井出　光星	専修大学２年	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル98kg級	塩川　貫太	日本体育大学３年	
４位	水泳（競泳）	成年女子	自由形100m	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学４年	55秒40
	陸上競技	少年男子A	走幅跳	内山　朋也	長野吉田高校３年	7m23
	陸上競技	成年女子	400m	佐藤　静香	新潟医療福祉大学４年	55秒78
	陸上競技	少年男子B	3000m	松崎　咲人	佐久長聖高校１年	8分20秒48
	相撲	少年男子	個人決勝トーナメント	山内　裕太	更科農業高校３年	
５位	水泳（競泳）	成年男子	200mフリーリレー	伊藤　賢司	京浜物流㈱	1分31秒50
				古川慎一郎	早稲田大学２年	
				松田　優太	法政大学４年	
				西澤　大樹	中京大学４年	
	陸上競技	成年女子	ハンマー投	中島　未歩	上田市陸上競技協会	56m74
	陸上競技	少年女子A	三段跳	森本　知隼	松本県ヶ丘高校２年	12m27
	陸上競技	成年女子	5000m競歩	溝口友己歩	早稲田大学１年	22分45秒57
	陸上競技	少年女子A	3000m	和田　有菜	長野東高校２年	9分16秒42
	体操（新体操）	少年女子	少年女子総合	清澤　毬乃	松商学園高校３年	28.508
				小宮山真衣	伊那西高校３年	
				二木　　萌	伊那西高校２年	
				塩澤　有紀	伊那西高校３年	
				塚原　　青	伊那西高校２年	
	レスリング	成年男子	フリースタイル65kg級	山﨑幹太郎	法政大学２年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル50kg級	大橋　寛介	上田西高校１年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル66kg級	竹内　祐斗	上田西高校２年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル60kg級	春日　啓吾	小諸商業高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル96kg級	永島　佑真	小諸高校３年	
	卓球	成年男子		滝澤　拓真	明治大学３年	
				伊積　健太	岡谷市役所	
				岡田　　崚	岡谷市役所	
	空手道	少年男子	形	大藏　貫太	松本工業高校３年	
	空手道	成年男子	形	杉野　拓海	㈱皆思	
	空手道	少年男子	組手	中村　遥太	松商学園高校３年	
６位	陸上競技	少年女子A	走幅跳	森本　知隼	松本県ヶ丘高校２年	5m83
	陸上競技		女子総合			50.5
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1分13秒44
	馬術	少年	団体障害飛越	五十嵐大斗	長野日本大学中学校３年	
				中村　瑠佳	上田高校３年	
	馬術	成年男子	六段障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	飛越回数3　減点4

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位	陸上競技	成年男子	走幅跳	嶺村　鴻汰	モンテローザ	7m63
	陸上競技	成年男子	100m	原　　翔太	スズキ浜松AC	10秒51
	陸上競技	少年女子A	400m	加藤　詩萌	長野日大高校２年	56秒76
	馬術		男女総合			
	クレー射撃	成年男子	トラップ団体	大内　智喜 遠山　哲治 川上　　要	ログコテージ霧ヶ峰 長野県林業コンサルタント協会 ㈲BALLS	232
８位	水泳（競泳）	成年女子	200mフリーリレー	佐藤　　綾 櫻井　美希 石坂　夏鈴 原田　彩音	新潟医療福祉大学４年 至学館大学１年 神奈川大学１年 神奈川大学１年	1分46秒20
	ウエイトリフティング	少年男子	＋105kg級トータル	二木　真碧		227
	馬術	成年女子	二段階障害飛越	増田真七海	上田乗馬倶楽部	28秒80

第71回（平成28年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　悠希	帝産クラブ	1'42"350
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　萌水	早稲田大学４年	45"933
	スケート	成年女子	ショート3000mR	菊池　悠希 菊池　萌水 北澤　　彩 小池　佑奈	帝産クラブ 早稲田大学４年 神奈川大学３年 中京大学１年	4'34"144
	スケート	少年男子	スピード10000m	杉田　駿介	長野東高校１年	14'21"83
	スケート	少年女子	スピード1000m	山田　梨央	伊那西高校３年	1'22"52
	スケート	成年男子	スピード1000m	山中　大地	㈱電算	1'13"35
２位	スケート	成年男子	ショート1000m	岩下　　聖	山梨学院大学３年	1'35"562
	スケート	成年男子	ショート500m	岩下　　聖	山梨学院大学３年	42"304
	スケート	成年男子	ショート5000mR	山浦　大明 岩下　　聖 菊池　哲平 菊池　浩樹	山梨学院大学４年 山梨学院大学３年 山梨学院大学２年 山梨学院大学１年	7'17"730
	スケート	少年女子	スピード500m	山田　梨央	伊那西高校３年	41"02
	スケート	成年女子	スピード500m	新井　　縁	信州大学３年	40"40
	スケート	少年女子	スピード1000m	上條　夏歩	松本蟻ヶ崎高校１年	1'26"15
	スケート	少年男子	スピード5000m	林　　莉輝	佐久長聖高校２年	7'24"79
	スケート	少年男子	スピード2000mR	原　　眞尋 橋爪　　凱 関口　顯一 小島　良太	佐久長聖高校１年 伊那北高校２年 長野工業高校３年 屋代高校２年	2'35"37
３位	スケート	少年女子	ショート1000m	水野　彩萌	小海高校３年	1'48"036
	スケート	成年男子	ショート500m	菊池　哲平	山梨学院大学２年	43"134
	スケート	少年男子	スピード10000m	土屋　　陸	長野東高校３年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード500m	上條　夏歩	松本蟻ヶ崎高校１年	41"27
	スケート	成年女子	スピード500m	辻中　杏奈	大東文化大学４年	40"57
	スケート	成年女子	スピード1000m	新井　　縁	信州大学３年	1'25"00
	スケート	少年男子	スピード1000m	小島　良太	屋代高校２年	1'16"71
	スケート	少年女子	スピード2000mR	上條　夏歩 堀　久美子	松本蟻ヶ崎高校１年 伊那西高校３年	2'49"77

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位				松本　芽依	伊那西高校２年	
				山田　梨央	伊那西高校３年	
	スケート	成年女子	スピード2000mR	新井　　縁	信州大学３年	2'45"63
				按田　　心	信州大学３年	
				中村　杏奈	信州大学３年	
				辻中　杏奈	大東文化大学４年	
	スケート	成年男子	スピード2000mR	牛山　紘貴	日本大学２年	2'27"78
				上地　一馬	東洋大学３年	
				小林　寛和	東洋大学１年	
				山中　大地	㈱電算	
４位	スケート	成年女子	ショート500m	小池　佑奈	中京大学１年	47"672
	スケート	少年	アイスホッケー	長野県選抜		
５位	スケート	少年女子	スピード1500m	賀来　真穂	岡谷南高校１年	2'11"92
	スケート	成年女子	スピード1000m	松澤優花里	大東文化大学２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	細田　京香	市立長野高校２年	4'32"51
	スケート	少年男子	スピード5000m	土屋　　陸	長野東高校３年	タイムなし
６位	スケート	少年女子	スピード3000m	藤森　優衣	東海大三高校１年	4'40"50
	スケート	成年女子	スピード3000m	竹村　美咲	大東文化大学３年	タイムなし
７位	スケート	成年女子	スピード1500m	松澤優花里	大東文化大学２年	タイムなし
	スケート	成年男子	スピード5000m	大林　昌仁	山梨学院大学３年	タイムなし
８位	アイスホッケー	成年		長野県選抜		

第71回（平成28年）冬季大会　スキー　　開催地：岩手県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	滝沢こずえ	早稲田大学２年	15'17"0
	スキー	成年女子B	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大塚　裕華	スキースターズ長野	15'42"2
２位	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　千佳	飯山高校２年	15'16"2
３位	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大山　勝広	中野土建㈱	13'39"8
	スキー	成年男子A	コンバインド	堀米　翔大	日本大学３年	jump　103.5 CC　22'39"5
４位	スキー	成年男子A	クロスカントリー　クラシカル10㎞	内田亜汰瑠	東京農業大学１年	26'14"7
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	服部　正秋	国際自然環境アウトドア専門学校	13'44"9
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	半藤　成実	早稲田大学４年	15'52"1
	スキー	女子	クロスカントリー　４×5㎞	渡辺　愛珠	飯山北高校３年	55'30"2
				内田　夢加	中野立志館高校２年	
				小林　千佳	飯山高校２年	
				大塚　裕華	スキースターズ長野	
	スキー	少年男子	クロスカントリー　４×10㎞	郷津　知哉	白馬中学校３年	1:36'32"6
				外谷　涼太	飯山高校１年	
				渡辺　基嗣	飯山高校３年	
				大塚　栄青	白馬高校３年	
５位	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山田　琢也	ジェイエフデザイン	13'48"9
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	渡辺　愛珠	飯山北高校３年	15'35"0
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	唐木　永乃	日本体育大学１年	16'06"3
６位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	仲俣　一樹	北部高校３年	1'11"96
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞	湯本　啓太	早稲田大学２年	1:38'52"5
				内田亜汰瑠	東京農業大学１年	
				市村耕太郎	東京農業大学４年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
6位				山田　　洋	須坂スキークラブ	
7位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	清水　　拓	中野立志館高校１年	95
	スキー	少年男子	クロスカントリー クラシカル10㎞	郷津　知哉	白馬中学校３年	26'46"9
	スキー	成年男子A	クロスカントリー クラシカル10㎞	市村耕太郎	東京農業大学４年	26'28"9
	スキー	少年女子	クロスカントリー クラシカル５㎞	内田　夢加	中野立志館高校２年	15'37"9
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小山　　慧	菅平中学校３年	1'12"03
9位	スキー	成年男子B	クロスカントリー クラシカル10㎞	山田　　洋	須坂スキークラブ	28'37"0
	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	中村　　克	志賀高原スキークラブ	1'16"78
	スキー	成年男子A	コンバインド	傳田　翁玖	早稲田大学４年	jump　98.0 CC　24'01"7

第72回（平成29年）本大会　　開催地：愛媛県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	陸上競技	成年女子	三段跳	宮坂　　楓	ニッパツ	13m58
	陸上競技	成年男子	800m	川元　　奨	スズキ浜松AC	1分48秒00
	馬術	成年男子	トップスコア	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1460点
	馬術	成年女子	トップスコア	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1610点
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル三姿勢60発	砥石　真衣	ブレーメン	456.6点
2位	水泳（競泳）	成年女子	100m自由形	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	55秒45
	水泳（競泳）	成年女子	50m自由形	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	25秒47
	陸上競技	少年女子共通	1500m	和田　有菜	長野東高校３年	4分20秒39
	陸上競技	少年男子A	5000m	中谷　雄飛	佐久長聖高校３年	14分０秒39
	卓球	成年男子		滝澤　拓真 岡田　　崚 伊積　健太	岡谷市役所 岡谷市役所 岡谷市役所	
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル伏射60発	砥石　真衣	ブレーメン	614.2点
3位	水泳（競泳）	少年女子B	50m自由形	今牧まりあ	飯田高校１年	26秒63
	陸上競技	成年女子	5000m競歩	溝口友己歩	早稲田大学２年	22分25秒61
	馬術	少年	二段階障害飛越	小林　章人	長野市立西部中学校３年	減点０(26秒79)
	空手道	成年女子	形	宇海　水稀	帝京大学１年	
	空手道		女子総合			21点
4位	陸上競技	少年男子B	3000m	服部　凱杏	佐久長聖高校１年	8分36秒34
	陸上競技	少年女子共通	やり投	湯本　珠実	松商学園高校３年	50m93
	馬術	成年男子	スピードアンドハンディネス	佐藤　賢希	明松寺馬事公苑	1分６秒97
	馬術	成年男子	国体大障害飛越	小林　義彦	飯綱高原乗馬倶楽部	減点０(１分４秒53)
	空手道	成年女子	組手	林　　風花	帝京大学１年	
5位	水泳（競泳）	少年男子B	100m平泳ぎ	近江ハリー	地球環境高校１年	1分３秒80
	水泳（競泳）	少年男子A	200m背泳ぎ	石坂　岳斗	長野工業高校３年	2分５秒67
	ボート	少年男子	舵手つきクォドルプル	小林　怜矢 手塚　知丹 小林　駿斗 牛山　　啓 進藤　大知	岡谷南高校３年 岡谷南高校３年 岡谷南高校３年 岡谷南高校３年 東海大付属諏訪高校２年	3分10秒43
	体操（新体操）	少年女子	少年女子総合	池上　優菜 伊澤　夢伽 二木　　萌 小畠　愛梨 塚原　　青	伊那西高校２年 伊那西高校２年 伊那西高校３年 伊那西高校２年 伊那西高校３年	27.4500点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
５位	レスリング	少年男子	フリースタイル50kg級	佐々木風雅	上田西高校１年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル74kg級	竹内　祐斗	上田西高校３年	
	弓道	成年男子	近的	清水　北登 小田切祐典 平澤　敏弘	㈱竹内製作所 信州味噌㈱ 日本電産㈱長野技術開発センター	6中
	空手道	成年男子	形	杉野　拓海	㈱皆思	
６位	水泳（競泳）	成年男子	4×50mフリーリレー	古川慎一郎 伊澤　賢司 近江ウイリアム 西澤　大樹	早稲田大学３年 京浜物流株式会社 日本大学１年 千曲坂城消防本部	1分31秒17
	ボート	少年女子	舵手つきクォドルプル	村山香菜恵 松本　　萌 中山　優衣 海野　優奈 千葉万里菜	岡谷南高校２年 岡谷南高校２年 岡谷南高校２年 岡谷南高校３年 岡谷南高校３年	3分34秒73
	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　　勇	ALSOK	41分44秒13
	陸上競技	少年女子A	3000m	和田　有菜	長野東高校３年	9分１秒36
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級スナッチ	原　圭史郎	松商学園高校３年	110
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級クリーン＆ジャーク	原　圭史郎	松商学園高校３年	137
７位	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	石坂　夏鈴	神奈川大学２年	2分16秒47
	ボート	少年女子	シングルスカル	小松瑠維子	下諏訪向陽高校２年	4分９秒93
	陸上競技	少年女子A	走幅跳	森本　知隼	松本県ヶ丘高校３年	5m83
	ウエイトリフティング	少年男子	85kg級トータル	原　圭史郎	松商学園高校３年	247
	ウエイトリフティング	少年男子	+105kg級スナッチ	太田　　至	松商学園高校３年	117
８位	水泳（競泳）	少年女子B	100m背泳ぎ	佐藤　　柊	飯田高校１年	1分５秒55
	ボート	少年男子	シングルスカル	内田　智也	岡谷南高校３年	3分49秒20
	陸上競技	少年男子A	100m	デーデー・ブルーノ	創造学園高校３年	10秒70
	卓球		男女総合			31点
	馬術	少年	リレー	小林　章人 羽毛田ひなの	長野市立西部中学校３年 上田市立第一中学校３年	1分７秒88 加算秒数／４
	馬術		男女総合			43点
	フェンシング	成年男子	フルーレ	河西　遼太 赤羽　郁海 西藤　俊哉	長野クラブ 慶応義塾大学３年 法政大学２年	
	ゴルフ	女子	個人	平木亜莉奈	御代田町立御代田中学校３年	137

第72回（平成29年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード500m	山中　大地	㈱電算	35"71
	スケート	成年男子	スピード1000m	山中　大地	㈱電算	1'10"43
	スケート	成年男子	スピード2000mR	中村　健斗 牛山　紘貴 新井洸太郎 山中　大地	日本電産サンキョー㈱ 日本大学３年 東洋大学３年 ㈱電算	2'24"31
	スケート	成年女子	スピード3000m	樋　　沙織	日本電産サンキョー㈱	4'05"37
	スケート	成年女子	スピード2000mR	新井　　縁 堀　久美子 按田　　心	信州大学４年 松本大学１年 信州大学４年	2'39"045

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位				樋　　沙織	日本電産サンキョー㈱	
	スケート	少年男子	スピード5000m	林　　莉輝	佐久長聖高校３年	6'44"07
	スケート	少年女子	スピード1000m	松本　芽依	伊那西高校３年	1'20"41
	スケート	少年女子	スピード2000mR	上條　夏歩	松本蟻ヶ崎高校２年	2'39"55
				小林　瑠果	岡谷南高校２年	
				藤森　優衣	東海大諏訪高校２年	
				松本　芽依	伊那西高校３年	
	スケート	成年男子	ショート500m	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	42"853
	スケート	成年女子	ショート3000mR	小池　佑奈	中京大学２年	4'27"384
				菊池　萌水	稲門スケートクラブ	
				北澤　　彩	神奈川大学４年	
				水野　彩萌	萌木の村㈱	
	スケート	少年男子	ショート500m	新井　雄貴	小海高校１年	43"233
２位	スケート	成年男子	スピード500m	中村　健斗	日本電産サンキョー㈱	35"84
	スケート	成年男子	スピード1000m	中村　健斗	日本電産サンキョー㈱	1'13"38
	スケート	成年女子	スピード1500m	樋　　沙織	日本電産サンキョー㈱	2'06"05
	スケート	少年男子	スピード1000m	小島　良太	屋代高校３年	1'12"82
	スケート	少年男子	スピード2000mR	小島　良太	屋代高校３年	2'27"74
				菊池　岳仁	岡谷南高校１年	
				高見澤光希	小海高校２年	
				林　　莉輝	佐久長聖高校３年	
	スケート	少年女子	スピード1500m	小山　香月	長野東高校１年	2'01"05
	スケート	少年女子	スピード3000m	堀　あかり	諏訪二葉高校３年	4'09"11
	スケート	成年男子	ショート500m	岩下　　聖	山梨学院大学４年	42"877
	スケート	成年男子	ショート5000mR	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	7'09"757
				岩下　　聖	山梨学院大学４年	
				菊池　哲平	山梨学院大学３年	
				菊池　浩樹	山梨学院大学２年	
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　萌水	稲門スケートクラブ	1'37"735
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　萌水	稲門スケートクラブ	45"484
３位	スケート	成年男子	スピード1500m	土屋　　陸	日本電産サンキョー㈱	1'48"16
	スケート	成年男子	スピード5000m	土屋　　陸	日本電産サンキョー㈱	6'22"76
	スケート	少年男子	スピード10000m	原田　佳祐	諏訪二葉高校３年	13'45"07
	スケート	少年男子	スピード1500m	林　　莉輝	佐久長聖高校３年	タイムなし
	スケート	成年男子	ショート1000m	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	1'27"762
	スケート	成年女子	ショート500m	小池　佑奈	中京大学２年	48"237
	スケート	少年男子	ショート1000m	新井　雄貴	小海高校１年	1'31"068
４位	スケート	成年女子	スピード500m	按田　　心	信州大学４年	39"87
	スケート	成年女子	スピード1000m	新井　　縁	信州大学４年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード1500m	高見澤光希	小海高校２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード1500m	藤森　優衣	東海大諏訪高校２年	2'06"00
５位	スケート	成年女子	スピード500m	新井　　縁	信州大学４年	40"98
	スケート	少年男子	スピード5000m	高見澤光希	小海高校２年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード500m	松本　芽依	伊那西高校３年	40"71
	スケート	少年女子	スピード1000m	上條　夏歩	松本蟻ヶ崎高校２年	タイムなし
	スケート	成年男子	ショート1000m	岩下　　聖	山梨学院大学４年	1'28"995
６位	スケート	成年男子	スピード1500m	島田　隆平	東洋大学３年	1'52"14
	スケート	成年男子	スピード5000m	島田　隆平	東洋大学３年	6'50"20

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スケート	少年女子	スピード500m	上條　夏歩	松本蟻ヶ崎高校２年	40"84
	アイスホッケー	少年		長野県選抜		
７位	スケート	少年男子	スピード10000m	原　　泰	小海高校１年	タイムなし
	スケート	少年男子	スピード500m	原　　眞尋	佐久長聖高校２年	37"87
	スケート	少年男子	スピード1000m	菊池　岳仁	岡谷南高校１年	タイムなし
	スケート	少年女子	スピード3000m	土屋　　実	佐久長聖高校２年	タイムなし
８位	スケート	成年女子	スピード3000m	田中　翔子	大東文化大学２年	タイムなし

第72回（平成29年）冬季大会　スキー　　開催地：長野県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	永峯　寿樹	明治大学１年	114.2
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　千佳	飯山高校３年	15'38"3
２位	スキー	成年男子Ａ	ジャイアントスラローム	塩入　　資	法政大学１年	1'21"41
	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	清水　　大	スキースターズ長野	1'17"11
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	久保田　拓	中野西高校３年	1'30"13
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	横内　真晴	飯山高校１年	1'25"41
３位	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	外谷　涼太	飯山高校２年	28'35"2
	スキー	女子	クロスカントリーリレー４×５㎞			56'18"2
				内田　夢加	中野立志館高校３年	15'11"3
				祖父江　凜	飯山高校１年	13'32"3
				渡辺　愛珠	同志社大学１年	14'22"0
				小林　千佳	飯山高校３年	13'12"5
４位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'15"46
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	浦野　裕之	飯山市立戸狩小学校教員	14'49"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	祖父江　凜	飯山高校１年	16'17"2
	スキー	少年男子	クロスカントリー　リレー４×10㎞			１：44'16"6
				湯本　幸耶	山ノ内中学校３年	25'41"3
				外谷　涼太	飯山高校２年	25'46"9
				渡邉　万葉	中野立志館高校３年	26'05"3
				笠原　　陸	中野立志館高校３年	26'43"0
５位	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	富井　雪奈	長野俊英高校２年	1'26"84
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	栗田　力樹	白馬高校３年	90.4
	スキー	成年男子Ｃ	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大山　勝広	中野土建㈱	14'54"6
	スキー	成年男子	クロスカントリー　リレー４×10㎞			１：44'45"0
				小林　比呂	日本大学３年	25'41"7
				本間　有次	立命館大学２年	25'14"9
				湯本　啓太	早稲田大学３年	27'54"6
				関　　真二	関英ドライブイン	25'53"7
	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	中村　優斗	明治大学１年	Jump　102.2
						CC　30'30"0
６位	スキー	成年男子Ａ	コンバインド	山本　涼太	早稲田大学１年	Jump　83.4
						CC　29'16"8
７位	スキー	成年男子Ｃ	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'16"68
	スキー	成年女子Ａ	ジャイアントスラローム	野々山颯絵	日本体育大学２年	1'19"73
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	武田　典子	志賀高原スキークラブ	1'24"68
	スキー	成年男子Ａ	スペシャルジャンプ	中村　優斗	明治大学１年	90.1
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	内田　夢加	中野立志館高校３年	16'27"9
	スキー	少年男子	コンバインド	松沢　大翔	白馬高校１年	Jump　67.9

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
７位						CC　30'37"7
８位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	中澤　真緒	早稲田大学３年	1'19"86
	スキー	成年女子Ｂ	ジャイアントスラローム	太田　芽依	信州ハム㈱	1'25"17
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	渡辺　愛珠	同志社大学１年	16'37"1
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	湯本　幸耶	山ノ内中学校３年	29'09"0
	スキー	成年男子A	コンバインド	上村　亮介	白馬村スキークラブ	Jump　71.7 CC　28'40"1
	スキー	成年男子Ｂ	コンバインド	荻原　健司	北野建設㈱スキークラブ	Jump　47.9 CC　15'39"0
９位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小山　　慧	地球環境高校１年	1'31"95
10位	スキー	少年男子	コンバインド	北村健士郎	白馬高校３年	Jump　63.2 CC　30'49"1

第73回（平成30年）本大会　　開催地：福井県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	水泳（アーティス）	少年女子	デュエット	藤原　茉那 和田　彩未	つくば開成学園高校３年 戸倉上山田中学校３年	169.4033点
	水泳（競泳）	成年女子	50m自由形	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	25秒26
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル97kg級	塩川　貫太	クリナップ	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル51kg級	佐々木風雅	上田西高校２年	
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	減点0(1分７秒89)
	馬術	成年女子	トップスコア	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1680点
	弓道	成年男子	遠的	清水　北登 小田切祐典 蟹澤　史弥	㈱竹内製作所 信州味噌㈱ ルビコンエンジニアリング㈱	78点
	弓道	成年女子	遠的	竹花　　葵 馬場　絢音 藤澤　敏恵	㈱タジマ箱畳工場 ㈱北澤電機製作所 新光電気工業㈱	77点
	弓道	少年男子	遠的	蟹澤　契太 籠田　真輝 松木　航也	駒ヶ根工業高校３年 塩尻志学館高校３年 長野南高校３年	73点
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル三姿勢60発	砥石　真衣	日立システムズ	452.1点
２位	陸上競技	少年男子B	3000m	伊藤　大志	佐久長聖高校１年	8分27秒32
	水泳（競泳）	成年女子	100m自由形	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	55秒30
	弓道		男女総合			58.5点
３位	バレーボール	少年男子	6人制		松本国際高校	
	体操	少年女子	少年女子団体	松村　朱里 坂口　彩夏 原田野乃花 桐原　楓乃 國府方杏月	大町岳陽高校３年 大町岳陽高校１年 大町岳陽高校１年 会田中学校３年 大町第一中学校３年	215.500点
	バスケットボール	成年男子				
	レスリング	少年男子	フリースタイル92kg級	伊藤　慧亮	小諸商業高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル71kg級	稲葉　洋人	上田西高校３年	
	弓道	成年女子	近的	竹花　　葵 馬場　絢音 藤澤　敏恵	㈱タジマ箱畳工場 ㈱北澤電機製作所 新光電気工業㈱	5中
４位	陸上競技	成年男子	三段跳	石川　和義	長野吉田ＡＣ	16m07

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
４位	陸上競技	少年女子共通	三段跳	宮澤　　歩	諏訪二葉高校３年	12m23
	ボート	少年男子	舵手つきクォドルプル	小林　怜矢	岡谷南高校３年	3分29秒98
				藤森　　翼	下諏訪向陽高校３年	
				進藤　大知	東海大諏訪高校３年	
				丸山　裕生	下諏訪向陽高校３年	
				武居　俊樹	岡谷東高校３年	
	自転車	少年男子	1㎞タイムトライアル	菊池　岳仁	岡谷南高校３年	1分６秒676
	馬術		女子総合			26点
	弓道		女子総合			31.5点
	アーチェリ	少年女子	団体	滝澤　由麻	上田東高校２年	
				戸谷恵理奈	上田東高校２年	
				金井　美来	上田東高校３年	
５位	陸上競技	少年女子B	100mH	土屋ほのか	軽井沢中学校３年	13秒83
	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	石坂　夏鈴	神奈川大学３年	2分14秒29
	水泳（飛込）	成年男子	飛板飛込	長谷川英治	長野西高校教員	353.90点
	サッカー	女子				
	サッカー		女子総合			30点
	ボクシング	少年男子	ミドル級	佐藤　文哉	さくら国際高校３年	
	バレーボール	成年男子	6人制			
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル77kg級	小林　隆介	佐久広域連合消防本部	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル130kg級	白鳥　慶樹	日本体育大学３年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル60kg級	大橋　寛介	上田西高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル80kg級	高橋　信晃	小諸高校３年	
	自転車	成年男子	ケイリン	堀江　省吾	信州大学４年	
	自転車	成年男子	個人ロード・レース	小出　　樹	京都産業大学１年	2時間29分41秒７
	馬術	少年	二段階障害飛越	小泉　徳馬	軽井沢町立軽井沢中学校３年	減点０(26秒36)
	ソフトボール	成年女子			大和電機工業㈱	
	空手道	成年女子	形	宇海　水稀	帝京大学２年	
	空手道	少年女子	形	相川　夏凜	松本第一高校２年	
６位	陸上競技	成年女子	走高跳	小野　美紗	日本女子体育大学４年	1m72
	陸上競技	少年女子共通	800m	藤岡　緩奈	東海大学付属諏訪高校３年	2分14秒41
７位	陸上競技	成年女子	1500m	和田　有菜	名城大学１年	4分21秒34
	陸上競技	少年女子A	3000m	萩谷　　楓	長野東高校３年	9分17秒96
	水泳（競泳）	成年女子	4×100mメドレーリレー	北原麻里愛	上田第一中学校３年	4分９秒80
				石坂　夏鈴	神奈川大学３年	
				望月　　恵	新潟医療福祉大学４年	
				佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	
	バレーボール		男女総合			57.5点
	馬術	少年	馬場馬術	飯田　琉王	長野清泉女学院高校２年	60.117点
８位	陸上競技	成年女子	やり投	井口　華穂	新潟医療福祉大学大学院１年	51m15
	陸上競技	成年女子	5000m競歩	溝口友己歩	早稲田大学３年	22分59秒58
	陸上競技	少年男子共通	5000m競歩	鈴木　英司	長野工業高校３年	20分49秒58
	水泳（競泳）	成年女子	4×50mフリーリレー	佐藤　　綾	新潟医療福祉大学職員	1分45秒77
				佐藤　優香	パティスリー・ヒラノ	
				石坂　夏鈴	神奈川大学３年	
				望月　　恵	新潟医療福祉大学４年	
	水泳（競泳）	少年女子B	100mバタフライ	山岸　琴美	広陵中学校３年	1分２秒26
	水泳		女子総合			56.5点

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	ボート	少年女子	ダブルスカル	武井　愛奈 朝倉　歌星	諏訪清陵高校２年 下諏訪向陽高校３年	3分51秒15
	体操		女子総合			40点
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	56kg級クリーン＆ジャーク	河尻隆之介	法政大学３年	119
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	成年男子	56kg級トータル	河尻隆之介	法政大学３年	207
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	53kg級クリーン＆ジャーク	安保　充樹	松商学園高校３年	101
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	53kg級トータル	安保　充樹	松商学園高校３年	181
	ｳｴｲﾄﾘﾌﾃｨﾝｸﾞ	少年男子	56級スナッチ	稗田　琉玖	松商学園高校２年	84
	馬術	少年	自由演技馬場馬術	飯田　琉王	長野清泉女学院高校２年	61.450点
	フェンシング	成年男子	フルーレ	河西　遼太 赤羽　郁海 平松　竜成	箕輪町役場 慶応義塾大学４年 箕輪町役場	
	ソフトボール		女子総合			30点
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル伏射60発	砥石　真衣	日立システムズ	612.2点

第73回（平成30年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：山梨県・神奈川県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年女子	スピード1500m	辻本　有沙	㈱電算	2'01"59
	スケート	成年女子	スピード1000m	辻本　有沙	㈱電算	1'19"33
	スケート	成年女子	スピード2000mR	松澤優花里 松本　芽依 樋　　沙織 辻本　有沙	大東文化大学４年 信州大学１年 日本電産サンキョー㈱ ㈱電算	2'45"73
	スケート	少年男子	スピード5000m	原　　泰	小海高校２年	6'38"27
	スケート	少年女子	スピード1500m	小山　香月	長野東高校２年	2'05"46
	スケート	成年女子	ショート3000mR	小池　佑奈 山浦美和子 水野　彩萌 菊池　萌水	中京大学３年 佐久大学１年 萌木の村㈱ 稲門スケートクラブ	4'22"789
	スケート	少年男子	ショート1000m	小池　克典	岡谷南高校２年	1'34"530
	スケート	少年男子	ショート500m	小池　克典	岡谷南高校２年	42"103
２位	スケート	成年男子	スピード5000m	伊藤　貴裕	日本大学３年	6'40"04
	スケート	成年男子	スピード2000mR	牛山　紘貴 小島　良太 小林　寛和 中村　健斗	日本大学４年 信州大学１年 東洋大学３年 原村体育協会	2'22"59
	スケート	成年女子	スピード500m	松澤優花里	大東文化大学４年	39"65
	スケート	成年女子	スピード3000m	樋　　沙織	日本電産サンキョー㈱	4'13"19
	スケート	少年男子	スピード500m	原　　眞尋	佐久長聖高校３年	37"56
	スケート	少年男子	スピード1000m	倉坪　克拓	岡谷南高校１年	1'16"90
	スケート	少年男子	スピード5000m	高見澤光希	小海高校３年	6'43"94
	スケート	少年男子	スピード2000mR	倉坪　克拓 菊池　岳仁 柳沢健太郎 原　　眞尋	岡谷南高校１年 岡谷南高校２年 佐久長聖高校２年 佐久長聖高校３年	2'29"57
	スケート	成年女子	ショート1000m	山浦美和子	佐久大学１年	1'36"301
	スケート	少年男子	ショート1000m	林　　伊吹	地球環境高校１年	1'34"647
３位	スケート	少年男子	スピード10000m	原　　泰	小海高校２年	14'07"61

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スケート	少年女子	スピード1500m	藤森　優衣	東海大諏訪高校３年	2'10"54
	スケート	少年女子	スピード1000m	両角ほのか	東海大諏訪高校２年	1'21"55
	スケート	少年女子	スピード3000m	小山　香月	長野東高校２年	4'13"09
	スケート	成年男子	ショート500m	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	42"562
	スケート	成年男子	ショート5000mR	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	7'27"762
				菊池　浩樹	山梨学院大学３年	
				篠原　克哉	明治大学１年	
				菊池　哲平	山梨学院大学４年	
	スケート	成年女子	ショート500m	山浦美和子	佐久大学１年	44"976
４位	スケート	少年女子	スピード500m	両角　有乃	東海大諏訪高校１年	41"85
	スケート	成年女子	ショート1000m	小池　佑奈	中京大学３年	1'36"425
	スケート	少年男子	ショート500m	林　　伊吹	地球環境高校１年	43"412
５位	スケート	少年女子	スピード500m	小林　瑠果	岡谷南高校３年	42"56
	スケート	少年女子	スピード3000m	土屋　　実	佐久長聖高校３年	4'16"73
	アイスホッケー	成年		長野県選抜		
６位	スケート	成年男子	スピード1500m	土屋　　陸	日本電産サンキョー㈱	(1'56"37)
	スケート	少年男子	スピード500m	倉坪　克拓	岡谷南高校１年	37"59
７位	スケート	成年男子	スピード5000m	土屋　　陸	日本電産サンキョー㈱	(7'06"91)
	スケート	成年女子	ショート500m	小池　佑奈	中京大学３年	47"225
	スケート	少年女子	ショート1000m	篠原　理沙	小海高校１年	1'40"613
８位	スケート	成年男子	スピード1500m	小島　良太	信州大学１年	(1'57"16)
	スケート	少年男子	スピード10000m	杉田　駿介	長野東高校３年	(15'05"13)
	スケート	少年男子	スピード1500m	伊藤　誠悟	屋代高校２年	(2'15"44)

第73回（平成30年）冬季大会　スキー　　開催地：新潟県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	清水　　大	小賀坂SC＋SSN	1'04"28
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	富井　雪奈	長野俊英高校３年	1'06"23
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	レンティング陽	TEAM　AKIRA	26'58"9
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	滝沢こずえ	早稲田大学４年	16'14"5
	スキー	女子	クロスカントリー　リレー４×５㎞			57'35"6
				小林　志織	飯山高校３年	14'25"2
				祖父江　凜	飯山高校２年	13'51"1
				宮崎日香里	日本体育大学１年	14'41"7
				滝沢こずえ	早稲田大学４年	14'37"5
２位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	河野　恭介	野沢温泉SC＋SSN	1'04"97
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	作山　憲斗	北野建設㈱スキークラブ	234.5
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	宮崎日香里	日本体育大学１年	16'24"3
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	郷津　知哉	白馬高校２年	28'36"2
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	祖父江　凜	飯山高校２年	16'14"3
	スキー	成年男子A	コンバインド	傳田　英郁	早稲田大学３年	Jump　107.5
						CC　24'45"1
	スキー	少年男子	コンバインド	畔上　祥吾	飯山高校１年	Jump　87.5
						CC　26'14"5
３位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小山　　慧	地球環境高校２年	42"97
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	水谷　美穂	開田中学校３年	1'07"51
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	永峯　寿樹	明治大学３年	226
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	柏原　暢仁	自衛隊体育学校	28'07"0

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	渡邉　祐佳	早稲田大学３年	16'32"8
	スキー	成年女子B	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大塚　裕華	白馬村SC＋SSN	17'10"3
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	湯本　幸耶	中野立志館高校１年	28'42"7
４位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	小林　竜登	日本大学４年	1'05"13
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　志織	飯山高校３年	16'40"7
５位	スキー	成年男子	クロスカントリー　リレー４×10㎞			1:56'32"5
				内田亜汰瑠	東京農業大学３年	28'30"8
				馬場　直人	専修大学３年	28'20"0
				レンティング陽	TEAM　AKIRA	28'59"1
				柏原　暢仁	自衛隊体育学校	30'42"5
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	松村　恵吾	飯山高校３年	28'45"4
	スキー	少年男子	コンバインド	松沢　大翔	白馬高校２年	Jump　86.0
						CC　26'31"7
６位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	田島あづみ	小賀坂スキークラブ	1'01"94
	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	後村　茜	志賀高原スキークラブ	1'07"28
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	猪股　優	飯山高校３年	43"12
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	松沢　大翔	白馬高校２年	220.5
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	山田　琢也	スポーツハイム　アルプ	15'16"1
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	笠原　ひな	中野立志館高校２年	16'53"3
	スキー	成年男子A	コンバインド	永峯　寿樹	明治大学３年	Jump　120.0
						CC　26'27"3
	スキー	成年男子B	コンバインド	荻原　健司	北野建設㈱スキークラブ	Jump　71.0
						CC　14'22"4
８位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	三上　正人	小賀坂スキークラブ	1'05"82
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小柳　一葉	長野俊英高校２年	43"39
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	服部　正秋	国際自然環境アウトドア専門学校	15'17"4
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	芳川　千恵	飯山高校１年	16'55"8
	スキー	成年男子A	コンバインド	中村　優斗	明治大学３年	Jump　114.0
						CC　26'29"5

第74回（令和元年）本大会　　開催地：茨城県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	陸上競技	成年女子	1500m	萩谷　楓	エディオン	4分17秒71
	水泳（競泳）	少年女子B	100mバタフライ	山岸　琴美	飯田女子高校１年	59秒62
	水泳（アーティス）	少年女子	デュエット	和田　彩未	上田西高校１年	162.9462点
				小林　唄	長野南高校２年	
	ボート	少年男子	シングルスカル	近藤　海斗	下諏訪向陽高校２年	3分44秒79
	ボート	少年女子	シングルスカル	武井　愛奈	諏訪清陵高校３年	4分35秒70
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル三姿勢120発	砥石　真衣	㈱日立システムズ	452.7点
	クレー射撃	成年	トラップ	遠山　哲治	(一社) 長野県林業コンサルタント協会	268点
				山本　清文	大国屋	
				大内　智善	ログコテージ霧ヶ峰	
	クレー射撃		総合			43点
２位	陸上競技	成年男子	10000m競歩	藤澤　勇	ＡＬＳＯＫ	39分58秒15
	水泳（競泳）	成年女子	100m自由形	佐藤　綾	新潟医療福祉大学職員	54秒41
	水泳（競泳）	成年女子	50m自由形	佐藤　綾	新潟医療福祉大学職員	25秒01
	体操	少年女子	少年女子団体	坂口　彩夏	大町岳陽高校２年	214.050点
				國府方杏月	大町岳陽高校１年	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				原田野乃花 勝野　沙夏 川口　　海	大町岳陽高校２年 大町第一中学校３年 大町第一中学校３年	
	レスリング	成年男子	グレコローマンスタイル97kg級	塩川　貫太	クリナップ	
	レスリング	少年男子	フリースタイル55kg級	佐々木風雅	上田西高校３年	
	自転車	成年男子	ポイント・レース	小出　　樹	京都産業大学２年	46
	ライフル射撃	成年女子	50mライフル伏射60発	砥石　真衣	㈱日立システムズ	618.3点
３位	陸上競技	少年男子Ａ	5000m	伊藤　大志	佐久長聖高校２年	14分１秒18
	陸上競技	成年女子	5000m	和田　有菜	名城大学２年	15分40秒21
	陸上競技	成年少年男子共通	4×100mリレー	中野　涼介 デーデー　ブルーノ 落合華七斗 越山　遥斗	筑波大学大学院１年 東海大学２年 安曇野市立堀金中学校３年 松本工業高校３年	40秒06
	バレーボール	少年男子	6人制			
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル60kg級	曽根敬次郎	上田西高校３年	
	レスリング	少年男子	グレコローマンスタイル125kg級	西川　大智	上田西高校２年	
４位	陸上競技	少年男子共通	800m	二見　優輝	諏訪清陵高校２年	1分50秒79
	ウエイトリフティング	少年男子	61kg級スナッチ	横山幸次郎	松商学園高校３年	89
	ウエイトリフティング	少年男子	61kg級トータル	横山幸次郎	松商学園高校３年	197
	馬術	成年女子	トップスコア	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	1140点
	弓道	成年女子	遠的	飯野　　葵 木下　佑紀 藤澤　敏恵	㈱ライト光機製作所 前澤病院 新光電気工業㈱	
	クレー射撃	成年	トラップ個人	大内　智善	ログコテージ霧ヶ峰	92点
５位	体操		女子総合			55点
	バスケットボール	成年男子				
	レスリング	成年男子	フリースタイル61kg級	大橋　寛介	日本大学１年	
	レスリング	少年男子	フリースタイル51kg級	井出　大晟	上田西高校２年	
	ウエイトリフティング	少年男子	55kg級スナッチ	稗田　琉玖	松商学園高校３年	86
	馬術	成年女子	標準障害飛越	佐藤　　泰	明松寺馬事公苑	減点0(1分18秒53)
	空手道	成年男子	形	杉野　拓海	㈱ライジングトラスト	
	空手道	成年女子	形	宇海　水稀	帝京大学３年	
	クレー射撃	成年	スキート個人	清水　裕樹	長野県警察本部	91点
６位	陸上競技	成年男子	三段跳	中山　昂平	渡辺パイプ	16m02
	軟式野球	成年男子				
	クレー射撃	成年	スキート団体	清水　裕樹 布野　康介 塚田　政光	長野県警察本部 ㈱布野恵だるま店 ㈱ODS	253点
７位	陸上競技	成年女子	5000m競歩	溝口友己歩	早稲田大学４年	22分50秒17
	体操（新体操）	少年女子	少年女子総合	伊東　葉月 谷口莉々夏 高野　里香 中浦　玲楠 小平はるか	伊那西高校３年 伊那西高校３年 松商学園高校３年 伊那西高校３年 伊那西高校３年	31.7875点
	ウエイトリフティング	少年男子	55kg級トータル	稗田　琉玖	松商学園高校３年	187
	ウエイトリフティング	少年男子	61kg級クリーン＆ジャーク	横山幸次郎	松商学園高校３年	108
	ウエイトリフティング	少年男子	＋102kg級スナッチ	良波　快陸	松商学園高校３年	111
	馬術	成年女子	ダービー	佐々ゆかり	南長野医療センター篠ノ井総合病院	減点4(1分37秒72)
	ゴルフ	女子	個人	市村　　杏	佐久長聖高校１年	142
８位	陸上競技	少年男子B	3000m	山川　拓馬	上伊那農業高校１年	8分25秒25

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
８位	水泳（競泳）	成年女子	200m個人メドレー	石坂　夏鈴	神奈川大学４年	2分14秒89
	ウエイトリフティング	少年男子	55kg級クリーン＆ジャーク	稗田　琉玖	松商学園高校３年	101
	弓道	成年男子	近的	清水　北登 小田切祐典 蟹澤　史弥	㈱竹内製作所 フジタホームサービス 公益財団法人シルバー人材センター	5中
	スポーツクライミング	少年女子	ボルダリング	中嶋　　諒 川嶋すず菜	松商学園高校１年 大町岳陽高校１年	
	アーチェリー	少年女子	個人	戸谷恵理奈	上田東高校３年	576

第74回（令和元年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード1000m	小島　良太	信州大学	1'11"00
	スケート	少年男子	スピード10000m	三井　晃太	都市大塩尻高校	14'12"83
	スケート	少年男子	スピード1000m	大門　飛路	岡谷東高校	1'12"75
	スケート	少年男子	スピード5000m	松本　一成	諏訪実業高校	6'42"13
	スケート	少年女子	スピード1000m	両角ほのか	東海大諏訪高校	1'22"92
	スケート	少年女子	スピード3000m	福岡　歩里	東海大諏訪高校	4'18"29
	スケート	成年女子	ショート3000mR	山浦美和子 小池　佑奈 水野　彩萌 岩下　　楓	佐久大学 中京大学 萌木の村 山梨学院大学	4'37"450
２位	スケート	少年男子	スピード10000m	松本　一成	諏訪実業高校	14'12"92
	スケート	少年女子	スピード1500m	福岡　歩里	東海大諏訪高校	2'08"44
	スケート	少年女子	スピード3000m	百瀬　愛美	岡谷東高校	4'19"16
	スケート	少年女子	スピード2000mR	高橋　莉子 矢澤　明里 福岡　歩里 両角ほのか	小海高校 長野日大高校 東海大諏訪高校 東海大諏訪高校	2'45"61
	スケート	成年女子	ショート1000m	山浦美和子	佐久大学	1'39"813
	スケート	成年女子	ショート500m	山浦美和子	佐久大学	46"396
	スケート	少年男子	ショート1000m	小池　克典	岡谷南高校	1'34"641
	スケート	少年男子	ショート500m	小池　克典	岡谷南高校	42"771
	スケート	少年女子	ショート500m	篠原　理沙	小海高校	47"865
３位	スケート	少年男子	スピード2000mR	菊池　岳仁 油井威一郎 伊藤　誠悟 大門　飛路	岡谷南高校 市立長野高校 屋代高校 岡谷東高校	2'29"48
	スケート	少年女子	スピード500m	両角ほのか	東海大諏訪高校	42"10
	スケート	成年女子	ショート1000m	小池　佑奈	中京大学	1'39"907
４位	スケート	少年男子	スピード500m	菊池　岳仁	岡谷南高校	37"46
	スケート	少年男子	スピード5000m	伊藤　誠悟	屋代高校	7'04"34
	スケート	成年女子	ショート500m	小池　佑奈	中京大学	46"734
	スケート	少年男子	ショート1000m	林　　伊吹	地球環境高校	1'35"493
５位	スケート	成年男子	スピード2000mR	小林　寛和 向山　恭平 原　　眞尋 小島　良太	東洋大学 明治大学 山梨学院大学 信州大学	2'26"54
	スケート	成年女子	スピード3000m	賀来　真穂	大東文化大学	4'20"67
	スケート	少年男子	スピード1500m	伊藤　誠悟	屋代高校	(1'54"11)

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
６位	スケート	少年男子	スピード1000m	菊池　岳仁	岡谷南高校	(1'16"20)
	スケート	少年男子	スピード500m	油井威一郎	市立長野高校	38"35
	スケート	少年男子	ショート500m	林　　伊吹	地球環境高校	45"214
	スケート	少年女子	ショート1000m	篠原　理沙	小海高校	1'53"437
７位	スケート	少年女子	スピード500m	高橋　莉子	小海高校	57"81
	スケート	成年男子	ショート5000mR	伊藤　雅敏	㈱帝産ロッジ	7'50"163
				古屋　憲吾	帝産クラブ	
				篠原　克哉	明治大学	
				岩下　　稜	専修大学	
８位	アイスホッケー	少年		長野県選抜		

第74回（令和元年）冬季大会　スキー　　開催地：北海道

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	女子	クロスカントリー　４×５㎞			57'36"5
				今溝陽名子	飯山高校	14'59"0
				祖父江　凜	飯山高校	14'09"6
				渡邉　祐佳	早稲田大学	14'19"5
				小林　千佳	早稲田大学	14'08"4
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	沓掛　隼士	飯山高校	28'09"8
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	祖父江　凜	飯山高校	15'43"3
２位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	傳田　英郁	早稲田大学	232
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:41'19"9
				栗林　和希	中央大学	25'54"8
				岡村　慧胤	早稲田大学	25'09"4
				柏原　暢仁	自衛隊体育学校	24'31"8
				上村　亮介	さくら不動産＋SSN	25'43"9
	スキー	成年女子B	クロスカントリー　クラシカル５㎞	大塚　裕華	白馬村SC＋SSN	15'59"1
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	髙橋　汰門	飯山高校	28'17"3
	スキー	成年男子A	コンバインド	傳田　英郁	早稲田大学	Jump　117.5
						CC　27'04"5
３位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	川浦あすか	長野市スキークラブ	1'13"88
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	横内　真晴	飯山高校	1'17"27
	スキー	成年男子A	コンバインド	山本　涼太	早稲田大学	Jump　113.0
						CC　26'58"3
	スキー	少年男子	コンバインド	山本　侑弥	飯山高校	Jump　96.0
						CC　27'23"7
４位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	野々山颯絵	日本体育大学	1'12"17
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	小山　　慧	地球環境高校	1'11"22
	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	松沢　大翔	白馬高校	218.5
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	柏原　暢仁	自衛隊体育学校	27'58"9
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　千佳	早稲田大学	15'39"6
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	郷津　知哉	白馬高校	28'30"9
５位	スキー	少年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:53'15"4
				沓掛　隼士	飯山高校	28'59"9
				小林　皓生	飯山高校	27'33"5
				笠原　　将	中野立志館高校	28'33"4
				髙橋　汰門	飯山高校	28'08"6
６位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	嶋田　健人	日本大学	1'07"59

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
6位	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'09"77
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	浦野　裕之	飯山市立戸狩小学校（教）	15'07"3
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	渡邉　祐佳	早稲田大学	15'58"3
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	笠原　ひな	中野立志館高校	16'47"9
	スキー	成年男子B	コンバインド	上村　亮介	さくら不動産＋SSN	Jump　64.0 CC　13'03"0
	スキー	少年男子	コンバインド	畔上　祥吾	飯山高校	Jump　81.0 CC　27'18"4
7位	スキー	成年男子B	ジャイアントスラローム	塩田　大喬	㈱高見澤	1'11"09
	スキー	少年女子	ジャイアントスラローム	千國　楓花	白馬高校	1'18"13
	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	永峯　寿樹	明治大学	207.5
	スキー	成年男子B	コンバインド	荻原　健司	北野建設㈱スキークラブ	Jump　63.0 CC　14'57"9
8位	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	薄井　理央	飯山高校	1'12"55
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	服部　正秋	国際自然環境アウトドア専門学校	15'16"9
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	今溝陽名子	飯山高校	16'59"1

第75回（令和２年）本大会　　開催地：鹿児島県

※新型コロナウイルス感染症の影響により、令和５年に延期

第75回（令和２年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：青森県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
1位	スケート	成年女子	スピード1500m	辻本　有沙	株式会社電算	1'57"91
	スケート	成年女子	スピード3000m	辻本　有沙	株式会社電算	4'00"10
	スケート	少年男子	スピード500m	倉坪　克拓	岡谷南高校	35"98
	スケート	少年女子	スピード1500m	福岡　歩里	東海大諏訪高校	2'06"43
	スケート	少年女子	スピード1000m	宮川　鈴佳	長野東高校	1'19"36
	スケート	少年女子	スピード3000m	花岡　瑚徒	岡谷南高校	4'08"84
	スケート	成年男子	ショート1000m	菊池　哲平	帝産クラブ	1'34"313
	スケート	成年男子	ショート500m	菊池　哲平	帝産クラブ	43"419
	スケート	成年男子	ショート5000mR	新井　雄貴 菊池　哲平 原　　泰 大門　飛路 篠原　克哉	日本大学 帝産クラブ 大東文化大学 日本大学 明治大学	8'06"603
	スケート	成年女子	ショート500m	山浦美和子	佐久大学	45"706
	スケート	成年女子	ショート3000mR	細田　京香 辻中　杏奈 小池　佑奈 岩下　　楓 山浦美和子	山梨学院大学 塩尻市体育協会 中京大学 山梨学院大学 佐久大学	4'40"706
2位	スケート	成年男子	スピード500m	羽賀　亮平	日本電産サンキョー株式会社	35"78
	スケート	少年男子	スピード2000mR	倉坪　克拓 原　　純夢 高見澤匠冴 三井　晃太	岡谷南高校 佐久長聖高校 小海高校 都市大塩尻高校	2'21"63
	スケート	少年女子	スピード1500m	宮川　鈴佳	長野東高校	2'06"59
	スケート	少年女子	2000mR	上條　真綺	松本国際高校	2'40"34

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				清水　叶華	伊那西高校	
				両角　有乃	東海大諏訪高校	
				福岡　歩里	東海大諏訪高校	
３位	スケート	成年女子	スピード500m	上鹿渡双葉	信州大学	50"55
	スケート	少年男子	スピード10000m	吉澤　柊威	小海高校	(13'00"91)
	スケート	少年男子	スピード1000m	倉坪　克拓	岡谷南高校	1'41"82
	スケート	少年男子	スピード5000m	三井　晃太	都市大塩尻高校	(6'30"34)
	スケート	成年女子	ショート1000m	小池　佑奈	中京大学	1'41"804
	スケート	少年男子	ショート500m	林　　航輝	下諏訪向陽高校	43"816
４位	スケート	少年男子	スピード500m	高見澤匠冴	小海高校	50"38
５位	スケート	成年男子	ショート1000m	新井　雄貴	日本大学	1'58"828
	スケート	少年男子	ショート1000m	林　　航輝	下諏訪向陽高校	1'39"723
６位	スケート	成年男子	スピード5000m	伊藤　貴裕	日本電産サンキョー株式会社	(6'23"41)
	スケート	少年女子	スピード500m	清水　叶華	伊那西高校	40"69
	スケート	少年女子	スピード1000m	福岡　歩里	東海大諏訪高校	1'20"62
	スケート	成年女子	ショート500m	小池　佑奈	中京大学	47"508
	アイスホッケー	成年		長野県選抜		
７位	スケート	成年女子	スピード3000m	小山　香月	日本電産サンキョー株式会社	4'01"25
	スケート	少年男子	スピード10000m	今井　寛人	佐久長聖高校	(13'01"01)
	スケート	少年男子	スピード1500m	笛木　陽空	岡谷南高校	1'58"53
	スケート	少年男子	スピード1000m	原　　純夢	佐久長聖高校	(1'13"28)
	スケート	少年女子	スピード500m	上條　真綺	松本国際高校	40"81
	スケート	少年男子	ショート1000m	北原　伊吹	岡谷東高校	1'41"701
８位	スケート	成年男子	スピード1500m	伊藤　誠悟	早稲田大学	1'49"30
	スケート	成年男子	スピード5000m	杉田　駿介	高崎健康福祉大学	(6'24"52)
	スケート	少年男子	スピード1500m	三井　晃太	都市大塩尻高校	2'01"21
	スケート	少年男子	スピード5000m	笛木　陽空	岡谷南高校	6'46"49

第75回（令和２年）冬季大会　スキー　　開催地：富山県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	久保田　拓	慶応義塾大学	58"58
	スキー	少年男子	コンバインド	西方　優人	飯山高校	Jump　98.0
						CC　31'33"8
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	湯本　幸耶	中野立志館高校	28'37"8
	スキー	女子	クロスカントリー　４×５㎞			56'07"8
				祢津　利宝	飯山高校	14'30"6
				中島　果歩	飯山高校	14'08"2
				宮崎日香里	日本体育大学	14'02"7
				小林　千佳	早稲田大学	13'26"3
	スキー	少年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:43'21"5
				沓掛　隼士	飯山高校	26'11"7
				小島　宙輝	飯山高校	25'44"5
				湯本　幸耶	中野立志館高校	25'25"5
				小林　皓生	飯山高校	25'59"8
２位	スキー	成年男子A	ジャイアントスラローム	嶋田　健人	日本大学	58"73
	スキー	少年男子	コンバインド	中澤　拓哉	飯山高校	Jump　96.5
						CC　31'29"0
	スキー	成年男子C	クロスカントリー　クラシカル５㎞	成瀬　野生	白馬村スキークラブ	15'58"8
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	祢津　利宝	飯山高校	17'19"6

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
３位	スキー	成年男子A	スペシャルジャンプ	永峯　寿樹	明治大学	237.5
	スキー	成年男子B	コンバインド	上村　亮介	さくら不動産	Jump　90.5 CC　14'55"7
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	沓掛　隼士	飯山高校	28'50"2
４位	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	小林　千佳	早稲田大学	16'32"5
	スキー	少年男子	クロスカントリー　クラシカル10㎞	小島　宙輝	飯山高校	29'00"1
５位	スキー	成年男子Ｂ	ジャイアントスラローム	清水　　大	小賀坂スキークラブ	1'02"53
	スキー	成年男子C	ジャイアントスラローム	小林晋之介	菅平高原スキークラブ	1'07"30
	スキー	成年男子A	コンバインド	傳田　英郁	早稲田大学	Jump　103.0 CC　30'40"1
６位	スキー	成年女子A	ジャイアントスラローム	髙橋和花菜	日本大学	1'02"52
	スキー	成年男子B	コンバインド	荻原　健司	TWINS	Jump　91.0 CC　16'41"4
	スキー	少年男子	コンバインド	小野沢泰雅	飯山高校	Jump　87.0 CC　32'28"7
７位	スキー	少年男子	スペシャルジャンプ	平田　悠理	白馬高校	178.4
	スキー	成年男子B	クロスカントリー　クラシカル10㎞	関　　真二	関英ドライブイン	31'31"8
	スキー	少年女子	クロスカントリー　クラシカル５㎞	中島　果歩	飯山高校	17'55"1
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	桑原　太陽	上田西高校	59"93
	スキー	少年男子	ジャイアントスラローム	薄井　理央	飯山高校	59"93
８位	スキー	成年女子B	ジャイアントスラローム	芳川　愛実	中野市スキークラブ	1'07"41
	スキー	成年女子A	クロスカントリー　クラシカル５㎞	宮崎日香里	日本体育大学	16'55"6
	スキー	成年男子	クロスカントリー　４×10㎞			1:45'51"6
				栗林　和希	中央大学	25'33"1
				松倉　源帥	中央大学	26'50"9
				髙橋　汰門	中央大学	27'48"7
				上村　亮介	さくら不動産	25'38"9

第76回（令和３年）本大会　　開催地：三重県

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止

第76回（令和３年）冬季大会　スケート・アイスホッケー　　開催地：愛知県・岐阜県

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
１位	スケート	成年男子	スピード500m	倉坪　克拓	日本大学	37"30
	スケート	少年男子	スピード1500m	井出　雄斗	小海高校	1'50"91
	スケート	少年男子	スピード5000m	松本　一成	諏訪実業高校	6'53"53
	スケート	成年女子	ショート1000m	神長　汐音	全日空商事	1'32"214
	スケート	成年女子	ショート3000mR	神長　汐音	全日空商事	
				菊池　悠希	ＡＮＡ	4'15"655
				小池　佑奈	中京大学	大会新
				水野　彩萌	萌木の村　ROCK	
				南里　塔子	帝産クラブ	
２位	スケート	少年男子	スピード1500m	三井　晃太	都市大塩尻高校	1'53"66
	スケート	少年男子	スピード5000m	井出　雄斗	小海高校	7'06"92
	スケート	少年女子	スピード1500m	畠山　雪菜	小海高校	2'05"88
	スケート	少年女子	スピード3000m	福岡　歩里	東海大諏訪高校	4'23"89
	スケート	少年男子	スピード2000mR	五味　春喜	岡谷南高校	2'30"57
				篠原　健人	市立長野高校	

順位	競　技	種　別	種　目	氏　名	所　属	記　録
２位				井出　雄斗	小海高校	
				三井　晃太	都市大塩尻高校	
	スケート	少年女子	スピード2000mR	清水　叶華	伊那西高校	2'48"54
				野明　花菜	岡谷南高校	
				北原　伊織	岡谷東高校	
				宮川　鈴佳	長野東高校	
３位	スケート	成年男子	スピード1500m	伊藤　誠悟	早稲田大学	1'52"99
	スケート	少年男子	スピード10000m	松本　一成	諏訪実業高校	14'19"78
	スケート	少年女子	スピード3000m	畠山　雪菜	小海高校	4'24"77
	スケート	成年女子	ショート1000m	菊池　悠希	ＡＮＡ	1'32"368
	スケート	成年女子	スピード2000mR	両角ほのか	信州大学	2'48"84
				百瀬　愛美	信州上諏訪温泉浜の湯	
				藤原　美来	大東文化大学	
				賀来　真穂	大東文化大学	
４位	スケート	少年男子	スピード500m	五味　春喜	岡谷南高校	37"96
	スケート	少年女子	スピード500m	北原　伊織	岡谷東高校	41"14
	スケート	少年女子	スピード1000m	北原　伊織	岡谷東高校	1'21"97
	スケート	成年男子	ショート500m	菊池　耕太	社会医療法人　恵仁会	41"202
	スケート	成年女子	ショート500m	菊池　悠希	ＡＮＡ	45"657
	スケート	少年男子	ショート500m	林　　康正	地球環境高校	43"501
５位	スケート	成年男子	スピード1000m	久保　向希	日本電産サンキョー株式会社	(1'12"16)
	スケート	成年女子	スピード1000m	両角ほのか	信州大学	(1'21"01)
	スケート	成年女子	スピード1500m	賀来　真穂	大東文化大学	2'08"57
	スケート	成年女子	スピード3000m	小山　香月	日本電産サンキョー株式会社	4'26"01
	スケート	少年男子	スピード500m	篠原　健人	市立長野高校	38"84
	スケート	少年男子	スピード1000m	三井　晃太	都市大塩尻高校	(1'14"89)
	スケート	少年女子	スピード1000m	宮川　鈴佳	長野東高校	(1'20"94)
	スケート	少年男子	ショート1000m	林　　康正	地球環境高校	1'36"075
６位	スケート	少年男子	スピード10000m	今井　寛人	佐久長聖高校	(14'45"91)
	スケート	少年女子	スピード1500m	宮川　鈴佳	長野東高校	(2'05"78)
７位	スケート	成年女子	スピード500m	両角ほのか	信州大学	41"72
	スケート	成年女子	スピード3000m	百瀬　愛美	信州上諏訪温泉浜の湯	(4'15"91)
８位	スケート	成年女子	スピード1500m	百瀬　愛美	信州上諏訪温泉浜の湯	(2'28"99)

第76回（令和３年）冬季大会　スキー　　開催地：秋田県

※新型コロナウイルス感染症の影響により、中止

3　北信越国民体育大会の成績

回	開催年	開催県	長野	新潟	富山	石川	福井	北信越からの出場権数合計	本県構成比（%）
1	昭和55年	富山県	23	25	20	13	21	102	22.5
2	昭和56年	長野県	30	18	21	13	20	102	29.4
3	昭和57年	福井県	28	16	18	23	18	103	27.2
4	昭和58年	新潟県	32	14	16	24	18	104	30.8
5	昭和59年	石川県	23	19	18	28	17	105	21.9
6	昭和60年	富山県	25	16	17	21	24	103	24.3
7	昭和61年	長野県	30	19	19	23	15	106	28.3
8	昭和62年	福井県	19	21	16	24	22	102	18.6
9	昭和63年	新潟県	36	30	37	49	35	187	19.3
10	平成元年	石川県	41	35	31	63	38	208	19.7
11	平成２年	富山県	40	37	38	61	34	210	19.0
12	平成３年	長野県	65	45	50	－	48	208	31.3
13	平成４年	福井県	40	30	41	70	40	221	18.1
14	平成５年	新潟県	34	39	44	65	42	224	15.2
15	平成６年	石川県	41	29	50	72	34	226	18.1
16	平成７年	富山県	38	26	60	57	43	224	17.0
17	平成８年	長野県	49	29	42	56	46	222	22.1
18	平成９年	福井県	51	25	49	55	44	224	22.8
19	平成10年	新潟県	41	26	58	52	40	217	18.9
20	平成11年	石川県	40	25	82	52	30	229	17.5
21	平成12年	富山県	52	38	－	60	51	201	25.9
22	平成13年	長野県	43	25	79	40	40	227	18.9
23	平成14年	福井県	44	34	64	44	41	227	19.4
24	平成15年	新潟県	44	36	70	47	34	231	19.0
25	平成16年	石川県	42	34	69	48	39	232	18.1
26	平成17年	富山県	36	37	58	56	47	234	15.4
27	平成18年	長野県	38	41	56	59	43	237	16.0
28	平成19年	福井県	36	51	59	53	45	244	14.8
29	平成20年	新潟県	37	67	50	55	50	259	14.3
30	平成21年	石川県	45	－	58	68	49	224	20.1
31	平成22年	富山県	36	54	66	54	38	249	14.5
32	平成23年	長野県	43	53	51	55	44	246	17.5
33	平成24年	福井県	41	51	57	48	51	248	16.5
34	平成25年	新潟県	42	51	47	54	43	237	17.7
35	平成26年	石川県	44	46	55	55	53	253	17.4
36	平成27年	富山県	47	40	50	53	55	245	19.2
37	平成28年	長野県	39	43	52	48	67	249	15.7
38	平成29年	福井県	40	40	46	49	78	253	15.8
39	平成30年	新潟県	49	50	58	70	－	227	21.6
40	令和元年	石川県	39	42	50	53	74	258	15.1
41	令和２年	富山県	新型コロナウイルス感染拡大により開催中止						
42	令和３年	長野県	42	36	44	47	68	237	17.7

第5章

資　料

1 ｜ 歴代役員（昭和61年度～令和３年度）

2 ｜ 長野県スポーツ協会定款

3 ｜ 長野県スポーツ協会倫理規程

4 ｜ 加盟団体及び会員に関する規程

5 ｜ 長野県スポーツ協会中長期計画（令和４年３月制定）

1　長野県スポーツ協会歴代役員一覧

【昭和60・61年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　毛涯修（県副知事）、臼田潔（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、風間和夫（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、片桐匡（県スキー連盟会長）、平松剛（県高等学校体育連盟会長）

常務理事　岡田泉（県体育課長）

理　　事　登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、竹内隆夫（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（スポーツドクター）、片倉真平（県スケート連盟理事長）、小林繁人（県陸上競技協会理事長）、松沢毅（県水泳連盟常任理事）、若尾勝美（県バレーボール協会理事長）、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、野本道夫（県卓球連盟理事長）、松田謙治（県軟式庭球連盟理事長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、水崎亮（県サッカー協会理事）、小林正人（県弓道連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟理事長）、小林靖（県アマチュアレスリング協会理事長）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、清水一郎（長野市体育協会理事長）、宮沢宏昌（松本体育協会副会長）、若林正五（上田市体育協会会長）、征矢才（岡谷市体育協会理事長）、岩崎忠三（須坂市体育協会理事長）、渡辺伊八（県高等学校体育連盟理事長）、守屋立秋（県中学校体育連盟会長）

監　　事　小口一夫、渋谷宏、宮島龍治（学識経験者）

顧　　問　羽田義知、増田正敬、溝上正男（県議会議員）、黒沢三郎（八十二銀行会長）

参　　与　村上正（県教育長）、塚原隆明、酒井盛夫（県教育次長）、猪飼繁友（県体育センター所長）

【昭和62・63年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　毛涯修（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、片桐匡（県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、高橋重造（県高等学校体育連盟会長）

常務理事　渡辺文雄（県体育課長）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、竹内隆夫（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（スポーツドクター）、片倉真平（県スケート連盟理事長）、松澤毅（県水泳連盟常任理事）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、小口正行（県陸上競技協会理事長）、横澤正志(県サッカー協会理事長)、若尾勝美(県バレーボール協会副会長)、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、小林靖（県アマチュアレスリング協会理事長）、松田謙治（県軟式庭球連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟理事長）、野溝和男（県ソフトボール協会理事長）、浜與祐（県弓道連盟会長）、清水一郎（長野市体育協会副会長）、赤羽正久（松本体育協会理事）

理　　事　若林正（上田市体育協会会長）、岩崎忠三（須坂市体育協会理事長）、葛城嘉光（諏訪郡体育協会副会長）、渡辺伊八（県高等学校体育連盟理事長）、西澤昭二（県中学校体育連盟会長）

監　　事　小口一夫、福島康廣、宮島龍治（学識経験者）

顧　　問　羽田義和、増田正敬、溝上正男（県議会議員）、黒沢三郎（八十二銀行相談役）

参　　与　村山正（県教育委員会）、内堀源作、松村好雄（県教育委員会事務局）、牧内哲夫（県体育センター）

【平成元・２年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　毛涯修（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、片桐匡（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、小林仁（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　西村弘（㈶県体育協会）

常務理事　平林源治（県体育課長）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、宮澤宏昌（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（スポーツドクター）、片倉真平（県スケート連盟理事長）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟理事長）、松澤毅（県水泳連盟常任理事）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、小口正行（県陸上競技協会理事長）、横澤正志（県サッカー協会理事）、若尾勝美（㈶県バレーボール協会副会長）、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、小林靖（県アマチュアレスリング協会理事長）、松田謙治（県軟式庭球連盟理事長）、野溝和男（県ソフトボール協会理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、濱與祐（県弓道連盟会長）、郷津勝（県バイアスロン連盟理事）、西沢盛永（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、鈴木康夫（長野市体育協会理事長）、赤羽正久（㈶松本体育協会副会長）、若林正五（㈶上田市体育協会会長）、村松康尾（飯田市体育協会理事長）、石渡友好（中野市体育協会会長）、堀晃（茅野市体育連盟理事長）、両角千明（県高等学校体育連盟理事長）、松見彦平（県中学校体育連盟会長）

監　　事　小口一夫、福島康廣、宮島龍治（学識経験者）

顧　　問　羽田義知、増田正敬、溝上正男（県議会議員）、

黒沢三郎（八十二銀行相談役）

参　　与　樋口太郎（県教育委員会）、古越典雄、宮﨑和順（県教育委員会事務局）、渡辺文雄（県教育委員会体育課）、青柳朝勝（県体育センター）

【平成３・４年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　毛涯修（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、竹内長生（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　西村弘（㈶県体育協会）

常務理事　平林源治（県教育委員会事務局）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、宮澤宏昌（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（スポーツドクター）、片倉真平（県スケート連盟理事長）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟理事長）、青沼秀明（県水泳連盟理事長）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、小口正行（県陸上競技協会理事長）、横澤正志（県サッカー協会理事）、若尾勝美（㈶県バレーボール協会副会長）、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、小林靖（県アマチュアレスリング協会理事長）、松田謙治（県軟式庭球連盟理事長）、野溝和男（県ソフトボール協会理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、濱與祐（県弓道連盟会長）、郷津勝（県バイアスロン連盟理事）、西沢盛永（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、鈴木康夫（㈶長野市体育協会副会長）、赤羽正久（㈶松本体育協会副会長）、若林正五（㈶上田市体育協会会長）、村松康尾（飯田市体育協会理事長）、菊池渡（飯水体育協会会長）、土橋道治（諏訪市体育連盟理事長）、小島功（県高等学校体育連盟理事長）、丸田良平（県中学校体育連盟会長）

監　　事　宮坂頼廣、福島康廣、宮島龍治（学識経験者）

顧　　問　溝上正男（県議会議員）

参　　与　宮﨑和順（県教育委員会）、村松亮勇、田村治夫（県教育委員会事務局）、成沢誓雄（県体育センター）

【平成５・６年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　小山峰男（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、藤澤愛僖（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　岡田泉（㈶県体育協会）

常務理事　西山馥司（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、宮澤宏昌（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（スポーツドクター）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟理事長）、青沼秀明（県水泳連盟理事長）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、小口正行（県陸上競技協会理事長）、渡辺三郎（県サッカー協会副会長）、斎藤治（㈶県バレーボール協会副会長兼専務理事）、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、小林靖（県アマチュアレスリング協会理事長）、松田謙治（県ソフトテニス連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、野溝和男（県ソフトボール協会理事長）、濱與祐（県弓道連盟名誉会長）、郷津勝（県バイアスロン連盟理事）、西沢盛永（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、鈴木康夫（㈶長野市体育協会副会長）、赤羽正久（㈶松本体育協会副会長）、遠藤利治（㈶上田市体育協会会長）、松村康尾（飯田市体育協会理事長）、菊池渡（飯水体育協会会長）、小林逸（諏訪郡体育連盟理事）、山浦正孝（県高等学校体育連盟理事長）、山崎義信（県中学校体育連盟会長）

監　　事　宮坂頼廣、清水澄夫、宮島龍治（学識経験者）

顧　　問　溝上正男（県議会議員）

参　　与　宮﨑和順（県教育委員会）、上原芳晴、田村治夫（県教育委員会事務局）、北田利幸（県体育センター）

【平成７・８年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　池田典隆（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、藤澤愛僖（県高等学校体育連盟会長）

専務理事兼事務局長　平林源治（㈶県体育協会）

常務理事　小林公喜（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、宮澤宏昌（県スポーツ少年団）、中島深水（スポーツドクター）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟副会長）、青沼秀明（県水泳連盟理事長）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、伊藤利博（県陸上競技協会理事長）、平林正光（県サッカー協会理事長）、斎藤治（㈶県バレーボール協会副会長兼専務理事）、中島良夫（県バスケットボール協会副会長）、小林哲夫（県アマチュアレスリング協会副会長）、松田謙治（県ソフトテニス連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、岩崎忠三（県卓球連盟会長）、斎藤節朗（県弓道連盟理事長）、百瀬公基（県バイアスロン連盟）、西沢盛永（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、小林貞雄（県カーリング協会）、宇都宮保（㈶長野市体育協会監事）、赤羽正久（㈶松本体育協会副会長）、遠藤利治（㈶上田市体育協会会長）、村松康尾（㈶飯田市体育協会理事長）、菊池渡

（飯水体育協会会長）、小口悦司（㈶岡谷市体育協会副会長）、山浦正孝（県高等学校体育連盟理事長）、豊田俊司（県中学校体育連盟会長）

監　　事　宮坂頼廣、細谷宣夫、片倉真平（学識経験者）

参　　与　佐藤善處（県教育委員会）、藤井世高、佐久間鉄四郎（県教育委員会事務局）、浦山竜介（県体育センター）

【平成９・10年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　池田典隆（県副知事）、登内英夫（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、本山綱規（県高等学校体育連盟会長）

専務理事兼事務局長　平林源治（㈶県体育協会）

常務理事　小林計正（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、宮澤宏昌（県スポーツ少年団本部長）、中島深水（県スポーツドクター協議会会長）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟副会長）、青沼秀明（県水泳連盟理事長）、中島伸一（県漕艇協会理事長）、伊藤利博（県陸上競技協会理事長）、石田義雄（県サッカー協会副理事長）、杉村彰則（㈶県バレーボール協会専務理事）、中島良夫（県バスケットボール協会顧問）、小林哲夫（県レスリング協会副会長）、松田謙治（県ソフトテニス連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、岩崎忠三（県卓球連盟会長）、斎藤節朗（県弓道連盟副会長）、百瀬公基（県バイアスロン連盟副会長）、保谷秀雄（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、小林貞雄（県カーリング協会理事長）、宇都宮保（㈶長野市体育協会監事）、久保田敏雄（㈶松本体育協会副会長）、油井孝一郎（佐久市体育協会会長）、村松康尾（㈶飯田市体育協会専務理事）、菊池渡（飯水体育協会会長）、堀晃（茅野市体育連盟会長）、布施紀彦（県高等学校体育連盟理事長）、佐藤明次（県中学校体育連盟会長）

監　　事　保科東平、細谷宣夫、赤羽正久（学識経験者）

参　　与　戸田正明（県教育委員会）、藤井世高、宮澤徳富（県教育委員会事務局）、浦山竜介（県体育センター）

【平成11・12年度】

会　　長　吉村午良（県知事）

副 会 長　池田典隆（県副知事）、西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、五味博一（県軟式野球連盟副会長）、本山綱規（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　神津政弘（㈶県体育協会）

常務理事　荒井英彦（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　吉田博美（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長）、丸山庸雄（県スポーツドクター協議会理事長）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟副会長）、青沼秀明（県水泳連盟理事長）、中島伸一（県ボート協会理事長）、城田忠承（長野陸上競技協会理事長）、石田義雄（県サッカー協会理事長）、杉村彰則（㈶県バレーボール協会専務理事）、中島良夫（県バスケットボール協会顧問）、小林哲夫（県レスリング協会副会長）、松田謙治（県ソフトテニス連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、峯村威男（県卓球連盟理事長）、宮澤廣（県弓道連盟会長）、保谷秀雄（県ボブスレー・リュージュ連盟副会長）、小林貞雄（県カーリング協会副会長）、宇都宮保（㈶長野市体育協会監事）、久保田敏雄（㈶松本体育協会副会長）、佐々木治夫（小諸市体育協会会長）、村松康尾（㈶飯田市体育協会専務理事）、菊池渡（飯水体育協会会長）、有賀裕（諏訪市体育連盟副会長）、布施紀彦（県高等学校体育連盟理事長）、小林秀雄（中学校体育連盟会長）

監　　事　保科東平、西澤章夫、赤羽正久（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　矢島広道（県教育委員会）、井出祐司、斉藤金司（県教育委員会事務局）、竹内秀太郎（県体育センター）

【平成13・14年度】

会　　長　田中康夫（県知事）

副 会 長　西山平四郎（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、浜万亀彦（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、北野次登（㈶県スキー連盟会長）、小坂健介（県水泳連盟会長）、小口正行（長野陸上競技協会副会長）、青山誠（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　神津政弘（㈶県体育協会）

常務理事　荒井英彦（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　吉田博美（県議会スポーツ振興議員連盟副会長）、大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長）、吉松俊一（県スポーツドクター協議会会長）、松澤国夫（県アイスホッケー連盟副会長）、中島伸一（県ボート協会副会長）、石田義雄（県サッカー協会理事長）、杉村彰則（㈶県バレーボール協会専務理事）、中島良夫（県バスケットボール協会顧問）、小林哲夫（県レスリング協会副会長）、松田謙治（県ソフトテニス連盟副会長）、峯村威男（県卓球連盟理事長）、中島靖夫（県軟式野球連盟理事長）、塚田和男（県柔道連盟顧問）、古澤博（県弓道連盟会長）、宇都宮保（㈶長野市体育協会監事）、久保田敏雄（㈶松本体育協会副会長）、久保忠夫（㈶上田市体育協会会長）、村松康尾（㈶飯田市

体育協会専務理事)、有賀裕（諏訪市体育連盟副会長)、菊池渡（飯水体育協会会長)、笠原浩（県高等学校体育連盟理事長)、飯田朝治（中学校体育連盟会長）

監　　事　西澤章夫、宮川英樹、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　斉藤金司（県教育委員会)、宮尾弘行、山口利幸（県教育委員会事務局)、二木秀一郎（県体育センター）

【平成15・16年度】

会　　長　田中康夫（県知事）

副 会 長　林泰章（県スケート連盟会長)、北野次登（㈶県スキー連盟会長)、小坂健介（県水泳連盟会長)、小口正行（長野陸上競技協会副会長)、酒井陸久（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　神津政弘（㈶県体育協会）

常務理事　山﨑藤雄（県教育委員会事務局体育課長）

理　　事　大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長)、吉松俊一(県スポーツドクター協議会会長)、松澤国夫(県アイスホッケー連盟副会長)、中島伸一（県ボート協会副会長)、丹羽洋介（県サッカー協会理事長)、江村恵一(㈶県バレーボール協会専務理事)、石坂喜久雄(県バスケットボール協会理事長)、小林哲夫（県レスリング協会副会長)、宮沢幸男（県ソフトテニス連盟理事長)、峯村威男（県卓球連盟理事長)、西沢茂芳（県軟式野球連盟理事長)、笹井計知（県柔道連盟会長)、古澤博（県弓道連盟会長)、宇都宮保（㈶長野市体育協会監事)、相沢英伸（㈶松本体育協会副会長)、久保忠夫（㈶上田市体育協会会長)、吉澤睦美（㈶飯田市体育協会副会長)、秋山長雄（諏訪郡体育協会副会長)、菊池渡（飯水体育協会名誉会長)、青木功（県高等学校体育連盟理事長)、市川勝則（中学校体育連盟会長）

監　　事　塚田進、小林駿一郎、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　瀬良和征（県教育委員会)、三田村順子、小林正佳（県教育委員会事務局)、佐藤公靖（県体育センター）

【平成17・18年度】

会　　長　田中康夫（県知事）

副 会 長　林泰章（県スケート連盟会長)、北野次登（㈶県スキー連盟会長)、小坂健介（県水泳連盟会長)、小口正行（長野陸上競技協会副会長)、諏訪繁範（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　小林健孜（㈶県体育協会）

常務理事　三村保（県教育委員会事務局スポーツ課長）

理　　事　大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長)、吉松俊一(県スポーツドクター協議会会長)、松澤国夫(県アイスホッケー連盟副会長)、青木成雄（県ボート協会理事長)、丹羽洋介（県サッカー協会理事長)、江村恵一(㈶県バレーボール協会専務理事)、石坂喜久雄(県バスケットボール協会理事長)、小林哲夫（県レスリング協会副会長)、宮沢幸男（県ソフトテニス連盟理事長)、峯村威男（県卓球連盟副会長)、西沢茂芳（県軟式野球連盟理事長)、笹井計知（県柔道連盟会長)、古澤博（県弓道連盟会長)、宇都宮保（㈶長野市体育協会副会長)、相沢英伸（㈶松本体育協会副会長)、久保忠夫（㈶上田市体育協会会長)、川井重明（㈶飯田市体育協会副会長)、秋山長雄（諏訪郡体育協会常務理事)、菊池渡（飯水体育協会名誉会長)、青木功（県高等学校体育連盟理事長)、早川毅（中学校体育連盟会長）

監　　事　小林駿一郎、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　丸山愡（県教育委員会)、松澤睦司、米澤修一（県教育委員会事務局)、加藏新吾（県体育センター）

【平成19・20年度】

会　　長　村井仁（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長)、林泰章（県スケート連盟会長)、北野次登（㈶県スキー連盟会長)、小坂健介（県水泳連盟会長)、小口正行（長野陸上競技協会顧問)、小松茂美（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　小林健孜（㈶県体育協会）

常務理事　宮本正之(県教育委員会事務局スポーツ課長）

理　　事　大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長)、吉松俊一(県スポーツドクター協議会理事)、上原健治(県アイスホッケー連盟強化委員長)、青木成雄（県ボート協会理事長)、丹羽洋介（県サッカー協会会長)、江村恵一（㈶県バレーボール協会専務理事)、石坂喜久雄（県バスケットボール協会副会長)、小林哲夫（県レスリング協会副会長)、金澤良平（県ソフトテニス連盟副会長)、峯村威男（県卓球連盟副会長)、西澤茂芳（県軟式野球連盟理事長)、笹井計知（県柔道連盟理事)、山川茂樹（県弓道連盟会長)、宇都宮保（㈶長野市体育協会副会長)、相沢英伸（㈶松本体育協会副会長)、久保忠夫（㈶上田市体育協会会長)、川井重明(㈶飯田市体育協会副会長)、千代馨脩（㈶岡谷市体育協会会長)、菊池渡（飯水体育協会名誉会長)、加藤博(県高等学校体育連盟理事長)、中野隆夫（県中学校体育連盟会長）

監　　事　中島聰、久保輝明、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　山口利幸（県教育委員会)、原修二、平澤武司（県教育委員会事務局教育次長)、下條正（県体育センター所長）

【平成21・22年度】

会　　長　村井仁（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、小口正行（信州大学名誉教授）、林泰章（県スケート連盟会長）、児玉幹夫（㈶県スキー連盟会長）、小坂健介（県水泳連盟会長）、小松茂美（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　島田徳一（㈶県体育協会）

常務理事　飛沢文人(県教育委員会事務局スポーツ課長)

理　　事　大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長）、吉松俊一(県スポーツドクター協議会理事)、上原健治(県アイスホッケー連盟副会長)、青木成雄（県ボート協会理事長）、細田完二（長野陸上競技協会理事長）、丹羽洋介（県サッカー協会会長)、江村恵一（㈶県バレーボール協会副会長･専務理事)、石坂喜久雄(県バスケットボール協会副会長)、小林哲夫（県レスリング協会会長）、堀内昭（県ソフトテニス連盟理事長）、西澤茂芳（県軟式野球連盟理事長）、峯村威男（県卓球連盟副会長）、笹井計知（県柔道連盟理事）、山川茂樹（県弓道連盟会長）、畠山義人（県中学校体育連盟会長）、小澤健（県高等学校体育連盟理事長）、宇都宮保（㈶長野市体育協会副会長）、相沢英伸（㈶松本体育協会副会長）、千代馨脩（㈶岡谷市体育協会会長）、若林裕（㈶飯田市体育協会専務理事）、菊池渡（飯水体育協会名誉会長）、清水浩（佐久市体育協会会長）

監　　事　中島聰、中村雅春、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　山口利幸（県教育長)、長澤一男、平澤武司（県教育委員会事務局教育次長）、丑山修一（県体育センター所長）

【平成23・24年度】平成23年６月まで

会　　長　阿部守一（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、小口正行（信州大学名誉教授）、林泰章（県スケート連盟会長）、児玉幹夫（㈶県スキー連盟会長）、小坂健介（県水泳連盟会長）、小松茂美（県高等学校体育連盟会長）

専務理事　島田徳一（㈶県体育協会）

常務理事　原一樹（県教育委員会事務局スポーツ課長）

理　　事　大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長）、吉松俊一(県スポーツドクター協議会理事)、上原健治(県アイスホッケー連盟副会長)、青木成雄（県ボート協会理事長）、細田完二（長野陸上競技協会理事長）、丹羽洋介（県サッカー協会会長)、江村恵一（㈶県バレーボール協会副会長･専務理事)、石坂喜久雄(県バスケットボール協会副会長)、小林哲夫（県レスリング協会会長）、堀内昭（県ソフトテニス連盟理事長）、峯村威男（県卓球連盟副会長）、西澤茂芳（県軟式野球連盟理事長）、笹井計知（県柔道連盟理事）、山川茂樹（県弓道連盟会長)、宇都宮保（㈶長野市体育協会副会長）、相沢英伸（㈶松本体育協会副会長）、清水浩（佐久市体育協会会長)、若林裕（㈶飯田市体育協会専務理事）、千代馨脩（㈶岡谷市体育協会会長）、菊池渡（飯水体育協会名誉会長）、鏡味照明（県高等学校体育連盟理事長）、柳見沢宏（県中学校体育連盟会長）

監　　事　内山茂(学識経験者)、中村雅春(学識経験者)、清水峯雄（学識経験者）

顧　　問　登内英夫（学識経験者）

参　　与　山口利幸(県教育委員会教育長)、荒深重徳(県教育委員会事務局教育次長)、柳澤直樹（県教育委員会事務局教育次長）

平成23年６月から

（任期）理事：H23.6～H25.6　監事：H23.6～H27.6

会　　長　阿部守一（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、小口正行（信州大学名誉教授）、小坂健介（県水泳連盟会長）、児玉幹夫（㈶県スキー連盟会長）、小松茂美（県高等学校体育連盟会長）（～H25.3）、林泰章（県スケート連盟会長）

理 事 長　加藤久雄（㈳県商工会議所連合会会長）

専務理事　島田徳一（(公財）県体育協会）

常務理事　原一樹（～H25.3）/茅野繁巳（H25.4～）（県教育委員会事務局スポーツ課長）

理　　事　宇都宮保（㈶長野市体育協会副会長）、江村恵一（(一財）県バレーボール協会副会長）、大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長)、鏡味照明（～H25.3）/野口剛彦（H25.4～）（県高等学校体育連盟理事長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、林泰章（県スケート連盟会長)、山口利幸（～H25.3）/伊藤学司（H25.4～）（県教育委員会教育長）

監　　事　内山茂（長野信用金庫)、中村雅春（～H24.7）/羽場俊明（H24.7～）（㈱八十二銀行）、野本博之（新日本有限責任監査法人）

顧　　問　登内英夫（元県体育協会副会長）

参　　与　荒深重徳（県教育委員会事務局教育次長）、柳澤直樹/市川武二（H24.6～）（県教育委員会事務局教育次長）（五十音順）

【平成25・26年度】

（任期）理事：H25.6～H27.6　監事：H23.6～H27.6

会　　長　阿部守一（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、小坂健介（県水泳連盟会長）（～H27.3)、児玉幹夫（㈶県スキー連盟会長）、矢島富士夫（県高等学校体育連盟会長）、林泰章（県スケート連盟会長）

理 事 長　加藤久雄（(一社）県商工会議所連合会会長）

（～H25.11）/林泰章（県スケート連盟会長）（H25.11～）
専務理事　島田徳一（～H26.3）/丸山隆義（H26.4～）（（公財）県体育協会）
常務理事　茅野繁巳（～H27.3）/小野沢弘夫（H27.4～）（県教育委員会事務局スポーツ課長）
理　　事　伊藤学司（県教育委員会教育長）、宇都宮保（（公財）長野市体育協会理事長）、江村恵一（（一財）県バレーボール協会副会長・専務理事）、大西雄太郎（県スポーツ少年団本部長）、野口剛彦（県高等学校体育連盟理事長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、林泰章（県スケート連盟会長）（～H25.11）
監　　事　内山茂（長野信用金庫）、羽場俊明（～H26.6）/平林岳久（H26.6～）（㈱八十二銀行）、野本博之（新日本有限責任監査法人）
顧　　問　登内英夫（元県体育協会副会長）
相 談 役　小口正行（信州大学名誉教授）
参　　与　青木弘（県教育委員会事務局教育次長）、笠原千俊/菅沼尚（H26.6～）（県教育委員会事務局教育次長）、塚田吉彦（長野県体育センター所長）（五十音順）

【平成27・28年度】
（任期）理事：H27.6～H29.6　監事：H27.6～R1.6
会　　長　阿部守一（県知事）
副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、児玉幹夫（（公財）県スキー連盟名誉会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、矢島富士雄（県高等学校体育連盟会長）、小坂壮太郎（県水泳連盟会長・県ゴルフ協会会長）（H27.9～）
理 事 長　林泰章（県スケート連盟会長）
専務理事　丸山隆義（（公財）県体育協会）
常務理事　小野沢弘夫（～H29.3）/内山充栄（H29.4～）（県教育委員会事務局スポーツ課長）
理　　事　伊藤学司（～H28.3）/原山隆一（H28.4～）（県教育委員会教育長）、宇都宮保（（公財）長野市体育協会理事長）、北村正博（（一社）県商工会議所連合会会長）、柴満喜夫（県スポーツ少年団本部長）、野口剛彦（～H28.3）/武居正憲（H28.4～）（県高等学校体育連盟理事長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、古澤栄一（県バスケットボール協会副会長）
監　　事　角澤本広（長野信用金庫）、平林岳久（八十二銀行）、野本博之（新日本有限責任監査法人）
顧　　問　登内英夫（元県体育協会副会長）
相 談 役　小口正行（信州大学名誉教授）
参　　与　小林資典（～H29.3）/角田道夫（H29.4～）（県教育委員会事務局教育次長）、菅沼尚（県教育委員会事務局教育次長）、中沢清（～H29.3）/伊東一雄（H29.4～）（県体育センター所長）（五十音順）

【平成29・30年度】
（任期）理事：H29.6～R1.6　監事：H27.6～R1.6
会　　長　阿部守一（県知事）
副 会 長　萩原清（県議会スポーツ振興議員連盟会長）、小坂壮太郎（県水泳連盟会長・県ゴルフ協会会長）、児玉幹夫（（公財）県スキー連盟名誉会長）、林泰章（県スケート連盟会長）、矢島富士雄/北村桂一（H30.6～）（県高等学校体育連盟会長）
理 事 長　林泰章（県スケート連盟会長）
専務理事　丸山隆義（～H31.3）/茅野繁巳（H31.4～）（（公財）県体育協会）
常務理事　内山充栄（県教育委員会事務局スポーツ課長）
理　　事　北村正博（（一社）県商工会議所連合会会長）、柴満喜夫（県スポーツ少年団本部長）、武居正憲（～H31.3）/大谷雅亮（H31.4～）（県高等学校体育連盟理事長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、原山隆一（県教育委員会教育長）、古澤栄一（（一社）県バスケットボール協会）、堀江三定（（公財）長野市スポーツ協会理事長）（H29.8～）
監　　事　角澤本広（～H30.6）/黒岩博（H30.6～）（長野信用金庫）、中村守（㈱八十二銀行）、野本博之（新日本有限責任法人）
顧　　問　登内英夫（元県体育協会副会長）（～H29.2）
相 談 役　小口正行（信州大学名誉教授）
参　　与　角田道夫（～H30.3）/轟寛逸（H30.4～）（県教育委員会事務局教育次長）、菅沼尚（～H30.3）/三輪晋一（H30.4～）（県教育委員会事務局教育次長）、伊東一雄（県体育センター所長）（五十音順）

【令和元・２年度】
（任期）理事：R1.6～R3.6　監事：R1.6～R5.6
会　　長　阿部守一（県知事）
副 会 長　萩原清（県議会スポーツ推進議員連盟会長）、北村桂一/小林武広（R2.6～）（県高等学校体育連盟会長）、小坂壮太郎（県水泳連盟会長・県ゴルフ協会会長）、児玉幹夫（（公財）県スキー連盟名誉会長）、林泰章（県スケート連盟名誉会長）、原山隆一（県教育委員会教育長）
理 事 長　林泰章（県スケート連盟名誉会長）
専務理事　茅野繁巳（（公財）県スポーツ協会）
常務理事　内山充栄（～R2.3）/北島隆英（R2.4～）（県教育委員会事務局スポーツ課長）
理　　事　大谷雅亮（県高等学校体育連盟理事長）、荻原健司（県教育委員・北野建設㈱スキー部ＧＭ）、北村正博（（一社）県商工会議所連合会会長）、清水一人（県スポーツ少年団本部長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、藤澤令子（（一社）県経営者協会教育研修部課長）、堀江三定（（公財）長野市スポーツ協会理事長）
監　　事　黒岩博（長野信用金庫）、中村守（～R2.6）/

宮沢幸一（R2.6～）（㈱八十二銀行）、野本博之（EY新日本有限責任法人）

相 談 役　古澤栄一（前理事･前競技力向上専門委員長）

参　　与　轟寛逸（～R2.3）/尾島信久（R2.4～）（県教育委員会事務局教育次長）、三輪晋一（～R2.3）/塩野英雄（R2.4～R3.3）/今井義明（R3.4～）（県教育委員会事務局教育次長）、伊東一雄（～R2.3）/的場正二（R2.4～）（県体育センター所長）（五十音順）

【令和３・４年度】

（任期）理事：R3.6～R5.6　監事：R1.6～R5.6

会　　長　阿部守一（県知事）

副 会 長　萩原清（県議会スポーツ推進議員連盟会長）、小坂壮太郎（（一社）県水泳連盟会長・県ゴルフ協会会長）、児玉幹夫（（公財）県スキー連盟名誉会長）、小林武広（県高等学校体育連盟会長）（～R4.3）、林泰章（県スケート連盟名誉会長）、原山隆一（県教育委員会教育長）（～R4.3）

理 事 長　林泰章（県スケート連盟名誉会長）

専務理事　茅野繁巳（（公財）県スポーツ協会）

常務理事　北島隆英(県教育委員会事務局スポーツ課長)

理　　事　大谷雅亮（県高等学校体育連盟理事長）（～R4.3）、荻原健司（県教育委員会委員）（～R3.11）、北村正博（（一社）県商工会議所連合会会長）、清水一人（県スポーツ少年団本部長）、野村尚（野村法律事務所弁護士）、藤澤令子（学識経験者）、堀江三定（（公財）長野市スポーツ協会理事長）、上野眞奈美（学識経験者）（R3.11～）

監　　事　黒岩博（長野信用金庫）、宮沢幸一（㈱八十二銀行）、野本博之（公認会計士）

相 談 役　古澤栄一（信州大学名誉教授）

参　　与　尾島信久（県教育委員会事務局教育次長）、今井義明(県教育委員会事務局教育次長)、的場正二(県体育センター所長)（～R4.3）（五十音順）

令和３年９月２日理事会にて撮影

2　公益財団法人長野県スポーツ協会定款

第１章　総則

（名称）

第１条　この法人は、公益財団法人長野県スポーツ協会と称する。

（事務所）

第２条　この法人は､主たる事務所を長野県長野市に置く。

第２章　目的及び事業

（目的）

第３条　この法人は、スポーツに関する事業を行い、県民の体力の向上とスポーツの振興に寄与することを目的とする。

（事業）

第４条　この法人は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

⑴　県民の体力向上及び競技者の競技力向上を図ること。

⑵　国際的、全国的又は全県的な規模で行われるスポーツ事業に関し、協力及び援助をすること。

⑶　国民体育大会の参加役員及び競技者の選定及び派遣すること。

⑷　スポーツ少年団を育成すること。

⑸　スポーツ指導者を養成すること。

⑹　スポーツに関する情報を収集し相談に応じるとともに、広報・啓発活動を行うこと。

⑺　スポーツ功績者を表彰すること。

⑻　その他この法人の目的を達成するために必要な事業を行うこと。

２　前項の事業については、長野県において行うものとする。

第３章　加盟団体

（加盟団体）

第５条　この法人は、次の各号のいずれかに該当するものを加盟団体とする。

⑴　スポーツの各競技を代表する県単位の団体

⑵　学校体育を代表する県単位の団体

⑶　市町村又は郡を代表する体育団体

⑷　その他理事会の決議により指定した団体

（加盟）

第６条　前条の加盟団体となろうとする団体は、理事会の決議により加盟することができる。

（加盟団体負担金）

第７条　加盟団体は、別に定める負担金を納めなければならない。

（脱退）

第８条　第５条の加盟団体が脱退しようとするときは、その理由を付して脱退届を提出し、理事会の決議により脱退することができる。

（処分）

第９条　加盟団体が次の各号のいずれかに該当する場合は、理事会及び評議員会の決議により、処分（除名）することができる。

⑴　２年以上負担金を納めないとき。

⑵　この法人の名誉を傷つけ、若しくはこの法人の目的に反する行為があり、またはこの法人に不利益を与えたとき。

⑶　加盟団体の資格を失ったとき。

２　加盟団体がこの法人の加盟団体として不適当と認められるときは、理事会の決議により、別に定める前項以外の処分をすることができる。

（加盟団体必要事項）

第10条　第６条から第９条に規定するもののほか、第５条に規定する加盟団体について生じた必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

２　加盟団体は、前項により定められたところを守らなければならない。

第４章　資産及び会計

（基本財産）

第11条　基本財産は、この法人の目的である事業を行うために不可欠な財産として理事会で定めたものとする。

２　基本財産は、理事会において別に定めるところにより、この法人の目的を達成するために善良な管理者の注意をもって管理しなければならず、基本財産の一部を処分しようとするとき及び基本財産から除外しようとするときは、あらかじめ理事会及び評議員会の承認を受けなければならない。

（事業年度）

第12条　この法人の事業年度は、毎年４月１日に始まり翌年３月31日に終わる。

（事業計画及び収支予算）

第13条　この法人の事業計画書、収支予算書並びに資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について

は、毎事業年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

２　前項の書類については、主たる事務所に、当該事業年度が終了するまでの間備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

（事業報告及び決算）

第14条　この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を経て、定時評議員会に提出し、第１号及び第２号の書類についてはその内容を報告し、第３号から第６号までの書類については承認を受けなければならない。

⑴　事業報告

⑵　事業報告の附属明細書

⑶　貸借対照表

⑷　正味財産増減計算書

⑸　貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

⑹　財産目録

２　前項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に５年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

⑴　監査報告

⑵　理事及び監事並びに評議員の名簿

⑶　理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類

⑷　運営組織及び事業活動の状況の概要及びこれらに関する数値のうち重要なものを記載した書類

（公益目的取得財産残額の算定）

第15条　理事長は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律施行規則第48条の規定に基づき、毎事業年度、当該事業年度の末日における公益目的取得財産残額を算定し、前条第２項第４号の書類に記載するものとする。

第５章　評議員

（評議員の定数）

第16条　この法人に、評議員20名以上30名以内を置く。

２　評議員のうち、１名を評議員会長とする。

（評議員の選任及び解任）

第17条　評議員の選任及び解任は、評議員会長を委員長とする役員等候補選出委員会が定員以上の候補者名簿等の資料を評議員会に提出し、評議員会の決議により行う。

２　評議員を選任する場合には、次の各号の要件をいずれも満たさなければならない。

⑴　各評議員について、次のイからヘに該当する評議員の合計数が評議員の総数の３分の１を超えないものであること。

イ　当該評議員及びその配偶者又は三親等内の親族

ロ　当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者

ハ　当該評議員の使用人

ニ　ロ又はハに掲げる者以外の者であって、当該評議員から受ける金銭その他の財産によって生計を維持しているもの

ホ　ハ又はニに掲げる者の配偶者

ヘ　ロからニまでに掲げる者の三親等内の親族であって、これらの者と生計を一にする者

⑵　他の同一の団体（公益法人を除く。）の次のイからニに該当する評議員の合計数が、評議員の総数の３分の１を超えないものであること。

イ　理事

ロ　使用人

ハ　当該他の同一の団体の理事以外の役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあっては、その代表者又は管理人）又は業務を執行する社員である者

ニ　次に掲げる団体においてその職員（国会議員及び地方公共団体の議会の議員を除く。）である者

①　国の機関

②　地方公共団体

③　独立行政法人通則法第２条第１項に規定する独立行政法人

④　国立大学法人法第２条第１項に規定する国立大学法人又は同条第３項に規定する大学共同利用機関法人

⑤　地方独立行政法人法第２条第１項に規定する地方独立行政法人

⑥　特殊法人（特別の法律により特別の設立行為をもって設立された法人であって、総務省設置法第４条第15号の規定の適用を受けるものをいう。）又は認可法人（特別の法律によって設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。）

３　評議員会長は、評議員会において選出する。

４　評議員は、この法人の理事、監事又は使用人を兼ねることができない。

（権限）

第18条　評議員は、評議員会を構成し、第22条に規定する事項の決議に参画するほか、法令に定めるその他の権限を行使する。

（評議員の任期）

第19条　評議員の任期は、選任後４年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

２　任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任さ

れた評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
３　評議員は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

（評議員の報酬等）
第20条　評議員は、無報酬とする。
２　評議員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。
３　前項について必要な事項は、評議員会の決議により別に定める。

第６章　評議員会

（構成）
第21条　評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

（権限）
第22条　評議員会は、次の事項について決議する。
(1)　理事及び監事の選任及び解任
(2)　理事及び監事の報酬等の額
(3)　役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準
(4)　貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認
(5)　定款の変更
(6)　残余財産の処分
(7)　その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

（開催）
第23条　評議員会は、定時評議員会として毎事業年度終了後３箇月以内に１回開催するほか、必要がある場合に開催する。
２　評議員会の運営について必要な事項は、評議員会の決議により別に定める。

（招集）
第24条　評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議により理事長が招集する。
２　理事長は、評議員会の日の５日前までに、評議員に対して、会議の日時、場所及び目的である事項を記載した書面をもって招集の通知をしなければならない。
３　評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

（議長）
第25条　評議員会の議長は、評議員会長がこれに当たる。

（決議）
第26条　評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
２　前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の３分の２以上に当たる多数をもって行わなければならない。
(1)　監事の解任
(2)　役員及び評議員に対する報酬等の支給の基準
(3)　定款の変更
(4)　その他法令又はこの定款で定められた事項
３　理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第１項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第28条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

（議事録）
第27条　評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
２　議長及び出席した評議員のうちから選出された議事録署名人２名以上は、前項の議事録に記名押印する。

第７章　役員等

（役員の設置）
第28条　この法人に、次の役員を置く。
(1)　理事３名以上10名以内
(2)　監事１名以上３名以内
２　理事のうち１名を理事長とする。
３　理事長以外の理事のうち、１名を専務理事、２名以内を常務理事とすることができる。
４　第２項の理事長をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（以下「法人法」という。）上の代表理事とし、前項の専務理事及び常務理事をもって、法人法上の業務執行理事とする。

（役員の選任）
第29条　理事及び監事は、役員等候補選出委員会が提出する定員以上の候補者名簿等の資料を参考として、評議員会の決議により選任する。
２　理事長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議により理事の中から選定する。

（理事の職務及び権限）
第30条　理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。
２　理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行する。
３　専務理事は、理事長を補佐し、この法人の業務を執

行する。また、理事長に事故があるとき又は欠けたときは、その業務執行に係る職務を代行する。
4　常務理事は、この法人の業務を分担執行する。また、専務理事に事故があるとき又は欠けたときは、その業務執行に係る職務を代行する。
5　理事長、専務理事及び常務理事は、４箇月を超える間隔で２回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

（監事の職務及び権限）
第31条　監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。
2　監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

（役員の任期）
第32条　理事の任期は、選任後２年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
2　監事の任期は、選任後４年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
3　補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
4　理事又は監事は、第28条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

（役員の解任）
第33条　理事又は監事が次のいずれかに該当するときは、役員等候補選出委員会が提出する資料等に基づき、評議員会の決議により解任することができる。
⑴　職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
⑵　心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

（役員の報酬等）
第34条　理事は、無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事には、報酬を支給することができる。
2　理事及び監事には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。
3　前２項について必要な事項は、評議員会の決議により別に定める。

（責任の免除又は限定）
第35条　この法人は、役員の法人法第198条において準用する法人法第111条第１項の役員の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議により、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。
2　この法人は、外部役員との間で、前項の賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には賠償責任を限定する契約を、理事会の決議により締結することができる。ただし、その契約に基づく賠償責任の限度額は、金10万円以上であらかじめ定めた額と法令の定める最低責任限度額とのいずれか高い額とする。

（会長等）
第36条　この法人に、会長１名並びに副会長、顧問、相談役及び参与それぞれ若干名を置くことができる。
2　会長、副会長、顧問、相談役及び参与は、理事会の推挙により理事長が委嘱する。
3　会長、副会長、顧問、相談役及び参与は、無報酬とする。

（会長等の職務）
第37条　会長及び副会長は、理事長の相談に応じるほか、理事会及び評議員会に出席して意見を述べることができる。
2　顧問、相談役及び参与は、理事長の諮問に応じ、意見を述べることができる。

第８章　理事会

（構成）
第38条　理事会は、すべての理事をもって構成する。

（権限）
第39条　理事会は、次の職務を行う。
⑴　この法人の業務執行の決定
⑵　理事の職務の執行の監督
⑶　理事長、専務理事及び常務理事の選定及び解職

（招集）
第40条　理事会は、理事長が招集する。
2　理事長は、理事会の日の５日前までに、各理事及び各監事に対して、会議の日時、場所及び目的である事項を記載した書面をもって招集の通知をしなければならない。
3　理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、理事長があらかじめ指定した理事が理事会を招集する。

（議長）
第41条　理事会の議長は、理事長がこれに当たる。

（決議）
第42条　理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。
2　前項の規定にかかわらず、法人法第197条において

準用する法人法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

（議事録）
第43条　理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。
２　出席した理事長及び監事は、前項の議事録に記名押印する。

第９章　長野県スポーツ少年団

（設置）
第44条　この法人に、長野県内のスポーツ少年団によって構成する長野県スポーツ少年団（以下「少年団」という。）を置く。
２　少年団の設置及び運営について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

（業務）
第45条　少年団は、理事会の決議により、第４条第１項第４号の事業その他これに関連する事業を行う。

第10章　専門委員会

（専門委員会）
第46条　この法人には、専門の事項を調査審議するため、専門委員会を設けることができる。
２　専門委員会は、理事会の決議により、理事長が委嘱する専門委員をもって組織する。
３　専門委員会について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第11章　事務局

（事務局）
第47条　この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。
２　事務局には、事務局長及び所要の職員を置く。
３　事務局及び職員について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第12章　定款の変更及び解散

（定款の変更）
第48条　この定款は、評議員会の決議により変更することができる。
２　前項の規定は、この定款の第３条、第４条及び第17条についても適用する。

（合併等）
第49条　この法人は、評議員会において、決議に加わることのできる評議員の３分の２以上の決議により、他の法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡及び公益目的事業の全部の廃止をすることができる。
２　前項の行為をしようとするときは、あらかじめその旨を行政庁に届け出なければならない。

（解散）
第50条　この法人は、基本財産の滅失によるこの法人の目的である事業の成功の不能その他法令で定められた事由により解散する。

（公益認定の取消し等に伴う贈与）
第51条　この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により法人が消滅する場合（その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。）には、評議員会の決議により、公益目的取得財産残額に相当する額の財産を、当該公益認定の取消しの日又は当該合併の日から１箇月以内に、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下「認定法」という。）第５条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

（残余財産の帰属）
第52条　この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議により、認定法第５条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第13章　公告の方法

（公告の方法）
第53条　この法人の公告は、電子公告により行う。ただし、事故その他やむ得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、官報に掲載する方法により行う。

第14章　情報公開及び個人情報の保護

（情報公開）
第54条　この法人は、公正で開かれた活動を推進するため、その活動状況、運営内容、財務資料等を積極的に公開するものとする。
２　情報公開について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

（個人情報の保護）
第55条　この法人は、業務上知り得た個人情報の保護に万全を期すものとする。
２　個人情報の保護について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

第15章　補則

（委任）

第56条　この定款に定めるもののほか、この法人の運営について必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

附　則

1　この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第１項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。

2　一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第106条第１項に定める特例民法法人の解散の登記と公益法人の設立の登記を行ったときは、第12条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始の日とする。

3　この法人の最初の理事長、専務理事及び常務理事は、次に掲げる者とする。

理 事 長　加藤　久雄
専務理事　島田　徳一
常務理事　原　　一樹

4　この法人の最初の評議員は、次に掲げる者とする。

古川 善行、上原 健治、矢口 公勝、篠原 邦彦、青木 成雄、細田 完二、西澤 一幸、田中 新一、丹羽 洋介、三村 功、堀内 昭、峯村 威男、西澤 茂芳、宮入 正純、勝又 仁志、小林 哲夫、牛山成剛、町田 明彦、笹井 計知、伊藤 仁、中澤 隆一、土川 俊市、菅原 正幸、柳見沢 宏、相澤 英伸、千代 馨脩、若林 裕、菊池 渡、清水 浩

規定改定経過　平成31年４月１日一部改定
令和２年７月１日一部改定

3　公益財団法人長野県スポーツ協会倫理規程

（目的）

第１条　この規程は、公益財団法人長野県スポーツ協会（以下「本会」という。）の役員及び職員等の関係者が、本会が果たすべき社会的使命と役割を自覚するとともに、本会定款第３条に規定する目的、事業執行の公正さに対する社会からの疑惑や不信を招くような行為の防止を図り、もって、本会に対する社会的な信頼を確保することを目的とする。

（適用範囲）

第２条　この規程の対象となる者は、評議員、役員、会長等､委員会委員及び職員（以下「役職員等」という。）並びに本会諸制度に基づき登録等を行っている者であり、それぞれの定義は次のとおりとする。

⑴　評議員とは定款第16条に規定する評議員をいう。

⑵　役員とは定款第28条に規定する理事及び監事をいう。

⑶　会長等とは定款第36条に規定する会長、副会長、顧問、相談役及び参与をいう。

⑷　委員会委員とは定款第46条に規定する専門委員会委員をいう。

⑸　職員とは定款第47条に規定する事務局職員をいう。

⑹　本会諸制度に基づき登録等を行っている者（以下「登録者等」という。）とは、スポーツ少年団登録者及び本会主催事業の運営にかかわる者並びに参加者をいう。

（基本的責務）

第３条　役職員等及び登録者等は、定款第３条に規定する目的を達成するため、関係法令、定款、関係諸規程等に基づき各種事業等を公正かつ誠実に遂行しなければならない。

２　役職員等及び登録者等は、「公益財団法人長野県スポーツ協会及び加盟団体における倫理に関するガイドライン」を十分に理解し、実践すること。

（遵守事項）

第４条　役職員等及び登録者等は、暴力、各種ハラスメント（セクシャル・ハラスメント、パワー・ハラスメント等）、差別、試合の不正操作、違法賭博、ドーピング、薬物乱用（大麻、麻薬、覚醒剤等）等の違法行為や、スポーツの健全性及び高潔性を損ねるような社会規範に照らして不適切な行為を絶対に行ってはならない。

２　役職員等及び登録者等は、個人の名誉を重んじ、プライバシーに配慮しなければならない。

３　役職員等及び登録者等は、日常の行動について公私の別を明らかにし、職務やその地位を利用して自己の利益を図ることや斡旋・強要をしてはならない。

４　役職員等及び登録者等は、補助金、助成金等の経理処理に関し、公益法人会計基準及び補助先、助成先等が指定する経理処理要項等に基づく適正な処理を行い、決して他の目的の流用や不正操作を行ってはならない。

５　役職員等及び登録者等は、自らの社会的な立場を認識して、常に自らを厳しく律し、本会の信頼を確保するよう責任ある行動を取らなければならない。

６　役職員等及び登録者等は、社会の秩序に脅威を与える反社会的勢力と一切の関係を持ってはならない。

（違反による処分等）

第５条　役職員等及び登録者等が第４条の遵守事項に違反する行為を行ったおそれがあるときは、担当理事は直ちに調査を開始し、その結果、当該役職員等及び登録者等に本規程に違反する行為があったと認められる場合は、以下の各号に定める方法により相当の処分をするものとする。

⑴　評議員及び役員の解任については、総務専門委員会の意見を聴取したうえ、定款第17条及び第33条に基づき取り扱うものとする。

⑵　会長等及び委員会委員の解任については、総務専門委員会の意見を聴取したうえ、理事会の決議による。

⑶　職員の処分については、理事会の決議により別に定める。

⑷　登録者等の処分については、総務専門委員会の意見を聴取したうえ、理事会の決議による。

（改廃）

第６条　この規程の改廃は、理事会の決議を経て行う。

（その他）

第７条　本会加盟団体が組織の管理運営に適正を欠いたとき、若しくは本会の加盟団体として不適当と認められるときの処分については、本会加盟団体及び会員に関する規程に定める。

附　則

１　この規程は、令和２年７月１日から施行する。

２　倫理規程（平成24年制定）は、廃止する。

4　加盟団体及び会員に関する規程

（目的）

第１条　この規程は、公益財団法人長野県スポーツ協会定款（以下「定款」という。）第10条の規定に基づき、公益財団法人長野県スポーツ協会（以下「本会」という。）の加盟団体に関する事項について定め、さらには本会の運営並びに活動に対して支援する賛助会員について必要な事項を定める。

（加盟団体）

第２条　加盟団体とは、定款に定める本会の目的に賛同し、本会と連携及び協働する団体であり、定款第５条に規定する団体をいう。

２　スポーツの各競技を代表する団体とは、それぞれの競技別全県統轄団体として適当な組織をもつ団体とする。

３　学校体育を代表する県単位の団体とは、県高等学校体育連盟、県高等学校野球連盟、県中学校体育連盟とする。

４　市町村又は郡を代表する体育団体とは、市町村又は郡の社会体育の総合的統轄団体として適当な組織をもつ団体とする。

（加盟団体の使命）

第２条の２　加盟団体は、スポーツ団体として適正な組織運営等（各条において組織運営の他に、事業又は活動を含んで使用されるものがある。）を行うため、次の取組みを自主的・自律的に行わなければならない。

⑴　スポーツに携わる者の権利利益の保護、心身の健全育成及び安全の確保に配慮し、スポーツの健全な普及・発展を図ること。

⑵　スポーツ団体としての公正性、公平性、透明性を確保した組織運営を行い、ガバナンスの強化・充実及びコンプライアンスを徹底し、スポーツ・インテグリティの向上を図ること。

⑶　スポーツを通じて、多様な人々が共生する平和と友好に満ちた持続可能で豊かな社会の創造に寄与すること。

（加盟団体の権限）

第２条の３　加盟団体は、次の権限を有する。

⑴　本会理事長等が、加盟団体代表者会議、加盟競技団体代表者会議、加盟郡市体育・スポーツ協会代表者会議又は事務連絡の会議等の招集を求めたときに、出席すること。

⑵　本会が行う加盟団体と連携する事業に参画又は応募すること。

⑶　本会が加盟団体を対象として行う意見募集に応募すること。

⑷　加盟団体の組織運営等に関して本会の指導又は助言を求めること。

⑸　長野県スポーツ協会加盟団体であることを称すること。

⑹　本会が提供した情報を取得すること。

（遵守すべき事項）

第２条の４　加盟競技団体は、スポーツ団体として適正な組織運営等を行うため、スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞の適合状況について自己説明及び公表を年１回実施するとともに、本会が実施する適合性審査を４年毎に受け、不適合となってはならない。

２　加盟競技団体は、前項に加えて、次の事項に取り組まなければならない。

⑴　関係法令及び加盟団体に適用する本会諸規程等を遵守し、かつ必要となる諸規程を整備したうえで、それに基づき組織運営等を行うこと。

⑵　暴力、暴言、セクシャル･ハラスメント、パワー･ハラスメント、差別等の不適切な行為の根絶に取り組むこと。

⑶　アンチ･ドーピング活動に積極的に取り組むこと。

⑷　スポーツに携わる者の安全を確保し、事故防止、保険整備等の具体的に必要な施策を講じること。

⑸　役職員等の関係者に本会が定める「倫理に関するガイドライン」に則り、必要となる諸規程等および体制を整備の上、それに基づき組織運営等を行うこと。

⑹　加盟団体は、各団体の組織運営等に関する本会からの問合せに対し､適切に対応しなければならない。

第２条の５　加盟郡市体育・スポーツ協会及び加盟スポーツ団体は、スポーツ団体として適正な組織運営等を行うため、スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞において当該団体の性格上必要ないと本会が認めるものを除き、遵守することに努めるとともに、その適合状況について自己説明及び公表を年１回実施しなければならない。

２　加盟郡市体育・スポーツ協会及び加盟スポーツ団体は、前項に加えて、前条第２項に定める事項に取り組まなければならない。

（届出義務）

第２条の６　加盟団体は、毎事業年度終了後３箇月以内に、次の書類を本会に届け出なければならない。

⑴　当該年度の事業報告書

⑵　財務諸表又は収支決算書

⑶　役員名簿

２　加盟団体は、毎事業年度開始から３箇月以内に、次の書類を本会に届け出なければならない。
⑴　当該年度の事業計画書
⑵　収支予算書

第２条の７　加盟団体は、定款、登記事項、規約、その他本会に届け出た事項に変更があった場合には、直ちに書面をもって本会に届け出なければならない。

（負担金）
第２条の８　加盟団体は、定款第７条に規定する別に定める負担金を、毎年５月末日までに納めなければならない。

（負担金の使途）
第２条の９　前条の負担金は、毎事業年度における合計額の10％以上を当該年度の公益目的事業に使用する。

（加盟手続き）
第３条　定款第６条の規定により、新たに加盟団体となろうとする団体は、次の書類を提出し、理事会の承認を受けなければならない。
⑴　加盟申請書
⑵　会則（規約）
⑶　役員名簿（役名及び氏名を記載したもの）
⑷　組織表及び事務局体制
⑸　過去３年の事業報告及び決算書
⑹　当該年度事業計画書及び収支予算書
⑺　第２条第２項に掲げる団体の場合は、それを証する書類
⑻　第２条第２項に掲げる団体の場合は、審判員の養成制度について説明する書類
２　第１項により承認を受けた場合は、翌年度の４月１日から加盟するものとする。

（脱退手続き）
第４条　加盟団体が、定款第８条の規定により本会を脱退しようとするときは、次の書類を提出し、理事会の承認を得なければならない。
⑴　脱退申請書
⑵　脱退理由書
２　前項の場合、既納の負担金は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

（会議）
第５条　理事長は、必要に応じ、第２条に規定する加盟団体を招集して会議を開催することができる。

（検査）
第６条　本会は、加盟団体の適正な組織運営等を確保するため、加盟団体に対し、定期的に、又は必要に応じて、その組織運営等に関する検査を行うことができる。

（指導）
第６条の２　本会は、加盟団体の組織運営等に疑義が生じた場合、加盟団体に対し、必要な指導を行い、改善を求めることができる。

（調査）
第６条の３　本会は、加盟団体の組織運営等に問題が発生した場合やそのおそれがあると認められる場合、加盟団体に対し、その組織運営等の状況に関し報告を求め、又は本会の職員等に、加盟団体の事務所を訪問し、その組織運営等の状況を調査させ、帳簿、書類その他の資料を閲覧、謄写させ、若しくは加盟団体役職員等の関係者に質問させることができる。

（協力義務）
第６条の４　加盟団体は、第６条、第６条の２及び第６条の３に定める本会の検査等に対して、協力しなければならない。

（処分）
第７条　加盟団体が、定款第５条に定める組織を有しないこととなったとき、定款第９条各号に該当するすると認められるとき、第２条の４から第２条の８、第６条の４に定める義務等を怠る等組織運営等に適正を欠いたとき、又は本会の加盟団体として不適当と認められるときは、次の処分を行う。
⑴　注意
⑵　勧告
⑶　資格停止
⑷　除名
２　前項の具体的な手続き及び内容については、理事会及び評議員会の決議を経て別に定める。
３　第１項の処分を行う場合は、加盟団体に弁明の機会を与えなければならない。
４　処分に伴い、本会と当該加盟団体が連携する事業の取り扱いは、当該事業の所管委員会にて協議の上、理事会で決定する。
　なお、当該事業の中止に伴い損害が発生した場合は、当該加盟団体が費用を補償しなければならない。
５　第１項第４号の場合、既納の負担金は、いかなる理由があってもこれを返還しない。

（不服申立）
第７条の２　本会の決定した処分に不服があるときは、本会及び当該加盟団体は、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構の定める規則に基づく仲裁により解決する。

（賛助会員）
第８条　賛助会員とは、本会の目的に賛同して入会した個人又は法人をいう。
２　賛助会員は、次の事項を受けることができる。
⑴　本会が発行する発行物の提供

⑵　本会が会員に案内をする行事等への参加
⑶　その他

（賛助会費）
第９条　賛助会員は、次に定める会費を毎年納入するものとする。
⑴　個人会員　年間１口　5,000円とし、１口以上
⑵　法人会員　年間１口　10,000円とし、１口以上
２　退会による会費の返還は行わない。

（会費の使途）
第10条　前条の賛助会費は、毎事業年度における合計額の80％以上を当該年度の公益目的事業に使用する。

（補則）
第11条　この規程に定めるもののほか必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

（改廃）
第12条　この規程の改廃は、理事会の決議により行う。

附　則
１　この規程は、公益財団法人の設立の登記の日から施行する。
２　この法人の移行登記日までの間、第１条に「定款第10条」とあるのは「寄付行為第24条第２項」と読み替えるものとする。
３　財団法人長野県体育協会加盟規程は廃止する。
４　財団法人長野県体育協会賛助会員規程は廃止する。

附　則２
１　この規程は、令和２年７月１日から施行する。
２　第２条の４及び第２条の５に規定する遵守すべき事項は、スポーツ団体ガバナンスコード＜一般スポーツ団体向け＞が適用される時点から適用する。
３　第７条の規定は、施行日以降に該当することとなったときから適用する。

規程改正経過　　平成31年４月１日一部改定
規程改正経過　　令和２年７月１日一部改正

中長期計画

【令和４（2022）年度）～令和８（2026）年度】

令和４年３月　制定

公益財団法人　長野県スポーツ協会

長野県スポーツ協会中長期計画体系図

競技スポーツの推進

目指す姿

○　オリンピックなど国際大会や全国大会で多くの長野県選手が活躍しています。
○　国民体育大会（国民スポーツ大会）において、長野県選手団が、男女総合成績の上位を維持しています。

取組施策

（１）国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援
（２）全国や世界で活躍する選手の育成・競技力の向上
（３）第 82 回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上

生涯スポーツの推進

目指す姿

○　多くの県民が、子どもから高齢者まで適性や目的等に応じて、スポーツ活動を楽しみ、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っています。
○　県内の「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口が拡大しています。

取組施策

（１）ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進
（２）地域のスポーツ環境の充実
（３）スポーツ功績者表彰

組織運営体制の整備・充実

目指す姿

○　当協会の独自財源が確保されて、県内アスリート及び加盟競技団体等に対して、充実した支援が行われています。
○　全ての加盟団体において、スポーツ・インテグリティの向上に向けて、コンプライアンスが徹底され、スポーツ団体ガバナンスコードが遵守された適切な組織運営が行われています。

取組施策

（１）加盟団体への支援及び連携の強化
（２）安定した財務基盤の確立
（３）組織体制・ガバナンスの強化

目　　次

第１章　はじめに

１　当協会の目的と役割　・・・１

２　計画趣旨・位置づけ　・・・１

３　計画期間　・・・１

４　長野県スポーツ協会の理念・行動指針　・・・２

第２章　１０年後の目指す姿、現状と課題及び今後５年間に取り組むべき施策

１　競技スポーツの推進　・・・２
【１０年後の目指す姿】　・・・２
【現状と課題】　・・・２
【今後５年間に取り組むべき施策】　・・・２
（１）国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援　・・・２
（２）全国や世界で活躍する選手の育成・競技力の向上　・・・３
（３）第 82 回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上　・・・３

２　生涯スポーツの推進　・・・３
【１０年後の目指す姿】　・・・３
【現状と課題】　・・・３
【今後５年間に取り組むべき施策】　・・・４
（１）ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進　・・・４
（２）地域のスポーツ環境の充実　・・・４
（３）スポーツ功績者表彰　・・・４

３　組織運営体制の整備・充実　・・・４
【１０年後の目指す姿】　・・・４
【現状と課題】　・・・５
【今後５年間に取り組むべき施策】　・・・５
（１）加盟団体への支援及び連携の強化　・・・５
（２）安定した財務基盤の確立　・・・５
（３）組織体制・ガバナンスの強化　・・・５

公益財団法人長野県スポーツ協会中長期計画

第１章　はじめに

１　当協会の目的と役割

（１）昭和２１年９月に長野県体育協会が設立され、平成２４年に公益財団法人長野県体育協会として、長野県知事から認定を受けた「公益財団法人」で、公益目的事業を行うことを目的とするスポーツ活動推進団体です。平成３１年４月に名称を現在の「公益財団法人長野県スポーツ協会」に改めました。

（２）当協会は、定款第３条に基づき、スポーツに関する事業を行い、県民の体力の向上とスポーツの振興に寄与することを目的としています。

（３）当協会は、定款４条に基づき、長野県内において次の事業を行っています。

①　国民体育大会への参加支援
②　競技力向上事業
③　競技者育成・サポート事業
④　スポーツ少年団育成事業
⑤　スポーツ普及・交流事業
⑥　総合型地域スポーツクラブ育成支援　等

（４）当協会は、長野県におけるスポーツを総合的に統括する団体として公益財団法人日本スポーツ協会（ＪＳＰＯ）に加盟しています。

（５）当協会には、長野県内の９０団体（５６競技団体、３学校体育団体、３１郡市体育団体）が加盟しています。

２　計画趣旨・位置づけ

（１）国においては、スポーツ基本法に基づき、スポーツ基本計画が策定され、「スポーツ参画人口」を拡大し、「一億総スポーツ社会」の実現に取り組むこととしています。

　長野県においては、「長野県スポーツ推進計画」を策定し、県民一人一人が日常的にスポーツに親しみ、スポーツを楽しみ、又はスポーツを支える活動に参画できる環境を整えるべく、様々な施策に取り組まれています。

（２）当協会としても、本県のスポーツ振興に寄与すべく同計画と整合した「事業実施計画」を毎年度策定し、県及び加盟団体と連携し、スポーツ推進施策・事業に取り組んでいるところです。

（３）特に、2028 年に第８２回国民スポーツ大会の本県開催が予定されている中、長野県においては、競技力の向上、競技環境の整備及び大会終了後も持続・定着できる競技スポーツ振興に向けて、「長野県競技力向上対策本部」を設立し、「長野県競技力向上基本計画」に基づき総合的な対策、各種取組を推進しています。

（４）こうした状況の中、「スポーツ団体ガバナンスコード」における中長期計画の策定義務を踏まえ、当協会の重要な業務分野（重点事業）である競技スポーツの向上、生涯スポーツ社会の推進、加盟団体等の組織運営体制の整備・充実に向けて、今後５年間に取り組むべき施策・事業方針を明らかにした中長期の基本計画を策定します。

３　計画期間

計画期間は、令和４年度（2022 年度）から令和８年度（2026 年度）までの５年間とします。

なお、長野県スポーツ推進計画が令和４年度（2022 年度）までの計画となっていることか

ら、同計画が改定された場合は、中長期計画の見直しを行うこととします。

４　長野県スポーツ協会の理念・行動指針

当協会は、現在５６の競技団体、３１の郡市体育（スポーツ）協会、３つの学校体育連盟による加盟団体で組織し、本県スポーツを総合的に推進する団体として、その中心的な役割を担うため、県及び関係団体・機関との協働・連携により、スポーツに関する事業を行い、県民の体力の向上とスポーツの振興への寄与を目的として、県内競技スポーツの振興・発展、スポーツ参画人口の拡大に向けたスポーツ環境づくり、生涯スポーツ社会の実現のため、各種施策を推進してまいります。

第２章　１０年後の目指す姿、現状と課題及び今後５年間に取り組むべき施策

１　競技スポーツの推進

【１０年後の目指す姿】
○　オリンピックなど国際大会や全国大会で多くの長野県選手が活躍しています。
○　国民体育大会（国民スポーツ大会）において、長野県選手団が、男女総合成績の上位を維持しています。

【現状と課題】

（１）選手の育成・強化

○　近年の本県の国民体育大会での成績は、冬季国体ではトップレベルを維持していますが、本大会では４０位台と低迷が続いています。
○　国民体育大会等での活躍が一部の種目に偏っている傾向にあり、競技力全体の底上げが必要です。
○　傷害予防やトレーニング効果を高めるためにスポーツ医科学の面からの支援が求められています。
○　女性アスリート育成のための支援が必要です。

（２）ジュニアの発掘・育成

○　全国大会や国際舞台で活躍できるジュニア期からの選手育成が求められています。
○　ジュニア期からの有望選手の発掘は、一部の競技に留まっています。
○　少子化やスポーツ離れによるジュニア選手の減少とともに、有力選手の県外流出が続いています。

（３）指導者の育成

○　指導者の高齢化等による指導技術の継承への懸念や、女性指導者の不足などが課題となっています。

【今後５年間に取り組むべき施策】

本県で開催される 2028 年国民スポーツ大会において、男女総合優勝（天皇杯）と女子総合優勝（皇后杯）を獲得するために、今後の国民スポーツ大会に、より多くの選手を派遣し、好成績を収めることができるよう、長野県と連携し、次の事業に取り組みます。

（１）国民体育大会（国民スポーツ大会）への参加支援

（公財）日本スポーツ協会、文部科学省及び開催地の都道府県が共同して開催する国民体育大会に本県代表選手を選抜し、長野県選手団を派遣します。

①　国体（国スポ）への選手団の編成と派遣
②　強化合宿マルチサポート事業の実施

③　国体（国スポ）選手団ユニフォーム購入助成
④　国体（国スポ）選手所属企業等への支援依頼（訪問）
⑤　国体（国スポ）選手への激励支援
⑥　国体（国スポ）選手へのサポート支援

（２）全国や世界で活躍する選手の育成・競技力の向上

全国トップレベル、国際舞台で活躍する県内選手の育成・競技力の向上のために、競技団体等関係機関と連携・協力して、次の施策に取り組みます。

①　指導者の確保・養成及び資質向上
②　競技力向上に向けた環境整備支援
③　競技者及び指導者の県内就職支援
④　競技者育成事業の推進（ＳＷＡＮプロジェクト）
⑤　競技者への医科学サポート支援
⑥　ドーピング防止等教育啓発

（３）第８２回国民スポーツ大会に向けた競技力の向上

2028 年国民スポーツ大会における天皇杯及び皇后杯の獲得に向けて、次の施策に取り組みます。

①　長野県競技力向上対策本部事業への協力
②　指導者の育成と確保対策の強化

２　生涯スポーツの推進

【１０年後の目指す姿】
○　多くの県民が、子どもから高齢者まで適性や目的等に応じて、スポーツ活動を楽しみ、スポーツイベントを観戦するなど、充実したスポーツライフを送っています。
○　県内の「する」「みる」「ささえる」スポーツ参画人口が拡大しています。

【現状と課題】

（１）運動スポーツの習慣化

○　成人の週１回以上のスポーツ実施率は、６０％を下回っています。
○　若者、子育て世代の運動離れが顕著になっています。
○　障がい者のスポーツ実施率は、障がいのない人（成人）の半分以下という状況です。（令和２年度スポーツ庁調査：障がい者（成人）の週１回以上　２４．９％）

（２）健康長寿社会に向けた運動による健康づくり

○　中高齢者の健康増進・介護予防が大きな課題となっています。
○　高齢者が手軽にできる運動の提供などができる指導者が不足しています。
○　適切な指導者の指導の下で、自分の体力や生活スタイルに配慮しながら継続できる運動・スポーツをすることが重要です。
○　高齢者が身近な場所で運動できるような支援ボランティアが不足しています。
○　生活習慣病になる一因として、運動不足があげられています。

（３）地域のスポーツ環境の充実

○　子どもの運動遊びやスポーツ機会を確保するとともに、安心安全な運動・スポーツを地域住民に提供できるように、地域スポーツの担い手として重要な役割を果たしているスポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブ等地域のスポーツ環境の基盤強化を進めることが課題となっています。
○　学校運動部活動の休日の地域移行を進めるために、その受け皿となるスポーツ少年団

や総合型地域スポーツクラブ等との連携、協力が期待されています。

【今後５年間に取り組むべき施策】

県民の健康寿命の延伸に向けて、生涯スポーツ社会の実現のために、様々な年代・様々な生活態様や地域に応じたスポーツ活動を推進していくことが、重要となっています。

このため、次のとおり地域のスポーツ活動の推進と環境整備に取り組みます。

（１）ライフスタイルに応じたスポーツ活動の推進

地域住民のスポーツへの関心を高め、スポーツへの参加を促すため、各競技団体及び郡市体育・スポーツ協会が実施するスポーツ教室・スポーツ大会に対して、支援します。

①　スポーツ普及・交流事業の推進（社会体育振興・スポーツ交流支援事業）

②　スポーツに関する情報提供

（２）地域のスポーツ環境の充実

生涯スポーツ社会における活動拠点となるスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブなど地域スポーツ推進団体の活動基盤強化を図り、地域のスポーツ環境を充実するため、次のとおり支援事業に取り組みます。

①　スポーツ少年団の育成支援

交流交歓事業等を通じて、団活動の活性化及び団員の更なる資質向上を図るとともに、ジュニア･リーダースクールの開催などにより､中核となって活動するリーダーを育成し、また、スタートコーチ（スポーツ少年団）養成講習会等により、指導者を養成します。

ア　競技別交流大会、野外活動の実施

イ【新】スポーツ少年団活動基盤強化支援事業

②　総合型地域スポーツクラブの育成支援

県（スポーツ課、体育センター、教育事務所）と連携・協力して総合型地域スポーツクラブを育成・支援します。また、令和４年度からスタートする登録・認証制度について、県と連携して運用・実施します。

ア【新】総合型地域スポーツクラブ基盤強化支援事業

イ【新】総合型地域スポーツクラブ連絡協議会及び登録・認証制度の運用・推進

③　指導者の充実・確保

指導者の資質向上と指導者の確保を図るため、中央（(公財)日本オリンピック委員会、国立スポーツ科学センター等）の動向や最新情報を取得する「指導者ミーティング」やスポーツ指導者研修会を開催します。

（３）スポーツ功績者表彰

体育・スポーツの振興に功績のあった個人及び団体を表彰するとともに、国民体育大会等において優秀な成績を収めた者に対し記念品を贈り、県民のスポーツに対する意識の高揚とスポーツの振興を図ります。

３　組織運営体制の整備・充実

【１０年後の目指す姿】

○　当協会の独自財源が確保されて、県内アスリート及び加盟競技団体等に対して、充実した支援が行われています。

○　全ての加盟団体において、スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の向上に向けて、コンプライアンスが徹底され、スポーツ団体ガバナンスコードが遵守された適切な組織運営が行われています。

【現状と課題】

（１）加盟団体が競技会、スポーツ大会の開催などスポーツ活動を推進していくために、各団体の組織体制の充実・強化が不可欠です。

（２）当協会のスポーツ振興事業をより一層充実するためには、独自財源の確保など財務基盤の充実・強化を図る必要があります。

（３）スポーツ界に対する注目がますます高まる中，スポーツ界の不祥事の発生を防ぎ、スポーツの価値を一層高めていくため、スポーツの普及・振興の重要な担い手となっているスポーツ団体における適正なガバナンスの確保が求められています。

【今後５年間に取り組むべき施策】

競技団体等加盟団体において、県内競技スポーツの振興・発展に向けて、安定的かつ効果的にスポーツ事業活動を推進していくため、各団体の組織体制基盤が充実・強化されることが不可欠となっています。

このため、加盟団体における基盤強化及びスポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の向上を図るよう、次のとおり支援事業に取り組みます。

（１）加盟団体への支援及び連携の強化

①　加盟団体の組織体制基盤の充実・強化

②【新】加盟競技団体基盤強化支援事業

（２）安定した財務基盤の確立

①　独自財源の確保（賛助会員、パートナー企業・団体制度）

ア　賛助会員の募集

イ　パートナー企業等の募集

ウ　寄附金の募集

（３）組織体制・ガバナンスの強化

①【新】事業活動基盤強化事業

当協会における効率的かつ効果的な業務推進のために、事務局ＩＣＴ環境の整備・充実等に取り組みます。

②　加盟団体におけるスポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）の向上

ア　ガバナンスコードの遵守に向けた支援

○　加盟団体におけるガバナンスコードの遵守状況の自己説明及び公表の実施について、指導・助言及び情報提供を通じて支援します。

○　加盟競技団体に対してガバナンスコードの適合性審査を実施します。

イ　加盟団体のコンプライアンス教育への支援

加盟団体を対象にガバナンス向上研修会を開催するとともに、コンプライアンス教育資料等コンプライアンスに関する情報提供に取り組み、コンプライアンスの徹底を支援します。

パートナー企業・団体の皆様

公益財団法人長野県スポーツ協会（以下「本会」という。）の目的及び事業に賛同し、令和４年度から５年間、本会の活動をスポンサーとして支援していただいている皆様は、以下のとおりです。

プラチナパートナー

ホクト株式会社

ゴールドパートナー

株式会社マナテック

ライオンズクラブ国際協会 334－Ｅ地区

シルバーパートナー

株式会社信光社

※　パートナー企業・団体制度の概要及び募集要綱については、本会ホームページ（http://www.nagano-sports.or.jp/topic/030705partnerboshuu.pdf）をご覧ください。

編　集　後　記

公益財団法人長野県スポーツ協会創立75周年記念誌を発行するにあたり、加盟団体の皆様をはじめ関係各位には、大変お忙しい中をご協力いただき、心から感謝を申し上げます。

今回の「創立75周年記念誌」は、昭和63年３月31日に、「長野県体育協会誌」が発行されて以来の記念誌であり、それ以降35年間の先輩諸氏のなした偉業を後世に伝え、協会の更なる発展の糧としたいということから、令和２年１月16日に、長野県スポーツ（体育）協会史編纂委員会準備会を立ち上げ、令和３年１月21日に開催された令和２年度第３回理事会において、公益財団法人長野県スポーツ協会創立75周年記念事業の一環として記念誌の発行が決まった経緯でございます。

残念ながら、令和３年９月16日に予定されていた創立75周年記念式典は、令和２年１月から世界中に感染拡大した新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から中止となってしまいましたが、スポーツを楽しめる普通の生活が一日も早く戻ってくることを願いつつ、発行作業を進めてまいりました。

記念誌全体の仕上がりは、調査や資料収集等が十分でない部分も多く、反省しているところですが、この記念誌が本会並びに加盟団体の皆様の新たな飛躍に向け、更には長野県のスポーツの発展に繋がることを願っております。

最後に、ご多忙のところご祝辞をいただきました皆様をはじめ関係各位に重ねて厚くお礼を申し上げ、編集後記といたします。（編集委員会 委員長　茅野繁巳）

長野県スポーツ協会創立75周年記念誌編集委員会

委 員 長　茅野　繁巳（スポーツ協会専務理事）
副委員長　北島　隆英（スポーツ課長・スポーツ協会常務理事）
委　　員　伊東　一雄　藤澤　文隆　片瀬　秀一　宮川　幸保　滝澤　聖司
鹿野恵利子　小林　勇満　新井　優貴　曽根原末美（スポーツ協会）
峯村　高広　田島　康彦　奥原　貴彦（スポーツ課）
滝沢　裕之　倉島　靖幸（国民スポーツ大会準備室）

◆

創立75周年記念誌

令和４年３月吉日発行
編集・発行　公益財団法人長野県スポーツ協会　編集委員会
制　　作　株式会社　信光社

公益財団法人 長野県スポーツ協会